宮城県文化財調査報告書第111集

田　柄　貝　塚　Ⅱ

土　製　品
石器・石製品　編

昭和　61　年　3　月

宮城県教育委員会
建設省東北地方建設局

目　次

第３章　第２節　土製品と石器・石製品

Ⅰ．はじめに 1
Ⅱ．土製品 2
　袖珍土器 2
　土　偶 4
　土製耳飾り 16
　円盤状土製品 19
　土　玉 28
　有溝土錘 28
　棒状土製品 28
　スタンプ形土製品 28
　ウニ形土製品 33
　動物形土製品 36
　有孔円柱状土製品 36
　不明土製品 36
Ⅲ．石　器 37
　石　鏃 37
　尖頭器 96
　石　錐 106
　石　匙 124
　不定形石器 139
　打製石斧 187
　磨製石斧 209
　磨石類・石皿類 229
　石棒類 279
Ⅳ．石製品 282
　玉　類 282
　ペンダント類 282

岩　偶 283
沈刻棒状石製品 283
浮　子 283
円盤状石製品 283
不明石製品 283
石　錘 283
Ⅴ．まとめ 303
土製品 303
石器・石製品 303

付編：田柄貝塚から出土した石器類の材質について 309
付編：遺跡から出土した石器に薄片作製について 321

挿　図　目　次

第1図　袖珍土器..... 3
第2図　土偶（1）..... 5
第3図　土偶部位図..... 6
第4図　土偶（2）..... 7
第5図　土偶（3）..... 8
第6図　土偶（4）..... 9
第7図　土偶（5）..... 11
第8図　土偶部位残存状況図..... 14
第9図　土製耳飾り部位各称図..... 16
第10図　土製耳飾り分類別径分布図..... 18
第11図　土製耳飾り時期別出土数量図..... 18
第12図　円盤状土製品時期別出土数量図... 19
第13図　土製耳飾り（1）..... 20
第14図　土製耳飾り（2）..... 21
第15図　土製耳飾り（3）..... 22
第16図　土製耳飾り（4）..... 23
第17図　土製耳飾り（5）..... 24
第18図　土製耳飾り（6）..... 25
第19図　土製耳飾り（7）..... 26
第20図　土製耳飾り（8）..... 27
第21図　円盤状土製品（1）..... 29
第22図　円盤状土製品（2）..... 30
第23図　円盤状土製品（3）..... 31
第24図　円盤状土製品（4）..... 32
第25図　円盤状土製品（5）..... 33
第26図　土玉・有溝土錐・棒状土製品・
スタンプ形土製品..... 34
第27図　ウニ形土製品・動物形土製品・
有孔円柱状土製品・不明土製品Ａ・Ｂ..... 35
第28図　石器部位名称・計測基準図..... 38
第29図　石鏃分類別長さ・幅相関図..... 40
第30図　石鏃分類別重さ分布図..... 41
第31図　石鏃アスファルト付着タイプ別
模式図..... 43
第32図　石鏃（1）..... 45
第33図　石鏃（2）..... 46
第34図　石鏃（3）..... 47
第35図　石鏃（4）..... 48
第36図　石鏃（5）..... 49
第37図　石鏃（6）..... 50
第38図　石鏃（7）..... 51
第39図　石鏃（8）..... 52
第40図　石鏃（9）..... 53
第41図　石鏃（10）..... 54
第42図　石鏃（11）..... 55
第43図　石鏃（12）..... 56
第44図　石鏃（13）..... 57
第45図　石鏃（14）..... 58
第46図　石鏃（15）..... 59
第47図　石鏃（16）..... 60
第48図　石鏃（17）..... 61
第49図　石鏃（18）..... 62
第50図　石鏃（19）..... 63
第51図　石鏃（20）..... 64
第52図　石鏃（21）..... 65
第53図　石鏃（22）..... 66
第54図　石鏃（23）..... 67
第55図　石鏃（24）..... 68
第56図　石鏃（25）..... 69
第57図　石鏃（26）..... 70

第58図　石鏃（27）..... 71
第59図　石鏃（28）..... 72
第60図　石鏃（29）..... 73
第61図　石鏃（30）..... 74
第62図　石鏃（31）..... 75
第63図　石鏃（32）..... 76
第64図　石鏃（33）..... 77
第65図　石鏃（34）..... 78
第66図　石鏃（35）..... 79
第67図　石鏃（36）..... 80
第68図　石鏃（37）..... 81
第69図　石鏃（38）..... 82
第70図　石鏃（39）..... 83
第71図　石鏃（40）..... 84
第72図　石鏃（41）..... 85
第73図　石鏃（42）..... 86
第74図　石鏃（43）..... 87
第75図　石鏃（44）..... 88
第76図　石鏃（45）..... 89
第77図　石鏃（46）..... 90
第78図　石鏃（47）..... 91
第79図　石鏃（48）..... 92
第80図　石鏃（49）..... 93
第81図　石鏃（50）..... 94
第82図　石鏃（51）..... 95
第83図　突頭器分類別長さ・幅相関図..... 96
第84図　突頭器分類別厚さ分布表..... 97
第85図　突頭器分類別重さ分布表..... 98
第86図　突頭器（1）..... 99
第87図　突頭器（2）..... 100
第88図　突頭器（3）..... 101
第89図　突頭器（4）..... 102
第90図　突頭器（5）..... 103
第91図　突頭器（6）..... 104
第92図　突頭器（7）..... 105
第93図　石錐分類別長さ・幅相関図..... 108
第94図　石錐分類別使用痕分布図..... 109
第95図　石錐アスファルト付着状況..... 110
第96図　石錐（1）..... 111
第97図　石錐（2）..... 112
第98図　石錐（3）..... 113
第99図　石錐（4）..... 114
第100図　石錐（5）..... 115
第101図　石錐（6）..... 116
第102図　石錐（7）..... 117
第103図　石錐（8）..... 118
第104図　石錐（9）..... 119
第105図　石錐（10）..... 120
第106図　石錐（11）..... 121
第107図　石錐（12）..... 122
第108図　石錐（13）..... 123
第109図　石匙分類別長さ・幅相関図..... 125
第110図　石匙アスファルト付着状況..... 128
第111図　石匙（1）..... 129
第112図　石匙（2）..... 130
第113図　石匙（3）..... 131
第114図　石匙（4）..... 132
第115図　石匙（5）..... 133
第116図　石匙（6）..... 134
第117図　石匙（7）..... 135
第118図　石匙（8）..... 136
第119図　石匙（9）..... 137
第120図　石匙（10）..... 138
第121図　鹿中足骨加工痕と第Ⅴ類..... 144

第122図　加工痕と工具の関係概念図 144
第123図　不定形石器（1）..... 145
第124図　不定形石器（2）..... 146
第125図　不定形石器（3）..... 147
第126図　不定形石器（4）..... 148
第127図　不定形石器（5）..... 149
第128図　不定形石器（6）..... 150
第129図　不定形石器（7）..... 151
第130図　不定形石器（8）..... 152
第131図　不定形石器（9）..... 153
第132図　不定形石器（10）..... 154
第133図　不定形石器（ピエス・エスキーユを含む）（11）..... 155
第134図　不定形石器（ピエス・エスキーユ・石核を含む）（12）..... 156
第135図　不定形石器（13）..... 157
第136図　不定形石器（14）..... 158
第137図　不定形石器（15）..... 159
第138図　不定形石器（16）..... 160
第139図　不定形石器（17）..... 161
第140図　不定形石器（18）..... 162
第141図　不定形石器（石核）（19）..... 163
第142図　不定形石器（20）..... 164
第143図　不定形石器（21）..... 165
第144図　不定形石器（22）..... 166
第145図　不定形石器（23）..... 167
第146図　不定形石器（24）..... 168
第147図　不定形石器（25）..... 169
第148図　不定形石器（26）..... 170
第149図　不定形石器（27）..... 171
第150図　不定形石器（28）..... 172
第151図　不定形石器（29）..... 173
第152図　不定形石器（30）..... 174
第153図　不定形石器（31）..... 175
第154図　不定形石器（32）..... 176
第155図　不定形石器（33）..... 177
第156図　不定形石器（34）..... 178
第157図　不定形石器（35）..... 179
第158図　不定形石器（36）..... 180
第159図　不定形石器（37）..... 181
第160図　不定形石器（38）..... 182
第161図　不定形石器（39）..... 183
第162図　不定形石器（40）..... 184
第163図　不定形石器（41）..... 185
第164図　不定形石器（42）..... 186
第165図　打製石斧第Ⅰ類長さ・幅相関図 190
第166図　打製石斧第Ⅱ～Ⅴ類長さ・幅相関190
第167図　打製石斧第Ⅲ類着柄復元図.... 192
第168図　打製石斧（1）..... 193
第169図　打製石斧（2）..... 194
第170図　打製石斧（3）..... 195
第171図　打製石斧（4）..... 196
第172図　打製石斧（5）..... 197
第173図　打製石斧（6）..... 198
第174図　打製石斧（7）..... 199
第175図　打製石斧（8）..... 200
第176図　打製石斧（9）..... 201
第177図　打製石斧（10）..... 202
第178図　打製石斧（11）..... 203
第179図　打製石斧（12）..... 204
第180図　打製石斧（13）..... 205
第181図　打製石斧（14）..... 206
第182図　打製石斧（15）..... 207
第183図　打製石斧（16）..... 208

第184図　磨製石斧第Ⅰ・Ⅱ類の形態 209
第185図　磨製石斧の破損類型 212
第186図　磨製石斧の着柄 213
第187図　磨製石斧（1） 215
第188図　磨製石斧（2） 216
第189図　磨製石斧（3） 217
第190図　磨製石斧（4） 218
第191図　磨製石斧（5） 219
第192図　磨製石斧（6） 220
第193図　磨製石斧（7） 221
第194図　磨製石斧（8） 222
第195図　磨製石斧（9） 223
第196図　磨製石斧（10） 224
第197図　磨製石斧（11） 225
第198図　磨製石斧（12） 226
第199図　磨製石斧（13） 227
第200図　磨製石斧（14） 228
第201図　磨製類・石皿類長さ・幅相関図 . 233
第202図　磨製類・石皿類（1） 236
第203図　磨製類・石皿類（2） 237
第204図　磨製類・石皿類（3） 238
第205図　磨製類・石皿類（4） 239
第206図　磨製類・石皿類（5） 240
第207図　磨製類・石皿類（6） 241
第208図　磨製類・石皿類（7） 242
第209図　磨製類・石皿類（8） 243
第210図　磨製類・石皿類（9） 244
第211図　磨製類・石皿類（10） 245
第212図　磨製類・石皿類（11） 246
第213図　磨製類・石皿類（12） 247
第214図　磨製類・石皿類（13） 248
第215図　磨製類・石皿類（14） 249
第216図　磨製類・石皿類（15） 250
第217図　磨製類・石皿類（16） 251
第218図　磨製類・石皿類（17） 252
第219図　磨製類・石皿類（18） 253
第220図　磨製類・石皿類（19） 254
第221図　磨製類・石皿類（20） 255
第222図　磨製類・石皿類（21） 256
第223図　磨製類・石皿類（22） 257
第224図　磨製類・石皿類（23） 258
第225図　磨製類・石皿類（24） 259
第226図　磨製類・石皿類（25） 260
第227図　磨製類・石皿類（26） 261
第228図　磨製類・石皿類（27） 262
第229図　磨製類・石皿類（28） 263
第230図　磨製類・石皿類（29） 264
第231図　磨製類・石皿類（30） 265
第232図　磨製類・石皿類（31） 266
第233図　磨製類・石皿類（32） 267
第234図　磨製類・石皿類（33） 268
第235図　磨製類・石皿類（34） 269
第236図　磨製類・石皿類（35） 270
第237図　磨製類・石皿類（36） 271
第238図　磨製類・石皿類（37） 272
第239図　磨製類・石皿類（38） 273
第240図　磨製類・石皿類（39） 274
第241図　磨製類・石皿類（40） 275
第242図　磨製類・石皿類（41） 276
第243図　磨製類・石皿類（42） 277
第244図　磨製類・石皿類（43） 278
第245図　石棒類（1） 284
第246図　石棒類（2） 285
第247図　石棒類（3） 286

第248図　石棒類（4）..... 287
第249図　石棒類（5）..... 288
第250図　石棒類（6）..... 289
第251図　石棒類（7）..... 290
第252図　石棒類（8）..... 291
第253図　石棒類（9）..... 292
第254図　石棒類（10）..... 293
第255図　石棒類（11）..... 294
第256図　石棒類（12）..... 295
第257図　石棒類（13）..... 296
第258図　石棒類（14）..... 297
第259図　石棒類（15）..... 298
第260図　石棒類（16）..... 299
第261図　玉類・ペンダント類..... 300
第262図　岩偶・沈刻棒状石製品・浮子... 301
第263図　浮子・石錐・その他の石製品... 302

挿 表 目 次

第 1 表　土製品・石器・石製品時期区分表... 1
第 2 表　袖珍土器観察表..... 4
第 3 表　土偶時期出土数量表..... 13
第 4 表　土製耳飾り時期別出土数量表..... 18
第 5 表　円盤状土製品時期別出土数量表.... 28
第 6 表　石鏃時期別・分類別出土数量表.... 39
第 7 表　石鏃時期別・石材別出土数量表.... 42
第 8 表　無茎鏃分類別・石材別出土数量表.. 42
第 9 表　有茎鏃分類別・石材別出土数量表.. 42
第 10 表　アスファルト付着石鏃・タイプ別時期別出土数量表 44
第11表　石鏃の射込まれた動物遺存体観察表 44
第 12 表　尖頭器時期別・分類別出土数量表. 97
第 13 表　尖頭器時期別・石材別出土数量表. 98
第 14 表　尖頭器分類別・石材別出土数量表 106
第 15 表　石錐時期別・分類別出土数量表.. 107
第 16 表　石錐時期別・石材別出土数量表.. 108
第 17 表　石錐分類別・石材別出土数量表.. 108
第 18 表　石錐分類別欠損率表..... 109
第 19 表　石匙時期別・分類別出土数量表.. 124
第 20 表　石匙時期別・石材別出土数量表 . 125
第 21 表　石匙分類別・石材別出土数量表 . 125
第 22 表　石匙素材表..... 126
第 23 表　石匙つまみ部と打面部相関表 ... 126
第 24 表　不定形石器時期別・分類別出土数量表..... 140
第 25 表　不定形石器時期別・石材別出土数量表..... 141
第 26 表　不定形石器別・石材別出土数量表..... 141
第 27 表　打製石斧時期別・分類別出土数量表. 189
第 28 表　打製石斧時期別・石材別出土数量表. 189
第 29 表　磨製石斧分類別・石材別出土数量表. 209
第 30 表　磨石類・石皿類時期別・分類別出土数表..... 231
第 31 表　磨石類・石皿類期別・分類＝形態出土数量表..... 231
第 32 表　磨石類・石皿類石材別・分類別出土数量表..... 232
第 33 表　石棒類分類別・石材別出土数量表... 280
第 34 表　石器組成表..... 304

写 真 図 版 目 次

図版１　袖珍土器・土偶１..... 325
図版２　土偶２..... 326
図版３　土偶３..... 327
図版４　土偶４..... 328
図版５　土製耳飾り１..... 329
図版６　土製耳飾り２..... 330
図版７　円盤状土製品１..... 331
図版８　円盤状土製品２..... 332
図版９　土玉・有溝土錘・棒状土製品・
スタンプ形土製品..... 333
図版10　ウニ形土製品・動物形土製品・
有孔円柱土製品・不明土製品Ａ・Ｂ... 334
図版11　石鏃１..... 335
図版12　石鏃２..... 336
図版13　石鏃３..... 337
図版14　石鏃４..... 338
図版15　石鏃５..... 339
図版16　石鏃６..... 340
図版17　石鏃７..... 341
図版18　石鏃８..... 342
図版19　石鏃９..... 343
図版20　石鏃10・尖頭器１..... 344
図版21　尖頭器２..... 345
図版22　尖頭器３・石錐１..... 346
図版23　石錐２..... 347
図版24　石錐３..... 348
図版25　石錐４・石匙１..... 349
図版26　石匙２..... 350
図版27　石匙３..... 351
図版28　石匙４..... 352
図版29　不定形石器１..... 353
図版30　不定形石器２..... 354
図版31　不定形石器３..... 355
図版32　不定形石器４..... 356
図版33　不定形石器５..... 357
図版34　不定形石器６..... 358
図版35　不定形石器７..... 359
図版36　不定形石器８..... 360
図版37　不定形石器９..... 361
図版38　不定形石器10..... 362
図版39　不定形石器11..... 363
図版40　不定形石器12・打製石斧１... 364
図版41　打製石斧２..... 365
図版42　打製石斧３..... 366
図版43　打製石斧４..... 367
図版44　打製石斧５..... 368
図版45　打製石斧６..... 369
図版46　磨製石斧１..... 370
図版47　磨製石斧２..... 371
図版48　磨製石斧３..... 372
図版49　磨製石斧４・磨製類・石皿類１.. 373
図版50　磨石類・石皿類２..... 374
図版51　磨石類・石皿類３..... 375
図版52　磨石類・石皿類４..... 376
図版53　磨石類・石皿類５..... 377
図版54　磨石類・石皿類６..... 378
図版55　磨石類・石皿類７..... 379
図版56　磨石類・石皿類８..... 380
図版57　磨石類・石皿類９..... 381

図版58　磨石類・石皿類10 382
図版59　磨石類・石皿類11 383
図版60　磨石類・石皿類12 384
図版61　磨石類・石皿類13・石棒類1 . . . 385
図版62　石棒類2 386
図版63　石棒類3 387
図版64　石棒類4 388
図版65　石棒類5 399
図版66　石棒類6・玉類・ペンダント類 . . 390
図版67　岩偶・浮子・その他の石製品 . . 391
図版68　石鏃の射込まれた痕跡のある
動物遺存体. 392
図版69　石鏃の射込まれた痕跡のある
動物遺存体. 393
図版70　石鏃の射込まれた痕跡のある
動物遺存体. 394
図版71　石器の使用痕. 395

土製品と石器・石製品

Ⅰ．はじめに

第2分冊では土製品(592点)と石器(2541点)・石製品(36点)を扱う。これらは、ＣＬ39～ＣＭ41区の南側遺物包含層から出土したものが中心である。住居跡・土壙墓等に伴うものについては第1分冊で扱っている。

遺物は、発掘調査時に採集したものと堆積土をふるいにかけて発見したもの、とがある。貝層下の土層(第Ⅱ・Ⅲ相当)のものは水洗を行っていないため、また、表土下の第Ⅸ期に相当する層は、後世の撹乱や削平が及んでおり、これらの層出土のものにいてはデータとして制約がある。これらのことを考慮し、時期ごとの数量的比較を行なうに当たっては貝層形成後の第Ⅳ期～第Ⅷ期までの時期を主に検討の対象とした。

分類に当たっては、器種ごとに分け細分を試みている。時期については、共伴する土器をもとに区分(第1表参照)した。

石器と関連する遺物には、多くのチップや剥片が出土している。このうち、チップついては各区・各層ごとに4ℓ当たりの重量を計測し、第３分冊で示してある。

以下、土製品、石器、石製品の順に記することにする。

大別層位	土器群名	土器型式		時期	土製品・石器・石製品時期区分
表土・撹乱層	第Ⅹ群土器	大泉式		弥生中期	
第Ⅰ層（最上部土層）	第Ⅸ群土器	大岡ＢＣ・Ｃ1		縄文晩期前・中葉	第 Ⅸ 期
第Ⅱ層（上部貝層）	第Ⅷ群土器	大岡Ｂ		縄文晩期初頭	第 Ⅷ 期
第Ⅲ層（上部土層） 第Ⅳ層（中部貝層）	第Ⅶ群土器	金剛寺	宮戸Ⅱｂ	縄文後期末葉	第 Ⅶ 期
第Ⅴ層（中部土層）	第Ⅵ群土器		宮戸Ⅱａ	縄文後期後葉	第 Ⅵ 期
第Ⅵ層（下部貝層）	第Ⅴ群土器				第 Ⅴ 期
第Ⅶ層（最下部貝層）	第Ⅳ群土器		西ノ浜		第 Ⅳ 期
第Ⅷ層の１（貝層下土層）	第Ⅲ群土器	宝ケ峯（加曽利ＢⅡまたはⅢ）	宮戸Ⅱｂ	縄文後期中葉	第 Ⅲ 期
第Ⅷ層の２（貝層下土層）	第Ⅱ群土器	大木8ｂ・９・10　南境		縄文中期後葉～後期前葉	第 Ⅱ 期
貝層下土層	第Ⅰ群土器	荒山上層・梨木畑・船入島下層・大木2ａ・大木2ｂ・大木5		縄文早期末～前期	

第１表　土製品・石器・石製品時期区分表

Ⅱ．土 製 品

田柄貝塚で出土した土製品には袖珍土器19点、土偶52点、土製耳飾り239点、円盤状土製品262点、土玉8点、有溝土錘2点、棒状土製品1点、スタンプ形土製品4点、ウニ形土製品1点、動物形土製品1点、有孔円柱状土製品1点、不明土製品2点オ害あり計592点におよぶ。特に土製耳飾りの多いことが注目される。以下、種類ごとに説明したい。

袖珍土器（第１図・図版１）

深鉢形、鉢形、皿形、壺形、注口付、脚形がある。以下、個別に説明を加える。

a深鉢形（第1図1～4）

1･2は屈曲の少ない単純な器形である。1は、口縁部に4単位でU字状に隆帯が貼り付けられ、長楕円形の彫去が施される。地文は縄文（ＲＬ）である。2は無文である。3・4は、口縁部を欠損するが、胴上部でくびれる器形のものと思われる。3は、胴中央部以上に文様が配される。胴中央部には頂部に二分された突起が貼り付き、この間を沈線で連結し、下位にも横位沈線がめぐる。文様帯中には櫛歯状沈線が施され、胴下部は無文である。4は、胴上部が内弯気味にをる。底部はくぼみ、揚げ底風になっている。胴中央部に4個の突起がつき、沈線による弧状の文様が描かれ、櫛歯状沈線が施される。

b鉢形（第1図5～10）

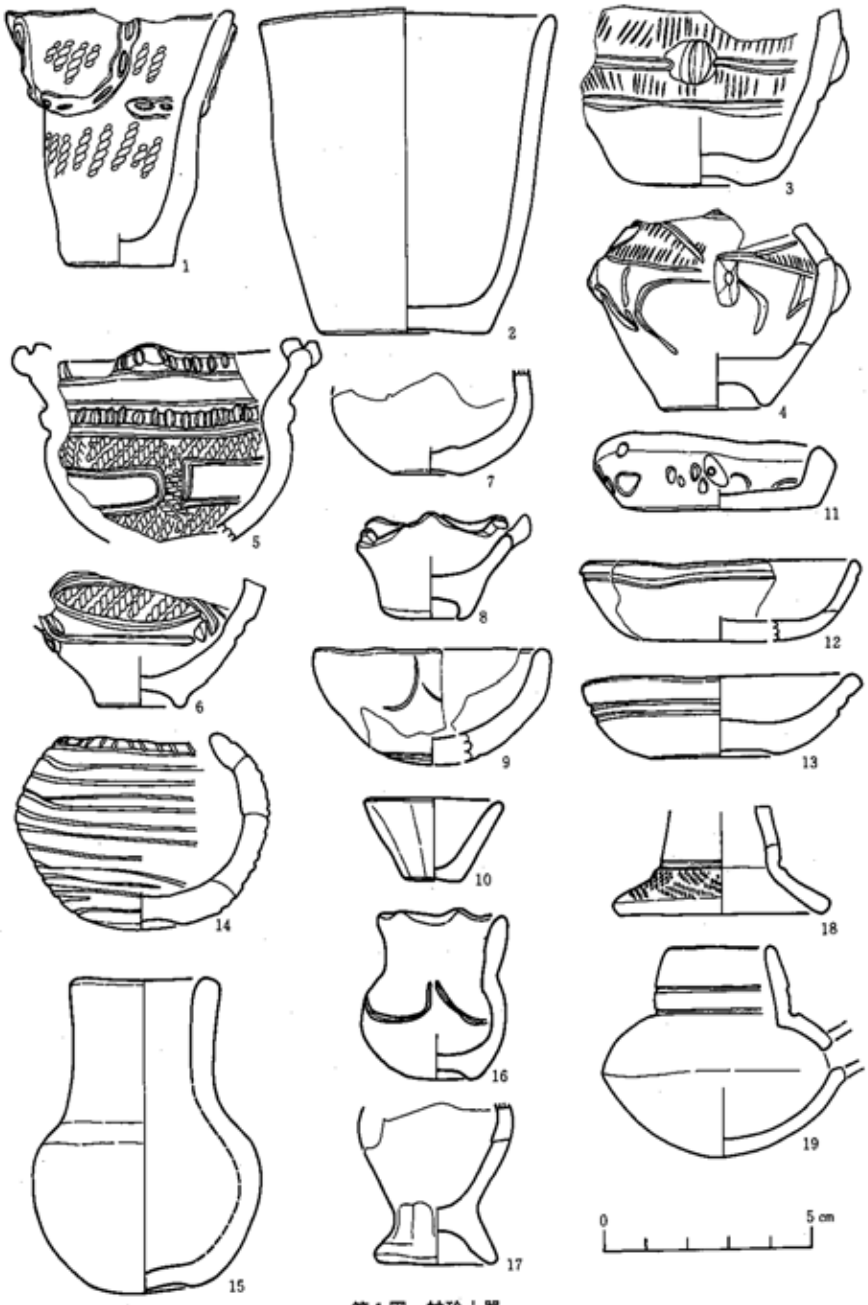
5は、胴部がふくらみをもって立ち上がり、上部でくびれ、口縁部が外傾する器形である。口唇部には、4単位の小突起がつく。口縁端部、くびれ部に横位沈線がめぐり、刻目が施され頸部は無文である。胴部には区画沈線による磨消曲線文様が配される。6は胴下部から底部の資料である。5同様に胴上部でくびれる器形のものと思われ、深鉢形の可能性もある。底部は揚げ底風で胴部に入組文が配され、縄文が充填される。7は、底部がわずかにくぼみ、胴部ふくらみをもって立ち上がり、上部でくびれるものと思われる。無文である。8は、口縁部が3単位の波状を呈し、波底部に山形の小突起がつく。胴部は直線的に外傾し、底部は揚げ底である。9は底部が丸底風で、胴部はふくらみをもって立ち上がる。胴下部に横位沈線がめぐり、上部には沈線文が描かれる。10は盃形のもので無文である。

c皿形（第1図11～13）

11は胴部が直立気味に、12・13では丸味をもって立ち上がる。11は胴部に浅い刺突、半円状の弧線、指頭によるオサエ痕を残す。12・13は口縁部にそれぞれ1・2本の沈線がめぐるだけの無文のものである。

d壺形（第1図14～17）

14は無頸のもので、底部がわずかにくぼみ胴部がふくらみ、胴上部から口縁部にかけて内弯する。口縁部には縦位の刻目が施され、胴部には平行沈線がほぼ等間隔で下位まで施される。



第1図　袖珍土器

番号	地区・層位	時　期	登録番号	図版番号	番号	地区・層位	時　期	登録番号	図版番号
1	CL47−36	Ⅱ	256	1−1	11	CM39−36	Ⅲ	266	1−10
2	CM42−12	Ⅱ	257	1−2	12	CL40−2	Ⅷ(?)	267	1−11
3	CM42−12	Ⅱ	258	1−3	13	CL40−1・2	Ⅷ(?)	268	1−12
4	CM40−6	Ⅶ	259	1−4	14	CL40−25	Ⅴ	269	1−10
5	CM41−28	Ⅱ	260	1−5	15	CM41−28	Ⅱ	270	1−18
6	CL41−14	Ⅶ(?)	261	1−6	16	CL39−2	Ⅱ〜Ⅶ	271	1−17
7	CM41−28	Ⅱ	262	1−7	17	CM41−25	Ⅴ	272	1−16
8	CM41−25	Ⅲ〜Ⅴ	263	1−8	18	CM41−18	Ⅶ	352	1−19
9	CM41−19	Ⅶ	264	1−9	19	CL47−3a	Ⅲ	273	1−14
10	CL39−32	Ⅲ〜Ⅴ	265	1−33					

第２表　袖珍土器観察表

15・16は長頸のものである。15は平口縁、16は波状口縁でともに底部は揚げ底風である。15は無文であるが、16は胴上部に連弧文が配される。17はワイングラス状を呈する。底部から台部にかけて指頭による調整痕を残す。

e注口形（第1図18）

口頸部が内傾し、胴部はソロバン玉状を呈し、底部は丸底風となる。頸部に2本の沈線がめぐる。

f脚形（第1図19）

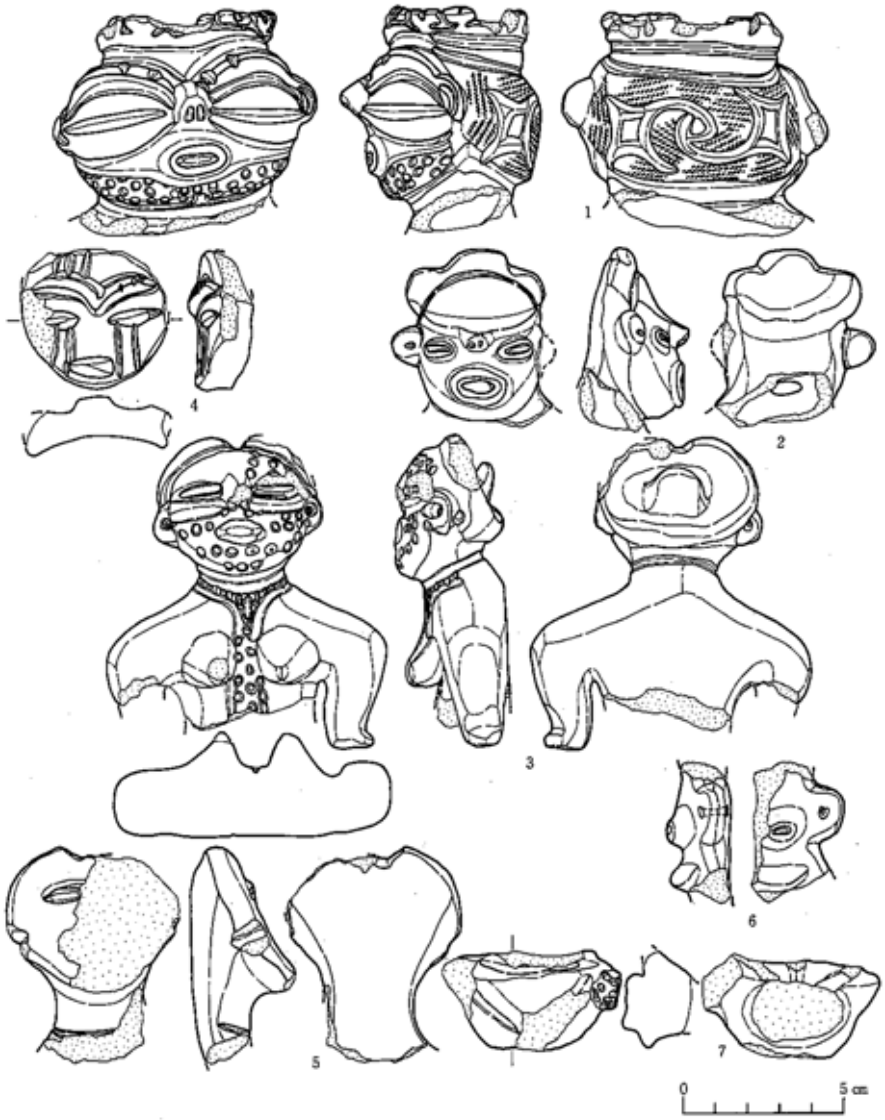
裾部が開くものである。脚部は無文で下位に沈線がめぐり、沈線下の裾部には縄文が施文される。

以上、出土した19点についての、出土地区、層位は第2表に示す通りである。所属時期については、出土層位で共伴した土器の年代を基に、文様の種類（袖珍土器に描かれる文様は、当該時期の日常品である土器の文様をそのまま採用するものが多い）などによって決定した。時期的には、後期前葉（Ⅱ期）から晩期初頭（第Ⅷ期）まであり、後期中葉（Ⅲ期）頃のものが僅かに多い程度である。

土　偶（第2〜8図、図版1〜4）

土偶の総数は52点である。全て破片で、全体を窺い知る資料は1点のみである。全体の2分の1以下の小さな破片が多い。これらは、土器片や他の遺物などと一緒に貝塚の堆積層からバラバラに発見されたもので、遺構の中とか特殊な状態で出土したものはない。破片が小さい上に、形態・文様にばらつきがあり、類型化して分類するのは困難であった。そこで、分類については、頭部・胴・腕・脚の部位ごとに形態・文様の特徴をあげ、これを基本に各部位の集まっている比較的大形の破片を利用して、各部位のつながりをはかり、全体像の類型化を試みたい。

なお、観察表の土偶の部位については、岩手県大迫町教育委員会の『立石遺跡』（1979.3）の



番号	地区・層位	時期	分類	頭部 1	顔部 2	3	4	胴部 5	6	7	8	脚部 9	10	11	12	尖角	縄文	アスファルト	彩色	正中線	下腹部	乳房	備考	遺物番号	図版番号
1	C L39−22上面	縄	頭部A	○													LR						近世陶土偶	227	1−20
2	C L38−20	不明	頭部B	○																			中空。目孔穴があり内部に通じる。	696	1−21
3	CM41−23	Y	頭部C 胴部B 1 脚部D 1	○	○	○		○		○	○								顔の眉に彩色	後世刺突		○	背、正中線に刺突。顔に眉合。イボヤあり。眉に模様なし。	814	1−22
4	CM43−3	不明	頭部D	○																			眉刺突線、目尻の上、耳孔の下に顔の沈線文。	6413	1−23
5	CM41−24	Y	頭部E	○																			耳に貫通孔、耳文線、頭頂に刺入。顔の半分剥落。顔が突き飛びだす。イボヤあり。	4464	2−1
6	C L39−24C	縄	頭部E	欠															顔の全面				顔の左半分のみ。顔の輪郭が飛びだす。顔のあたりに彩色。	6477	2−2
7	A S55−1	不明	頭部E	○																			背と顔の一部分しか分からない。背は鼻と一体になってY字状を描するものらしい。	64	2−3

第2図　土　偶(1)

ものを利用させて頂いた（第3図）。

分 類

頭 部 12点のうち、中空のものが2点あるが、他のものは内部が充実したものである。全て個別的にしか分類できをい。

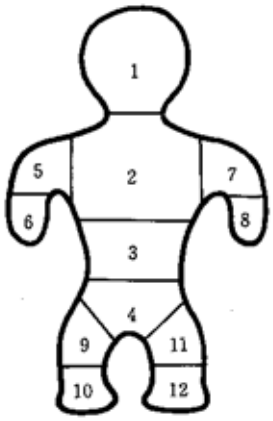
A. 中空の大形品。眼を大きく表現したいわゆる遮光器土偶である。 (1)

B. 中空の中形品。瞼・唇を楕円の細隆帯で表現。口は穴があき、内部に通じる。 (2)

C. 中形品。丸顔で竹管文が特徴的。頭部の頂きに凹みがみられる。(3)

D. 中形品。丸顔で右の眉の上と両眼の下の沈線鹸特徴的。(4)

E. 中形品。顔の半分以下しかなく、特徴をとらえにくいものを一括した。(5・6・7)



第３図　土偶部位図

F. 小形品。顔の表情を沈線で象徴的に表現。(8)

G. 小形品。出頭部の頂きが三角形に尖り、前に折れる。眉と鼻を隆線で、眼と口を窪みで表現。(9)

H. 小形品。偏平な頭部。顔のうち耳と口だけを表現。(10)

Ｉ. 小形品。小さな頭部で、顔全体を凹ませ細部は表現しない。(11)

Ｊ. 小形品。頭部の頂きが窪み、その左右がやや上方にのびるもの。顔は平坦で、細部は表現されない。 (12)

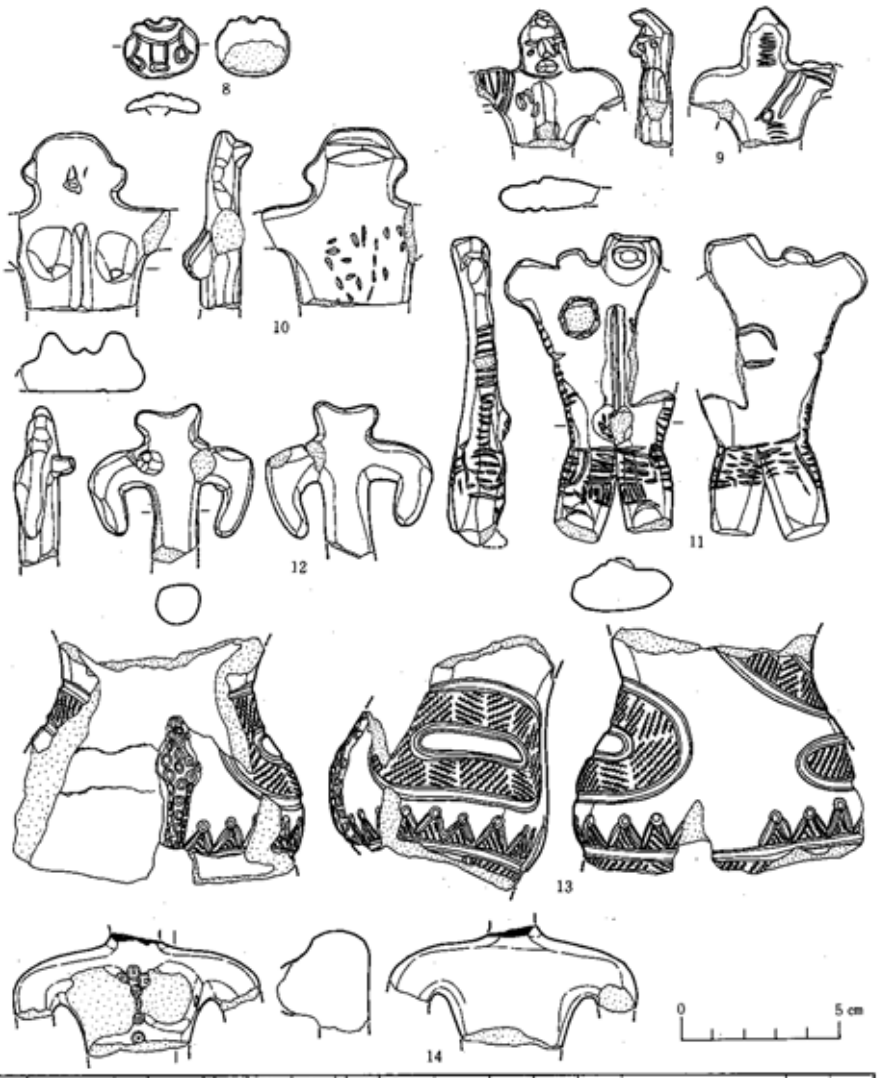
胴 部 18点ある。うち頭部と連続しているものは5点しかない。中空のものは1点で、他のものは内部が充実しているものである。胴(部位の2・3・4)が揃っているものは、僅か3点である。半分以上の大きさをもつもの(部位の2・3あるいは3・4をもつもの)は6点、半分以下のもの8点である。中空のもの以外は、特徴がよくあらわれていると思われる正中線の形態を基準に分類してみた。なお、胸(部位の2)にはすべて乳房があるが、突起によるもが多く、沈線で表現されるものは1点しかない(19)。正中線の有無を知ることのできないもの4点(22・23・24・25)分類の対象に入れていない。

A. 中空の大形品。曲線的を磨消縄文をもつ。正中線は隆帯で下腹部の突起の下まで続く。この正中線・突起は竹管文で飾られる。(13)

B. 中形品が多い。装飾的な正中線をもつもので、丁寧な作りのものが多い。細分すると次のようになる。

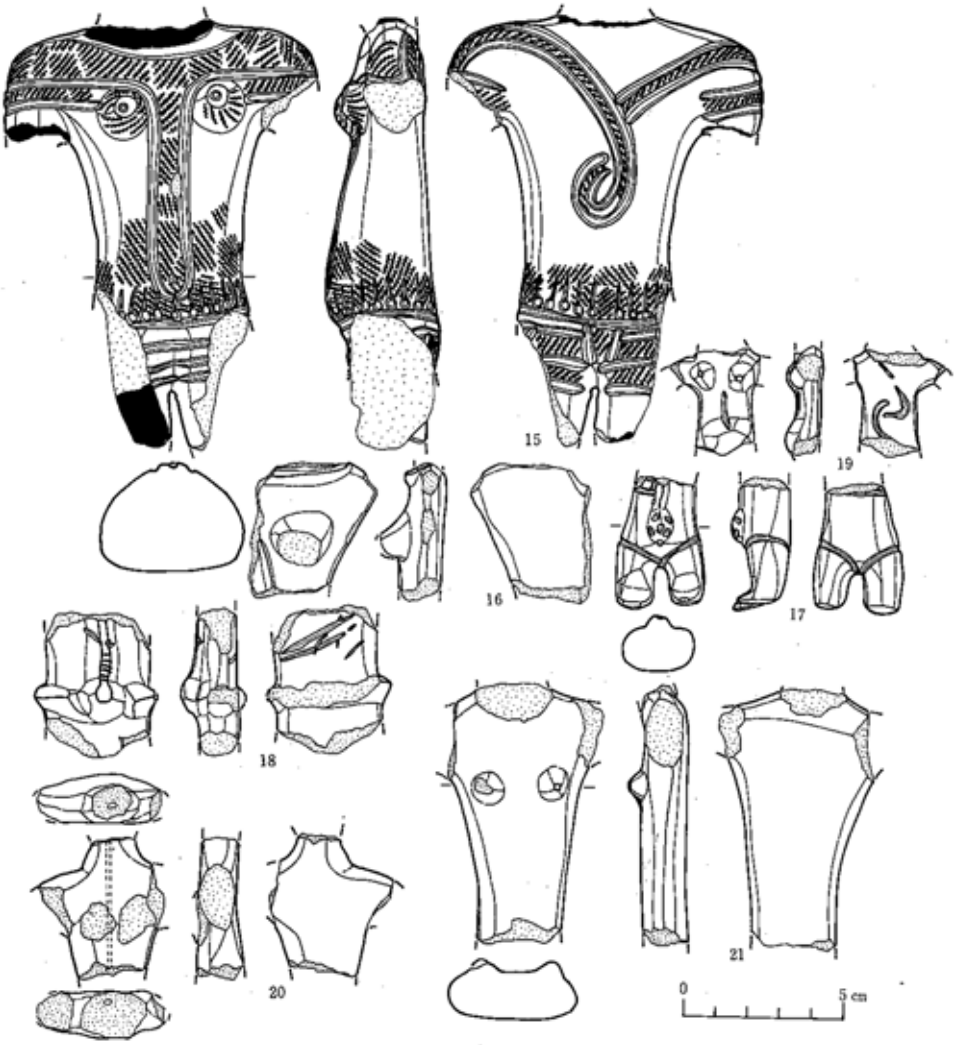
B1. 隆帯に竹管文が加わるもの。 (3)

B2. 竹管文によるもの。 (14)



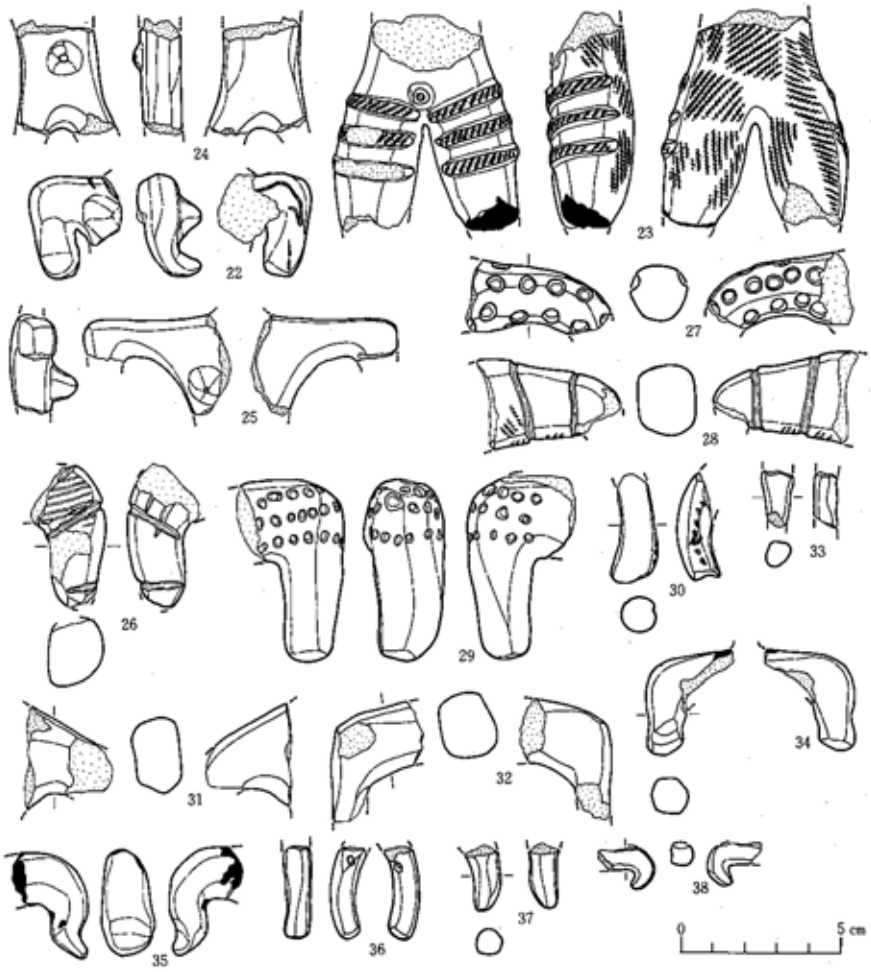
番号	地区・層位	時期	分類	頭部 1	2	3	4	胴部 5	6	7	8	9	脚部 10	11	12	不明	縄文	アスファルト	彩色	正中線	下腹部	乳房	備考	遺構番号	図版番号
8	C L40－11	Ⅷ	頭部F	○																			頭部のみ。他は不明瞭。沈線で顔を表現。	6511	2－4
9	C L41－13	Ⅵ	頭部C 胴部C 胴部A 0	○	○	○		○		○										隆帯			右の乳房あるが足は欠いた。乳房は細い線で表現。表裏に非対称的な沈線文などあり。	419	2－5
10	CM39－25 a	Ⅷ	頭部H・ 胴部C	○	○	○														隆帯			顔は丸・目のみ表現。後頭部に突起。背中に不規則な沈線文。	186	2－6
11	C L40－16 C L41－9	Ⅷ	頭部I 胴部D 胴部B 3 胴部B 2	○	突起 ○	○	○	○			○	○	○	○						隆帯 沈線	突起 突保	○	顔は凹みで表現。細い鼻。乳房の周辺に円点。乳房斜面。体部、背面。腰の周囲に斜沈線文。背中に円文。	6103 6509 6167	2－7
12	C K38－北10	不明	頭部J 胴部F 胴部B 2	○	○	○		○	○	○	○												顔のみなし。左の乳房斜面。顔の表現なし。	683	2－8
13	C L42－10 C K42－12	不明	胴部A				○										L R			隆帯 竹管	突起 竹管		中空。幾何的な磨消縄文。顔に縄胴文と竹管文がめぐる。内部に粘土紐巻き上げ痕跡。	518 6533	2－9
14	CM43－南	不明	胴部B 2		○			○		○								貝の付け殻		円点 竹管		○	乳房斜面。乳房脇に円文。背中文様なし。	6505	2－10

第4図　土　偶(2)



番号	地区・層位	時期	分類	型	胴 1	胴 2	胴 3	胴 4	脚 5	脚 6	脚 7	脚 8	脚 9	脚 10	脚 11	脚 12	不明	縄文	アスファルト	彩色	正中線	下腹部	乳房	備考	整理番号	図版番号
15	CL40−17(18)	Ⅶ	胴部B3 胴部A0 胴部A0			○	○	○	○		○		○		○			LR	背、右足の矢鏃部		区画縄文	膨らみ	○	頭は脚、胴、腹部、正中線に縄文。背中に曲線的な磨消縄文。腹の部分に円点文。脚に区画・縄文。	748	3−1
16	CL41−14	Ⅶ	胴部C		胴部C																隆帯			逆三角形の体部。脚の表現のない。イボキあり。胴部に不明な点あり。裏に模様なし。	6196	2−11
17	CL39−30	Ⅶ	胴部C 胴部B1				○	○				○	○	○	○						隆帯	胴部剥落		凹んで足首を表現。脚の付け根に沈線めぐる。イボキあり。胸に沈線文2条あり。裏に模様なし。	418	2−12
18	CK39−4	不明	胴部C					○													隆帯	剥落		頭の部分に隆帯。背部に斜めの沈線。	6386	2−13
19	CL39−24	Ⅵ	胴部E			○	○	○														膨らみ	○	背中に対称的な弧線文。	6409	2−14
20	CL39−31	Ⅴ	胴部F			○	○																○	男性原剥落。脚表面も剥ぐ。イボキなし。隆帯なし。胴から脚まで約2mmの貫通孔。	783	2−15
21	CM42−7b	不明	胴部F			○	○															膨らみ	○	表裏文様なし。	132	2−16

第5図　土　偶(3)



番号	地区・層位	時期	分類	脚 1	脚 2	脚 3	脚 4	脚 5	脚 6	脚 7	脚 8	脚 9	脚 10	脚 11	脚 12	脚	縄文	アスファルト	彩色	正中線	下膨部	乳房	備考	遺物番号	写真図版番号
22	C L40－25	V	脚部B 1					○	○														裏に浅く刻く沈線。表に横線な一条を沿みで表現。	6410	2－17
23	C L40－20	VI	脚部A 0				○					○		○			L R	左脚の文様無		?	小突起		下膨部に突起。脚の裏に縦管(縄文)。裏は縄文のみ。	119	3－2
24	C L42－?	不明					○														突起		文様なし。	338	3－3
25	C M39－2	不明				○		○														○	文様なし。	6476	3－4
26	C K39－2	不明	脚部A 0							○							L R						裏・沈線。	6250	3－5
27	C Q47－1	不明	脚部A 0							○													竹管文。	156	3－6
28	C L38－東10	不明	脚部A 0							○													沈線がめぐる。部分的に縄文。	—	3－7
29	C L38－23	不明	脚部A 1							○	○								竹管文部分				脚の表面に竹管文。平面に表現なし。	6248	3－8
30	C L40－17(18)	晩	脚部A 2						○														裏に刺突文。横線に沿みで手を表現。	6508	3－9
31	C L40－11	晩	脚部B 0							○													文様なし。	3381	3－10
32	C M41－12・13	晩	脚部B 0							○													文様なし。	401	3－11
33	C M42－8	不明	脚部B 0																				脚部の一部?	2606	3－12
34	C L41－18	IV	脚部B 1					○	○									脚の付根					横線なし。手首を沿みで表現。	4401	3－13
35	C L39－25	晩	脚部B 1					○	○									脚の付根					手首を沿みで表現。文様なし。	6133	3－14
36	C M39－36	IIC	脚部B 2								○												横線なし。脚の付け根に突起。	5563	3－15
37	C M41－12	晩	脚部B 2						○														左右不明。文様なし。	3737	3－16
38	C M41－13	晩	脚部B 2							○	○												文様なし。	3690	3－17

第6図　土　偶(4)

B3. 沈線に狭まれた区画縄文によるもの。(15)
C. 小移品が多い。単なる隆帯による正中線をもつもの。(9・10・16・17・18)
D. 小形品。隆帯に沈線が加わるもの。(11)
E. 小形品。単なる沈線による正中線をもつもの。(19)
F. 小形～中形品。正中線がないもの。 (12・20・21)

腕 部 23点ある。上腕から手まであるものは10点で、このうち胴部と連続しているものは4点である。文様・形態・手首の表現などで分類を試みる。

A. 文様をもつもの中細分すると次のようになる。

A0. 竹管支・沈線文・磨消縄文などの文様があるが、手首がかけているもの(9・15・26・27・28)

A1. 竹管文をもち、手首の表現ない。(29)

A2. 利点文をもち、手首の表現ない。(30)

B. 無文のもの。細分すると次のようになる。

B0. 文様がみられず、手首が欠けているもの。(31・32・33)

B1. 手首を凹みで表現 (3・22・34・35)

B2. 手首の表現ない (12・36・37・38・39・40・41・42)

B3. 腕が短く、手首の表現がない (11)

脚 部 14点ある。股から足先まであるのは9点で、このうち胴部と連続しているものは2点である。文様・形態・足首の表現などで分類を試みる。

A. 文様をもつもの。

A0. 磨消縄文・隆帯縄文をもつが、足先が欠けている。(15・23)

A1. 磨消縄文的な文様をもつもの、足の指を表現。(43)

A2. 沈線文をもち、足首を凹みで表現。(11・44)

A3. 沈線文をもち、足の指まで表現。(44)

A4. 縄文があり、足首を凹みで表現。(40)

B. 無文のもの。

B1. 足首を表現 (17・47・48・49・50)

B2. 足の指を表現。(51)

B3. 足首を膨らみで表現。(52)

次に、各部位の集まっている比較的大形の破片を利用して、以上で分類した各部位の繋がりをはかってみるが、大形破片が少ないため全体を類型化した分類は困難で、小破片の部位は類型化した分類からはずれるもが多かった。

番号	地区・層位	時期	分類	脚 1	脚 2	脚 3	脚 4	脚 5	脚 6	脚 7	脚 8	脚 9	脚 10	脚 11	脚 12	脚 13	脚 14	縄文	アスファルト	彩色	芯中線	下端部	孔部	備考	図版番号	写真番号
39	CK38−10	不明	脚部B 2							○	○													文様なし。手首の表現時になし。肩を横に入れている。	6251	3−18
40	CL37−3・4	III	脚部B 2							○	○													文様なし。手首の表現時になし。	6478	3−19
41	CM42−9	不明	脚部B 2							○	○													文様なし。少し彎曲。	2677	3−20
42	CM42−9	不明	脚部B 2							○	○													文様なし。棒状	2678	3−21
43	CL40−26	IV	脚部A 1									○	○					LR		部分的				足の指を5本の刻みで表現。比較的整形良好。表面ある。	302	3−22
44	CO41−第3層	不明	脚部A 2									○	○											脚の間に足踏めである。他の文様なし。脚先につまみだして表現。表面に縦文。4個の刻みで指を表現。黒く光沢ある。	6520	3−23
45	CM41−13	VIII	脚部A 3											○	○	○									510	3−24
46	CM43−3	不明	脚部A 4										○					LR						表のみ縄文。文様なし。	6506	3−25
47	CL40−23	V	脚部B 1											○	○	○								指の表現なし。長いミガキ。	726	3−26
48	CL40−25	V	脚部B 1									○	○									膨らみ		足首を凹みで表現。下端部の膨らみ薄かにのこる。	228	3−27
49	CM40−4d	VIII	脚部B 1												○	○								凹みで足首を表現。文様なし。	2420	3−28
50	CL40−11	VIII	脚部B 1									○	○											文様なし。	3182	3−29
51	CL40−16	VIII	脚部B 2										○	○										丸い突起した指。5個の刻みで指を表現。	6194	3−30
52	CL38−20	不明	脚部B 3												○	○								足首を膨らませて表現。	697	3−31

第7図　土　偶(5)

比較的大形の破片を利用した各部位の繋がりは次の通りである。

① 頭A ―――― 胴A（1・13）

中空の大形品でいわゆる遮光器土偶である。頭と胴は直接接合はしないが、大きさ・形態・文様からみて同一個体と考えた。

② 頭C ―――― 胴B1 ―――― 腕B1（3）
　　胴B2 ―――― 腕B0（14）
　　胴B3 ―――― 腕A0 ―――― 脚A0（15）

飾られた正中線をもつ胴部Bを媒介にしてまとめてみた。表現のはっきりした厚みのある頭部で、体部には飾られた正中線をもつものである。正中線以外の部分が無文であっても、研磨され丁寧に作られている。3の腕部からみて、脚部B1のうち丁寧な作りのものは、この仲間に含まれるであろう。15のように正中線以外に磨消縄文や沈線文などのしっかりした体部文様をもつものからみて、腕部A・脚部Aのうちしっかりした装飾文をもつ破片は、この群に入れてよいであろう。中形の大きさをもつ頭部D(4)・E(5・6・7)もこの仲間とみたい。

③ 頭G ―――― 胴C ―――― 腕A0（9）
　頭H ―――― 胴C(10)
　　胴C ―――― 脚B1（17）

単なる隆帯で正中線を表現している胴部Cを媒介としてまとめてみた。頭部の作りは余り丁寧でなく偏平である。顔の表現も稚拙で、目鼻を省略しているのもある。胴部も②と比較して偏平で、作りも簡略化されている。9の胴部・肩部からみて、文様のある胸部A・脚部Aのうち簡単な沈線文・列点文をもつもの及び無文で余り研磨されていをいものは、この群に入るのもあろう。

④ 頭I ―――― 胴D ―――― 腕B3 ―――― 脚A2（11）

顔を凹みで表現し、偏平な体部をもつ。正中線を示す隆帯上に一条の沈線が加わる。短い腕部をもつのは、④に属する 11 以外には見当たらない。胴部の側面や股の周囲に短い沈線を多用した文様がみられる。③と同じく、文様のある胸部A・脚部Aのうち簡単な沈線文・列点文をもつもの及び無文で余り研磨されていないものは、この群に入るものもあろう。

⑤ 頭J ―――― 胴F ―――― 腕B2(12)

顔の表現はなく、のっぺら坊である。細長い棒状の胴部で、正中線もなく、他の文様もない。胸部B2からみて、脚部は文様をもたず足首を表現している脚部B1が最も可能性がある。

以上、5類型にまとめてみたが、この類型に分類することが出来ない破片があることは、すでに述べたとおりである。また、この5類型も、③から⑤までは小形で作りも余り丁寧でないものとしてまとめることが可能であろう。

なお、第2図3の土偶の耳の内部には、径2㎜・長さ3㎜の輪切りにしたヤカドツノガイが嵌め込まれている。（図版第4図1拡大）

次に年代について考えてみよう。出土層位からみて、後期後半から晩期初頭の土器にともなうものである。個々の土偶の出土層位および共伴の土器型式については、観察表を参考にしてほしい。形態からみても、胸部や脚部がよく表現されており、後期後半のものが多いとみられる。

①は中空のいわゆる遮光器土偶で、文様・頭部の形態からみて、晩期初頭の大洞Ｂ式に伴うものである。

②および頭部Ｂは後期後半のものであろう。後期前半を中心とした宮城県蔵王町二屋敷遺跡の土偶とは異なった特徴を示している。ただし、38は晩期初頭の層から出土している。

③・④・⑤は小形で、作りもあまり丁寧でない。丁寧に作られた①や②を補完するために作られたものであろう。形態から時期を特定するのは困難であるが、層位からみて、後期後半から晩期初頭にかけてのものである。

時期	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	計	不明	総数
個数	0	2	2	6	4	5	12	31	21	52
(%)	(0)	(6.5)	(6.5)	(19.3)	(12.9)	(16.1)	(38.7)	(100.0)		

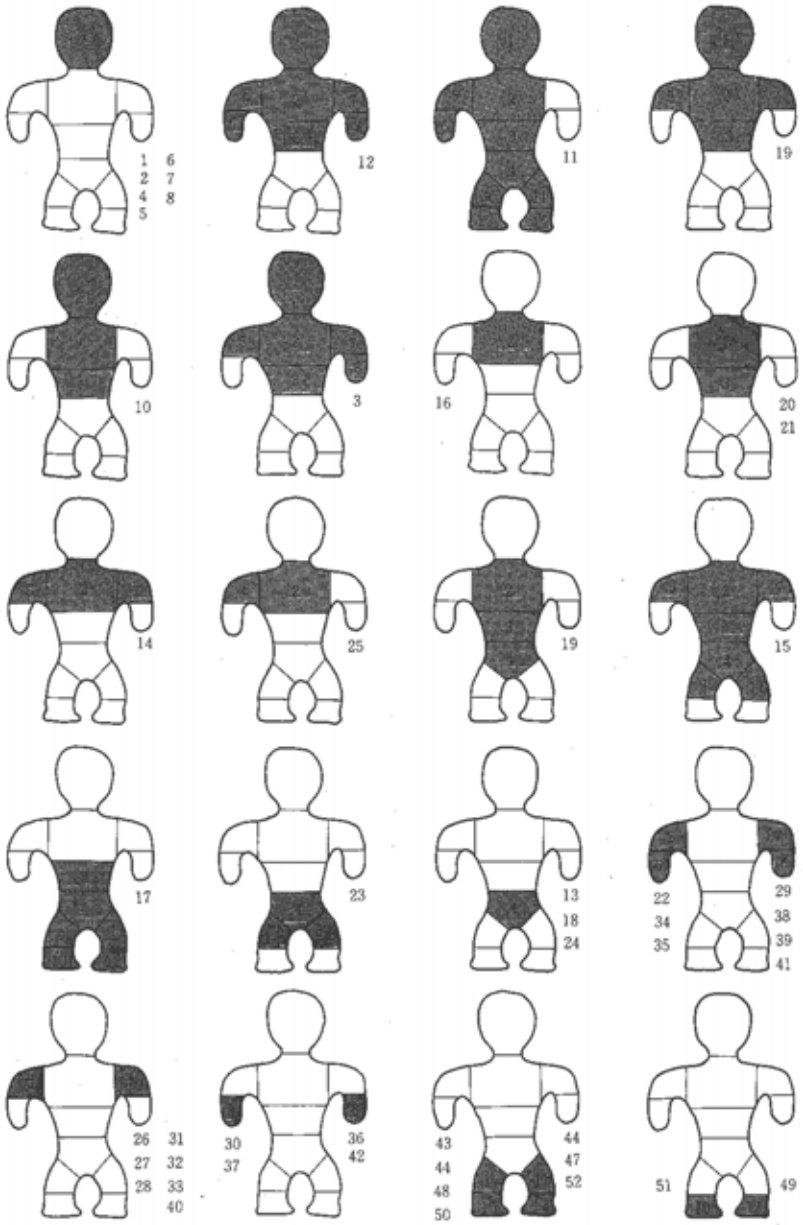
第３表　土偶時期別出土数量表

土偶の部位と出土状況・残存状況

土偶の形態は簡略化された部位をもつのもあるが、基本的にはすべて頭部および四肢をもつものである。土偶の部位については、岩手県大迫町教育委員会の『立石遺跡』(1979.3)の土偶の項を参考にした。

土偶は52個あり、すべて破片である。残存状況は、目で見てわかるように第8図で示した。2ヶ所以上の部位をもつのも、バラバラの部位として数えあげると、各部位の数は次のようになる。腕・脚の部位については、左右不明なものもあるので、左右の平均化した数を（　　）に示した。

1－頭部　　―――――― 12
2－首から乳房の下まで　　―――――― 12
3－乳房から臍の上まで　　―――――― 10
4－臍の上から股まで　　―――――― 11
5－右肩から右肘まで　　11 ┐



第 8 図　土偶部位残存状況図

7－左肩から左肘まで	12	27
－5あるいは7（左右不明）	4	（平均 13.5）
6－右肘から手の先まで	6	15
8－左肘から手の先まで	4	（平均 7.5）
－6あるいは8（左右不明）	5	
9－股から右膝まで	8	15
11－股から左膝まで	6	（平均 7.5）
－9あるいは11	1	
10－右膝から足先まで	15	22
12－右膝から足先まで	5	（平均 11）
－10あるいは12（左右不明）	2	

この数値をみると、各部位の数は少ないもので 7.5 個、多いもので 13.5 個である。最多と最のものを除いたものの平均は 11.4 個である。四肢の捉えかたには難しい点があるので、全体とては、各部位の数は、部位によってそれほど偏りがあるとは思えない。部位を頭部（部位の 1）・胴部(部位の 2・3・4)・胸部(部位の 5・6・7・8)・脚部(部位の 9・10・11・12)に大別して、各部位の数の平均をしめすと、それぞれ 12、11、10.5、9.25 となり、部位による偏りは更に少なくなる。層位・地点を無視したものであるが、廃棄の段階で選択的に部位に応じた捨てられ方があったとは思われない。

土偶はすべて破片として出土した。土器片や他の遺物などと一緒に貝塚の堆積層からバラバラに発見されたもので、遺構の中とか特殊な状態で出土したものはない。したがって、土偶の破片は他の不要な品々と一緒にごく普通に棄てられたものと推定される。

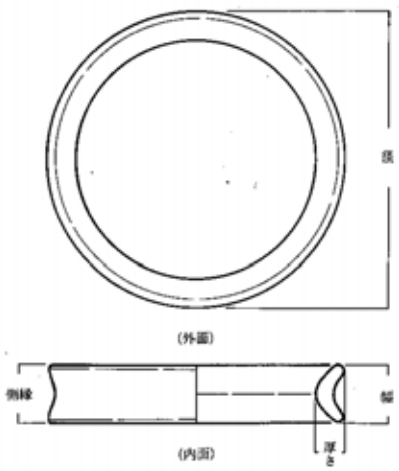
土偶の残存状況は、すでに述べた通りで、すべて破片である。しかも、同一個体に属すると認定できる破片が極めて少ない。まさにバラバラである。しかし、欠損面あるいはその付近を観察しても、特別に壊れやすく工夫してあるとか、故意に叩いて割ったとかの痕跡を見出すことは出来なかった。だが、土偶を手に持って折るとか割るとかすれば、その痕跡は残らないであろう。今回出土した土偶を個別的に観察しても、故意に破損したのか、あるいは偶然破損したものなのかは判断できないようである。

ここで問題になるのは、土偶の破損面にみられるアスファルトである。これは破損面に見られるところから接着剤であろう。事実、立石遺跡（1979. 3）ではアスファルトで接合された状態のまま出土したものがみられる。田柄貝塚では土偶総数52点のうちアスファルトの付着するものは5点あり、約1割を占める。うち1点は3ヶ所の破損部にアスファルトがみられる（第5図15、図版3の1、図版4の2（首部）・3（腕部）・4（脚部）拡大）。アスファルトを接着

剤とみるかぎり、アスファルトの痕跡は破損した土偶を接着によって復元しようとした縄文人の意志の現れである。土偶を個別的に観察しても、故意に破損したのか偶然破損したのか判断するのは、極めて困難であることはすでに述べたが、少なくとも破損したものを再び復元しようとしたことは読み取ることができる。立石遺跡では土偶総数218点のうちアスファルト付着例は32例、全体の15%にあたるという。不確かな状況証拠や縄文農耕説を下敷にした考えに基づいて、土偶を故意に破損したと考えるよりは、「土偶は、その一部が小さく壊れても、機能に関係ない場合には、そのまま用いられたり、また、補修されたりして、繰り返し使用されたのであろう。機能をまっとうできないほど破損したときに初めて、他の不要品と同じ扱いを受け、廃棄され、処分された。出土した土偶の破片を接合しても、なかなか完全な形に復原できないことも、こうした事情による……」（1979.3）とみることは出来ないであろうか。ここでは、土偶が破片となり、バラバラになって出土する理由を、土偶の破損面にみられる接着剤すなわちアスファルトを重視して、従来の土偶破壊説をとらず、繰り返し使用のされた過程で破損してしまった結果と考えたい。なお、七ヶ宿小梁川遺跡（宮城県教育委員会：1986.3予定）からは、中期初頭の土偶にアスファルトが破損部に付着しているものが出土している。これは土偶が補修されていた初期の最も古い例と考えられる。

土製耳飾り（第10～17図、図版5～6）

土製耳飾りは総計239点出土している。このうち土器などに共伴して所属時期が明らかなものは134点である。すべて耳朶に穴をあけてそこに直接耳飾りをはめこむ形式のもので、耳栓あるいは滑車状耳飾りとよばれるものに属する。形態・装飾・大きさなどに変化がみられる。なお、図版には時期の特定できるものすべてと、不明なものの一部を揚げた。



第9図　土製耳飾り部位各称図

形態による分類

A類　円筒状のもので内部が充実しているもの。内外面はともに窪んでいる。耳朶に接する側内側彎曲している。

Ⅰ　内外面の径がおなじ大きさのもの。

a. 小型品

b. 大型品

Ⅱ　外面が内面より径が大きい。

Ｂ類　中央が空白で、環状をなすもの。

Ⅰ　内外両端面が丸みを持ち、断面が弓なりになるものと〈の字形になるものとがある。

Ⅱ　断面が三角形に近いものをあつめた。断面が〈の字形のものと区別つけにくいものがあるので、ここでは輪の厚さと幅が1対1以上のものとした。

Ⅲ　側面がやや外側に膨らみ気味か直線的なものを集めた。断面は薄いもの（Ⅰでいうと弓なりの断面形に近い）が多い。

Ⅳ　外面が平坦で、断面がやや長方形にちかいもの。

ａ．文様があるもの

ｂ．文様がないもの

Ｃ類　周囲は環状となるが、外面の部分に覆いをつけた形のものである。

Ⅰ　外面が透彫の手法で飾られているもの

Ⅱ　外面が透彫の手法によらずドーム状になるもの

以上、形態から3つに大別したが、これらを次に各類ごとにその特徴をみてみる。

ＡⅠaの類は小指大のもので、内外面が平坦なもの(136)や、一方の面が欠損しているが、他方の面が凹むもの(118)がある。ＡⅠａ類は径37㎜、幅20㎜とやや大きく、内外面が凹む(29)これらＡ類は、その形状から、魚類の椎骨に類似したものと言える。

ＡⅡ類は、中央部に内外面に通じる小孔をもつもの（4）、外面に円文がみられ内面がやや深く凹むもの（3）や、内面が平坦で外面がやや凸面で、重いもの(137)の3点がある。

Ｂ類は、分類で示したように、斉一性が強いものである。

ＣⅠ類は薄手で、内ぞり(32)、あるいはやや直線的な(148)側縁をもつものがある。

ＣⅡ類は小破片で、全体形を知ることが難しいが、内面径が外面径より大きく内外両端面に段をもつ陵がみられる(131)。

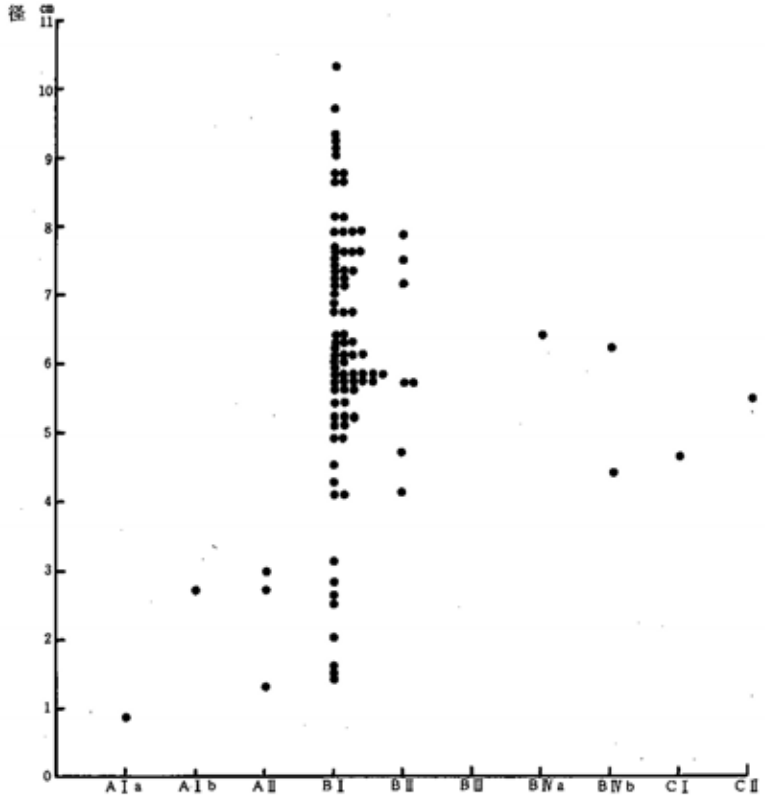
次に、文様、径、時期的変遷について以下述べていく。

文　様

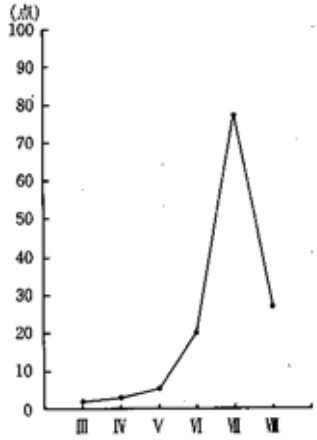
文様のあるものには、外面に円文がみられるＡⅡ類(3)の1点、外面に三又文・内側に3条の沈線が巡るＢⅣａ類(147)の1点、透彫に刻みがはいるＣⅠ類(32・148)の2点、計4点が出土しており、全体1.7%にあたる。その他はすべて無文のものである。また、彩色されているものは特に認められなかった。

径

径の復元可能なものについて扱う。第10図をみてわかるように、径3㎝以下の小型のもの、径4㎝以上8㎝以下の中型のもの、径8㎝以上の大型のものの3つに大別することができる。特に、中型のものに集中する傾向性が強く、大型のものは数的にも少ない。小型のも



第10図　土製耳飾り分類別径分布図



第11図　土製耳飾り時期別出土数量図

分類		時期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期	Ⅶ期	Ⅷ期	計	不明	総計
A類	Ⅰ	a								1	1 (0.7)	1	2
		b							1		1 (0.7)		1
	Ⅲ						2				2 (1.5)	1	3
B類	Ⅰ				2	3	3	20	71	23	122(91.1)	93	215
	Ⅱ								2	2	4 (3.1)	7	11
	Ⅲ											1	1
	Ⅳ	a										1	1
		b							2		2 (1.5)	1	3
C類	Ⅰ								1		1 (0.7)		1
	Ⅱ									1	1 (0.7)		1
総計					2 (1.5)	3 (2.2)	5 (3.7)	20 (14.9)	77 (57.5)	27 (20.2)	134 (100.0)	105	239

第４表　土製耳飾り時期別出土数量表

のはA類に多い。

時期的変遷

時期別の出土数は第19図と第4表に示したように、Ⅲ期(後期中葉)からみられⅦ期（後期末葉）には73点（時期のわかるもののうちの57%にあたる）と急増する。Ⅷ期（晩期初頭）に至って減少する。この後期末葉に最も多くみられることは、他の遺物と傾向性が異なり、注目すべきことである。

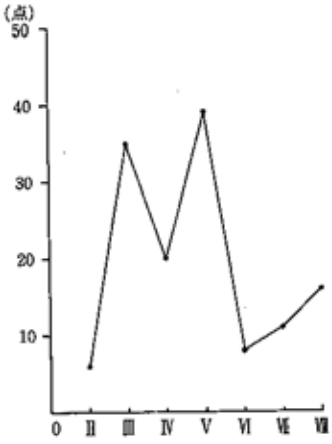
これらを分類ごとにみると、ＡⅠ類はⅦ～Ⅷに、ＡⅡ類はⅤ期にみられる。大半を占めるＢ1類はⅢ～Ⅷ期にかけて広くみられ、Ⅶに盛行する。ＢⅡ～Ⅳ類もⅦ～Ⅷ期に集中する傾向があり、ＣⅠ・Ⅱ類もⅦ期にみられる。全体には、A類→B類→C類の大きな変遷が考えられる。ただし、AI類はⅦ・Ⅷ期の新しい時期まで残るものと言える。

円盤状土製品（第21～25図、図版7・8）

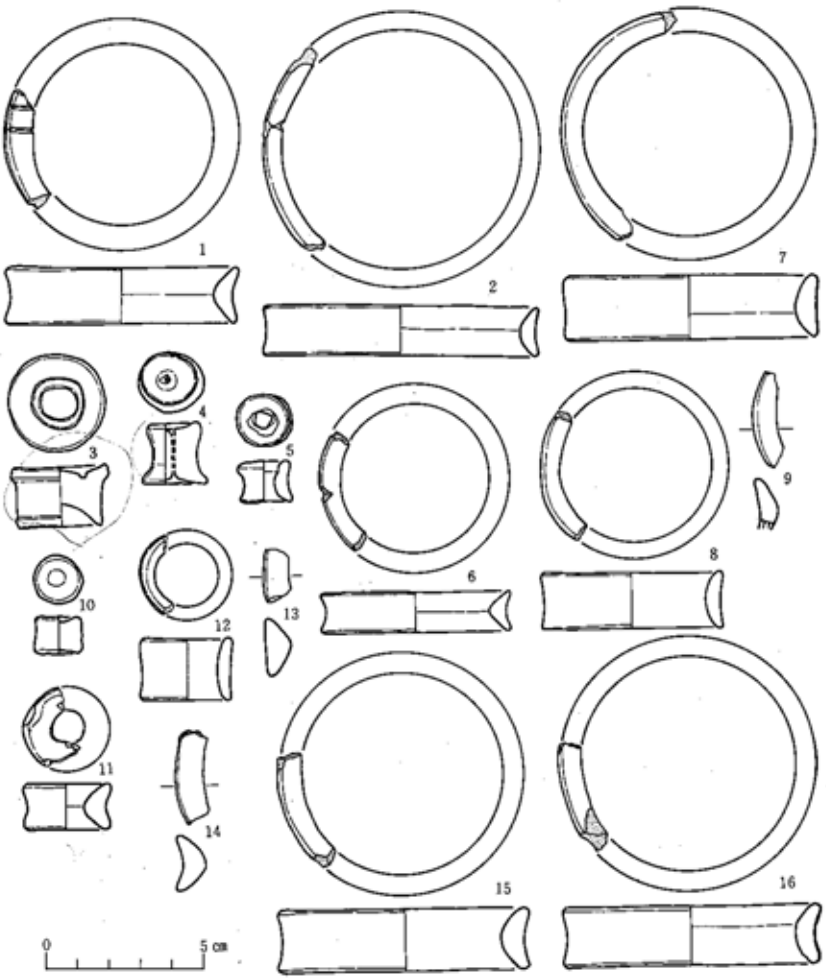
円盤状土製品は計262点出土している。その出土状況は南斜面の貝層(第21・22・23図1～35)のもの144点、南斜面貝層の東側遺物包含層(第23図36～51)のもの16点、溝・その他の地区・表土および地区層位不明（第24・25図）のもの92点で、一定の単位でまとまって出土するという状況はなく、土器等と共に廃棄された状態で発見されている。これらの中で、時期が判明するものは南斜面の貝層とその東側の遺物包含層である。土器との共伴関係から前者は第Ⅱ～Ⅷ期、後者は第Ⅲ期と推定される。それ以外のものは時期が特定できないもので第Ⅰ～Ⅸ期のいずれかの時期に含まれると思われる。

次に、本遺跡出土の円盤状土製品の特徴をまとめてみたい。

円盤状土製品の形態は土器片の周縁を打ち欠いて円形・楕円形にしている。この中には周縁を打ち欠いた後に研磨しているものもある（矢印でその範囲を示した）。大きさは1.6～7.0cmのものまであるが各時期とも3.0～4.0cm前後のものが多い。重さは1.2～66.7gまであり、5～15gのものが多い。しかし、いずれにも集中することはない。素材となる土器片は大部分が胴部破片であるが、口縁部(第21図53、第23図36、第25図10・14)・底部(第22図43、第23図5・23・24・47、第25図26)破片も少量ある。これらの円盤状土製品には文様をもつもの、地文のもの、無文のものがある。この中には第22図38のように中央に穿孔したものや第22図36のよう第12図円盤状土製品時期別に穿孔しかけたものがある。これは円盤状土製品としてはごく稀なものである。

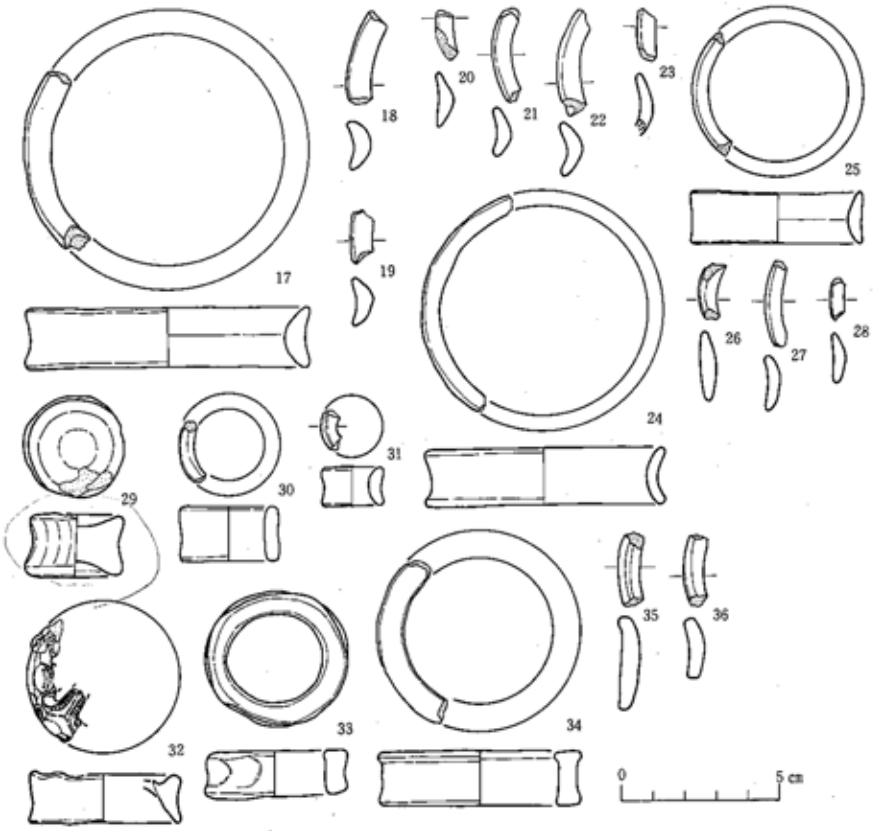


第12図　円盤状土製品時期別出土数量図



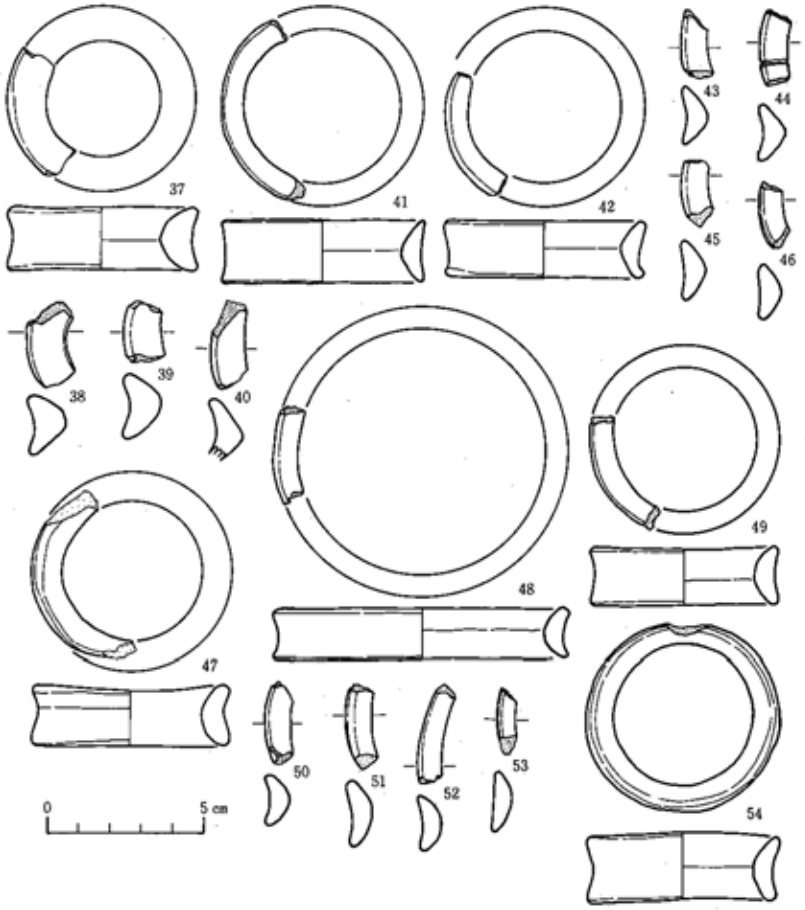
番号	地区・層位	時期	分類	径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考	登録番号	図版
1	CL41−19	Ⅲ	BⅠ	71.0	18.0	8.1		6173	
2	CM41−18, CL41−19	Ⅲ＋Ⅶ	BⅠ	86.0	16.0	5.1		6180・6201	6−1
3	CL39−31	Ⅴ	AⅡ	27.0	19.0	——	重さ17.7g・円文	4991	5−5
4	CL41−15	Ⅴ	AⅡ	14.0	19.0	——	重さ 6.4g・貫通なし	3989	5−4
5	CM41−35	Ⅴ	BⅠ	14.0	12.0	5.0		569	5−17
6	CM40−8	Ⅲ＋Ⅴ	BⅠ	58.0	13.0	6.8		6492	
7	CM41−25・CM41−16 CL41−11・CM42−7	Ⅴ＋Ⅶ	BⅠ	79.0	20.0	7.0		6181・6186 6228・6230	6−2
8	CM40−8	Ⅵ＋Ⅴ	BⅠ	56.0	18.0	5.4		6387	
9	CL41−16	Ⅴ	BⅠ	——	17.0	6.8		6528	
10	CM40−8	Ⅵ＋Ⅴ	BⅠ	15.0	13.0	——		881	
11	CL39−29C	Ⅶ	BⅠ	25.0	15.0	8.5		657	
12	CL39−30	Ⅶ	BⅠ	28.0	20.0	5.5		6288	
13	CL39−29C	Ⅶ	BⅠ	——	19.0	8.3		6479	
14	CL39−29C	Ⅶ	BⅠ	——	18.0	8.8		614	
15	CM40−7	Ⅶ	BⅠ	77.0	20.0	7.5		931	
16	CL39−29C	Ⅶ	BⅠ	79.0	19.0	6.9		660	

第13図　土製耳飾り(1)



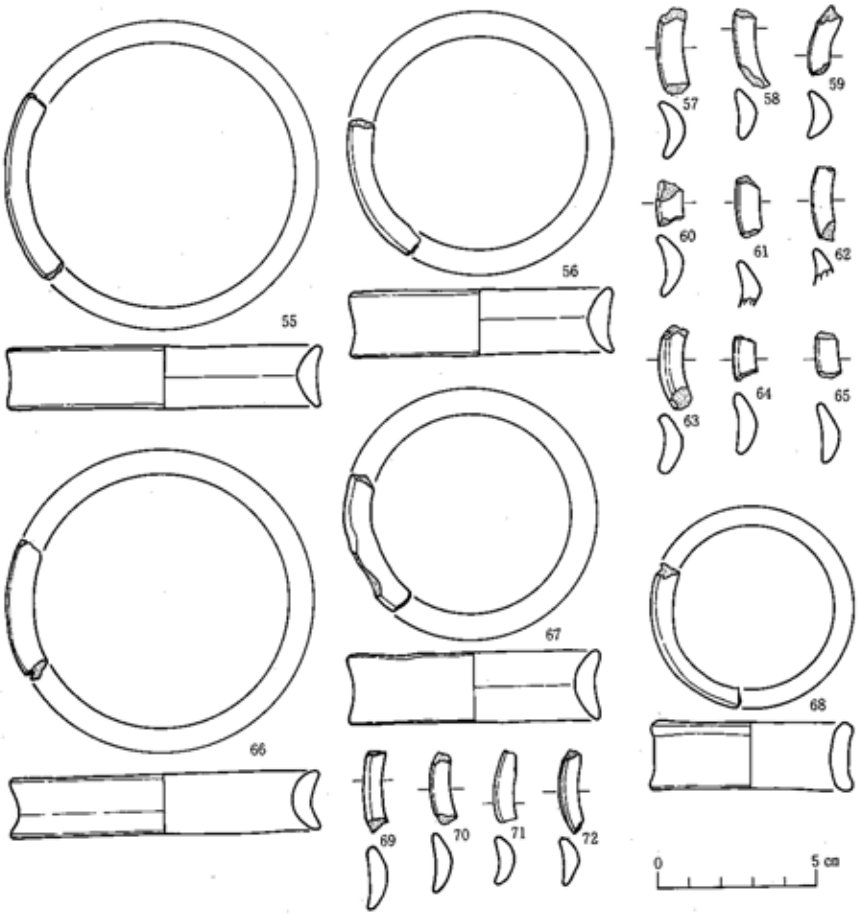
番号	地区・層位	時期	分類	径 (mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	備考	記録番号	図版
17	CL39-29e	弥	B I	87.0	20.0	8.2		874	6－3
18	CL40-19	弥	B I	—	16.0	7.35		6122	
19	CL39-29	弥	B I	—	15.0	6.95		6488	
20	CL39-29	弥	B I	—	18.0	5.8		6489	
21	CL39-29C	弥	B I	—	15.0	5.9		6481	
22	CL39-29C	弥	B I	—	18.0	7.5		6482	
23	CL39-29	弥	B I	—	20.0	5.2		6487	
24	CL38-15, CL39-29C	弥	B I	72.0	20.0	6.0		6254	
25	CL39-29C	弥	B I	54.0	17.0	4.9		658・659	
26	CL40-19	弥	B I	—	22.0	5.5		6502	
27	CL39-29	弥	B I	—	19.0	5.2		6480	
28	CL39-29	弥	B I	—	16.0	5.0		6486	
29	CM41-18	古	A I b	33.0	20.0	—	重さ21.1g	3715	5－3
30	CL39-24	古	B I	31.0	17.0	5.15		6408	
31	CM41-20	古	B I	16.0	13.0	5.35		6203	5－18
32	CL40-16	古	C I	46.0	17.0	—	透彫文様	145	5－14
33	CL39-27	古	B I	43.0	16.0	—		970	
34	CL40-14・18	古	B IV b	62.0	18.0	—		1139・6494	5－12
35	CM39-15	古	B I	—	29.0	6.4		255	
36	CM40-5	古	B IV b	34.5	20.0	—		6499	5－13

第14図　土製耳飾り(2)



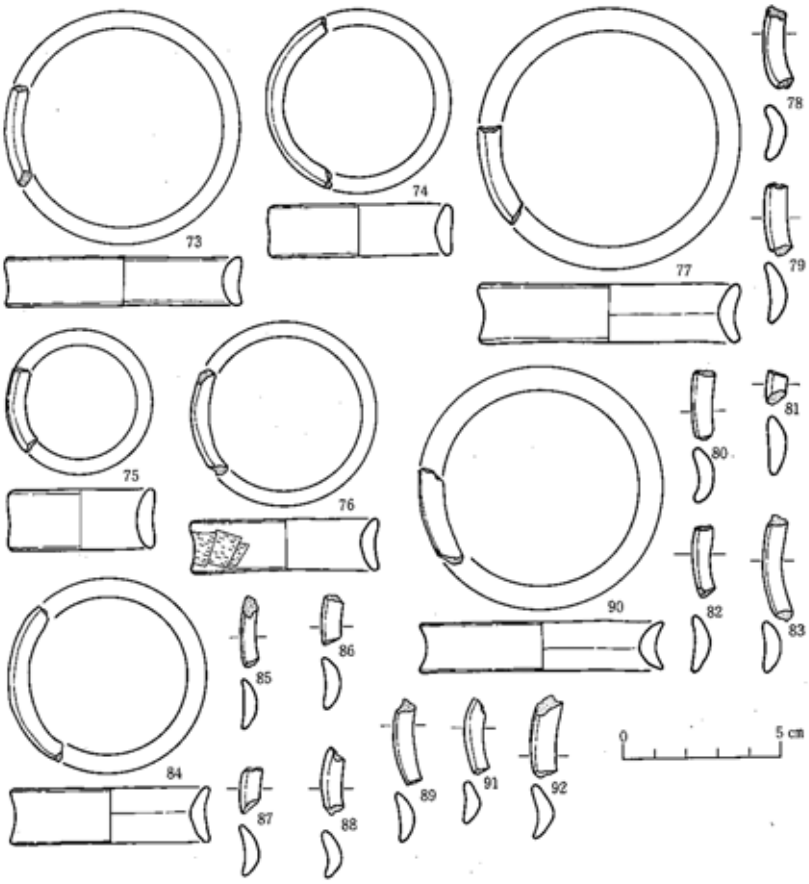
番号	地区・層位	時期	分類	径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	登録番号	図版
37	CL41－8	Ⅶ	BⅡ	57.0	21.0	11.85		6179	5－8
38	CM41－20	Ⅶ	BⅡ	—	19.0	11.7		900	
39	CM41－20	Ⅶ	BⅠ	—	21.0	12.1		6307	
40	CL41－11	Ⅶ	BⅠ	—	21.0	10.1		503	
41	CL41－10・11	Ⅶ	BⅠ	62.0	20.0	6.9		474・594・3798	6－4
42	CL40－18	Ⅶ	BⅠ	61.0	18.0	7.4		711	
43	CM41－20	Ⅶ	BⅠ	—	20.0	8.2		6206	
44	CM41－18	Ⅶ	BⅠ	—	19.0	8.55		366	
45	CM41－19	Ⅶ	BⅠ	—	20.0	8.3		6175	
46	CL39－26	Ⅶ	BⅠ	—	18.0	7.6		6110	
47	CL39－27	Ⅶ	BⅠ	59.0	20.0	9.75		6112	6－5
48	CL41－10	Ⅶ	BⅠ	91.0	16.0	8.0		507	
49	CL39－27	Ⅶ	BⅠ	58.0	19.0	8.2		499	
50	CL40－16	Ⅶ	BⅠ	—	17.0	7.7		144	
51	CL41－10	Ⅶ	BⅠ	—	21.0	7.95		6214	
52	CM41－19	Ⅶ	BⅠ	—	18.0	6.7		6177	
53	CL39－24	Ⅶ	BⅠ	—	19.0	6.3		6416	
54	CM41－19	Ⅶ	BⅠ	57.0	22.0	—		629	6－6

第15図　土製耳飾り(3)



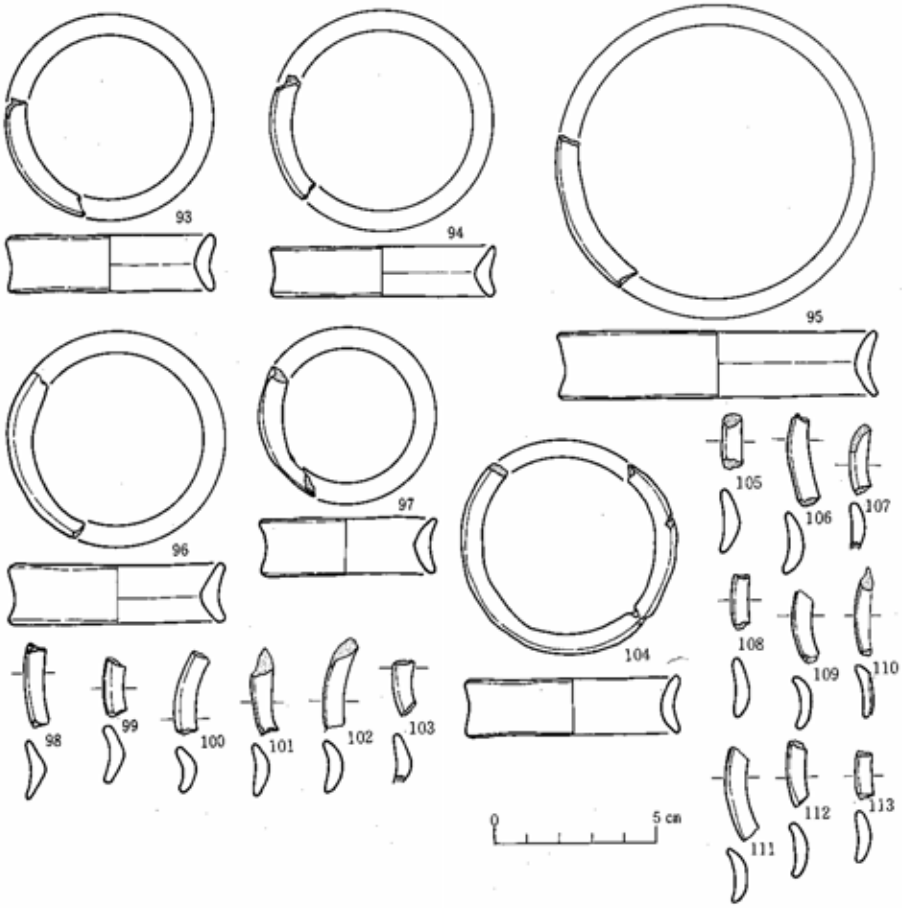
番号	地区・層位	時期	分類	径 (mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	備考	登録番号	図版
55	CM41−19・20	Ⅶ	B Ⅰ	97.0	20.0	7.3		815・833	6−7
56	CL41−11	Ⅶ	B Ⅰ	81.0	20.0	7.7		506	
57	CM40−6	Ⅶ	B Ⅰ	—	18.0	8.3		6053	
58	CL41−8	Ⅶ	B Ⅰ	—	16.0	6.3		6185	
59	CM41−20	Ⅶ	B Ⅰ	—	15.0	7.2		921	
60	CM39−30	Ⅶ	B Ⅰ	—	20.0	8.0		6484	
61	CL39−29C	Ⅶ	B Ⅰ	—	16.0	7.2		1467	
62	CL40−16	Ⅶ	B Ⅰ	—	13.0	6.0		6501	
63	CM41−20	Ⅶ	B Ⅰ	—	20.0	7.4		6210	
64	CL40−16	Ⅶ	B Ⅰ	—	20.0	7.25		6496	
65	CL41−10	Ⅶ	B Ⅰ	—	19.0	7.0		6217	
66	CL40−18	Ⅶ	B Ⅰ	92.0	19.0	8.65		6286	
67	CM41−19	Ⅶ	B Ⅰ	76.0	23.0	8.3		483	
68	CM41−20	Ⅶ	B Ⅰ	61.0	23.0	6.9		838	6−8
69	CL39−27	Ⅶ	B Ⅰ	—	21.0	6.1		972	
70	CL41−9	Ⅶ	B Ⅰ	—	20.0	6.15		6303	
71	CM41−14	Ⅶ	B Ⅰ	—	15.0	6.2		6369	
72	CL39−29	Ⅶ	B Ⅰ	—	15.0	5.6		661	

第16図　土製耳飾り(4)



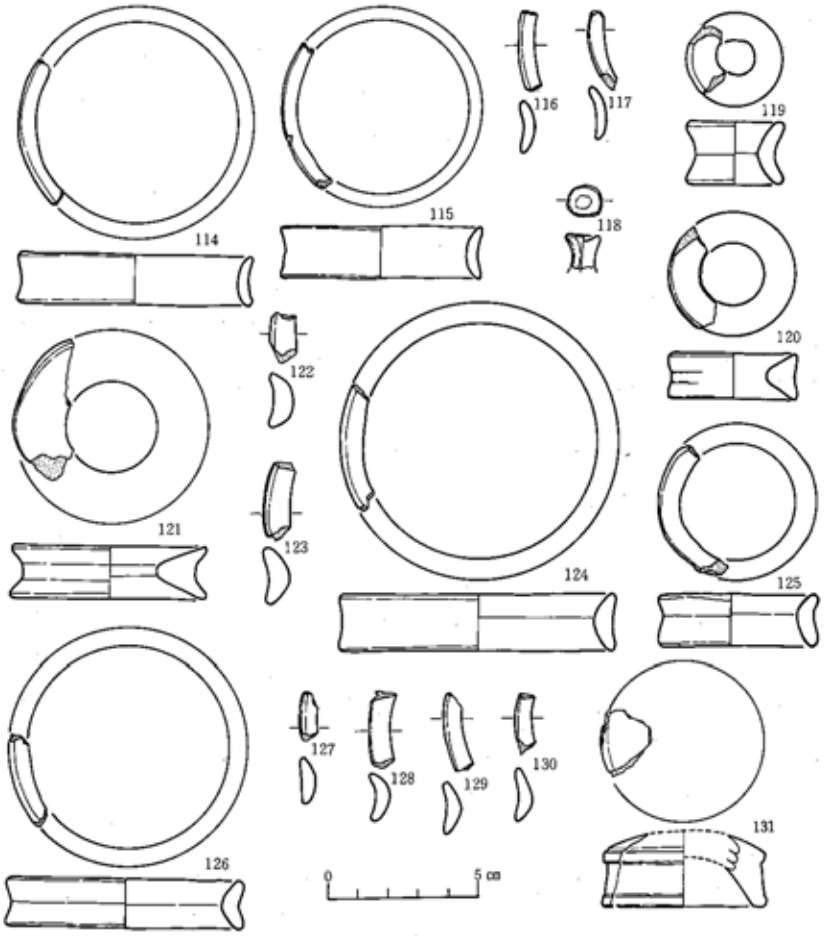
番号	地区・層位	時期	分類	径 (cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	備考	遺物番号	図版
73	CL40−18	Ⅷ	B I	73.0	16.0	6.1		1604	
74	CL41−10, CM40−4 d	Ⅷ+Ⅶ	B I	57.0	16.0	5.4		732	
75	CL41−10	Ⅶ	B I	45.0	19.0	5.0		6216	
76	CL39−25	Ⅶ	B I	57.0	17.0	5.5		331	
77	CL41−11	Ⅶ	B I	79.0	18.0	6.9		397	
78	CL41−11	Ⅷ	B I	—	18.0	6.65		505	
79	CM41−15~18	Ⅷ+Ⅶ	B I	—	20.0	6.9		6168	
80	CM39−25	Ⅷ	B I	—	17.0	6.6		6079	
81	CL41−9	Ⅷ	B I	—	19.0	6.2		6304	
82	CL39−26	Ⅶ	B I	—	18.0	5.8		1732	
83	CL40−6	Ⅶ	B I	—	16.0	6.4		6123	
84	CL40−17・18	Ⅶ	B I	60.0	18.0	6.4		3217・5668	6−9
85	CL40−16	Ⅶ	B I	—	16.0	5.0		4424	
86	CL40−16	Ⅶ	B I	—	16.0	6.15		6491	
87	CL41−9	Ⅶ	B I	—	16.0	6.5		6361	
88	CL40−16	Ⅶ	B I	—	15.0	6.0		6121	
89	CL40−18	Ⅶ	B I	—	16.0	5.9		6496	
90	CM39−25	Ⅶ	B I	73.0	15.0	7.0		206	
91	CM41−20	Ⅶ	B I	—	14.0	5.65		6209	
92	CM41−20	Ⅶ	B I	—	18.0	—		6208	

第17図　土製耳飾り(5)



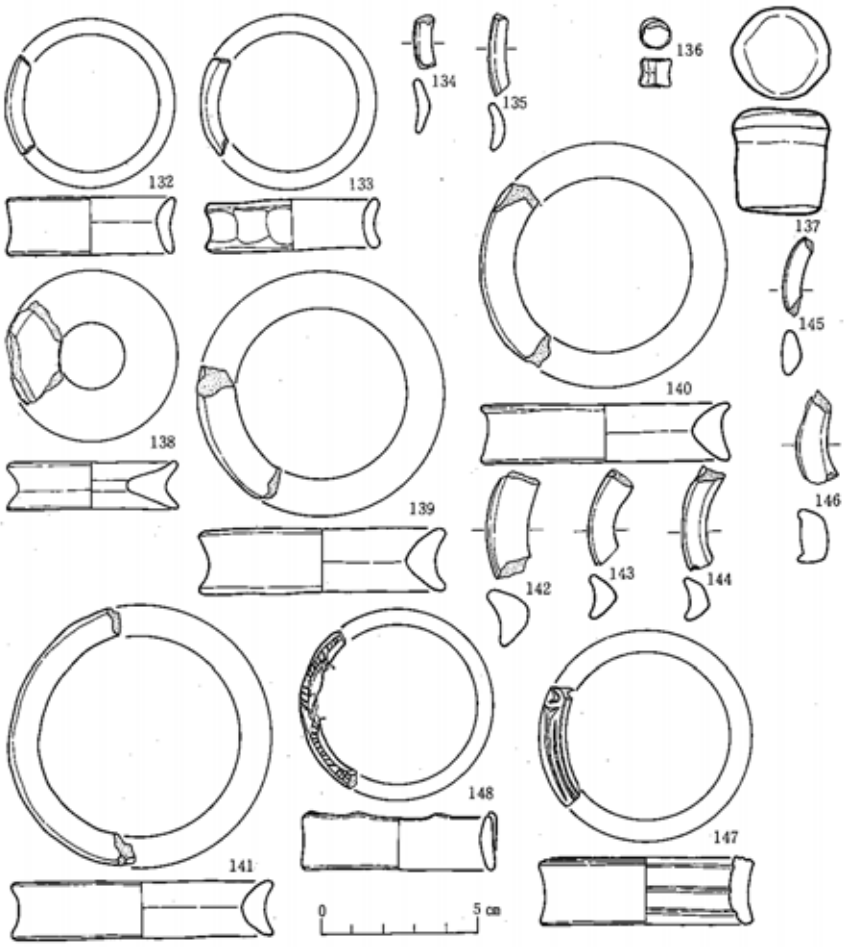
番号	地区・層位	時期	分類	径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	登録番号	図版
93	CL40−16	Ⅷ	B Ⅰ	61.0	18.0	6.35		143	
94	CL41−10	Ⅷ	B Ⅰ	67.0	16.0	6.7		529・6053	
95	CL39−27	Ⅷ	B Ⅰ	93.0	21.0	6.4		971	
96	CL41−10, CM41−18	Ⅷ	B Ⅰ	63.0	19.0	6.9		6182・6215	
97	CL41−10	Ⅷ	B Ⅰ	51.0	18.0	6.5		473	
98	CM41−20	Ⅷ	B Ⅰ	—	18.0	6.1		832	
99	CL41−10	Ⅷ	B Ⅰ	—	18.0	6.2		6212	
100	CL41−13	Ⅷ	B Ⅰ	—	14.0	5.0		6200	
101	CM41−19	Ⅷ	B Ⅰ	—	16.0	5.7		6174	
102	CM41−8	Ⅷ	B Ⅰ	—	17.0	6.3		6184	
103	CL39−26	Ⅷ	B Ⅰ	—	16.0	6.1		6406	
104	CL40−16, CL40−17・18	Ⅷ	B Ⅰ	63.0	18.0	6.0		841・3217 3468	
105	CL41−10	Ⅷ	B Ⅰ	—	20.0	6.2		508	
106	CL40−16	Ⅷ	B Ⅰ	—	19.0	6.7		6120	
107	CM40−5	Ⅷ	B Ⅰ	—	15.0	5.25		6500	
108	CM40−5	Ⅷ	B Ⅰ	—	19.0	5.2		6497	
109	CM41−19	Ⅷ	B Ⅰ	—	17.0	5.8		6176	
110	CM39−28	Ⅷ	B Ⅰ	—	16.0	4.5		6076	
111	CL40−17	Ⅷ	B Ⅰ	—	17.0	6.2		6149	
112	CM41−18	Ⅷ	B Ⅰ	—	17.0	5.6		6183	
113	CM40−6	Ⅷ	B Ⅰ	—	16.0	5.3		6493	

第18図　土製耳飾り(6)



番号	地区・層位	時期	分類	径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	登録番号	図版
114	CL40−16, CL40−6	Ⅶ+Ⅷ	B I	75.0	16.0	5.4		6151・6125	
115	CL40−18	Ⅶ	B I	64.0	18.0	5.4		3233・6495	
116	CL39−27	Ⅷ	B I	—	18.0	5.5		6289	
117	CL40−16	Ⅶ	B I	—	17.0	4.7		6150	
118	CM43−8	Ⅷ	A I a	—	(11.4)	—	重さ1.2g	1289	
119	CM43−11	Ⅷ	B I	26.0	21.0	9.15		6527	5−18
120	CM43−7	Ⅷ	B II	41.0	14.0	10.5		6188	5−11
121	CL40−5	Ⅶ	B II	57.0	17.0	17.1		6504	5−9
122	CL41−4	Ⅶ	B I	—	18.0	8.5		6178	
123	CM41−7	Ⅷ	B I	—	19.0	8.15		6189	
124	CM40−4 d	Ⅷ	B I	90.0	19.0	7.1		6048	
125	CM39−19 (CK39−2)	Ⅷ	B I	49.0	18.0	6.5		455・5558	
126	CM41−14	Ⅷ	B I	76.0	16.0	6.9		699	
127	CL40−6	Ⅷ	B I	—	16.0	5.5		6125	
128	CM40−4 d	Ⅷ	B I	—	16.0	6.85		6049	
129	CM40−4 d	Ⅶ	B I	—	18.0	6.3		6050	
130	CM41−9	Ⅶ	B I	—	18.0	5.95		6302	
131	CM41−13	Ⅷ	C II	54.0	24.0			6311	5−16

第19図　土製耳飾り(7)



番号	地区・層位	時期	分類	径 (cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	備考	登録番号	図版
132	C L40－13b	縄	B I	53.0	18.0	5.85		6127	
133	C L40－5 b	縄	B I	52.0	17.0	5.0		607	
134	C L40－6 b	縄	B I	——	18.0	5.5		6124	
135	C L40－10b	縄	B I	——	16.0	4.9		6213	
136	？－13	不明	A I a	8.0	9.0	——	重さ0.7g	5657	5－1
137	C L43－2溝	不明	A II	31.0	34.0	——	重さ38.4g	1657	
138	C L40－1	不明	B II	47.0	15.0	21.5		6503	
139	C L38－P525	不明	B II	72.0	21.0	13.2		704	5－7
140	C K38－2・9	不明	B II	75.0	19.0	12.5		476・844	5－10
141	C L38－28・35	不明	B II	79.0	18.0	10.5		517・562	6－10
142	C L38－23	不明	B II	——	19.0	11.2		6244	
143	C M39－2	不明	B II	——	14.0	9.2		6078	
144	C L38－14	不明	B II	——	14.0	8.0		335	
145	C K38－6	不明	B III	——	15.0	6.5		519	
146	C K37－2	不明	B IV	——	18.0	10.0		6303	
147	C L38－13	不明	B IV a	64.0	22.0	7.8	三叉文、内面・三本沈線文	611	
148	C L38－2・21	不明	C I	63.0	19.0	4.8	透彫文様	6302・6407	5－15

第20図　土製耳飾り(8)

本遺跡から出土した円盤状土製品の出土量について述べてみたい。既に述べているように時期の推定できるものは南斜面の貝層とその東側包含層である。これらの遺構から出土した円盤状土製品は縄文時代後期前葉の第Ⅱ期6点、後期中葉の第Ⅲ期35点・第Ⅳ期20点、後期後葉の第Ⅴ期39点・第Ⅵ期8点・第Ⅶ期11点、晩期初期の第Ⅷ期16点である。このように、円盤状土製品は各時期とも製作されているが縄文時代後期後葉の第Ⅴ期を境にして、それ以降減少する。

時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	計	不明	総計
個数	(4.4)	(25.9)	(14.8)	(28.9)	(5.9)	(18.2)	(11.9)	(100.0)	127	262

第５表　円盤状土製品時期別出土数量表

土玉（第26図1～8）

Ａ：円形で偏平な小形の土製品である(1)。側面にごく小さな貫通孔がある。用途不明。

Ｂ：球形の土製品である。大きさで次のように分類した。

Ⅰ：径が6.7～8.2cmあり、一本の貫通孔があるもの(2～4)。

Ⅱ：径が18.0cmあり、三方向からの三個の孔があるが、いずれも盲孔となるもの（5）。

Ⅲ：径が33.1～33.7cmあり、一本の貫通孔があるもの（6～8）。

Ⅰは紐を通して装身具としたと思われる。Ⅱは用途不明である。Ⅲは重量があり錘としての用途も考えられる。なお、Ⅲの6の表面には縄文（Rℓ）が見られるが、他のものはすべて無文である。

有溝土錘（第26図9・10）

長楕円形を呈する、横断面形の丸い土製品で溝が巡るものが2点ある。

Ⅰ：溝が短軸を一周し、それを切って長軸にさらに半周巡もの（9）。
　長軸に孔を有する。

Ⅱ：溝が短軸・長軸に各一周するもの(10)
　短軸方向のものが切られている。孔はない。

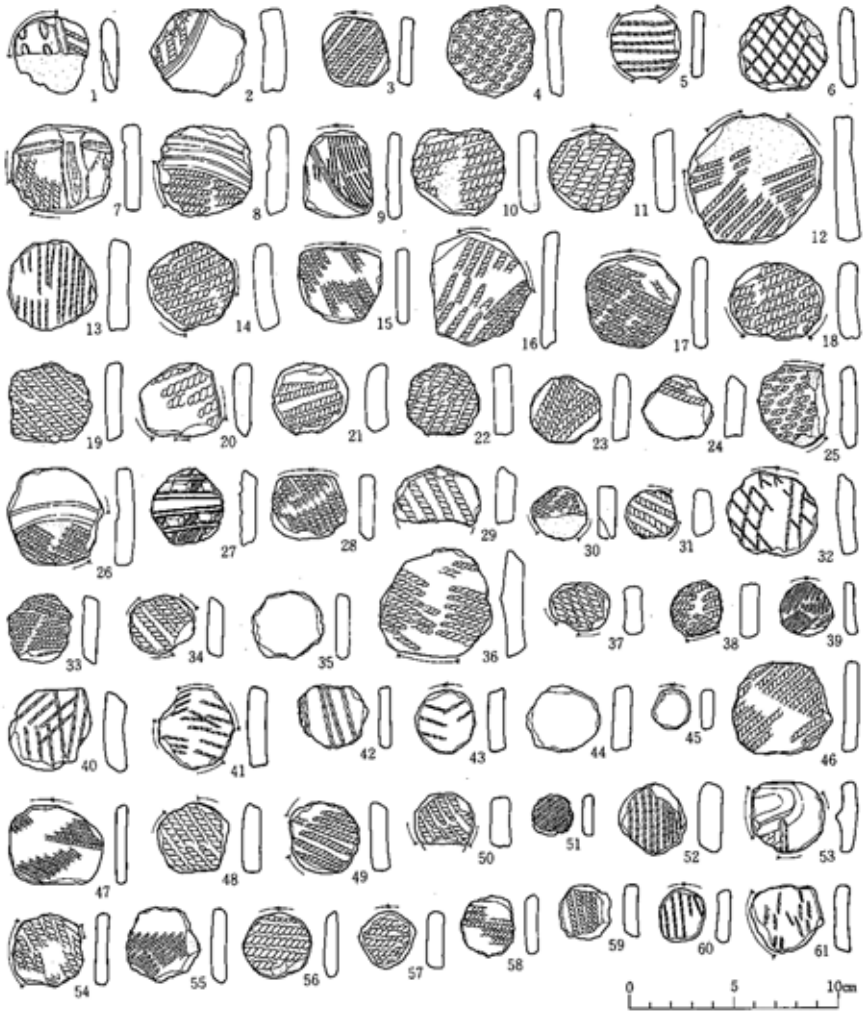
これらは、渡辺誠（1973）の分類によると、Ⅰ類は溝が長軸に一周巡る第2類Ｊ種に近いもので、Ⅱ類は第1類Ｃ種と同類のものである。

棒状土製品（第26図11）

断面が円形で、両端にいくにつれ径が小さくなる。端部は一方がやや窪み、他方がやや脹らむ。孔などはない。用途不明である。

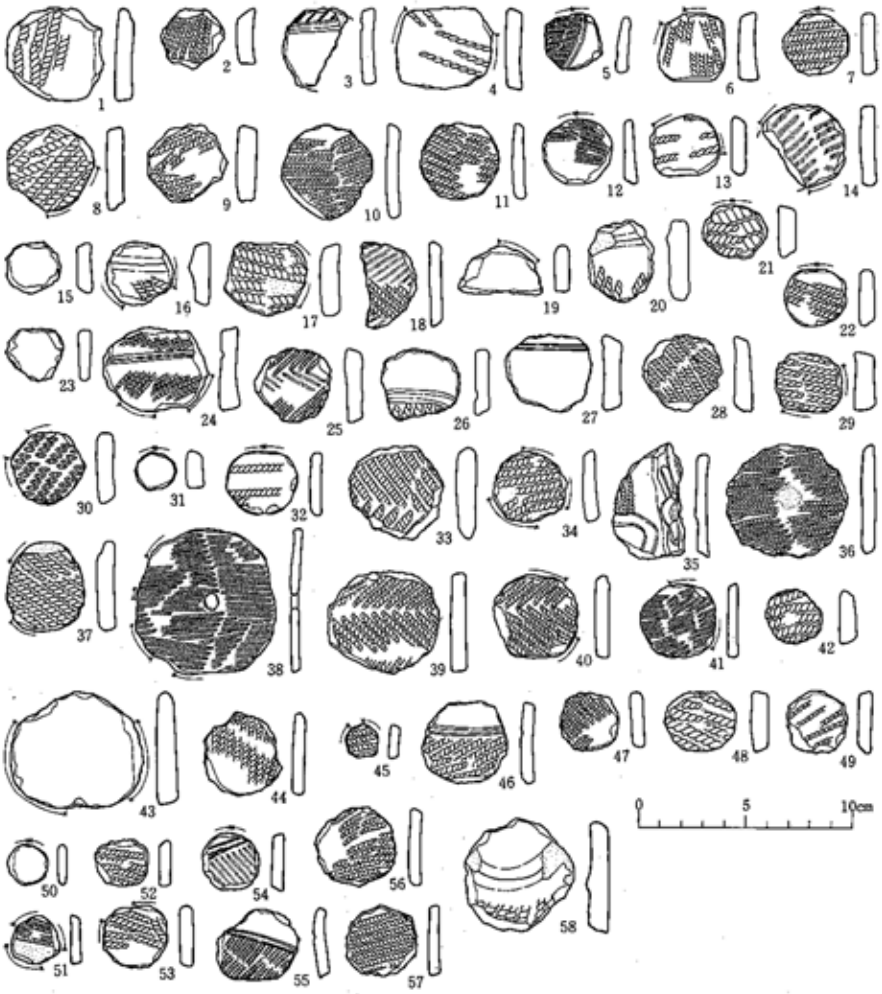
スタンプ形土製品（第26図12～15）

柄のあるスタンプに似た土製品で、通常、スタンプ形土製品と呼ばれているが、用途は不明である。印面にあたる部分（以下、平坦部とよぶ）が平坦で文様がある。平坦部の平面形で分



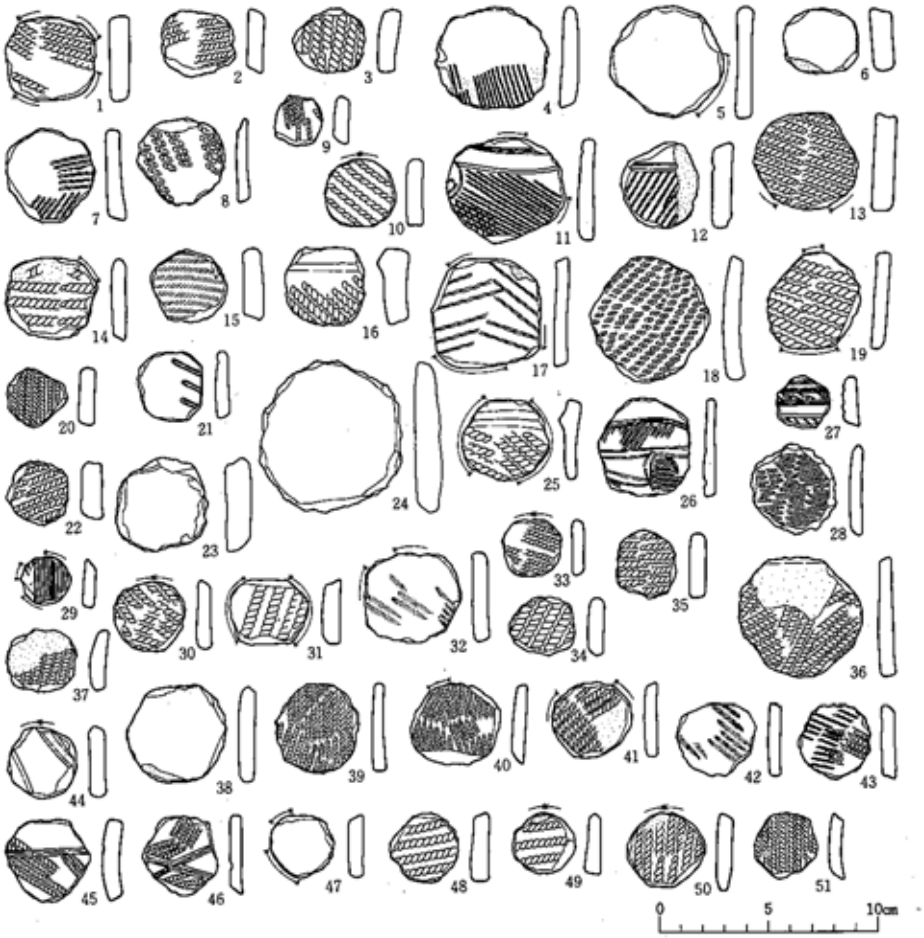
番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版
1	CM41−29	II	6558	7−1	17	CL41−19	III	1620	7−17	33	CL41−18	IV	6548	7−33	49	CM41−26	V	6509	7−49
2	CL39−38	II	6452	7−2	18	CL41−19	III	5765	7−18	34	CL41−18	IV	6556	7−34	50	CL40−25	V	6514	7−50
3	CL39−38	II	6297	7−3	19	CL41−19	III	6536	7−19	35	CL39−36	IV	5250	7−35	51	CM41−26	V	6510	7−51
4	CL41−20	II	1618	7−4	20	CL41−19	III	6543	7−20	36	CM41−27	IV	6260	7−36	52	CL39−33	V	6106	7−52
5	CL39−38	II	6296	7−5	21	CL41−19	III	1622	7−21	37	CL39−35	IV	6456	7−37	53	CL40−24	V	6513	7−53
6	CL39−38	II	6449	7−6	22	CL41−19	III	1621	7−22	38	CL41−17	IV	4251	7−38	54	CM41−25	V	6096	7−54
7	CM41−28	II	6296	7−7	23	CL41−19	III	1624	7−23	39	CL41−17	IV	6541	7−39	55	CM41−25	V	6097	7−55
8	CL39−37	II	6445	7−8	24	CL41−19	III	1623	7−24	40	CL41−17	IV	6545	7−40	56	CM41−25	V	6101	7−56
9	CM41−28	II	6277	7−9	25	CL41−19	III	6564	7−25	41	CL41−17	IV	4250	7−41	57	CM41−25	V	6099	7−57
10	CL39−37	III	6446	7−10	26	CM39−35	IV	1792	7−26	42	CL41−17	IV	6553	7−42	58	CM41−25	V	6098	7−58
11	CL39−37	III	5757	7−11	27	CM39−35	IV	212	7−27	43	CL41−17	IV	4249	7−43	59	CM41−25	V	6100	7−59
12	CL39−37	III	858	7−12	28	CL39−36	IV	6447	7−28	44	CL41−17	IV	6559	7−44	60	CM41−25	V	6218	7−60
13	CL39−37	III	6293	7−13	29	CL39−36	IV	6457	7−29	45	CL41−17	IV	6163	7−45	61	CM41−25	V	6220	7−61
14	CM41−28	III	1602	7−14	30	CL39−36	IV	6442	7−30	46	CL41−16	V	6221	7−46					
15	CM41−28	III	6275	7−15	31	CL39−36	IV	5251	7−31	47	CM41−26	V	6542	7−47					
16	CL40−27	III	1327	7−16	32	CL39−36	IV	6443	7−32	48	CM41−26	V	6537	7−48					

第21図　円盤状土製品(1)



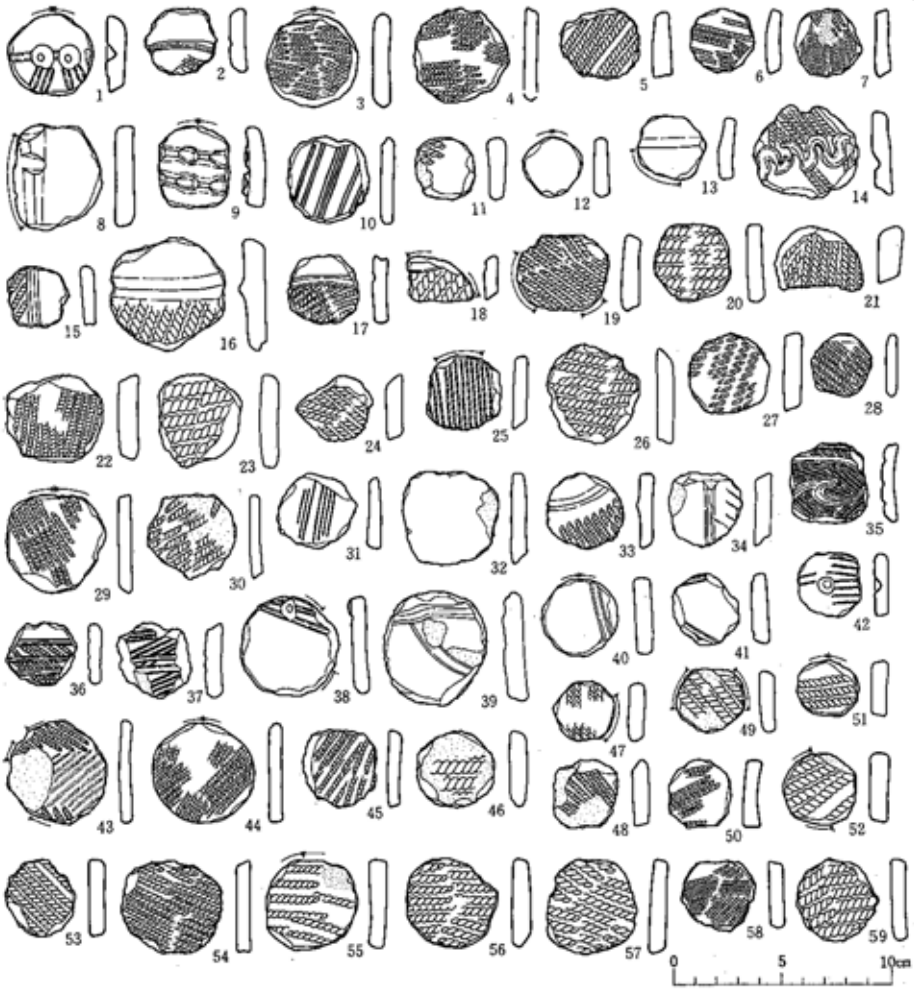
番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版
1	CM41−25	V	6364	7−62	16	CL39−31	V	6453	7−77	31	CM41−21・22	VI	6199	7−92	46	CM40−4d	VIII	6042	7−107
2	CM41−25	V	6329	7−63	17	CL39−31	V	6444	7−78	32	CL40−18	VI	6138	7−93	47	CM40−4d	VIII	6047	7−108
3	CM41−24	V	4463	7−64	18	CL39−31	V	6460	7−79	33	CM41−20	VII	6205	7−94	48	CM40−4d	VIII	6046	7−109
4	CM41−24	V	6265	7−65	19	CL39−31	V	6459	7−80	34	CM41−20	VII	3724	7−95	49	CM40−4d	VIII	5780	7−110
5	CL40−24	V	6515	7−66	20	CM40−8	V	2298	7−81	35	CM41−19	VIII	6546	7−96	50	CM40−4d	VIII	5781	7−111
6	CL40−24	V	2848	7−67	21	CM40−8	V	2299	7−82	36	CM41−19	VII	6172	7−97	51	CM39−17	VIII	6073	7−112
7	CL40−24	V	2847	7−68	22	CM40−8	V	2297	7−83	37	CL41−10	VII	6211	7−98	52	CM39−19	VIII	6071	7−113
8	CL41−15	V	3984	7−69	23	CM40−8	V	2300	7−84	38	CL39−25	VII	1625	7−99	53	CM41−10	VIII	6094	7−114
9	CL41−15	V	3985	7−70	24	CL41−14	VI	6196	7−85	39	CL39−25	VII	330	7−100	54	CL40−7	VIII	6043	7−115
10	CM41−23	V	6197	7−71	25	CL39−29d	VI	873	7−86	40	CL39−25	VII	339	7−101	55	CL39−13	VIII	6450	7−116
11	CM41−23	V	561	7−72	26	CL39−29a	VI	6652	7−87	41	CM40−6	VII	5772	7−102	56	CL40−5	VIII	6291	7−117
12	CL41−15	V	3988	7−73	27	CL39−29	VI	5779	7−88	42	CM41−18	VI	3714	7−103	57	CM39−9	VIII	5334	7−118
13	CL41−15	V	3986	7−74	28	CL40−20	VI	6517	7−89	43	CM39−22	VIII	6072	7−104	58	CM40−4b	VIII	6044	7−119
14	CL39−32	V	422	7−75	29	CM41−21	VI	6533	7−90	44	CL39−21	VIII	6389	7−105					
15	CL41−15	V	3987	7−76	30	CM41−22	VI	625	7−91	45	CL40−11	VIII	3183	7−106					

第22図　円盤状土製品(2)



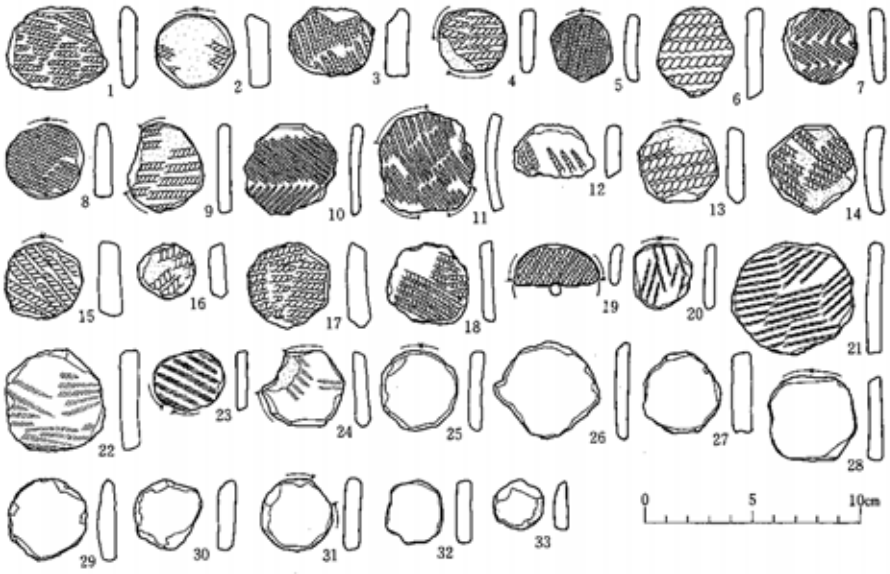
番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版
1	CK38－10	不明	6268	7－120	14	CK40－6	不明	6516	7－133	27	CL42－6	不明	6155	8－6	40	CL47－3	Ⅲ	6395	8－19
2	CK38－10	不明	6272	7－121	15	CK40－4	不明	5527	7－134	28	CL42－6	不明	1724	8－7	41	CL47－3	Ⅲ	984	8－20
3	CK38－10	不明	6305	7－122	16	CK41－4	不明	6535	7－135	29	CL42－6	不明	6294	8－8	42	CL47－3 a	Ⅲ	6396	8－21
4	CK38－10	不明	1347	7－123	17	CL38－31	不明	6262	8－1	30	CM42－9	不明	1774	8－9	43	CL48－3	Ⅲ	1095	8－22
5	CK38－10	不明	6258	7－124	18	CL38－30	不明	6269	8－2	31	CM42－9	不明	6532	8－10	44	CM47－3・4	Ⅲ	6344	8－23
6	CK38－10	不明	6273	7－125	19	CL38－28	不明	6270	7－140	32	CM42－9	不明	6295	8－11	45	CM47－3・4	Ⅲ	6342	8－24
7	CK38－9	不明	6307	7－126	20	CL38－25	不明	6306	7－136	33	CM42－8	不明	2605	8－12	46	CM47－3・4	Ⅲ	6434	8－25
8	CK39－8	不明	6271	7－127	21	CL38－25	不明	6276	7－137	34	CM42－7	不明	6563	8－13	47	CM47－3・4	Ⅲ	6343	8－26
9	CK39－8	不明	6417	7－128	22	CL42－10	不明	6298	7－138	35	CM42－6	不明	6562	8－14	48	CM47－3	Ⅲ	1652	8－27
10	CK39－5	不明	2157	7－129	23	CL42－10	不明	2159	7－139	36	CL47－3・4	Ⅲ	1755	8－15	49	CM48－3	Ⅲ	1298	8－28
11	CK40－6	不明	6259	7－130	24	CL42－10	不明	2160	8－3	37	CL47－3・4	Ⅲ	6398	8－16	50	CM48－3	Ⅲ	6340	8－29
12	CK40－6 b	不明	6267	7－131	25	CL42－8・9	不明	6299	8－4	38	CL47－3・4	Ⅲ	1297	8－17	51	CM49－3	Ⅲ	6424	8－30
13	CK40－6 b	不明	6261	7－132	26	CL42－6	不明	6159	8－5	39	CL47－3	Ⅲ	6397	8－18					

第23図　円盤状土製品(3)



番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版
1	2溝	不明	1317	8－31	16	CL43－3	不明	6379	8－46	31	CK52－3	不明	6283	8－61	46	AT52－2	不明	1067	8－76
2	2溝	不明	1840	8－32	17	CM44－3	不明	6385	8－47	32	CL44－4	不明	1295	8－62	47	CL44－1・2	不明	1794	8－77
3	2溝	不明	6551	8－33	18	CL35－29a	不明	6461	8－48	33	CL41－2	不明	6547	8－63	48	AT51－2	不明	1061	8－78
4	2溝	不明	1371	8－34	19	BC48－4	不明	6557	8－49	34	AT51－2	不明	1060	8－64	49	AT51－2	不明	1064	8－79
5	2溝	不明	6454	8－35	20	BC48－4	不明	1403	8－50	35	CQ43－2	不明	993	8－65	50	CL45－2	不明	6384	8－80
6	2溝	不明	1663	8－36	21	CL21－17	不明	6534	8－51	36	AT51－2	不明	1063	8－66	51	BB53－2	不明	1043	8－81
7	2溝	不明	6555	8－37	22	CM46－4	不明	1873	8－52	37	CK45－2	不明	1045	8－67	52	BD50－2	不明	6531	8－82
8	CD41溝	不明	6550	8－38	23	CL37－31	不明	6451	8－53	38	不明	不明	1564	8－68	53	BD52－2	不明	6565	8－83
9	CD41溝	不明	6560	8－39	24	CL37－13	不明	6455	8－54	39	BC50－1	不明	1031	8－69	54	BC63－1	不明	1318	8－84
10	4溝	不明	1810	8－40	25	CL44－4	不明	1296	8－55	40	CK42－2	不明	1054	8－70	55	BC48－2	不明	1293	8－85
11	BC47溝	不明	1334	8－41	26	AT53－3	不明	1603	8－56	41	不明	不明	6544	8－71	56	BC48－2	不明	6552	8－86
12	BB47溝	不明	5809	8－42	27	AT53－3	不明	1604	8－57	42	CK39－2	不明	6288	8－72	57	BC48－2	不明	6554	8－87
13	CP47－3	不明	6370	8－43	28	DF31－3	不明	1648	8－58	43	CQ33－2	不明	994	8－73	58	CP44－1	不明	1600	8－88
14	CL45－3	不明	6371	8－44	29	CL46－4	不明	6394	8－59	44	CQ33－2	不明	993	8－74	59	不明	不明	1776	8－89
15	CL44－3	不明	1044	8－45	30	CQ48－3	不明	982	8－60	45	BB53－2	不明	6549	8－75					

第24図　円盤状土製品(4)



番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版	番号	地区・層位	時期	登録番号	図版
1	CL42－1	不明	6561	8－90	10	CM41－2	不明	264	8－99	19	CR35－1	不明	40	8－108	28	BH60－1	不明	1007	8－117
2	CL42－2	不明	184	8－91	11	不明	不明	6175	8－100	20	CM39－2	不明	6075	8－109	29	BC47－2	不明	1022	8－118
3	CK41－1	不明	6539	8－92	12	CM39－2	不明	6457	8－101	21	CP・CQ44	不明	1601	8－110	30	AT51－2	不明	1062	8－119
4	CK41－2	不明	6538	8－93	13	CM39－2	不明	1756	8－102	22	BC47－2	不明	1023	8－111	31	CL42－1	不明	1337	8－120
5	CK39－2	不明	6274	8－94	14	CO41－1	不明	6448	8－103	23	不明	不明	6278	8－112	32	BC48－2	不明	1294	8－121
6	CK・CL39-1	不明	6263	8－95	15	CN45－1	不明	2358	8－104	24	BF57－1	不明	1000	8－113	33	BA53－2	不明	1364	8－122
7	CK38－2	不明	471	8－96	16	CJ40－2	不明	1037	8－105	25	CR34・35	不明	979	8－114					
8	CM38－2	不明	617	8－97	17	CJ39－1～2	不明	1689	8－106	26	BO46－2	不明	1029	8－115					
9	CM40－2	不明	6512	8－98	18	DE31－2	不明	1346	8－107	27	BD52－2	不明	995	8－116					

第25図　円盤状土製品(5)

類すると次のようになる。

Ⅰ　円形のもの。摘み部の横断面も円形である。（12）

Ⅱ　菱形のもの。摘み部の横断面はやや楕円形である。（13）

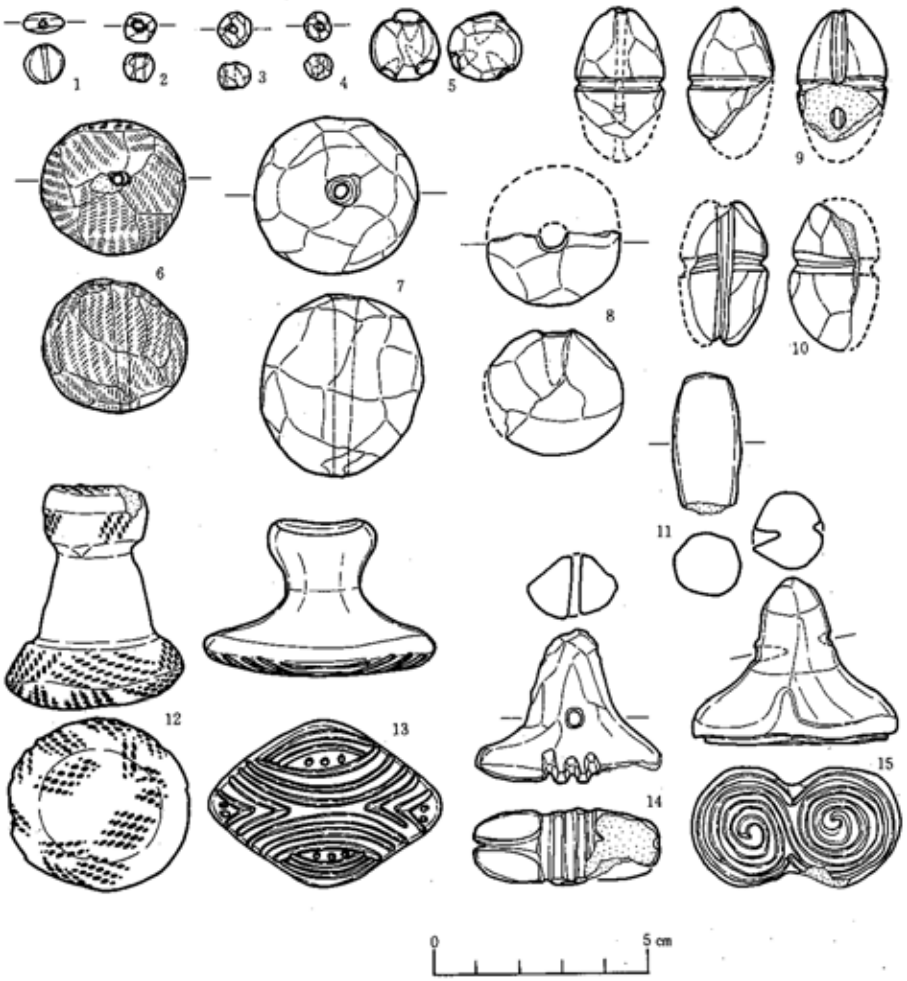
Ⅲ　長楕円形のもの。摘み部の横断面はやや楕円形である。（14）

Ⅳ　括れのある長楕円形のもの。摘み部の横断面はやや楕円形である。（15）

平坦部の文様をみると、Ⅰが縄文があるのみではあるが、Ⅱは弧線と列点からなる左右対象的なもの、Ⅲは直線からなる左右対象的なもの、ⅣはＳ字状の渦巻文である。いずれの文様も幾何学的で端正である。摘み部には孔があるものとないものとがある。

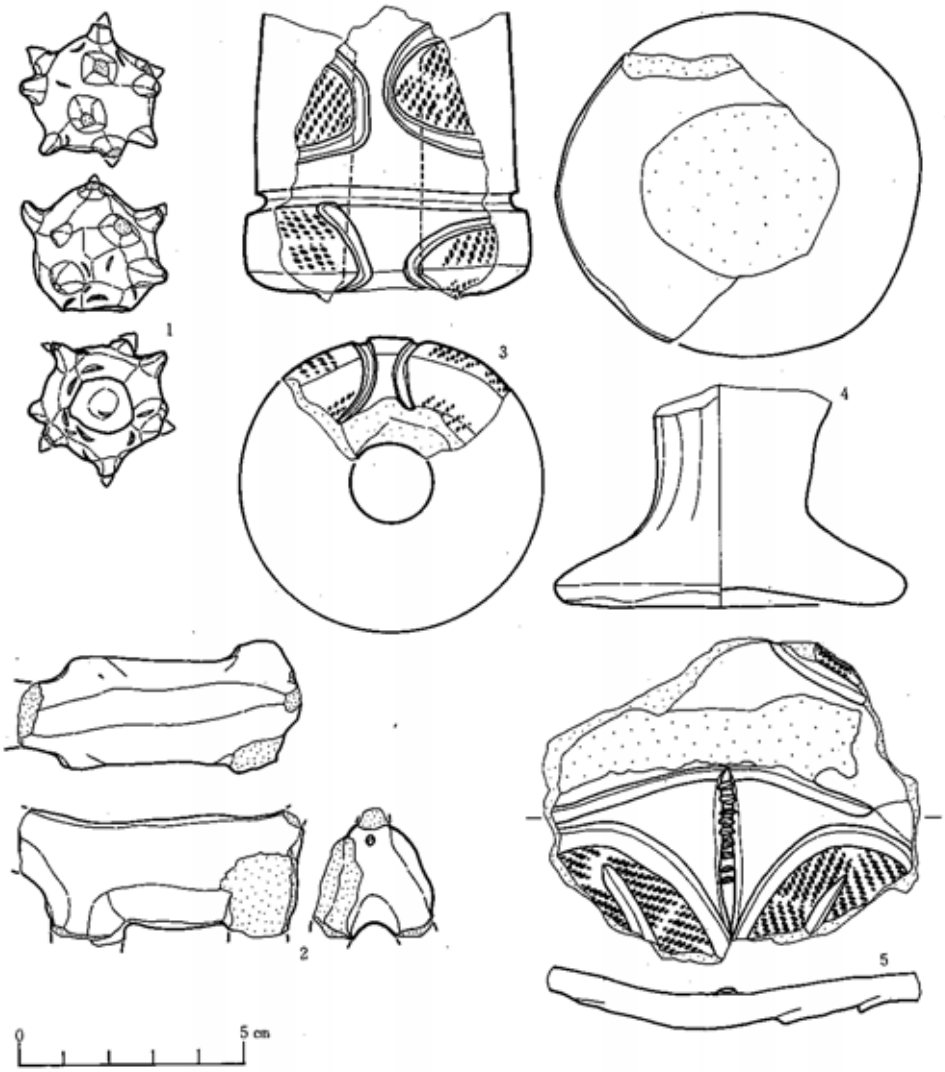
ウニ形土製品（第27図1）

不整形の球状のものに小さな突起が11個ついている。下端と思われる部分に円形の浅い窪みがあり、その部分を下にして置くと安定がよい。突起を棘にみたてれば棘皮動物のウニに最も



番号	地区層位	時期	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	備考	登録番号	図版
1	CL40−16	Ⅶ	土玉A	8.7	9.1		4425	9−1
2	CL40−15	Ⅶ	土玉BⅠ	6.8	7.2		2202	9−2
3	CM40−5	Ⅶ	土玉BⅠ	6.2	8.2		1217	9−3
4	CL39−25	Ⅶ	土玉BⅠ	5.6	6.7		4688	9−4
5	CL39−31	Ⅴ	土玉BⅡ	16.8	18.0		4992	9−5
6	CM39−37	Ⅱ	土玉BⅢ	30.7	33.7		267	9−6
7	CM42−10	不明	土玉BⅢ	42.1	37.1		2717	9−7
8	DR39−2	不明	土玉BⅢ	29.4	31.2		23	9−8
9	CM42−7	不明	有溝土錘Ⅰ	30.5	19.8		1265	9−9
10	CM39−27	Ⅶ	有溝土錘Ⅱ	34.1	22.7		5402	9−10
11	CL39−36	Ⅳ	棒状土製品	31.8	15.2		5252	9−11
12	CM47−3	Ⅱ	スタンプ形土製品Ⅰ	50.7	41.9		6387	9−12
13	CL39−31a	Ⅴ	スタンプ形土製品Ⅱ	35.5	42.8		286	9−13
14	CL41−2	不明	スタンプ形土製品Ⅱ	39.0	46.7		6195	9−14
15	CL39−37	Ⅲ	スタンプ形土製品Ⅲ	34.7	53.1		1676	9−15

第26図　土玉・有溝土錘・棒状土製品・スタンプ形土製品



番号	地区層位	時期	分類	長さ(cm)	幅(cm)	備考	登録番号	図版
1	CL49−24	V	ウニ形土製品	29.8	33.0		207	10−1
2	CK38−10	不明	動物形土製品	63.2	22.7	イヌ形	373	10−2
3	CL47−3・4	Ⅲ	有孔円柱状土製品	62.8	48.1		6475	10−3
4	CM48−2	不明	不明土製品A	49.5	77.3		−	10−4
5	CM41−19	晩	不明土製品B	72.1	82.6	裏面；縄布痕	6171	10−5

第27図　ウニ形土製品・動物形土製品・有孔円柱状土製品・不明土製品A・B

似ている。ウニとすれば下端の円形は口のある部分に相当する。なお、表面には突起を摘みだす時についた爪先の痕部がいくつもある。

動物形土製品（第 27 図 2）

頭部・四肢・尾部がおのおの欠落し、縄文や文様などが一際ない、つくりの粗雑な動物形の土製品である。首から腰にかけてなだらかで尾がやや上向きかげんになる。肩や民部があまり張り出さず、全体的にスマートである。腹部はやや下方に膨らみ、尾の下には肛門と考えられる刺突がみられる。この動物形土製品は、たてがみがないことや首のつくり出しが明瞭であることなどから大に類似したものと考えられる。

有孔円柱状土製品（第 27 図 3）

円柱状の土製品で、中央に太い孔が縦貫する。破片のため全体の大きさや文様などはわからない。端部近くに一条の沈線がめぐり、その間に磨消縄文を伴う連弧文が(4 個？)めぐる。
端部の孔の周囲は幾分高まりがあったようであるが、破れていて不明である。用途は装身具であろうか。

不明土製品Ａ（第 27 図 4）

平板な部分しか残っていない土製品の破片である。端部の一部が残っているが、本来の形状はわからない。表面に磨消縄文を伴う曲線的な沈線文が配されているがモチーフはわからない。端部近くと推定される部分に沈線が円弧状にみられるので、全体の平面形は円や楕円に近いものであった可能性もある。裏面は調整されず、粘土を押さえた時の壁（皺）や凹凸が著しいので、この部分は目に触れにくい部分か、調整しにくい部分であったことも考えられる。剥離した面であることも考えたが、そうではないようである。なお、粘土を押さえた部分には非常に目の細かな編布の痕跡がある。

これは2㎜間に3本程度の横糸がみられるが、縦糸は圧痕としては不明瞭なものである。

用途については土面の一部とも考えたがよくわからない。ごくありふれた器形の土器の一部で無いことだけは確かである。

不明土製品Ｂ（第 27 図 5）

円盤状の台に円柱状のものがつく土製品の破損品である。円盤状の内面はやや窪みかげんで無文である。用途については不明である。

Ⅲ．石　器

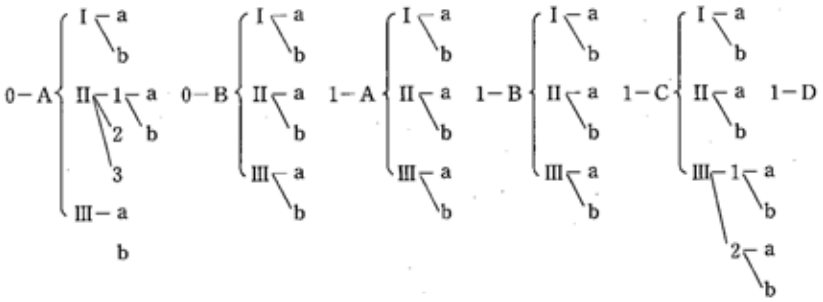
田柄貝塚から出土した石器には、石鉄、尖頭器、石錐、石匙、不定形石器、ピエス・エスキーユ、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石類・石皿類、石棒類がある。これらの石器は第28図に示した基準で計測し、観察表にその数値を記入した。なお、遺物の微細な観察にはオリンパス三眼鏡筒式実体顕微鏡ＸＴＲを使用した。

石　鏃（第 32 図～第 82 図）

ここでは矢の先に付けて用いたと考えられる小型の石器を扱う。総数1265点出土している。

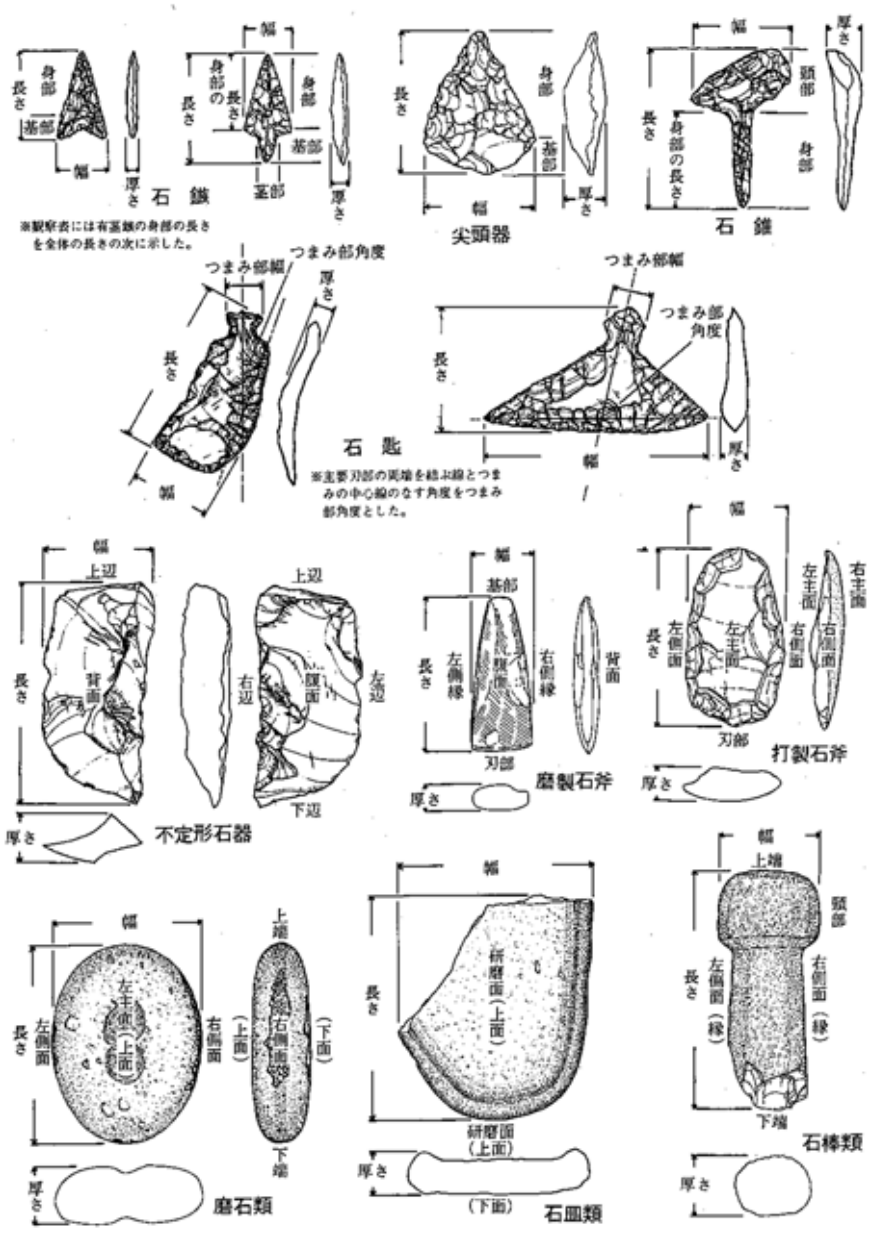
1分類

分類に当たっては完形品を中心にし、破損品でも形態の想定できるものについてはこれに含めてある。分類は無茎鉄(0)と有茎鏃(1)に大別し、基部形態で(Ａ)凹基のもの、(Ｂ)平基のもの、(Ｃ)凸基のもの、(Ｄ)尖基のものに、側縁部形態で(Ⅰ)直線的なもの、(Ⅱ)外弯するもの、(Ⅲ)内弯もしくはくびれるものに分け、各類ごとに(ａ)身部が正三角形状のもの、(ｂ)身部が二等辺三角形状のものに分類した。ただし、無茎鏃0ＡⅡ類は基部の抉りの特徴で（1）浅いもの、(2)逆Ｕ字状で深いもの、(3)半円状で浅いものに分け、有茎鏃1ＡⅢ類は基部の下端の特徴で(1)鋭利なもの、(2)鈍く丸みをおびるものに分けられた。また、有茎鏃1Ｄ類の基部形態が尖基としたものは従来の尖基鏃とするものである。これらをまとめると次のような種類がある。



2出土状況と時期的変化

これらの石鏃には、8号胎児骨に伴うものが1点（第1分冊遺構編参照）ある。他は総て南側遺物包含層から出土したものである。総数1,265点の内、時期の特定できるものは968点（76.5%）である。これらを地区ごとに見ると、ＣＬ39区から243点、ＣＬ41区から234点、ＣＭ41区から189点、ＣＬ40区から167点と多出し、ＣＭ39区、ＣＭ40区はそれぞれ47点と80点の出土であり少ない。ＣＭ39区、ＣＭ40区が少ないのは後世の削平が原因と考えられる。次に細



第28図　石器部位名称・計測基準図

分類＼時期	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	計	不明	総計
0AⅠa	2	6	7	8	6	5	5		39	7	46
0AⅠb		1	10	10	13	4	11		49	22	71
0AII$_3$a	5	2	13	15	10	9	4	1	59	12	71
0AII$_3$b	2	1	5	9		4	5	1	27	18	45
0AII$_2$		1	3	3	1				8	2	10
0AII$_1$			1		2	2	48	1	54	6	60
0AIIIa	1	3	9	4	1				18	13	31
0AIIIb		3	6	23	7	7			46	16	62
0A不明			8	10	8	1			27	9	36
0BⅠa			5	2	3	2			12	1	13
0BⅠb		3	1	4	6	1	2		17	4	21
0BIIa		3		5	2		1	1	12	1	13
0BIIb		1	4	1	4		1		11	17	28
0B不明		1	2	2	2		1		8	3	11
小計	10	25	74	96	65	35	78	4	387	131	518
1AⅠa		1	1	1	1		1		5	1	6
1AⅠb			1		2	1			4		4
1AIIa			2	3	5	2	1		13	1	14
1AIIb					1				1	1	2
1AIIIa			2	1					3	1	4
1AIIIb				1					1	1	2
1A不明							1		1		1
1BⅠa			1	2		1	1		5	3	8
1BⅠb			2	3		1	2		8	4	12
1BIIa				1					1		1
1BIIb				3	1				4	4	8
1BIIIa											
1BIIIb	1			2					3		3
1B不明											
1CⅠa	1		14	38	16	12	3	1	85	9	94
1CⅠb	2		20	46	24	5	9		106	40	146
1CIIa		1	8	20	14	13	10		66	13	79
1CIIb		5	14	61	13	8	21		122	38	160
1CIII$_2$a	1	1	4	14	3	1	1		25	4	29
1CIII$_2$b		2	13	6	4	4	2		31	13	44
1CIII$_1$a				1					1	2	3
1CIII$_1$b		1	10	3	6	4			24	11	35
1C不明	1		8	16	14	4	6		49	6	55
D		1	5	9	4	2	2		23	14	37
小計	6	12	105	231	108	58	60	1	581	166	747
合計	16	37	179	327	173	93	138	5	968	297	1265

第6表　石鏃時期別・分類別出土数量表

分された層位ごとに出土数量を見る。第Ⅳ期に属するＣＬ39区36層から49点、ＣＬ41区17層から44点、ＣＬ41区18層から40点、第Ｖ期に属するＣＬ41区16層から53点、ＣＭ41区25層から48点と層によってはまとまった出土を示すものもある。

時期別分類別出土量数表を作成すると第6表となる。第Ｖ期には327点(33.8%)の最大数を示し、第Ⅶ期は93点(9.6%)と少ない。第Ⅷ期は138点(14.3%)とやや増加を示す。

無茎鏃と有茎鏃別で見ると、第Ⅳ期から第Ⅶ期では有茎鏃の多出が見られ、第Ⅷ期では逆に無茎鏃の多出が見られる。次に細分した器種ごとで見ると、0AⅢａ類、1CⅢ$_2$b類第Ⅳ期に、0ＡＩａ類、0AⅢb類、1ＣＩａ類、1ＣＩａ類、1CⅡb類、1CⅡb類、1CⅢ$_1$ａ類が第Ｖ期に、0AⅡ$_3$が第Ⅷ期にそれぞれ多出を示す。全期を通して見ると無茎鏃では0ＡＩ類、0AⅡ$_3$類、　　0AⅢb類がそれぞれ多出し、有茎鏃では1ＣＩ類、1CⅡ類がそれぞれ多出している。

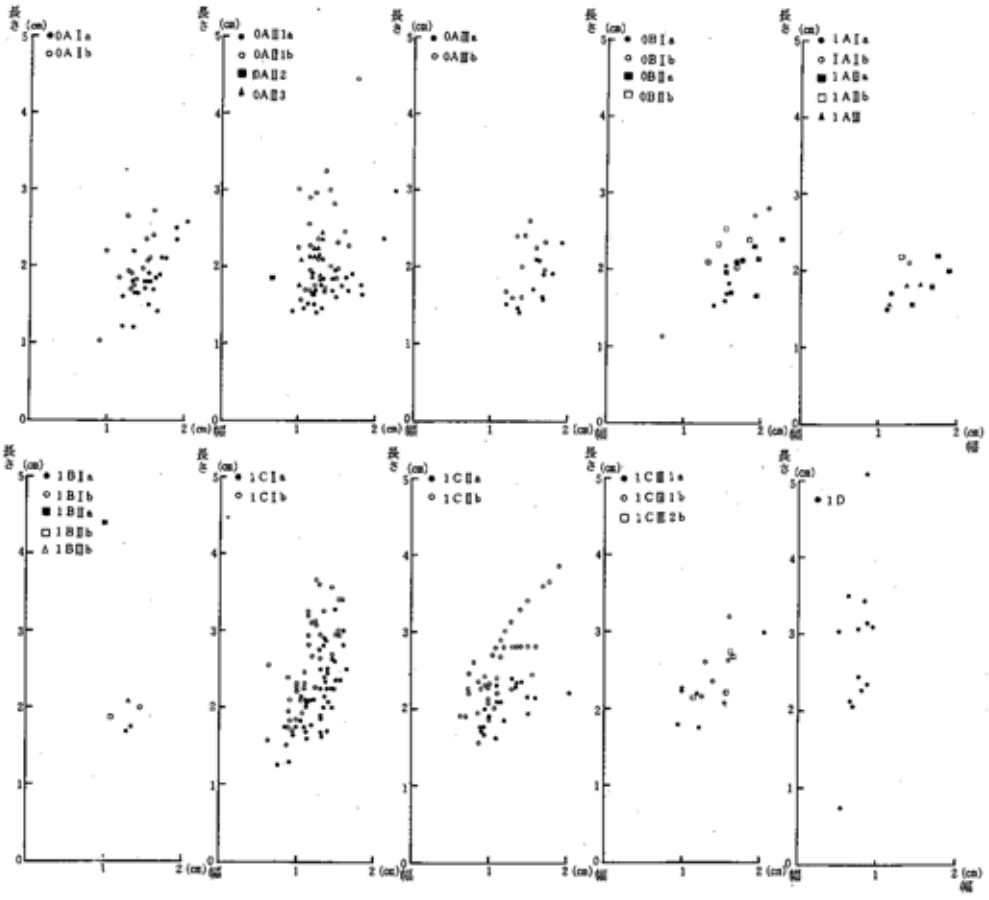
3属性の特徴

大きさと重さ

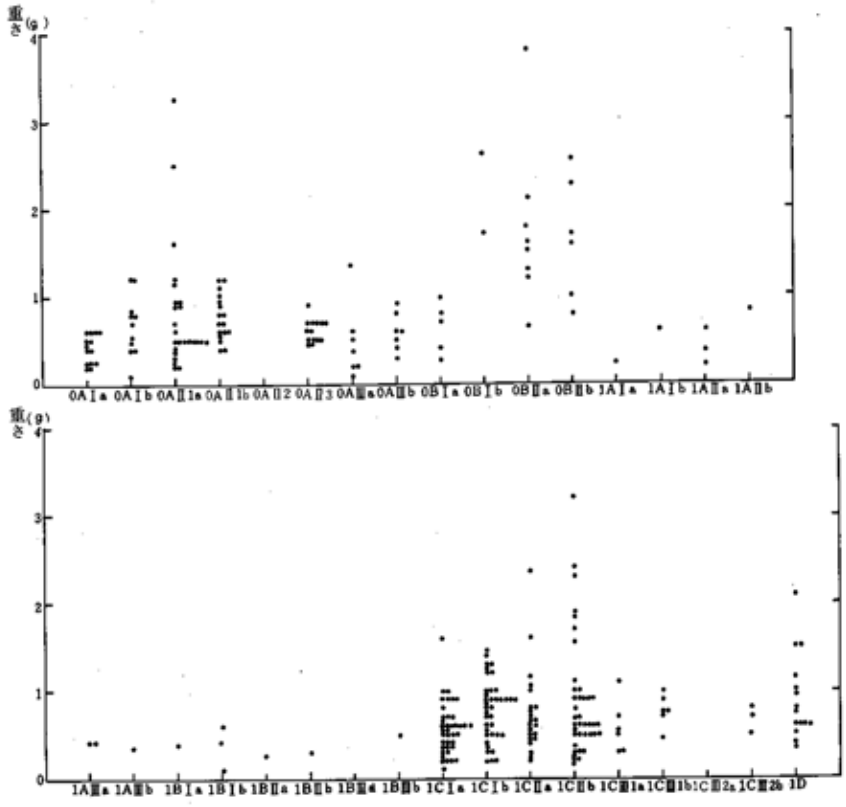
完形品に限って各類の計測を行なった。第29図は各類の長さと幅の関係を示したものである。

無茎鏃では、長さは1.5～2.5cmの間に、幅は15cm前後に集中して多く認められ、中には0ＡⅡ類のように一部長さの長いものもある。有茎鏃では、1Ａ類、1Ｂ類が長さ2cm前後に幅1～1.5cmの間に集中し、1Ｃ類は長さ2～3cm前後に幅は1Ａ類、1Ｂ類同様1～1.5cm前後に集中して多い。1Ｄ類は長さ2～3.5cmの間に、幅は0.5～1cmの間に多く見られる。

第30図は各類の重さを示したものである。有茎・無茎を問わず大半のものが1ｇ以下である。



第29図　石鏃分類別長さ・幅相関図



第30図　石鏃分類別重さ分布図

しかし、中には0ＡⅡ$_1$ａ類、0ＢⅠb類、0ＢⅡa類、0ＢⅡｂ類、1ＣⅡa類、1CⅡb類、1Ｄ類の一部に2ｇを越える重いものも少数見られ、量的に少ない1Ａ類や1Ｂ類には0.5g以下の軽いものもある。

石材

石材の種類は13種類を数える。各時期ごとの石材別出土数量を見ると第7表となる。各時期を通して珪質頁岩（38.3%）、珪化凝灰岩(28.3%)、黒色頁岩(14.4%)の使用頻度が高く、これら3種類だけで全体の80%を越えている。これらを第Ⅳ期～第Ⅷ期の間で見ると、珪質頁岩はほぼ安定して多く利用され、珪化凝灰岩は第Ⅳ期に幾分少なく第Ⅷ期は逆に多く使用される傾向にある。黒色頁岩は第Ⅳ期に珪化凝灰岩より多く利用されるが除々に使用頻度が下がり、特に第Ⅶ、Ⅷ期には急激に少なくなる傾向を示している。

次に、分類ごとに占める石材別の出土数量を見ると、無茎鏃では第8表、有茎鏃では第9表となる。出土量の比較的少ない黒曜岩、碧玉、石英安山岩質凝灰岩は無茎鉄の中でも凹基無

石材＼時期	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	計	不明	総数
珪質頁岩	8(50.0)	13(36.1)	60(34.1)	123(37.6)	69(39.9)	40(43.0)	54(38.8)	3(60.0)	371	127(42.8)	489
珪化凝灰岩	3(18.8)	11(30.5)	34(19.0)	89(27.2)	50(28.9)	27(29.0)	59(42.4)	1(20.0)	274	88(29.6)	362
黒色頁岩	1(6.2)	4(11.1)	40(22.4)	57(17.4)	24(13.9)	6(6.5)	7(5.0)	0	139	30(10.1)	169
黒曜岩	2(12.5)	1(2.7)	9(5.0)	9(2.8)	7(4.0)	3(3.2)	4(2.9)	0	35	12(4.1)	47
碧玉	1(6.2)	1(2.7)	11(6.2)	9(2.8)	7(4.0)	3(3.2)	1(0.7)	0	33	7(2.4)	40
玉髄	1(6.2)	6(16.6)	18(10.1)	35(10.7)	13(7.5)	10(10.8)	8(5.8)	1(20.0)	92	21(7.1)	113
流紋岩				1(0.3)	3(0.6)	1(1.1)	2(1.4)		5	1(0.3)	6
砂質頁岩					1(0.6)				1		1
細粒凝灰岩		1(2.7)	1(0.6)						2	1(0.3)	3
石英安山岩質凝灰岩			4(2.2)	3(0.9)	1(0.6)	3(3.2)	3(2.2)		14	9(3.0)	23
砂質凝灰岩			1(0.6)						1		1
細粒石英安山岩質凝灰岩				1(0.3)					1		1
頁岩										1(0.3)	1
計	16(100.0)	37(100.0)	179(100.0)	327(100.0)	173(100.0)	93(100.0)	138(100.0)	5(100.0)	968	297(100.0)	1265

第７表　石鏃時期別・石材別出土数量表

分類＼石材	珪質頁岩	珪化凝灰岩	黒色頁岩	黒曜岩	碧玉	玉髄	石英安山岩質	流紋岩	砂質頁岩	計
OAⅠa	19	15	2	4	1	4	1			46
OAⅡb	30	20	3	2	3	5	8			71
OAⅡ₁a	27	16	1	7	11	7	1		1	71
OAⅡ₁b	25	10	1	2	1	1	5	1		45
OAⅡ₂	2	3				5				10
OAⅡ₃	23	26	4	1		5		1		60
OAⅢa	12	6	3	3	3	3	1			31
OAⅢb	18	27	5	5	3	4				62
OA不明	14	6	1	8	4	3				36
OBⅠa	5	5		1	1	1				13
OBⅠb	11	9	1							21
OBⅡa	1	6	1		4	1				13
OBⅡb	14	9	1	1		2	1			28
OB不明	4	3		2	1	1				11
計	205	161	23	36	32	42	17	2	1	518

第８表　無茎鏃分類別・石材別出土数量表

分類＼石材	珪質頁岩	珪化凝灰岩	黒色頁岩	黒曜岩	碧玉	玉髄	石英安山岩質凝灰岩	流紋岩	砂質頁岩	細粒凝灰岩	細粒石英安山岩質凝灰岩	頁岩	砂質凝灰岩	計
1AⅠa	1	1	1	1		1	1							6
1AⅠb		3				1								4
1AⅡa	2	6	1		1	4								14
1AⅡb	1		1											2
1AⅢa	1			1	1	1								4
1AⅢb	1		1											2
1A不明														
1BⅠa	2	3	1	1		1								8
1BⅠb	2	7	1			2	1							13
1BⅡa	1													1
1BⅡb	3	4				1								8
1BⅢa														
1BⅢb	1					2								3
1B不明														
1CⅠa	34	28	16	2		12				1				93
1CⅠb	72	35	22	3	2	12								146
1CⅡa	33	19	18			7		2		1				80
1CⅡb	62	49	31	2		13	1	2						160
1CⅢ₁a	7	12	10			1								30
1CⅢ₁b	18	8	11			3	1			1				42
1CⅢ₂a		1	1			1								3
1CⅢ₂b	10	4	15			2	2						1	34
1C不明	23	11	12		4	5					1			56
1D	28	10	4	1		2						1		38
計	294	201	146	11	8	71	6	4		3	1	1	1	747

第９表　有茎鏃分類別・石材別出土数量表

茎鏃に多く認められ、特に有茎鏃には少ない傾向を示す。出土量が極めて少ない細粒凝灰岩、細粒石英安山岩質凝灰岩、砂質凝灰岩は有茎鏃の中でも凸基有茎鏃にだけ認められる。

欠損部

総数1,265点の内、971点(76.8%)が欠損品である。これら欠損品の多くは有茎・無茎の別を問わず先端部の欠損するものが多く、さらに無茎鏃ではかえし部、有茎鏃では茎部の欠損するものも多い。中には他の類にはあまり見られない特異な欠損状況を示すものがある。0AⅡ$_3$類は特異な例であり、身部の中央部から横折れするものや先端部から基部にかけて縦割れしている(第67図17、第68図7～25、第73図24・25)ものが多い。

4アスファルト付着状況

総数1,265点の内、アスファルトが付着するものは148点(11.7%)である。付着状態を個々に観察すると4種のタイプ(第31図模式図)に分けることができる。

1タイプ：茎部に付着し、身部との境が平らに観察されるもの

2タイプ：基部から身部の下端部まで付着し、身部の下端部では三角形もしくは丸みをおびて観察されるもの

3タイプ：基部から身部の中央部または先端部まで付着し、身部上では除女に先が細くなる槍先状に観察されるもの

4タイプ：基部から身部の中央部まで付着し、舌状に観察されるもの

第31図　石鏃アスファルト付着タイプ別模式図

以上4種のタイプは、石鏃の矢柄への固定方向の違いを示すと考えられる。1タイプ、2タイプは有茎鏃だけ認められるが無茎鏃の一部にも認められる。4タイプは無茎鏃にだけ認められる。これらのことをふまえた固定方法を想定すると、1タイプは茎部だけを固定するもん、2タイプは茎部のみならず身部の下端までも固定する。(矢柄の先端が幾分尖り気味である可能性がある)もの、3タイプは矢柄の先端を細長く尖らせ身部全体をも挾み込むように固定するもの、4タイプは基部から身部の中央部までを挾み込んで固定するものと考えられる。

これらの4種のタイプをもとに、時期別・タイプ別出土数量表を作成すると第10表となる。

1タイプと2タイプは共に第Ⅴ期に、第3タイプは第Ⅳ期に、4タイプは第Ⅷそれぞれ多出している。

次に、無茎鏃・有茎鏃別で見ると無茎鏃は25点で無茎鏃全体に占める割合は48％である。有茎鏃は123点で有茎鏃全体に占める割合は16.5％である。このことは無茎鏃に占めるアスファルト付着率は有茎鏃に比べ低いことを示している。

※（　）内の数字は各時期の有茎・無茎鏃ごとの占める割合と全体に占める割合

タイプ＼時期	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	計	不明	総計
有茎鏃	1 (16.7)	3 (25.0)	19 (18.7)	49 (20.8)	11 (30.2)	6 (30.3)	14 (23.3)		103 (17.7)	20	123
1タイプ	1	2	7	38	10	4	13		75	10	85
2タイプ			7	9	1	1	1		19	6	25
3タイプ		1	5	2		1			9	4	13
無茎鏃		2 (9.1)	1 (1.3)	2 (0.2)	3 (4.6)	2(5.7)	10 (12.7)	1 (25.0)	21 (5.4)	4	25
3タイプ		1	1	1				1	4	3	7
4タイプ		1		1	3	1	10		16	1	17
不明						1			1		1
計	1 (6.3)	5 (14.7)	19 (10.7)	50 (14.9)	14 (8.1)	8 (8.6)	24 (17.3)	1 (20.0)	124 (12.7)	24	148

第10表　アスファルト付着石鏃・タイプ別時期別出土数量表

アスファルトの付着率を時期ごとに見ると、無茎鏃は第Ⅴ期が最も低率であり以後第Ⅷ期まで除々に高率化する傾向にある。有茎鏃は第Ⅴ期にやや高い率を示すが第Ⅷ期にはさらに高率となり、有茎無茎を問わず第Ⅷ期にはアスファルトの付着率が高くなることが言える。

50ＡⅡ$_3$類について

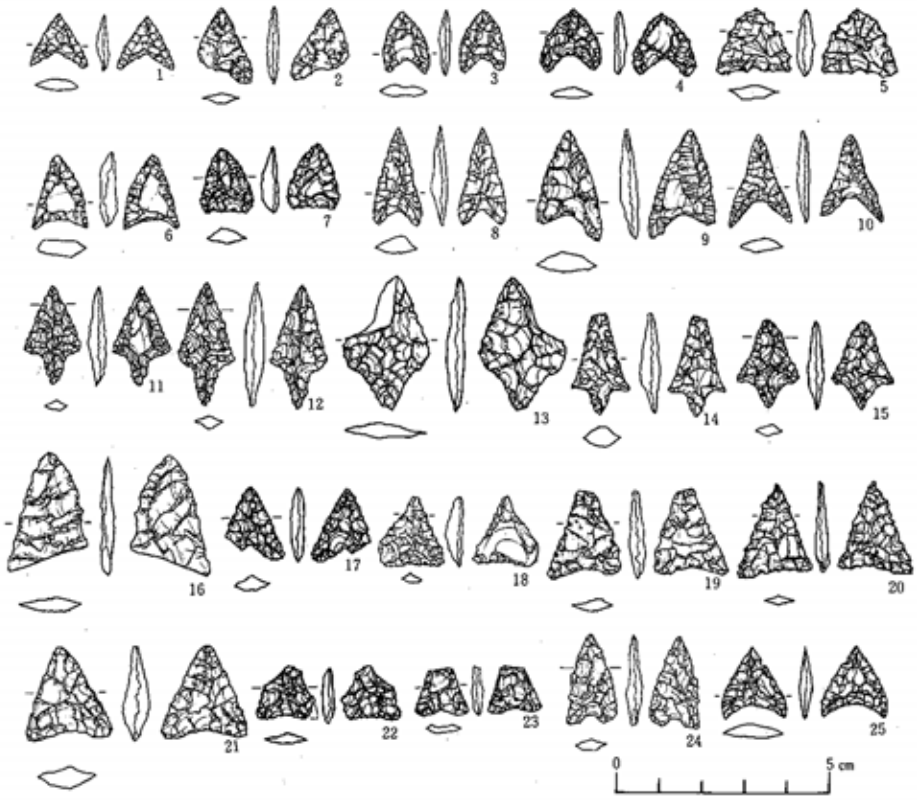
宮城県中沢目貝塚（須藤－1984）では、「凹基の薄手な石鏃」が根ばさみの二又部にアスファルトで固定された状態で出土している。このことによって根ばさみは二又部に石鏃を挟み込んで固定し使用されたものであることが確認されている。この二又部に固定された石鏃を見ると本遺跡出土の0ＡⅡ$_3$類は形態及びアスファルトの付着状況において酷似している。また時期的にも大きく隔たるものではない。さらに、0ＡⅡ$_3$類が第Ⅷ期に急増傾向を示すが、本遺跡出土の根ばさみもまた同様に第Ⅷ期に顕著な急増傾向（第Ⅲ分冊参照）を示している。このことは石鏃0ＡⅡ$_3$類が根ばさみの二又部へ装着され使用されたものであることを裏付ける結果となっている。

6石鏃の射込まれた痕跡のある動物遺存体（図版68～70）

既に『季刊考古学第11号特集「動物の骨が語る世界」－1985・5』で報告されているが、田柄貝塚では石鏃の射込まれた痕跡のある動物遺存体が6例出土している。そのうちわけは、イノシシの下顎骨1例（図版68-1）・肩甲骨1例（図版68－2）・肋骨2例（図版69-3・4・5）とニホンジカの橈骨1例（図版69－6・7）・肩甲骨1例（図版70－8・9）である。

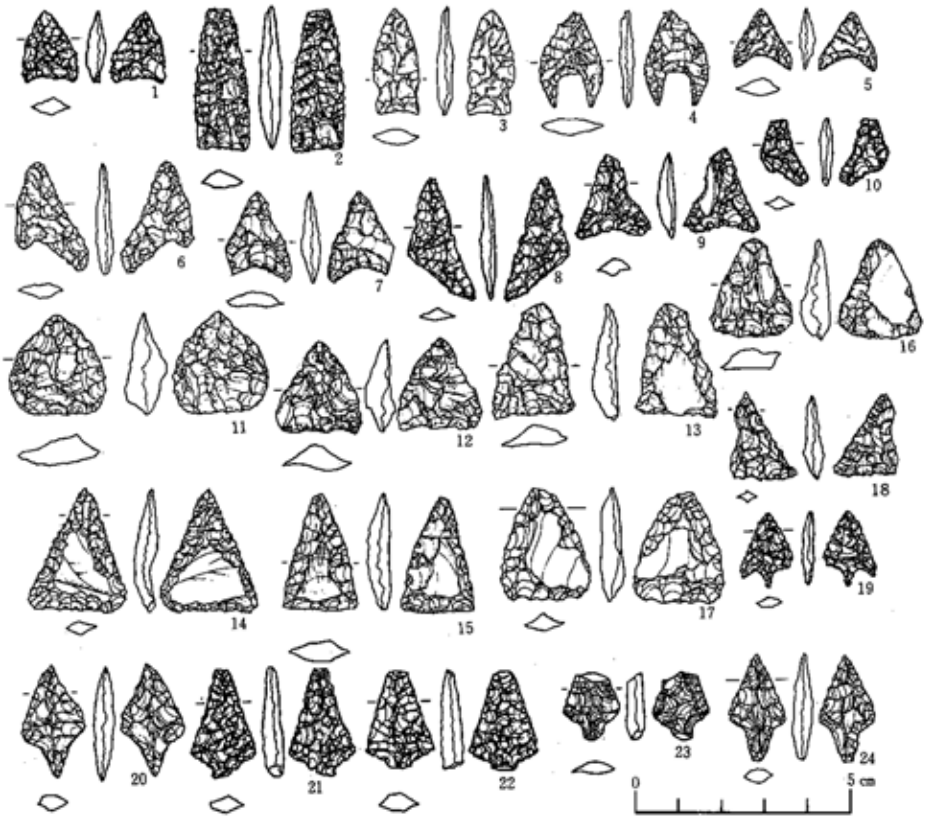
番号	地区層位	時期	種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	備考	図版番号
1	CL40-15	VII	イノシシ	左下顎骨下顎角部分	60.8	33.2	左後方やや下方から石鏃破片残、骨増殖	68－1
2	CL40-17・18	VII	イノシシ	右肩甲骨後縁遠位端部	60.3	35.2	右やや前方水平方向、石鏃破片残	68－2
3	CM41-25	V	イノシシ	左第12肋骨	102.8	23.5	上、左後方やや上から石鏃破片残 下、左後方やや上から石鏃破片残	69－3・4
4	CL40-21 (20)	VI	イノシシ	左第6肋骨	175.6	14.6	上、左後方やや上から石鏃破片残 下、右やや後下方から残らず	69－3・5
5	CL40-18	VIII	ニホンジカ	右後骨骨幹中央内側部	141.4	42.5	左前方やや上方から石鏃破片残	69－6・7
6	CL41-18	IV	ニホンジカ	右肩甲骨後縁遠位端部	190.6	89.4	右やや前方上方から石鏃破片残	70－8・9

第11表　石鏃の射込まれた動物遺存体



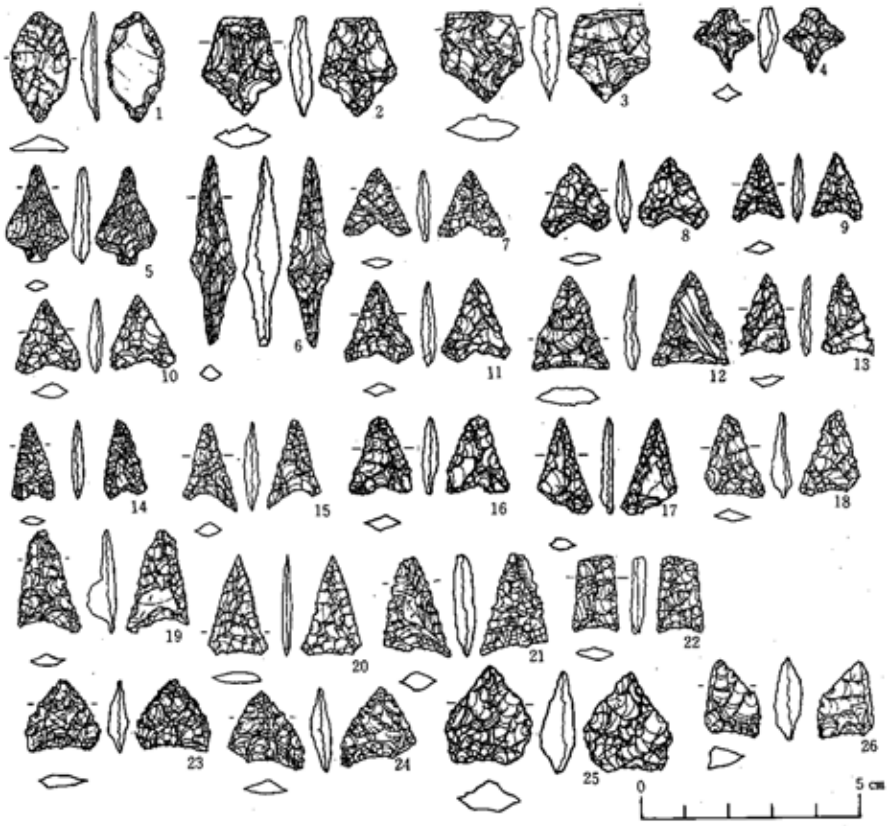
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM40－10	II	0AIa	黒曜岩	12.3	13.2	2.5	0.25				2464	11－1
2	CM41－29	II	0AIa	黒曜岩	18.2	(12.2)	2.6	(0.3)	基部			835	11－2
3	CM40－10	II	0AIIIa	珪化頁岩	14.6	10.6	2.5	0.38				2463	11－3
4	CL39－38	II	0AIIIa	珪質頁岩	15.0	14.0	2.5	0.3				5328	11－4
5	CL41－22	II	0AIIIa	珪質頁岩	15.2	(17.2)	3.1	0.7	基部		(加熱化)	1232	11－5
6	CM41－36	II	0AIIIa	珪質頁岩	17.5	13.0	3.6	0.5				2675	11－6
7	CL39－38	II	0AIIIa	珪質頁岩	15.8	12.8	3.5	0.5				5327	11－7
8	CM40－10	II	0AIIIb	珪化頁岩	22.6	11.3	4.3	0.7				2462	11－8
9	CL41－21	II	0AIIIb	珪質頁岩	26.0	(15.5)	3.9	(1.0)	基部			3835	11－9
10	CL39－38	II	0AIIIa	碧玉	(21.0)	(15.0)	2.5	(0.4)	先端・基部		(珪化凝灰岩部?)	664	11－10
11	CL39－38	II	1CIa	珪化凝灰岩	23.0 ・ 15.5	13.5	4.3	0.6				5326	11－11
12	CL39－38	II	1CIb	珪質頁岩	29.0 ・ 19.5	13.5	4.4	0.9		1		5324	11－12
13	CL40－28	II	1CIb	珪質頁岩	(31.5)	20.0	4.0	(1.75)	先端			2978	11－13
14	CM39－37	II	1BIIb	玉髄	(23.8)・(19.0)	13.5	4.3	(0.6)	先端			440	11－14
15	CL39－36	II	1CIIIa	珪質頁岩	(21.0)・(15.4)	(14.5)	3.5	(0.6)	先端・基部			5325	11－15
16	CM39－37	II	(1C)	褐色頁岩	(27.1)	(18.7)	3.2	(1.15)	基部・茎部			5407	11－16
17	CL39－37	III	0AIa	珪質頁岩	17.5	(13.8)	2.9	(0.25)	基部			5327	11－17
18	CL41－19	III	0AIa	珪質頁岩	16.6	(15.0)	3.8	0.62	基部		(加熱化)・未製品?	1150	11－18
19	CM41－28	III	0AIa	珪質頁岩	(21.0)	17.5	3.5	(3.7)	先端・基部		基部再加工	839	11－19
20	CL41－19	III	0AIa	珪質頁岩	21.0	17.3	3.0	0.6			(加熱化)	1742	11－20
21	CL40－27	III	0AIa	珪質頁岩	(22.0)	20.0	5.5	(1.3)	先端		(磨耗)	906	11－21
22	CL39－36	IV	0AIa	黒曜岩	(13.0)	(14.0)	2.7	(0.2)	先端・基部			5241	11－22
23	CL40－27	III	0AIa	玉髄	(11.2)	(12.5)	2.7	(0.2)	先端・基部			907	11－23
24	CM41－28	III	0AIb	珪質頁岩	(21.0)	(12.0)	3.5	(2.4)	基部		基部再加工	5803	11－24
25	CL41－19	III	0AIIIa	玉髄	16.1	15.0	3.0	(0.41)	側縁			1983	11－25

第32図　石　鏃(1)



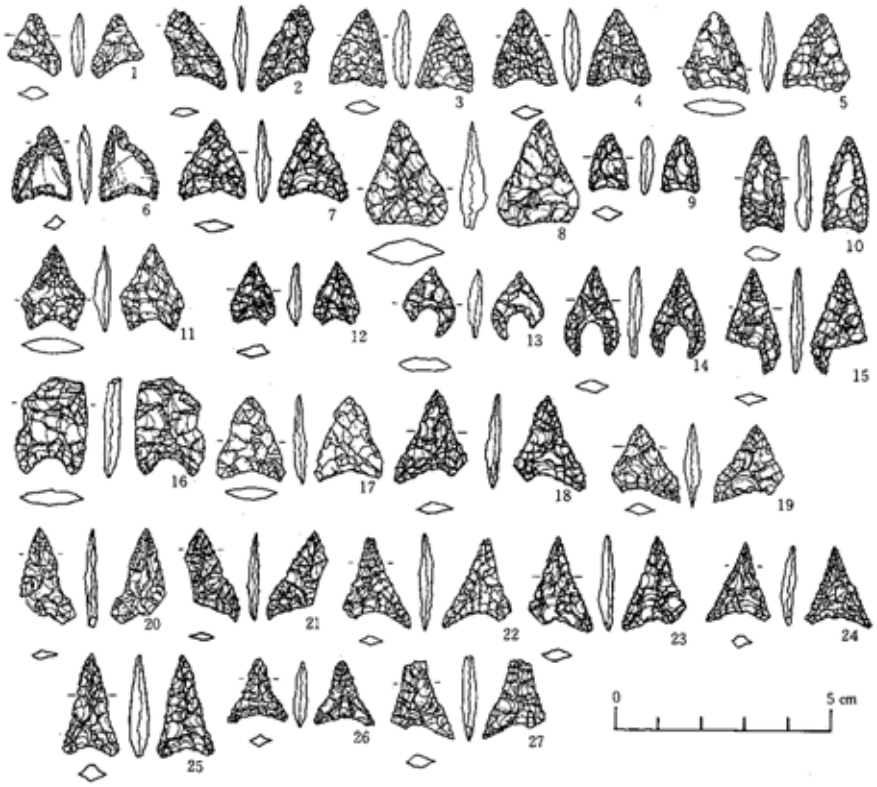
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−37	Ⅲ	0AⅡ1a	珪化鍋沢岩	16.8	13.2	4.0	0.5			(玉髄化)	5316	11−26
2	CL41−18	Ⅳ	0AⅡ1b	珪質頁岩	(32.7)	12.5	4.6	(2.0)	先端			1740	11−27
3	CM40− 9	Ⅲ	0AⅡ1b	黒色頁岩	(24.6)	10.4	3.9	(1.1)	先端			1640	11−28
4	CL39−37	Ⅲ	0AⅡ2	玉髄	(22.5)	14.5	3.1	(0.45)	先端	3		665	11−29
5	CL39−北37	Ⅲ	0AⅢa	珪質頁岩	14.0	13.8	3.2	0.2				1099	11−30
6	CM41−28	Ⅲ	0AⅢa	玉髄	(26.0)	(17.0)	3.8	(0.85)	先端・基部		先端再加工	2143	11−31
7	CL39−37	Ⅲ	0AⅢa	珪化鍋沢岩	21.0	(16.0)	3.7	(0.6)	基部			860	11−32
8	CL39−37	Ⅲ	0AⅢb	珪化鍋沢岩	28.5	(15.5)	3.5	(0.5)	基部			851	11−33
9	CL39−37	Ⅲ	0AⅢb	珪化鍋沢岩	(20.0)	(17.8)	3.7	(0.45)	先端・基部		先端再加工	2081	11−34
10	CL39−37	Ⅲ	0AⅢb	黒曜岩	(26.0)	(11.0)	2.5	(0.2)	先端・基部			5315	11−35
11	CM41−28	Ⅲ	0BⅡa	珪化鍋沢岩	24.0	22.2	8.5	3.8				2136	11−36
12	CL47−3,4	Ⅲ	0BⅡa	鍋玉	21.2	19.5	6.5	1.78				1055	11−37
13	CL40−27	Ⅲ	0BⅠb	珪化鍋沢岩	27.0	19.2	4.7	1.7			先端再加工	767	11−38
14	CL41−19	Ⅲ	0BⅠb	珪質頁岩	28.6	21.0	4.5	2.38				1743	11−39
15	CL48− 3	Ⅲ	0BⅠb	珪質頁岩	(26.8)	17.5	5.0	(1.8)	先端			1148	11−40
16	CL47−3,4	Ⅲ	0BⅡa	珪化鍋沢岩	22.8	19.0	5.9	2.1	先端		先端再加工		11−42
17	CL41−19	Ⅲ	0BⅡb	珪化鍋沢岩	(26.0)	21.0	5.5	(2.3)	先端		先端再加工	1741	11−41
18	CL41−19	Ⅲ	(0B)	珪質頁岩	(20.2)	(12.5)	4.2	(0.8)	側縁〜基部		(玉髄化)	1744	11−43
19	CM39−36	Ⅲ	1AⅠa	玉髄	17.0 ・ 15.7	(11.5)	2.5	(0.3)	基部			5561	11−44
20	CL41−19	Ⅲ	1CⅡa	細粒鍋沢岩	(26.0)・(17.0)	14.5	4.4	(1.0)	先端・側縁		再加工	1096	11−45
21	CL39−37	Ⅲ	1CⅡb	珪化鍋沢岩	(25.5)・(20.0)	15.2	4.6	(1.05)	先端・側縁・基部			1606	11−46
22	CM39−36	Ⅲ	1CⅡb	珪質頁岩	(22.8)・(18.8)	11.2	5.0	(0.45)	先端・基部	1		5750	11−47
23	CL39−37	Ⅲ	0CⅡb	珪化鍋沢岩	(15.2)・(10.2)	12.8	4.2	(0.69)	先端・基部			1117	11−48
24	CM39−36	Ⅲ	1CⅡb	黒色頁岩	(25.0)・15.8	13.5	4.1	(1.0)	基部	1		5562	11−49

第33図　石　鏃(2)



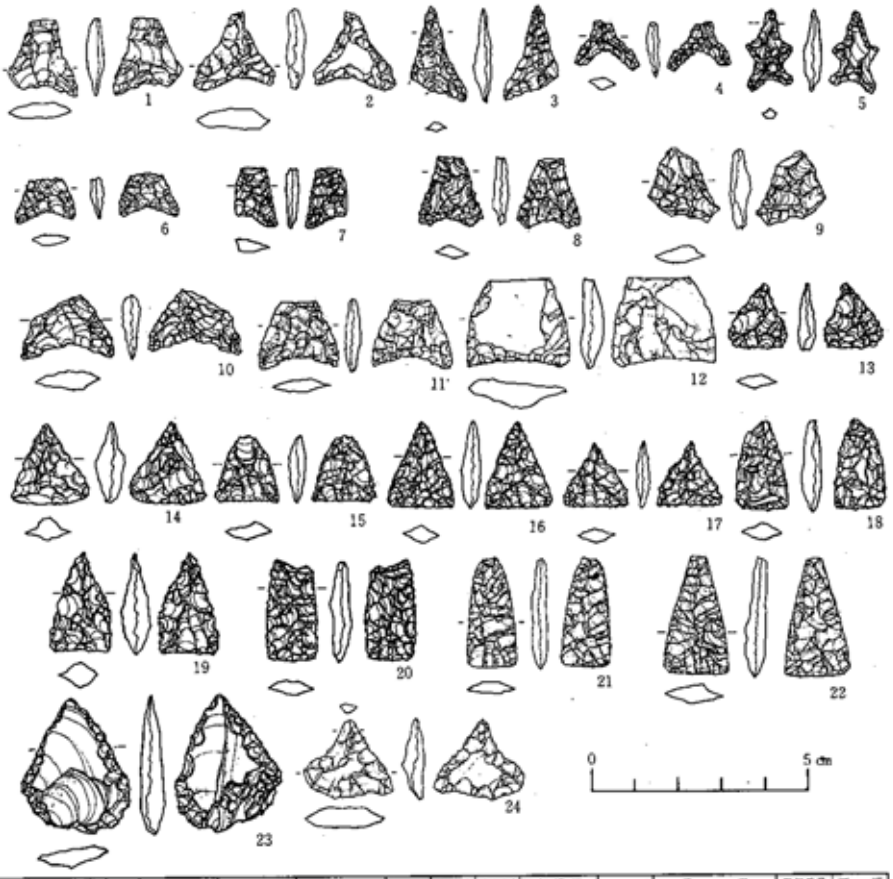
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−37	Ⅲ	1CⅡb	頁岩	(25.0)・(17.5)	13.2	3.5	(0.9)	先端		先端再加工	850	11−50
2	CL39−37	Ⅲ	1CⅡb	黒色頁岩	(22.8)・(14.8)	18.2	4.7	(1.5)	先端			5312	11−51
3	CL40−27	Ⅲ	1CⅡb	珪質頁岩	(21.2)・(13.5)	18.2	6.3	(2.1)	先端			908	11−52
4	CL39−37	Ⅲ	1CⅢa	珪化凝灰岩	(15.2)・(7.8)	14.0	4.4	(0.45)	先端			5314	11−53
5	CL39−37	Ⅲ	1CⅢb	黒色頁岩	(22.2)・(17.2)	13.3	3.7	(0.7)	先端・基部	3		5311	11−54
6	CL39−37	Ⅲ	1D	珪質頁岩	43.4	18.0	8.0	2.08				5774	11−55
7	CL41−18	Ⅳ	0A Ⅰa	珪化凝灰岩	15.2	15.1	2.5	0.4				5658	11−56
8	CL39−26	Ⅳ	0A Ⅰa	珪化凝灰岩	(16.5)	(16.0)	3.4	(0.4)	先端・基部			5230	11−57
9	CL39−35	Ⅳ	0A Ⅰa	玉髄	16.0	12.0	2.5	0.25				5149	11−58
10	CL40−26	Ⅳ	0A Ⅰa	珪質頁岩	17.0	15.0	3.1	0.5				2975	11−59
11	CL39−26〜35	Ⅳ	0A Ⅰa	黒色頁岩	(20.0)	(16.0)	3.5	(0.4)	基部			5127	11−60
12	CL41−17	Ⅳ	0A Ⅰa	碧玉	21.5	17.5	3.5	0.6				4220	11−61
13	CM41−27	Ⅳ	0A Ⅰb	黒色頁岩	18.5	(11.8)	2.2	(0.25)	基部			3336	11−62
14	CL41−18	Ⅳ	0A Ⅰb	珪質頁岩	(17.2)	(9.6)	2.5	(0.35)	先端・基部		先端再加工	4345	11−63
15	CM41−27	Ⅳ	0A Ⅰb	玉髄	(20.5)	(12.0)	3.0	(0.3)	先端・基部			3337	11−64
16	CL39−35	Ⅳ	0A Ⅰb	珪質頁岩	(17.5)	14.3	2.8	0.54	先端・基部		先端・基部再加工	5750	11−65
17	CL39−35	Ⅳ	0A Ⅰb	珪化凝灰岩	(22.2)	(13.0)	2.6	(0.3)	基部			5146	11−66
18	CM41−27	Ⅳ	0A Ⅰb	石英安山岩質凝灰岩	(20.0)	(13.5)	4.0	(0.45)	先端・基部		(珪化)・先端再加工	2239	11−67
19	CL41−17	Ⅳ	0A Ⅰb	黒色頁岩	(22.4)	(14.1)	3.2	(1.1)	先端		未製品・先端再加工	4223	11−68
20	CL40−26	Ⅳ	0A Ⅰb	珪化凝灰岩	(22.6)	(13.5)	2.2	(0.55)	基部			2972	11−69
21	CL41−18	Ⅳ	0A Ⅰb	珪化凝灰岩	(23.0)	(14.0)	4.5	(1.2)	先端・基部			4354	11−71
22	CM41−27	Ⅳ	0A Ⅰb	石英安山岩質凝灰岩	(18.0)	11.0	3.0	(0.4)	先端		(珪化)	2238	11−72
23	CL41−18	Ⅳ	0A Ⅱa	玉髄	(16.5)	(17.0)	4.4	(0.85)	先端・基部			4353	11−73
24	CL41−17	Ⅳ	0A Ⅱa	碧玉	19.0	(17.6)	4.4	(1.0)	基部			4231	11−74
25	CL39−36	Ⅳ	0A Ⅱa	珪化凝灰岩	23.5	19.0	7.7	2.5			(玉髄)	5227	11−75
26	CL41−18	Ⅳ	0A Ⅱa	碧玉	(16.9)	(12.9)	6.0	(1.25)	先端〜基部			4368	11−76

第34図　石　鏃(3)



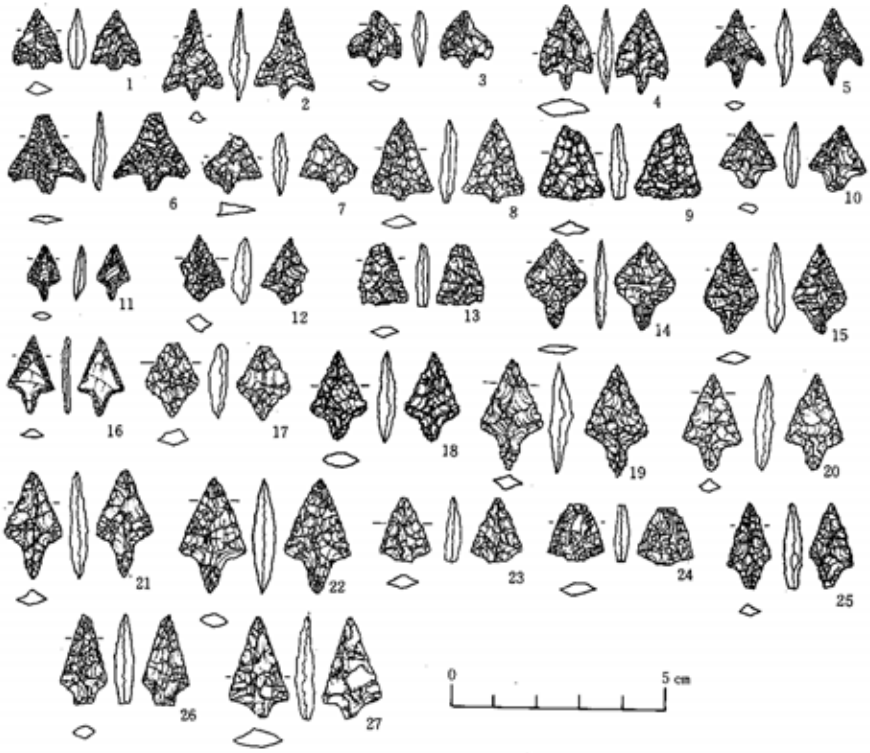
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41－27	Ⅳ	6AⅡ1a	黒曜岩	(14.5)	(12.6)	2.7	(0.2)	先端・基部			2241	11－77
2	CL41－18	Ⅳ	6AⅡ1a	黒曜岩	(21.6)	(10.2)	3.0	(0.45)	先端・基部			4367	11－78
3	CL41－17	Ⅳ	6AⅡ1a	黒曜岩	17.7	12.9	3.5	0.7				4219	11－79
4	CL41－18	Ⅳ	6AⅡ1a	珪質頁岩	(17.7)	14.5	3.5	(0.7)	先端		先端再加工	4344	11－80
5	CL40－26	Ⅳ	6AⅡ1a	珪質頁岩	19.0	(14.7)	3.8	(0.7)	基部			2970	11－81
6	CL41－18	Ⅳ	6AⅡ1a	珪質頁岩	(17.4)	13.7	2.5	(0.6)	(0.6)		先端再加工	4357	11－82
7	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ1a	珪質頁岩	19.0	15.5	3.0	0.4			(玉髄化)	5235	11－83
8	CL41－17	Ⅳ	6AⅡ1a	珪質頁岩	25.0	19.0	5.8	1.6				4224	11－84
9	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ1b	珪質頁岩	(14.0)	(9.5)	2.5	(0.2)	先端・基部			5020	11－85
10	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ1b	珪質頁岩	(22.5)	10.5	3.3	(0.45)	先端			5226	11－86
11	CL40－26	Ⅳ	6AⅡ1b	珪質頁岩	19.6	14.7	3.2	0.75				2973	11－87
12	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ1b	珪化凝灰岩	(15.0)	10.8	3.0	(0.15)	先端		(玉髄化)	5237	11－88
13	CL41－18	Ⅳ	6AⅡ2	珪質頁岩	16.5	12.0	3.4	(0.2)	基部			4346	11－89
14	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ2	玉髄	(21.5)	13.0	2.7	(0.35)	先端			5234	11－90
15	CL39－36	Ⅳ	6AⅡ2	珪化凝灰岩	(25.0)	(13.0)	2.6	(0.2)	先端・基部		(玉髄化)	5236	11－91
16	CL41－17	Ⅳ	6AⅡ3	珪質頁岩	(22.3)	16.1	3.5	(1.4)	先端・側縁		側縁再加工	4221	11－92
17	CL39－36	Ⅳ	6AⅢa	碧玉	20.8	16.0	2.9	0.5				830	11－93
18	CL39－36	Ⅳ	6AⅢa	玉髄	22.0	(16.8)	3.2	(0.4)	基部			5233	11－94
19	CL40－26	Ⅳ	6AⅢa	珪質頁岩	18.5	(16.0)	3.2	(0.4)	基部			2974	11－95
20	CL41－17	Ⅳ	6AⅢa	黒曜岩	(22.8)	(10.4)	2.5	(0.45)	基部			4217	11－96
21	CL41－18	Ⅳ	6AⅢa	黒色頁岩	23.0	(9.0)	2.5	(0.4)	基部			4362	11－97
22	CL41－17	Ⅳ	6AⅢa	黒色頁岩	(22.0)	(15.2)	3.0	(0.5)	基部	3	鹿ハジケ	4234	11－98
23	CL39－36	Ⅳ	6AⅢa	黒色頁岩	22.2	(15.0)	3.3	(0.35)	基部			5229	11－99
24	CL41－17	Ⅳ	6AⅢa	珪質頁岩	(18.4)	(15.0)	2.9	(0.5)	基部			4232	11－100
25	CL39－36	Ⅳ	6AⅢb	珪質頁岩	24.0	13.5	4.0	0.6				5232	11－101
26	CL41－18	Ⅳ	6AⅢa	珪質頁岩	14.6	13.6	3.0	0.35				4343	11－102
27	CL41－17	Ⅳ	6AⅢb	珪質頁岩	(17.8)	(15.2)	3.0	(0.5)	先端・基部			4236	11－103

第35図　石　鏃(4)



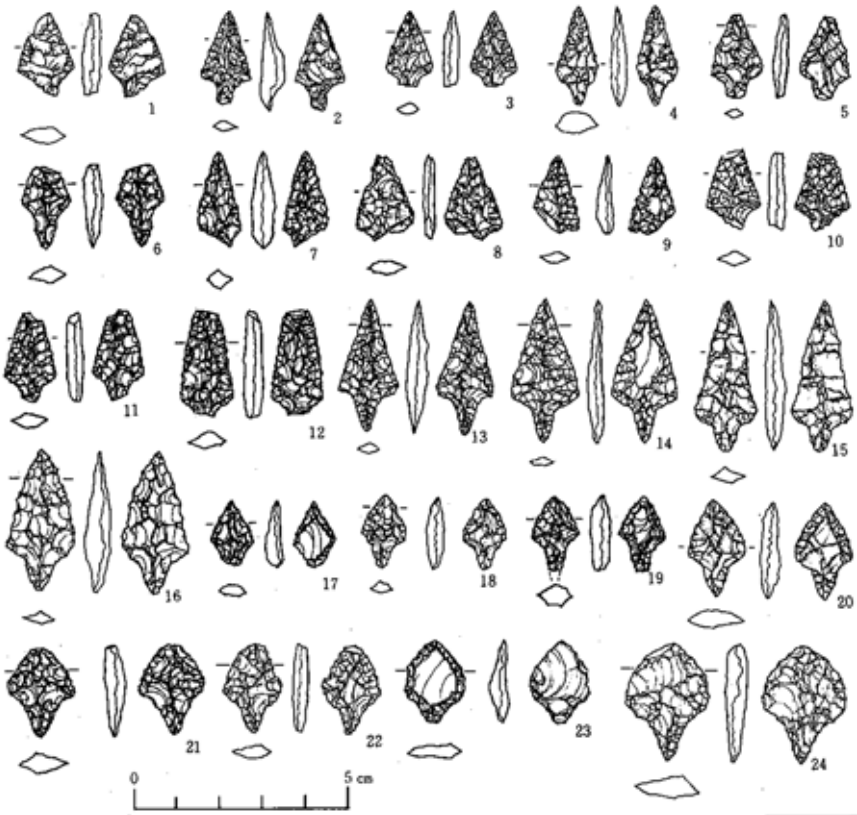
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40－26	Ⅳ	0AⅢb	珪化頁岩	(16.8)	(16.5)	4.0	(0.95)	基部			2971	11－104
2	CL41－18	Ⅳ	0AⅢb	珪化頁岩	(18.5)	(18.2)	4.4	(0.7)	先端・基部			4349	11－105
3	CL41－17	Ⅳ	0AⅢb	珪化頁岩	22.7	(13.8)	4.1	(0.68)	基部			4225	11－106
4	CM41－27	Ⅳ	0AⅢb	石英質凝灰岩	(11.8)	(15.0)	2.5	(0.1)	先端・基部		(珪化)	3339	11－107
5	CL39－36	Ⅳ	(0A)	珪質頁岩	19.0	11.0	3.9	0.5				5204	11－108
6	CL41－17	Ⅳ	(0A)	黒色頁岩	(9.6)	13.7	3.0	(0.35)	先端			4238	11－109
7	CL39－36	Ⅳ	(0A)	珪質頁岩	(14.0)	(9.8)	2.8	(0.25)	先端・基部			5245	11－110
8	CL41－18	Ⅳ	(0A)	珪化凝灰岩	(15.9)	(14.6)	3.3	(0.65)	先端・基部		(玉髄化)	4347	11－111
9	CL41－18	Ⅳ	(0A)	碧玉	(17.8)	16.0	4.5	(0.8)	先端・基部			4348	11－112
10	CM41－27	Ⅳ	(0A)	玉髄	(14.0)	21.0	4.0	(0.6)	先端			3338	11－113
11	CM41－17	Ⅳ	(0A)	珪質頁岩	(15.4)	18.5	3.5	(0.85)	先端			4230	11－114
12	CL39－36	Ⅳ	(0A)	珪質頁岩	(21.0)	24.0	4.5	(2.2)	先端			1066	11－115
13	CL39－35	Ⅳ	0BⅠa	玉髄	15.2	14.0	3.6	0.4				5145	12－ 1
14	CL39－35	Ⅳ	0BⅠa	珪化凝灰岩	(19.0)	18.0	6.5	(1.25)	先端			5148	11－116
15	CL39－36	Ⅳ	0BⅠa	珪質頁岩	(16.0)	(15.0)	3.7	(0.45)	先端・基部			5231	11－117
16	CL39－35	Ⅳ	0BⅠa	珪質頁岩	20.5	15.2	4.4	0.95				5147	11－118
17	CL39－36	Ⅳ	0BⅠa	珪質頁岩	15.8	15.2	3.0	0.25				5238	11－119
18	CL39－36	Ⅳ	0BⅠb	黒色頁岩	(21.0)	12.5	4.4	(0.75)	先端			5224	11－120
19	CL39－36	Ⅳ	0BⅡb	玉髄	23.0	14.5	6.4	1.7				5225	11－121
20	CL39－36	Ⅳ	0BⅡb	珪質頁岩	(23.5)	12.0	4.5	(1.1)	先端			5223	11－122
21	CL41－18	Ⅳ	0BⅡb	珪化凝灰岩	(25.5)	11.8	3.6	(0.9)	先端			4351	12－ 2
22	CL41－18	Ⅳ	0BⅡb	珪化凝灰岩	(22.5)	15.5	4.5	(1.1)	先端			4352	12－ 3
23	CL39－35	Ⅳ	(0B)	珪質頁岩	(32.8)	(25.5)	5.5	(3.3)	基部		未製品	5152	12－ 4
24	CL41－17	Ⅳ	(0B)	珪化凝灰岩	18.0	20.5	4.9	(1.52)	基部		未製品	4229	12－ 5

第36図　石　鏃(5)



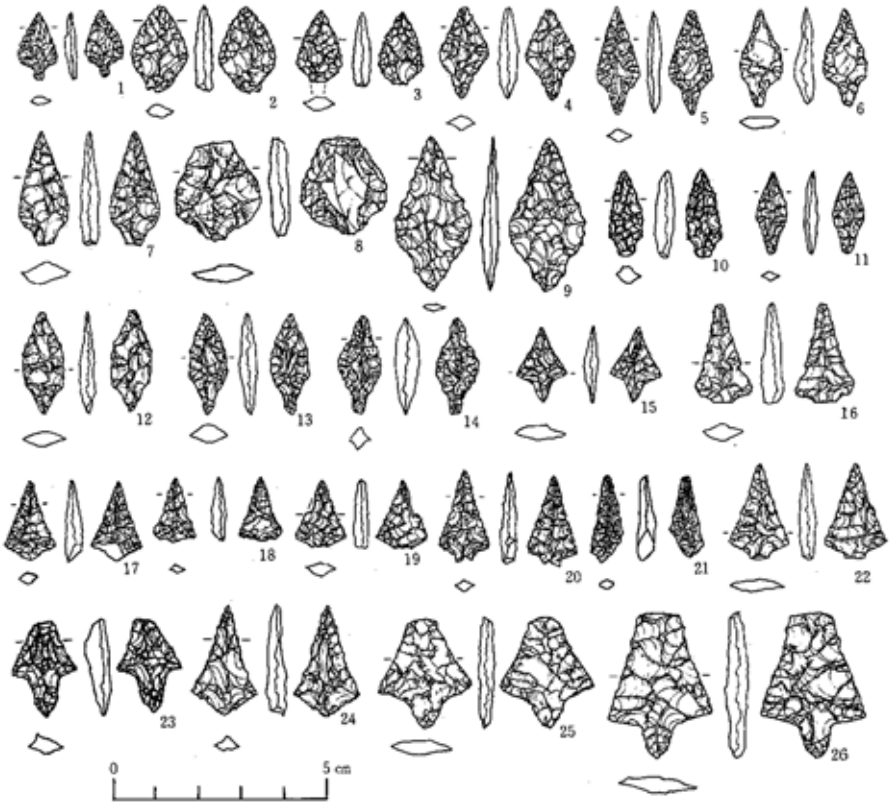
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41−18	Ⅳ	1A I a	黒色頁岩	(13.6)・12.4	11.1	3.9	(0.4)	基部			4337	12−6
2	CL41−17	Ⅳ	1A I b	珪化凝灰岩	21.0・19.8	13.8	4.0	0.6				4190	12−7
3	CL39−36	Ⅳ	1A IIa	碧玉	(13.1)・(9.2)	(12.3)	3.0	(0.39)	先端			5195	12−8
4	CM41−27	Ⅳ	0A IIa	玉髄	20.0・15.9	13.0	3.2	0.35				2236	12−9
5	CL40−26	Ⅳ	1A IIIa	碧玉〜玉髄	18.2・13.6	13.4	3.4	0.4				2969	12−10
6	CL41−18	Ⅳ	0A IIIa	黒曜岩	(18.1)・(15.0)	(17.7)	2.7	(0.45)	先端・基部・基部			4336	12−11
7	CL41−18	Ⅳ	1B I a	珪化凝灰岩	(13.5)・(10.6)	(13.4)	3.2	(0.4)	先端		焼クハジケ	4339	12−12
8	CM41−27	Ⅳ	1B I b	石英安山岩質凝灰岩(珪化)	(19.5)・17.1	14.5	3.3	(0.4)	基部	3	(珪化)	3332	12−13
9	CL39−36	Ⅳ	1B I b	珪化凝灰岩	(17.2)・(16.9)	15.5	4.0	(0.5)	先端・基部・基部			5243	12−14
10	CL39−36	Ⅳ	1C I a	黒色頁岩	(15.3)・10.5	12.8	3.0	(0.5)	基部	3		5205	12−15
11	CL40−26	Ⅳ	1C I a	黒色頁岩	12.8・8.1	7.5	2.5	0.1				2966	12−16
12	CL39−32〜35	Ⅳ	1C I a	黒曜岩	(15.0)・11.2	(11.0)	4.0	(0.3)	基部・基部			5125	12−17
13	CL41−17	Ⅳ	1C I a	珪質頁岩	(14.0)・(13.5)	10.7	2.8	(0.45)	先端・基部・基部			4241	12−18
14	CL41−17	Ⅳ	1C IIa	黒曜岩	20.3・11.2	14.0	2.5	0.55				4203	12−19
15	CL41−18	Ⅳ	1C IIa	珪化凝灰岩	21.0・14.0	12.04	0.7				(玉髄化)	4326	12−20
16	CL41−17	Ⅳ	1C I a	珪化凝灰岩	17.9・13.0	10.6	1.4	0.25			(玉髄化	4204	12−21
17	CM41−27	Ⅳ	1C I a	黒色頁岩	(17.5)・(10.8)	12.0	4.0	(0.5)	先端			2249	12−22
18	CL39−36	Ⅳ	1C I a	珪質頁岩	21.5・14.1	13.5	4.0	0.4				5193	12−23
19	CL39−36	Ⅳ	1C I a	黒色頁岩	26.5・16.9	14.5	5.0	1.0				5199	12−24
20	CL39−32〜35	Ⅳ	1C I a	珪化凝灰岩	22.5・16.5	14.0	4.0	0.5				5124	12−25
21	CM41−27	Ⅳ	1C I a	珪質頁岩	(25.0)・(16.0)	13.5	3.9	(0.6)			(ヤヤ凝灰質)・先端再加工	3331	12−26
22	CL39−35	Ⅳ	1C I a	珪質	27.0	15.3	5.1	1.37				5140	12−27
23	CM41−27	Ⅳ	1C I a	珪質頁岩	(15.2)・(12.9)	12.0	3.3	(0.35)	先端・基部			2242	12−28
24	CL41−17	Ⅳ	1C I b	珪化凝灰岩	(13.1)・(12.1)	13.0	3.2	(0.55)	先端・基部		(玉髄化)	4195	12−29
25	CL39−35	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	(20.0)・(15.3)	10.0	3.8	(0.4)	基部・基部			5135	12−30
26	CL39−35	Ⅳ	1C I b	玉髄	(20.7)・(16.0)	10.8	4.5	(0.75)	先端・基部			5134	12−31
27	CL41−17	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	(23.5)・20.0	13.5	4.0	(0.8)	側縁・基部			4213	12−32

第37図　石　鏃(6)



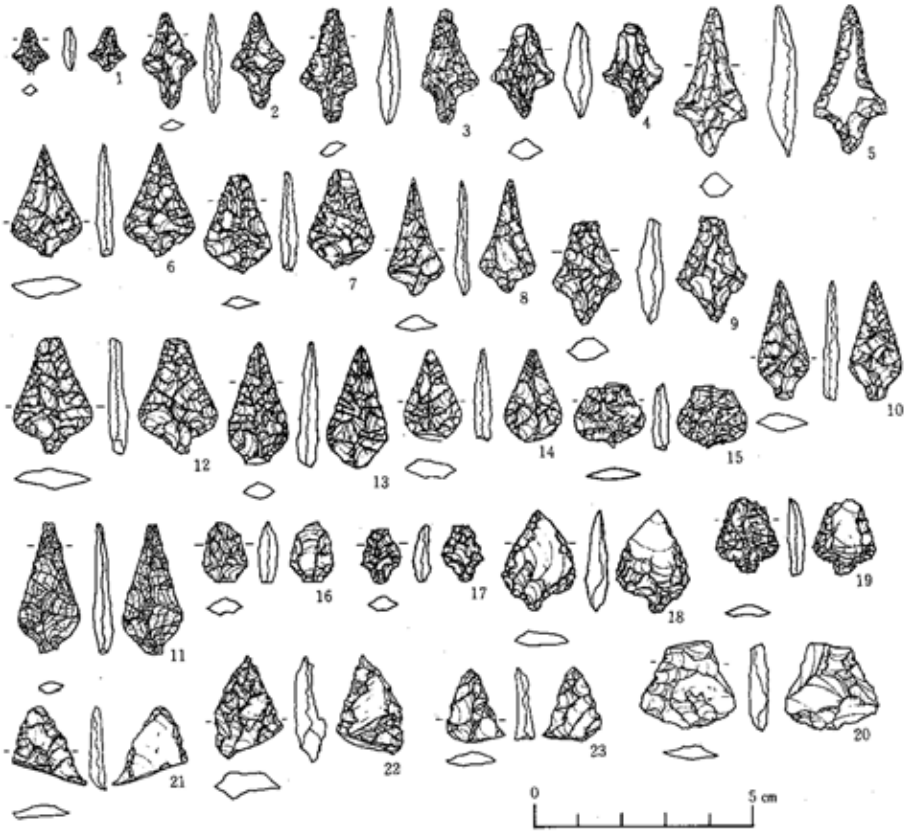
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−36	Ⅳ	1C I b	玉髄	(19.5)・(13.5)	13.0	4.0	(0.7)	先端・基部			829	12−34
2	CL41−17	Ⅳ	1C I b	碧玉	22.6	(11.5)	5.5	(1.0)	基部			4202	12−35
3	CL39−36	Ⅳ	1C I b	玉髄	(17.4)・14.1	10.6	3.5	(0.6)	基部	1		5215	12−36
4	CL41−18	Ⅳ	1C I b	黒色頁岩	23.2・15.8	10.0	3.8	0.8				4330	12−37
5	CL48−26	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	(19.6)・(14.1)	(11.5)	3.5	(0.5)	先端・側縁・基部	2		2916	12−38
6	CL39−36	Ⅳ	1C I b	珪化凝灰岩	(19.5)・(8.6)	12.0	4.5	(0.45)	先端		(玉髄化)	5214	12−39
7	CL39−35	Ⅳ	1C I b	玉髄	(22.8)・18.5	10.8	5.5	(0.7)	基部・基部			5139	12−33
8	CL41−17	Ⅳ	1C I b	黒色頁岩	(19.8)・(16.2)	(13.4)	2.6	(0.85)	先端・基部	2		4179	12−40
9	CL39−36	Ⅳ	1C I b	碧玉	(18.5)・17.3	(10.5)	3.8	(0.25)	基部・基部			5344	12−41
10	CL41−17	Ⅳ	1C I b	珪化凝灰岩	(18.2)・(13.0)	12.7	4.0	(0.9)	先端・基部		(玉髄化)	4207	12−42
11	CL39−36	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	(20.8)・(15.4)	12.5	3.5	(0.7)	先端・基部			5210	12−43
12	CL39−36	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	(25.0)・(20.7)	12.5	4.4	(1.15)	先端・基部			5197	12−44
13	CL39−36	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	33.0・22.9	14.5	4.6	1.0				5200	12−45
14	CL39−35	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	34.0・23.0	15.5	3.5	1.0				5126	12−46
15	CL41−18	Ⅳ	1C I b	珪質頁岩	35.2・28.0	14.5	4.2	1.3				4328	12−47
16	CL39−36	Ⅳ	1C I b	黒色頁岩	33.5・24.0	(16.0)	6.0	(2.0)	基部			5202	12−48
17	CL39−35	Ⅳ	1C IIa	珪質頁岩	(16.0)・10.0	10.0	3.6	(0.2)	基部		基部再加工	5142	12−49
18	CL39−36	Ⅳ	1C IIa	珪化凝灰岩	(17.1)・(10.0)	11.0	4.0	(0.4)	先端	1		5208	12−50
19	CL39−36	Ⅳ	1C IIa	珪化凝灰岩	(17.8)・(9.0)	11.2	4.5	(0.5)	先端・基部		先端再加工	5213	12−51
20	CL41−17	Ⅳ	1C IIa	珪質頁岩	22.8・13.9	13.5	4.3	0.8				4212	12−52
21	CL39−36	Ⅳ	1C IIa	珪質頁岩	21.5・11.2	16.0	4.9	0.7			先端素材面残り	5194	12−53
22	CL40−26	Ⅳ	1C IIa	黒色頁岩	(20.8)・(12.5)	13.5	3.4	(0.7)	先端	1		2957	12−54
23	CL39−35	Ⅳ	1C IIa	珪質頁岩	19.7・14.0	(14.0)	3.7	0.75	側縁	1	側縁再加工	5144	12−55
24	CM41−27	Ⅳ	1C IIa	黒色頁岩	(27.2)・(16.2)	19.5	5.0	(1.85)	先端			3333	12−56

第38図　石　鏃(7)



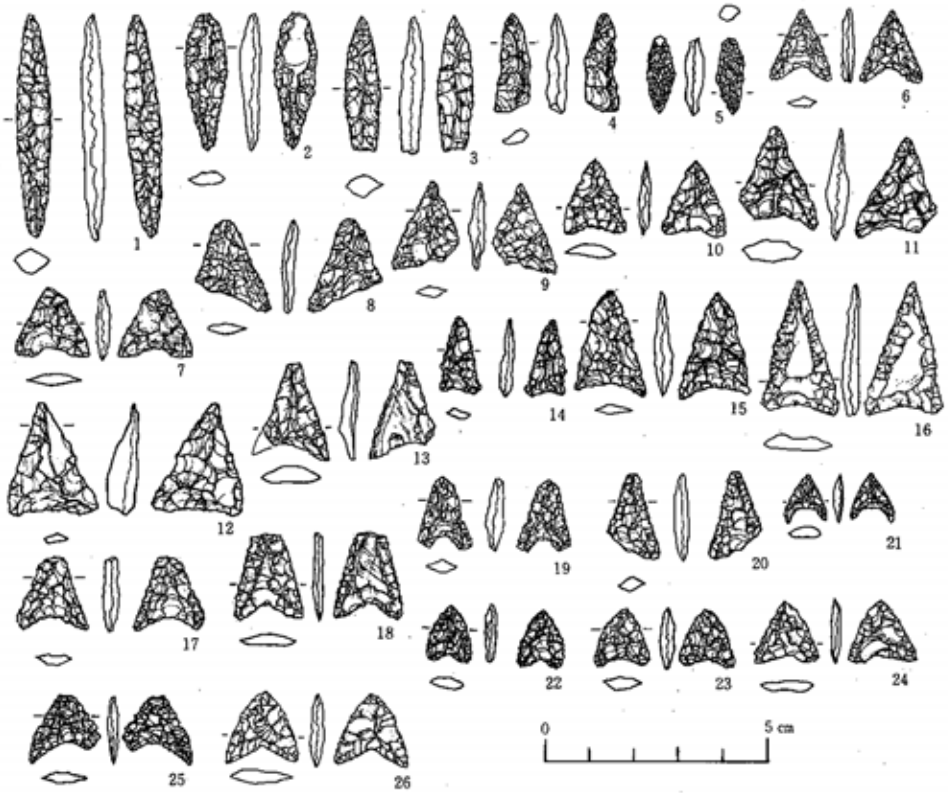
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒曜石	15.7 ・ 10.9	8.9	2.4	0.3				4210	12－57
2	CL39－36	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪質頁岩	(20.2)・(13.5)	13.5	3.8	(0.9)	先端・基部	3		5216	12－58
3	CL39－35	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	(17.8)・ 14.5	11.0	4.0	(0.6)	基部			5141	12－59
4	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	(21.3)・(12.2)	11.3	4.5	(0.8)	先端			4198	12－60
5	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪化凝灰岩	(24.3)・(15.8)	10.0	3.2	(0.7)	先端	1		4201	12－61
6	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪質頁岩	23.0 ・ 15.1	10.0	4.2	0.6				595	12－62
7	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	(27.0)・ 20.0	11.8	4.5	(1.35)	基部	2		4197	12－63
8	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	(23.4)・(16.4)	20.4	4.5	(2.05)	先端・基部			4216	12－64
9	CL40－26	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪質頁岩	36.5 ・ 23.7	17.8	3.8	1.7				2876	12－65
10	CL39－36	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	(20.2)・(15.5)	8.0	4.3	(0.45)	先端・基部	1		5211	52－67
11	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	19.2 ・ 10.9	7.2	3.0	0.38		1		4187	12－68
12	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪質頁岩	24.0 ・ 18.5	9.5	3.5	0.6				4185	12－69
13	CL41－18	Ⅳ	ⅠCⅢb	珪質頁岩	23.5 ・ 15.8	8.8	3.9	0.5				4325	12－70
14	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢb	黒色頁岩	22.8 ・ 13.5	10.0	5.5	1.0				4191	12－71
15	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢ1a	珪質頁岩	17.5 ・ 12.0	12.0	3.2	0.3				4194	12－72
16	CL41－18	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	細粒凝灰岩	(23.0)・(21.0)	13.8	4.7	(0.75)	先端・基部	3		777	12－73
17	CL41－18	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪化凝灰岩	(18.7)・ 15.7	11.5	3.7	(0.35)	基部		焼ナハジケ	4335	12－74
18	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪化凝灰岩	(15.0)・ 14.0	9.6	3.0	(0.35)	基部			4211	12－75
19	CL39－36	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	黒色頁岩	(36.5)・(13.7)	12.0	3.4	(0.25)	先端・基部			5201	12－76
20	CL41－18	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	玉髄	(21.2)・ 18.1	11.1	3.5	(0.65)	基部			4324	12－77
21	CL39－36	Ⅳ	ⅠCⅢ1a	珪質頁岩	(26.3)・(16.0)	(6.5)	3.9	(0.25)	先端・基部・基部		焼ナハジケ	5246	14－86
22	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(22.8)・ 20.2	13.8	4.0	(0.6)	基部	3		4206	12－78
23	CL39－35	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(22.5)・(12.4)	15.5	5.5	(0.65)	先端			5137	12－79
24	CL39－36	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	黒色頁岩	(26.0)・ 21.2	15.2	4.5	(0.7)	基部			5207	12－80
25	CL41－27	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(26.0)・(19.0)	22.0	3.2	(1.3)	先端			914	12－81
26	CL41－17	Ⅳ	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(34.0)・(24.3)	24.0	4.6	(2.4)	先端			4214	12－82

第39図　石　鏃(8)



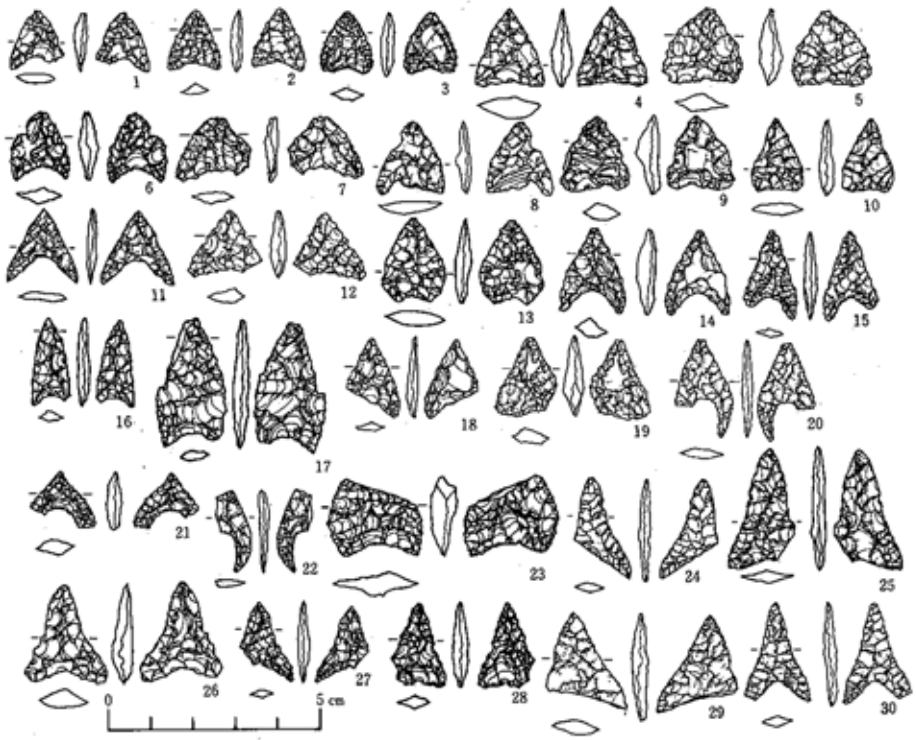
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41−18	Ⅳ	1C類1a	玉髄	(10.0)・(7.2)	8.3	2.6	(0.18)	先端			4338	12−83
2	CL41−17	Ⅳ	1C類1a	黒色頁岩	22.2・13.2	12.2	3.5	0.5		1	鋸ヤハジケ	4206	12−84
3	CL41−17	Ⅳ	1C類1b	黒色頁岩	(26.3)・(17.7)	(13.0)	5.0	(1.1)	先端・基部		基部再加工	4180	12−85
4	CL39−36	Ⅳ	1C類1b	黒色頁岩	(21.5)・12.8	14.0	6.0	(0.85)	先端			5196	12−86
5	CL41−17	Ⅳ	1C類1b	珪質頁岩	(34.2)・(26.2)	16.5	6.8	(2.1)	先端			4188	12−87
6	CL41−18	Ⅳ	1C類2b	珪質頁岩	(26.5)・20.9	16.0	4.0	(0.9)	基部			4329	12−89
7	CL41−17	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(22.8)・(17.8)	14.8	4.0	(1.1)	先端・基部			4200	12−90
8	CL41−18	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(26.0)・21.0	13.0	2.7	(0.5)	基部		基部再加工	4333	12−91
9	CL39−36	Ⅳ	1C類2b	硅化凝灰岩	(24.0)・(16.0)	16.0	5.8	(1.35)	先端			5148	12−88
10	CL41−17	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(27.5)・20.2	12.0	3.5	(0.8)	基部	2		4185	12−92
11	CL39−36	Ⅳ	1C類2b	砂質凝灰岩	(29.8)・(20.3)	13.6	4.0	(1.1)	先端・基部	2		5209	12−93
12	CL41−18	Ⅳ	1C類2b	玉髄	(26.5)・(19.8)	18.2	4.2	(1.2)	先端・基部	2	(凝灰岩質)	4327	12−94
13	CL41−17	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(23.0)・(21.8)	13.7	4.8	(1.42)	先端・基部			1955	12−95
14	CL41−17	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(20.5)・(16.0)	13.0	3.8	(0.7)	先端・基部	2		4209	12−96
15	CL41−18	Ⅳ	1C類2b	黒色頁岩	(14.6)・(9.8)	15.8	3.6	(0.8)	先端・基部			4334	12−97
16	CL41−18	Ⅳ	(1C)	珪質頁岩	(17.0)・(11.5)	13.8	3.9	(0.8)	先端・基部			4331	12−99
17	CL39−36	Ⅳ	(1C)	黒色頁岩	(14.2)・(10.7)	10.5	4.5	(0.4)	先端・基部			5205	12−100
18	CL39−36	Ⅳ	(1C)	黒色頁岩	(13.0)・(8.2)	(8.8)	3.5	(0.35)	先端・基部			5206	12−101
19	CL39−36	Ⅳ	(1C)	硅化凝灰岩	(23.0)・(13.1)	17.0	5.0	(1.05)	先端			5212	12−98
20	CL41−18	Ⅳ	(1C)	玉髄	(19.4)・(19.0)	21.6	4.2	(1.8)	先端・基部			4355	12−102
21	CL41−18	Ⅳ	(1C)	珪質頁岩	(16.5)	(17.0)	3.2	(0.4)	基部			4358	12−103
22	CL41−18	Ⅳ	(1C)	珪質頁岩	(23.5)	(15.8)	6.2	(0.8)	基部			4360	12−104
23	CL41−18	Ⅳ	(1C)	碧玉	(16.8)	(13.0)	4.1	(0.45)	基部			4361	12−105

第40図　石　鏃(9)



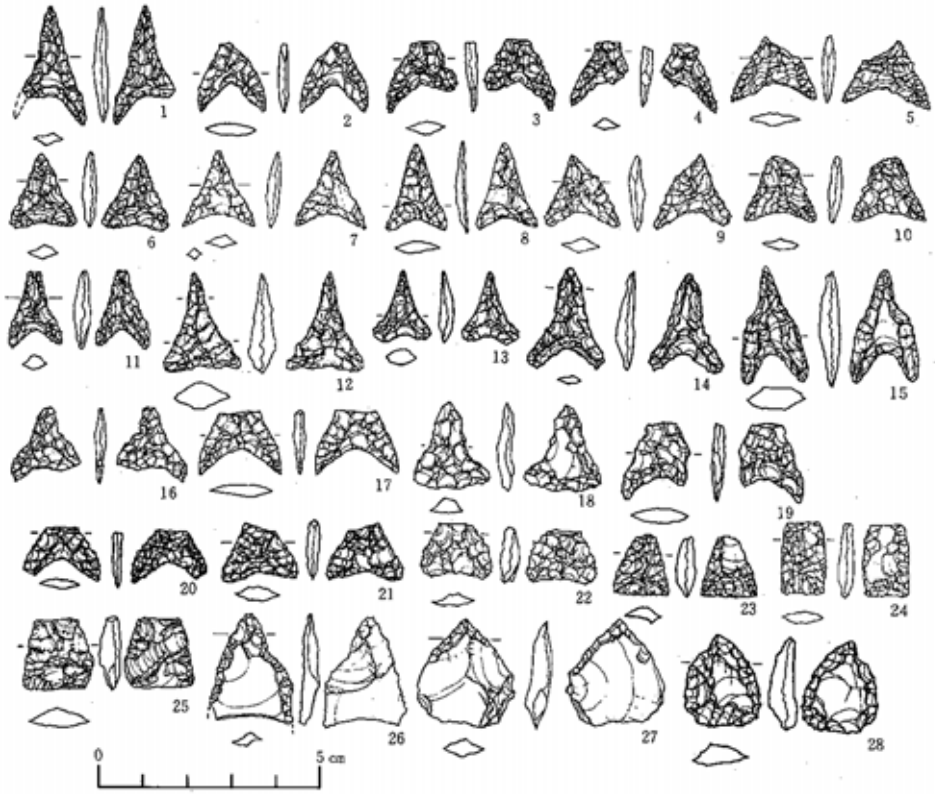
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41−27	Ⅳ	1D	珪化頁岩	51.0	8.0	4.7	1.5				2247	12−106
2	CL39−35	Ⅳ	1D	珪質頁岩	31.5	9.0	4.5	1.0				823	12−107
3	CL41−18	Ⅳ	1D	珪質頁岩	(31.8)	8.0	4.9	(0.9)	基部			4342	12−108
4	CL39−35	Ⅳ	1D	黒色頁岩	(22.5)	(7.6)	4.5	(0.7)	基部			5150	12−109
5	CL39−35	Ⅳ	1D	黒色頁岩	(12.3)・(10.5)	6.0	4.0	(0.45)	先端・基部			5138	12−110
6	CM41−25	Ⅴ	0A Ⅰa	珪質頁岩	16.5	14.0	2.7	0.3	基部			3445	12−111
7	CL40−25	Ⅴ	0A Ⅰa	珪化頁岩	(16.0)	17.0	2.8	(0.4)	先端			1017	12−112
8	CL41−26	Ⅴ	0A Ⅰa	珪質頁岩	22.0	13.5	2.6	(0.7)	基部			6364	12−113
9	CM41−25	Ⅴ	0A Ⅰa	珪質頁岩	(19.8)	(15.2)	3.8	(0.6)	基部			3440	12−114
10	CL40−25	Ⅴ	0A Ⅰa	玉髄	16.5	13.8	3.1	(0.45)				2897	16− 18
11	CM41−23	Ⅴ	0A Ⅰa	珪質頁岩	23.5	(17.5)	4.6	(1.0)	基部		(やや黒沢石)	3594	12−115
12	CL40−24	Ⅴ	0A Ⅰa	珪質頁岩	26.0	20.5	6.9	(2.35)	基部			2794	12−116
13	CL41−15	Ⅴ	0A Ⅰb	珪質頁岩	(22.8)	(12.6)	3.6	(0.75)	先端・基部			3954	12−117
14	CL40−24	Ⅴ	0A Ⅰb	玉髄	(17.5)	10.0	2.9	(0.32)	先端・基部			2796	12−118
15	CL39−31C	Ⅴ	0A Ⅰb	碧玉	24.0	16.0	4.0	(0.9)	基部			304	12−119
16	CM41−26	Ⅴ	0A Ⅰb	珪質頁岩	20.5	(17.5)	3.6	(1.3)	基部			610	12−120
17	CL39−33	Ⅴ	0A Ⅰb	珪化頁岩	(17.0)	(16.0)	3.5	(0.5)	先端・基部			5110	12−121
18	CL41−16	Ⅴ	0A Ⅰb	珪質頁岩	(19.2)	15.1	2.2	(0.65)	先端			4101	12−122
19	CM41−25	Ⅴ	0A Ⅰb	珪質頁岩	(17.0)	(12.5)	3.7	(0.4)	先端・基部			1229	12−123
20	CL39−31b	Ⅴ	0A Ⅰb	珪化頁岩	(19.5)	(12.0)	2.7	(0.3)	先端・基部			285	12−124
21	CL41−15	Ⅴ	0A Ⅰb	珪質頁岩	10.4	9.3	2.2	1.2			(玉髄化)	3951	12−125
22	CL40−23	Ⅴ	0A Ⅱ1a	黒曜岩	(13.0)	(10.5)	2.5	(0.28)	先端・基部			2859	12−126
23	CL39−31C	Ⅴ	0A Ⅱ1a	黒曜岩	14.0	(12.8)	2.7	(0.25)	先端・基部			4999	12−127
24	CL41−16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	(13.7)	(14.5)	2.3	(0.42)	先端・基部			4100	12−128
25	CM41−26	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪化頁岩	(15.5)	(16.0)	2.0	(0.2)	先端・基部		(石英安山岩質)	1253	12−129
26	CL41−16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	16.8	16.5	2.6	0.5	先端			4099	12−130

第41図　石　鏃(10)



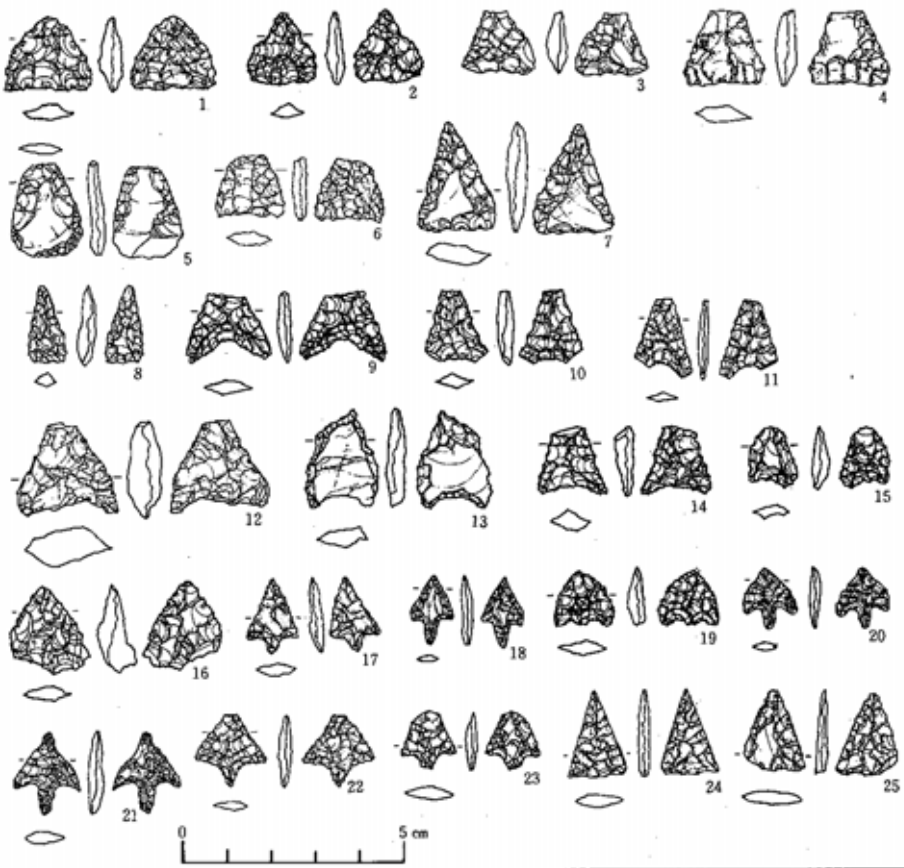
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM40－8	Ⅴ	0A Ⅱ1a	黒色頁岩	(13.8)	(12.7)	3.2	(0.4)	先端・基部		側ケバジケ	2316	16－27
2	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅱ1a	玉髄	14.2	13.0	2.5	0.18	基部			3441	12－131
3	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	黒曜岩	16.2	18.4	5.3	1.22				4097	15－1
4	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	18.5	16.2	5.1	1.15				4105	12－132
5	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	(18.5)	19.2	5.2	(1.1)	先端・基部			3438	12－133
6	CM39－34	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪化凝灰岩	(16.5)	14.5	4.4	(0.3)	先端・側縁		(一部玉髄化)	5591	12－134
7	CL39－33	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	(15.2)	(16.0)	3.0	(0.35)	先端・基部			5109	12－135
8	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	珪質頁岩	17.5	15.5	3.0	(0.4)			未製品	654	12－136
9	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅱ1a	黒曜岩	14.2	12.1	2.9	0.48				4102	14－138
10	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅱ1a	碧玉	17.5	12.2	3.1	0.55	先端・基部			3443	12－138
11	CM40－8	Ⅴ	0A Ⅰa	珪化凝灰岩	17.2	16.9	2.2	0.4			(玉髄化)	2311	16－14
12	CL40－25	Ⅴ	0A Ⅱ1b	珪化凝灰岩	(16.0)	(18.0)	3.4	(0.4)	先端・基部		(玉髄化)	2906	12－137
13	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅱ1b	珪質頁岩	19.9	15.0	3.8	0.95				4098	12－139
14	CM41－23	Ⅴ	0A Ⅱ1b	石英安山岩質凝灰岩	(20.2)	15.5	4.2	(0.8)	先端・基部			3596	12－140
15	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅱ1b	黒曜岩	(21.5)	(12.8)	3.0	(0.35)	先端・基部			640	12－141
16	CL40－25	Ⅴ	0A Ⅱ1b	珪質頁岩	21.0	(9.0)	2.7	(0.3)	先端・基部			2902	12－142
17	CL41－15	Ⅴ	0A Ⅱ1b	流紋岩	(31.0)	26.0	3.8	(1.6)	先端～側縁・基部			4440	12－143
18	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅱ1b	珪質頁岩	(19.0)	(13.0)	2.5	(0.2)	先端・基部			3444	13－1
19	CM41－26	Ⅴ	0A Ⅱ1b	珪質頁岩	(19.0)	(14.5)	4.7	(0.75)	先端・基部			4494	13－2
20	CL40－24	Ⅴ	0A Ⅱ2	玉髄	(23.5)	14.0	2.5	(0.2)	先端・基部			2797	13－3
21	CL39－31C	Ⅴ	0A Ⅱ2	珪質頁岩	(13.5)	(15.5)	3.5	(0.2)	側縁～基部			5000	13－4
22	CL40－25	Ⅴ	0A Ⅱ2	珪化凝灰岩	18.5	6.4	2.2	0.25	先端・基部			2905	16－40
23	CL40－23	Ⅴ	0A Ⅱ1a	碧玉	(18.5)	22.5	6.0	(1.7)	先端～側縁			5941	13－5
24	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅲb	珪質頁岩	24.2	(13.0)	2.3	(0.3)	基部		(玉髄化)	1235	13－6
25	CL40－24	Ⅴ	0A Ⅲb	珪質頁岩	(29.0)	(15.5)	3.2	(0.7)	先端・基部			209	13－7
26	CL41－16	Ⅴ	0A Ⅲa	玉髄	23.0	19.0	4.6	1.35				4108	13－8
27	CM41－25	Ⅴ	0A Ⅲa	珪化凝灰岩	19.0	(12.5)	2.4	(0.15)	基部			3448	13－9
28	CM39－32	Ⅴ	0A Ⅲb	珪化凝灰岩	(19.8)	13.5	3.5	(0.4)	基部			5044	13－10
29	CL39－31	Ⅴ	0A Ⅲb	玉髄	(23.0)	(19.0)	3.3	(0.8)	基部			645	13－11
30	CL40－25	Ⅴ	0A Ⅲb	珪質頁岩	(23.5)	(16.0)	2.4	(0.4)	先端・基部			282	13－12

第42図　石　鏃(11)



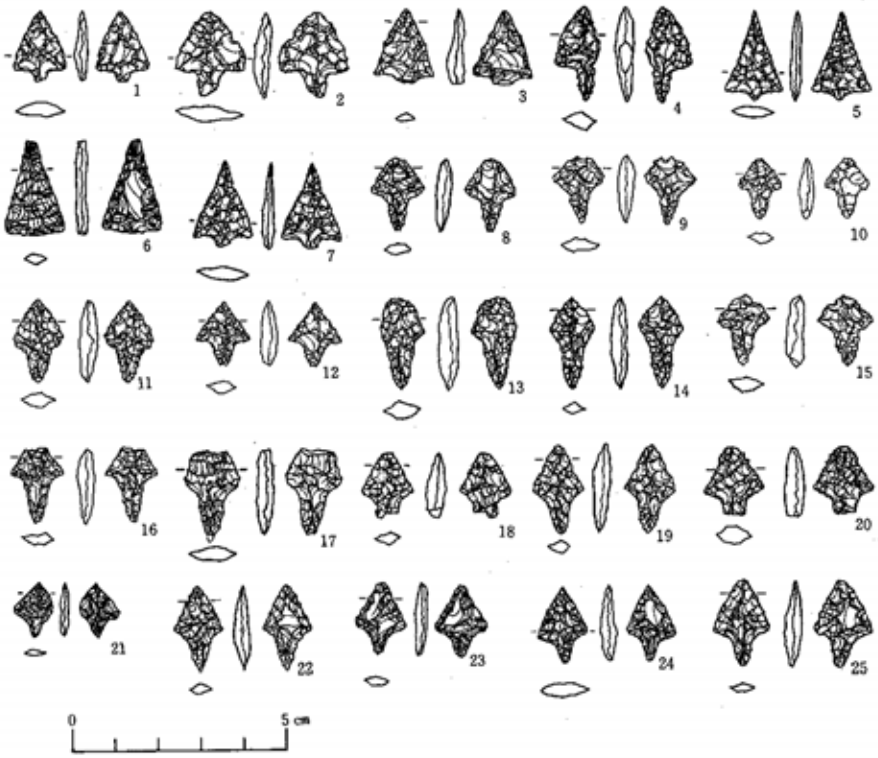
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40−25	Ⅴ	0AⅢb	珪質頁岩	27.0	(13.8)	3.0	(0.4)	基部			2898	13−13
2	CL41−16	Ⅴ	0AⅢb	珪質頁岩	(15.6)	15.0	2.1	(0.4)	先端			4104	13−14
3	CM41−26	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(15.8)	(16.0)	2.7	(0.3)	先端・基部		(石英安山岩質)	4493	13−15
4	CM41−25	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(15.8)	(13.0)	2.7	(0.2)	先端・基部		(石英安山岩質)	3445	13−16
5	CL40−25	Ⅴ	0AⅢa	珪質頁岩	(15.8)	(19.5)	2.6	(0.4)	先端・基部		(硅化)	2904	13−17
6	CL39−33C	Ⅴ	0AⅢa	珪化凝灰岩	(17.5)	(15.3)	3.0	(0.4)	基部			4998	13−18
7	CL40−25	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(17.2)	16.5	2.9	(0.2)	先端	3		6128	13−19
8	CM41−26	Ⅴ	0AⅢb	珪質頁岩	20.0	14.0	2.2	0.2	基部			1254	13−20
9	CM40−8	Ⅴ	0AⅢb	黒色頁岩	(16.5)	(17.2)	3.0	(0.4)	先端・基部			2310	13−21
10	CM41−24	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(15.5)	16.0	2.9	(0.4)	先端			4460	13−22
11	CM41−26	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(17.5)	12.0	3.7	(0.3)	先端		(石英安山岩質)	4491	13−23
12	CM41−23	Ⅴ	0AⅢb	珪質頁岩	23.0	17.5	5.7	0.9				3595	13−24
13	CL41−15	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	15.8	12.8	3.3	0.38	先端・基部			3950	13−25
14	CL40−25	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	23.0	17.2	4.0	0.6	基部			2899	13−26
15	CL41−15	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(26.2)	15.5	4.4	(1.0)	先端		再加工	3948	13−27
16	CM40−8	Ⅴ	0AⅢb	黒色頁岩	(13.3)	(18.8)	2.7	(0.42)	先端・基部			2312	16−49
17	CL41−15	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(14.3)	18.7	2.4	(0.5)	先端			3953	16−53
18	CL40−25	Ⅴ	0AⅢb	珪質頁岩	19.6	17.2	3.0	0.8				5609	16−54
19	CM40−8	Ⅴ	0AⅢb	珪化凝灰岩	(17.3)	(14.8)	2.9	(0.45)	先端・基部			2326	16−55
20	CM39−32	Ⅴ	0AⅢb	玉髄	(13.0)	17.8	2.0	(0.2)	先端・基部			5062	13−28
21	CL40−24	Ⅴ	(0A)	珪質頁岩	(13.8)	17.5	2.8	(0.5)	先端			2798	13−29
22	CL41−25	Ⅴ	(0A)	珪質頁岩	(12.5)	16.2	4.3	(0.6)	先端			3447	13−30
23	CL41−16	Ⅲ	0BⅠa	珪化凝灰岩	(13.9)	12.4	3.8	(0.55)	先端			1236	15−29
24	CM41−26	Ⅴ	0BⅡb	珪質頁岩	(17.0)	16.5	3.3	(0.55)	先端・基部			4500	13−31
25	CL41−16	Ⅴ	(0B)	凝灰岩	(15.8)	(15.8)	4.4	(0.8)	先端・基部			609	13−33
26	CM41−26	Ⅴ	(0B)	珪化凝灰岩	(25.0)	(19.0)	4.0	(1.4)	先端・基部			4497	13−34
27	CM41−26	Ⅴ	0BⅡa	黒色頁岩	25.0	(21.8)	4.6	(2.0)	基部			4498	13−35
28	CL・M39−32	Ⅴ	0BⅡa	碧玉	21.0	17.5	6.2	(1.8)	先端・基部			5073	13−36

第43図　石　鏃(12)



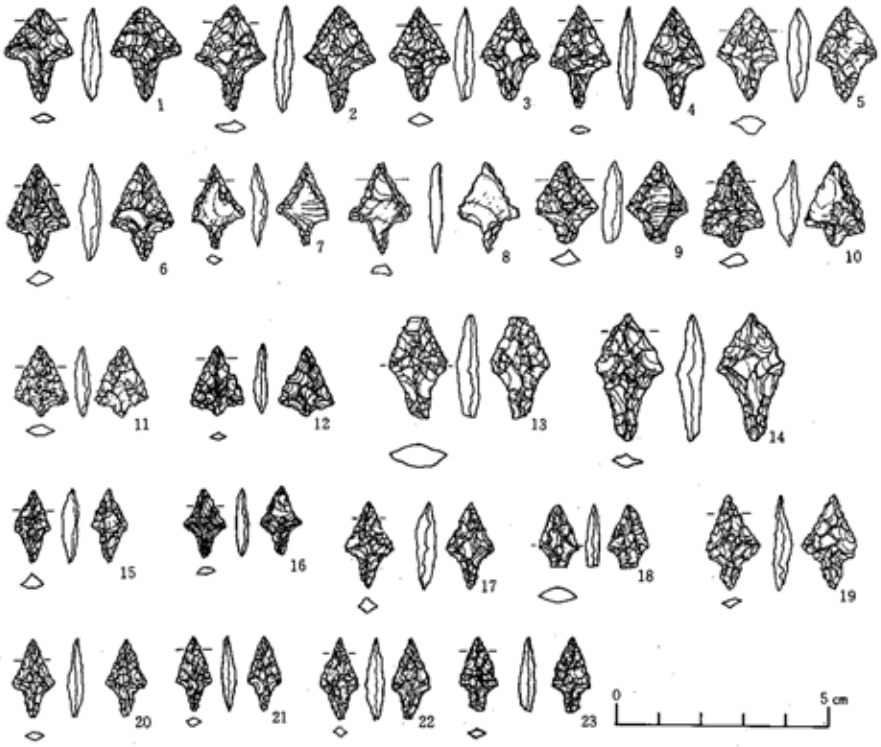
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41－16	Ⅴ	6BⅠa	珪化頁岩	16.5	19.2	4.8	1.27				4091	15－36
2	CM39－32	Ⅴ	6BⅡa	碧玉	17.0	16.0	4.0	0.65	基部			5066	13－37
3	CL40－25	Ⅴ	6BⅠa	珪化頁岩	(11.4)	(10.5)	5.0	(0.98)	先端・基部			1018	
4	CM40－8	Ⅴ	6BⅠb	珪質頁岩	(17.0)	18.0	2.6	(1.1)	先端・基部			73	13－38
5	CL40－25	Ⅴ	6BⅠb	珪質頁岩	(23.1)	16.2	2.6	(1.1)	先端			5822	16－62
6	CM41－26	Ⅴ	6BⅡa	碧玉	(14.0)	15.5	3.0	(0.6)	先端・基部			4095	13－32
7	CM40－8	Ⅴ	6BⅠb	珪質頁岩	(25.0)	(17.5)	4.4	(1.3)	先端・基部			74	13－39
8	CM41－24	Ⅴ	6BⅠb	珪質頁岩	(17.5)	8.0	3.9	(0.4)	先端			4458	13－40
9	CL40－24	Ⅴ	(3A)	玉髄	(16.5)	19.0	3.0	(0.6)	先端・基部			2799	13－41
10	CL41－16	Ⅴ	(3A)	珪質頁岩	(14.2)	(13.9)	1.3	(0.6)	先端・基部			4094	13－42
11	CL41－16	Ⅴ	(3A)	碧玉	(18.1)	(13.3)	2.1	(0.5)	先端・基部			4095	13－43
12	CM41－25	Ⅴ	(3A)	玉髄	(21.5)	22.5	7.2	(3.0)	先端			961	13－44
13	CM39－32	Ⅴ	(3A)	珪質頁岩	22.0	17.0	4.2	1.15			未製品？	5056	13－45
14	CM39－32	Ⅴ	(3A)	珪質頁岩	(16.0)	(16.0)	4.0	(0.5)	先端			5063	13－46
15	CM39－32	Ⅴ	(3A)	珪質頁岩	(14.0)	(11.2)	3.7	(0.25)	先端・基部		焼ケハジケ	5071	13－47
16	CL41－16	Ⅴ	(3A)	珪化頁岩	(19.9)	(15.5)	5.8	(1.65)			未製品？	4110	15－47
17	CM41－25	Ⅴ	1AⅠa	岩医安山岩質頁岩	17.0 ・ 13.8	11.5	3.1	(0.2)	基部		焼ケハジケ	962	13－48
18	CL39－31	Ⅴ	1AⅠa	珪化頁岩	15.7 ・ 9.4	9.3	2.3	0.22			(玉髄化)	4864	13－49
19	CL40－24	Ⅴ	1AⅡa	珪質頁岩	(12.2)・13.0	13.5	3.5	(0.58)	基部		焼ケハジケ	5536	13－50
20	CL39－31	Ⅴ	1AⅡa	珪化頁岩	(13.8)・(10.3)	12.2	2.2	(0.3)	先端		(玉髄化)	4855	13－51
21	CM41－25	Ⅴ	1AⅢa	珪質頁岩	18.7 ・ 13.0	15.1	3.3	0.42				6093	13－52
22	CM41－25	Ⅴ	1BⅠa	黒曜岩	(16.5)・(12.1)	16.0	2.9	(0.3)	先端			3416	13－53
23	CL41－15	Ⅴ	1BⅠa	珪化頁岩	(12.5)・(9.7)	12.3	2.8	(0.35)	先端・基部			3937	13－54
24	CM41－25	Ⅴ	1BⅠb	珪質頁岩	(19.2)・19.6	(13.0)	2.6	(0.4)	基部・基部			3439	13－55
25	CL41－15	Ⅴ	1BⅠb	黒色頁岩	(18.1)・(17.8)	(12.4)	3.1	(0.65)	基部・基部			3952	13－56

第44図　石　鏃(13)



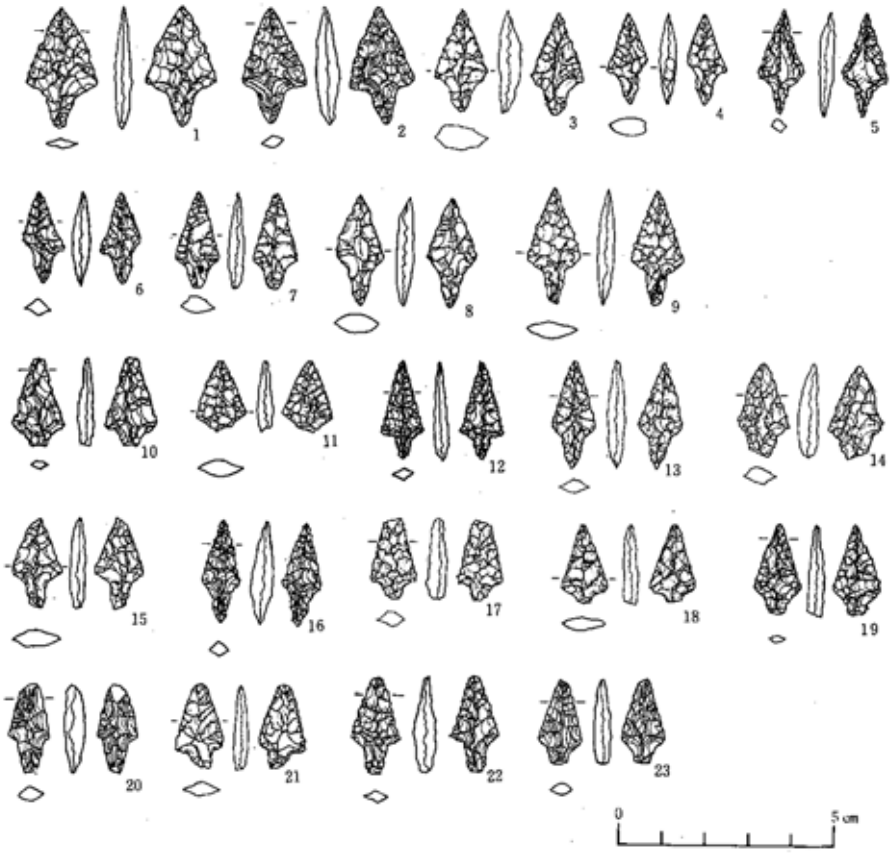
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41−15	V	1BⅢb	珪化頑沢岩	(16.0)・14.7	12.0	3.3	(0.4)	基部			3939	13−57
2	CL41−15	V	1BⅢb	珪化頑沢岩	(19.5)・14.7	16.1	4.0	(0.9)	基部		央あり・焼ハジケ	3946	13−58
3	CM40−8	V	1BⅢb	珪化頑沢岩	(16.8)・15.4	13.4	3.9	(0.62)	基部		(玉髄化)	2314	13−59
4	CM39−32	V	1BⅢa	珪質頁岩	22.0・14.5	(11.0)	4.3	(0.4)	基部	2	側縁−基部押圧工後欠損	5053	13−60
5	CL41−16	V	1BⅢb	玉髄	20.6・19.3	13.0	2.7	0.5				4081	13−61
6	CL40−24	V	1BⅢb	珪質頁岩	(21.8)・(21.2)	13.3	2.7	(0.75)	先端・基部	3	(一部玉髄化)	2788	13−62
7	CL41−16	V	1AⅢb	黒色頁岩	(19.8)	13.6	3.0	(0.48)	基部			4087	13−63
8	CL・M39−32鍬	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(17.0)・(8.8)	12.5	3.3	(0.4)	先端			5054	13−64
9	CM41−25	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(16.0)・(6.7)	(12.0)	3.7	(0.3)	先端・基部		(玉髄化)	3457	13−65
10	CM41−25	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(14.2)・(7.2)	10.5	3.4	(0.15)	先端		(玉髄化)	3427	13−66
11	CM41−25	V	1CⅠa	珪質頁岩	(14.8)・9.6	12.5	3.7	(0.25)	基部			3419	13−68
12	CL39−31C	V	1CⅠa	黒色頁岩	(21.2)・(9.5)	(10.3)	4.4	(0.35)	先端・基部	1		4995	13−69
13	CL・M39−32鍬	V	1CⅠa	珪質頁岩	21.5・8.5	10.5	3.8	0.45				5059	13−70
15	CM41−23	V	1CⅠa	黒色頁岩	(16.5)・(6.7)	13.0	4.0	(0.4)	先端・基部			3592	13−71
16	CM41−25	V	1CⅠa	玉髄	(17.0)・(6.5)	12.5	4.2	(0.4)	先端			3430	13−72
17	CM41−25	V	1CⅠa	玉髄	(19.7)・(7.2)	12.6	4.0	(0.75)	先端		(珪化頑沢岩)	639	14−72
18	CL40−23	V	1CⅠa	珪質頁岩	(15.2)・(10.5)	12.0	4.5	(0.45)	先端・基部			2855	13−73
19	CL・M39−32鍬	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(21.0)・(11.5)	12.0	3.9	(0.7)	先端		(玉髄化)	5041	13−74
20	CL39−31a	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(16.0)・(10.2)	14.2	4.5	(0.5)	先端・基部			5026	13−75
21	CL39−31	V	1CⅠa	玉髄	12.6・7.3	9.0	2.0	(0.2)	基部		(緑色)	4868	13−76
22	CL39−31	V	1CⅠa	玉髄	20.0・11.0	11.5	3.6	0.4				4862	13−77
23	CM41−25	V	1CⅠa	黒色頁岩	(16.4)・(10.2)	6.7	2.7	(0.4)	先端・基部			1230	13−78
24	CL41−16	V	1CⅠa	珪質頁岩	17.8・12.2	12.0	3.6	0.35				4072	13−79
25	CL40−23	V	1CⅠa	珪化頑沢岩	(20.0)・(12.9)	13.0	4.1	(0.5)	先端	1		2852	13−80

第45図　石　鏃(14)



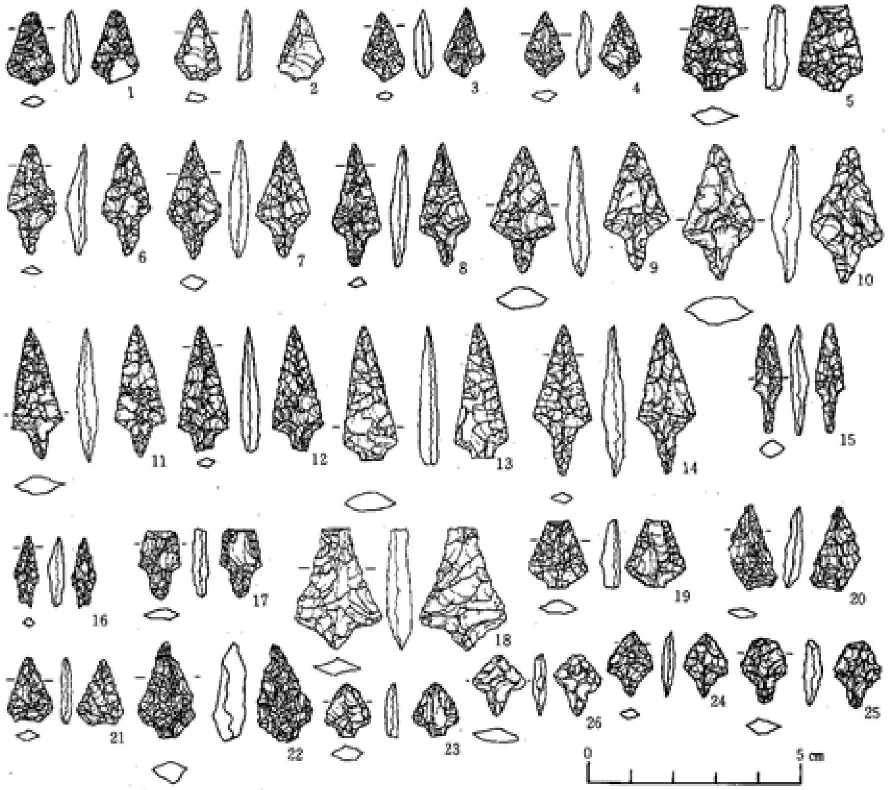
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40−24	V	1C I a	珪質頁岩	(22.2)・(12.2)	16.0	4.3	(0.75)	先端			2792	13− 81
2	CM40−8	V	1C I a	珪質頁岩	(25.5)・14.0	17.0	4.3	(0.75)	基部			2305	13− 82
3	CL40−24	V	1C I a	珪化凝灰岩	22.5・13.3	14.5	4.7	0.65			(炭酸化)	2783	13− 83
4	CM41−24	V	1C I a	珪化凝灰岩	24.5・14.3	14.0	3.9	0.6		1		4457	13− 84
5	CM41−25	V	1C I a	黒色頁岩	22.5・12.5	14.5	5.0	1.0				3424	13− 85
6	CL39−31	V	1C I a	黒色頁岩	23.5・15.0	15.0	4.8	0.7		2		4845	13− 86
7	CM41−23	V	1C I a	珪化凝灰岩	20.0・13.3	12.8	3.0	0.3				3593	13− 87
8	CM41−23	V	1C I a	黒色頁岩	(22.0)・14.2	15.0	2.9	(0.5)	先端			3414	13− 88
9	CL39−31C	V	1C I a	珪質頁岩	(19.5)・12.5	14.5	4.3	(0.8)	基部	1		4994	13− 89
10	CL39−31	V	1C I a	玉髄	20.0・16.0	14.5	5.6	0.9				4847	13− 90
11	CM41−23	V	1C I a	珪質頁岩	17.2・14.1	(12.5)	3.5	(0.35)	基部			3425	13− 91
12	CL40−25	V	1C I a	珪化凝灰岩	16.5・13.7	13.0	3.0	0.35				2896	13− 92
13	CL41−15	V	1C I a	黒色頁岩	(24.1)・(12.6)	(13.7)	5.2	(1.25)	先端・基部	1		2935	13− 93
14	CL40−23	V	1C I a	珪質頁岩	30.0・15.0	16.0	6.1	1.6				2854	13− 94
15	CM41−25	V	1C I a	珪質頁岩	17.5・10.0	8.5	3.7	0.2		1		3418	13− 95
16	CL40−25	V	1C I a	珪化凝灰岩	16.0・9.5	9.7	2.7	0.4				2895	13− 96
17	CM40−8	V	1C I a	珪質頁岩	21.0・11.5	11.5	4.5	0.55		1		2307	13− 97
18	CL41−15	V	1C I a	黒色頁岩	(14.7)・(11.2)	9.5	3.4	(0.42)	先端・基部			2932	13− 98
19	CL40−24	V	1C I a	黒色頁岩	22.5・13.2	(12.5)	4.0	(0.6)	基部			2786	13− 99
20	CM41−25	V	1C I b	黒色頁岩	18.5・11.8	10.0	3.6	0.3		1		3422	13−100
21	CL・M39−32表	V	1C I b	黒曜岩	17.5・11.3	8.5	3.3	0.2			(流紋岩の一種)	5058	13−101
22	CL40−25	V	1C I b	珪質頁岩	19.5・12.2	9.0	4.3	0.4				2891	13−102
23	CL39−31	V	1C I b	珪質頁岩	(18.0)・12.2	9.0	3.5	(0.25)	基部	1		4857	13−103

第46図　石　鏃(15)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40−24	V	1C1a	珪化頁岩	28.0 + 18.3	16.0	3.5	0.9			(玉髄化)	2782	13−104
2	CL39−32	V	1C1a	珪化頁岩	26.8 + 17.8	14.5	5.5	1.25			(玉髄化)	757	13−105
3	CM41−25	V	1C1b	珪質頁岩	24.0 + 16.3	(12.2)	5.4	0.8	基部			3429	13−106
4	CL41−16	V	1C1a	玉髄	20.7 + 12.3	(9.3)	4.2	0.5	基部			4075	15− 86
5	CL39−31	V	1C1b	黒色頁岩	24.5 + 16.9	11.0	3.0	0.5				4546	13−107
6	CL41−16	V	1C1b	玉髄	(20.8) + (12.1)	(9.2)	4.0	(0.5)				4075	15− 86
7	CL41−16	V	1C1b	珪質頁岩	22.0 + 16.0	10.0	3.5	0.49		1		1242	13−108
8	CL41−16	V	1C1b	黒色頁岩	25.0 + 16.0	11.0	3.7	0.92	先端・基部			4070	13−109
9	CL41−16	V	1C1b	黒色頁岩	26.7 + 17.0	12.0	4.5	0.95		1		4076	15− 94
10	CM41−26	V	1C1b	珪質頁岩	(21.0) + (16.0)	12.2	3.5	(0.6)	先端・基部			4477	13−110
11	CL41−15	V	1C1b	珪化頁岩	(16.1) + (13.0)	(11.1)	3.6	(0.5)	先端・基部			3938	13−111
12	CM39−32	V	1C1b	珪質頁岩	23.0 + 17.1	10.0	3.2	0.2				5055	13−112
13	CM41−26	V	1C1b	珪化頁岩	(24.5) + (15.8)	10.0	3.9	(0.6)	先端	1		4080	13−113
14	CL40−23	V	1C1b	珪化頁岩	(22.0) + (15.3)	12.0	4.5	(0.75)	先端・基部・基部		(玉髄化)	2856	13−114
15	CL41−15	V	1C1b	黒色頁岩	(20.5) + (13.0)	(11.2)	3.8	(0.65)	先端・基部			3936	13−115
16	CL39−31a	V	1C1b	珪質頁岩	24.0 + 15.3	9.0	4.9	0.6		1		5025	13−116
17	CM41−26	V	1C1b	黒色頁岩	19.1 + 14.7	10.5	4.2	0.5	先端・基部			4481	13−117
18	CL41−16	V	1C1b	珪質頁岩	(16.0) + 15.2	11.0	2.8	(0.3)	基部			4074	13−118
19	CL40−25	V	1C1b	珪化頁岩	(21.2) + (15.3)	11.0	3.5	(0.5)	先端・基部	1		2889	13−119
20	CL40−25	V	1C1b	珪質頁岩	(20.3) + (12.3)	9.3	4.4	(0.8)	先端・基部	1		2885	13−120
21	CM41−25	V	1C1b	珪質頁岩	(19.6) + 14.8	11.0	3.5	(0.5)	基部		先端再加工	638	13−121
22	CL40−23	V	1C1b	珪化頁岩	(21.8) + (13.4)	(11.5)	5.3	(0.67)	先端・基部・基部	1	(玉髄化)	2853	13−122
23	CL41−16	V	1C1b	玉髄	(19.1) + (14.6)	9.7	4.0	(0.6)	先端・基部	1		6165	13−123

第47図　石　鏃(16)

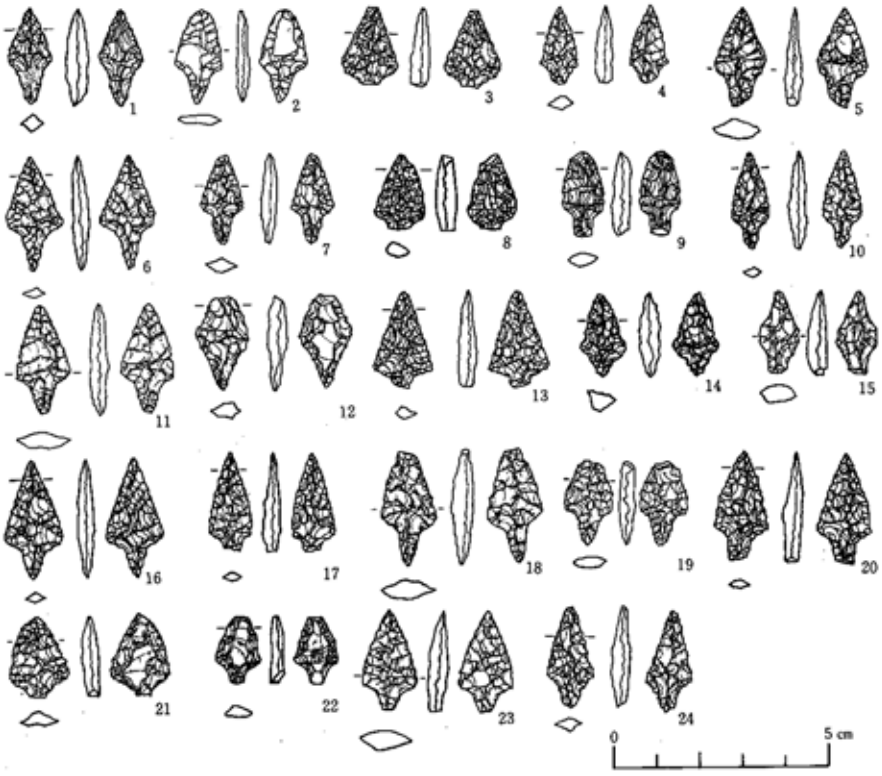


番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40－24	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(17.3)・(14.2)	10.8	3.6	(0.63)	先端・茎部			2789	13－124
2	CM41－25	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(18.0)・15.0	(11.0)	2.7	(0.3)	茎部			3421	13－125
3	CM40－8	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(16.0)・(12.5)	9.5	3.8	(0.4)	脚部・茎部		脚部再加工	2308	13－126
4	CM41－26	V	ⅠCⅠb	黒色頁岩	(16.0)・(11.0)	9.5	3.0	(0.2)	脚部・茎部		脚部再加工	4465	13－127
5	CM39－32	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(20.0)・(24.8)	16.0	5.5	(1.15)	先端・茎部			5057	13－128
6	CL40－25	V	ⅠCⅠb	珪化凝灰岩	(26.0)・16.2	(11.5)	4.5	(0.65)	先端～脚部		先端～脚部再加工	2684	13－129
7	CL39－33b	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	27.5・17.3	12.8	4.4	0.9		1		5029	13－130
8	CL40－25	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	28.8・19.8	11.5	4.0	0.7		1		2686	13－131
9	CM41－25	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	30.0・19.8	15.5	4.7	1.2				3423	13－132
10	CM41－23	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(31.8)・(12.2)	17.0	6.5	(1.9)	先端			3587	13－133
11	CM41－25	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	31.2・22.8	12.5	4.9	0.8				3413	13－134
12	CL40－24	V	ⅠCⅠb	珪化凝灰岩	(29.5)・23.8	12.0	4.4	(0.85)	茎部	1		2791	13－135
13	CL41－15	V	ⅠCⅠb	玉髄	(31.0)・27.6	13.0	4.2	(1.2)	茎部			589	13－136
14	CM40－8	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	36.0・23.1	13.9	4.6	1.4				2302	13－137
15	CL41－16	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	25.5・15.6	6.5	4.0	0.5				4073	13－138
16	CL39－31	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(17.0)・10.0	6.0	3.6	(0.1)	茎部			4998	13－139
17	CL40－23	V	ⅠCⅠb	珪質頁岩	(15.9)・(18.2)	9.5	3.4	(0.5)	先端		(玉髄化)	2857	13－145
18	CM40－8	V	ⅠCⅢa	珪化凝灰岩	(29.1)・(22.1)	20.8	5.8	(2.7)	先端			2301	13－140
19	CL39－33b	V	ⅠCⅢb	玉髄	(16.5)・(10.3)	14.0	4.0	(0.6)	先端・茎部			5031	13－141
20	CM41－26	V	ⅠCⅠb	黒色頁岩	(19.4)・(17.5)	(9.3)	3.9	(0.55)	先端・脚部・茎部			4483	13－142
21	CM41－26	V	ⅠCⅠb	玉髄	(15.0)・(－)	(10.5)	2.2	10.2	先端・脚部・茎部			4484	13－143
22	CM41－26	V	ⅠCⅠb	珪化凝灰岩	(23.1)・(17.5)	(12.0)	7.5	(1.1)	先端・脚部・茎部		(被熱)	4487	13－144
23	CL39－33b	V	ⅠCⅡa	珪化凝灰岩	(13.0)・9.5	11.0	3.0	(0.2)	茎部	1		5030	13－146
24	CL41－16	V	ⅠCⅡa	黒色頁岩	(14.2)・(6.9)	11.2	3.7	(0.45)	先端・茎部			4084	15－107
25	CL・M39－32層	V	ⅠCⅡa	珪化凝灰岩	15.5・9.2	11.0	2.6	0.7			(玉髄化)	5043	13－147
26	CM39－32	V	ⅠCⅡa	珪質頁岩	(15.0)・(7.9)	11.0	4.0	(0.35)	先端	2		5049	13－148

第48図　石　鏃(17)

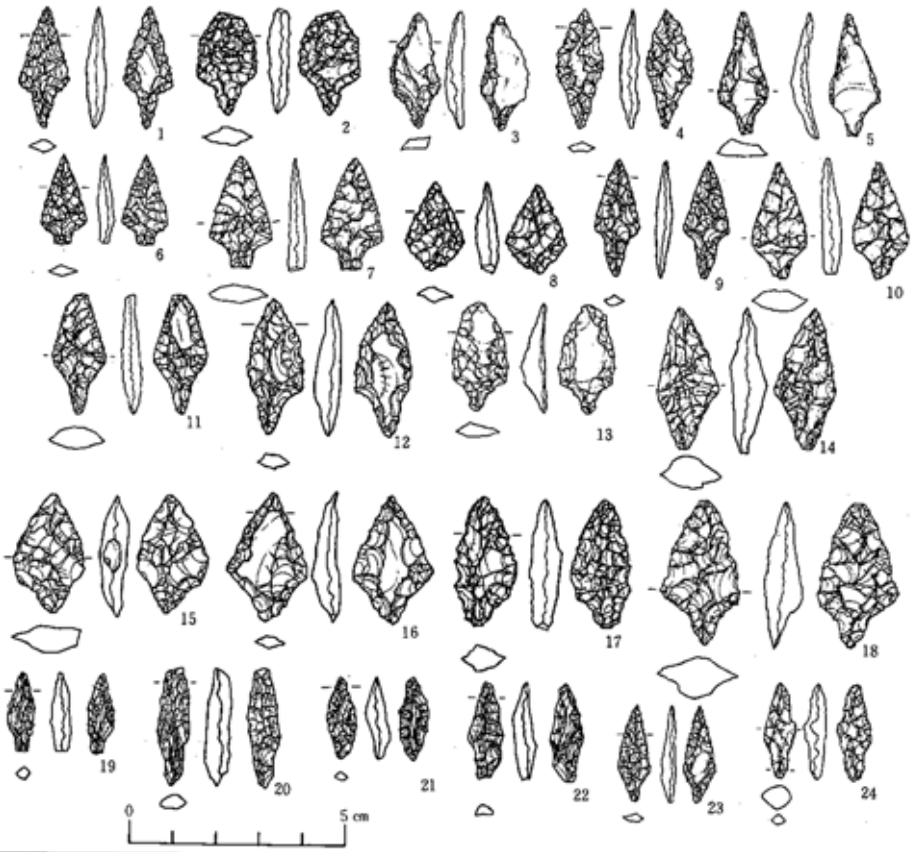
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40−24	Ⅴ	1CⅡa	珪化頁岩	21.0 × 11.7	11.0	3.1	0.4		1		2793	13−149
2	CL40−24	Ⅴ	1CⅡa	珪質頁岩	21.1 × 9.5	11.4	3.0	0.55			(溶融化)	1258	13−150
3	CL40−25	Ⅴ	1CⅡa	黒色頁岩	(18.5)×(11.2)	11.0	4.5	(0.75)	先端			6131	13−151
4	CL40−24	Ⅴ	1CⅡa	珪化頁岩	(14.4)×(7.4)	10.5	4.0	(0.52)	先端		(玉髄化)	1237	13−152
5	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	黒色頁岩	(16.2)×(12.0)	12.1	2.0	(0.52)	先端・基部			4086	13−153
6	CL41−15	Ⅴ	1CⅡa	黒色頁岩	(12.8)×(9.3)	8.7	2.8	(0.32)	先端・基部	1		3943	13−154
7	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	黒色頁岩	16.9 × 11.6	9.2	2.9	0.45		2		4071	13−155
8	CL41−16	Ⅴ	1CⅡb	珪質頁岩	(19.7)×(14.6)	11.0	3.5	(0.55)	先端・基部			4088	13−156
9	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	珪化頁岩	(15.6)×11.8	(13.7)	3.3	(0.6)	基部・基部			4089	15−114
10	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	玉髄	(18.8)×13.2	(13.6)	6.6	(0.85)	基部		(珪化頁岩)	4079	15−115
11	CM41−25	Ⅴ	1CⅡa	珪質頁岩	18.5 × 14.0	12.0	3.0	0.5				1240	13−157
12	CL39−31	Ⅴ	1CⅡa	黒色頁岩	(17.5)×(12.7)	14.4	6.5	(1.65)	先端・基部			4866	14− 1
13	CL39−32	Ⅴ	1CⅡa	珪質頁岩	(23.0)×(12.8)	15.0	4.4	(0.75)	先端・基部			5056	14− 2
14	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	珪質頁岩	(20.0)×(13.7)	15.0	4.0	(0.5)	先端			1244	14− 3
15	CL41−16	Ⅴ	1CⅡa	玉髄	(18.4)×(12.7)	14.2	3.7	(0.73)	先端			608	14− 4
16	CM39−32	Ⅴ	1CⅡa	珪質頁岩	22.0 × 20.5	20.2	5.5	1.6				5050	14− 5
17	CM39−32	Ⅴ	1CⅡb	珪化頁岩	(15.2)× 11.4	10.0	3.0	(0.15)	基部			5038	14− 6
18	CL41−16	Ⅴ	1CⅡb	黒色頁岩	(15.4)× 10.6	8.5	2.9	(0.35)	基部	2		1237	14− 7
19	CL39−31	Ⅴ	1CⅡb	珪化頁岩	(21.0)× 13.4	10.5	3.0	0.3	基部			4851	14− 8
20	CM41−26	Ⅴ	1CⅡb	珪質頁岩	20.5 × 13.9	10.0	2.8	0.2		2		4478	14− 9
21	CL39−31	Ⅴ	1CⅡb	珪質頁岩	(22.9)× 12.9	9.5	3.7	(0.6)	基部	1		4842	14− 10
22	CM41−23	Ⅴ	1CⅡb	珪化頁岩	(19.0)× 12.4	10.2	4.3	(0.5)	基部			3589	14− 12
23	CL・M39−32編	Ⅴ	1CⅡb	珪化頁岩	(18.5)×(11.0)	10.5	3.5	(0.4)	先端・基部	1	(玉髄化)	5049	14− 13

第49図　石　鏃(18)



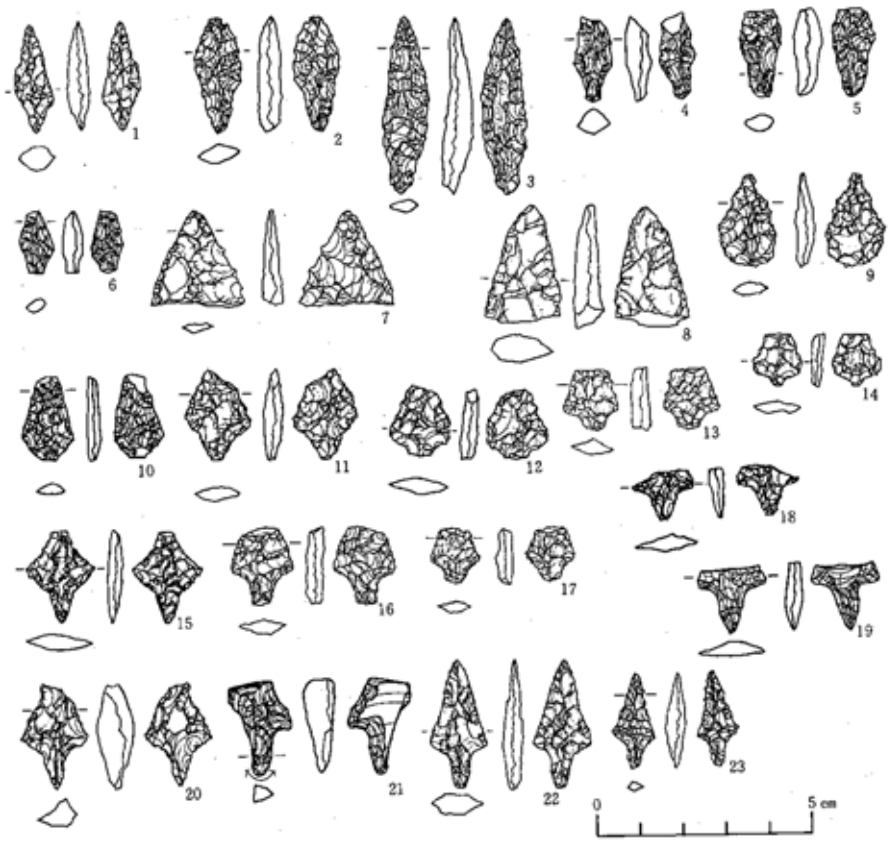
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41−26	V	1CⅡa	黒色頁岩	22.0 × 12.6	10.5	5.2	0.65		2		3566	14− 14
2	CL41−16	V	1CⅡb	玉髄	22.0 × 13.1	11.0	3.0	(0.5)	先端	1	(頁岩質)	1245	14− 15
3	CL39−33C	V	1CⅡb	玉髄	(18.1)×(13.5)	13.2	4.3	(0.35)	先端・基部			4996	14− 16
4	CL40−24	V	1CⅡb	黒色頁岩	(18.5)× 14.1	8.5	3.6	(0.3)	基部	1		2784	14− 17
5	CM 1 − 5	V	1CⅡb	玉髄	(23.3)× 15.1	18.5	4.6	(0.75)	基部・基部			3432	14− 18
6	CL40−25	V	1CⅡb	珪化頁岩	26.5 × 16.8	(13.0)	3.8	(0.8)	基部	1	(玉髄化)	6130	14− 19
7	CM41−23	V	1CⅡb	玉髄	(21.0)×(13.0)	10.0	3.6	(0.4)	先端		(頁岩質)	3590	14− 21
8	CL40−25	V	1CⅡb	黒色頁岩	(17.2)×(13.5)	11.3	4.7	(0.9)	先端・基部	2		2887	14− 22
9	CL41−15	V	1CⅡb	珪質頁岩	(19.5)×(13.5)	9.3	4.3	(0.76)	先端・基部			3942	14− 23
10	CL40−25	V	1CⅡb	珪質頁岩	22.5 × 15.7	9.0	4.0	0.5				2893	14− 24
11	CL40−25	V	1CⅡb	珪化頁岩	25.5 × 17.1	13.0	3.9	0.6				253	14− 25
12	CM41−26	V	1CⅡb	黒色頁岩	(21.5)×(10.2)	12.0	4.6	(0.85)	先端			4488	14− 26
13	CL39−31a	V	1CⅡb	珪化頁岩	(23.0)× 17.0	14.0	4.3	(0.9)	基部		(玉髄化)	5024	14− 28
14	CM39−32	V	1CⅡb	黒色頁岩	20.0 × 14.2	10.8	4.7	0.55				5060	14− 29
15	CL41−15	V	1CⅡb	珪化頁岩	(19.2)×(13.2)	9.1	4.3	(0.68)	先端・基部	1		3941	14− 29
16	CM41−26	V	1CⅡb	珪化頁岩	26.0 × 19.4	13.5	4.0	0.9				4482	14− 30
17	CL39−31	V	1CⅡb	珪化頁岩	(23.0)× 19.1	9.5	4.1	(0.6)	基部			4856	14− 31
18	CL39−31	V	1CⅡb	珪質頁岩	(27.0)×(16.7)	12.5	4.8	(0.8)	先端			1128	14− 32
19	CL41−16	V	1CⅡb	黒色頁岩	(19.7)×(12.3)	(11.5)	3.7	(0.6)	先端・基部			4077	14− 33
20	CL40−23	V	1CⅡb	珪質頁岩	(25.5)× 18.5	12.8	4.4	(0.8)	基部			2849	14− 27
21	CL41−16	V	1CⅡb	黒色頁岩	(18.5)×(14.9)	(13.6)	4.0	(0.9)	先端・基部	2		4983	35−125
22	CL40−24	V	1CⅡb	珪質頁岩	(15.0)× (9.8)	10.3	3.0	(0.48)	先端・基部	1		2785	14− 35
23	CL41−15	V	1CⅡb	珪質頁岩	(23.0)× 17.2	12.5	4.7	(0.95)	基部	1		3933	14− 36
24	CL41−16	V	1CⅡb	黒色頁岩	24.0 × 15.5	11.0	4.1	(0.6)	先端	1		6166	14− 37

第50図　石　鏃(19)



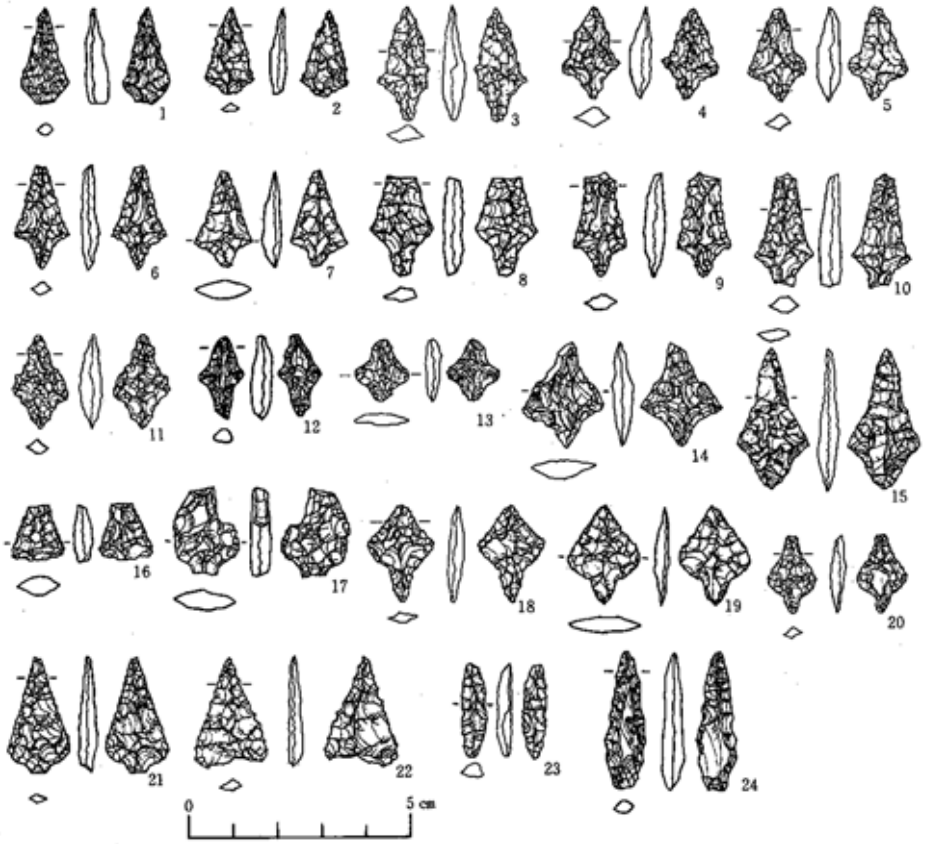
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−31C	V	1CIIb	珪質頁岩	28.0 × 17.5	12.0	4.2	0.7		1		4993	14 − 38
2	CM39−32	V	1CIIb	珪化頁岩	(24.5) × (15.5)	14.0	4.7	(0.9)	先端		(玉髄化)	5052	14 − 39
3	CL40−24	V	1CIIb	黒色頁岩	26.8 × 18.5	11.5	4.0	(0.8)				2790	14 − 40
4	CL39−31	V	1CIIb	珪化頁岩	28.0 × 16.8	11.0	4.0	0.9			(一部玉髄化)	4859	14 − 41
5	CL41−16	V	1CIIb	珪質頁岩	(28.5) × 21.5	11.8	4.0	(0.8)	基部			4078	14 − 42
6	CM41−23	V	1CIIb	玉髄	(21.0) × 16.5	11.0	3.4	(0.75)	基部			3591	14 − 43
7	CM41−25	V	1CIIb	玉髄	(26.0) × 20.2	14.0	4.0	(1.35)	基部			3429	14 − 44
8	CM39−32	V	1CIIb	珪化頁岩	(21.0) × 13.7	14.0	5.0	(0.85)	基部		(玉髄化)	5039	14 − 45
9	CL40−25	V	1CIIb	珪質頁岩	27.0 × 16.7	10.5	3.7	0.6		1		2590	14 − 46
10	CM41−25	V	IVIIb	珪質頁岩	(27.2) × (19.8)	12.8	4.6	(1.1)	先端・基部			3412	14 − 47
11	CL41−16	V	1CIIb	珪質頁岩	(27.5) × (15.8)	13.0	4.3	(0.9)	先端	1		4080	14 − 48
12	CM41−24	V	1CIIb	珪化頁岩	31.5 × 21.8	13.0	6.0	1.9				4456	14 − 49
13	CM41−25	V	1CIIb	珪質頁岩	(25.2) × (18.2)	13.2	5.5	(1.1)	先端			3460	14 − 50
14	CL39−31	V	1CIIb	珪質頁岩	33.0 × 20.8	14.2	7.6	2.3				784	14 − 51
15	CL41−15	V	1CIIb	珪化頁岩	27.3 × 21.2	16.1	6.6	2.4			(玉髄化)	3944	14 − 52
16	CM41−26	V	1CIIb	珪質頁岩	(30.0) × 19.7	19.0	6.3	(2.0)	基部			4689	14 − 53
17	CM39−32	V	1CIIb	珪化頁岩	(30.5) × 22.7	14.5	7.0	(2.1)	基部・基部		基部再加工	5067	14 − 54
18	CM41−23	V	1CIIb	珪質頁岩	(33.8) × (23.8)	18.2	8.9	(3.8)	先端		(玉髄化)	3597	14 − 55
19	CL−CM39−32B	V	1CIIb	珪質頁岩	(18.2) × 13.5	(5.9)	4.5	(0.4)	基部・基部		基部再加工	5046	14 − 56
20	CL41−15	V	1CIIb	珪質頁岩	(27.2) × (18.9)	7.2	5.9	(1.4)	先端・基部	1		3973	14 − 57
21	CL39−31	V	1CIIb	珪質頁岩	19.2 × 12.6	6.2	4.5	0.48				4900	14 − 58
22	CL39−31b	V	1CIIb	珪化頁岩	(22.1) × 13.6	7.5	4.8	(0.6)	基部		(玉髄化)	5621	14 − 59
23	CM41−25	V	1CIIb	珪質頁岩	22.5 × 15.6	7.5	3.3	0.3				3420	14 − 60
24	CL41−16	V	1CIIb	珪質頁岩	22.0 × 13.4	7.5	4.8	0.15				4093	15 − 134

第51図　石　鏃(20)



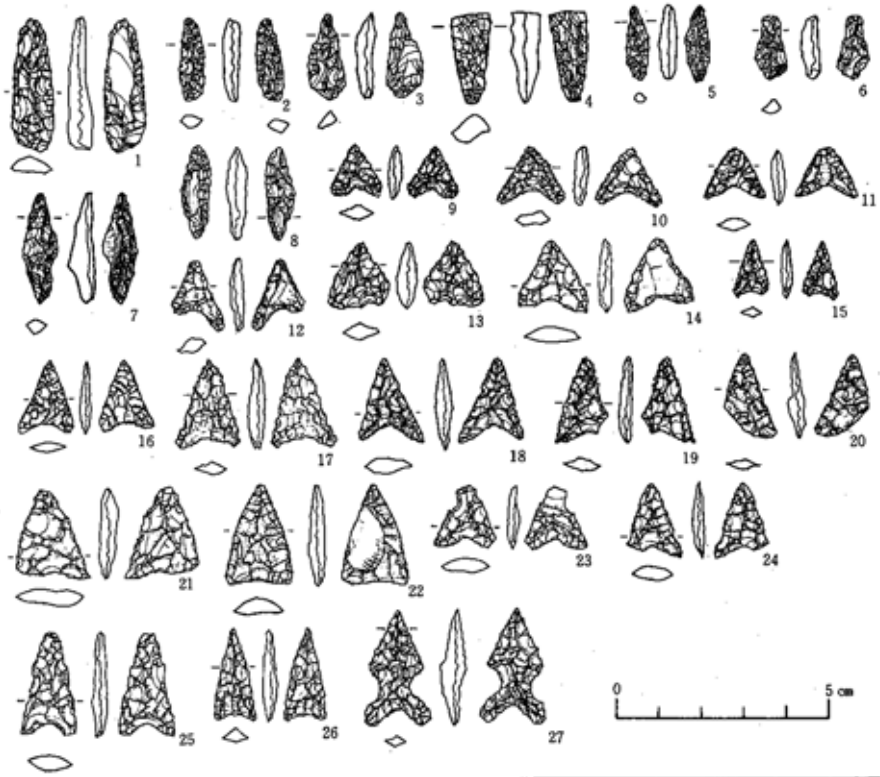
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41−16	V	1CⅡb	珪質頁岩	25.2 - 18.2	(8.2)	5.0	(0.7)	基部		基部再加工	4069	14−61
2	CL・M39−32集	V	1CⅡb	黒色頁岩	(26.8)・(16.5)	10.7	5.2	1.55	先端			5051	14−62
3	CL・M39−32集	V	1CⅡb	珪質頁岩	(41.0)・30.3	10.3	6.5	(2.23)	基部			5075	14−63
4	CL39−31	V	1CⅡb	珪質頁岩	19.6 - 11.6	8.5	5.7	(0.88)	先端・基部			4871	14−64
5	CM41−26	V	1CⅡb	珪質頁岩	(20.0)・(8.2)	(9.2)	6.5	(1.0)	先端・基部・基部			4490	14−65
6	CL39−31	V	1CⅡb	珪化緑沢岩	(14.4)・(9.5)	7.0	4.5	(0.5)	先端・基部		(玉髄化)	4865	14−66
7	CL40−23	V	(1C)	黒色頁岩	(23.0)	(21.8)	4.6	(1.5)	先端・基部			2861	14−67
8	CM41−24	V	(1C)	珪質頁岩	(28.0)	17.5	7.0	(2.5)	基部			793	14−68
9	CL39−33	V	(1C)	珪質頁岩	22.2	13.0	4.2	0.65			再加工	5108	14−69
10	CL40−24	V	(1C)	珪質頁岩	(19.7)・(15.8)	11.3	3.0	(0.7)	先端・基部			2787	14−70
11	CL39−33	V	(1C)	珪化緑沢岩	(21.0)・(13.0)	(15.5)	4.5	(0.75)	先端・基部・基部			5107	14−71
12	CL41−15	V	(1C)	黒色頁岩	(16.0)・(11.8)	13.8	4.0	(0.9)	先端・基部			3047	14−73
13	CM41−25	V	(1C)	珪化緑沢岩	(14.6)・(8.2)	13.0	4.3	0.55	先端・基部		(玉髄化)	3431	14−74
14	CL41−16	V	(1C)	黒色頁岩	(11.8)・(8.9)	11.2	2.6	(0.3)	先端・基部		鋭ハジケ	1238	14−148
15	CL41−15	V	(1C)	珪質頁岩	(19.8)・(14.9)	(14.9)	4.6	(1.4)	先端・基部・基部			3958	14−101
16	CM41−25	V	(1C)	珪質頁岩	(18.5)・(10.2)	14.0	4.0	(0.7)	先端・基部			2271	14−76
17	CM39−32	V	(1C)	碧玉	(11.8)・(3.6)	14.2	3.4	(0.2)	先端・基部			5061	14−79
18	CM40−8	V	(1C)	珪化緑沢岩	(14.8)・(3.5)	(15.8)	4.0	(0.6)	先端		(玉髄化)	2320	14−77
19	CM41−26	V	(1C)	珪質頁岩	(13.5)・(7.5)	(11.5)	4.0	(0.3)	先端・基部			1565	14−78
20	CM41−25	V	(1C)	細粒石英安山岩質緑沢岩	(25.0)・(13.1)	(16.0)	8.6	(1.0)	先端・基部			3463	14−80
21	CM41−25	V	(1C)	碧玉	(21.6)・(12.5)	(13.0)	7.0	(1.55)	先端・基部			3466	14−81
22	CM41−25	V	1CⅡ1a	珪質頁岩	30.0 - 20.5	13.3	4.5	1.1					14−82
23	CL39−31	V	1CⅡ1a	珪化緑沢岩	22.5 - 14.6	10.0	4.5	0.3				4843	14−83

第52図　石　鏃(21)



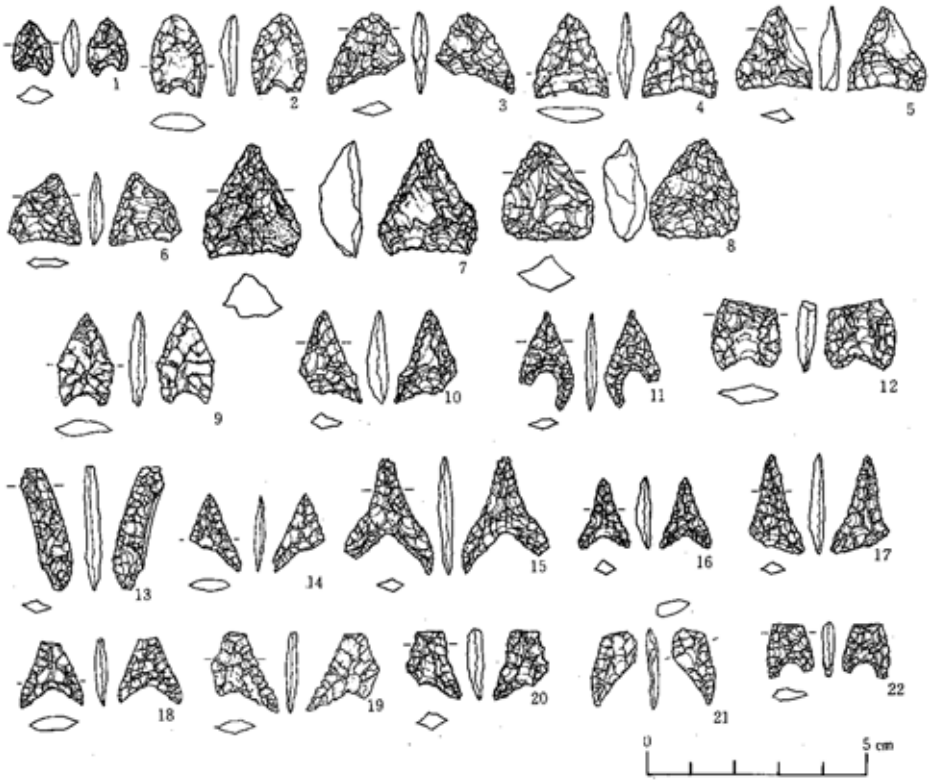
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	フスフォルト	備考	登録番号	図版
1	CL・M39－31表	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(21.4)・17.3	10.7	5.0	(0.88)	基部			5045	14－84
2	CM40－8	V	1CⅢ1a	珪質頁岩	(19.5)・16.1	11.0	3.5	(0.4)	基部	1		2315	14－85
3	CM40－8	V	1CⅢ1a	珪化凝灰岩	26.0・17.0	(11.8)	5.0	(0.8)	基部		(一部玉髄化)基部再加工	2303	14－87
4	CL40－25	V	1CⅢ1a	珪化凝灰岩	21.0・14.3	13.0	4.5	0.7				2894	14－88
5	CM41－23	V	1CⅢ1a	珪質頁岩	(21.0)・(14.3)	13.0	5.0	(0.8)	先端・基部			3588	14－89
6	CL40－23	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(23.5)・(16.3)	12.2	4.0	(0.6)	先端	1		2850	14－90
7	CL41－16	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(21.5)・(16.5)	12.4	4.2	(0.72)	先端・基部			4090	14－91
8	CL40－23	V	1CⅢ1a	珪化凝灰岩	(22.0)・(12.1)	14.0	4.5	(1.0)	先端・基部			2851	14－92
9	CM41－26	V	1CⅢ1a	珪化凝灰岩	(23.5)・(17.6)	12.0	4.8	(1.0)	先端		(玉髄化)	4479	14－93
10	CL39－31	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(25.8)・(18.5)	13.2	4.2	(1.0)	先端・基部	1		1028	14－94
11	CM41－25	V	1CⅢ1b	玉髄	21.5・14.3	12.5	4.0	0.7				3417	14－95
12	CL40－25	V	1CⅢ1b	黒色頁岩	(18.6)・9.8	9.7	4.4	(0.55)	基部			2892	14－96
13	CM41－24	V	1CⅢ1b	黒色頁岩	(13.8)・(9.2)	12.1	3.5	0.45	先端・基部			4461	14－97
14	CM41－25	V	1CⅢ1b	玉髄	(23.5)・(16.2)	18.4	4.8	(1.2)	先端・側縁			641	14－98
15	CL41－15	V	1CⅢ1b	珪質頁岩	32.0・22.0	16.0	4.3	0.9				3934	14－99
16	CM40－8	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(12.3)・(11.6)	(11.7)	4.4	(0.65)	先端・基部			2317	13－140
17	CL41－15	V	1CⅢ1a	黒色頁岩	(21.2)・(9.5)	15.9	3.6	(0.8)	先端	3		3940	14－75
18	CM40－8	V	1CⅢ2a	黒色頁岩	(22.0)・(9.8)	15.0	3.5	(0.5)	先端	1		2306	14－102
19	CL41－16	V	1CⅢ2b	黒色頁岩	22.1・12.1	15.7	3.3	0.8				4085	14－103
20	CM41－25	V	1CⅢ2b	珪質頁岩	(18.0)・(11.5)	11.2	3.3	(0.25)	先端		(焼化)	3433	14－104
21	CL・M39－31表	V	1CⅢ2b	珪質頁岩	(26.0)・(21.2)	14.0	4.0	(1.0)	先端・基部			5040	14－105
22	CM41－24	V	(1C)	黒色頁岩	(24.8)	(16.2)	3.3	(0.8)	基部・基部			4459	14－106
23	CL40－20	V	1D	珪化凝灰岩	(21.1)	9.7	3.5	0.35	先端		(玉髄化)	3252	14－107
24	CL39－31b	V	1D	珪質頁岩	30.9	8.6	4.6	1.13				3032	14－109

第53図　石　鏃(22)



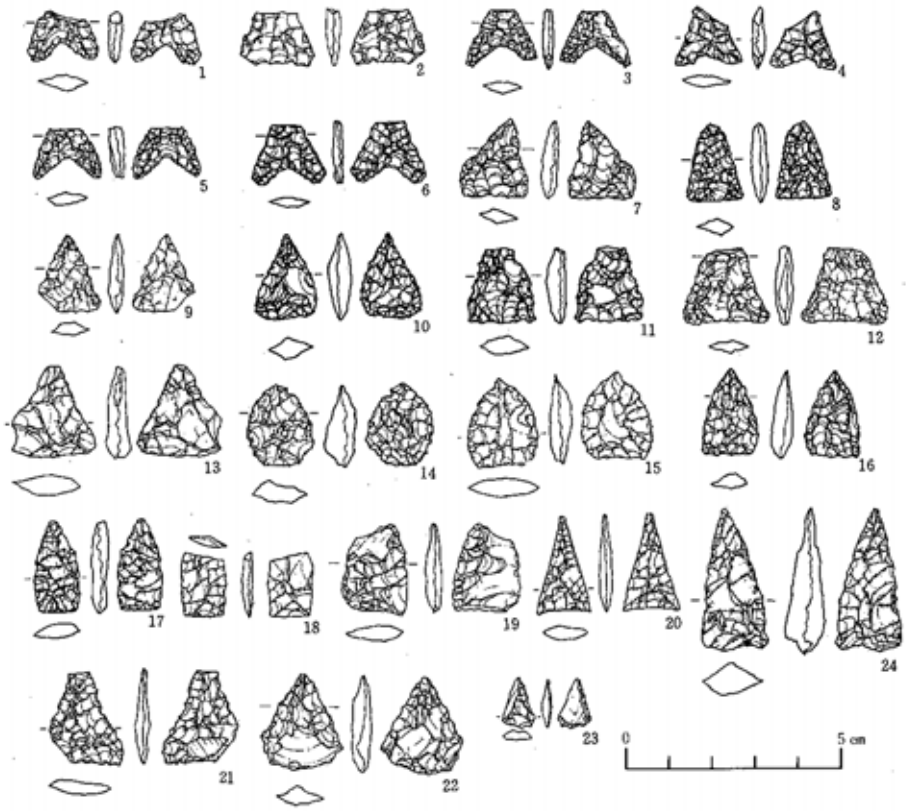
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41－16	Ⅴ	1D	頁岩	31.2	9.5	5.6	1.5			(やや横尺岩)	4190	14－110
2	CM41－25	Ⅴ	1D	珪化凝灰岩	(19.3)	6.1	3.9	(0.33)	先端・基部			3453	14－111
3	CL41－15	Ⅴ	1D	玉髓	(20.3)	8.4	4.3	(0.6)	基部			3955	14－112
4	CL41－15	Ⅴ	1D	珪質頁岩	(21.1)	9.3	6.6	(3.0)	先端			3962	14－113
5	CL41－16	Ⅴ	1D	珪質頁岩	7.5	5.5	4.1	0.35				4002	14－115
6	CL40－23	Ⅴ	1D	黒色頁岩	(15.0)	(7.3)	4.1	(0.5)	先端・基部			2865	14－117
7	CL40－24	Ⅴ	1D	黒色頁岩	(26.0)	8.2	6.5	(0.93)	先端				14－114
8	CL・M39－32表	Ⅴ	1D	珪質頁岩	23.6	6.6	4.5	0.6				5047	14－116
9	CL40－19	Ⅵ	6A Ⅰa	珪化凝灰岩	12.8	12.0	3.0	0.3				3239	14－118
10	CL39－29	Ⅵ	6A Ⅰa	頁岩	14.2	16.5	3.0	0.2	基部			4791	14－119
11	CL41－13	Ⅵ	6A Ⅰa	珪化凝灰岩	(12.0)	14.5	2.9	0.25	先端			1185	14－120
12	CM40－7	Ⅵ	6A Ⅰa	珪質頁岩	16.8	(13.0)	2.9	(0.3)	基部		基部再加工	63	14－121
13	CL39－30	Ⅵ	6A Ⅰa	珪化凝灰岩	(16.0)	(15.0)	4.6	(0.45)	先端・基部			4890	14－122
14	CL41－12	Ⅵ	6A Ⅰa	黒色頁岩	(37.7)	16.2	2.5	(0.62)	基部	3		3828	14－123
15	CL39－29	Ⅵ	6A Ⅰa	黒曜岩	(24.0)	(7.5)	2.5	(0.1)	基部	3		4792	14－124
16	CM39－31	Ⅵ	6A Ⅰb	玉髓	37.0	13.0	2.3	0.2				694	14－125
17	CL40－19	Ⅵ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	21.0	15.5	3.8	0.7				3237	14－126
18	CL41－13	Ⅵ	6A Ⅰb	珪質頁岩	20.0	(15.5)	3.4	(0.4)	基部			3853	14－127
19	CL40－22	Ⅵ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(20.5)	(12.5)	2.9	(0.5)	先端・基部			5902	14－128
20	CL39－29C	Ⅵ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	(20.2)	(12.0)	3.6	(0.4)	先端・基部			663	14－129
21	CL41－14	Ⅵ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(21.5)	(17.2)	4.1	(1.3)	基部			3883	14－130
22	CL41－14	Ⅵ	6A Ⅰb	珪質砂岩質凝灰岩	(23.5)	(15.5)	3.0	(0.9)	先端・基部			1070	14－131
23	CL41－14	Ⅵ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	(15.4)	(14.4)	2.9	(0.4)	先端・基部			3890	14－132
24	CL41－13	Ⅵ	6A Ⅰb	碧玉	(18.4)	(13.0)	2.8	(0.45)	基部			3852	14－133
25	CL41－13	Ⅵ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(24.0)	(13.2)	3.5	(1.0)	先端・基部			3854	14－134
26	CL40－20	Ⅵ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	22.0	10.0	3.4	(0.3)	基部			3254	14－135
27	CL40－20	Ⅵ	6A Ⅰb	黒色頁岩	27.2	16.0	5.9	1.2			側縁抉り	3246	14－136

第54図　石　鏃(23)



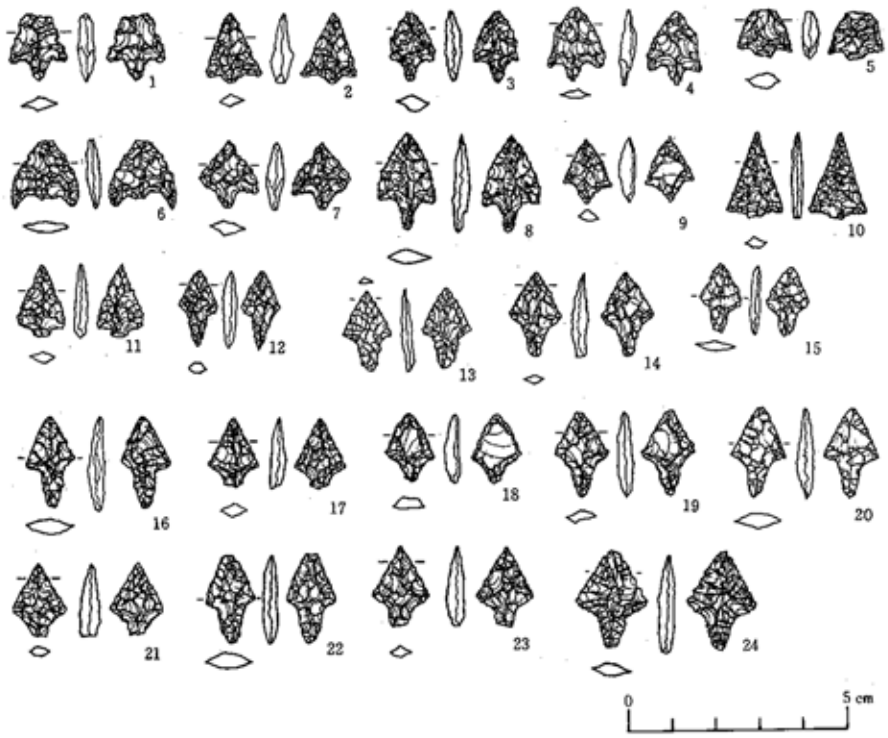
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ1a	玉髄	13.2	9.2	3.6	(0.2)	基部			4889	14−137
2	CL41−12	Ⅵ	6AⅡ1a	珪化凝灰岩	(18.5)	12.8	3.9	(1.0)	先端・基部			3829	15−2
3	CM41−22	Ⅵ	6AⅡ1a	玉髄	(19.0)	(17.5)	3.5	(0.5)	先端・基部			3644	15−3
4	CL41−12	Ⅵ	6AⅡ1a	珪質頁岩	19.2	11.8	4.0	0.9				3827	15−4
5	CL40−20	Ⅵ	6AⅡ1a	珪化凝灰岩	19.0	17.0	4.4	0.9				3258	15−5
6	CM41−22	Ⅵ	6AⅡ1a	砂質頁岩	(16.0)	(16.5)	3.0	(0.5)	先端・基部			3643	15−6
7	CL40−20	Ⅵ	6AⅡ1a	頁岩	(16.8)	(12.5)	9.3	(4.15)	先端・基部			183	15−7
8	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ1a	碧玉	23.5	21.0	9.2	3.25				4895	15−8
9	CL41−14	Ⅵ	6AⅡ1a	珪化凝灰岩	23.0	13.2	3.0	0.5				3885	15−9
10	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ1a	珪化凝灰岩	(21.5)	(13.0)	4.5	(0.5)	基部			4898	15−10
11	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ2	玉髄	22.2	(12.8)	2.4	(0.25)	基部			4886	15−11
12	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ3	珪質頁岩	(16.0)	16.0	4.0	(0.65)	先端	4		6107	15−12
13	CL39−30	Ⅵ	6AⅡ3	珪質頁岩	(28.8)	(7.5)	3.4	(0.55)	先端・基部	4		5385	15−13
14	CL41−14	Ⅵ	6AⅢa	珪質頁岩	18.6	(8.8)	2.4	(0.3)	基部		(玉髄化)	3899	15−14
15	CL39−30	Ⅵ	6AⅢb	珪質頁岩	(27.4)	(19.5)	3.2	(0.5)	先端・基部			4885	15−15
16	CL40−22	Ⅵ	6AⅢb	黒曜岩	16.8	12.0	3.2	0.3				3385	15−16
17	CL39−30	Ⅵ	6AⅢb	珪化凝灰岩	(23.5)	(12.5)	3.4	(0.3)	基部			4902	15−17
18	CL41−12	Ⅵ	6AⅢb	珪化凝灰岩	16.1	14.0	2.9	0.46			(玉髄化)	3850	15−18
19	CL40−20	Ⅵ	6AⅢb	珪化凝灰岩	(19.2)	(15.2)	2.4	(0.5)	先端・基部			3256	15−19
20	CL39−30	Ⅵ	6AⅢb	珪化凝灰岩	(15.2)	(12.5)	3.5	(0.35)	先端・基部			4896	15−20
21	CL41−12	Ⅵ	6AⅢb	碧玉	(18.4)	(8.7)	2.5	(0.4)	先端・基部			3823	15−21
22	CM41−21	Ⅵ	(6A)	珪質頁岩	(17.0)	13.5	2.5	(0.2)	先端・基部			2269	15−22

第55図　石　鏃(24)



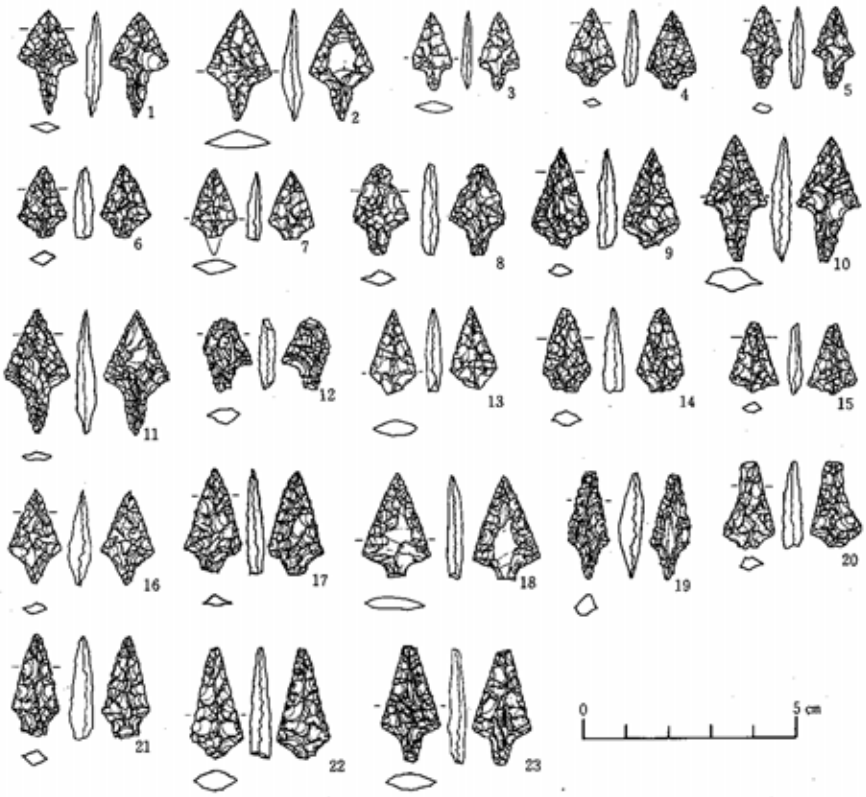
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39－30	Ⅵ	(0A)	珪質頁岩	(12.5)	16.0	3.0	(0.3)	先端			4904	15－23
2	CL41－14	Ⅵ	(0A)	珪化凝灰岩	(12.7)	(17.1)	3.4	(0.8)	先端・基部			3884	15－24
3	CL39－30	Ⅵ	(0A)	珪化凝灰岩	(14.0)	(16.8)	2.4	(0.15)	先端・基部			4857	15－25
4	CM41－21	Ⅵ	(0A)	珪質頁岩	(14.0)	15.5	2.6	(0.25)	先端			3657	15－26
5	CL39－30	Ⅵ	(0A)	碧玉	(12.0)	16.0	3.3	(0.25)	先端			4828	15－27
6	CL40－20	Ⅵ	(0A)	黒曜岩	(14.8)	(17.0)	2.5	(0.42)	先端・基部			3558	15－28
7	CL39－29	Ⅵ	0B Ⅰa	黒曜岩	18.1	15.7	3.5	0.77	先端・基部		基部再加工	4789	16－50
8	CL40－20	Ⅵ	0B Ⅰb	珪化凝灰岩	(18.6)	13.2	3.5	(0.7)	先端		先端再加工	3257	15－30
9	CM40－7	Ⅵ	0B Ⅰa	碧玉	18.5	(14.0)	3.3	(0.65)	基部			1222	15－31
10	CL40－19	Ⅵ	0B Ⅰa	珪質頁岩	(20.2)	(14.5)	5.1	(1.15)	先端・基部			3235	15－32
11	CL40－22	Ⅵ	0B Ⅰb	珪質頁岩	(18.0)	16.0	4.5	(1.3)	先端			5900	15－33
12	CM41－22	Ⅵ	0B Ⅰb	珪化凝灰岩	(18.0)	20.0	4.0	(1.4)	先端		(玉髄化)・矢アタ	624	15－34
13	CL41－13	Ⅵ	0B Ⅰb	珪化凝灰岩	(21.8)	(20.0)	6.3	(2.1)	先端・基部			3856	15－35
14	CL39－30	Ⅵ	0B Ⅱa	珪化凝灰岩	19.5	15.5	6.8	1.5			(玉髄化)	4884	15－37
15	CL41－12	Ⅵ	0B Ⅱa	珪化凝灰岩	20.6	16.7	4.5	1.6				3826	15－38
16	CL39－30	Ⅵ	0B Ⅱa	珪化凝灰岩	21.0	13.0	5.0	0.8				4894	15－39
17	CL41－13	Ⅵ	0B Ⅱb	珪質頁岩	(21.5)	11.0	3.8	(0.8)	先端			3855	15－40
18	CL41－12	Ⅵ	0B Ⅱb	珪質頁岩	(14.8)	10.4	3.0	(0.55)	先端			3831	15－41
19	CL40－19	Ⅵ	0B Ⅱb	珪質頁岩	(20.7)	15.5	4.2	(1.45)	先端		基部自然面アリ	5884	15－42
20	CL41－12	Ⅵ	0B Ⅱb	珪質頁岩	(23.0)	13.0	3.0	(0.6)	先端			3824	15－43
21	CL41－13	Ⅵ	(0B)	珪質頁岩	(22.4)	(14.7)	3.1	(1.0)	先端・基部		(焼土化)	5542	15－44
22	CM40－7	Ⅵ	0B Ⅰb	珪化凝灰岩	11.5	7.4	2.2	0.2				2450	15－48
23	CL39－29d	Ⅵ	(0A)	珪化凝灰岩	(23.0)	(19.8)	4.5	(1.3)	先端・基部		未製品	4815	15－45
24	CM41－21・22	Ⅵ	(0B)	珪質頁岩	33.5	15.5	9.5	2.7				204	15－49

第56図　石　鏃(25)



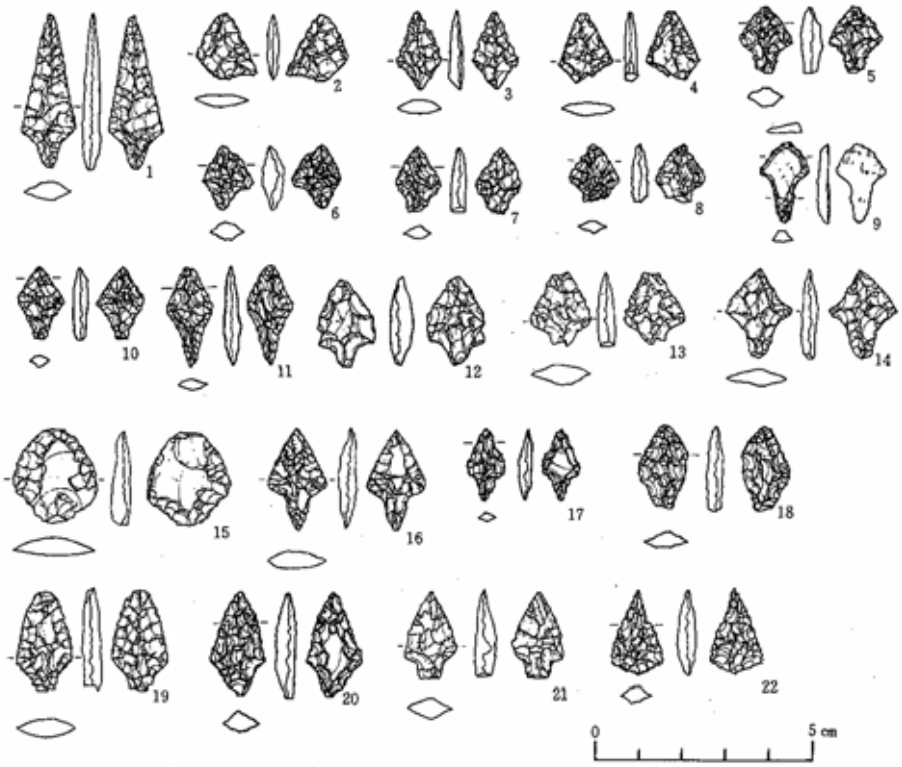
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−30	Ⅵ	1AⅢb	珪化凝灰岩	(15.7)・(11.2)	(13.2)	3.5	(0.25)	先端・側縁			4852	15−50
2	CL39−30	Ⅵ	1AⅠb	玉髄	(16.0)・(14.2)	(13.0)	4.5	(0.2)	先端・基部・基部			5787	15−51
3	CM39−31	Ⅵ	1AⅡa	珪化凝灰岩	(15.8)・(11.8)	(10.2)	3.5	(0.4)	先端・基部		焼ハダケ	5378	15−52
4	CM41−21	Ⅵ	1AⅡa	珪化凝灰岩	(16.5)・(14.0)	(10.2)	3.3	(0.45)	先端・基部		(玉髄化)	2268	15−53
5	CL39−30	Ⅵ	1AⅡa	珪化凝灰岩	(11.0)・(9.5)	12.0	3.5	(0.25)	先端・基部・基部			4878	15−54
6	CL39−30	Ⅵ	1AⅡa	珪質頁岩	(16.0)・(13.5)	15.5	3.0	(0.35)	先端・基部・基部		(玉髄化)	4867	15−55
7	CL39−29	Ⅵ	1AⅡa	玉髄	(15.0)・(12.0)	(14.0)	3.6	(0.3)	先端・基部・基部			4781	15−56
8	CM39−31	Ⅵ	1AⅡb	珪質頁岩	22.2・16.5	8.0	3.5	0.8				5379	15−57
9	CM41−21	Ⅵ	1AⅠa	珪質頁岩	15.0・11.5	11.0	3.5	0.2				3655	15−58
10	CL41−16	Ⅴ	1BⅠb	玉髄	(19.4)・17.3	12.4	2.5	(0.45)	基部		(珪化凝灰岩)	4082	15−59
11	CL39−29d	Ⅵ	1BⅢb	玉髄	(17.0)・14.5	11.0	2.7	(0.2)	基部			4811	15−60
12	CM41−21	Ⅵ	1CⅠa	黒色頁岩	16.8・9.7	14.0	3.0	0.2		1		3654	15−61
13	CL40−22	Ⅵ	1CⅠa	珪化凝灰岩	(18.0)・10.5	10.8	3.7	(0.3)	基部		(玉髄化)	3285	15−62
14	CL40−22	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	(19.5)・10.5	12.0	3.5	(0.4)	基部			3278	15−63
15	CL41−14	Ⅵ	1CⅠa	珪化凝灰岩	(15.4)・(9.0)	9.3	2.5	(0.25)	先端			3878	15−64
16	CL41−14	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	21.0・12.3	11.0	2.8	(0.3)	基部			3870	15−65
17	CL39−30	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	(16.8)・11.3	12.0	3.5	(0.25)	基部			4861	15−66
18	CL39−30	Ⅵ	1CⅠa	珪化凝灰岩	16.0・10.2	11.2	3.1	0.25				4853	15−67
19	CL39−29	Ⅵ	1CⅠa	黒色頁岩	19.0・10.2	13.0	3.5	0.2				4386	15−68
20	CM40−7	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	(20.8)・(11.5)	13.0	3.8	(0.45)	先端	1		1220	15−69
21	CM40−7	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	(16.5)・11.0	12.0	4.3	(0.5)	基部			62	15−70
22	CL40−20	Ⅵ	1CⅠa	玉髄	(19.7)・(11.0)	10.9	3.3	(0.5)	先端			3250	15−71
23	CL39−29	Ⅵ	1CⅠa	玉髄	(18.5)・11.5	13.0	3.9	(0.5)	基部			4782	15−72
24	CL39−29	Ⅵ	1CⅠa	珪質頁岩	(22.1)・(12.2)	15.7	3.5	(1.0)	先端・基部			4785	15−73

第57図　石　鏃(26)



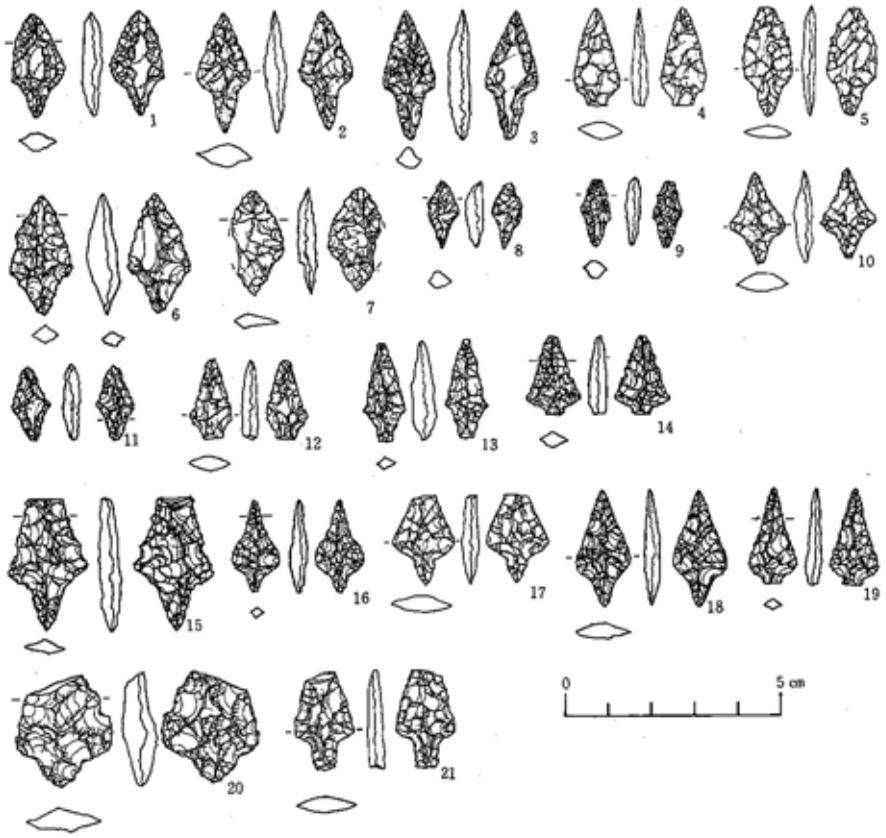
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−29	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化頁岩	25.0 ・ 12.5	14.0	3.1	0.6			(玉髄化)	4783	15−74
2	CL40−22	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化頁岩	26.0 ・ 15.0	15.0	4.2	0.9			(玉髄化)	196	15−75
3	CL41−14	Ⅵ	1C Ⅰb	黒曜岩	18.3 ・ 12.8	9.2	2.2	0.3				3875	15−76
4	CL39−29d	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(18.5)・ 14.3	11.5	3.0	(0.3)	基部			4812	15−77
5	CL40−22	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(19.5)・ 12.0	9.5	3.1	(0.3)	基部			3279	15−78
6	CL29−30	Ⅵ	1C Ⅰb	黒色頁岩	(17.0)・(12.5)	11.5	4.5	(0.4)	先端・基部			4860	15−79
7	CM40−7	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	(15.4)・ 12.9	10.4	3.3	(0.38)	基部		(玉髄化)	2444	15−80
8	CL39−30	Ⅵ	1C Ⅰb	黒色頁岩	(21.2)・(14.2)	13.0	3.8	(0.7)	先端・基部			4549	15−81
9	CL40−22	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	(23.5)・ 19.0	13.5	4.0	(1.6)	基部			3280	15−82
10	CL41−14	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	29.5 ・ 16.8	15.0	4.5	0.9			(玉髄化)	3872	15−83
11	CL39−30	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	29.5 ・ 16.8	15.5	4.5	0.9				4826	15−84
12	CM39−31	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	(17.0)・(11.2)	(10.6)	3.5	(0.57)	先端・基部・基部		(玉髄化)	5382	15−85
13	CL41−12	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(19.2)・(15.0)	10.7	4.1	(0.6)	基部			3822	15−87
14	CL39−30	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	(20.2)・(16.1)	11.2	4.7	(0.6)	先端・基部		(玉髄化)	4874	15−88
15	CM41−22	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(17.0)・(14.1)	12.0	3.2	(0.25)	先端・基部		基部再加工	3642	15−89
16	CL40−22	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	22.5 ・ 14.8	12.5	4.8	0.55			(玉髄化)	3283	15−90
17	CL40−22	Ⅵ	1C Ⅰb	黒色頁岩	(24.5)・ 19.2	13.5	3.9	(0.88)	基部			3276	15−91
18	CM40−7	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(24.8)・ 19.3	16.0	3.0	(0.9)	基部			915	15−92
19	CL39−29c	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(24.9)・(16.7)	9.3	5.3	(0.9)	先端			5010	15−93
20	CL39−30	Ⅵ	1C Ⅰb	珪化凝灰岩	(21.0)・(17.0)	12.0	4.0	(0.65)	先端・基部		(玉髄化)	4877	15−95
21	CL39−29	Ⅵ	1C Ⅰb	黒色頁岩	(24.5)・ 17.8	11.0	5.3	(0.75)	基部	1		4784	15−96
22	CM40−7	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(26.0)・(21.2)	12.5	4.6	(0.9)	先端・基部	1		60	15−97
23	CL41−14	Ⅵ	1C Ⅰb	珪質頁岩	(27.5)・(19.0)	14.2	3.8	(0.7)	先端・基部			3873	15−98

第58図　石　鏃(27)



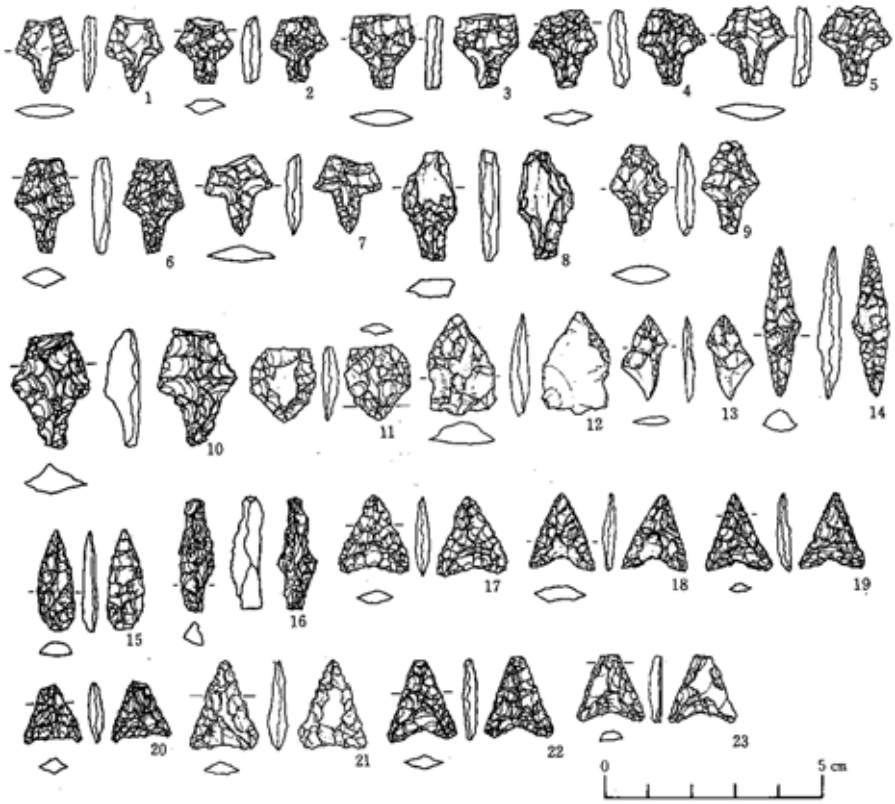
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM39−31	Ⅵ	1CⅠb	珪質頁岩	(35.0)・(27.0)	12.5	3.8	(0.8)	先端・			693	15− 99
2	CL41−14	Ⅵ	1CⅠb	黒曜岩	(15.0)・(13.9)	(11.2)	2.7	(0.45)	先端・基部・縁辺			3888	15−100
3	CM40− 7	Ⅵ	1CⅠb	黒色頁岩	(17.7)・(12.1)	10.4	3.4	0.45	先端・基部			2443	15−101
4	CL40−22	Ⅵ	1CⅠb	珪質頁岩	(15.8)・(12.3)	12.3	2.9	(0.45)	先端・基部			3281	15−102
5	CL39−30	Ⅵ	1CⅡa	珪化凝灰岩	(15.5)・(8.9)	12.0	4.6	(0.35)	先端・基部	1		4854	15−103
6	CL39−30	Ⅵ	1CⅡa	玉髄	(14.8)・(9.4)	12.0	5.0	(0.4)	先端・基部		先端・基部再加工	4876	15−104
7	CL39−29	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(15.0)・ 9.2	10.5	3.2	(0.15)	基部			4788	15−105
8	CL40−19	Ⅵ	1CⅡa	黒色頁岩	(13.1)・ 8.5	(11.3)	3.5	(0.4)	基部			3236	15−106
9	CM40− 7	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	18.8・ 8.5	11.0	2.8	0.3				1189	15−108
10	CL39−29d	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(17.0)・ 9.0	11.0	3.2	(0.45)	基部・基部	2	(シルト岩に近い)基部再加工	4814	15−109
11	CM39−31	Ⅵ	1CⅡa	黒色頁岩	(23.0)・(10.0)	11.0	3.8	(0.5)	先端	1		5381	15−110
12	CM40− 7	Ⅵ	1CⅡa	珪化凝灰岩	(20.1)・(15.0)	(13.0)	5.7	(1.2)	基部		(一部玉髄化)	1219	15−111
13	CL40−20	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(16.8)・(12.1)	13.8	4.3	(0.9)	先端・基部	1		3249	15−112
14	CL41−14	Ⅵ	1CⅡa	黒色頁岩	(20.4)・ 11.2	15.1	4.1	(0.9)	基部		側縁再加工	3869	15−113
15	CL41−13	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(21.5)・(16.7)	19.1	4.2	(1.75)	先端・基部			3851	15−116
16	CL41−12	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	23.5・ 13.0	14.0	3.8	0.65				3821	15−117
17	CL39−29	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	17.0・ 10.5	9.0	3.0	(0.2)	側縁			4787	15−118
18	CL39−30	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(20.0)・(12.7)	(11.8)	3.8	(0.5)	先端・基部・基部		基部再加工	4863	15−119
19	CL41−13	Ⅵ	1CⅡa	珪質頁岩	(23.0)・(17.0)	(12.8)	4.1	(1.2)	先端・基部・基部			3850	15−120
20	CM39−31	Ⅵ	1CⅡa	黒色頁岩	(24.0)・ 15.8	12.8	4.5	(0.95)	基部			5380	15−121
21	CL40−20	Ⅵ	1CⅡa	玉髄	(20.0)・ 15.7	11.5	4.7	(0.8)	基部			183	15−122
22	CL39−28	Ⅵ	1CⅡa	珪化凝灰岩	(20.0)・ 17.0	12.0	4.0	(0.3)	基部		基部・基部再加工	4762	15−123

第59図　石　鏃(28)



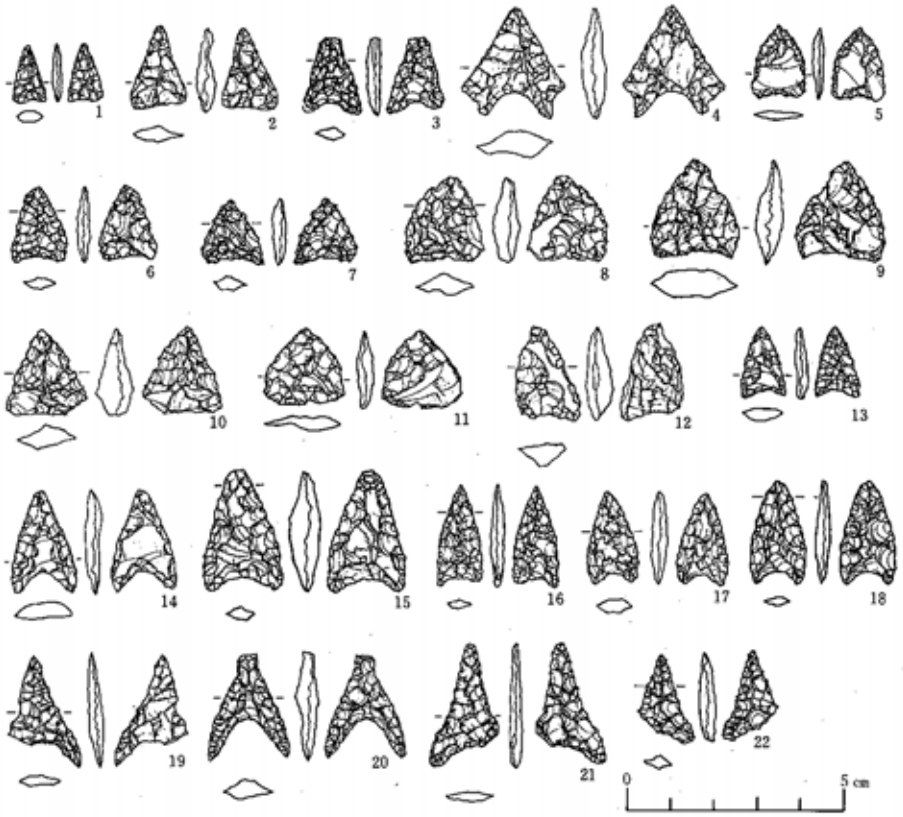
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−29	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪質頁岩	24.5 ・ 15.5	13.0	4.5	0.9			側縁再加工	5009	15−124
2	CM40− 7	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪質頁岩	28.0 ・ 16.8	13.0	5.0	0.9				61	15−126
3	CL41−14	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪質頁岩	30.0 ・ 18.4	12.0	5.0	1.1				3877	15−127
4	CL41−14	Ⅵ	ⅠCⅡb	黒色頁岩	(22.8)・ 18.2	10.6	3.7	(0.75)	基部			3874	15−128
5	CL41−14	Ⅵ	ⅠCⅡb	黒耀岩	(25.3)・(16.0)	11.5	3.2	(0.85)	先端			3871	15−129
6	CL40−20	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪質頁岩	28.0 ・ 17.2	15.0	7.0	1.85				3248	15−130
7	CL40−20	Ⅵ	ⅠCⅡb	流紋岩	(24.6)・ 16.5	(11.5)	4.0	(0.98)	基部			182	15−131
8	CM41−21・22	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪質頁岩	(15.5)・ (8.5)	7.2	4.5	(0.3)	先端			1218	15−132
9	CL40−19	Ⅵ	ⅠCⅡb	珪化凝灰岩	(15.3)・ (8.4)	6.3	3.5	0.25	先端		(玉髄化)	3240	15−133
10	CL41−12	Ⅵ	ⅠCⅢ1a	黒色頁岩	(20.8)・ 13.1	(12.8)	4.9	(0.8)	基部			3820	15−135
11	CL40−20	Ⅵ	ⅠCⅢ1a	黒色頁岩	(19.3)・(13.8)	8.2	4.0	(0.5)	先端・基部			3251	15−136
12	CL41−14	Ⅵ	ⅠCⅢ1b	珪化凝灰岩	(18.3)・(13.5)	(9.6)	3.8	(0.6)	先端・基部 基部			3876	15−138
13	CL40−22	Ⅵ	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(23.0)・(15.8)	10.0	5.4	(0.8)	先端・基部			3277	15−139
14	CL39−30	Ⅵ	ⅠCⅢ1b	珪化凝灰岩	(18.5)・(13.9)	12.8	4.0	(0.35)	先端・基部			4850	15−140
15	CM39−31	Ⅵ	ⅠCⅢ1b	黒色頁岩	(31.0)・(18.2)	19.0	5.0	(1.5)	先端			1761	15−141
16	CL39−30	Ⅵ	ⅠCⅢ2b	珪質頁岩	21.5 ・ 15.3	11.5	3.8	0.5				4827	15−142
17	CL41−13	Ⅵ	ⅠCⅢ2b	玉髄	(20.6)・(11.5)	14.2	3.8	(0.9)	先端			3849	15−143
18	CM41−22	Ⅵ	ⅠCⅢ2b	珪質頁岩	27.0 ・ 16.5	12.5	3.8	0.7				3641	15−144
19	CL39−29d	Ⅵ	ⅠCⅢ2b	黒色頁岩	(22.0)・ 18.0	11.0	3.5	(0.35)	基部			4813	15−145
20	CL39−30	Ⅵ	ⅠCⅢ2b	黒色頁岩	(26.0)・ 18.2	22.8	7.5	(3.2)	先端			4872	15−146
21	CL41−12	Ⅵ	(ⅠC)	黒色頁岩	(22.3)・(14.5)	13.4	4.2	(1.15)	先端・基部			3819	15−147

第60図　石　鏃(29)



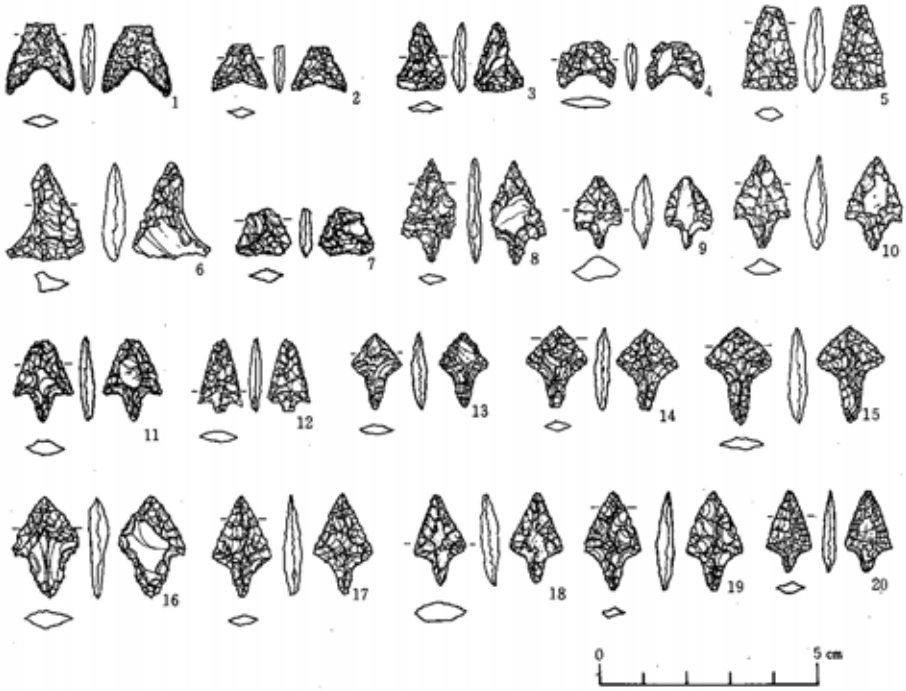
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41－14	Ⅵ	(1C)	珪質頁岩	(18.0)・(8.8)	8.0	2.7	(0.55)	先端			3879	15－149
2	CL39－29c	Ⅵ	(1C)	珪質頁岩	(15.0)・(7.2)	13.5	4.0	(0.4)	先端・基部			5411	15－150
3	CL40－22	Ⅵ	(1C)	珪質頁岩	(16.4)・(7.2)	14.7	3.8	(0.8)	先端・基部・基部	1		3282	15－151
4	CM39－31	Ⅵ	(3C)	珪質頁岩	(17.9)・(9.5)	(16.0)	3.9	(0.7)	先端・基部・基部			5383	16－ 1
5	CL40－19	Ⅵ	(3C)	珪質頁岩	(18.0)・(8.3)	16.1	4.1	(0.86)	先端・基部	1		3234	16－ 2
6	CL39－28	Ⅵ	(3C)	珪質頁岩	(21.9)・(11.1)	13.8	4.1	(0.65)	先端・基部			4761	16－ 3
7	CM40－7	Ⅵ	(3C)	黒色頁岩	(18.0)・(8.0)	15.7	3.5	(0.6)	先端			3445	16－ 4
8	CL40－22	Ⅵ	(3C)	碧玉	(25.3)・(13.5)	(12.2)	4.1	(1.4)	先端・基部・基部			5901	16－ 5
9	CL41－13	Ⅵ	(3C)	玉髄	(20.9)・(10.5)	13.1	4.2	(0.88)	先端・基部		(珪化頁岩)	5541	16－ 6
10	CL40－22	Ⅵ	(3C)	黒色頁岩	(27.0)・(13.5)	18.0	5.0	(2.6)	先端			5809	16－ 7
11	CL40－20	Ⅵ	(3C)	黒色頁岩	(17.5)・(10.5)	15.0	3.7	(0.8)	先端			3255	16－ 8
12	CL41－14	Ⅵ	(3C)	珪化頁岩	23.7・22.5	(15.8)	4.8	(1.7)	側縁		(玉髄化)	3882	16－ 46
13	CL41－14	Ⅵ	(3C)	珪質頁岩	(19.5)	(11.0)	2.5	(0.38)				3880	16－ 9
14	CL39－30	Ⅵ	1D	珪質頁岩	34.5	8.5	5.0	0.8				794	16－ 10
15	CM41－21	Ⅵ	1D	珪質頁岩	22.6	8.1	3.3	0.75				3656	16－ 11
16	CL39－29c	Ⅵ	1D	黒曜石	(26.1)	(8.8)	6.4	(1.2)	両端				16－ 12
17	CL39－25	Ⅶ	6A Ⅰa	珪化頁岩	18.5	16.2	3.1	0.45				4679	16－ 15
18	CL41－11	Ⅶ	6A Ⅰa	珪化頁岩	18.0	15.0	2.8	0.2				3809	16－ 16
19	CM40－6	Ⅶ	6A Ⅰa	石英安山岩質凝灰岩	18.0	15.2	3.0	0.52				2434	16－ 17
20	CM39－21	Ⅶ	6A Ⅰa	珪化頁岩	(14.0)	13.5	3.3	(0.2)	先端			5343	16－ 19
21	CM40－5	Ⅶ	6A Ⅰa	珪質頁岩	20.8	15.8	4.4	0.8				2430	16－ 20
22	CL40－16	Ⅶ	6A Ⅰa	玉髄	(19.0)	(16.0)	3.0	(0.82)	先端			4412	16－ 21
23	CL41－18	Ⅶ	6A Ⅰa	珪質頁岩	(15.5)	16.0	2.8	(0.3)	先端			3710	16－ 22

第61図　石　鏃(30)



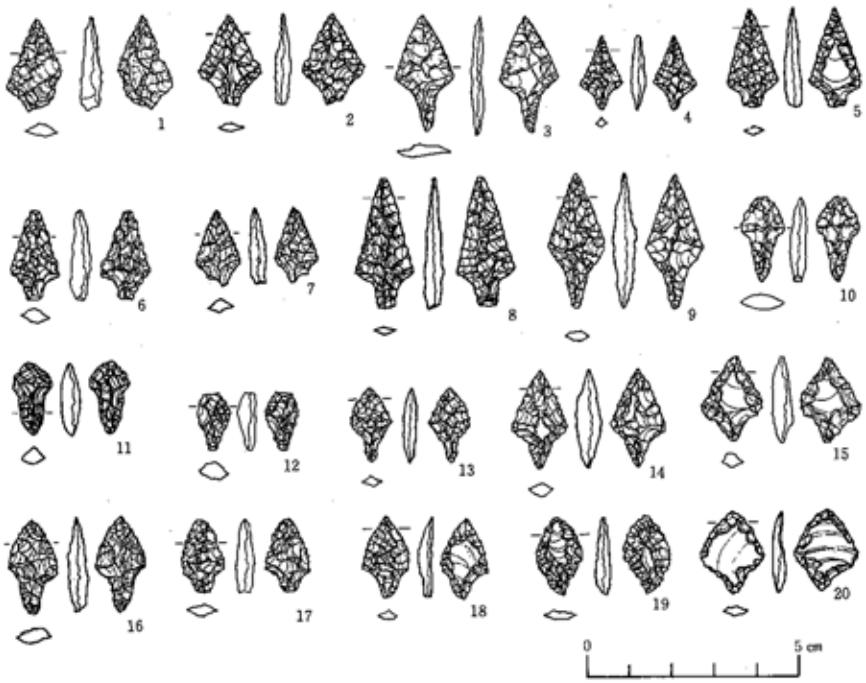
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM40－8	V	0A I b	珪質頁岩	(13.3)	(7.8)	2.4	(0.2)	先端・基部			2318	16－23
2	CM41－20	VI	1A I b	珪質頁岩	19.5	12.8	4.3	0.4				3378	16－24
3	CL40－17	VI	1A I b	珪化凝灰岩	(18.2)	(13.5)	3.0	(0.58)	先端・側縁			3309	16－25
4	CL39－24	VI	0A II a	珪化凝灰岩	(26.0)	24.0	4.8	(1.3)	先端	2	(玉髄化)	803	16－26
5	CL41－8	VI	0A II a	珪質頁岩	16.6	12.2	2.4	0.48				3767	16－28
6	CL39－27	VI	0A II a	石英斑岩質凝灰岩	17.8	13.0	3.5	0.2				4749	16－29
7	CL39－24	VI	0A II a	珪質頁岩	15.5	(14.5)	3.0	(0.3)	基部			4654	16－30
8	CL39－24	VI	0A II a	珪質頁岩	(20.0)	18.8	6.0	(1.5)	先端			4655	16－31
9	CL41－10	VI	0A II a	珪質頁岩	(23.0)	20.0	5.9	(2.2)	基部			3791	16－32
10	CL40－15	VI	0A II a	碧玉	(19.5)	(19.0)	8.5	(2.1)	基部			3205	16－33
11	CM40－5	VI	0A II a	珪化凝灰岩	17.6	15.0	3.8	0.95				2431	16－34
12	CM40－6	VI	0A II a	碧玉	(22.0)	(15.0)	6.0	(1.25)	先端～基部		再加工	2436	16－35
13	CL41－10	VI	0A II b	珪質頁岩	15.8	10.4	2.9	0.4				3790	16－36
14	CL41－11	VI	0A II b	珪化凝灰岩	23.1	15.0	3.4	1.2	先端			3807	16－37
15	CL40－18	VI	0A II b	珪質頁岩	(28.0)	18.0	7.1	(2.95)	先端			3218	16－38
16	CM41－20	VI	0A II b	珪化凝灰岩	(23.5)	30.5	3.2	(0.5)	基部			3379	16－39
17	CL40－16	VI	0A II 3	珪化凝灰岩	22.0	12.5	3.5	0.6		4		4414	16－41
18	CL40－16	VI	0A II 3	玉髄	24.0	13.0	3.4	0.7	先端			4413	16－42
19	CL40－15	VI	0A III b	砂岩	(26.0)	17.0		(0.5)	基部		(頁岩質?)	776	16－43
20	CM41－19・20	VI	0A III b	珪質頁岩	(24.0)	19.0	5.0	(0.8)	先端			3682	16－44
21	CM40－5	VI	0A III b	珪化凝灰岩	28.5	(36.5)	2.5	(0.6)	基部			1216	16－45
22	CL39－27	VI	0A III b	珪質頁岩	30.2	(33.0)	3.5	(0.38)	基部			4750	16－47

第62図　石　鏃(31)



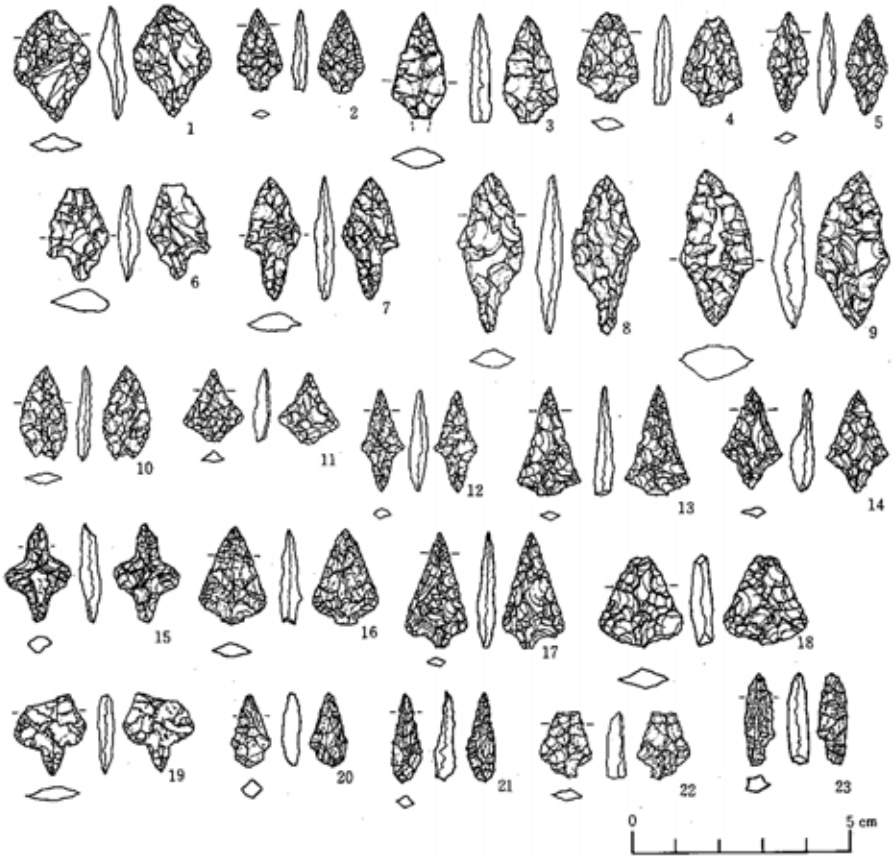
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41−18	Ⅶ	6A Ⅲb	黒曜石	(16.0)	15.5	2.5	(0.52)	先端			3711	16−48
2	CL39−24	Ⅶ	6A Ⅲb	珪質頁岩	(11.0)	12.5	2.0	(0.15)	先端		(碧玉)	4653	16−51
3	CL40−16	Ⅶ	6A Ⅲb	黒曜石	(16.2)	(11.5)	3.0	(0.35)	先端・基部			4415	16−52
4	CL41−10	Ⅶ	(5A)	黒曜石	(10.6)	13.1	2.5	(0.32)	先端			822	16−57
5	CM41−20	Ⅶ	6B Ⅰb	珪質頁岩	(19.5)	13.0	4.5	(0.7)	先端			3580	16−59
6	CL39−26	Ⅶ	6B Ⅰb	珪質頁岩	22.5	(15.0)	5.1	(0.95)	側縁一基部			4738	16−60
7	CL40−15	Ⅶ	6B Ⅰb	珪化凝灰岩	(11.4)	(12.8)	2.5	(0.4)	先端・基部			2397	16−61
8	CM41−17b	Ⅶ	1A Ⅰb	珪化凝灰岩	24.0 ・(19.0)	(12.5)	3.0	(0.4)	基部			3358	16−63
9	CM41−19	Ⅶ	1A Ⅱa	玉髄	(17.0)・(13.0)	11.0	4.1	(0.4)	先端		(頁岩質)	1178	16−64
10	CL40−16	Ⅶ	1A Ⅲa	玉髄	22.0 ・ 15.4	12.5	5.0	0.6				4411	16−65
11	CL40−15	Ⅶ	1B Ⅰb	珪化凝灰岩	(19.5)・(14.2)	14.0	3.0	(0.5)	先端			2195	16−66
12	CL41−8	Ⅶ	1B Ⅰa	珪質頁岩	(16.5)・(15.0)	(9.8)	2.8	(0.35)	先端・基部 基部			3268	16−68
13	CM40−6	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質頁岩	17.0 ・ 7.9	11.0	3.2	0.4			(碧玉化)	2435	16−69
14	CL39−25	Ⅶ	3C Ⅰa	珪化凝灰岩	(19.0)・ 8.2	14.0	3.0	(0.4)	基部			4672	16−70
15	CL39−27	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質頁岩	32.8 ・ 7.9	15.0	4.0	0.5				4747	16−71
16	CL41−9	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質頁岩	23.5 ・ 12.8	15.5	4.3	0.9				6158	16−72
17	CL40−16	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質凝灰岩	23.5 ・ 15.2	13.8	4.1	0.6			(玉髄化)	4458	16−73
18	CM41−17b	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質頁岩	21.0 ・ 14.1	12.0	3.8	0.5	先端			3357	16−74
19	CL40−16	Ⅶ	3C Ⅰa	珪質頁岩	22.5 ・ 14.5	13.0	4.0	0.6				4429	16−75
20	CL39−24	Ⅶ	3C Ⅰa	玉髄	18.8 ・ 13.6	(10.5)	2.9	(0.39)	基部			4652	16−76

第63図　石　鏃(32)



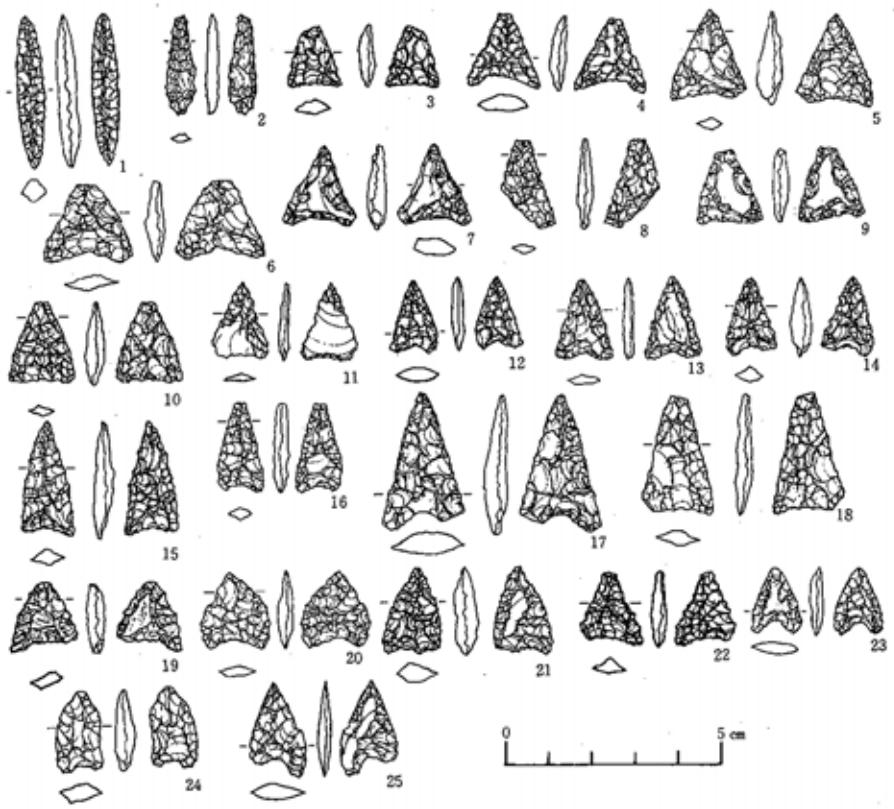
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40−15	Ⅶ	1CⅠa	珪化凝灰岩	(23.0)・19.0	(13.5)	4.5	(0.8)	基部・基部			3024	16−77
2	CM41−20	Ⅶ	1CⅠa	珪質頁岩	(22.0)・14.6	(15.0)	3.5	(0.5)	基部	2		1177	16−78
3	CL41−10	Ⅶ	1CⅠa	珪質頁岩	28.0・15.5	13.5	0.4	0.7				820	16−79
4	CL40−18	Ⅶ	1CⅠa	珪化凝灰岩	17.5・12.5	10.0	3.4	0.3				3221	16−80
5	CL40−16	Ⅶ	1CⅠb	珪化凝灰岩	(23.5)・18.5	12.0	3.9	(0.6)	基部			4410	16−81
6	CL39−25	Ⅶ	1CⅠb	珪質頁岩	(22.0)・16.1	11.5	4.5	(0.5)	先端・基部			4670	16−82
7	CL39−27	Ⅶ	1CⅠb	玉髄	(17.8)・13.2	10.2	3.7	(0.6)	基部			4748	16−83
8	CL39−27	Ⅶ	1CⅠb	珪質頁岩	(31.0)・23.5	13.5	4.5	(1.0)	先端・基部			1213	16−84
9	CL39−25	Ⅶ	1CⅠb	珪質頁岩	32.5・19.0	13.5	5.5	1.2				4678	16−85
10	CL41−11	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	(20.0)・(8.5)	10.3	3.9	(0.6)	先端			3805	16−86
11	CM41−20	Ⅶ	1CⅡa	黒色頁岩	(16.8)・(5.6)	(9.1)	4.2	(5.2)	先端				16−87
12	CL39−24	Ⅶ	1CⅡa	玉髄	(13.5)・(6.9)	8.0	4.3	(0.25)	先端			4657	16−88
13	CL39−25	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	17.8・8.6	10.0	3.0	0.25		1		4671	16−89
14	CL39−27	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	23.2・15.8	13.0	5.7	1.15		1	(玉髄化)	4745	16−90
15	CM41−19	Ⅶ	1CⅡa	黒色頁岩	(20.5)・(14.3)	15.0	4.8	(0.8)	先端			3702	16−91
16	CM41−18	Ⅶ	1CⅡa	珪化凝灰岩	22.4・13.1	(11.7)	4.6	(0.85)	基部		鉄ケハジケ	3712	16−92
17	CL39−25	Ⅶ	1CⅡb	珪質頁岩	(17.8)・(12.6)	(10.0)	4.3	(0.4)	先端・基部			3684	16−93
18	CL39−27	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	(19.5)・13.5	(11.8)	3.0	(0.4)	基部		基部再加工	4746	16−94
19	CL41−10	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	(18.5)・12.0	11.0	3.5	(0.4)	先端・基部			821	16−95
20	CL40−18	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	19.2・12.0	15.0	3.0	0.6				3220	16−97

第64図　石　鏃(33)



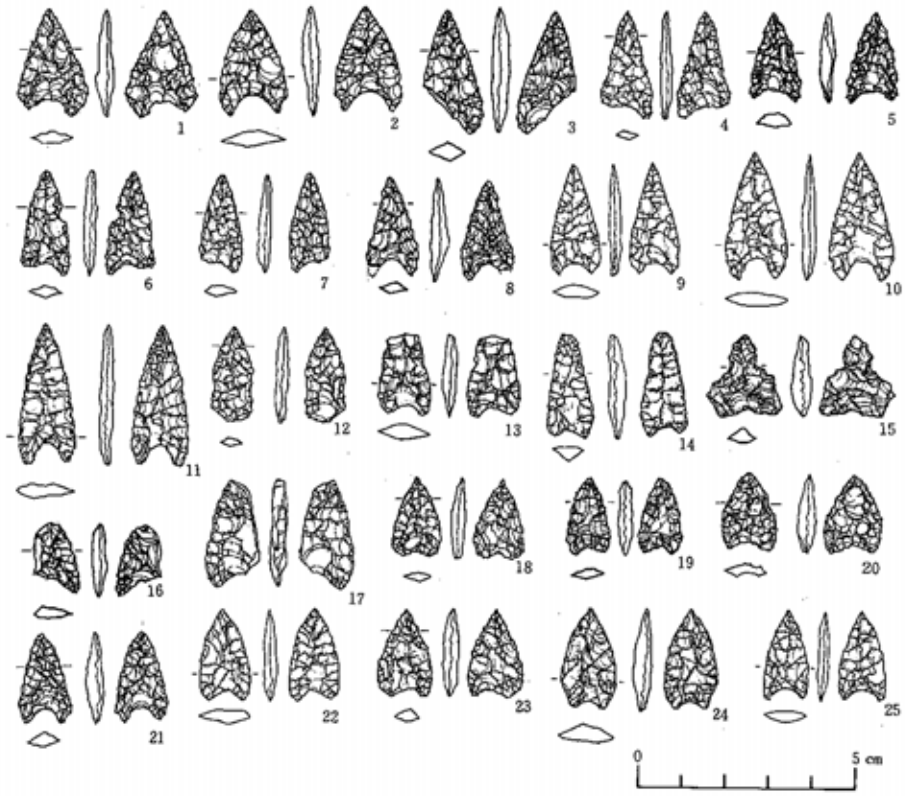
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39−25	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	(26.0)・(15.8)	18.0	5.0	(1.05)	先端			4675	16−98
2	CL39−25	Ⅶ	1CⅡb	珪質頁岩	(19.5)・14.5	10.5	3.3	(0.3)	基部			4674	16−99
3	CL40−15	Ⅶ	1CⅡb	黒曜石	(25.0)・19.7	(12.5)	4.6	(0.9)	先端・基部・基部	1		910	16−100
4	CM41−20	Ⅶ	1CⅡb	黒色頁岩	(21.2)・(16.1)	14.0	3.4	(0.9)	先端・基部			3374	16−101
5	CM41−17b	Ⅶ	1CⅡb	黒色頁岩	23.2・13.9	(9.2)	3.8	(0.4)	基部			3356	16−102
6	CL41−11	Ⅶ	1CⅡa	珪化凝灰岩	(21.5)・(15.0)	(13.7)	5.2	(1.27)	先端・基部			5623	16−103
7	CM41−17b	Ⅶ	1CⅡa	珪質頁岩	28.2・17.0	(12.5)	4.0	(0.8)	基部			3355	16−104
8	CL40−16	Ⅶ	1CⅡb	珪化凝灰岩	37.0・20.0	(15.0)	5.5	(1.9)	先端・基部			4407	16−105
9	CL40−14	Ⅶ	1CⅡb	珪質頁岩	36.0・23.5	17.0	7.2	3.2	側縁・基部			2288	16−106
10	CL40−15	Ⅶ	1CⅡb	珪質頁岩	(21.5)・17.5	11.0	2.8	(0.4)	基部			911	16−108
11	CM41−20	Ⅶ	1CⅢa	珪化凝灰岩	(17.5)・(12.0)	9.0	3.5	(0.3)	先端・基部			3373	16−109
12	CM41−20	Ⅶ	1CⅢb	珪化凝灰岩	(23.5)・(14.1)	10.0	4.2	(0.4)	先端			3372	16−110
13	CM41−17b	Ⅶ	1CⅢb	安山岩質凝灰岩	(25.0)・21.3	14.5	4.3	(0.6)	基部			5625	16−111
14	CM41−20	Ⅶ	1CⅢb	珪化凝灰岩	(22.8)・(13.8)	(15.0)	4.2	(0.85)	先端		先端再加工	3376	16−112
15	CL39−27	Ⅶ	1CⅢb	珪化凝灰岩	23.5・16.0	13.8	5.3	0.75			(黒曜化)	5098	16−112
16	CL40−18	Ⅶ	1CⅢ2b	黒色頁岩	(22.2)・17.5	15.1	5.0	(1.1)	基部	2		3219	16−114
17	CM39−26	Ⅶ	1CⅢ2b	珪質頁岩	(26.5)・22.5	(14.5)	4.2	(0.9)	基部・基部		基部再加工	5368	16−115
18	CM39−27	Ⅶ	1CⅢ2b	黒色頁岩	(21.0)・(16.5)	19.5	4.8	(1.05)	先端・基部	3		5400	16−116
19	CL39−27	Ⅶ	1CⅢ2b	珪化凝灰岩	(18.5)・(10.0)	16.8	3.2	(0.6)	先端			2214	16−117
20	CL40−16	Ⅶ	(1C)	玉髄	(16.6)・(−)	(8.7)	4.0	(0.5)	基部・基部		(珪化凝灰岩) 基・基部再加工	4416	16−118
21	CL40−15	Ⅶ	(1C)	玉髄	20.4	6.7	4.5	0.5			(珪化凝灰岩) 有茎鏃再加工	2399	16−119
22	CM41−20	Ⅶ	(1C)	珪化凝灰岩	(15.8)・(10.1)	12	4.0	(0.4)	先端・基部		焼ヤハジヤ	3375	16−122
23	CL40−15	Ⅶ	(1C)	珪質頁岩	(23.2)・(14.2)	(6.8)	4.5	(0.7)	先端〜基部			2206	16−120

第65図　石　鏃(34)



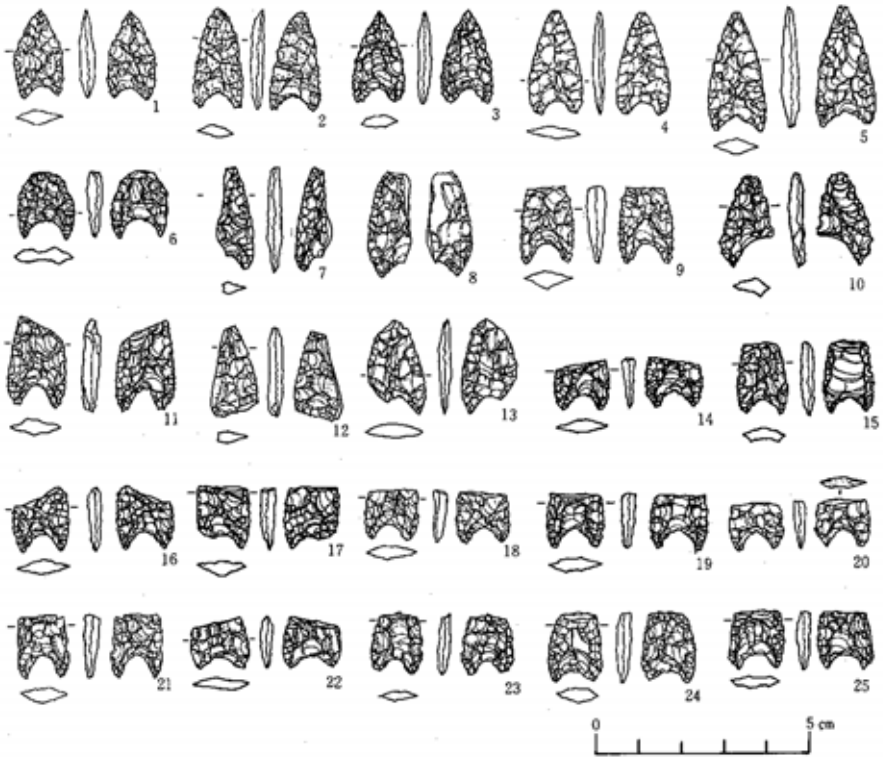
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL41－10	Ⅶ	1D	玉髄	35.0	6.2	4.2	0.96				669	36－124
2	CM41－20	Ⅶ	1D	珪質頁岩	(23.0)	6.3	2.8	(0.4)	先端			3377	34－108
3	CL40－11	Ⅶ	6A Ⅰa	珪質頁岩	(15.0)	12.8	3.5	(0.5)	先端			3133	36－125
4	CM40－45	Ⅶ	6A Ⅰa	珪化凝灰岩	(12.0)	16.4	3.4	(0.73)	先端			2355	36－126
5	CM41－14～15	Ⅶ	6A Ⅰa	珪化凝灰岩	(21.0)	(17.5)	5.5	(1.2)	先端・基部			3536	36－127
6	CL39－11	Ⅶ	6A Ⅰa	珪質頁岩	(18.0)	(20.5)	4.4	(0.75)	先端・基部			4579	36－128
7	CM41－8	Ⅶ	6A Ⅰa	珪質頁岩	19.0	16.8		0.8				1288	36－129
8	CM41－14～15	Ⅶ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(20.8)	(13.0)	3.4	(0.35)	先端・基部			3538	36－130
9	CM40－4d	Ⅶ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	(17.7)	15.2	3.6	(0.8)	先端			2395	36－131
10	CM41－10	Ⅶ	6A Ⅰb	石英安山岩質凝灰岩	(19.0)	(15.5)	4.5	(0.8)	先端・基部			3407	36－132
11	CL39－12	Ⅶ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	17.5	13.5	2.1	(0.2)				4603	36－133
12	CM40－4d	Ⅶ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(16.4)	(10.2)	2.8	(0.5)	基部			2398	36－134
13	CL39－11	Ⅶ	6A Ⅰb	珪質頁岩	19.0	13.5	2.0	0.3				4578	36－135
14	CL39－16	Ⅶ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	18.5	11.5	4.8	0.5				4626	36－136
15	CL39－18	Ⅶ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	26.5	12.5	4.2	0.85				4624	37－ 1
16	CM41－14～16	Ⅶ	6A Ⅰb	石英安山岩質凝灰岩	(21.0)	(10.8)	3.5	(0.5)	先端・基部			3537	37－ 2
17	CM41－13	Ⅶ	6A Ⅰb	珪質頁岩	(32.5)	(19.0)	4.9	(1.7)	先端・基部			3689	37－ 3
18	CL39－10	Ⅶ	6A Ⅰb	珪化凝灰岩	(28.5)	(17.0)	3.6	(1.1)	先端・基部			4651	37－ 4
19	CM41－27	Ⅳ	6A Ⅱ1a	玉髄	18.0	16.0	3.5	(0.8)				2237	37－ 5
20	CL39－11	Ⅶ	6A Ⅱ1a	珪質頁岩	(14.7)	(15.5)	3.6	(0.72)	先端・基部			6105	37－ 6
21	CL39－16	Ⅶ	6A Ⅱ1b	珪化凝灰岩	(20.0)	14.2	5.0	(1.1)	先端			4625	37－ 7
22	CL40－6	Ⅶ	6A Ⅱ1a	玉髄	(17.2)	(14.8)	3.5	(0.58)	先端・基部			3033	37－ 8
23	CL41－5	Ⅶ	6A Ⅱ1a	珪化凝灰岩	15.6	11.1	3.0	0.43		4		3749	37－ 9
24	CL39－23	Ⅶ	6A Ⅱ1b	石英安山岩質凝灰岩	(19.0)	11	4.5	(0.75)	先端			4710	37－ 10
25	CM40－4d	Ⅶ	6A Ⅱ3	玉髄	(22.0)	12.9	3.5	(0.7)	基部			2396	37－ 11

第66図　石　鏃(35)



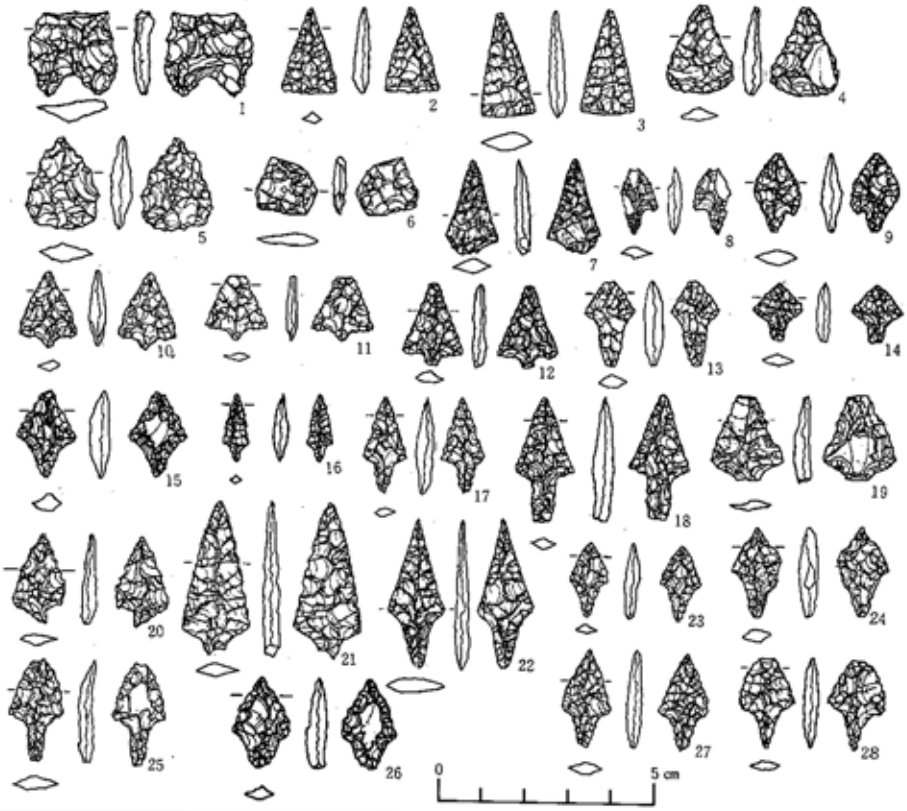
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41－15	縄	0A II 3	珪質頁岩	(25.5)	16.5	4.0	(0.9)	基部			4437	17－12
2	CM41－9	縄	0A II 3	珪質頁岩	24.5	16.0	3.3	0.6				3624	17－13
3	CM39－11	縄	0A II 3	黒色頁岩	(29.0)	(13.0)	4.0	(0.9)	基部			4581	17－14
4	CM41－22 13	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	(25.5)	(12.0)	2.6	(0.4)	基部			3319	17－15
5	CL40－11	縄	0A II 3	黒色頁岩	21.0	12.5	3.3	0.6				6009	17－16
6	CL38－12	縄	0A II 3	珪質頁岩	(24.5)	11.2	3.0	(0.5)	基部・側縁			4601	17－17
7	CL39－11	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	22.5	10.0	2.7	(0.35)	基部			5336	17－18
8	CM40－4 d	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	23.0	12.5	4.0	(0.65)	基部			2394	17－19
9	CM41－10	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	25.3	11.4	2.6	0.68			(玉髄化)	3404	17－20
10	CM40－4 b	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	29.2	14.6	3.3	1.2			(玉髄化)	1651	17－21
11	CM41－13	縄	0A II 3	玉髄	32.5	13.5	3.1	0.8				511	17－22
12	CM41－13	縄	0A II 1b	珪質頁岩	(22.2)	(9.5)	2.8	(0.5)	基部		再加工	3688	17－23
13	CM40－4 d	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	(18.6)	12.0	3.2	(0.75)	先端	4		1205	17－24
14	CM40－4 d	縄	0A II 1b	珪化凝灰岩	(24.0)	11.0	3.5	(0.4)	先端			54	17－25
15	CL39－12	縄	0A II 1a	碧玉	(18.8)	(17.0)	4.5	(0.8)	基部		(凝灰岩質)再加工	818	17－26
16	CL40－12	縄	0A II 1b	珪質頁岩	(17.0)	(11.2)	3.5	(0.48)	先端・基部			5924	17－27
17	CM40－4 b	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	(24.7)	(12.5)	3.7	(0.8)	先端～基部		(石英安山岩質)	2360	17－28
18	CM41－14	縄	0A II 3	珪質頁岩	18.5	11.8	3.1	0.45				3299	17－29
19	CL40－12 12	縄	0A II 3	珪質頁岩	17.1	10.0	3.0	0.5				3114	17－30
20	CL39－23	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	18.5	12.8	4.0	0.43			(玉髄化) 焼ハ少ケ	4709	17－31
21	CL39－12	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	21.0	12.5	4.0	0.5				4605	17－32
22	CM40－4 d	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	21.0	11.5	3.4	0.7				5784	17－37
23	CM41－7	縄	0A II 3	珪化凝灰岩	20.8	13.0	4.1	0.7				3400	17－33
24	CL39－13	縄	0A II 3	珪質頁岩	23.5	13.0	4.3	0.9		4		575	17－34
25	CM40－4 d	縄	0A II 3	珪質頁岩	20.5	10.3	2.8	0.68				2356	17－35

第67図　石　鏃(36)



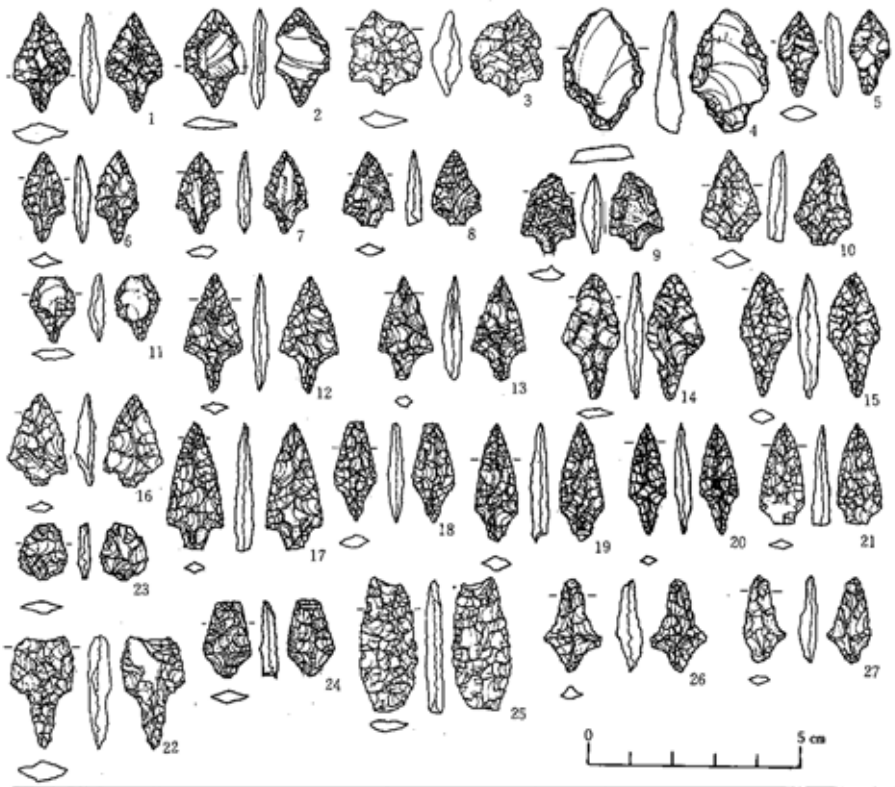
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL40－9	縄	0A II3	珪化頁岩	21.0	12.0	3.5	0.5				3064	17－36
2	CL40－11	縄	0A II3	珪質頁岩	(23.4)	12.0	3.0	(0.78)	先端			3132	17－38
3	CL39－21	縄	0A II3	珪化頁岩	22.0	12.0	3.0	0.5				4644	17－39
4	CM40－4b	縄	0A II3	黒色頁岩	(24.3)	12.5	2.8	(7.1)	先端			53	17－40
5	CL39－23	縄	0A II3	珪質頁岩	(28.0)	13.2	4.0	(1.1)	先端	4		4708	17－41
6	CM41－16	縄	0A II3	珪化頁岩	(15.8)	13.0	3.2	(0.4)	先端		(玉髄化)	3396	17－42
7	CL39－33	縄	0A II3	珪質頁岩	(24.0)	(2.8)	3.2	(0.35)	先端～基部	4		4712	17－43
8	CM40－4d	縄	0A II3	珪質頁岩	(24.4)	(10.3)	3.9	(1.5)	先端～基部	4		3402	17－44
9	CL40－6	縄	0A II3	珪質頁岩	(18.0)	12.5	4.4	(0.7)	先端	4		3632	17－45
10	CL40－5	縄	0A II3	珪化頁岩	(22.0)	(13.0)	3.2	(0.62)	先端・基部		(玉髄化)	3014	17－46
11	CL39－12	縄	0A II3	珪化頁岩	(20.8)	15.2	3.8	(0.75)	先端			4604	17－47
12	CL40－11	縄	0A II3	玉髄	(20.3)	(11.7)	3.0	(0.7)	先端～基部			3134	17－48
13	CM40－4b	縄	0A II3	珪化頁岩	(22.4)	(12.7)	(2.8)	(0.95)	先端・基部			2357	17－49
14	CL40－13	縄	0A II3	玉髄	(12.4)	13.0	2.9	(0.4)	先端			3187	17－50
15	CL40－5	縄	0A II3	珪化頁岩	(17.5)	12.0	2.6	(0.5)	先端			3013	17－51
16	CM－39・22・23	縄	0A II3	黒色頁岩	(15.2)	13.5	3.0	(0.3)	先端		焼ケハジケ	5340	17－52
17	CL39－12	縄	0A II3	珪質頁岩	(14.5)	12.5	3.3	(0.45)	先端・基部			4594	17－53
18	CM41－14	縄	0A II3	珪化頁岩	(12.0)	12.8	3.0	(0.3)	先端		(玉髄化)	3298	17－54
19	CM39－13	縄	0A II3	珪質頁岩	(13.0)	(13.5)	3.2	(0.35)	先端・基部	4		5375	17－55
20	CM40－4d	縄	0A II3	珪質頁岩	(10.6)	12.6	2.8	(0.4)	先端			3400	17－56
21	CL39－10	縄	0A II3	珪質頁岩	(15.0)	12.5	3.5	(0.4)	先端			5534	17－57
22	CM40－4d	縄	0A II3	珪質頁岩	(11.4)	15.3	2.9	(0.5)	先端	4		2399	17－58
23	CM41－10	縄	0A II3	珪化頁岩	(15.0)	(12.0)	2.9	(0.3)	先端・基部			5618	17－59
24	CM41－15	縄	0A II3	珪化頁岩	(16.5)	12.5	3.2	(0.5)	先端			4438	17－59
25	CM39－17	縄	0A II3	珪質頁岩	(14.0)	(13.0)	3.0	(0.4)	先端・側縁	4		5396	17－60

第68図　石　鏃(37)



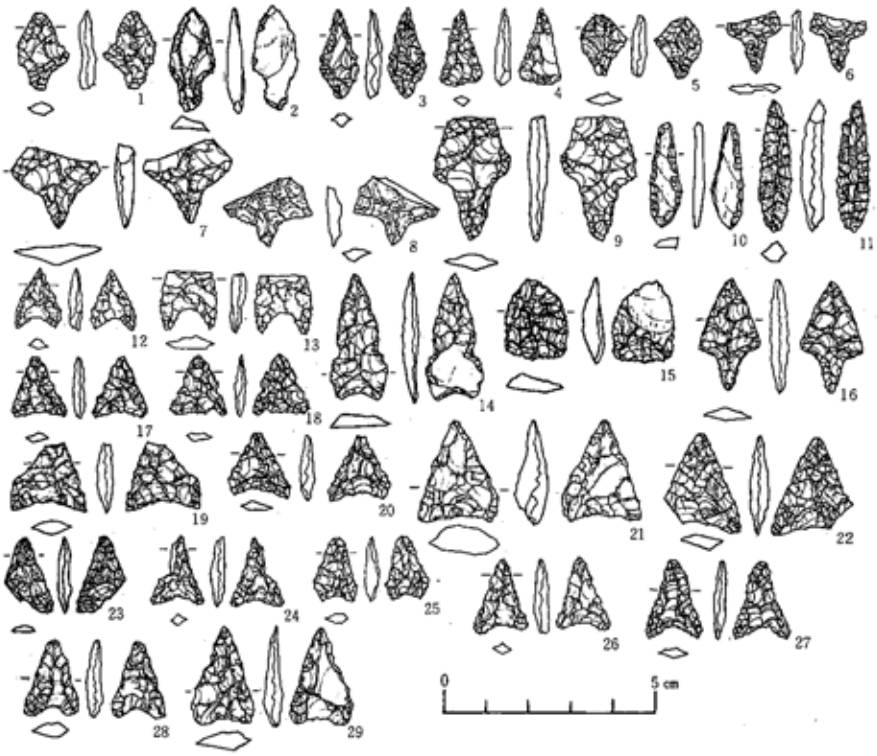
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL39－12	縄	0A II 3	珪化頁岩	(20.0)	20.5	4.0	(1.35)	先端			5600	17－61
2	CM－41・12 13	縄	0B I b	珪質頁岩	(20.0)	12.8	3.6	(0.45)	先端		有茎部再加工	3317	17－62
3	CM40－4 d	縄	0B I b	珪化頁岩	(24.0)	12.5	3.8	(0.4)	先端			5785	17－63
4	CM39－24a	縄	0B II b	珪質頁岩	(20.0)	15.5	4.0	(0.7)	先端			5372	17－66
5	CL39－16	縄	0B II a	珪化頁岩	(22.0)	17.5	4.5	(1.25)	先端			4617	17－64
6	CM40－4 b	縄	(0B)	黒曜岩	(13.4)	(12.5)	3.2	(0.55)	先端・基部			2403	17－65
7	CM40－4 d	縄	(0A)	黒曜岩	(21.5)	(12.1)	3.1	(0.95)	基部			52	17－67
8	CM40－4 d	縄	1A I a	黒曜岩	(15.2)・(9.5)	(7.8)	3.0	(0.3)	先端・基部			6056	17－69
9	CL40－7	縄	1A II a	黒色頁岩	18.2・13.5	10.8	4.5	(0.55)	基部			5918	17－68
10	CM41－14	縄	1B I a	玉髄	17.5・15.2	13.5	3.9	0.4			(珪化頁岩)	3295	17－70
11	CM41－7	縄	1B I b	珪化頁岩	(15.2)・(12.5)	(15.4)	2.3	(0.4)	先端		(玉髄化)	2284	17－71
12	CM39－25	縄	1B I b	珪化頁岩	(19.0)・(16.5)	14.0	3.2	(0.35)	先端・基部			5360	17－72
13	CM41－8	縄	1C I a	珪質頁岩	(20.0)・(7.5)	11.5	4.3	(0.5)	先端・基部			3696	17－73
14	CM39－25	縄	1C I a	珪化頁岩	(14.0)・7.2	11.8	3.0	(0.15)	基部			5408	17－74
15	CM41－14	縄	1C I a	珪質頁岩	(21.0)・(－)	(11.0)	4.4	(0.6)	先端・基部		先端再加工	3294	17－79
16	CM40－4 b	縄	1C I b	珪化頁岩	15.5・11.8	6.2	3.3	0.1				2353	17－76
17	CM41－10	縄	1C I b	珪質頁岩	(22.5)・14.5	10.0	4.0	(0.4)	基部			3406	17－77
18	CL40－6	縄	1C I b	珪質頁岩	(38.5)・(18.7)	13.5	4.9	(1.4)	先端・基部	1		3031	17－78
19	CM40－4 d	縄	1C I b	珪質頁岩	(19.5)・(15.2)	16.4	2.4	(0.95)	先端・基部	1		2361	17－83
20	CM40－4 d	縄	1C I b	珪化頁岩	(21.0)・18.0	(12.0)	3.2	(0.45)	先端・基部			2592	17－81
21	CM41－15 －18	縄	1C I b	珪質頁岩	(36.0)・29.5	15.0	3.0	(1.2)	基部	1		3583	17－82
22	CM40－4 d	縄	1C I b	珪質頁岩	34.0・21.1	13.0	3.0	0.6				5783	17－83
23	CM41－16 12	縄	1C II a	珪化頁岩	17.5・9.5	9.0	3.0	0.25		1		3687	17－84
24	CL39－14	縄	1C I b	珪質頁岩	(20.0)・(12.5)	(14.0)	4.4	(0.7)	先端			5622	17－85
25	CL40－7	縄	1C II a	珪化頁岩	(25.5)・(13.2)	(13.0)	3.2	(0.6)	先端・基部			3045	17－75
26	CM41－15	縄	1C II a	泥岩	(21.0)・13.3	13.0	4.2	(0.75)	基部			4436	17－86
27	CM40－4 d	縄	1C II a	珪質頁岩	(23.0)・14.0	11.0	3.4	(0.4)	基部	1		2391	17－87
28	CM40－4 b	縄	1C II a	珪化頁岩	(21.0)・(11.0)	13.0	3.2	(0.4)	先端			2352	17－88

第69図　石　鏃(38)



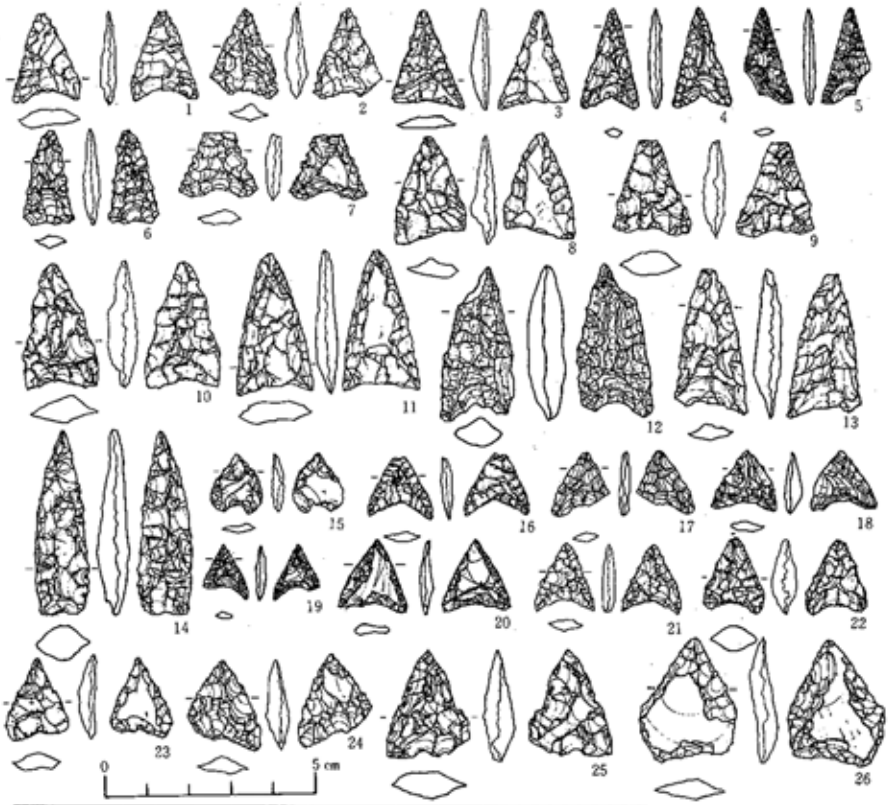
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41－12・13	Ⅷ	1CⅡa	珪質頁岩	24.0 ・ 16.0	13.0	4.5	0.8				3316	17－90
2	CL41－7	Ⅷ	1CⅡa	珪質頁岩	22.8 ・ 15.2	(13.6)	2.8	(0.78)	基部			3761	17－91
3	CM41－7	Ⅷ	1CⅡa	珪質頁岩	(20.0)・(15.8)	17.0	6.6	(1.8)	先端		(一部変質化)	3401	17－92
4	CL39－23上	Ⅷ	1CⅡa	硅岩	38.8 ・ 21.5	19.0	6.0	2.35				1910	17－93
5	CL41－4	Ⅷ	1CⅡa	珪化頁岩	20.0 ・ 11.6	9.5	3.3	0.5				840	17－94
6	CL40－12・13	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	21.0 ・ 14.5	10.0	3.7	0.45				3112	17－95
7	CM40－4b	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(21.0)	13.0	3.2	(0.4)	先端			2352	14－11
8	CM40－4d	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(17.6)・14.6	11.4	3.5	(0.6)	基部・側縁			6057	17－96
9	CL40－5	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(18.3)・(14.1)	12.5	4.5	(0.85)	先端・基部			3012	17－97
10	CL40－10	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(21.5)・16.5	14.0	4.0	(0.75)	基部	1		3103	17－98
11	CL39－16	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(15.2)・(6.5)	11.0	3.5	(0.25)	先端		(石英安山岩質)	4623	17－99
12	CM40－4b	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	28.0 ・ 18.0	14.0	3.4	0.6		1		1650	17－100
13	CL40－9	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(24.5)・17.8	12.5	4.5	(0.8)	側縁・基部			5530	17－101
14	CM40－4d	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(29.5)・16.7	(13.5)	3.9	(0.7)	基部～側縁		側縁再加工	5763	17－102
15	CM40－4d	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(29.6)・(16.4)	12.0	4.8	(1.2)	先端	1		2290	17－103
16	CM41－17a	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(22.0)・(－)	14.0	4.5	(0.75)	基部・基部			1250	17－104
17	CL40－5・	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(30.6)・(24.0)	13.0	4.2	(1.1)	先端・基部	1		3011	17－105
18	CL39－23	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(23.5)・(15.0)	10.0	3.2	(0.5)	先端	1		4711	17－106
19	CM39－8	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(38.0)・20.6	10.2	4.0	(0.65)	基部	1		5352	17－107
20	CM40－4d	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	26.5 ・ 17.1	8.0	3.5	0.5				2389	17－108
21	CM41－14	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(24.0)・(28.5)	11.0	4.0	(0.6)	先端・基部	2		3293	17－109
22	CM41－16	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(26.0)・(12.8)	(14.0)	5.0	(1.5)	先端・基部	1		3394	17－110
23	CL40－13	Ⅷ	1CⅡb	玉髄	(13.4)・(11.0)	11.0	2.7	(0.4)	先端・基部			3186	17－111
24	CM40－4b	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(18.0)・(32.5)	11.0	4.0	(0.7)	先端・基部			2354	17－112
25	CM39－6	Ⅷ	1CⅡb	珪化頁岩	(31.6)・(－)	13.8	4.5	(1.97)	先端・基部			6732	17－113
26	CM41－8	Ⅷ	1CⅡb	珪質頁岩	(21.5)・(17.0)	(13.0)	5.7	(0.9)	先端・基部			819	17－114
27	CM41－14	Ⅷ	1CⅡb	黒色頁岩	(20.8)・(34.3)	(10.0)	4.0	(0.4)	先端・基部・基部			3296	17－115

第70図　石　鏃(39)



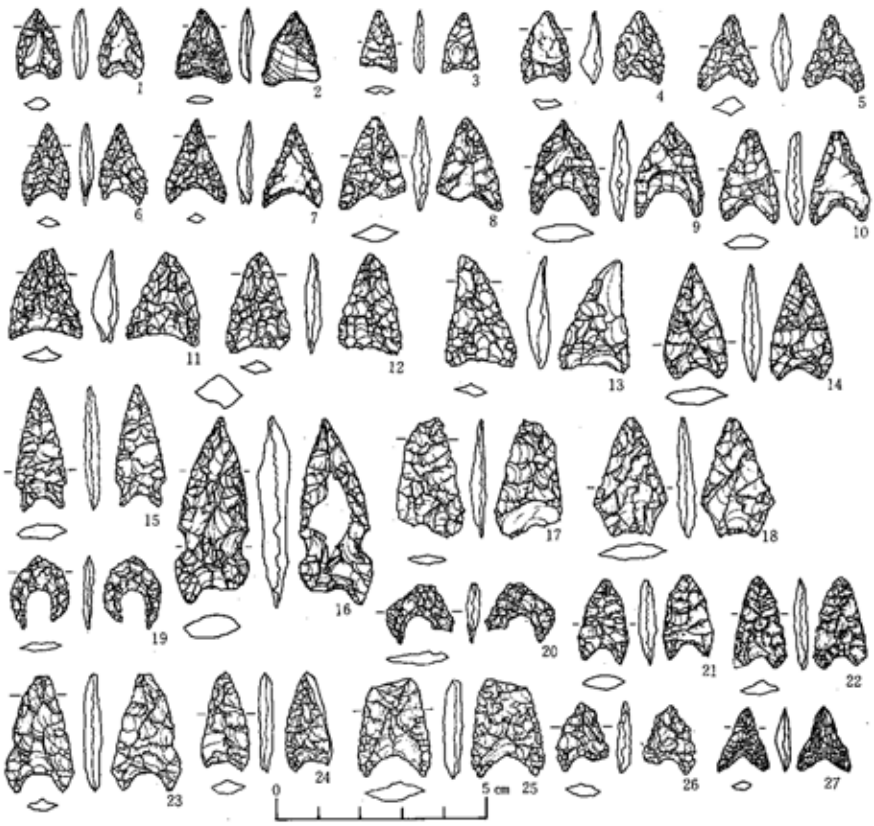
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM41－9	Ⅷ	1CⅡa	珪化凝灰岩	(19.0)・(11.8)	(12.2)	3.5	(0.4)	先端・基部・基部		(玉髄化)	3625	17－117
2	CL40－6	Ⅷ	1CⅡb	黒色頁岩	14.3・15.8	10.2	3.3	0.8				5881	17－116
3	CM39－25	Ⅷ	(1C)	珪化凝灰岩	(21.0)・14.8	9.0	3.5	(0.6)	基部			5361	17－118
4	CM41－14	Ⅷ	(1C)	珪質頁岩	18.0	10.0	3.5	0.35				3297	17－119
5	CM40－4b	Ⅷ	(1C)	珪化凝灰岩	(14.3)・(6.2)	(10.7)	3.5	(0.4)	先端・基部・基部		(玉髄化)	2359	17－120
6	CL39－12	Ⅷ	(1C)	珪化凝灰岩	(15.0)	13.2	2.6	(0.2)	先端	1	(玉髄化)	4606	17－121
7	CM40－4b	Ⅷ	(1C)	黒色頁岩	(20.0)・(6.2)	(21.0)	5.2	(1.37)	先端			2362	17－122
8	CM40－4d	Ⅷ	(1C)	玉髄	(17.0)・(8.5)	(20.2)	3.2	(3.65)	先端			2397	17－123
9	CM41－10	Ⅷ	1CⅠb	珪化凝灰岩	(29.5)・(13.9)	18.5	4.7	(1.4)	先端			3405	17－124
10	CL41－5	Ⅷ	1D	珪質頁岩	24.8	7.6	2.3	0.58				3750	17－125
11	CL39－11	Ⅷ	1D	珪質頁岩	(31.0)	7.5	5.0	(1.28)	先端		(玉髄化)	4582	17－126
12	CM41－6	Ⅸ	0AⅡ1a	珪化凝灰岩	15.0	(11.0)	2.9	(0.3)	基部	3	(玉髄化)	3614	17－127
13	CM41－6	Ⅸ	0AⅡ3	珪質頁岩	(14.5)	13.0	3.4	(0.5)	先端			3615	17－128
14	CM41－5	Ⅸ	0AⅡ1b	珪質頁岩	30.0	14.0	3.5	0.8			側縁抉り	1188	17－129
15	CL45－3	Ⅸ	0BⅡa	玉髄	19.3	14.6	4.5	1.21			未製品？	1799	17－130
16	CM41－6	Ⅸ	1CⅠa	珪質頁岩	(26.5)・(17.1)	15.0	3.8	(0.7)	先端			3613	17－131
17	CM42－8	不明	0AⅠa	黒曜岩	(15.0)	13.0	2.5	(0.2)	先端・基部			2574	17－132
18	CM42－8	不明	0AⅠa	珪化凝灰岩	15.0	(14.0)	2.5	(0.2)	基部			6097	17－134
19	CL45－3	不明	0AⅠa	玉髄	(16.0)	17.5	3.5	(0.6)	先端			1344	17－135
20	CM42－9	不明	0AⅠa	珪質頁岩	(15.7)	(14.6)	2.8	(0.45)	先端・基部		基部再加工	3625	17－133
21	CL38－28	不明	0AⅠa	珪質頁岩	(24.2)	19.0	7.0	(2.2)	基部			431	17－143
22	CL42－6	不明	0AⅠa	珪化凝灰岩	(22.5)	(17.6)	3.8	(1.1)	先端・基部			5418	17－144
23	CL38－30	不明	0AⅠb	珪質頁岩	(18.5)	(8.5)	2.0	(0.3)	基部			6721	17－136
24	CM42－8	不明	0AⅠb	珪質頁岩	(17.0)	(12.5)	3.3	(0.4)	先端～側縁			2216	17－137
25	CM42－11	不明	0AⅠb	黒曜岩	(16.0)	(10.5)	3.4	(0.4)	先端・基部			116	17－138
26	CM42～8a	不明	0AⅠb	玉髄	18.0	13.5	3.5	(0.4)	基部			2215	17－139
27	CM42－8	不明	0AⅠb	珪質頁岩	(19.0)	(13.0)	2.4	(0.3)	先端・基部			2572	17－140
28	BD46－表2	不明	0AⅠb	珪化凝灰岩	(18.2)	(13.0)	3.1	(0.5)	先端・基部			909	17－141
29	CL42－9	不明	0AⅠb	珪質頁岩	23.5	15.0	4.4	0.8	基部			1092	17－142

第71図　石　鏃(40)



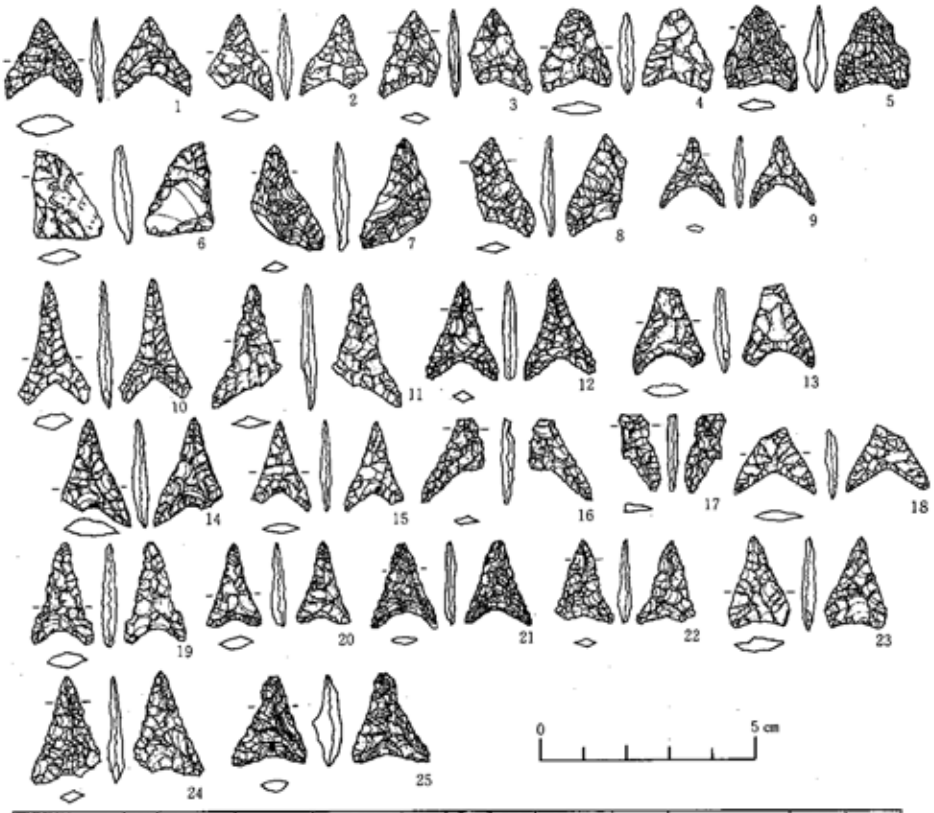
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CL38－28	不明	0A I b	珪質頁岩	(21.8)	16.0	3.2	(0.7)	先端・基部			613	18－ 2
2	CL39－4	不明	0A I b	碧玉	(22.0)	(15.8)	4.8	(0.8)	基部			1759	18－ 3
3	CK42－溝	不明	0A I b	珪質頁岩	24.0	(12.0)	3.9	(0.7)	基部			1111	18－ 4
4	CM42－9	不明	0A I b	珪化凝灰岩	24.5	(13.5)	3.0	(0.5)	基部	3		2616	18－ 5
5	CL38－20	不明	0A I b	珪質頁岩	23.3	(8.6)	2.6	(0.4)	基部			6719	18－ 6
6	CM39－2	不明	0A I b	珪化凝灰岩	(23.0)	12.5	3.5	(0.6)	先端			6040	18－ 7
7	CM42－9	不明	0A I b	珪質頁岩	(16.0)	(19.0)	3.5	(0.5)	先端・基部			1198	18－ 8
8	AT51－2	不明	0A I b	石英安山岩質凝灰岩	(25.5)	(16.5)	(6.0)	(1.6)	先端			1093	18－ 9
9	CJ40－2	不明	0A I b	珪質頁岩	(22.5)	(28.5)	4.8	(1.4)	先端・基部			5746	18－ 10
10	CL42－2	不明	0A I b	珪質頁岩	(30.0)	17.2	6.8	(2.5)	先端			186	18－ 11
11	CL38－28	不明	0A I b	珪質頁岩	(33.5)	18.0	4.9	(2.4)	先端			632	18－ 12
12	CK42－2	不明	0A I b	珪質頁岩	(35.7)	16.6	8.7	(4.29)	先端・基部			6353	18－ 13
13	CL47－3	不明	0A I b	石英安山岩質凝灰岩	(32.5)	(17.5)	5.8	(2.4)	先端・基部			6463	18－ 14
14	CQR44－溝	不明	0A I b	珪質頁岩	(44.0)	13.0	7.4	(2.9)	先端		剥ケハジケ	981	18－ 15
15	CM42－9	不明	0A II a	珪質頁岩	14.0	(12.5)	2.7	(0.3)	基部		(碧玉化)	769	18－ 16
16	BC49－2	不明	0A II a	碧玉	(15.0)	15.0	2.3	(0.2)	先端			109	18－ 17
17	CL42－×	不明	0A II a	珪質頁岩	(16.7)	(10.9)	2.5	(0.45)	先端・基部			5472	18－ 18
18	CL42－6	不明	0A II a	珪化凝灰岩	(13.8)	15.1	4.0	(0.55)	先端		(玉髓化)	5421	18－ 19
19	CL42－6	不明	0A II a	珪質頁岩	(13.0)	(10.8)	2.2	(0.2)	基部			5420	18－ 20
20	CL42－8	不明	0A II a	珪質頁岩	16.5	(15.9)	2.8	(0.58)	基部			5461	17－142
21	CM42－7	不明	0A II a	珪化凝灰岩	16.8	14.5	2.6	(0.3)	先端・基部			2508	18－ 21
22	CL45－3	不明	0A II a	珪質頁岩	18.5	14.5	5.4	(1.8)	先端・基部			1142	18－ 22
23	DH25－1	不明	0A II a	珪化凝灰岩	19.5	15.0	3.5	(0.7)	基部			12	18－ 23
24	CM47－3・4	不明	0A II a	碧玉	21.2	(17.5)	5.2	(1.2)	基部			6345	18－ 24
25	CL38－30	不明	0A II a	珪質頁岩	25.5	(19.5)	6.0	(2.2)	基部			1153	18－ 25
26	CL46－4	不明	0A II a	碧玉	30.0	22.5	5.1	2.6	基部			6393	18－ 26

第72図　石　鏃(41)



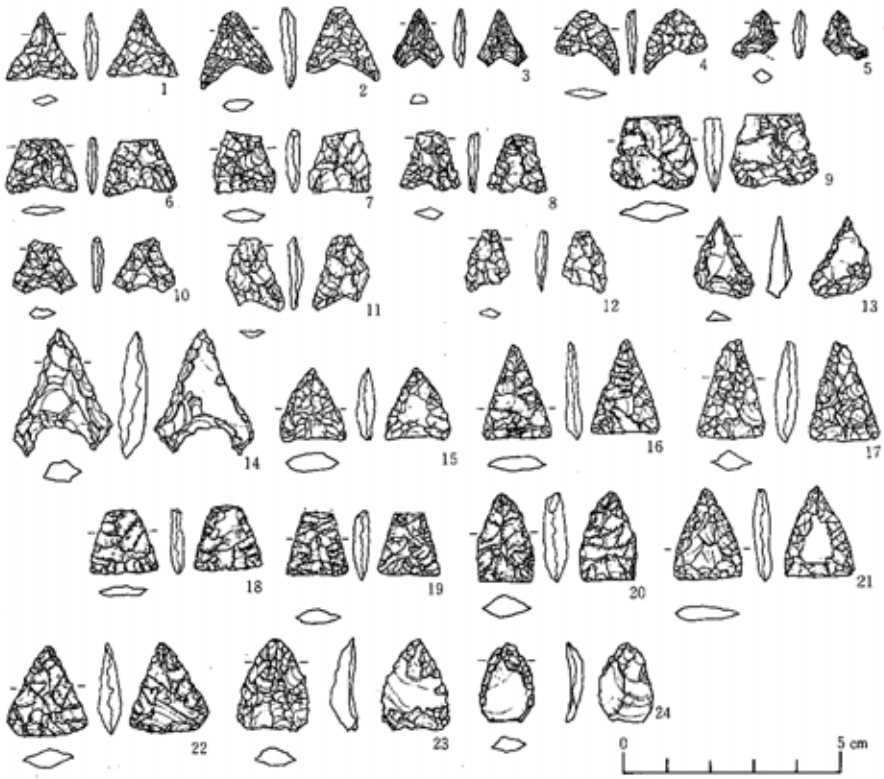
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42－8	不明	0AⅡ1b	石英安山岩質凝灰岩(黒曜石)	17.0	11.9	3.2	(0.4)	先端・基部			2217	18－27
2	CL42－×	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	16.9	13.4	2.5	(0.4)	基部			5473	18－28
3	OK38－1	不明	0AⅡ1b	石英安山岩質凝灰岩	(15.0)	9.0	1.7	(0.15)	先端・基部		焼ケハジケ	674	18－29
4	CM42－7	不明	0AⅡ1b	珪化凝灰岩	17.8	11.5	5.1	(0.4)	基部		焼ケハジケ(玉髄化)	1179	18－30
5	CM42－11	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	18.0	14.5	4.4	(0.5)	基部			2735	18－31
6	CM42－11	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	30.0	11.5	3.3	(0.49)	基部			2736	18－32
7	CK40－表採	不明	0AⅡ1b	珪化凝灰岩	20.0	14.2	3.3	0.5				340	18－33
8	CK38－1	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	22.0	(16.0)	3.9	(0.9)	基部			673	18－34
9	CL42－2	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	22.5	16.5	4.1	1.0				185	18－35
10	CL42－撹乱	不明	0AⅡ1b	石英安山岩質凝灰岩	(22.0)	14.0	3.9	(0.9)	先端～両縁基部			1110	18－36
11	CM42－12	不明	0AⅡ1b	玉髄	(22.5)	17.0	6.0	(1.6)	先端			5751	18－37
12	CL48－3	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	24.0	(15.0)	3.5	(0.9)	先端・基部			6364	18－38
13	表採	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	(27.0)	17.5	5.2	(1.75)	基部			6373	18－39
14	CM40－4a	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩(凝灰岩)	28.0	14.8	3.9	0.9				5782	18－40
15	CL38－2	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	29.5	12.2	3.0	0.6				337	18－41
16	CL38－14	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	44.5	17.5	7.0	(5.1)	基部	5		1158	18－43
17	CM42－8	不明	0AⅡ1b	珪質頁岩	(29.0)	(16.2)	3.5	(1.3)	先端・基部			5983	18－44
18	BA53－1	不明	0AⅡ1b	珪化凝灰岩	(28.5)	17.5	3.6	(1.2)	基部			986	18－42
19	CM42－7	不明	0AⅡ2	珪化凝灰岩	(18.0)	14.8	2.0	(0.1)				2514	18－45
20	CM42－5	不明	0AⅡ2	玉髄	(14.5)	(16.0)	3.1	(0.3)	先端・基部		(凝灰珪質)	6008	18－46
21	CL41－2	不明	0AⅡ3	珪化凝灰岩	(20.5)	(12.0)	3.0	(0.6)	先端・基部			1109	18－47
22	CK38－10	不明	0AⅡ3	黒曜岩	(22.5)	12.5	3.2	(0.5)	基部			857	18－48
23	CK38－2	不明	0AⅡ3	珪化凝灰岩	(27.5)	16.5	4.1	(1.4)	先端		(玉髄化)	845	18－49
24	CM42－1	不明	0AⅡ3	流紋岩	(23.8)	(11.0)	3.1	(2.0)	先端～基部			6326	18－50
25	CM41－1	不明	0AⅡ3	珪質頁岩	(23.0)	17.0	4.5	(1.2)	先端	4		6327	18－51
26	CL39－3	不明	0AⅡ3	珪化凝灰岩	(16.5)	(12.5)	3.0	(0.3)	先端・基部			4570	18－52
27	CL38－29	不明	0AⅡa	珪質頁岩	15.5	12.0	3.1	(0.23)	基部			6715	18－53

第73図　石　鏃(42)



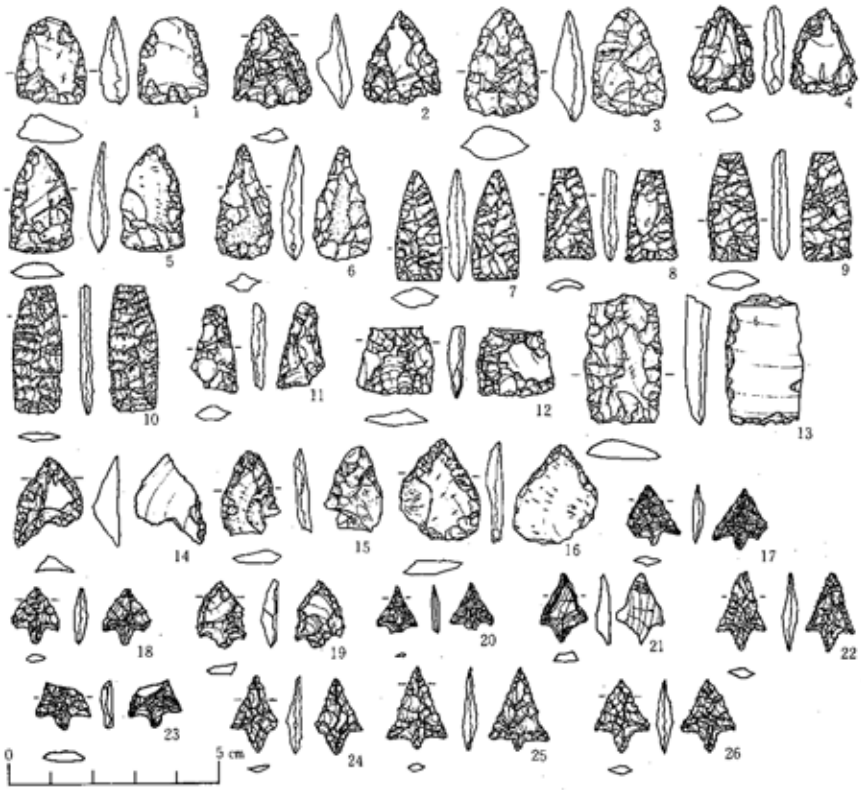
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CK38－北10	不明	6AⅢa	珪質頁岩	19.0	18.0	2.4	0.3				668	18－54
2	CK40－6b	不明	6AⅢa	珪化凝灰岩	20.0	(15.0)	2.6	(0.3)	基部		(強玉化)	530	18－55
3	CM42－11	不明	6AⅢa	黒曜岩	21.0	(15.5)	2.6	(0.5)	基部			2093	18－56
4	CK41－4	不明	6AⅢa	珪質頁岩	(19.5)	16.5	2.7	(0.6)	先端・基部			978	18－57
5	CL42－9	不明	6AⅢa	珪化凝灰岩	19.2	16.6	5.3	(1.05)	基部			5409	18－58
6	CK40－6b	不明	6AⅢa	珪質頁岩	21.2	(16.0)	3.9	(1.0)	側縁～基部			1097	18－59
7	CM42－11	不明	6AⅢa	碧玉	26.7	(12.0)	3.1	(0.82)	基部			2737	18－60
8	CM42－11	不明	6AⅢa	黒曜岩	24.0	(14.0)	3.0	(0.6)	基部			2738	18－61
9	CM42－8	不明	6AⅢa	珪質頁岩	17.0	15.5	2.5	0.2				2573	18－62
10	CM42－12	不明	6AⅢa	碧玉	(29.0)	16.8	3.1	(0.6)	基部			139	18－63
11	CJ40－2	不明	6AⅢb	珪化凝灰岩	26.5	(16.5)	2.8	(0.4)	基部			1036	18－64
12	CL45－3	不明	6AⅢb	珪化凝灰岩	22.5	16.5	2.7	0.5				1143	18－65
13	CK38－1	不明	6AⅢb	珪質頁岩	(20.5)	(17.0)	2.4	(0.6)	先端・基部			1047	18－66
14	CQ46－1	不明	6AⅢb	珪質頁岩	26.0	(16.0)	3.0	(0.5)	基部			56	18－67
15	CM42－12	不明	6AⅢb	珪質頁岩	22.0	(14.0)	2.0	(0.2)	基部	3		140	18－68
16	CM42－11	不明	6AⅢb	黒色頁岩	(20.0)	(15.0)	3.0	(0.2)	先端・基部			2742	18－69
17	CM42－11L	不明	6AⅢb	黒曜岩	(18.2)	(10.0)	2.3	(0.2)	先端・基部			1113	18－70
18	CK38－北10	不明	6AⅢb	玉髄	(15.0)	18.8	2.2	(0.3)	先端			687	18－71
19	BC49－2	不明	6AⅢb	珪化凝灰岩	24.0	14.5	3.3	(0.6)	基部			110	18－72
20	CM42－11	不明	6AⅢb	玉髄	(20.0)	12.8	3.0	(0.3)	基部			1182	18－73
21	CL42－6	不明	6AⅢb	黒色頁岩	(19.5)	15.2	2.2	(0.5)	先端			5419	18－74
22	CM42－7	不明	6AⅢb	珪化凝灰岩	(29.0)	(13.5)	3.1	(0.3)	先端・基部			2509	18－75
23	BC49－2	不明	6AⅢb	珪質頁岩	21.5	(14.2)	3.0	(0.6)	基部			109	18－76
24	CM42－10	不明	6AⅢb	珪化凝灰岩	(25.0)	(17.0)	3.4	(0.7)	基部			2986	18－77
25	CL42－1	不明	6AⅢb	黒色頁岩	(20.3)	17.3	6.4	(1.18)	先端			1736	18－78

第74図　石　鏃(43)



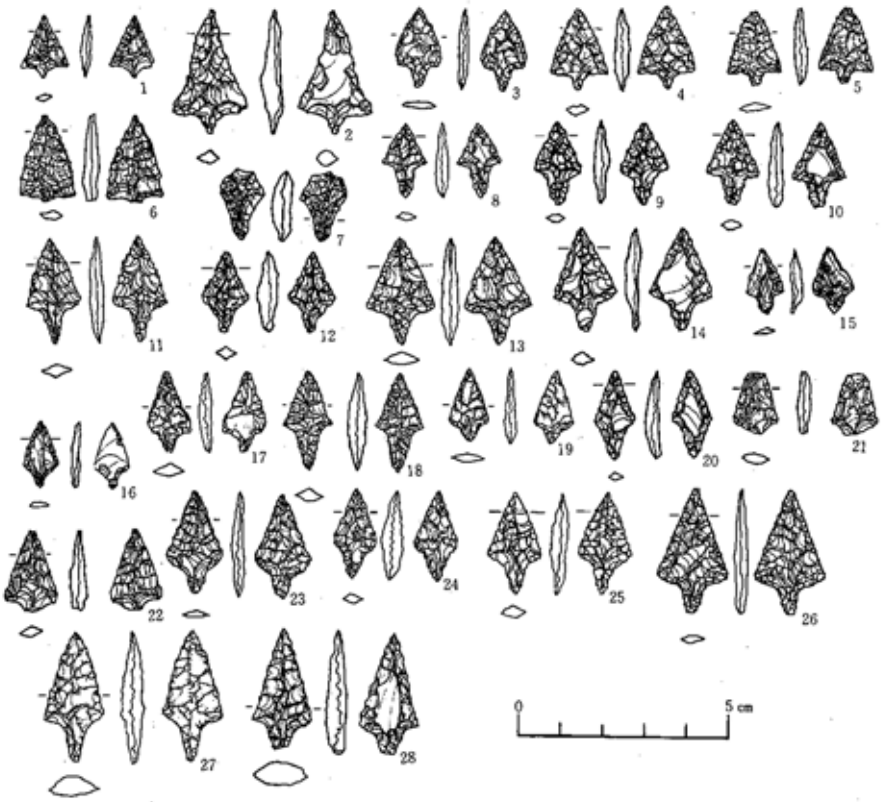
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42－8	不明	0AIIIa	珪質頁岩	16.0	16.8	3.0	0.2				6006	18－79
2	BD52－2	不明	0AIIIa	珪化凝灰岩	(16.2)	17.2	3.1	(0.58)	先端・基部			6666	18－80
3	CL42－×	不明	0AIIIa	珪質頁岩	(13.2)	(11.0)	2.4	(0.25)	先端・基部			5471	18－81
4	CM42－8	不明	(0A)	珪化凝灰岩	(15.0)	(14.0)	2.1	(0.3)	先端・基部			2576	18－82
5	CL42－6	不明	(0A)	碧玉	(12.0)	(7.4)	2.8	(0.28)	基部			5422	18－83
6	CM42－8	不明	(0A)	黒曜岩	(12.5)	17.0	2.1	(0.4)	先端			2575	18－84
7	CM42－9	不明	(0A)	黒曜岩	(25.0)	15.0	3.0	(0.49)	先端			5895	18－85
8	CM42－8	不明	(0A)	珪質頁岩	(14.2)	14.2	2.3	(0.3)	先端			2213	18－86
9	DH31－2	不明	(0A)	珪質頁岩	(17.0)	29.0	4.1	(1.3)	先端・側縁			9	18－87
10	CM42－11	不明	(0A)	珪質頁岩	(13.0)	(15.0)	2.5	(0.4)	先端・基部			2741	18－88
11	CM42－7	不明	(0A)	黒曜岩	(17.5)	(13.0)	3.0	(0.2)	先端・基部			2511	18－89
12	CM42－7	不明	(0A)	黒曜岩	(14.5)	(10.5)	2.3	(0.15)	先端・基部			2513	18－90
13	CM42－11	不明	0AIa	珪質頁岩	(19.0)	(14.5)	4.9	(0.9)	先端～基部		(熱変化)	2739	18－91
14	CM47－3・4	不明	0AIb	珪質頁岩	(30.0)	(22.2)	6.0	(2.9)	基部			1961	18－92
15	CL38－30	不明	0BIa	珪化凝灰岩	17.0	15.2	3.8	0.7				1152	18－94
16	CJ40－2	不明	0BIb	珪化凝灰岩	(22.0)	15.5	3.5	(0.7)	先端			5747	18－95
17	CM42－5	不明	0BIb	珪質頁岩	(23.2)	(16.0)	5.2	(1.35)	先端・基部			2749	18－96
18	CL40－2	不明	0BIb	珪化凝灰岩	(15.0)	15.5	2.3	(0.5)	先端			99	18－97
19	CL42－2	不明	0BIb	珪化凝灰岩	(15.0)	14.5	3.3	(0.4)	先端			81	18－98
20	CK42－2	不明	0BIb	珪質頁岩	(20.5)	12.5	4.9	(1.15)	先端			1060	18－99
21	CL41－2	不明	0BIIb	珪化凝灰岩	(31.0)	16.0	3.7	1.0	先端		(碧玉)	992	18－100
22	BC52－1	不明	0BIIa	珪質頁岩	(20.8)	18.5	5.0	(1.45)	先端・基部			1039	18－93
23	CM42－7	不明	0BIIb	黒曜岩	(22.0)	16.0	5.5	(1.3)	先端・基部			2510	18－101
24	CM42－7	不明	0BIIb	珪化凝灰岩	(18.5)	(12.5)	3.3	(0.4)	先端・基部			2515	18－102

第75図　石　鏃(44)



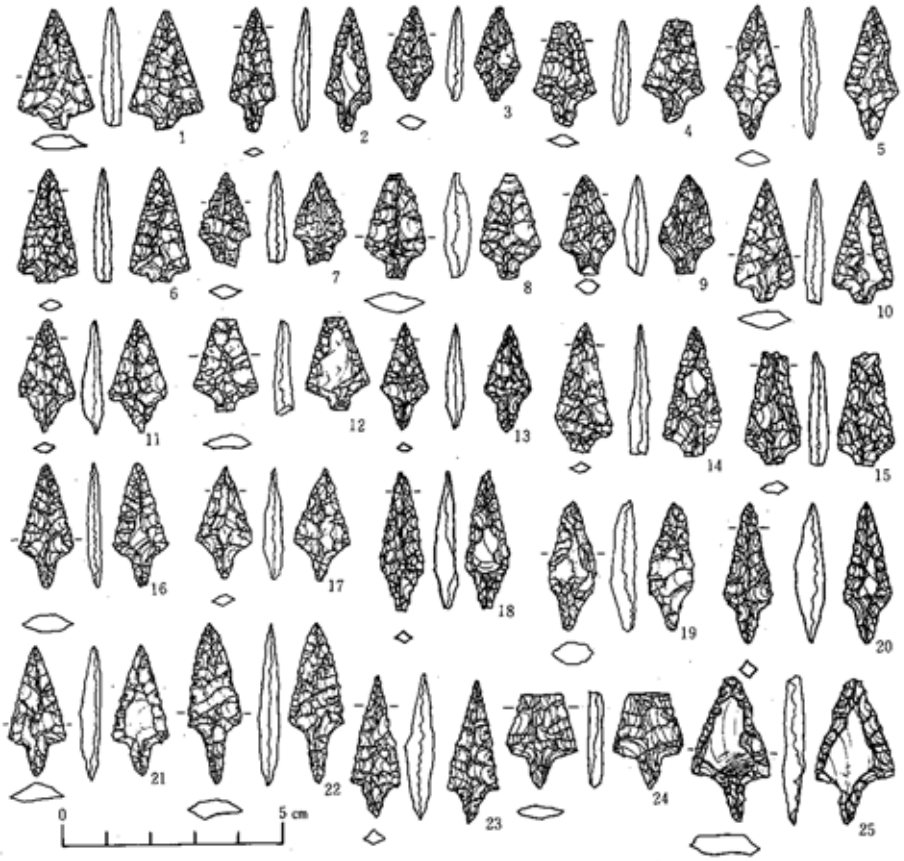
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CK・CL 46・2層	不明	0B II b	珪化頁岩	20.5	16.7	6.3	2.25				6420	18－103
2	CM42－9	不明	0B II b	黒色頁岩	23.0	18.5	6.9	(1.8)	基部			2626	18－104
3	CK38－2	不明	0B II b	玉髄	(26.0)	17.5	7.1	(2.4)	先端・基部			525	18－105
4	CM42－11	不明	0B II b	珪化頁岩	(21.2)	(16.2)	4.5	(1.5)	先端・基部		(玉髄化)	5994	18－106
5	CL38－北31	不明	0B II b	珪質頁岩	25.2	15.2	4.9	1.6				1362	18－107
6	CK38－東10	不明	0B II b	石英質凝灰岩	27.0	(13.0)	4.6	(1.6)	基部			522	18－108
7	CK40－2	不明	0B II b	珪質頁岩	(26.0)	11.5	4.2	(1.0)	先端			932	18－109
8	CL47－3・4	不明	0B II b	珪質頁岩	(21.0)	12.0	3.6	(0.7)	先端・基部			1360	18－110
9	BC49－2	不明	0B II b	珪質頁岩	(26.0)	12.0	3.5	(1.2)	先端			188	18－111
10	CM42－6	不明	0B II b	珪質頁岩	(30.2)	11.8	2.7	(1.15)	先端・基部			2489	18－112
11	BA53－1	不明	0B II b	珪質頁岩	(21.0)	(11.0)	3.1	(0.5)	先端・基部		焼ケバジケ	968	18－113
12	CM42－10	不明	0B II b	珪化頁岩	(16.5)	18.0	3.4	(1.2)	先端			2608	18－114
13	BC47－2	不明	0B II b	珪質頁岩	(30.8)	18.6	5.6	(3.7)	先端			6012	18－115
14	CM42－9	不明	(0B)	珪質頁岩	22.0	(16.2)	6.0	(0.8)	基部			2627	19－ 1
15	CK38－北10	不明	(0B)	玉髄	(19.2)	(13.5)	3.0	(0.5)	基部			686	19－ 2
16	DF35－1	不明	(0B)	珪化頁岩	26.0	(19.4)	3.1	(1.4)	基部			5	19－ 3
17	CL39－35	不明	1A I a	珪化頁岩	14.1(11.8)	(12.2)	2.5	(0.33)	基部			2621	19－ 4
18	CK38－6	不明	1A II a	珪化頁岩	(12.8)(10.4)	(11.0)	3.1	(0.2)	先端・基部			5617	19－ 5
19	CM42－9	不明	1A II b	黒色頁岩	(15.8)(14.5)	(12.0)	3.8	(0.5)	基部			2623	19－ 6
20	×－12	不明	1A III a	玉髄	(11.0)(10.3)	9.8	1.5	(0.1)	基部			5666	19－ 7
21	CL42－6	不明	1A III b	珪質頁岩	16.0	11.1	3.5	0.35				5415	19－ 9
22	CM42－8	不明	1B I b	珪化頁岩	(18.5)	11.6	3.2	(0.4)	先端			6004	19－ 8
23	CL40－2	不明	1B I b	珪化頁岩	(10.1)(7.8)	12.4	2.5	(0.3)	先端・基部		(玉髄化)	83	19－ 11
24	CM42－10	不明	1B I a	珪化頁岩	18.5	(11.0)		(0.3)	基部			2679	19－ 12
25	CM42－8	不明	1B I a	珪質頁岩	17.2・12.4	12.7	3.9	0.4				2563	19－ 13
26	CM42－11	不明	1B I a	珪化頁岩	20.0	14.5	3.4	0.4			(玉髄化)	2728	19－ 10

第76図　石　鏃(45)



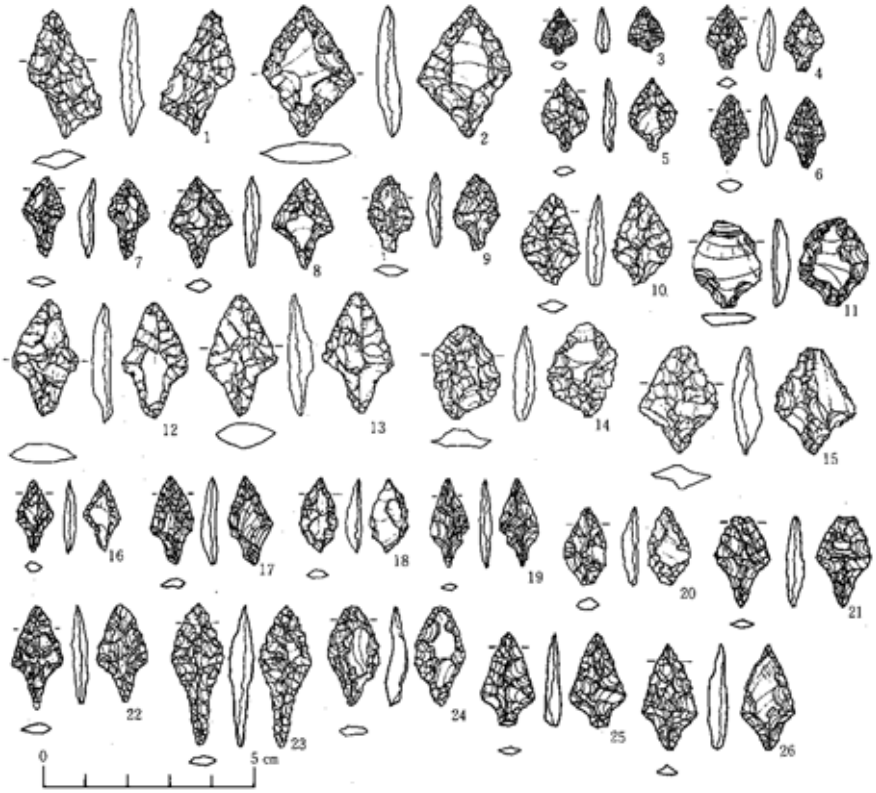
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	表採	不明	1B1a	黒色頁岩	(14.7)・12.9	(10.3)	2.1	(0.2)	基部・茎部			5680	19−14
2	CM42−10	不明	1B1b	珪質頁岩	(29.5)・(26.8)	18.0	4.6	(1.1)	先端・茎部			2683	19−15
3	CM42−7	不明	1BIIb	珪質頁岩	19.0・14.5	10.7	2.1	0.3				2503	19−16
4	CK39−8	不明	1BIIb	珪質頁岩	(19.4)・(17.1)	13.7	2.9	(0.6)	基部			5478	19−17
5	CM42−7	不明	1BIIb	珪質頁岩	(17.7)・(15.0)	12.3	2.7	0.38	先端			2499	16−67
6	CM42−11	不明	1BIIb	珪化凝灰岩	(20.5)・(20.2)	12.8	3.5	(0.63)	先端・基部	3	(石英安山岩質)	2726	19−18
7	CL42−6	不明	1CIa	黒色頁岩	(16.5)・(9.0)	(10.6)	4.3	(0.58)	先端・基部			5417	19−19
8	×−3	不明	1CIa	玉髄	17.5・10.3	11.0	2.9	0.3				5644	19−20
9	CM42−11	不明	1CIa	珪質頁岩	19.0・12.6	(11.8)	3.2	(0.28)	基部			2722	19−21
10	×−3	不明	1CIa	珪化凝灰岩	(20.0)・14.7	12.5	3.5	(0.4)	基部			5645	19−22
11	CK38−9	不明	1CIa	緑泥凝灰岩	25.0・17.5	13.0	3.3	0.6		2		5493	19−23
12	DB35−1	不明	1CIa	珪質頁岩	(19.5)・(12.7)	11.0	4.7	(0.5)	先端・基部			1607	19−24
13	表採	不明	1CIa	珪質頁岩	25.0・18.4	16.5	3.8	0.9		1		5679	19−25
14	表採	不明	1CIa	玉髄	(24.8)・18.4	15.0	3.0	(0.6)	基部			5700	19−26
15	CM42−11	不明	1CIb	玉髄	35.2・11.2	8.4	2.5	0.18				2730	19−27
16	CL42−6	不明	1CIb	玉髄	(35.7)・10.9	7.8	2.0	(0.18)	基部			5414	19−28
17	CK39−2	不明	1CIb	珪質頁岩	(19.5)・(14.9)	(10.8)	2.7	(0.35)	先端・基部 茎部			192	19−29
18	CM42−7	不明	1CIb	玉髄	23.0・14.0	11.0	4.4	0.6				2502	19−30
19	CK40−表採	不明	1CIb	珪質頁岩	17.0・13.2	9.5	2.8	0.2				339	19−31
20	CM42−10	不明	1CIb	珪化凝灰岩	21.0・12.9	9.0	3.1	0.35			(玉髄化)	2680	19−32
21	CL42−6	不明	1CIb	黒色頁岩	(14.4)・(12.4)	(10.2)	3.2	(0.49)	先端・基部 茎部			5416	19−33
22	CM42−8	不明	1CIb	珪化凝灰岩	(24.1)・(15.7)	13.0	2.7	0.55	先端			2562	19−34
23	CO−45	不明	1CIb	黒色頁岩	(19.0)・(17.0)	12.3	3.7	(0.68)	先端・基部			6154	19−37
24	CM42−8	不明	1CIb	黒色頁岩	24.6・16.5	(12.8)	4.2	0.67	基部	1		6001	19−88
25	CM42−10	不明	1CIb	珪化凝灰岩	21.2・13.5	10.2	4.9	0.87		1		2682	19−83
26	CL42−6	不明	1CIb	珪質頁岩	29.5・21.8	11.5	3.3	0.9			(玉髄化)	5413	19−35
27	CL41−2	不明	1CIb	珪質頁岩	(31.0)・21.8	14.5	5.0	(1.2)	基部			1107	19−36
28	CM42−8	不明	1CIb	珪質頁岩	(29.0)・22.2	14.0	4.5	(1.2)	基部			2218	19−38

第77図　石　鏃(46)



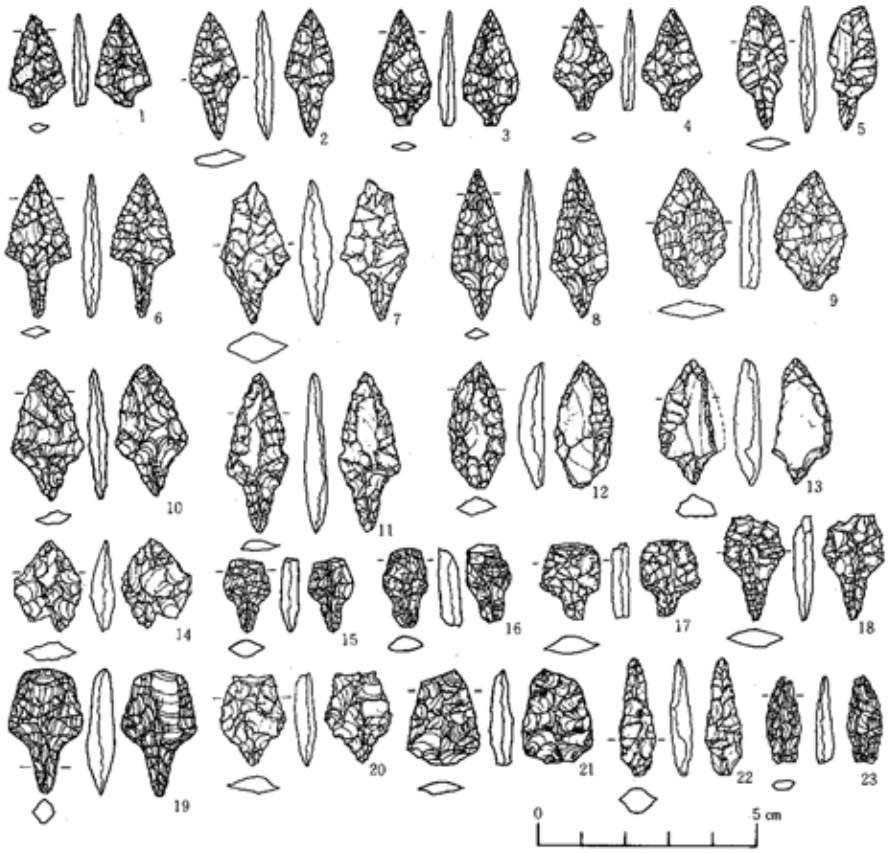
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CK39－2	不明	1C I b	珪化頁岩	(27.0)・(23.7)	17.0	4.6	(1.3)	先端・基部		(変質化)	512	19－39
2	CM42－9	不明	1C I b	珪質頁岩	(28.5)・21.6	10.0	3.5	(0.7)	基部			2618	19－40
3	CM42－8	不明	1C I b	黒色頁岩	(21.6)・14.7	10.3	3.5	(0.6)	基部			2565	19－41
4	CM48－1	不明	1C I b	珪化頁岩	(24.5)・(17.1)	(14.5)	3.5	(0.8)	先端・基部			6354	19－42
5	CK38－北30	不明	1C I b	珪質頁岩	31.0・19.8	12.5	3.2	(0.8)	側縁			685	19－43
6	CM42－9	不明	1C I b	珪質頁岩	(26.0)・24.6	13.5	3.8	(1.0)	基部	1		2617	19－44
7	CM42－8	不明	1C I b	珪質頁岩	(21.1)・14.2	(11.7)	4.5	(0.8)	基部	1		6005	19－45
8	CM42－8	不明	1C I b	珪質頁岩	(24.0)・(17.5)	14.0	5.2	(1.2)	先端・基部	1		2220	19－46
9	CK38－9	不明	1C I b	珪質頁岩	(22.0)・15.9	12.0	5.5	(0.85)	側縁・基部			6716	19－47
10	CM42－10	不明	1C I b	珪質頁岩	(28.2)・24.7	13.2	3.6	(0.9)	基部			147	19－48
11	CQ41－1	不明	1C I b	珪化頁岩	(25.5)・(17.4)	12.5	4.6	(1.0)	先端・基部			1826	19－49
12	CL42－6	不明	1C I b	珪質頁岩	(21.5)・(16.8)	15.0	3.9	(0.8)	先端・基部			772	19－50
13	CM42－11	不明	1C I b	珪質頁岩	(24.5)・16.2	10.5	3.9	(0.6)	基部			2723	19－51
14	CK38－西11	不明	1C I b	珪化頁岩	(30.0)・25.4	13.0	4.1	(0.9)	基部・基部			6242	19－52
15	CM42－8	不明	1C I b	珪質頁岩	(26.0)・(21.9)	12.5	4.4	(1.25)	先端・基部			6003	19－53
16	CK40－2	不明	1C I b	珪質頁岩	(28.0)・19.8	12.5	3.3	(0.7)	基部			87	19－54
17	CL42－6	不明	1C I b	黒色頁岩	26.5・17.1	13.0	4.5	0.75				5410	19－55
18	表採	不明	1C I b	珪化頁岩	(31.5)・(23.5)	10.2	4.7	(2.0)	先端・基部			5678	19－56
19	CL38－23	不明	1C I b	珪質頁岩	(29.5)・(20.5)	11.0	5.4	(1.3)	先端・基部・基部			632	19－57
20	CM42－5	不明	1C I b	珪化頁岩	32.0・23.3	11.5	6.5	1.45		1		2477	19－58
21	CK38－2	不明	1C I b	珪質頁岩	29.5・21.7	13.0	4.0	0.7				676	19－59
22	CL38－22	不明	1C I b	珪化頁岩	36.5・22.4	12.5	3.8	0.9				486	19－60
23	BC55－2	不明	1C I b	黒色頁岩	32.5・24.2	11.5	6.3	1.3				6013	19－61
24	CM42－11	不明	1C I b	珪化頁岩	(21.7)・(14.4)	15.8	3.3	(1.08)	先端			2727	19－63
25	CM42－撹乱	不明	1C I b	珪質頁岩	(33.2)・(23.5)	17.5	4.3	(2.0)	先端			5790	19－62

第78図　石　鏃(47)



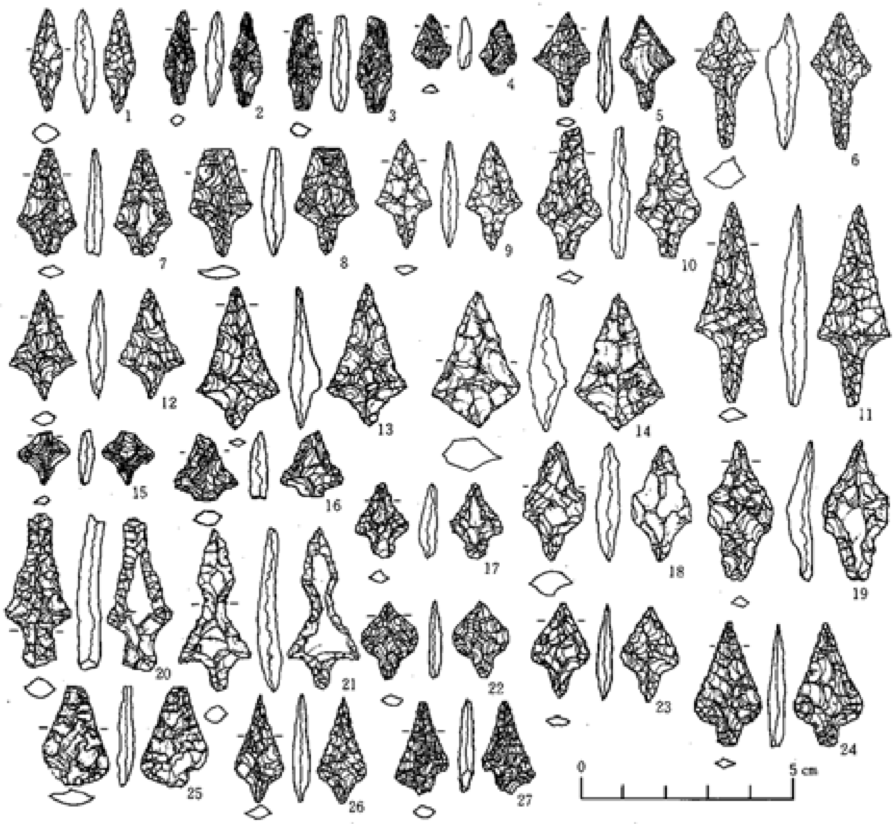
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42−11	不明	1C1b	珪化凝灰岩	(31.0)・(26.1)	(18.0)	5.0	(1.4)	先端・基部			2732	19−64
2	CK38−6	不明	1C1b	珪質頁岩	(31.2)・(19.1)	22.0	5.3	(2.4)	先端・基部			520	19−65
3	CL42−8	不明	1CIIa	珪質頁岩	(10.8)・(8.6)	8.1	3.2	(0.2)	基部			5460	19−66
4	CL42−×	不明	1CIIa	黒色頁岩	(15.5.)・(9.1)	10.0	3.8	(0.3)	先端・基部			5469	19−67
5	CL42−×	不明	1CIIa	玉髄	(17.5)・10.9	11.0	2.7	(0.3)	基部			5470	19−68
6	CM42−11	不明	1CIIa	珪化凝灰岩	(16.6)・(10.0)	8.7	4.1	(0.35)	基部			2731	19−69
7	×　−3	不明	1CIIa	玉髄	(19.0)・9.8	10.0	3.1	(0.3)	基部			5645	19−70
8	CM42−9	不明	1CIIa	珪化凝灰岩	21.5・12.3	15.0	3.5	0.6		1		1197	19−71
9	CM42−7	不明	1CIIa	珪化凝灰岩	(17.8)・(12.1)	10.5	3.7	(0.5)	先端・		(玉髄化)・基部再加工	2503	16−96
10	CM42−11	不明	1CIIa	黒色頁岩	(21.4)・16.5	14.0	4.4	(0.8)	基部			2721	19−72
11	CL46−4	不明	1CIIa	黒色頁岩	(21.0)・(13.8)	15.8	4.0	(1.38)	先端・基部			6402	19−73
12	CL39−2	不明	1CIIa	珪質頁岩	(27.8)・18.7	15.5	3.9	1.1	基部・基部		側線再加工	1802	19−74
13	CK41−2	不明	1CIIa	珪質頁岩	(29.0)・(17.3)	16.8	5.7	(1.6)	先端・基部		基部再加工	691	19−75
14	CM42−10	不明	1CIIa	珪化凝灰岩	(22.5)・(18.0)	(16.0)	4.7	(1.35)	先端・基部二基部			2692	19−76
15	CL48−1	不明	1CIIa	黒色頁岩	(26.0)・(15.3)	19.2	6.5	(1.75)	先端			6375	19−77
16	CM42−11	不明	1CIIb	珪質頁岩	17.5・9.5	9.0	2.5	0.2				2724	19−78
17	CK38−9	不明	1CIIb	玉髄	(20.8)・13.0	10.0	3.3	0.5	基部			6717	19−79
18	CM42−8	不明	1CIIb	玉髄	(18.2)・(14.2)	9.5	3.5	(0.4)	先端			2566	19−80
19	?　−2	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(21.0)・(15.5)	(9.0)	7.5	(0.35)	先端・基部		(玉髄化)	5638	19−81
20	CM42−10	不明	1CIIb	黒色頁岩	(19.0)・(13.0)	10.5	3.6	(0.4)	先端・基部			2583	19−82
21	CM42−6	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(21.5)・(10.7)	13.0	4.0	(0.65)	先端	1		2488	19−84
22	CL42−表採	不明	1CIIb	黒色頁岩	(23.2)・(14.5)	12.2	3.5	(0.68)	先端・側線			5468	19−85
23	CK39−8	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(33.5)・15.3	12.5	5.8	(1.2)	基部		(玉髄化)	1396	19−86
24	CK39−8	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(34.0)・(15.9)	12.0	4.4	(0.9)	先端・基部			5476	19−87
25	CP42−2	不明	1CIIb	珪質頁岩	(22.0)・16.1	13.0	3.5	(0.65)	基部			1786	19−89
26	CM42−11	不明	1CIIb	珪質頁岩	(25.0)・16.7	13.0	4.5	(0.9)	基部			2719	19−90

第79図　石　鏃(48)



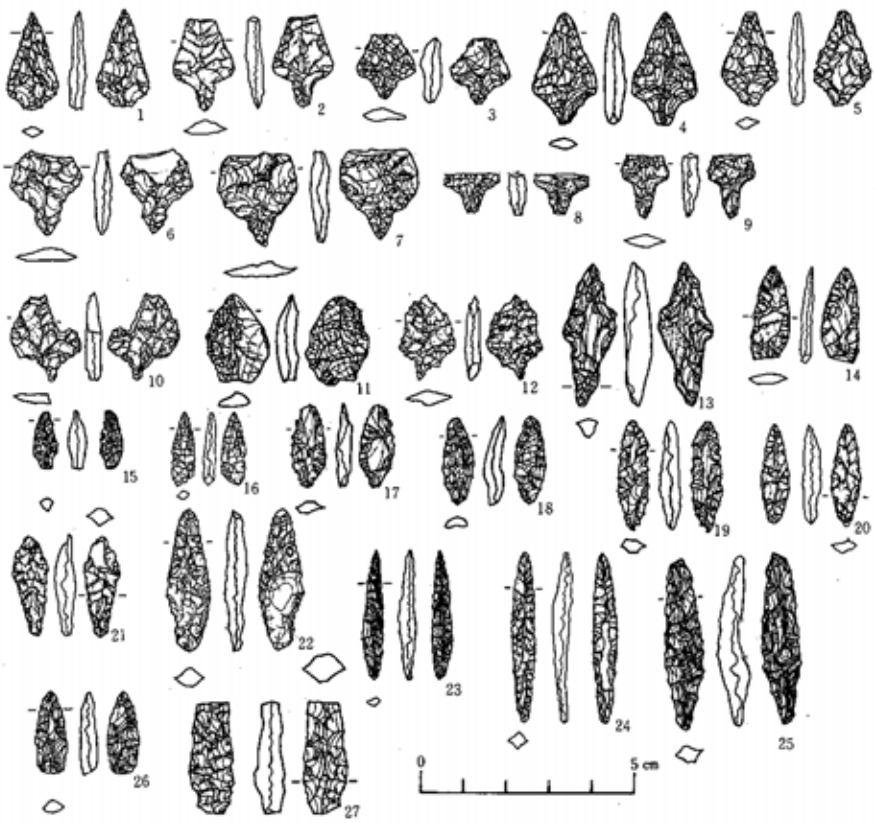
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42－8	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(21.0)・(16.5)	13.0	3.2	(0.6)	先端・基部			2564	19－91
2	CL47－3 溝	不明	1CIIb	珪質頁岩	29.5・16.7	11.5	3.6	0.7				1131	19－92
3	CK38－10	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(27.0)・20.3	13.0	3.5	(0.9)	基部			852	19－93
4	CK38－11	不明	1CIIb	珪質頁岩	(23.0)・17.2	13.0	2.8	(0.6)	側縁・基部			6243	19－94
5	CK38－東2	不明	1CIIb	玉髄	(29.0)・(18.4)	(11.5)	3.0	(0.7)	先端・側縁			677	19－95
6	CM42－5	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	34.0・19.2	15.0	4.2	1.0		1		2478	19－96
7	CK38－3	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(33.0)・(15.8)	(16.0)	7.5	(1.7)	先端～基部			679	19－97
8	CM47－3	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(35.0)・24.2	18.0	4.1	(1.3)	基部		(玉髄化)	1712	19－98
9	CO35－1	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(28.0)・18.4	17.0	4.1	(1.8)	側縁～基部			6465	19－99
10	CM42－8b	不明	1CIIb	玉髄	(30.0)・(18.9)	17.0	4.0	1.4	先端・基部			2607	19－100
11	CL43－2	不明	1CIIb	珪質頁岩	37.0・23.0	(14.0)	4.8	(1.5)	基部			1108	19－101
12	CM42－9	不明	1CIIb	黒色頁岩	(29.6)・(23.2)	18.0	6.0	(2.6)	先端・基部			1693	19－102
13	DD35－4	不明	1CIIb	珪質頁岩	29.0・21.4	(13.5)	5.6	(1.9)	側縁～基部			8	19－103
14	CM42－9	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(21.2)・(11.2)	(15.5)	5.4	(1.0)	先端			2628	19－104
15	CM42－11	不明	1CIIb	黒色頁岩	(17.1)・(8.9)	10.3	4.0	(0.7)	先端			2725	19－105
16	×－2	不明	1CIIb	黒色頁岩	(17.7)・(9.9)	(10.1)	4.5	(0.8)	先端・基部・基部			5639	19－106
17	DB41－1	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(18.0)・(10.0)	14.0	3.7	(0.8)	先端・基部			34	19－107
18	CM42－9	不明	1CIIb	珪質頁岩	(24.1)・(11.2)	(13.8)	4.6	(1.2)	先端・基部		(玉髄化)	2622	19－108
19	BC53－1	不明	1CIIb	黒色頁岩	(28.7)・(13.5)	17.0	5.5	(2.35)	先端			1406	19－109
20	CL40－2	不明	1CIIb	珪化凝灰岩	(20.9)・(11.7)	15.2	4.5	(1.3)	先端			6146	19－110
21	CL46－4	不明	1CIIb	珪質頁岩	(21.4)・(19.3)	16.2	3.7	(1.6)	先端・基部	2		6404	19－111
22	CL38－15	不明	1CIIb	珪質頁岩	(27.0)・25.0	8.5	4.7	(0.7)	基部			1100	19－112
23	表採	不明	1CIIb	珪質頁岩	(20.0)	7.8	3.9	(0.6)	先端・基部			6702	19－113

第80図　石　鏃(49)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42－6	不明	ⅠCⅡb	石英安山岩質凝灰岩	24.8	7.5	4.7	0.6				797	19－114
2	CL42－×	不明	ⅠCⅡb	珪化凝灰岩	(22.3)	7.3	3.8	(0.52)	先端・茎部			2256	19－115
3	CM48－3	不明	ⅠCⅡb	黒色頁岩	(22.8)	7.7	(4.1)	(0.8)	先端・茎部			1990	19－116
4	CL48－3	不明	ⅠCⅡb	黒曜石	(12.5)・(8.8)	(8.5)	3.0	(0.2)	先端・基部・茎部			6368	20－1
5	CO33・34－3	不明	ⅠCⅢ1a	珪化凝灰岩	(22.4)・(10.2)	(12.6)	3.0	(0.47)	基部・茎部		(玉髄化)	6467	20－2
6	CM42－6	不明	ⅠCⅢ1a	珪化凝灰岩	(32.5)・(12.3)	14.0	7.5	(1.5)	先端・茎部			2492	20－3
7	CL42－6	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(25.5)・(17.8)	13.5	4.0	(0.65)	先端・茎部			5412	20－4
8	CL42－6	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(25.6)・(14.6)	14.5	5.0	(1.15)	先端・茎部	2		5411	20－5
9	CM42－8	不明	ⅠCⅢ1b	黒色頁岩	26.0・14.8	13.0	4.0	0.75				2219	20－6
10	CK41－2	不明	ⅠCⅢ1b	黒色頁岩	(31.8)・(20.0)	15.5	4.6	(1.3)	先端・側縁・茎部			6227	20－7
11	CK43－1・2	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(47.5)・30.1	17.0	5.7	(2.5)	基部・茎部			1392	20－8
12	CK39－5	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	26.5・16.7	16.0	4.2	1.0				3519	20－9
13	CM42－11	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(33.5)・24.9	20.0	7.0	(1.8)	基部・茎部			2720	20－10
14	CM42－12	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(32.5)・(22.7)	20.8	8.1	(2.9)	先端・基部・茎部			138	20－11
15	CL47－3・4	不明	ⅠCⅢ1a	珪化凝灰岩	(12.6)・(5.7)	12.0	3.5	(0.4)	先端・基部			1057	20－12
16	CM42－8	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(15.8)・(11.8)	(16.8)	4.0	(0.82)	先端・基部・茎部			2569	20－13
17	CM42－9	不明	ⅠCⅢ1a	黒色頁岩	(18.0)・(10.5)	12.2	4.0	(0.6)	先端・基部			2619	20－14
18	CL45－3	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(26.0)・(17.6)	14.5	5.1	(1.2)	先端・基部・茎部			1141	20－15
19	CM42－9	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(33.0)・(21.5)	(15.0)	5.0	(1.9)	基部・茎部			2620	20－16
20	CL42－6	不明	ⅠCⅢ1b	珪化凝灰岩	(36.5)・(24.2)	15.0	4.8	(1.7)	先端・茎部			771	20－17
21	CK41－2	不明	ⅠCⅢ1b	珪質頁岩	(38.5)・(31.5)	17.0	4.4	(1.6)	先端・基部・茎部			690	20－18
22	CM42－10	不明	ⅠCⅢ2a	玉髄	(18.0)・(10.7)	13.0	2.7	(0.52)	先端・基部			6340	20－19
23	CK40－1	不明	ⅠCⅢ2a	珪化凝灰岩	(25.0)・(12.1)	14.0	3.5	(0.5)	先端・基部	3		1772	20－20
24	CL42－9	不明	ⅠCⅢ2b	珪質頁岩	(29.0)・(19.9)	16.0	4.0	(1.1)	茎部	2		1001	20－21
25	CL47－3	不明	ⅠCⅢ2b	珪質頁岩	(23.0)・(20.0)	15.0	3.4	(0.75)	先端～茎部			1004	20－22
26	CL48－3	不明	ⅠCⅢ2b	黒色頁岩	(25.0)・(18.0)	11.5	3.8	(0.65)	先端・茎部			6362	20－23
27	CL42－7	不明	ⅠCⅢ2b	黒色頁岩	(21.6)・(17.5)	12.4	3.5	(0.7)	先端・基部・茎部	3		2190	20－24

第81図　石　鏃(50)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	欠損部	アスファルト	備考	登録番号	図版
1	CM42－8	不明	1C Ⅲ2b	珪質頁岩	(23.6)・(18.9)	(12.0)	3.8	(0.7)	先端・基部	3		6002	20－25
2	CM42－11	不明	1C Ⅲ2b	石英[illegible]質凝灰岩	(21.5)・(13.5)	14.5	3.7	(0.8)	先端			1183	20－28
3	CL42－7	不明	1C Ⅲ2b	珪化凝灰岩	(15.1)・(9.1)	13.7	4.6	(0.6)	先端・基部			2191	20－29
4	CL46－3	不明	1C Ⅲ2b	珪質頁岩	(25.9)・(16.7)	14.5	4.7	(1.12)	先端・基部	2		939	20－26
5	CM42－8	不明	1C Ⅲ2b	珪化凝灰岩	(23.0)・(17.1)	13.0	3.5	(0.5)	先端・基部	3		2504	20－27
6	CM42－12a	不明	1C Ⅲ2b	黒色頁岩	(20.2)・(10.1)	17.0	4.0	(1.2)	先端・基部			1329	20－30
7	CL48－3	不明	1C Ⅲ2b	珪質頁岩	(21.2)・(13.2)	18.0	4.1	(1.35)	先端・基部			6366	20－31
8	CM42－7	不明	(1C)	珪質頁岩	(9.2)・(1.7)	(12.8)	3.8	(0.36)	先端・基部			2505	16－123
9	CM42－7	不明	(1C)	珪質頁岩	(14.8)・(4.9)	11.1	3.9	(0.42)	先端・基部			——	16－121
10	CM42－7	不明	(1C)	珪質頁岩	(20.3)・(13.0)	(16.6)	3.5	(0.85)	先端～基部			2506	20－32
11	CL40－2	不明	(1C)	珪化凝灰岩	(29.4)・(13.8)	(14.0)	5.0	(1.27)	側縁～基部			6145	20－33
12	CM42－7	不明	(1C)	珪化凝灰岩	(29.8)・(11.4)	13.0	3.4	(0.7)	先端～基部		(玉髄化)	2507	20－34
13	CL39－2	不明	(1C)	珪質頁岩	(33.7)・(17.2)	(12.6)	5.8	(1.96)	基部・基部			1015	20－35
14	CL38－Z31	不明	1D	珪化凝灰岩	(22.0)	9.5	2.5	(0.5)	基部		(玉髄化)	642	20－36
15	CL38－20	不明	1D	珪化凝灰岩	(13.2)	9.3	4.0	(0.25)	基部			6729	20－37
16	CL42－6	不明	1D	頁岩	(17.6)	5.4	2.6	(0.35)	基部			5426	20－38
17	CM42－8	不明	1D	珪化凝灰岩	(19.6)	8.1	3.5	(0.5)	先端・基部			2777	20－39
18	×－3	不明	1D	珪質頁岩	20.4	7.1	4.5	0.5				5649	20－40
19	CL39－3	不明	1D	珪質頁岩	(26.0)	7.3	5.0	0.85	基部		(玉髄化)	4571	20－41
20	CK38－1	不明	1D	珪化凝灰岩	(23.5)	6.5	3.8	0.4	基部			675	20－42
21	CL38－Z622	不明	1D	珪化凝灰岩	23.5	8.8	4.8	0.6				623	20－43
22	CM42－X7b	不明	1D	珪化凝灰岩	(33.1)	(10.3)	4.9	(1.22)	側縁～基部		挑ケハジケ	1964	20－44
23	CK39－2	不明	1D	珪質頁岩	30.5	5.0	4.0	(0.45)	側縁？			6382	20－45
24	CL38－Z622	不明	1D	珪質頁岩	(40.5)	5.8	4.2	(0.7)	基部			622	20－46
25	CK38－2	不明	1D	珪質頁岩	(40.0)	8.7	6.5	(1.95)	先端			1390	20－47
26	表採	不明	1D	珪化凝灰岩	(19.5)	7.4	4.0	(0.7)	基部			5685	20－48
27	CM42－10	不明	1D	珪質頁岩	(26.3)	10.1	7.0	(1.6)	先端・基部			2693	20－49

第82図　石　鏃(51)

これらの矢傷の状況等は第11表に記したとおりである。

この6例の動物遺存体は、弓矢を使用した狐狩が行なわれていたことを裏づけるものであり、イノシシ・ニホンジカを問わず使用され、胸部を的にして射込まれていたと考えられるものである。また、その威力は肩甲骨（図版70－9）の骨壁を貫き、周囲の骨が剥離するほどもので、かなり殺傷力をもっていたと思われる。

このような哺乳動物（ヒトを除く）に狩猟具が射込まれている例は、県内だけでも4例報告されている。南境貝塚からシカの左肩甲骨（金子：1984・8）、田茂川貝塚から鯨・イルカ類の前腕部（宮城県史34－資料篇：1981・10）、沼津貝塚よりシカの座骨に石鏃が射込まれものが知られており、その他に里浜貝塚からエイ尾棘製ヤジリがささったシカの左肩甲骨（岡村：1986・3）が報告されている。

尖頭器（第 86 図～第 92 図）

ここで尖頭器として取りあげる石器は、これまで石鏃として取り扱われている場合が多い。しかし、尖頭部の作り出しや平面形態に類似性を示すが、加工状況、断面形、重さなど種々の属性は石鏃としたものとは異なる傾向を示し、岡村道雄氏によって「新器種」とされた石器（岡村：1979）に相当するものを多く含む。総数94点が出土している。

1分　類

平面形から三角形状のもの（A）と木葉状のもの（B）に大別することができる。これらの基部形態には円基(1)、尖基(2)、平基(3)があり、側縁形態には外弯気味のもの（ａ）、直線的なもの（ｂ）。内弯気味のもの（ｃ）、ある。Aには1～3の基部形態が認められ、各々にａ～ｃの側縁形態をもつものがある。また、Ｂでは1、2の基部形態が認められ、これらの側縁形態はいずれもｂである。

つまり、下記のような11類に分けることができる。

A－1 { a, b, c　A－2 { a, b, c　A－3 { a, b, c　B－1 b　B－2b

これらを量的に見ると、第12表に示すようにA類が多く、Ｂ類は極めて少ない。基部形態では円基が多く、平基がこれに次ぐ。また、側縁形態では直線的なものが三角形状、木葉状とともに多く、内弯気味のものは極めて少ない。

2出土状況と時期的変化

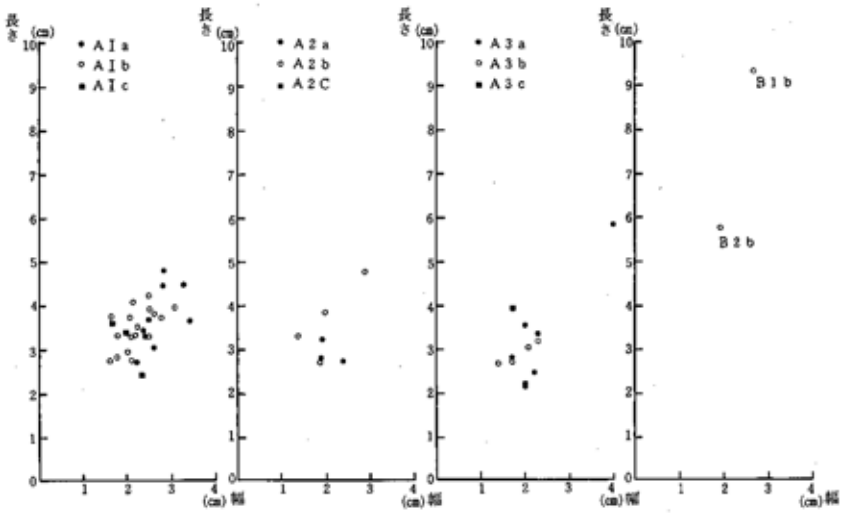
94点中63点は時期が特定できる。時期別に見ると第Ⅱ期3点、第Ⅲ期6点、第Ⅳ期10点、第Ⅴ期22点、第Ⅵ期10点、第Ⅶ期5点、第Ⅷ期7点となり、各時期ともに認められ第Ⅴ期で最も多い出土量を示す（第12表参照）。これを分類別に見ると、A1ｂ類が各時期に認められ、第Ⅱ～Ⅵ期に多い傾向を示す。また、A1ａ類は第Ⅱ～第Ⅵに認められ、第Ⅴ期では比率が高くなる。一方、Ａｂ類は第Ⅴ期以降に認められ第Ⅷ期での比率が高い。

3属性の特徴

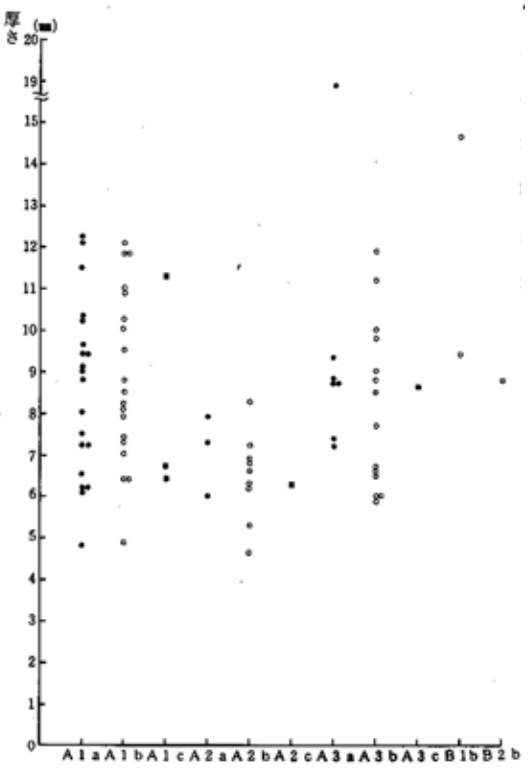
上記のように尖頭器は時期的な形態の変化はさほどみられない。そこで、以下に属性の特徴については、各層出土のものをまとめて記述する。

分類＼時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	計	不明	総計
A1a	1	1		8	1			11	8	19
A1b		3	2	6	2	1	1	15	2	17
A1c			2	1				3		3
A2a		1	1			1		3		3
A2b			2	1	1		1	5	5	10
A2c					1			1		1
A3a				2		1		3	4	7
A3b			1	3	2		4	10	5	15
A3c	1							1		1
A不明	1	1	1	1	3	1		8	3	11
B1b									2	2
B2b						1		1		1
B不明			1				1	1	1	2
計	3	6	10	22	10	5	7	63	30	93

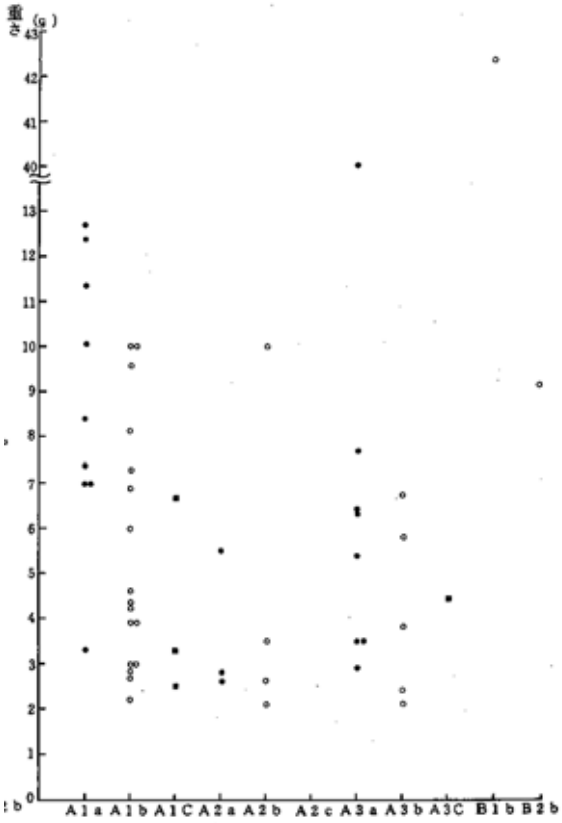
第12表　尖頭器時期別・分類別出土数量表



第83図　尖頭器分類別長さ・幅相関図



第84図　尖頭器分類別厚さ分布図



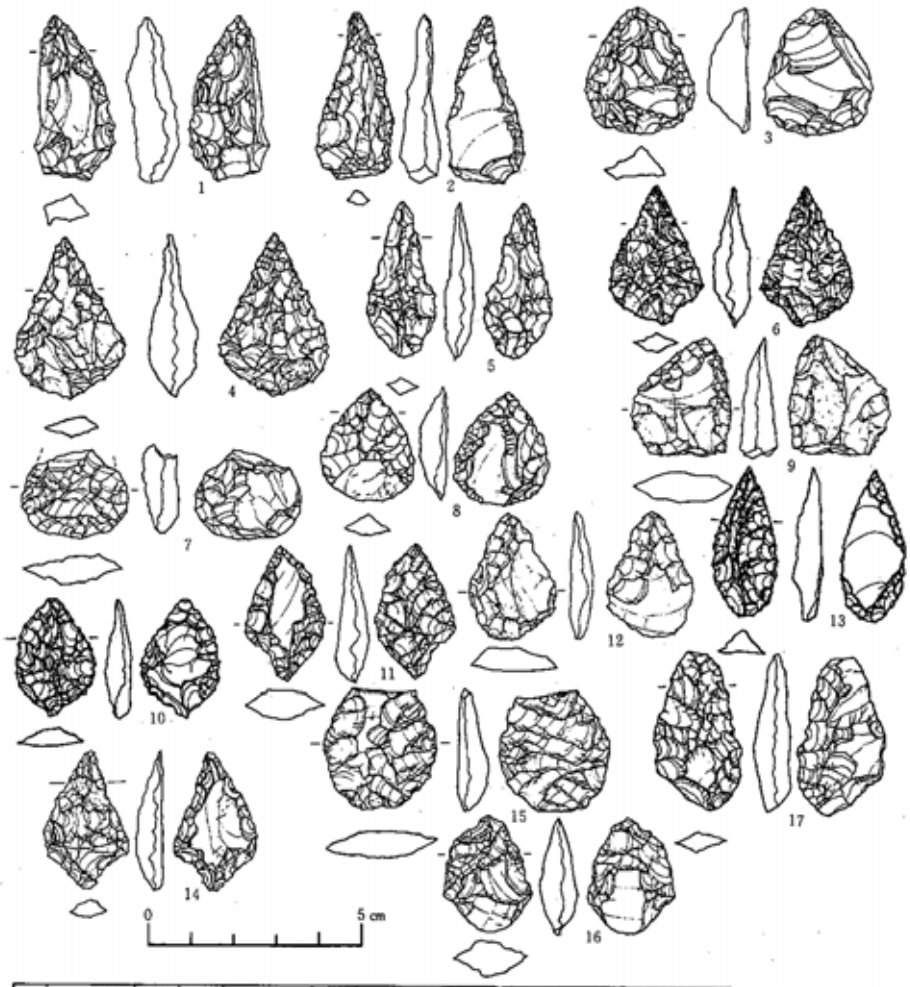
第85図　尖頭器分類別重さ分布図

大きさ・重さ（第 83・84・85 図）

A類は長さ 3cm 前後、幅 2cm 前後に集中するが、一部にはこれより大きいものがある。一方Ｂ類はA類と同じ幅であるが長さが長い。厚さはA1 類が 5mm～12mm の間でばらつきがあるが、A類は 8mm 以下に多数認められ、他のA類より薄いものが多い。Ｂ類は 8mm 以上で、15mm ほどのものもある。重さはいずれも 2ｇ以上であり、A1 類は 13ｇ以下に、A2 類は 10g 以下にすべておさまる。A3 類は 8g 以下に多くがもられるが、1 点のみ 40g を計るもの

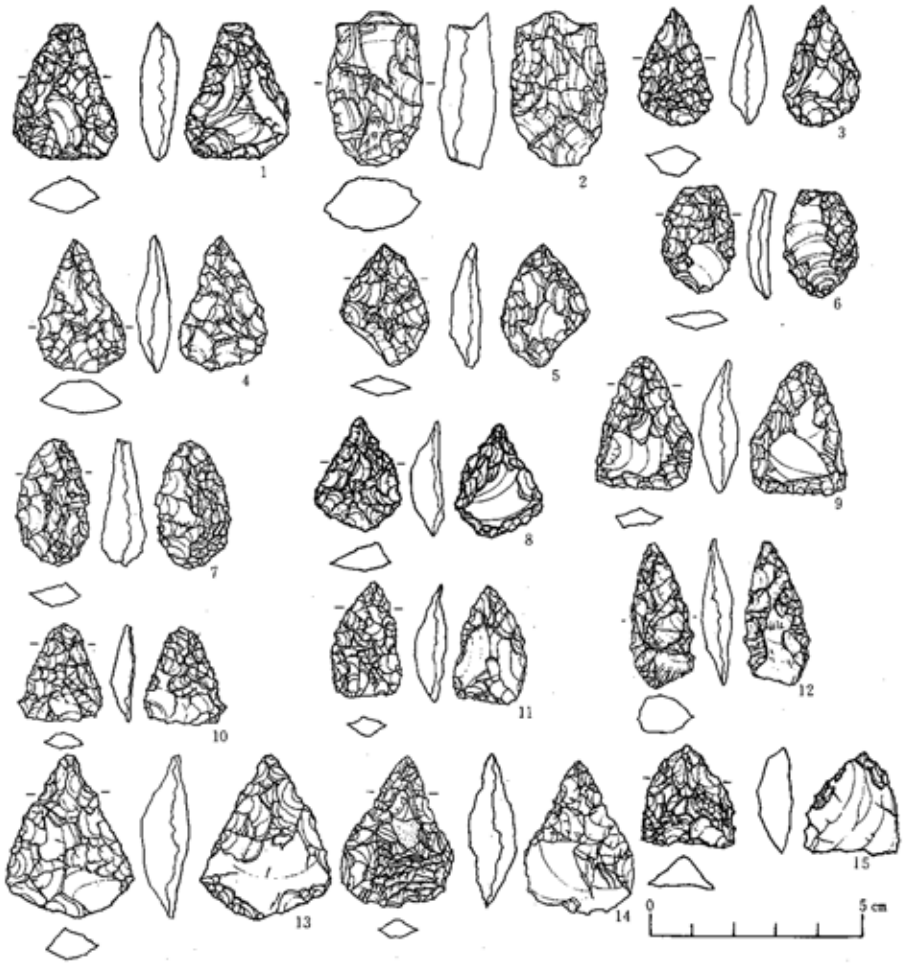
時期＼石材	珪質頁岩	珪化頁岩	黒色頁岩	玉髄	碧玉	流紋岩質凝灰岩	細粒石英安山岩質凝灰岩	石英安山岩質凝灰岩	細粒頁岩	頁岩質頁岩	計
Ⅱ	1 (33.3)		2 (66.7)								3
Ⅲ	3 (50.0)	1 (16.6)	1 (16.6)	1 (16.6)							6
Ⅳ	1 (10.0)	2 (20.0)	5 (50.0)			1 (10.0)				1	10
Ⅴ	8 (33.3)	9 (37.5)	3 (12.5)	2 (8.3)	1 (4.2)		1 (4.2)				24
Ⅵ	2 (22.2)	2 (22.2)	3 (33.3)	1 (11.1)	1 (11.1)						9
Ⅶ	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)							1 (20.0)	5
Ⅷ	2 (33.3)	2 (33.3)	1 (16.6)					1 (16.6)			6
計	19 (30.2)	17 (27.0)	16 (25.4)	4 (6.4)	2 (3.2)	1 (1.6)	1 (1.6)	1 (1.6)		2 (3.2)	63

第13表　尖頭器時期別・石材別出土数量表



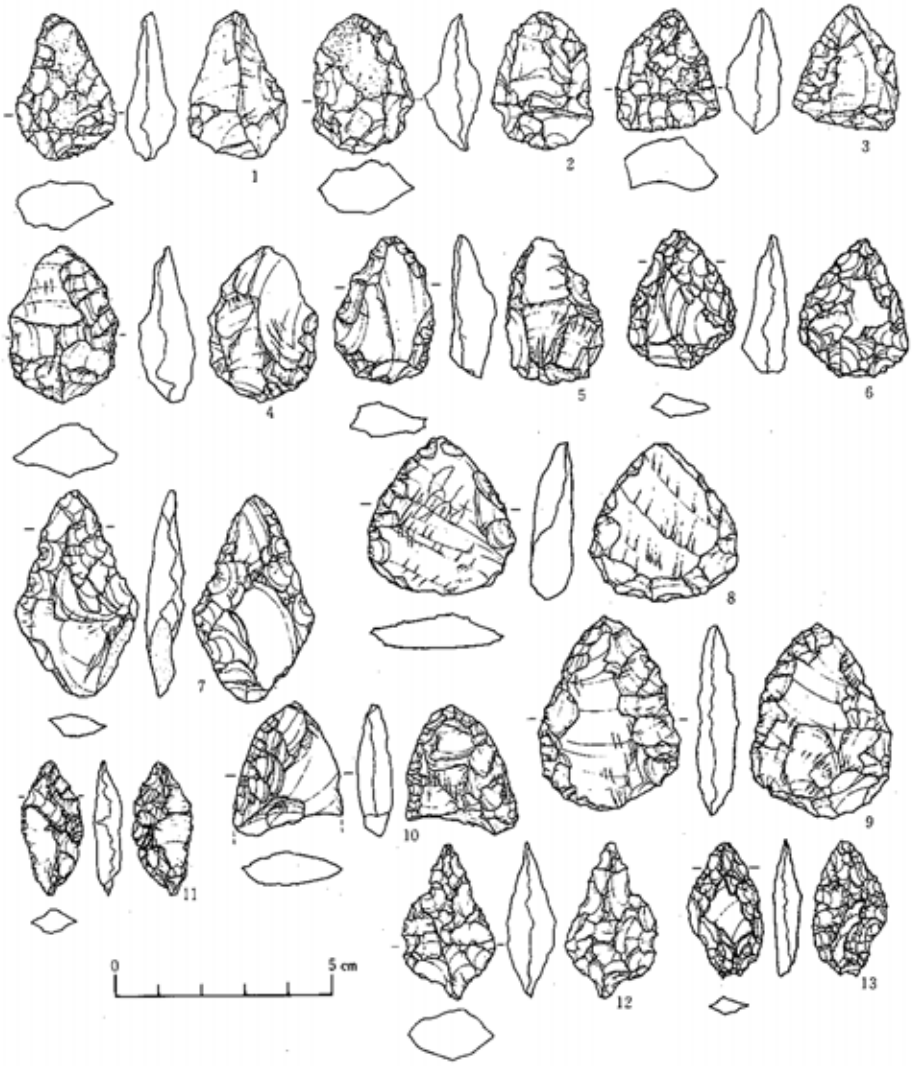
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	剥材面	加工	備考	登録番号	図版
1	CM39－38	II	(Aa)	黒色頁岩	39.0	19.0	7.35	9.75	無	○	○	両面		1686	20－50
2	CL41－21	II	A3c	珪質頁岩	38.7	17.4	4.45	8.6	無	×	○	片面		1963	20－51
3	CL41－20	II	A3a	黒色頁岩	30.0	26.0	7.0	9.4	無	×	○	片面		1155	20－52
4	CM48－3	III	A1b	珪化頁岩	38.2	26.0	7.3	11.0	無	×	×	両面	(玉髓化)	1989	20－53
5	CL47－3	II	A1b	珪質頁岩	37.0	16.2	3.0	7.0	無	×	×	両面		1971	20－58
6	CL41－19	III	A1b	珪質頁岩	32.7	21.6	4.25	8.2	無	×	×	両面		438	20－54
7	CM47－3	III	(A1)	玉髓	24.7	20.4	4.2	8.0	先端	×	×	両面		5954	20－55
8	CM39－36	III	A1b	珪質頁岩	27.0	22.0	3.3	6.5	無	×	○	半両面		2984	20－56
9	CL40－27	III	A2a	黒色頁岩	27.8	23.4	5.45	7.9	無	○	○	半両面		6731	20－57
10	CL39－36	IV	A2a	珪化頁岩	28.0	18.5	2.55	5.95	無	×	○	片面		5242	20－59
11	CL41－17	IV	A3c	流紋岩質頁岩	33.5	19.0	3.3	6.7	無	×	○	両面		4199	20－60
12	CL41－18	IV	A1b	黒色頁岩	29.6	20.2	2.85	4.9	無	×	○	半両面		4332	20－61
13	CL39－36	IV	A1c	珪化頁岩	35.8	16.0	2.5	6.4	無	×	○	片面		5228	20－62
14	CL41－18	IV	A2b	黒色頁岩	(33.0)	20.5	(3.6)	6.25	先端・基部	×	○	両面		6225	20－63
15	CL41－17	IV	(A1)	黒色頁岩	(28.0)	26.5	(5.5)	7.2	先端・基部	×	○	両面		1957	20－64
16	CM41－27	IV	A1b	珪質頁岩	27.5	20.8	3.95	8.8	無	×	○	半両面		3340	20－65
17	CL39－35	IV	A2b	黒色頁岩	(36.5)	20.5	(6.3)	8.25	先端	×	○	両面		5158	20－66

第86図　尖頭器(1)



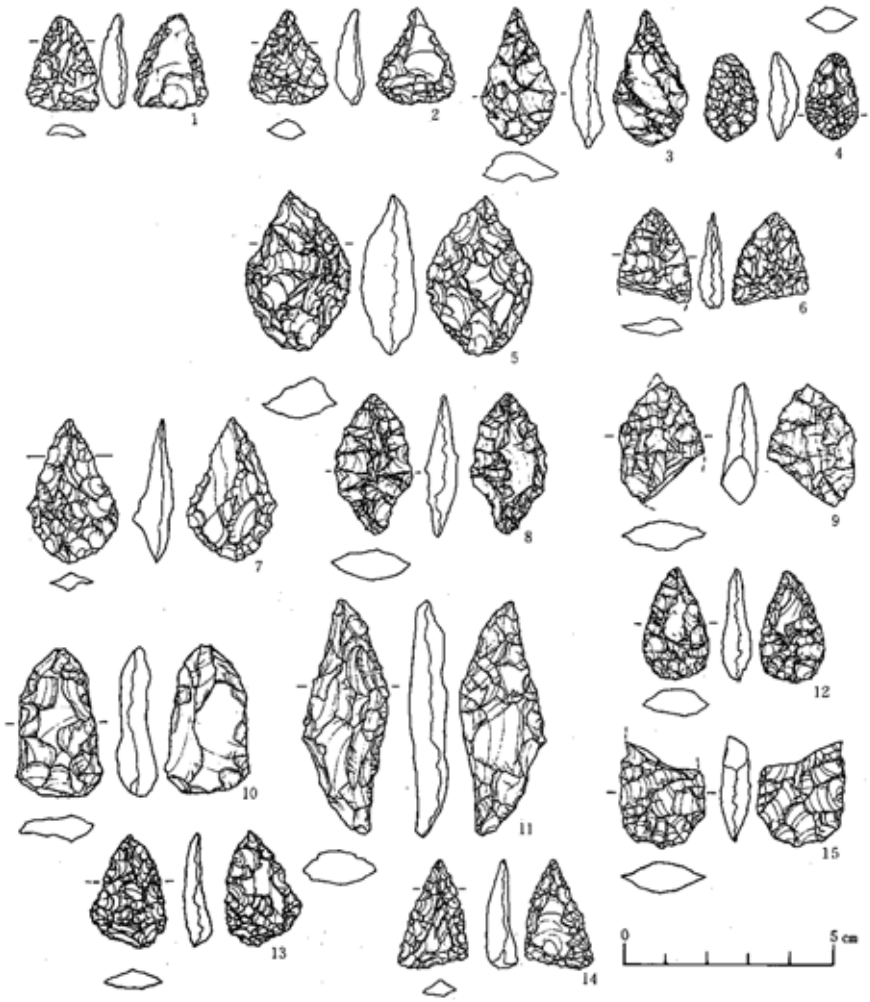
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	剥離面	加工	備考	登録番号	図版
1	CL39－35	Ⅳ	A3b	黒色頁岩	(33.5)	(25.0)	(6.2)	8.5	先端	×	○	半両面	二重パティナ	5153	20－67
2	CL41－17	Ⅳ	(B)	凝灰質頁岩	(37.0)	23.1	(12.1)	13.2	先端・基部	×	×	両面		4248	20－68
3	CL40－24	Ⅴ	A1b	珪化凝灰岩	28.5	18.0	3.9	7.3	無	×	○	両面		2795	20－69
4	CL40－25	Ⅴ	A1b	珪質頁岩	32.5	21.8	4.35	8.1	無	×	×	両面		241	20－70
5	CL39－33	Ⅴ	A1a	珪化凝灰岩	(30.5)	(21.2)	(3.15)	6.1	先端・基部	×	×	両面		5112	20－71
6	CM41－25	Ⅴ	A1a	珪質頁岩	(26.0)	17.5	(2.2)	4.8	先端	×	○	半両面		3435	20－72
7	CM41－25	Ⅴ	A1a	玉髄	(31.0)	18.0	(4.3)	10.25	先端	×	×	両面		3437	20－73
8	CL・M39－32	Ⅴ	A1b	珪質頁岩	27.0	20.8	2.95	7.45	無	×	○	半両面	(碧玉化)	5072	20－74
9	CL40－24	Ⅴ	A3b	珪質頁岩	31.8	23.0	5.8	8.75	無	×	○	両面		1256	20－75
10	CL41－16	Ⅴ	A3b	碧玉	(24.0)	20.0	(2.1)	5.9	先端	×	×	両面		6574	20－76
11	CL40－23	Ⅴ	A3a	珪化凝灰岩	28.0	17.0	2.9	7.2	無	○	○	両面		2860	20－77
12	CM41－25	Ⅴ	(Aa)	玉髄	(23.2)	(12.0)	(0.6)	7.5	先端	×	○	半両面	(原石は凝灰岩?)	3434	20－78
13	CL・M39－32表	Ⅴ	A1b	珪化凝灰岩	39.5	30.5	10.3	11.85	先端	×	○	半両面	(碧玉化)	5081	20－79
14	CL40－25	Ⅴ	A1b	珪質頁岩	37.1	27.4	8.15	10.9	無	○	○	半両面		271	20－80
15	CL・M39－32	Ⅴ	A3a	珪化凝灰岩	25.0	22.0	3.5	7.35	無	○	○	片面		5064	21－1

第87図　尖頭器(2)



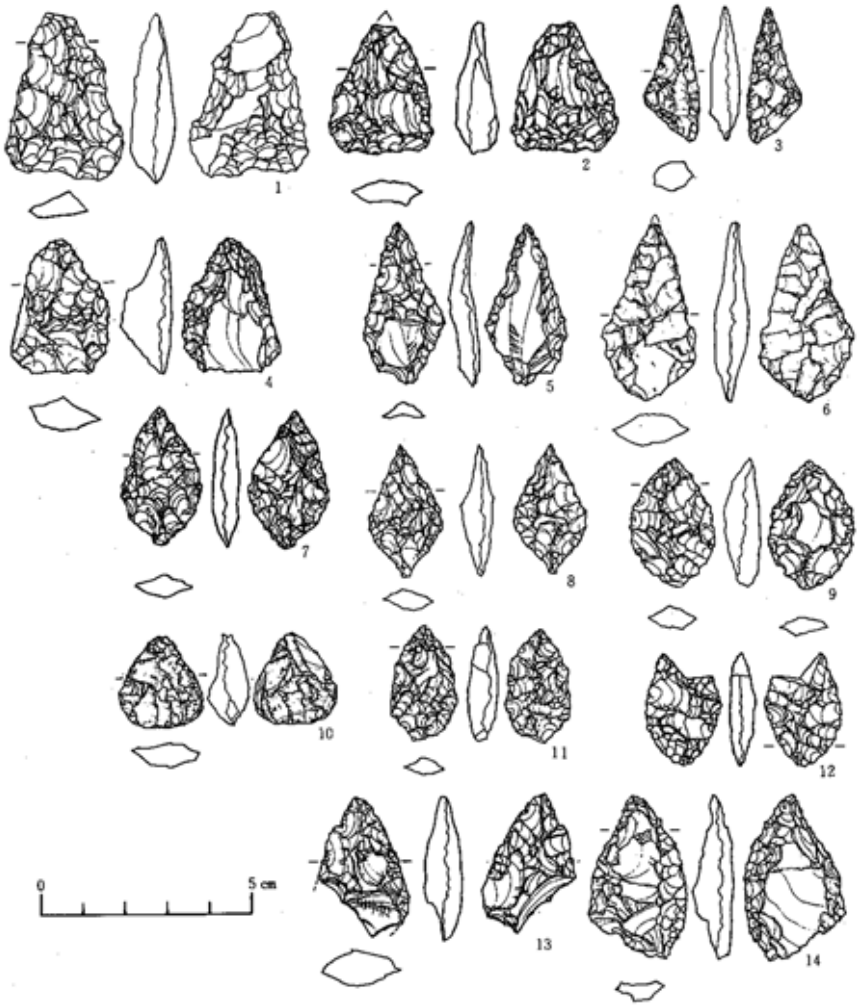
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	素材面	加工	備考	登録番号	図版
1	CL40－25	Ⅴ	A1c	珪化凝灰岩	24.3	22.7	6.68	11.3	無	×	○	半両面	(碧玉)	2135	21－2
2	CM40－8	Ⅴ	A1a	珪化凝灰岩	32.4	23.8	7.38	12.1	無	×	○	両面		2304	21－3
3	CM40－β	Ⅴ	A3b	珪化凝灰岩	27.5	23.5	6.7	11.2	無	×	○	片面	(碧玉)	2327	21－4
4	CL39－31	Ⅴ	A1a	珪質頁岩	36.5	25.0	8.4	11.5	無	×	○	半両面		644	21－5
5	CL41－16	Ⅴ	A1a	黒色頁岩	34.0	23.2	7.0	9.6	無	○	○	両面		4122	21－6
6	CL41－16	Ⅴ	A1b	珪質頁岩	32.5	25.0	6.9	10.15	無	×	○	半両面		4124	21－7
7	CL41－16	Ⅴ	A2b	黒色頁岩	48.0	29.0	10.5	9.7	無	○	○	半両面		4121	21－8
8	CL39－31	Ⅴ	A1a	黒色頁岩	36.2	34.2	11.35	7.5	無	×	○	両面		5730	21－9
9	CL39－31c	Ⅴ	A1a	珪質頁岩	45.0	32.6	12.4	9.0	無	○	○	両面		5002	21－10
10	CL39－32	Ⅴ	(A2)	細粒石英安山岩 頁岩	(31.5)	25.6	(5.25)	8.0	基部	×	○	両面		1715	21－11
11	CL40－22	Ⅵ	A2b	玉髄	(31.0)	14.0	(2.3)	7.2	先端	○	○	半両面	(凝灰岩源)	5904	21－12
12	CL40－20	Ⅵ	A2c	黒色頁岩	(32.0)	17.5	(2.9)	6.25	先端	×	○	両面		3247	21－14
13	CL41－14	Ⅵ	A1b	黒色頁岩	40.2	21.1	6.0	10.25	無	×	○	両面	再加工？	3881	21－13

第88図　尖頭器(3)



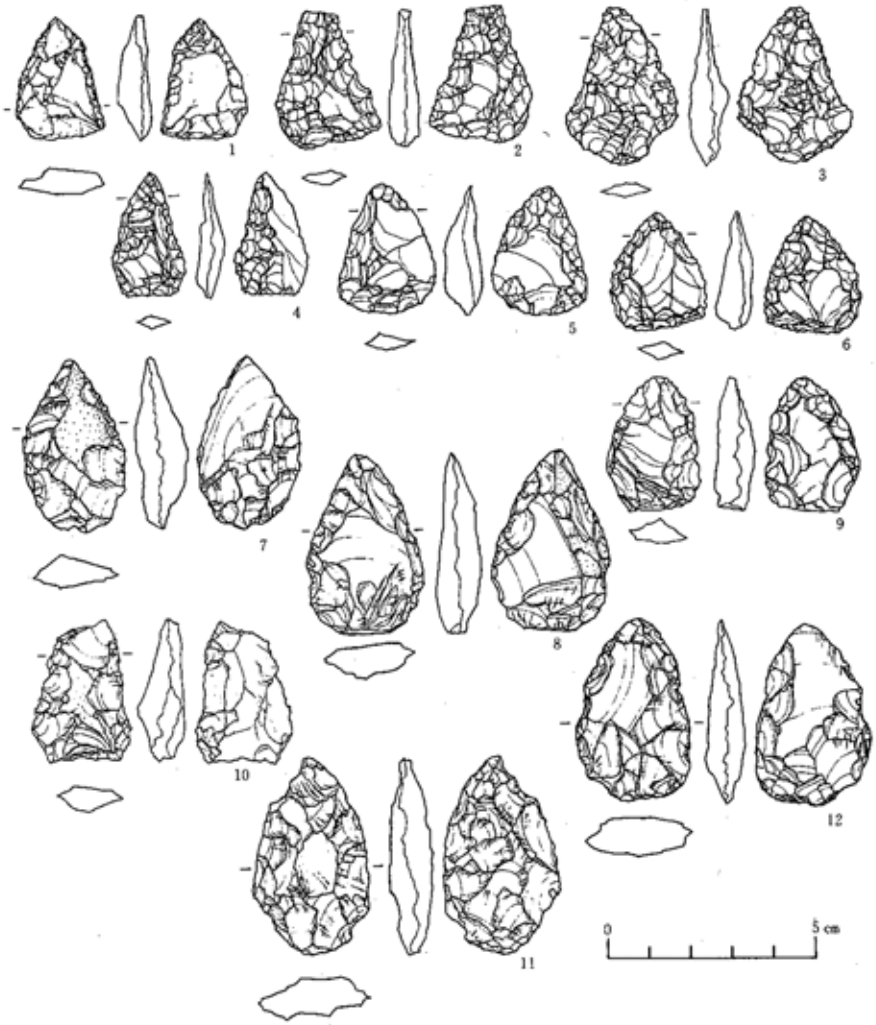
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	剥離面	加工	備考	登録番号	図版
1	CL41－14	Ⅵ	A3b	珪質頁岩	(23.0)	17.5	(2.35)	6.0	先端	×	○	片面		3886	21－15
2	CL39－30	Ⅵ	A3b	碧玉	(23.5)	19.0	(2.0)	6.5	先端	×	○	片面		4892	21－16
3	CL41－12	Ⅵ	A1b	珪質頁岩	33.0	18.0	2.7	6.4	無	×	○	平面		3825	21－20
4	CL39－30	Ⅵ	A1a	珪化頁岩	(23.2)	12.5	(1.45)	4.2	先端	○	×	両面	(加熱化)	4881	21－21
5	CL39－29	Ⅵ	A1b	黒色頁岩	39.0	25.0	10.3	11.8	無	×	○	両面		4795	21－22
6	CL39－28	Ⅵ	(Aa)	珪化頁岩	(33.2)	(18.1)	(1.65)	6.1	基部	×	×	両面		4763	21－23
7	CM41－18	Ⅶ	A1b	黒色頁岩	35.0	22.0	4.6	9.5	無	×	○	両面		6095	21－24
8	CL41－10	Ⅶ	A2a	珪化頁岩	32.0	19.0	2.8	7.3	無	×	○	両面		3792	21－17
9	CM39－29	Ⅶ	(Aa)	珪質頁岩	(30.0)	19.8	(4.5)	8.0	先端	×	○	両面		1956	21－18
10	CM41－17b	Ⅶ	A3a	珪質頁岩	35.6	20.2	5.4	8.7	無	×	○	片面		5626	21－25
11	CL41－16	Ⅶ	B2b	凝灰質頁岩	57.2	19.5	9.1	8.8	無	×	○	両面		3795	21－19
12	CM41－14～16	Ⅶ	A1b	珪質頁岩	27.0	16.0	2.2	6.4	無	×	○	両面		3635	21－26
13	CL40－12	Ⅶ	A2b	黒色頁岩	37.5	19.0	2.62	6.2	無	×	○	両面		1139	21－28
14	CM40－12・13	Ⅶ	A3b	珪化凝灰岩	27.0	17.2	2.1	6.7	無	○	○	片面		3518	21－29
15	CM40－4d	Ⅶ	(B1)	珪質頁岩	(26.2)	20.5	3.65	7.2	先端	×	×	両面		2401	21－27

第89図　尖頭器(4)



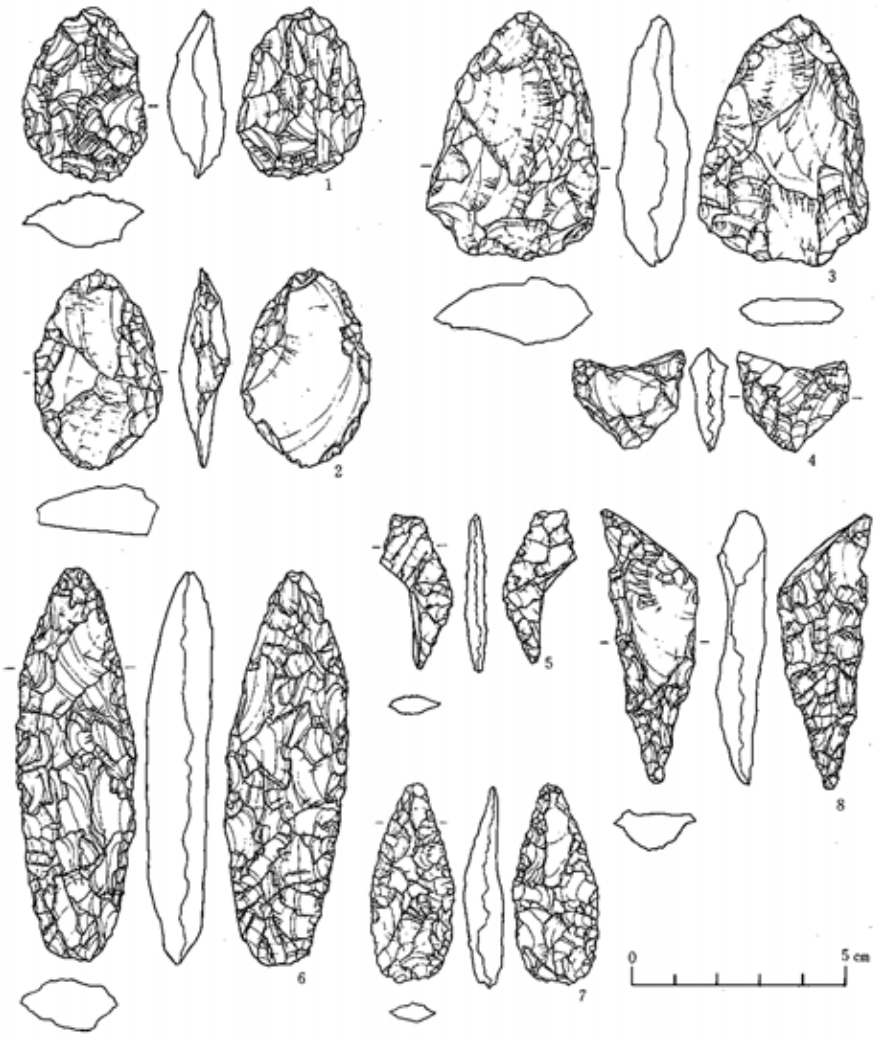
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	質材面	加工	備考	登録番号	図版
1	CM39－13	縄	A3b	石英安山岩質緑沢岩	(40.0)	28.5	(9.4)	9.8	先端	×	○	両面	(珪化は弱い)	6064	21－30
2	CL40－13	縄	A3b	珪化緑沢岩	(31.5)	(25.2)	(6.91)	9.0	先端	×	○	両面	(玉髄化)	6143	21－31
3	CL38－30	不明	A2b	珪質頁岩	33.0	13.5	2.1	6.6	無	×	○	両面		1154	21－32
4	CM39－25	縄	A3b	珪化緑沢岩	(32.5)	23.0	(8.8)	11.3	先端	×	○	両面		1685	21－33
5	CM42－11	不明	A2b	黒色頁岩	38.5	20.0	3.5	5.3	無	×	○	両面		2718	21－35
6	CK38－北10	不明	A1b	珪質頁岩	(42.0)	22.5	(5.3)	7.9	先端	×	○	両面	(やや緑沢岩)	684	21－36
7	CL42－6	不明	A2b	黒色頁岩	(32.4)	18.6	(3.7)	6.8	無	×	○	両面		5428	21－37
8	CN45－2	不明	A2b	黒色頁岩	(31.8)	17.8	(2.5)	6.9	無	×	×	両面		6377	21－38
9	CK38－東9	不明	A1a	珪質頁岩	(31.2)	20.5	(4.9)	8.0	基部	×	○	両面		5498	21－39
10	BC49－1	不明	A3a	珪質頁岩	22.0	20.0	3.5	8.8	無	×	×	両面		1069	21－40
11	CM42－9	不明	A1a	黒色頁岩	(28.2)	16.0	(2.9)	7.2	基部	×	○	両面		2624	21－41
12	CL48－3a	不明	A1a	珪質頁岩	(27.8)	18.5	(2.9)	6.2	先端	×	×	両面		6421	21－42
13	BA53－1	不明	(Ab)	珪質頁岩	(33.5)	(21.5)	(4.0)	8.6	基部	×	×	両面		985	21－43
14	CM42－6	不明	(Ab)	珪質頁岩	(39.5)	(22.8)	(8.3)	10.0	無	×	○	両面		2491	21－44

第90図　尖頭器(5)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	自然面	剥離面	加工	備考	登録番号	図版
1	CL45－2	不明	A3b	珪質頁岩	30.0	20.5	3.8	6.6	無	×	○	両面	側縁再加工	1089	21－48
2	BC48－3	不明	A3b	珪化凝灰岩	(34.0)	25.0	(4.9)	7.7	先端	×	○	両面		2088	21－45
3	CL38－2	不明	A1b	珪化凝灰岩	(39.0)	27.8	(6.7)	8.5	先端	×	×	両面		1125	21－49
4	CM40－25	不明	A3b	珪化凝灰岩	30.0	18.0	2.4	6.0	無	×	○	両面		6056	21－46
5	CM42－15	不明	A1a	珪質頁岩	(31.5)	23.8	(5.7)	8.8	先端	○	○	両面		2684	21－50
6	CM42－6	不明	A3a	細粒石英斑岩質凝灰岩	29.0	23.2	6.4	8.7	無	○	○	両面	(珪化弱い)	2490	21－47
7	CK37－2	不明	A1b	珪質頁岩	42.0	24.5	9.6	12.1	無	○	○	片面		6335	21－51
8	CM45－2	不明	A3b	黒色頁岩	(43.5)	27.5	(12.5)	10.0	先端	○	○	両面		1127	21－52
9	BE50－3	不明	A3a	珪化凝灰岩	33.5	22.5	7.7	9.3	無	○	○	両面		998	21－53
10	CL42－8	不明	A3b	珪質頁岩	(34.0)	24.0	(8.7)	11.9	先端	○	○	両面		5485	22－1
11	CJ40－2	不明	A1a	珪質頁岩	48.2	28.2	12.7	9.1	無	×	×	両面	先端再加工	1035	22－2
12	CO41－第2層	不明	A1a	細粒凝灰岩	44.2	27.8	10.1	9.4	無	×	○	両面	(珪化)	1739	22－3

第91図　尖頭器(6)



番号	地区・層位	時 期	分 類	石 材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠 損 部	自然面	素材面	加 工	備 考	登録番号	図 版
1	CM38－2	不明	A1a	珪質頁岩	(40.4)	29.0	(13.7)	12.2	先端	×	○	両面		1949	22－4
2	CO33－CO34 －ル・ト3	不明	A1a	珪質頁岩	(46.5)	29.6	(14.1)	10.3	先端	×	○		右下の加工あるのか	6734	22－6
3	CL45－ミ ゾ	不明	A3a	細粒頁岩	59.1	40.0	40.0	19.8	無	×	×	両面		6359	22－7
4	CK38－4	不明	(A2)	流紋岩質頁岩	(21.8)	27.7	(4.2)	7.5	先端	×	○	両面		958	22－5
5	CL42－7・8	不明	B1b	珪質頁岩	93.0	27.0	42.3	14.7	無	×	×	両面		1726	22－8
6	CL38－31	不明	A2b	玉髄	(37.0)	(17.0)	(1.4)	4.6	先端・基部	×	×	両面		1068	22－11
7	CP45－3	不明	B1b	珪質頁岩	(48.0)	20.0	(8.9)	9.4	先端	×	○	両面	先端欠損後再加工	1307	22－9
8	CP45－3	不明	(Bb)	珪質頁岩	(64.8)	21.0	(12.2)	10.2	先端	×	×	両面		1308	22－10

第92図　尖頭器(7)

石材＼分類	A不明	A1a	A1b	A1c	A2a	A2b	A2c	A3a	A3b	A3c	B不明	B1b	B2b	計
珪質頁岩	3	10	11			1		2	4	1	2	2		36
珪化凝灰岩	1	3	4	2	2			3	6					21
黒色頁岩	2	4	4		1	7	1		2					21
玉髄	2	1				2								5
碧玉									2					2
流紋岩質凝灰岩	1			1										2
細粒石英安山岩質凝灰岩									1					1
細粒凝灰岩														
凝灰質頁岩											1		1	2
計	9	18	19	3	3	10	1	5	15	1	3	2	1	90

第14表　尖頭器分類別・石材別出土数量表

がある。B類は9ｇほどのものと40ｇを越えるものがある。

石　材（第13・14表）

各時期ともに珪質頁岩、珪化凝灰岩、黒色頁岩の使用頻度が高く、全体の約8割りを占めている。第Ⅳ期では黒色頁岩の使用頻度が高く、第Ⅴ期では逆に低い傾向を示す。なお、石鏃で認められた黒曜岩は用いられていない。また、分類別に石材をみても、特異な用い方をしている種類のものはない。

欠損部

出土総数の42％にあたる40点に欠損が認められる。欠損部位は先端部が最も多く、基部がこれに次ぐ。内訳は先端部のみ欠損するものが30点、先端部と基部を欠損するものが5点、基部のみ欠損するものが5点である。先端部の欠損したものが多いことは使用による衝撃の加わる部分と考えられ、先端が対象物にあたるもので刺突具としての用途を想定させる。

加工状況

A類をみると、両面加工・半両面加工・片面加工のものがある。両面加工のものは丁寧な剥離のものも多数ある。半両面加工のものは基部を両面加工しているが、素材の尖がった部分を先端部に利用しているもの、先端部を両面加工しているが基部に自然面や素材面を残すものがある。片面加工のものは、背面側に加工を施している。

以上、属性の特徴をみてきたが、三角形状のA類は、大きさ、厚さ、重さ、加工状況などの点で、〝石鏃と異なる種々の属性をもった一群〟（岡村：1979）といえるものである。これらは前述したように刺突具としての機能を推定させるものであり、広義の尖頭器に含まれるものと言える。また、木葉形のB類は諸属性の点で、石鏃やA類とは異なる。これは、形態や加工状況からいわゆる石槍といえるものである。

石　錐（第96図～第108図）

両面加工により棒状の身部を作り出しているものや、鋭利な端部をつくり出しているものを扱う。

1分　類

形態と加工方法により分類を行なう。

形態的にはⅠ類ー頭部と身部からなるもの、Ⅱ類ー頭部と身部の区別がないものに大別した。

Ⅰ類は頭部頂部に2次加工を施さないもの(A)と施されるもの(B)がある。さらに、(B)は頭部形状に丸みを呈びるもの(1)、凹むもの(2)がある。また、Ⅱ類は全体形が二等辺三角形状のもの(A)棒状のもの(B)に分かれ、2次加工の施される部位により、頂部を残した全体に施されるもの(1)、全周縁に施されるもの(2)、先端部のみに施されるもの(3)がある。これをまとめると次のような種類がある。

- Ⅰ
  - A……ⅠA
  - B
    - 1…ⅠB1
    - 2…ⅠB2
- Ⅱ
  - A
    - 1……ⅡA1
    - 2……ⅡA2
    - 3……ⅡA3
  - B……ⅡB

身部はⅠ・Ⅱ類とも菱形が多いが、ⅡA3類は三角形、ⅡB類は厚く他のⅡ類は扁平な菱形である。Ⅰ類は身部の断面形が菱形である。

2出土状況と時期的変化

本遺跡からは288点出土している。南側貝塚は197点、北側貝層0点、第1号住居跡より2点、その他貝層外出土のものが89点認められた。

時期が特定できるものは194点で、各時期ごとにみるとⅤ期(後期中葉)に70点・全体の36%を占める。(第15表)。

分類ごとにみると、ⅠA・ⅠB1・ⅡB類の3類が全時期を通して6割以上を占めており、そのおのおのの占める割合は時期によって大きく変化することはない。

分類＼時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	計	不明	総計
ⅠA	1	3	3	14	7	4	11		43	24	67
ⅠB1			7	8	8	5	9		37	22	59
ⅠB2			2	6	2	3	1		14	4	18
ⅡA1			2	5		1			8	4	12
ⅡA2			1	6	2		1		10	8	18
ⅡA3				4	3	2			9	9	18
ⅡB		1	3	18	3	5	15		45	18	63
その他	1		2	9	5	3	4	1	25	4	32
計	2	4	20	70	33	23	41	1	194	93	287

第15表　石錐時期別・分類別出土数量表

3属性の特徴

大きさ

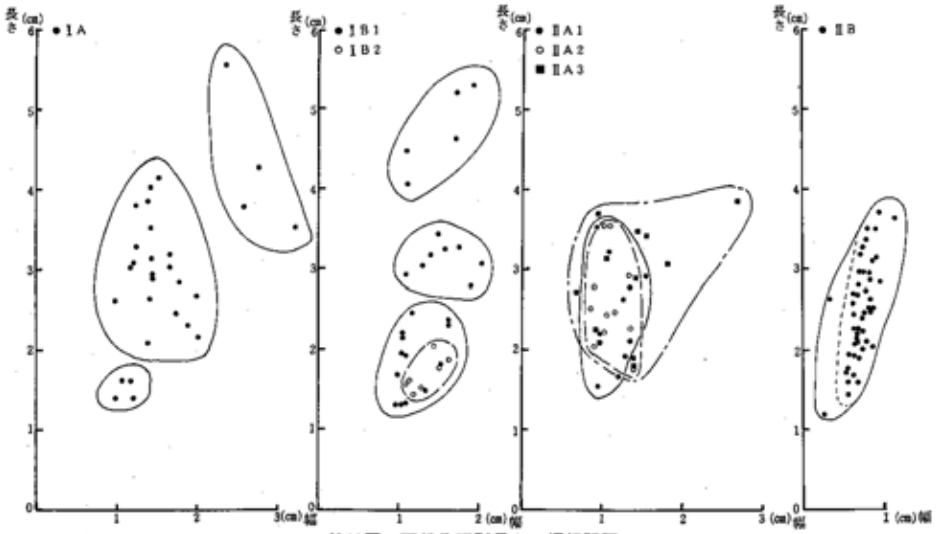
完形品に限って、長さと幅の相関関係を分類ごとにみてみる(第93図)。

ⅠA類は長さ1.5cm・幅1.2cm前後の小形のもの、長さ2.0〜4.3cm・幅1.0〜2.0cmの中形

のもの、さらに長さ3.6〜5.1cm・幅2.4〜3.2cmの大形のものとがある。中形のものが多い。

ＩＢ1類も同様に長さ1.3〜2,5cm・幅1.0〜1.6cmの小形のもの、長さ2.8〜3.4cm・幅1.1〜2.1cmの中形のもの、長さ4.0〜5.3cm・幅1.1〜2.0cmの大形のものになる。3種とも数に大きな違いはない。ＩＡ類と違い、頭部の大きさが1〜2cmの幅にすべておさまり、身部が長いものでも頭部の大きさは変らない。ＩＢ2は、長さ1.4〜2.0cm・幅1.0〜1.6cmの狭い範囲に集中する。

ⅡＡ1類、ⅡＡ2は長さ1.5〜3.5cm・幅0.91.5cmの範囲にまとまり、ⅡＡ3類は長さ1.7〜3.9cm・幅0.7〜2.6cmのやや広い範囲にみられ、大きさにばらつきがある。



第93図　石鏃分類別長さ・幅相関図

石材＼分期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	計	不明	総計
珪質頁岩	1	1	10	27	13	10	19	1	82	39	121
珪化凝灰岩		3	4	15	11	10	17		60	32	92
黒色頁岩			5	27	5	2	3		42	14	56
玉髄	1		2	1	4		1		9	6	15
安山岩							1		1		1
碧玉										2	2
計	2	4	21	70	33	22	41	1	194	93	287

第16表　石鏃時期別・石材別出土数量表

石材＼分類	ⅠA	ⅠB1	ⅠB2	ⅡA1	ⅡA2	ⅡA3	ⅡB	計	不明	計
珪質頁岩	27	28	8	6	8	7	23	107	14	121
珪化凝灰岩	25	16	7	2	5	7	20	82	10	92
黒色頁岩	9	10	2	4	5	3	18	51	5	56
玉髄	5	5				1	2	13	2	15
安山岩							1	1		1
碧玉	1		1					2		2
計	67	59	18	12	18	18	64	256	31	287

第17表　石鏃分類別・石材別出土数量表

ⅡB類は、長さ1.4～3.7cm・幅0.5～1.0cmの範囲に集中する。

石　材（第16・17表）

珪質頁岩が最も多く40%程度を占め、珪化凝灰岩が30%程度、黒色頁岩も20%程度を占めている。特に大きく変化する時期はない。

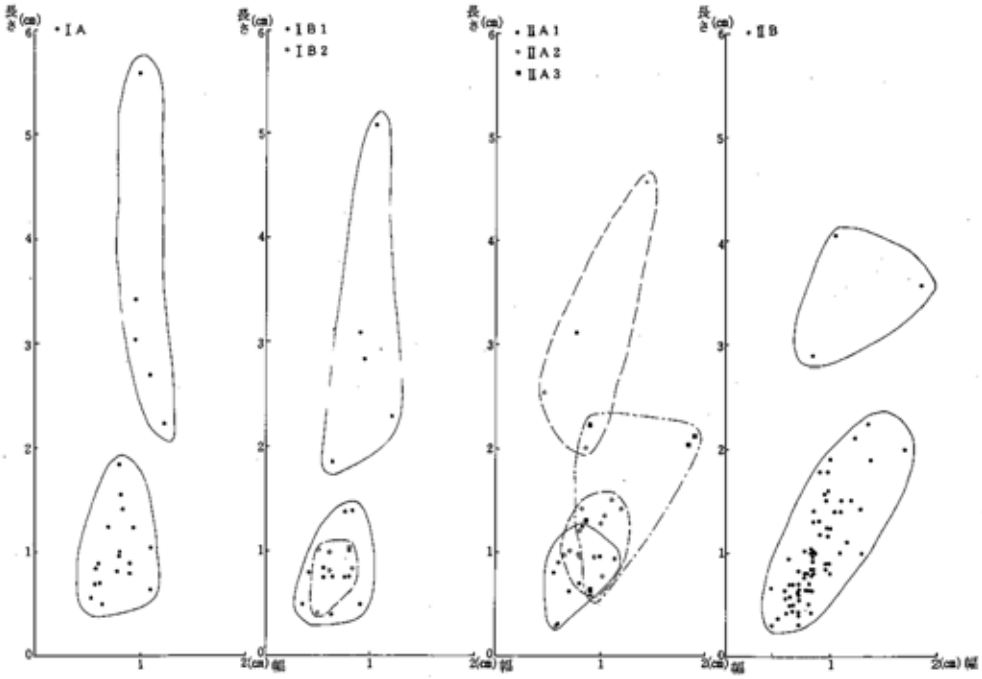
欠損部（第18表）

分　類	欠損数	全体数	欠損率
ⅠA	36	66	54.5
ⅠB1	33	59	55.9
ⅠB2	10	18	55.6
ⅡA1	2	11	18.2
ⅡA2	5	18	31.6
ⅡA3	6	17	35.3
ⅡB	17	65	25.0
計	109	254	42.9

第18表　石錐分類別欠損率表

多くのものは身部の先端が欠損している。ⅠA類は66点中36点、ⅠB1類は59点中33点、ⅠB2類も18点中10点が欠損しており、いずれも50%以上におよぶ。ⅡA1は11点中2点、ⅡA2類は18点中5点、ⅡA3類は17点中6点が欠損しており、30%前後の欠損率である。

ⅡB類は、65点中17点の25%のものが欠損している。一般的にⅠ類はⅡ類に比べ、欠損しやすいものと言える。身部の欠損後、再加工しているもの6点、欠損面を残したまま再利用しているものが10点認められる。



第94図　石錐分類別使用痕分布図

使用痕

顕微鏡で身部の使用痕を観察した結果、178点(61.8%)について認められた。

Ⅰ類は身部が細長く、先端から両側縁にかけて、連続的に磨耗痕(つぶれや光択が生じているもの)が観察される。先端からの痕跡の長さもⅠA類は0.4〜1.8cmの短いものと、2.2〜5.6cmの長いものがある。ⅠB1類も同様に0.3〜1.3cmの短いものと、1.9〜5.1cmの長いものがある。ⅠB2類は長さ0.3〜1.1cm・幅0.5〜0.9cmの限られた範囲に認められる。

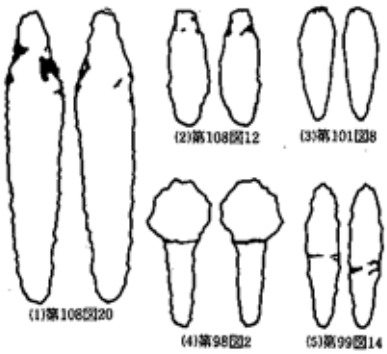
Ⅱ類も身部の先端から両側縁にかけて磨耗痕がみられる。使用される範囲は、長さ0.3〜1.2cm・幅0.6〜1.2cmにまとまるⅡA1類に対して、ⅡA2類は長さ0.5〜1.4cm・幅0.6〜1.2cmの短かいものと、長さ2.0〜4.5cm・幅0.4〜1.5cm長いものにまとまる。頭部の一部に磨耗痕が認められるものが2点(第98図16・22)ある。

ⅡA3類の使用痕はⅡA1・ⅡA2類と異なり、先端の稜に光択が認められる程度である。その範囲も長さ0.6〜2.2cm・幅0.9〜1.9cmのやや分散したものになっている。ⅡB類の磨耗痕は先端部が丸みを呈し光択をおびるほどになる。さらには、第104図22のように先端部の使用痕のある部分と境に段がつき、同心円状の線条痕がみられ完全に丸くなっているものがある(図版71図1)。

ⅡBで特筆すべきことは、その使用痕のはげしいことだけでなく両端部に使用痕が認められることである。その割合は、使用痕が認められる59点中24点の50%におよぶ。使用痕の範囲は、長さ0.3〜2.2cm・幅0.4〜1.7cmに大半のものがみられる。また、これらとかけ離れた長さ2.9〜4.1cm・幅0.8〜1.9cmの大型のものがある。

以上、身部に残された使用痕をみてきたが、その状況から身部の先端が物に対して垂直にあたり、中心軸と回転軸がほぼ一体となって回転運動を行なっていたものと推定され、「穿孔行為」のためのものと考えられる。また、各類ごとにその使用痕の程度や範囲の差異が存在することも確認された。

4アスファルト付着状況



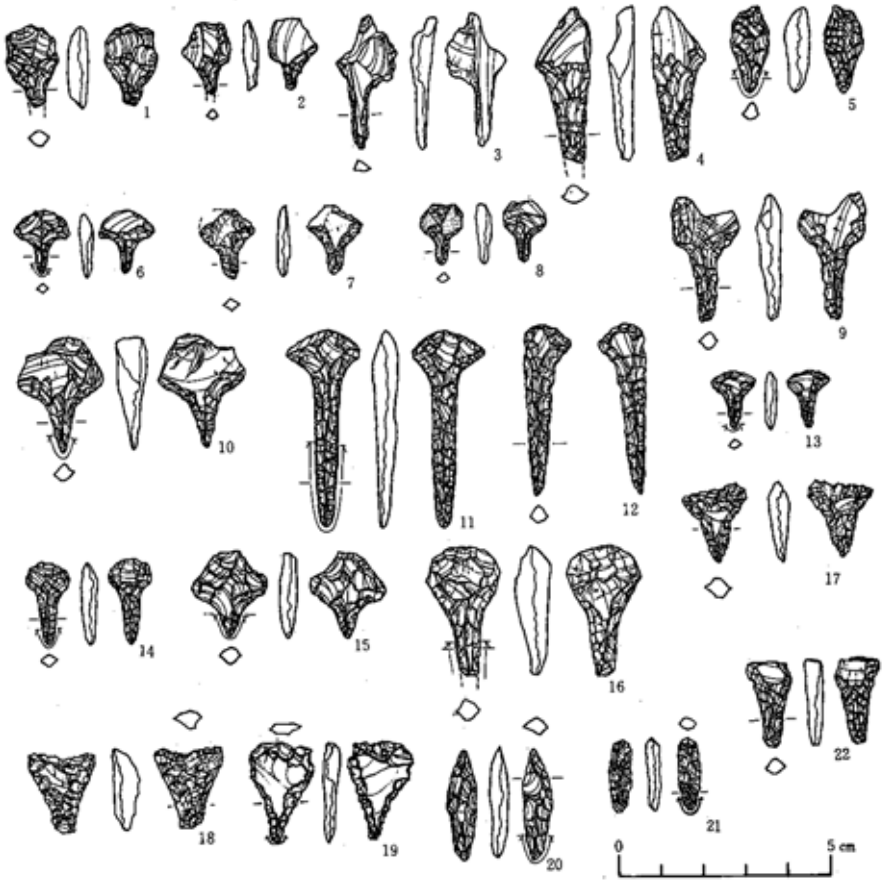
第95図　石錐アスファルト付着状況

5 点についてアスファルトの不着が認められた。その状態を模式化したのが第 95 図である。これらは、2 つのタイプに分けられる。

a タイプ：一方の端部が全面にみられるもの（第 95　図1・2・3・）

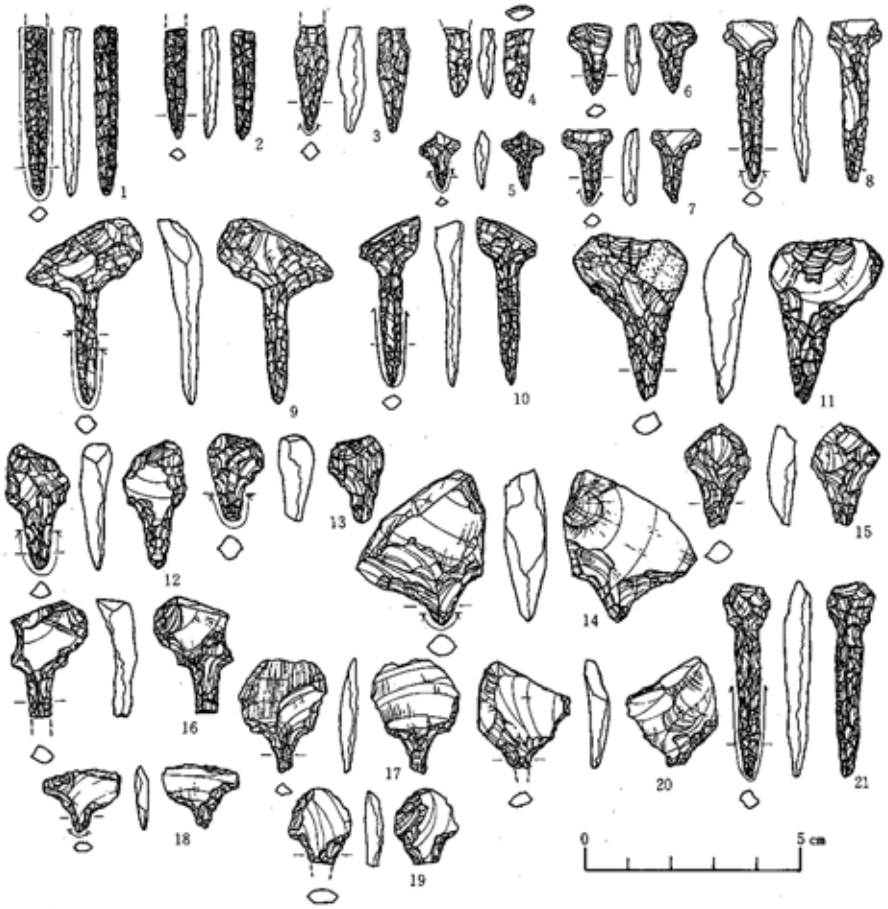
b タイプ：一条のひも状に巡ってみられるもの（第 95 図 4・5）

a タイプの付着していない一方の先端がいずれも磨耗ており、アスファルトの膠着剤と考えならば、



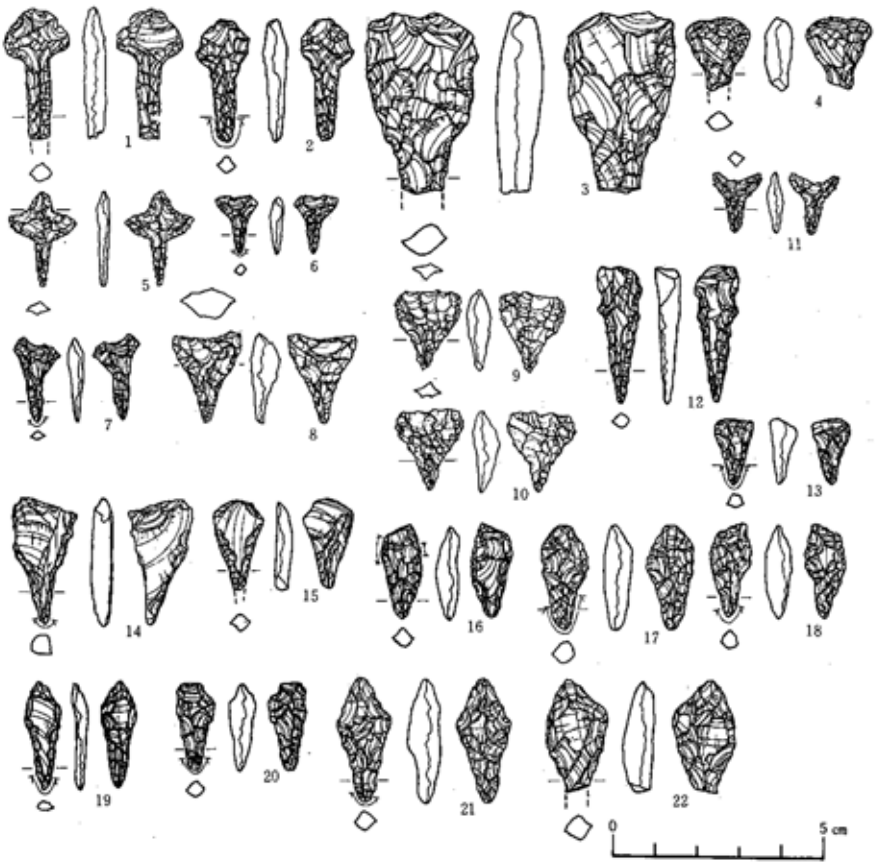
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	厚さ(cm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL39−38	Ⅱ	ⅠA	玉髄	(19.4)	(12.7)	(1.1)	(3.1)	脚部	—		1134	22−12
2	CL39−37	Ⅱ	ⅠA	珪質頁岩	(16.8)	(11.5)	(0.5)	(5.0)	脚部	—		5313	22−13
3	CM39−36	Ⅱ	ⅠA	珪化凝灰岩	31.4	14.4	1.05	12.7	—	—		5876	22−14
4	CL41−19	Ⅱ	ⅠA	珪化凝灰岩	(36.8)	(12.7)	(2.3)	(18.7)	脚部	—		1765	22−15
5	CL41−19	Ⅱ	ⅡB	珪化凝灰岩	(20.5)	9.0	(1.02)	9.5	上端	7.1×6.0		968	22−16
6	CM41−27	Ⅳ	ⅠB1	玉髄	15.0	13.1	0.38	6.1	—	4.2×2.8		1193	22−17
7	CL41−17	Ⅳ	ⅠB1	珪質頁岩	(16.5)	(12.9)	(0.45)	6.8	脚部	5.1×4.1	再加工	4205	22−18
8	CL40−26	Ⅳ	ⅠA	珪質頁岩	14.0	9.7	0.42	4.6	—	3.5×2.9	玉髄化	2982	22−19
9	CL41−17	Ⅳ	ⅠA	珪質頁岩	(29.4)	15.8	(1.6)	(14.3)	脚部	—		4244	22−20
10	CL39−35	Ⅳ	ⅠA	珪化凝灰岩	21.9	20.0	2.55	9.8	—	4.5×3.0	玉髄化	5154	22−21
11	CL39−35	Ⅳ	ⅠB1	珪質頁岩	46.4	16.9	2.0	32.6	—	15.5×4.5		866	22−22
12	CL39−36	Ⅳ	ⅠB1	珪質頁岩	40.7	11.0	1.4	27.3	—	—		567	22−23
13	CL41−18	Ⅳ	ⅠB1	珪化凝灰岩	13.4	10.3	0.3	6.5	—	2.5×1.6		4371	22−24
14	CM41−27	Ⅳ	ⅠB1	玉髄	19.8	10.4	0.6	11.0	—	3.8×2.8		2246	22−25
15	CL41−17	Ⅳ	ⅠB1	珪質頁岩	(20.0)	17.6	(1.0)	5.6	脚部	5.0×5.0	石器の再利用	4196	22−26
16	CL39−35	Ⅳ	ⅠB1	黒色頁岩	(30.4)	17.5	(3.21)	(14.0)	脚部	8.5×5.9		5195	22−27
17	CL41−17	Ⅳ	ⅠB2	黒色頁岩	17.8	15.0	0.9	10.5	—	—		4218	22−28
18	CL41−17	Ⅳ	ⅠB2	珪化凝灰岩	(18.8)	15.8	(1.4)	(6.0)	脚部	—		4228	22−29
19	CL39−36	Ⅳ	ⅡA	珪質頁岩	21.3	13.2	1.0	—	—	1.5×3.0		5222	22−30
20	CL39−36	Ⅳ	ⅡB	黒色頁岩	25.8	6.8	0.75	—	—	10.5×6.2		5230	22−31
21	CL39−36	Ⅳ	ⅡB	黒色頁岩	11.9	5.1	0.35	—	—	8.0×4.9		5218	22−32
22	CL39−35	Ⅳ	ⅡA1	珪質頁岩	(19.5)	(10.4)	(0.7)	(7.7)	—	10.9×5.5		5156	22−33

第96図　石　鏃(1)



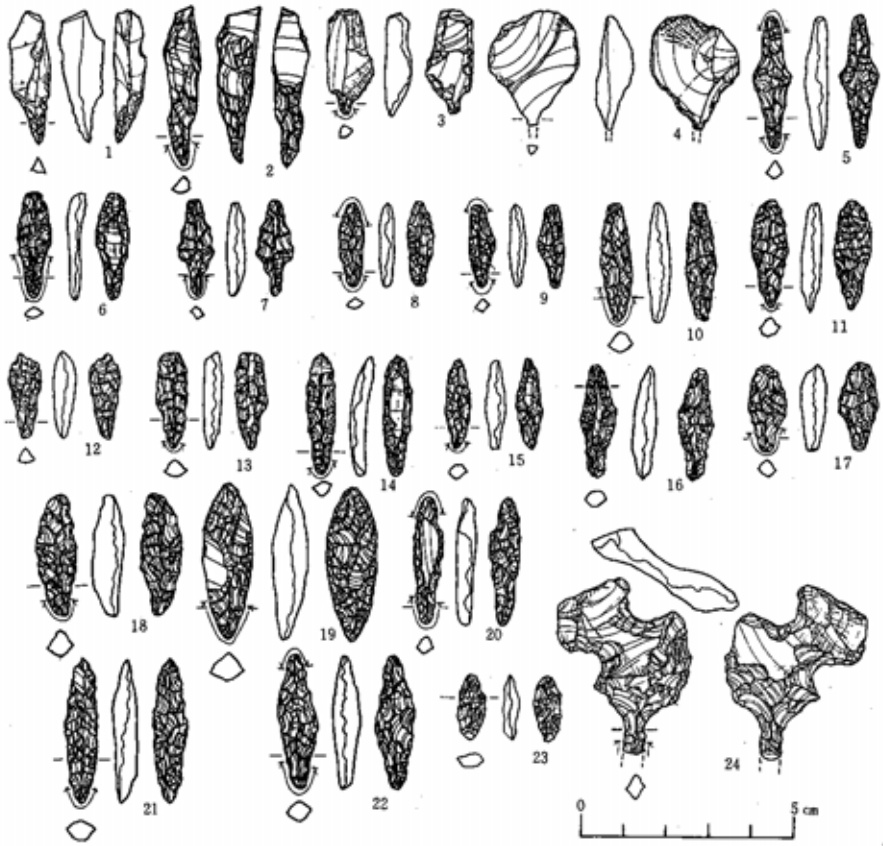
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	背部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL41－18	Ⅳ	－	珪質頁岩	39.2	5.0	1.0	－	上端	39.2 × 5.0		4372	22－34
2	CL41－17	Ⅳ	－	珪質頁岩	29.7	5.0	0.4	－	上端	6.2 × 2.9		4245	22－35
3	CL39－35	Ⅳ	ⅡB	黒色頁岩	(24.0)	7.6	(0.98)	－	上端	3.3 × 2.2		5219	16－13
4	CL39－35	Ⅳ	ⅡA2	珪化凝灰岩	(21.8)	6.5	(0.5)	－	上端	4.8 × 4.7	(玉髄化)	5151	22－36
5	CL39－33	Ⅴ	ⅠB1	黒色頁岩	13.2	9.5	0.28	5.5	－	4.0 × 2.1		5111	22－38
6	CM39－32	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	(16.3)	(10.3)	(0.5)	8.4	頭部	－		912	22－39
7	CL39－31c	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	(17.2)	12.0	(0.4)	(10.3)	縁部	3.2 ×(3.0)		4997	22－40
8	CL40－25	Ⅴ	ⅠA	黒色頁岩	38.0	12.2	1.24	30.3	－	2.8 × 2.2		2908	22－41
9	CL39－31	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	43.0	27.7	3.88	26.4	－	15.1 × 4.8		4920	22－42
10	CL39－31	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	38.6	14.0	1.55	26.5	－	17.3 × 4.8		4921	22－43
11	CM41－26	Ⅴ	ⅠB1	珪質頁岩	(37.5)	26.3	(6.15)	(7.4)	縁部	－		652	22－44
12	CL40－25	Ⅴ	ⅠA	黒色頁岩	29.5	14.5	2.2	11.0	－	11.2 × 6.2		2910	22－45
13	CL39－32 CM39－32	Ⅴ	ⅠB1	珪化凝灰岩	(20.2)	(12.7)	(2.0)	(7.8)	縁部	6.0 × 6.0	再利用 (玉髄化)	5079	22－46
14	CL40－25	Ⅴ	ⅠA	黒色頁岩	35.2	32.0	10.01	5.0	－	5.2 × 5.5	再利用	272	22－47
15	CL41－15	Ⅴ	ⅠA	珪化凝灰岩	(23.5)	(15.4)	(1.8)	(6.0)	縁部	－		3945	22－48
16	CL39－37 CM39－32	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	(27.4)	17.4	(2.5)	(10.2)	縁部	－		5077	22－49
17	CL40－25	Ⅴ	ⅠA	珪化凝灰岩	(26.0)	20.4	(1.57)	(4.0)	縁部	－	(玉髄化)	2909	22－50
18	CL41－16	Ⅴ	ⅠA	珪化凝灰岩	(34.7)	18.0	0.6	(4.2)	縁部	(4.5)× 4.5	再利用 (玉髄化)	4303	23－1
19	CL40－23	Ⅴ	ⅠA	珪質頁岩	(17.3)	14.7	(1.0)	(3.0)	縁部	－	(玉髄化)	2858	23－2
20	CL41－16	Ⅴ	ⅠA	珪化凝灰岩	(23.8)	21.0	(1.95)	(2.0)	縁部	－		5724	22－51
21	CL40－25	Ⅴ	ⅠB1	黒色頁岩	45.0	10.7	1.8	33.0	－	25.5 × 5.2		240	23－3

第97図　石　錐(2)



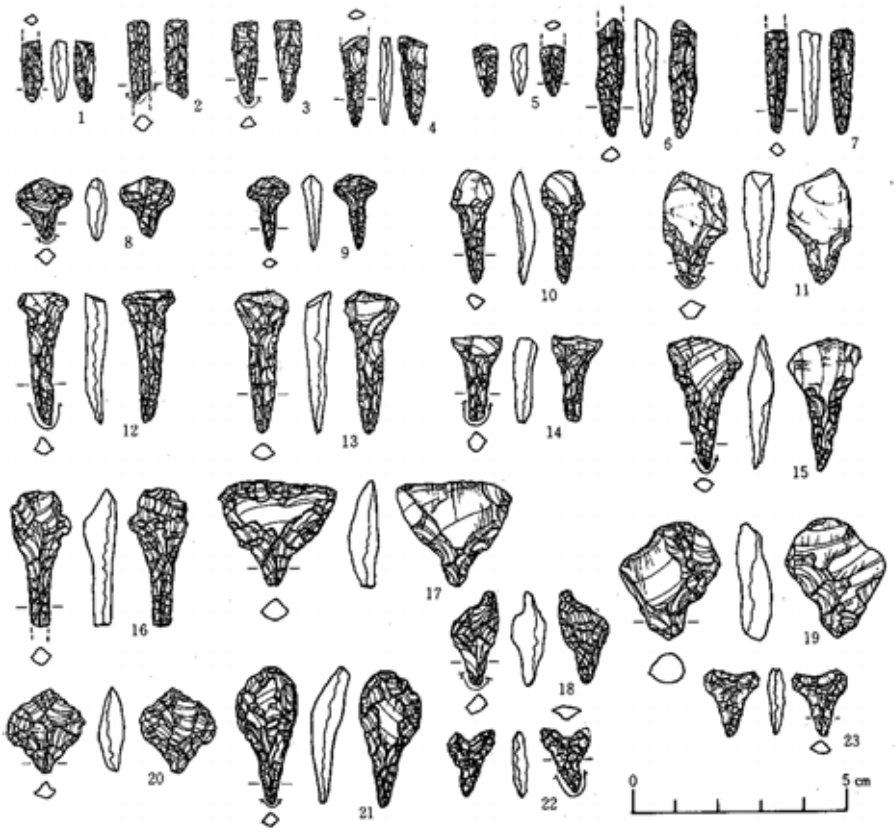
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL41－15	V	I B1	珪質頁岩	(31.0)	15.3	(1.5)	(16.0)	縁部	－		3970	23－4
2	CM41－25	V	I A	黒色頁岩	(28.4)	12.3	(1.3)	(16.2)	縁部	5.2×4.1	アスファルト	3462	23－5
3	CM40－8	V	I B1	珪質頁岩	(42.3)	26.3	(11.5)	(4.3)	縁部	－		72	23－6
4	CL39－31	V	I B1	玉髄	(36.6)	25.0	(1.6)	(3.7)	縁部	－		1019	23－7
5	CM41－25	V	I B1	黒色頁岩	23.8	16.1	0.48	11.2	－	－		3461	23－8
6	CL41－15	V	I B2	珪化凝灰岩	(13.3)	(9.6)	(0.3)	7.3	頭部	3.5×1.7	(玉髄化)	3949	23－9
7	CM41－25	V	I B2	珪化凝灰岩	(20.0)	(11.2)	(0.5)	10.3	頭部	4.2×3.0	再加工・(玉髄化)	3458	23－10
8	CL41－16	V	I B2	珪化凝灰岩	(21.2)	(20.1)	(1.4)	(8.9)	縁部	－	再加工	4106	23－11
9	CM41－25	V	I B2	珪質頁岩	(18.5)	15.5	(1.08)	(5.0)	縁部	－		3459	23－12
10	CL40－24	V	I B2	黒色頁岩	18.7	16.2	1.15	6.5	－	－	焼キハダ	2804	23－13
11	CM41－25	V	I B2	珪化凝灰岩	14.1	11.8	2.0	7.5	－	－	(石英安山岩質)	4492	23－14
12	CL39－31	V	II A1	珪化凝灰岩	32.3	10.6	1.6	18.0	－	－		4922	23－15
13	CM41－25	V	II A1	黒色頁岩	15.5	9.3	0.68	5.3	－	6.2×4.1		3455	23－16
14	CM41－25	V	II A1	黒色頁岩	29.4	15.3	2.0	8.0	－	2.2×3.0		3464	23－17
15	CL41－26	V	II A1	珪質頁岩	(21.0)	12.0	(0.9)	(5.2)	縁部	－		1243	23－18
16	CL41－26	V	II A1	黒色頁岩	22.0	9.5	1.08	－	－	－	頭部の一部に摩耗痕	4091	23－19
17	CM41－25	V	II A2	黒色頁岩	24.7	11.3	1.65	－	－	7.5×5.5		325	23－20
18	CL39－32 CM39－32	V	II A2	珪化凝灰岩	22.1	10.0	1.2	－	－	4.9×3.9		5080	23－21
19	CM41－26	V	II A2	黒色頁岩	25.0	8.3	0.6	－	－	5.1×3.5		4486	23－22
20	CL40－24	V	II A2	珪質頁岩	20.4	8.6	0.89	－	－	4.8×4.0		2807	23－23
21	CL41－15	V	II A2	珪質頁岩	29.1	13.0	2.25	－	－	3.0×4.5		3971	23－24
22	CL39－31	V	II A2	黒色頁岩	(30.0)	14.5	(2.85)	(3.3)	縁部	－	頭部側縁に摩耗痕	4925	23－25

第98図　石　鏃(3)



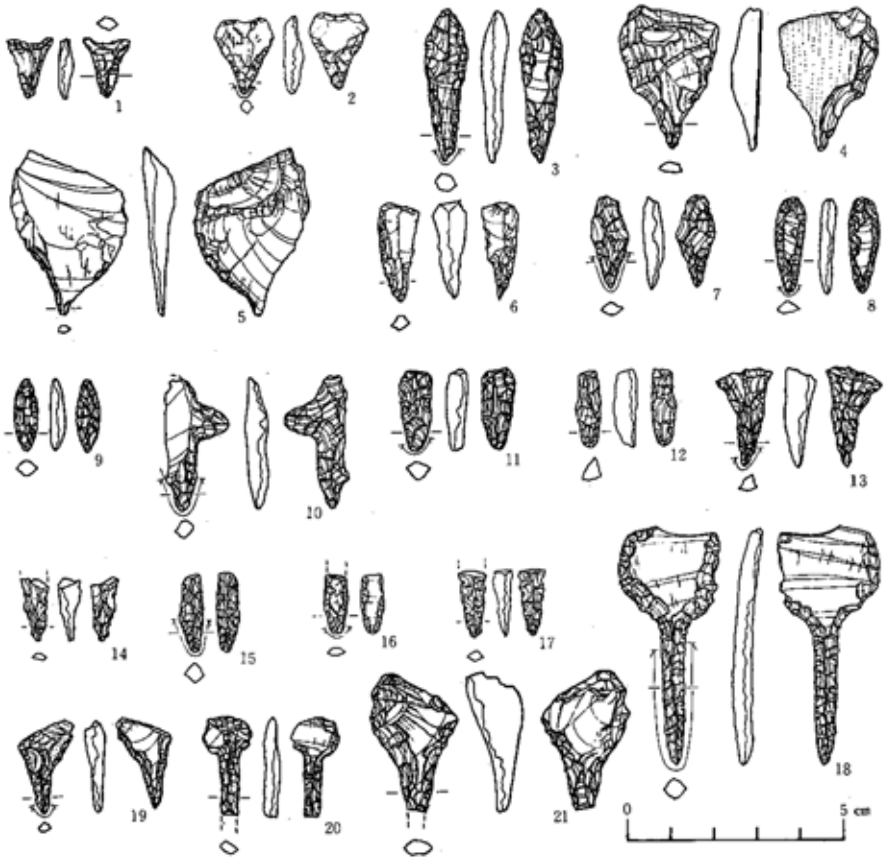
No	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚さ(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL40−25	V	IIA3	珪質頁岩	31.5	10.5	1.6	11.1	—	—		6733	23−26
2	CM41−25	V	IIA3	珪質頁岩	36.7	9.5	2.7	8.0	—	6.5×4.3		3465	23−27
3	CL39−31	V	IIA3	黒色頁岩	(24.5)	11.5	(1.4)	(3.3)	縦部	1.5×2.2		4924	23−28
4	CL41−16	V	IIA3	黒色頁岩	(26.7)	21.0	(2.27)	(1.2)	縦部	—		5800	23−30
5	CM41−25	V	IIB	珪質頁岩	31.0	8.6	0.9	—	—	上3.1×3.5 下3.1×2.8	両端摩耗	3452	23−31
6	CL41−35	V	IIB	黒色頁岩	24.8	7.7	0.65	—	—	8.9×4.9		3959	23−32
7	CL39−31	V	IIB	珪化凝灰岩	(22.0)	8.6	(0.65)	—	上端	4.7×3.0		4844	23−33
8	CL41−15	V	IIB	黒色頁岩	19.5	5.9	0.45	—	—	上3.2×3.9 下3.0×3.5	両端摩耗	3957	23−34
9	CL41−15	V	IIB	黒色頁岩	(19.4)	6.3	(0.4)	—	上・下端	上4.0×3.9 下2.8×2.5	両端摩耗、上下端再利用	3956	23−35
10	CL40−24	V	IIB	黒色頁岩	(27.6)	7.2	(1.08)	—	上端	6.8×4.9		3805	23−36
11	CL39−31	V	IIB	黒色頁岩	25.2	8.2	0.9	—	—	2.9×3.1		4901	23−37
12	CL39−31	V	IIB	珪化凝灰岩	20.0	7.2	0.8	—	—	—	(玉髄化)	4897	23−38
13	CL39−31	V	IIB	珪質凝灰岩	22.4	7.5	0.79	—	—	2.1×2.9		4899	23−39
14	CL41−15	V	IIB	珪質頁岩	28.0	6.6	0.81	—	—	5.0×4.2	中央部に一条のアスファルト痕	3972	23−40
15	CL40−25	V	IIB	珪質頁岩	20.9	6.4	0.57	—	—	3.5×3.1		3594	23−41
16	CL40−25	V	IIB	黒色頁岩	26.2	8.2	0.98	—	—	1.5×3.5		6133	23−47
17	CM41−25	V	IIB	珪質頁岩	(20.2)	8.7	(1.03)	—	下端	5.0×4.1	再利用	3454	23−45
18	CL39−31b	V	IIB	珪質頁岩	38.3	9.6	1.9	—	—	4.0×5.0		5538	23−46
19	CL41−16	V	IIB	珪質頁岩	36.2	11.4	3.08	—	—	10.0×8.5		653	23−44
20	CL41−15	V	IIB	珪質頁岩	29.7	7.0	1.0	—	—	上4.3×4.8 下8.3×4.2	両端摩耗	3974	23−43
21	CL39−31	V	IIB	黒色頁岩	33.5	7.8	1.5	—	—	3.8×3.6		4923	23−49
22	CL40−23	V	IIB	黒色頁岩	33.2	9.0	1.6	—	—	上3.3×3.1 下7.2×8.2	両端摩耗	3864	23−48
23	CM41−25	V	IIB	黒色頁岩	(33.0)	0.42	(0.42)	—	下端	—		3456	23−50
24	CL・M39−32	V	—	珪質頁岩	(34.5)	32.5	(7.1)	—	縦部		石鏃の再加工	5076	23−42

第99図　石　錐(4)



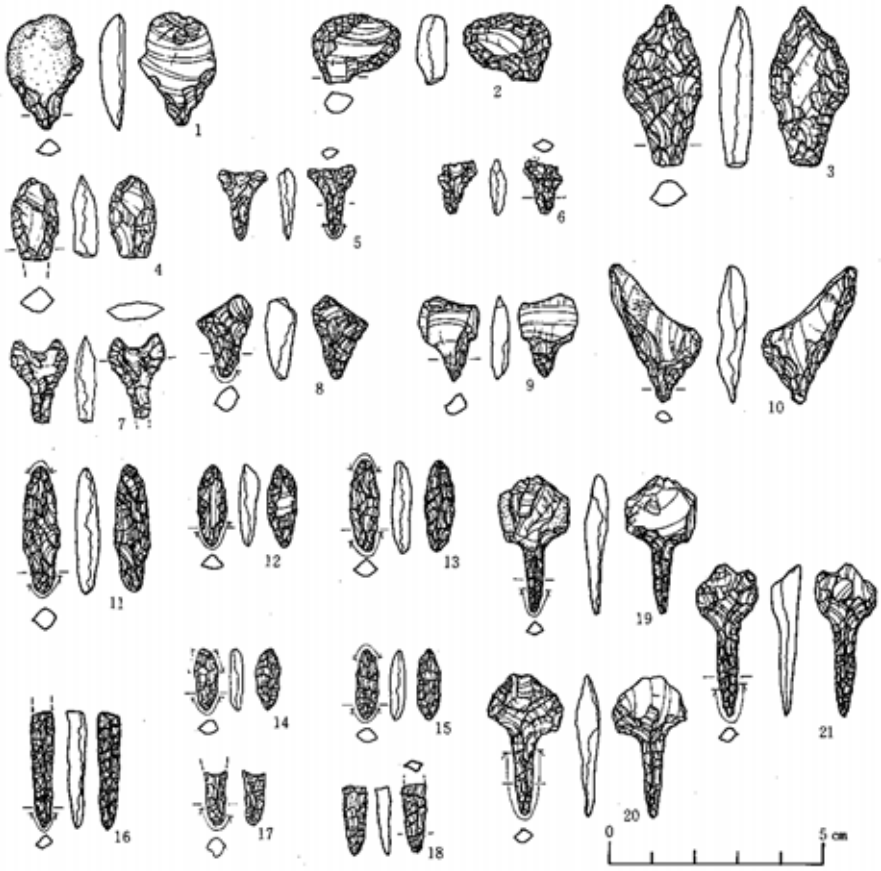
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用度	備考	登録番号	図版
1	CL40−24	V	—	珪質頁岩	(14.2)	4.5	(0.3)	—	上端	3.0×3.0		2808	23−51
2	CL39−31	V	—	珪化礫灰岩	(17.4)	5.0	(0.4)	—	上・下端	3.0×4.0	再利用	4926	23−53
3	CM41−23	V	—	珪質頁岩	(19.0)	5.8	(0.28)	6.0	上端	2.2×2.1		3600	23−54
4	CL41−16	V	—	珪質頁岩	(20.5)	(6.9)	(0.38)	—	上端	—		4119	23−52
5	CL・M39−32混	V	—	黒色頁岩	(11.5)	5.2	(0.2)	—	上端	—		5070	23−55
6	CL39−31	V	—	黒色頁岩	(27.3)	6.2	(0.68)	—	上端	—		4927	23−56
7	CL40−24	V	—	黒色頁岩	(24.0)	5.6	(0.5)	—	上端	3.0×3.1		2806	23−57
8	CL39−29c	VI	ⅠA	玉髄	14.0	12.3	0.69	5.8	—	2.5×3.2	(珪化礫灰岩)	5012	23−58
9	CL41−14	VI	ⅠB1	珪化礫灰岩	17.0	9.8	0.45	10.1	—	—		3899	23−59
10	CL41−14	VI	ⅠA	珪化礫灰岩	26.2	9.7	0.8	17.0	—	—		3898	23−60
11	CL39−30	VI	ⅠA	珪質頁岩	(26.5)	14.2	(2.55)	(9.5)	縁部	3.2×5.5	再利用	6065	23−61
12	CL41−12	VI	ⅠA	珪質頁岩	30.1	11.8	1.2	24.8	—	7.8×4.1		3835	23−62
13	CL39−29	VI	ⅠA	黒色頁岩	33.0	12.3	1.5	21.8	—	—		4796	23−63
14	CL39−28	VI	ⅠA	珪化礫灰岩	(19.6)	11.5	(0.75)	(12.7)	縁部	5.0×4.0		4765	23−64
15	CL41−12	VI	ⅠA	珪質頁岩	30.8	12.2	1.7	15.6	—	4.8×4.0		3834	23−65
16	CL40−20	VI	ⅠB1	珪化礫灰岩	(31.6)	13.8	(1.95)	(15.3)	縁部	—	(玉髄化)	3261	23−66
17	CL39−29c	VI	ⅠB1	珪質頁岩	(24.4)	27.2	(3.1)	(7.0)	縁部	—		5016	23−67
18	CL41−14	VI	ⅠB1	珪化礫灰岩	22.4	10.5	1.45	6.0	—	上2.0×2.5 下4.1×3.8	再端摩耗、(玉髄化)	3900	23−68
19	CM39−31	VI	ⅠB1	珪質頁岩	(27.7)	23.4	(3.8)	6.0	縁部	—	再加工	5387	23−69
20	CL39−29d	VI	ⅠB1	黒色頁岩	(19.7)	18.0	(1.63)	(2.8)	縁部	—		4818	23−70
21	CM40−7	VI	ⅠB1	珪質頁岩	32.0	14.0	2.5	6.0	—	2.1×2.3		894	23−71
22	CL40−19	VI	ⅠB2	珪質頁岩	15.8	10.9	0.35	6.0	—	5.2×4.0		3238	23−72
23	CM40−7	VI	ⅠB2	珪質頁岩	15.1	12.8	0.52	7.6	—	4.2×4.1		2442	23−73

第100図 石 錐(5)



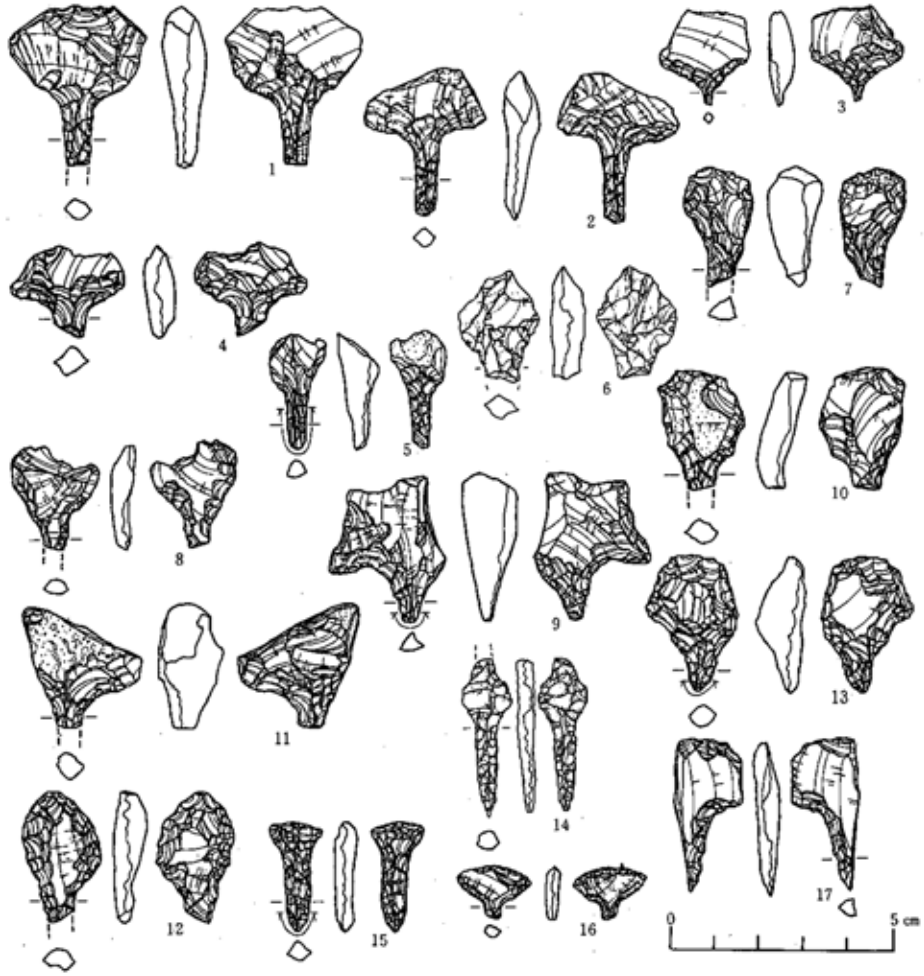
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL39－30	Ⅵ	ⅠB1	黒色頁岩	13.5	15.8	0.35	8.9	－	－		4591	23－74
2	CL41－13	Ⅵ	ⅡA2	珪質頁岩	17.5	13.8	0.9	－	－	3.0×3.1		1184	23－75
3	CM41－21	Ⅵ	ⅡA2	珪質頁岩	35.4	10.0	1.79	17.5	－	3.0×3.2		3662	23－76
4	CL40－19	Ⅵ	ⅡA3	黒色頁岩	(33.0)	22.4	(4.03)	5.6	錐部	－		5885	23－77
5	CL39－28	Ⅵ	ⅡA3	珪化頁岩	38.4	26.6	4.0	3.3	－	－		1811	23－78
6	CL41－14	Ⅵ	ⅡA3	玉髄	22.5	9.0	1.1	－	－	－		3893	23－79
7	CL40－22	Ⅵ	ⅡB	黒色頁岩	(21.0)	8.8	(0.7)	－	上端	7.0×4.2		5903	23－80
8	CL41－14	Ⅵ	ⅡB	珪化頁岩	22.0	6.8	0.5	－	－	3.8×3.8	(玉髄)	3892	23－81
9	CL39－29c	Ⅵ	ⅡB	珪質頁岩	16.6	6.3	0.3	－	－	－		5013	23－82
10	CL39－29d	Ⅵ	－	珪質頁岩	(9.7)	(30.5)	(1.5)	－	上端	4.5×4.2		4519	23－83
11	CL39－29c	Ⅵ	－	玉髄	(18.4)	7.7	(0.7)	－	上端	4.5×4.8		5017	23－84
12	CL40－22	Ⅵ	－	玉髄	(17.9)	6.0	(0.65)	－	上端	－		5907	23－85
13	CL41－13	Ⅵ	－	珪化頁岩	(23.2)	(13.0)	(1.18)	－	上端	2.5×2.0		3858	23－86
14	CL41－14	Ⅵ	－	珪化頁岩	(12.5)	(6.2)	(0.3)	－	上端	－	(玉髄)	3896	23－87
15	CL39－30	Ⅵ	－	珪化頁岩	(18.0)	5.2	(0.42)	－	上端	7.2×4.5		4530	23－88
16	CM40－7	Ⅵ	－	珪化頁岩	(13.5)	5.2	(0.15)	－	上端	3.2×3.5		2448	23－89
17	CL41－14	Ⅵ	－	珪質頁岩	(15.5)	(6.2)	(0.3)	－	上端	－		3897	23－90
18	CM41－17b	Ⅶ	ⅠA	珪質頁岩	55.7	23.6	3.5	31.9	－	28.5×5.0	先端摩耗	3360	23－91
19	CL41－9	Ⅶ	ⅠA	珪化頁岩	21.0	13.7	0.7	6.6	－	2.5×2.9		3778	23－92
20	CL39－27	Ⅶ	ⅠB1	珪化頁岩	(23.2)	11.0	(0.7)	(12.5)	錐部	－	(玉髄化)	4751	23－93
21	CM41－20	Ⅶ	ⅠA	珪質頁岩	(33.0)	19.3	(4.73)	(11.3)	錐部	－		834	23－94

第101図　石　錐(6)



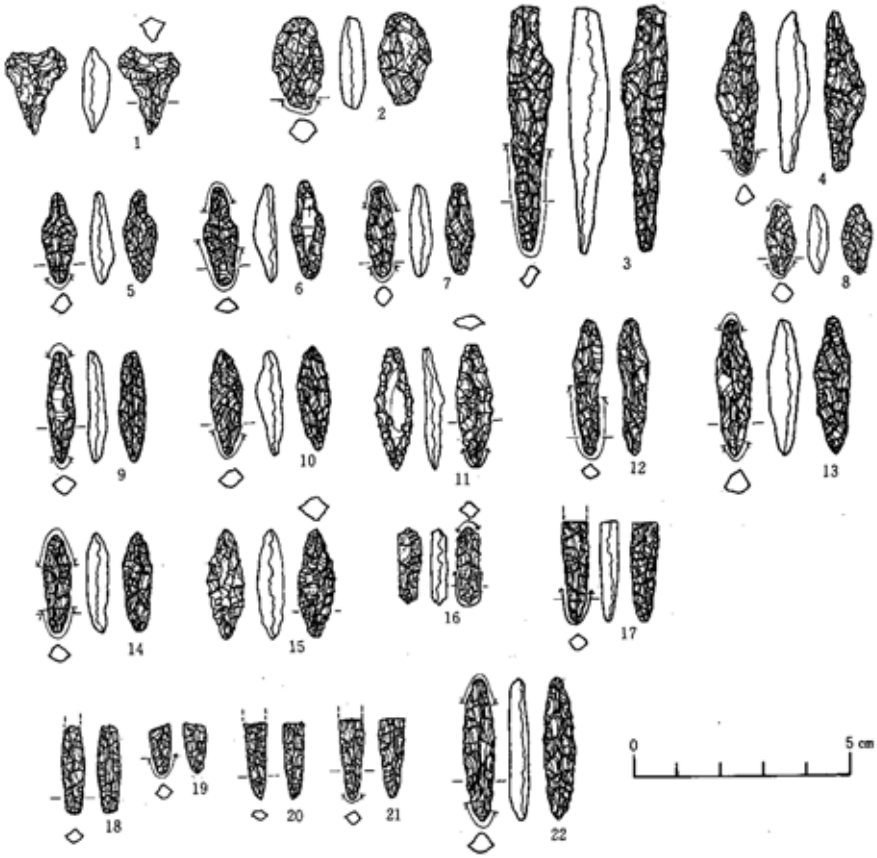
No	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	身部(cm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL41－10・11	Ⅶ	ⅠA	珪化頁岩	(26.8)	18.3	(2.98)	(3.7)	脚部	－		3803	23－95
2	CL41－8	Ⅶ	ⅠB	珪化頁岩	(17.0)	20.8	(2.2)	(1.6)	脚部	－		3771	23－96
3	CL40－17	Ⅶ	ⅠB	珪質頁岩	(37.5)	18.0	(5.12)	(5.6)	脚部	－		770	23－97
4	CL39－25	Ⅶ	ⅠB	珪化頁岩	(19.0)	10.5	(1.3)	(2.5)	脚部	－		4583	23－98
5	CL39－24	Ⅶ	ⅠB2	珪質頁岩	16.2	11.3	0.32	9.4	－	3.0×2.8		325	23－99
6	CL39－25	Ⅶ	ⅠB2	珪質頁岩	(12.5)	(8.7)	(0.25)	(8.7)	脚部 脚部	－	焼キハジケ	4580	23－100
7	CL41－11	Ⅶ	ⅠB2	珪質頁岩	(19.5)	13.5	(0.84)	(8.0)	脚部	－		3810	23－101
8	CL41－11	Ⅶ	ⅡA	珪質頁岩	(39.2)	12.9	(1.35)	(6.0)	脚部	3.5×4.0	再利用，(玉髄化)	3811	23－102
9	CL41－8	Ⅶ	ⅡA3	珪化頁岩	18.0	13.8	0.8	7.3	－	－	(玉髄化)	5762	23－103
10	CL41－10	Ⅶ	ⅡA3	珪質頁岩	34.3	15.2	2.55	2.6	－	－		3793	23－104
11	CL39－24	Ⅶ	ⅡB	黒色頁岩	29.6	8.4	1.5	－	－	上端3.8×4.2 下4.1×4.5	両端摩耗	4656	23－105
12	CL40－16	Ⅶ	ⅡB	珪化頁岩	18.7	6.7	0.55	－	－	3.2×3.5	(玉髄化)	4421	23－106
13	CM41－20	Ⅶ	ⅡB	珪化頁岩	21.3	6.6	0.65	－	－	上2.2×3.2 下3.3×4.1	両端摩耗	3385	23－107
14	CL39－25	Ⅶ	ⅡB	珪化頁岩	14.4	5.7	0.25	－	－	上2.8×5.0 下4.9×4.3	両端摩耗	4676	23－108
15	CL41－10	Ⅶ	ⅡB	珪質頁岩	16.0	5.5	0.3	－	－	上2.7×4.2 下3.0×4.7	両端摩耗	3794	23－109
16	CL41－8	Ⅶ	－	黒色頁岩	(27.0)	(5.0)	(0.55)	－	上端	3.5×3.2		3770	23－110
17	CL40－18	Ⅶ	－	珪質頁岩	(12.5)	(5.2)	(0.2)	－	上端	4.0×3.8		3223	23－111
18	CM40－6	Ⅶ	－	珪化頁岩	(15.8)	(5.8)	(0.3)	－	上端	－		1192	23－112
19	CM41－14	Ⅷ	ⅠA	珪質頁岩	32.0	16.5	1.65	15.5	－	3.6×2.5		1752	24－1
20	CM40－4d	Ⅷ	ⅠA	珪化頁岩	35.3	14.4	1.7	19.5	－	14.8×4.8		1701	24－3
21	CL41－5	Ⅷ	ⅠB1	珪質頁岩	33.0	17.2	1.8	17.6	－	6.8×3.2		5533	24－2

第102図　石　錐(7)



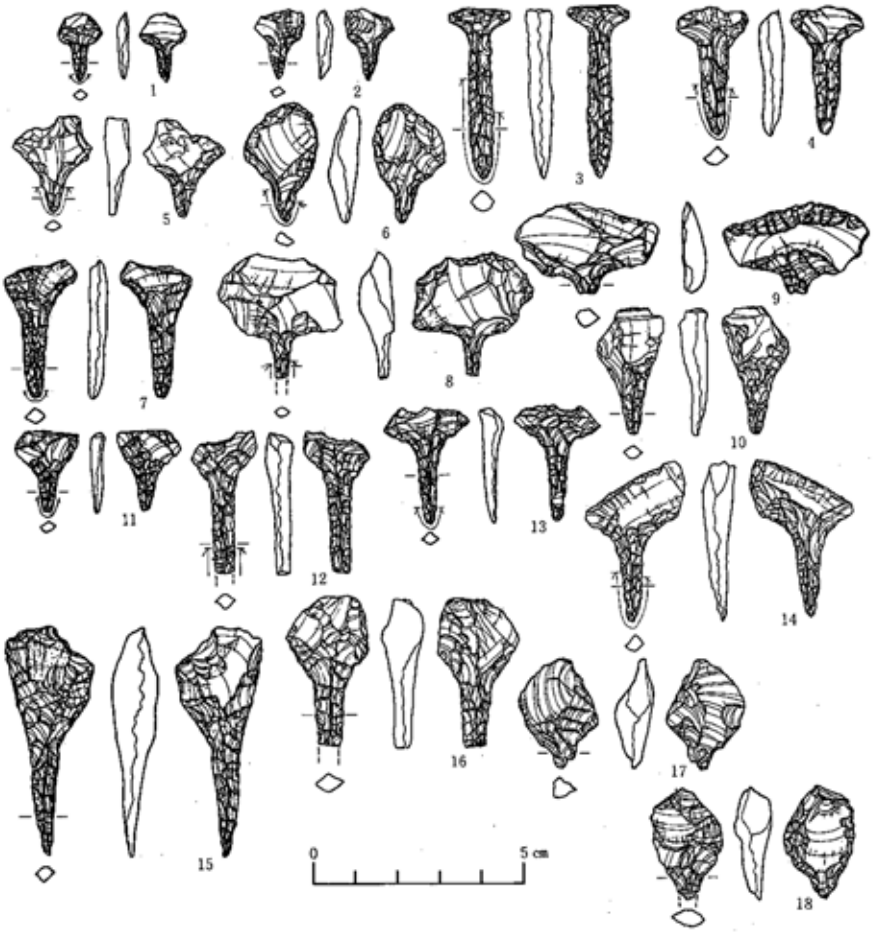
No	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL39－23	縄	ⅠA	珪質頁岩	(36.0)	30.5	(7.4)	(13.5)	縦部	－		4713	24－4
2	CL40－7	縄	ⅠA	珪化凝灰岩	(33.6)	27.4	(3.72)	(16.5)	縦部	－		5048	24－5
3	CL40－5	縄	ⅠA	珪質頁岩	(21.0)	21.0	(1.95)	(2.8)	縦部	－		3016	24－6
4	CM41－16	縄	ⅠA	珪化凝灰岩	(21.1)	25.7	(2.5)	(5.2)	縦部	－	(玉髄化)	5535	24－7
5	CL39－23	縄	ⅠA	珪化凝灰岩	(21.5)	11.9	(1.5)	(10.6)	縦部	7.5×4.0	(玉髄化)	1195	24－8
6	CL40－13	縄	ⅠB1	珪質頁岩	(25.2)	18.1	(2.62)	(5.0)	縦部	－		6142	24－9
7	CM41－12	縄	ⅠA	珪化凝灰岩	(27.2)	15.5	(4.49)	(4.6)	縦部	－	(玉髄化)	5554	24－10
8	CM40－4d	縄	ⅠA	珪質頁岩	(22.0)	20.0	(1.57)	(7.5)	縦部	－		1202	24－11
9	CL40－7	縄	ⅠB1	珪化凝灰岩	(32.6)	(26.0)	(7.35)	(9.4)	縦部	1.7×3.2		3050	24－12
10	CL39－20	縄	ⅠA	珪化凝灰岩	(27.3)	18.0	(3.4)	(3.4)	縦部	－		4640	24－13
11	CL39－23	縄	ⅠA	玉髄	(27.8)	28.0	(8.35)	(2.8)	縦部			5956	24－14
12	CL39－13	縄	ⅠB1	珪化凝灰岩	(29.5)	17.8	(3.4)	(5.0)	縦部		(玉髄化)	4608	24－15
13	CL39－11	縄	ⅠB1	珪質頁岩	(30.7)	20.4	(4.7)	(8.5)	縦部	3.1×5.0	再利用	4583	24－16
14	CL40－5	縄	ⅠB1	珪質頁岩	(34.5)	11.0	(1.0)	20.5	上端	－		146	24－17
15	CM41－12・13	縄	ⅠB1	珪質頁岩	24.8	11.8	1.1	17.2	－	4.2×4.2		3321	24－18
16	CL39－12	縄	ⅠB1	珪化凝灰岩	(12.0)	16.6	(0.42)	(3.0)	縦部	－		4596	24－19
17	CL39－23	縄	ⅠB1	珪質頁岩	34.5	14.8	2.1	16.7	－	－		1350	24－20

第103図　石　錐(8)



No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CL39－16	縄	I B2	珪化頁岩	20.5	14.2	0.7	12.0	—	—		4616	24－21
2	CM39－13	縄	II A2	珪化頁岩	(21.5)	12.1	(1.62)	—	鏃部	1.5×4.8		6063	24－22
3	CL41－5	縄	II B	珪質頁岩	(57.2)	10.4	(4.18)	—	上端	23.0×7.0		775	24－24
4	CL40－11	縄	II B	珪質頁岩	37.2	9.5	2.15	—	—	5.9×4.5		6062	24－25
5	CL40－12－13	縄	II B	珪化頁岩	21.0	8.0	0.6	—	—	4.0×4.2		3113	24－26
6	CM41－12b	縄	II B	安山岩	22.6	6.9	0.65	—	—	上4.1×3.5 下5.0×3.6	両端磨耗	3680	24－27
7	CL40－12・13	縄	II B	珪化頁岩	21.0	6.7	0.65	—	—	上2.9×4.1 下2.5×3.1	両端磨耗	3115	24－28
8	CM39－25	縄	II B	珪質頁岩	16.0	6.9	0.4	—	—	上3.1×3.8 下3.2×3.0	両端磨耗	5362	24－29
9	CL39－19	縄	II B	黒色頁岩	25.8	6.2	0.73	—	—	上2.5×3.2 下1.3×2.2	両端磨耗	5604	24－30
10	CM40－4 d	縄	II B	珪化頁岩	24.0	7.4	0.9	—	—	3.5×3.1		2393	24－31
11	CL40－11	縄	II B	黒色頁岩	(28.5)	8.3	(0.8)	—	上端	4.2×4.1		3135	24－32
12	CM41－16	縄	II B	珪質頁岩	31.8	7.2	1.0	—	—	14.5×5.2		387	24－33
13	CL39－21	縄	II B	珪質頁岩	(31.5)	8.1	(1.7)	—	下端	13.5×4.0 下4.4×2.6	両端磨耗	4645	24－34
14	CM41－12	縄	II B	珪化頁岩	22.6	6.5	0.75	—	—	上7.5×5.5 下5.1×4.2	両端磨耗	5555	24－35
15	CL39－16	縄	II B	黒色頁岩	25.2	8.5	1.2	—	—	—		4630	24－36
16	CL40－7	縄	II B	珪化頁岩	17.5	5.5	0.4	—	—	上1.7×4.5 下2.5×4.8	両端磨耗	3049	24－23
17	CL40－11	縄	—	珪質頁岩	(23.0)	(6.2)	(0.7)	—	上端	7.5×4.1		3139	24－37
18	CL39－14	縄	II B	珪質頁岩	(20.2)	5.0	(0.3)	—	上・下端	—		4777	24－38
19	CL40－5	縄	—	珪質頁岩	(11.8)	(4.8)	(0.18)	—	上端	4.8×3.8		3617	24－39
20	CM41－9	縄	—	珪化頁岩	(17.7)	(4.7)	(0.15)	—	上端	—	(玉髄化)	3626	24－40
21	CM40－4 d	縄	—	珪質頁岩	(18.2)	(5.7)	(0.33)	—	上端	2.5×2.7		1203	24－41
22	CM41－6	縄	II B	珪質頁岩	32.7	7.4	1.18	—	—	上7.6×4.8 下4.5×4.0	両端磨耗	1684	24－42

第104図　石　鏃(9)

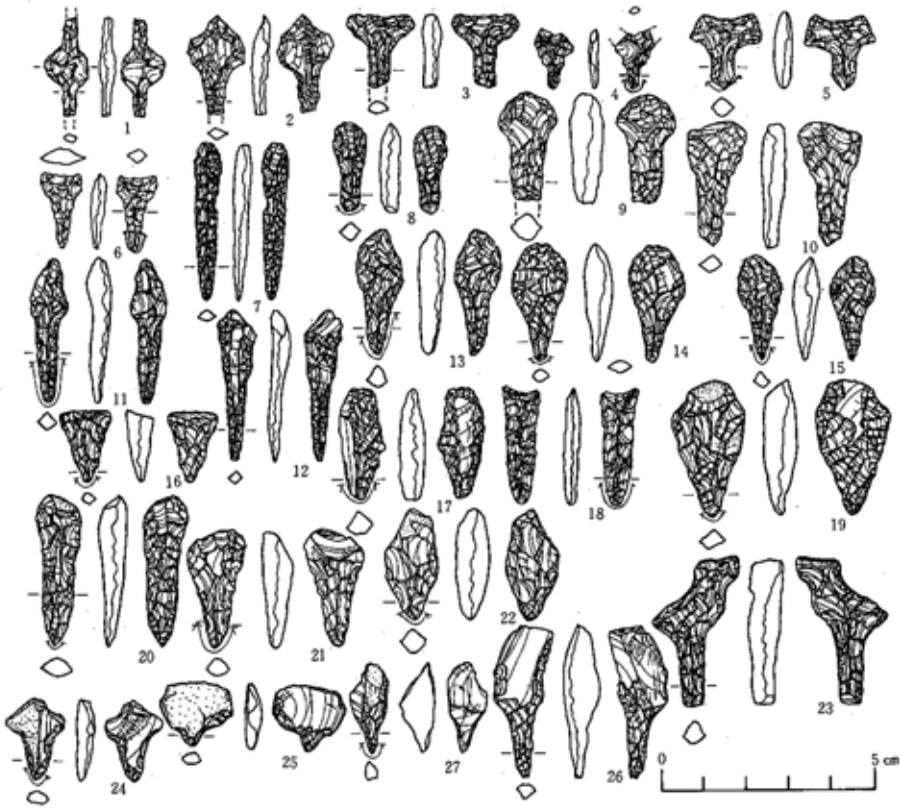


No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	表採	不明	I A	珪化凝灰岩	16.1	10.7	0.32	7.8	—	1.2 ×2.1		5687	24−43
2	CM42−8b	不明	I A	珪質頁岩	16.4	11.7	0.42	7.4	—	2.5 ×2.1		2609	24−44
3	CM43−ミゾ	不明	I A	珪化凝灰岩	49.4	34.3	1.78	34.0	—	25.0 ×5.8		1748	24−45
4	CK38−北10	不明	I A	黒色頁岩	30.3	16.6	1.4	20.0	—	11.8 ×5.3		689	24−46
5	CL47−3	不明	I A	珪質頁岩	23.2	18.7	1.5	7.7	—	5.2 ×4.0		1146	24−47
6	CK38−東10	不明	I A	碧玉	28.3	17.8	2.6	6.2	—	6.2 ×4.7		1965	24−48
7	BC49−2	不明	I A	珪質頁岩	(31.7)	17.3	(1.3)	(18.5)	両脚	2.6 ×3.2		107	24−49
8	CK39−6	不明	I B1	黒色頁岩	(29.5)	29.7	(4.5)	(8.5)	縦部	(2.8)×2.8		1990	24−50
9	CK40−2	不明	I B1	珪質頁岩	(21.4)	33.7	(2.98)	(3.2)	縦部	—		86	24−51
10	BA53−1	不明	I A	珪化凝灰岩	(29.7)	15.0	(2.1)	(10.0)	縦部	—		987	24−55
11	CK38−1	不明	I A	珪化凝灰岩	(19.0)	15.3	(0.65)	(8.4)	縦部	2.5 ×2.5		671	24−52
12	CM42−7	不明	I A	玉髄	(33.2)	15.4	(1.69)	(22.0)	縦部	(4.5)×4.5		2521	24−53
13	CM42−5	不明	I A	黒色頁岩	27.0	20.0	1.1	16.0	—	4.1 ×3.1	焼キハジケ	2480	24−54
14	CM40−3	不明	I A	珪質頁岩	37.8	25.8	3.4	17.5	—	10.5 ×4.0	(玉髄化)	5361	24−56
15	CM42−9	不明	I B1	黒色頁岩	53.6	19.4	6.95	19.6	—	—		768	24−57
16	CL42−6	不明	I B1	珪質頁岩	(35.2)	19.1	(3.85)	(15.4)	縦部	—		5429	24−58
17	表採	不明	I A	珪質頁岩	(25.4)	17.7	(3.4)	(5.2)	縦部	—		5658	24−59
18	CM42−9	不明	I A	珪質頁岩	(36.5)	16.3	(2.7)	(6.1)	縦部	—		2635	24−60

第105図　石　鏃(1)

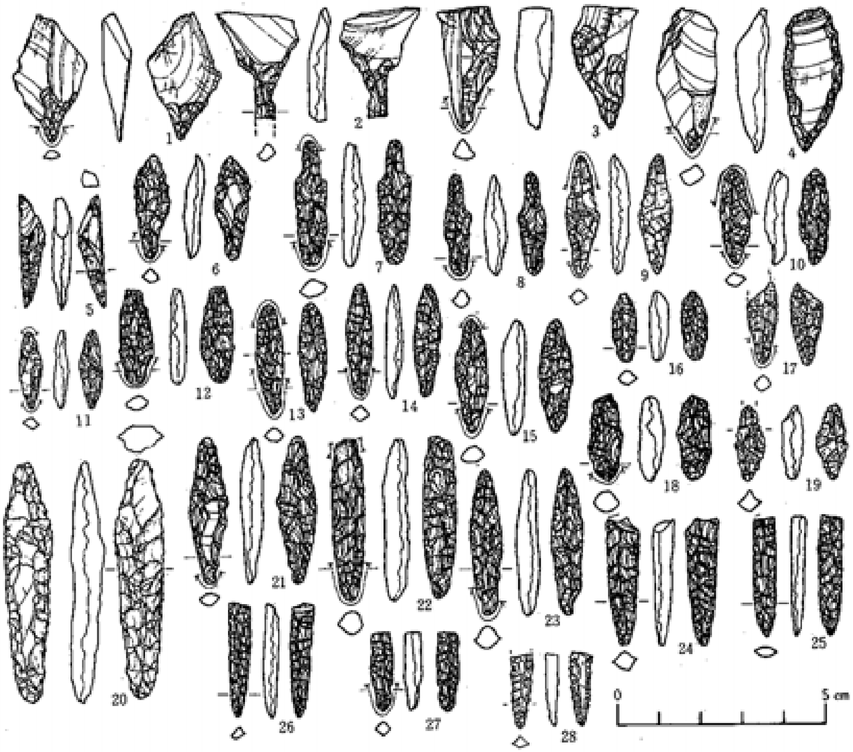
No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	厚部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	?－7	不明	ⅠA	珪化頁岩	29.6	14.5	2.5	6.7	—	2.1 ×2.9		5602	24－61
2	CN43－12	不明	ⅠA	珪質頁岩	41.5	15.2	3.9	7.4	—	2.9 ×4.0		6469	24－62
3	DE39－2	不明	ⅠA	黒色頁岩	(36.0)	27.2	(8.15)	(12.0)	縁部	(1.8)×5.0		24	24－63
4	CK39－7	不明	ⅠA	珪化凝灰岩	24.3	17.3	2.32	4.3	—	—		3505	24－64
5	CL44・45－3 ベルト	不明	ⅠA	黒色頁岩	(23.3)	18.8	(2.0)	(4.3)	縁部	(2.8)×3.2		5823	24－65
6	DE35－4	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(29.8)	20.5	(4.45)	(3.7)	縁部	(1.7)×5.2	(鎚痕)	6778	24－66
7	CK39－8	不明	ⅠA	珪化凝灰岩	(25.8)	21.6	(4.1)	(5.5)	縁部	—		1905	24－67
8	CM42－6	不明	ⅠA	玉髄	(24.4)	20.7	(4.9)	(3.4)	縁部	—		2494	24－68
9	CO44－1	不明	ⅠA	珪質頁岩	(20.3)	25.1	(5.6)	(3.7)	縁部	—		6439	24－69
10	CK39－6	不明	ⅠB1	珪化凝灰岩	18.3	15.0	1.53	5.0	—	3.8 ×3.8		5488	24－70
11	CK39－5	不明	ⅠB1	珪質頁岩	21.9	10.5	0.82	5.0	—	3.8 ×4.0		5479	24－71
12	CL48－3	不明	ⅠB1	玉髄	19.3	11.0	0.9	3.8	—	2.0 ×3.1		6361	
13	CM42－11	不明	ⅠB1	珪化凝灰岩	(22.7)	15.0	(1.15)	(18.3)	縁部	2.2 ×3.9		6085	24－72
14	CK39－2	不明	ⅠB1	玉髄	23.4	16.0	0.85	13.0	—	3.8 ×3.2		6383	24－73
15	CK38－北	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(33.4)	24.5	(6.15)	(13.5)	縁部	—		1161	24－75
16	CK40－1	不明	ⅠB1	珪化凝灰岩	28.0	19.0	2.05	14.9	—	—		1137	24－77
17	CL38－14	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(35.0)	18.5	(4.35)	(14.2)	縁部	—		5516	24－78
18	CL43－?	不明	ⅠB1	珪質頁岩	32.7	15.7	1.95	15.7	—	1.8 ×1.9		983	24－74
19	CL38－25	不明	ⅠB1	珪質頁岩	30.8	13.0	1.15	15.0	—	6.9 ×2.8		1088	24－79
20	表採	不明	ⅠB1	黒色頁岩	52.3	17.2	3.0	34.0	—	14.2 ×5.1		591	24－80
21	CM43－トゾ	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(29.2)	22.0	(3.3)	(8.8)	縁部	—	再加工	6350	24－76

第106図　石　鏃(1)



No.	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	身部(mm)	欠損部	使用痕	備考	登録番号	図版
1	CK38－1	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(23.2)	10.5	(0.5)	上(6.3) 下(6.2)	錐部	—		670	24－81
2	CL46－ｴｿ	不明	ⅠB1	黒色頁岩	(23.5)	13.2	(0.9)	8.5	錐部	—		6347	24－82
3	CM42－11	不明	ⅠB2	珪質頁岩	(17.1)	15.8	(0.79)	(8.7)	錐部	—		2746	24－83
4	CK40－66	不明	ⅠB2	碧玉	(13.5)	(9.0)	(0.2)	4.8	頭部	4.8×2.5		1104	24－84
5	CM42－9	不明	ⅠB2	珪化鍋沢岩	(17.5)	(16.8)	(0.9)	(17.5)	頭部	—	再加工	1200	25－1
6	CM42－11	不明	ⅠB2	珪質頁岩	18.0	(10.0)	(0.4)	12.0	頭部	6.0×3.0		2743	25－2
7	CK39－8	不明	ⅡA2	黒色頁岩	37.0	6.2	(0.78)	27.9	錐部側縁	—		5489	25－3
8	CM42－8b	不明	ⅡA2	珪質頁岩	(21.0)	7.9	(0.8)	(8.2)	錐部	1.5×4.5	再利用	2610	25－4
9	CM42－8	不明	ⅠB1	珪質頁岩	(25.6)	13.8	(2.4)	(12.0)	錐部	—		2582	25－5
10	BE49－ｴｿ2	不明	ⅠA	珪化鍋沢岩	(29.7)	14.2	(1.7)	(16.6)	錐部	—		164	25－6
11	CK40－2	不明	ⅠB1	珪化鍋沢岩	(34.2)	8.8	(1.1)	(17.7)	錐部	10.5×4.5		105	25－7
12	CL42－2	不明	ⅡA1	珪質頁岩	35.5	9.0	0.88	—	—	—		187	25－8
13	CL38－西30	不明	ⅠB1	珪化鍋沢岩	(29.5)	10.9	(1.95)	(12.3)	錐部	11.5×6.0	再利用、(玉髄化)	898	25－9
14	CL39－2	不明	ⅡA2	珪質頁岩	22.7	13.3	2.0	8.2	—	2.9×3.1		1014	25－10
15	CM42－8	不明	ⅡA2	珪化鍋沢岩	24.4	10.3	1.18	18.5	—	4.3×2.8		2566	25－11
16	CM42－10	不明	ⅡA1	黒色頁岩	16.9	12.0	0.98	2.7	—	3.1×3.5		2691	25－12
17	CL42－8	不明	ⅡA2	珪化鍋沢岩	(26.0)	10.4	(1.63)	(3.5)	錐部	3.5×4.2	再利用	5463	25－13
18	CL42－11	不明	ⅡA2	黒色頁岩	27.8	8.9	0.8	—	—	6.8×5.2	線条痕	1338	25－14
19	CL42－2	不明	ⅡA2	珪質頁岩	(32.2)	17.2	3.85	(5.7)	錐部	2.0×3.5	再利用	1091	25－15
20	CM42－6	不明	ⅡA2	珪質頁岩	35.5	10.7	2.15	20.3	—	3.5×3.8		2493	25－16
21	CL48－3	不明	ⅡA1	珪質頁岩	27.7	13.2	2.1	15.6	—	5.5×5.0	線条痕	6360	25－17
22	CK42－2	不明	ⅡA1	珪化鍋沢岩	26.2	12.5	2.6	4.7	—	2.8×5.0		1054	25－18
23	表採	不明	ⅠA	珪質頁岩	(34.0)	21.0	(3.12)	(11.3)	錐部	—	石匙の再加工	65	25－19
24	CM42－11	不明	ⅡA3	珪質頁岩	19.0	14.0	0.75	8.2	—	3.2×4.5		2729	25－20
25	表採	不明	ⅡA3	珪化鍋沢岩	(15.2)	17.0	(0.9)	2.8	錐部	—		5999	25－21
26	CK38北－9	不明	ⅡA3	珪化鍋沢岩	(35.5)	11.8	(2.6)	17.0	錐部	—		1383	25－22
27	AT32－3	不明	ⅡA3	珪化鍋沢岩	21.2	9.5	1.0	5.5	—	2.0×3.0		6779	25－48

第107図　石　錐(2)



No	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	茎部(mm)	欠損部	使用痕	備考	台	図版
1	CL46－1ソ	不明	II A3	珪化凝灰岩	30.9	15.0	2.2	4.5	－	3.5×2.2		6348	25－23
2	CL38－8	不明	II A3	珪化凝灰岩	(25.4)	20.2	(1.4)	(10.0)	縁部	－		5514	25－24
3	CM48－2	不明	II A3	珪質頁岩	29.0	14.0	3.12	5.4	－	10.2×9.2		6350	25－25
4	CL47－7	不明	II A3	珪質頁岩	34.8	16.3	3.25	4.9	－	10.6×9.5		6373	25－26
5	CM42－8c	不明	II A3	珪質頁岩	27.2	6.9	0.6	－	－	－		5553	25－27
6	CM42－10	不明	II B	黒色頁岩	24.9	8.3	0.8	－	－	6.2×4.9		2690	25－28
7	CL42－6	不明	II B	珪化凝灰岩	29.6	7.5	1.15	－	－	上 5.1 ×3.8 下 9.5 ×6.9	両端磨耗、(玉髄化)	5424	25－29
8	CO33・34－3 ベルト	不明	II B	玉髄	24.5	6.4	0.72	－	－	4.6×4.2		6418	25－30
9	CM42－12	不明	II B	珪質頁岩	28.7	8.2	1.0	－	－	上 6.5 ×4.5 下 5.0 ×4.2	両端磨耗	150	25－40
10	CL42－6	不明	II B	黒色頁岩	(22.9)	7.5	(0.85)	－	上端	上(7.0)×6.1 下 3.0 ×2.5	両端磨耗	5425	25－36
11	CL42－6	不明	II B	珪化凝灰岩	17.2	5.3	0.38	－	－	上 1.8 ×2.6 下 2.6 ×2.2	両端磨耗、(玉髄化)	5423	25－37
12	CL38－15	不明	II B	珪質頁岩	(23.1)	8.2	(0.8)	－	上端	5.5×5.8	上端アスファルト付着、被熱痕	5517	25－32
13	CL38－20	不明	II B	珪化凝灰岩	26.9	6.8	0.7	－	－	上 4.2 ×4.8 下 9.5 ×5.0	両端磨耗	700	25－33
14	CL40－2	不明	II B	珪質頁岩	27.0	6.2	0.7	－	－	7.8×4.7		82	25－34
15	CL42－6	不明	II B	珪化凝灰岩	27.4	7.9	1.2	－	－	上 4.9 ×4.2 下 7.1 ×6.5	両端磨耗	5433	25－41
16	CM42－7	不明	II B	玉髄	(16.2)	5.8	(0.5)	－	上端	－		2527	25－42
17	CL42－6	不明	II B	珪化凝灰岩	(19.7)	7.4	(0.52)	－	上端	7.5×5.5		5430	25－35
18	CK38－13	不明	II B	黒色頁岩	(20.3)	8.0	(1.08)	－	上端	5.0×6.5		6729	25－43
19	CM42－8	不明	II B	珪化凝灰岩	(17.1)	7.2	(0.5)	－	上端	－		2567	25－42
20	BH56－2	不明	II B	珪質頁岩	(58.2)	12.0	(5.0)	－	下端	17.8×9.3	上端アスファルト、石錐転用?	1030	25－39
21	CJ38－第2	不明	II B	珪質頁岩	35.1	9.3	1.6	－	－	3.1×3.0		1931	25－44
22	CM43－1ソ	不明	II B	珪化凝灰岩	(38.9)	8.0	(2.1)	－	上端	上(3.9)×6.7 下11.2 ×6.5	側ナハジケ、両端磨耗	1749	25－45
23	CL40－2	不明	II B	珪質頁岩	35.1	7.8	1.49	－	－	7.5×6.0		101	25－46
24	CK40－2	不明	－	珪化凝灰岩	(30.2)	(7.8)	(1.1)	－	上・下端	－		1402	25－50
25	CK38－西11	不明	－	珪質頁岩	(22.6)	(5.4)	(0.6)	－	上端	－		6241	25－47
26	CK38－第9	不明	－	珪化凝灰岩	(22.3)	(5.0)	(0.4)	－	上端	－		5499	25－48
27	CM40－10	III	－	珪質頁岩	(18.7)	(5.1)	(0.38)	－	上端	(6.0)×(3.8)		2465	25－49
28	CM42－7	不明	－	珪化凝灰岩	(18.0)	(5.2)	(0.3)	－	上端	－		2526	25－51

第108図　石　鏃(13)

装着されて使用されていたと考えられる。

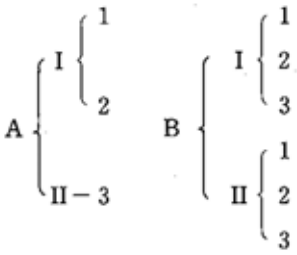
ｂタイプは2点みられ、いずれも先端が磨耗している。4はⅡＢ2類で頭部と身部のさかいにみられる。

石　匙（第 111 図～第 120 図）

ここでは、両側辺から抉りを入れて、つまみ部を作り出した石器を扱う。総数102点出土している。

1分　類

形態により（A）縦長のもの（B）横長のものに大別した。また、縁辺の構成する数により（Ⅰ）2縁辺のもの（Ⅱ）3縁辺のものに分け、さらに、先端部の形態で(1)丸みをおびるもの(2)尖頭状のもの(3)平坦なものに細分した。これらの分類には以下のような種類がある。



2出土状況と時期的変化

遺構に伴うものはなく、南側遺物包含層を中心に出土しているものが多数ある。各区ごとにみると、ＣＬ39区10点、ＣＬ40区7点、ＣＬ41区11点、ＣM39区6点、ＣM40区6点、ＣM41区4点、ＣＬ47区2点、ＣM47区1点が出土している。特に、ＣＬ39区37層から5点、ＣＬ41区15層から4点がまとまっている。次にこれらを時期的にみる（第19表）。時期の特定できるものは46点で、第Ⅲ・Ⅳ期に最も多い12点づつが出土している。分類別にみると、Ａ類が第Ⅲ～Ⅳ

分類＼時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	計	不明	総数
ＡⅠ1			2	3	3			8	7	15
ＡⅠ2		1		3				4	12	16
ＡⅡ3		5	1	2		1		9	14	23
Ａ不明		4	1	2	3		1	11	10	21
計		10	4	10	6	1	1	32	43	75
ＢⅠ1									1	1
ＢⅠ2			1					1		1
ＢⅡ1		1		2	1	1	1	6	3	9
ＢⅡ2	1	1					2	4	3	7
ＢⅡ3									5	5
Ｂ不明					1		2	3	1	4
計	1	2	1	2	2	1	5	14	14	28
総計	1	12	5	12	8	2	6	46	56	102

第19表　石匙時期別・分類別出土数量表

期に多く、B類は第Ⅷに多数みられる。

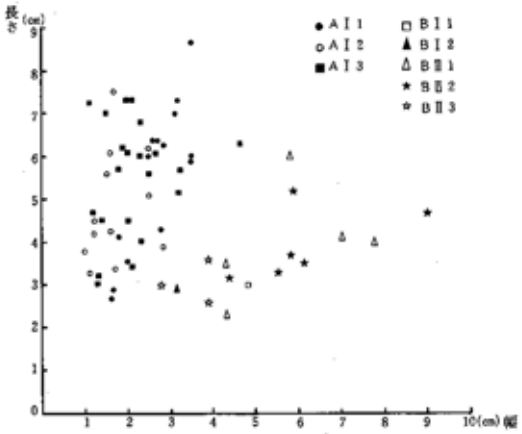
3属性の特徴

上記のように石匙は時期的な形態の変化はさほどみられない。そこで以下に属性の特徴については、各層出土のものをまとめて記述する。

大きさ（第109図）

A類は長さ3～8cm・幅1～4cmの間にまとまり、B類は長さ2～6cm・幅3.5～9cmの間にみられる。A類とB類では、長さ・幅の相関関係で明瞭に違いがある。

石　材（第20・21表）



第109図　石匙分類別長さ・幅相関図

石材＼時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	計	不明	総数
頁岩		3	3	3	5	1	2	17	21	38
凝灰岩		2		2			3	7	10	17
黒色頁岩		1	2	2	2	1		8	6	14
凝灰質頁岩	1	6		3	1		1	12	12	24
凝灰質頁岩									1	1
凝灰岩				1				1	4	5
玉髄（凝灰岩）				1				1		1
玉髄（凝灰岩）									1	1
頁岩									1	1
計	1	12	5	12	8	2	6	46	56	102

第20表　石匙時期別・石材別出土数量表

石材＼分類	AⅠ1	AⅠ2	AⅡ1	A不明	BⅠ1	BⅠ2	BⅡ1	BⅡ2	BⅡ3	B不明	計
凝灰質頁岩	3	4	10	1			3	3			24
頁岩	4	5	9	12			2	3	1	2	38
黒色頁岩	4	2	0	4	1	1	1				14
凝灰岩	4	3	3	3			1		1	2	17
玉髄（凝灰岩）		1									1
凝灰岩							2		3		5
凝灰質頁岩			1								1
頁岩				1							1
玉髄（凝灰岩）								1			1
計	15	15	24	21	1	1	9	7	5	4	102

第21表　石匙分類別・石材別出土数量表

石材の用いられる方には、時期別・分類別にみても他の剥片石器と大きくは違わない。ただ珪質凝灰質頁岩がやや多く認められることが一つの特徴と言える。

素材の用い方（第22・23）

A類は縦長の剥片素材を多くの場合に用いているが、B類は縦長・横長と同じ程度に用いている。また、つまみ部が作り出されている位置と打面部との関係をみると、

Aタイプーつまみと打面が同方向にあるもの

Bタイプーつまみと打面が逆方向にあるもの

Cタイプーつまみと打面方向がほぼ直交するもの

の3種類がある。このうちAタイプは全体の70％程度を占めており、打面に遠いほど素材が薄くなり刃部調整が容易になることなどが考慮されて素材が用いられていると言える。

素材＼分類	AⅠ1	AⅠ2	AⅡ3	BⅠ1	BⅠ2	BⅡ1	BⅡ2	BⅡ3	計
たて長	12	11	21	1	1	4	3	2	55
よこ長	4	2	2			5	4	3	20
計	16	13	23	1	1	9	7	5	75

第22表　石匙素材表

打面＼分類	AⅠ1	AⅠ2	AⅡ3	BⅠ1	BⅠ2	BⅡ1	BⅡ2	BⅡ3	計
Aタイプ	10	7	17	1	1	6	5	4	51
Bタイプ	3	2	2						7
Cタイプ	3	4	3			3	2	1	16
計	16	13	22	1	1	9	7	5	74

第23表　石匙つまみ部と打面部相関表

刃部調整

刃部の調整のあり方を検討すると、両面加工（a）・片面加工(b)・無調整（c）のものがあり、また縁辺全面にみられるもの(1)と一部にみられるもの(2)がある。これらを組み合わせると

a_1両面加工で全縁辺に認められるもの

a_2両面加工で一部の縁辺に認められるもの

b_1片面加工で全縁辺に認められるもの

b_2片面加工で一縁辺に認められるもの

c無調整のもの

以上5つの刃部調整が各縁辺に施されている。これらのあり方をA類・B類にわけてみる。

A類（縦長のもの）

(1) AⅡ3類の中に特徴的なものがある。これは縦長の素材を用い、一般に腹面の右側縁に2次加工を施し、裏側の背面左側縁に加工の深い剥離を加え、刃角の小さい、両面加工の刃部を形成させる。そして、背面右側縁に刃角の大きい片面加工の刃部をつける。左側縁は凸線状

に右側縁は直線的もしくは凹線状になる。横断面形は背面を上にすると、最大幅が右側に寄っている。この加工方法は、縄文前期の松原遺跡(置賜考古学会：1977)で報告された「打面調整剥離」である。田柄貝塚では、第Ⅲ期3点・第Ⅴ期1点、不明10点が出土しており、少なくとも後期後葉の初め頃までこの調整方法が用いられていたと言える。(2)Ａ類は、多くは背面側縁に片面加工を加えたものが主であるが、第119図4のように鏃状をした2次加工を両面に施したものもある。(3)第117図10のように、先端部が棒状に作り出され、著しく磨耗しているものもある。これは石錐と同様の穿孔機能を倒していたものと考えられる。これに類するものは上深沢遺跡(1978)・勝負沢遺跡(1982)など多くの遺跡にみられる。(4)二重パティナのもの(第113図4)があり、著しく風化した後に、再び2次加工が施されたものである。

Ｂ類(横長のもの)

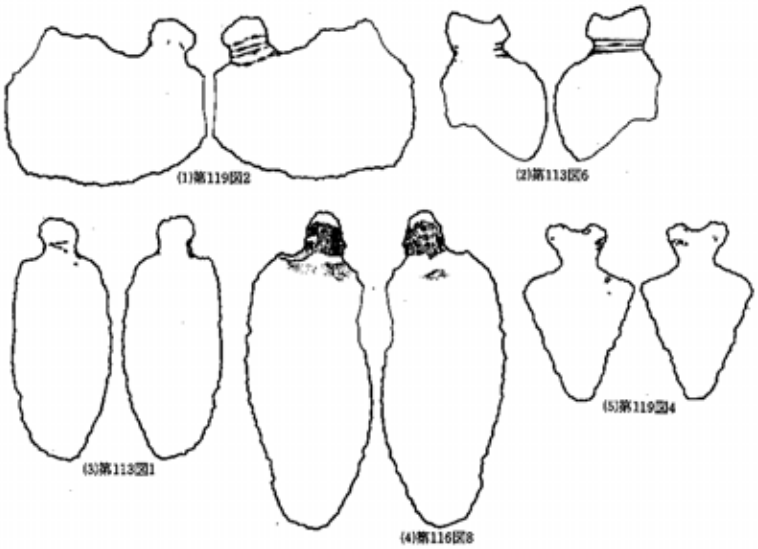
(1) 主要刃部がつまみ部の下方側縁にあり、背面に30°～45°の片面加工するものが多い。また第113図10・第120図7のように両面加工されるものもある。(2)つまみ部の両肩の刃部において、背面左側に両面加工を、右側に片面加工を施すものが多い。

4アスファルト付着（第110図）

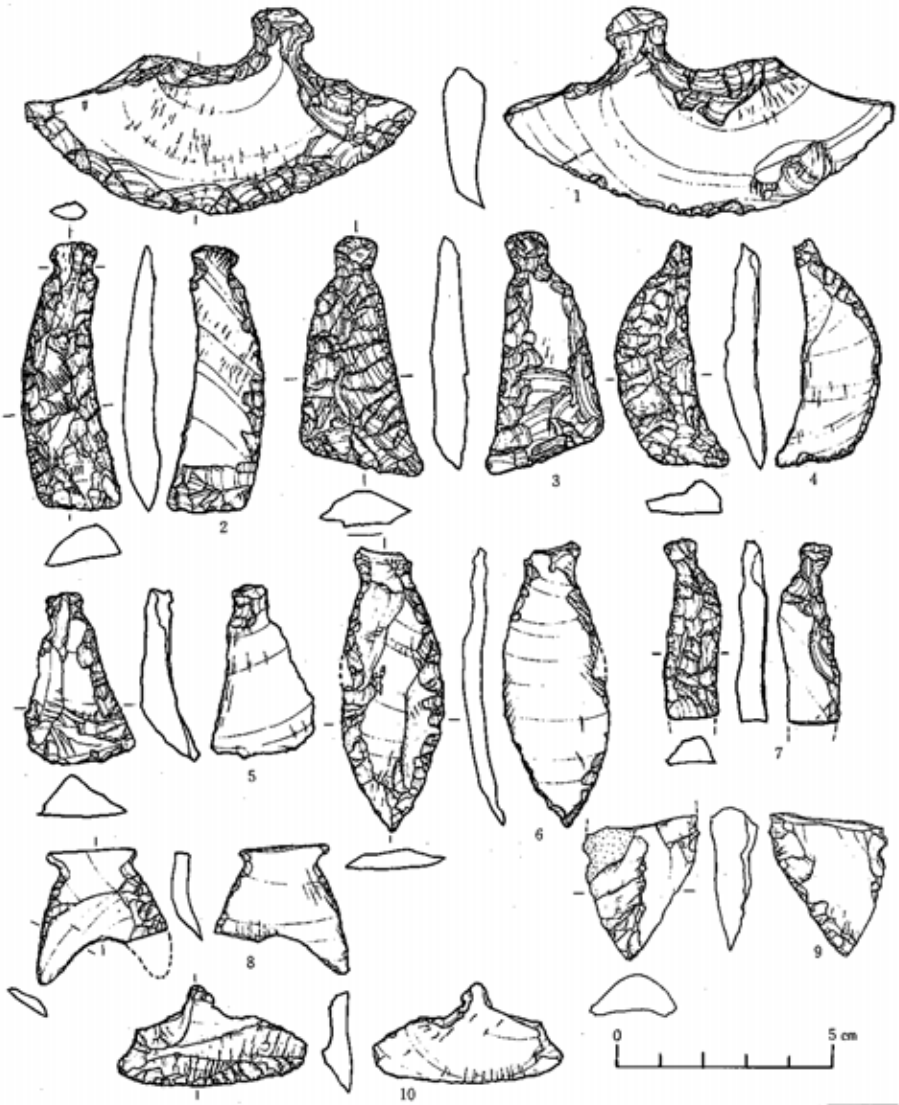
石匙にアスファルトの付着が認められるものが5点出土している。

この付着状況を観察すると、ａタイプ－つまみ部の抉りの部分に線状に数本が認められるもの。bタイプ－つまみ部に帯状に認められるもの。ｃタイプ－付着範囲を特定できないものがある。

ａタイプは、第110図(1)・(2)・(3)で、(1)は、腹面側に4本、背面側に1本が認められる。(2)は、腹面側に3本、背面側の扶入の両端部に3本がみられ、中央部で切れた状態になっている。(3)は、背面側に2本みられ、左端で交わる。腹面には抉りの両端にやや認められる。bタイプは(4)でつまみの表裏に認められる。ｃタイプは(5)でつまみ部の頂部に抉りがはいり石鏃と似た形で、つまみ部全体にまとまりのない付着を示す。本県では山王囲遺跡(矢本町史：1973)晩期より、横型石匙のつまみ部にひもが巻きついて出土しており、ａタイプはこれの例のようにひもが巻きつけられていた可能性が大きい。しかし、アスファルトが片側面に完全にみられるが、一方の面には明瞭には認められないものが多く、単にひもを巻きつけてあったものか、柄のようなものに一方の面を接し、巻きつけられていたのかは、特定することはできなかった。

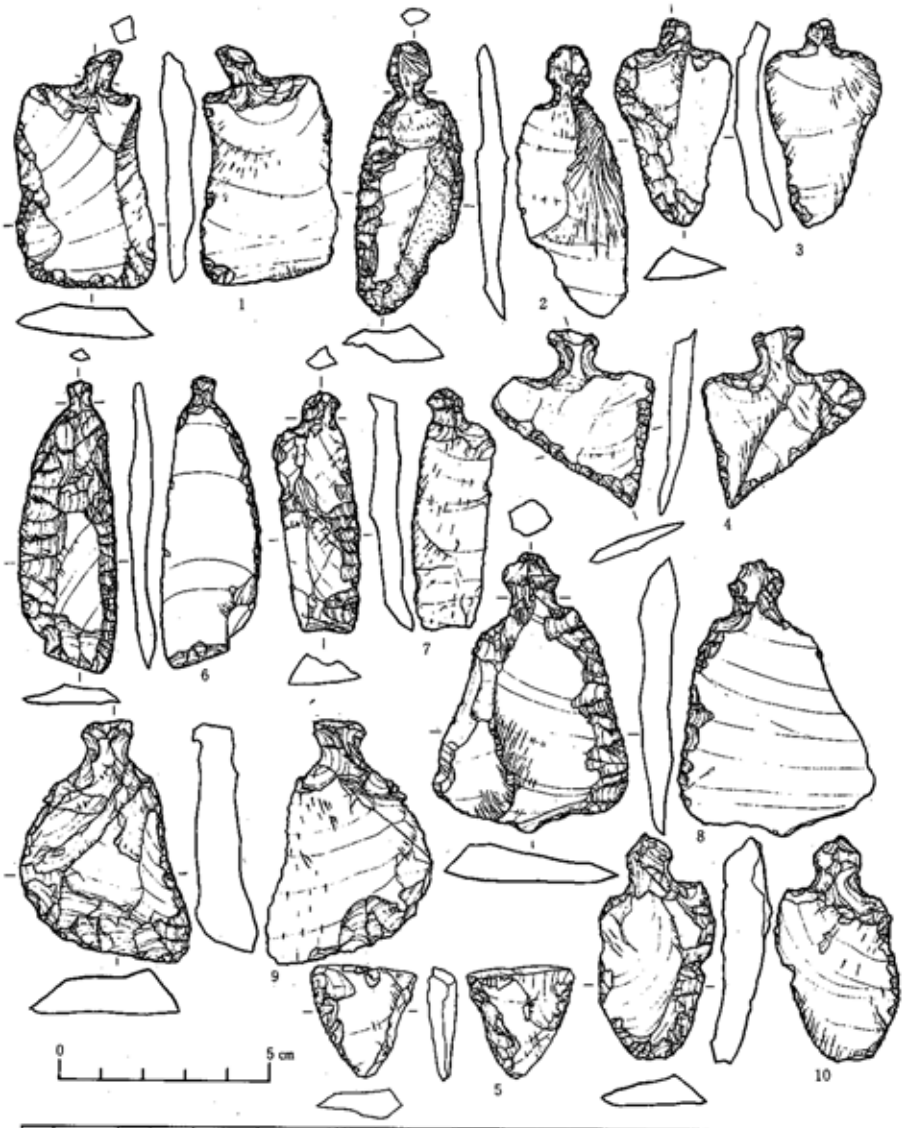


第110図　石匙アスファルト付着状況



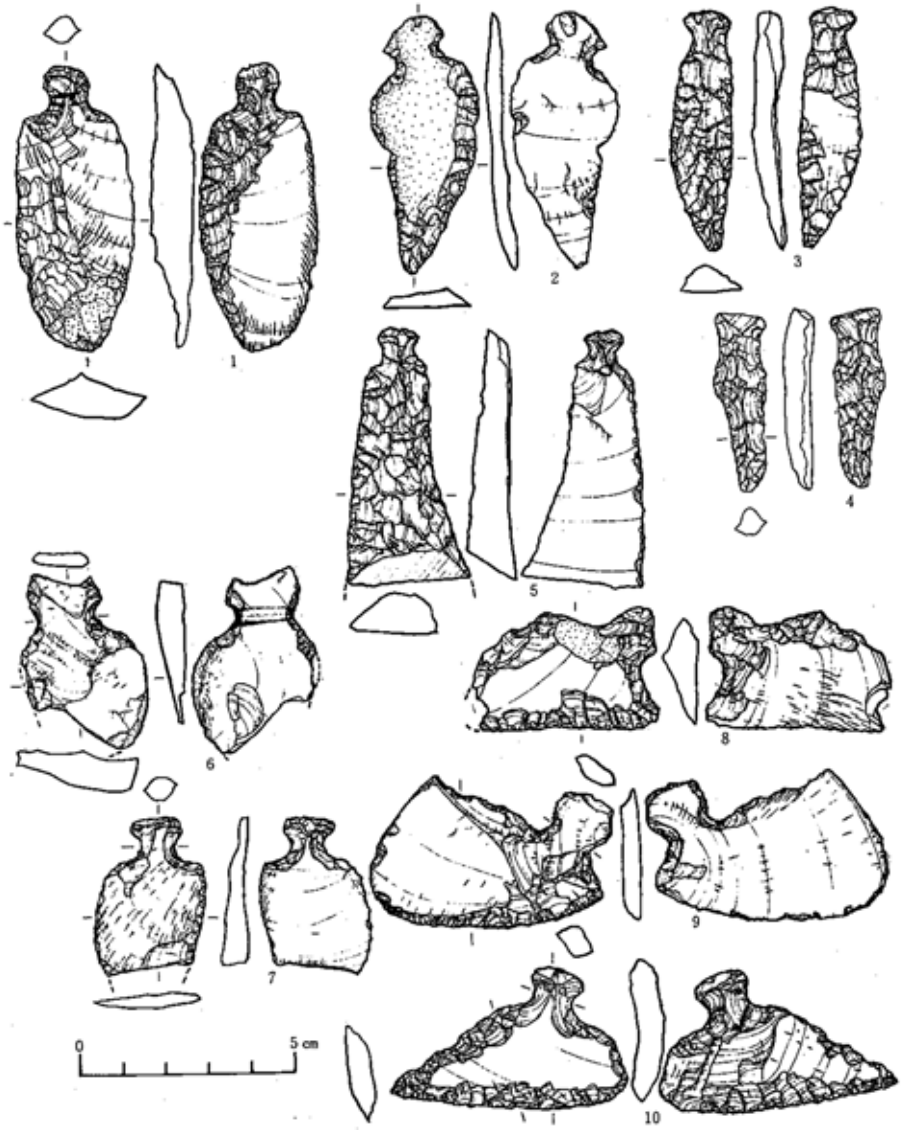
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	自然面	刃部加工・角度			備考	整理番号	図版番号
											左	下	右			
1	CM39−38	Ⅱ	BⅡ2	珪質頁岩	46.6 × 90.0	9.6	35.1	85.5°・14.9	横長・A	×	c・89°	b1・42°	c・94°		1682	25−52
2	CL39−37	Ⅲ	AⅡ3	珪質頁岩	62.0 × 18.9	7.8	9.7	4°・10.6	縦長・B	×	a1・56°	a1・62°	b1・75°	打面調整剥離	5755	25−53
3	CL39−37	Ⅲ	AⅡ3	珪質頁岩	56.2 × 25.0	7.9	10.5	15°・9.5	縦長・C	×	b1・55°	a1・54°	a1・45°	打面調整剥離	1071	25−54
4	CL39−37	Ⅲ	AⅡ3	珪質頁岩	(53.0)× 17.6	7.1	(6.7)	(14°)・5.7	縦長・A	×	a1・61°	a1・59°	b1・78°	打面調整剥離	5814	25−55
5	CL39−37	Ⅲ	AⅡ3	珪質頁岩	39.8 × 22.8	9.0	6.0	19°・86	縦長・A	×	c・52°	c・55°	b1・40°		5756	25−56
6	CM40−9	Ⅲ	AⅠ2	珪質頁岩	62.1 × 24.2	4.7	7.3	4°・12.5	縦長・A	×	b1・38°	−・−	b1・29°		1641	25−57
7	CL39−37	Ⅲ	(A)	珪質頁岩	(41.7)× 12.1	6.4	(3.3)	(18°)・7.5	縦長・B	×	a1・55°	−・−	b1・66°	打面調整剥離	5775	25−64
8	CM40−9	Ⅲ	(A)	珪質頁岩	(30.7)× 29.4	(4.6)	(2.5)	12°・20.7	縦長・A	×	b1・32°	c・25°	b1・45°		1642	25−58
9	CM41−28	Ⅲ	(A)	黒色頁岩	(30.5)×(27.0)	11.0	(7.4)	−・−	横長・−	○	b1・50°	−・−	b1・55°		2134	25−59
10	CL41−19	Ⅲ	BⅡ1	珪質頁岩	23.4 × 42.7	7.0	5.3	77°・6.2	横長・A	×	c・70°	b1・47°	b2・28°		1834	25−60

第111図　石　匙(1)



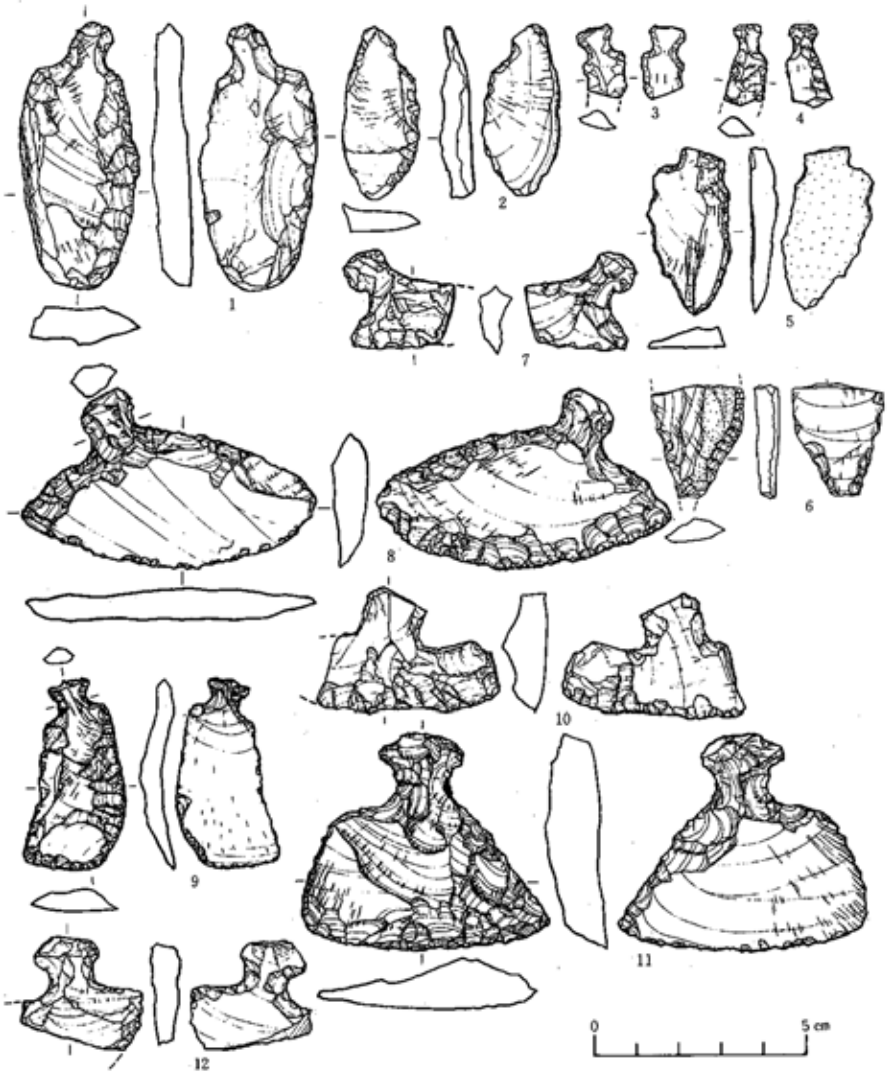
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	刃部角度・大きさ(cm)	素材	自然面	刃部加工・角度 左	刃部加工・角度 下	刃部加工・角度 右	備考	登録番号	図版番号
1	CL40−26	Ⅳ	AⅡ3	珪質頁岩	56.7 ×32.6	8.9	15.4	16° · 7.8	縦長・A	×	b1・40°	b1・40°	b1・51°		1352	25−61
2	CL39−35	Ⅳ	AⅡ1	珪質頁岩	59.3 ×25.2	9.1	11.0	17° · 10.7	縦長・A	○	b1・35°	b1・50°	b1・58°		5157	25−62
3	CL40−26	Ⅳ	AⅡ1	黒色頁岩	43.4 ×27.9	6.8	7.3	19° · 7.2	縦長・A	×	b1・40°	—・—	b1・15°		2984	25−63
4	CL39−36	Ⅳ	BⅡ2	黒色頁岩	29.3 ×41.0	4.9	5.8	56° · 11.2	縦長・A	×	a1・40°	—・—	a1・35°		895	25−65
5	CL39−35	Ⅳ	(A)	珪質頁岩	(26.0)×25.0	6.5	3.7	—・—	縦長・A	×	a2・35°	—・—	b1・80°		2117	26−9
6	CL47-3•4	Ⅲ	AⅡ3	珪質細粒頁岩	67.5 ×22.6	5.7	8.4	2° · 5.4	縦長・B	×	a1・30°	a1・30°	b1・50°	打面調整剥離	1084	25−66
7	CL41−16	Ⅴ	AⅡ3	珪質細粒頁岩	57.0 ×17.9	5.5	8.6	5° · 8.6	縦長・A	×	c・65°	c・50°	b1・35°		5801	26−1
8	CL41−15	Ⅴ	AⅡ3	珪質細粒頁岩	62.9 ×46.2	6.6	22.5	12° · 13.4	縦長・A	×	c・68°	b2・50°	a1・40°		588	26−2
9	CL40−24	Ⅴ	AⅡ1	珪質細粒頁岩	59.1 ×25.0	14.2	25.1	11° · 12.2	縦長・A	○	b1・40°	a2・65°	b1・62°		208	26−3
10	CL41−15	Ⅴ	AⅡ1	黒色頁岩	(46.3)×27.8	11.3	(32.0)	14° · 10.8	横長・A	×	a2・25°	c・40°	b1・55°		3981	26−4

第112図　石　鏃(2)図



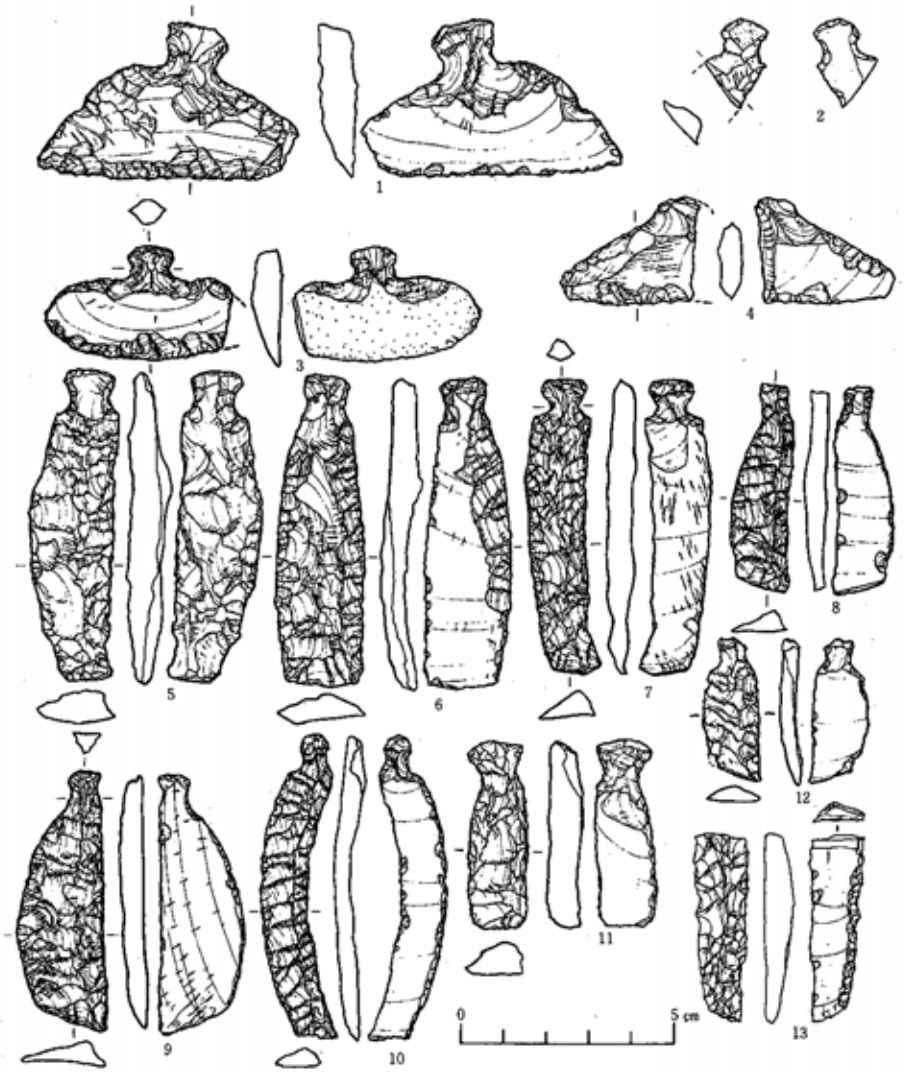
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	自然面	刃部加工・角度 左	刃部加工・角度 下	刃部加工・角度 右	備考	登録番号	図版番号
1	CL40−25	V	A I 1	珪質頁岩	64.1 × 27.3	10.0	16.8	9°・10.8	縦長・A	○	b1・41°	c・61°	b1・52°	アスファルト	222	25−5
2	CL39−31c	V	A I 2	玉髄	50.9 × 24.5	4.8	6.1	20°・144	縦長・A	○	b1・54°	−・−	b1・42°	(珪質頁岩)	305	25−6
3	CL41−15	V	A I 2	珪質頁岩	55.6 × 14.6	6.7	4.5	2°・10.9	縦長・A	×	a2・52°	−・−	a2・42°		3983	25−7
4	CL41−16	V	A I 2	珪質頁岩	42.0 × 12.0	6.8	3.2	−・12.0	−	×	a1・85°	−・−	a1・80°	二重バティナ	743	25−8
5	CL47-3−5	III	(A)	珪質頁岩	(60.3)×(27.0)	(10.9)	(13.9)	−・9.0	縦長・A	×	b1・80°	−・−	b1・80°		1848	25−12
6	CM41−24	V	(A)	珪質頁岩	(41.1)×(29.2)	(8.0)	(8.4)	−・16.9	横長・C	○	c・−	−・−	c・−	アスファルト	1159	25−10
7	CL41−15	V	(A)	珪質頁岩	(35.6)×(24.9)	(5.4)	(3.5)	−・11.8	縦長・A	×	b1・25°	−・−	b1・44°		3982	25−11
8	CL39−31	V	B III 1	珪化頁岩	28.2 ×(41.6)	11.0	(11.2)	(45°)・12.5	縦長・A	○	c・80°	b1・33°	−・−		5766	25−13
9	CL39−32	V	B III 1	黒色頁岩	34.6 × 53.1	8.3	12.6	56°・15.0	縦長・A	×	c・83°	b1・50°	上C		759	25−14
10	CM47−3	III	B III 2	珪質頁岩	33.3 × 55.3	7.1	10.8	72°・12.7	縦長・A	×	a1・50°	a1・50°	b1・40°		1710	25−15

第113図　石　匙(3)



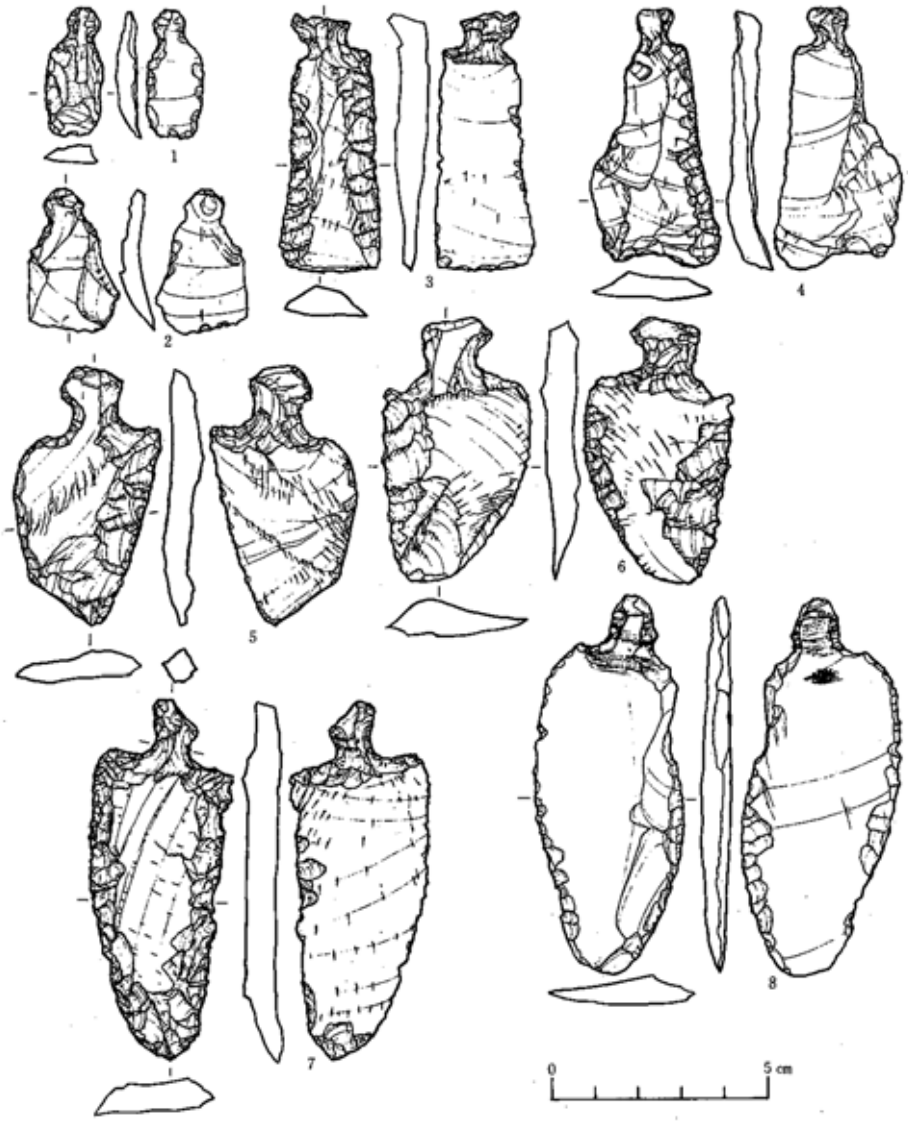
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	自然面	刃部加工・角度 左	下	右	備考	登録番号	図版番号
1	CL41−13	Ⅵ	AⅠ1	珪質頁岩	63.0 × 28.5	10.2	19.1	7°・(8.5)	縦長・B	○	c・85°	−・−	b1・58°		1713	26−16
2	CL40−20	Ⅵ	AⅠ1	珪質頁岩	40.8 × 18.4	7.4	4.1	5°・(8.8)	横長・C	×	c・97°	−・−	b1・44°		3262	26−17
3	CL39−30	Ⅵ	(A)	珪質頁岩	(17.5)×(9.9)	(3.8)	(0.4)	?・8.6	縦長・A	×	a・45°	−・−	a・56°		4831	26−18
4	CM41−21	Ⅵ	(A)	珪質頁岩	(19.7)×(8.9)	(8.1)	(0.5)	?・6.6	縦長・A	×	a1・53°	−・−	b1・43°		5550	26−19
5	CM39−31	Ⅵ	AⅠ1	黒色頁岩	34.9 × 20.0	5.9	4.0	33°・(10.5)	縦長・A	○	b1・60°	−・−	b1・68°		5388	27−1
6	CM39−31	Ⅵ	(A)	黒色頁岩	27.0 × 22.0	5.8	(3.3)	−	縦長・	○	b・35°	−・−	b・45°		5389	26−21
7	CL41−14	Ⅵ	(B)	珪質頁岩	(21.6)× 23.6	8.6	(2.6)	(47°)・10.8	横長・A	○	a・60°	b1・48°	−・−		3901	26−20
8	CL41−13	Ⅵ	DⅡ3	珪質頁岩	41.1 × 70.1	9.3	22.2	70.5°・13.4	横長・A	×	a1・87°	b1・44°	b1・73°		1382	26−23
9	CM41−18	Ⅵ	AⅡ3	黒色頁岩	45.4 × 20.2	5.8	4.9	15°・9.7	縦長・A	×	b2・39°	b1・25°	a2・43°		1116	26−24
10	CL41−11	Ⅵ	BⅡ1	珪質頁岩	29.6 ×(41.9)	11.2	(9.6)	(74°)・(14.5)	縦長・C	×	−・−	a1・70°	c・−		4402	26−22
11	CM40−4d	Ⅶ	BⅡ2	珪質頁岩	52.0 × 57.6	13.6	28.7	90°・20.0	横長・A	×	b1・58°	b1・53°	a1・75°		50	26−25
12	CM41−12・13	Ⅶ	(B)	珪質頁岩	(28.5)×(25.3)	7.1	(3.6)	?・15.2	縦長・A	×	−・−	−・−	b・45°		3322	26−26

第114図　石匙(4)



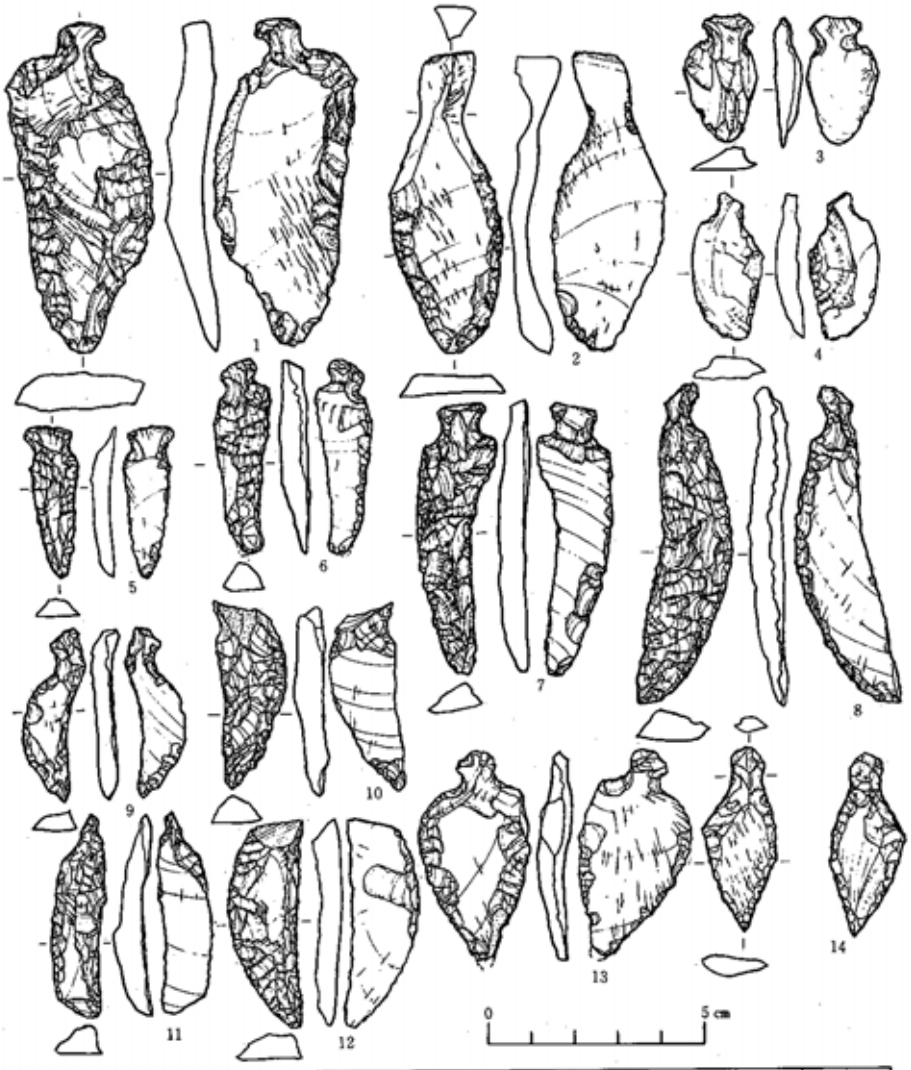
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(cm)	実材	自然面	刃部加工・角度 左	下	右	備考	登録番号	図版番号
1	CM40-6d	縄	BII2	珪質頁岩	37.1 × 57.9	8.9	15.6	75°・15.0	横長・A	×	a1・55°	b1・44°	b1・62°		51	26−27
2	CL42−6	縄	(A)	珪質頁岩	(17.8)×(12.6)	(4.7)	(0.8)	?・10.4	−・B	×	−・−	−・−	b1・65°		3035	26−28
3	CL39−16	縄	BII1	珪質頁岩	25.6 ×(42.6)	6.7	(6.1)	85°・10.5	横長・A	○	b1・45°	b1・35°	−・−		4531	26−29
4	CL40-12-13	縄	(B)	珪質頁岩	(24.9)×(21.5)	(9.3)	(4.5)	(90°)・−	横長・A	×	a1・53°	a2・51°	−・−		3316	26−30
5	CL44−3	不明	AII3	珪質頁岩	73.4 × 19.6	10.6	12.7	2°・11.8	横長・C	×	a1・57°	b1・81°	b1・85°	打面調整剥離	3053	27−2
6	CL38−5	不明	AII3	珪質頁岩	73.2 × 20.5	7.7	10.7	9°・10.9	縦長・A	×	a1・52°	b1・35°	b1・38°	打面調整剥離	1348	27−3
7	CM-N-44-3	不明	AII3	珪質頁岩	69.8 × 14.4	6.8	6.5	3°・10.3	縦長・A	○	b1・53°	b1・77°	b1・79°		1367	27−4
8	CO45−調	不明	AII3	珪質頁岩	(47.8)× 13.5	4.8	(3.3)	6°・6.7	縦長・A	×	a1・37°	c・−	b1・60°	打面調整剥離	1379	27−5
9	CM43−調	不明	AII3	珪質頁岩	61.4 × 19.8	5.5	6.6	3°・6.6	横長・C	×	a1・55°	b1・50°	b1・51°	打面調整剥離	1750	27−6
10	CO41−1	不明	AII3	珪質頁岩	71.9 × 11.4	5.1	4.2	4°・6.6	縦長・A	×	a1・30°	b1・40°	b1・57°	打面調整剥離 ポジティブ	941	27−7
11	CK42−1	不明	AII3	珪質頁岩	44.7 × 13.5	7.9	5.8	13°・13.0	縦長・A	×	a1・40°	b1・70°	b1・72°	打面調整剥離	1781	27−8
12	BD49−2	不明	AII3	珪質頁岩	32.4 × 13.2	3.4	1.2	0°・(6.8)	縦長・A	×	b1・25°	b1・54°	b1・36°		1363	27−9
13	CL39−2	不明	AII3	珪質頁岩	(44.6)×(13.6)	6.3	3.8	−・−	縦長・−	×	a1・52°	b1・50°	b1・60°	打面調整剥離		27−10

第115図　石匙(5)



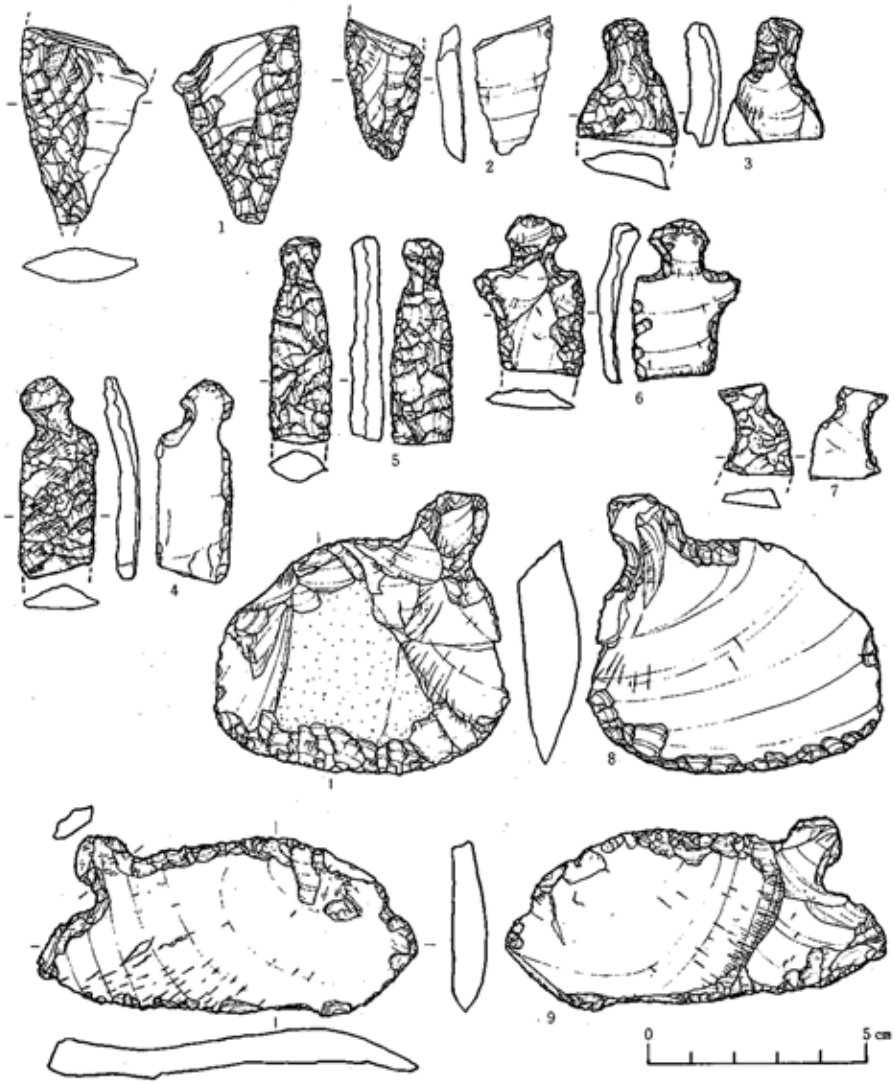
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	主要面	刃部加工・角度			備考	登録番号	図版番号
											左	下	右			
1	BE50－3	不明	AII3	珪質頁岩	29.6×13.1	4.5	1.1	5°・7.2	縦長・A	○	b2・35°	c・23°	b1・74°		2146	27－11
2	CO・CQ 40－2	不明	AII3	珪質頁岩	33.5×21.1	5.6	28.0	0°・9.0	縦長・A	×	c・55°	c・25°	c・55°		6474	27－12
3	CK42－2	不明	AII3	珪質縦灰質頁岩	60.0×23.1	7.3	10.9	7°・13.2	縦長・A	×	b1・55°	c・65°	b1・45°		1083	27－13
4	CL42－2	不明	AII3	珪質頁岩	61.4×26.6	5.7	9.2	5°・9.2	縦長・A	×	c・35°	c・55°	b1・45°		6323	27－14
5	CK38－10	不明	AII1	珪化縦灰質頁岩	51.7×31.8	7.7	13.4	23°・14.8	縦長・A	×	b1・51°	－・－	b1・51°		643	27－15
6	CK38－9	不明	AI1	珪質縦灰質	60.3×35.3	9.4	16.5	21°・16.2	縦長・B	×	a1・56°	c・25°	b1・30°		680	27－16
7	CK38－北10	不明	AI1	珪質縦灰質	73.3×32.1	8.2	23.1	23°・(10.0)	縦長・A	×	b1・45°	－・－	b1・58°		682	27－17
8	CL46－4	不明	AI1	黒色頁岩	86.5×34.4	6.4	21.6	0°・11.1	縦長・A	×	a2・36°	－・－	a1・50°	アスファルト、土上山系の粘板岩	6401	27－18

第116図　石匙(6)



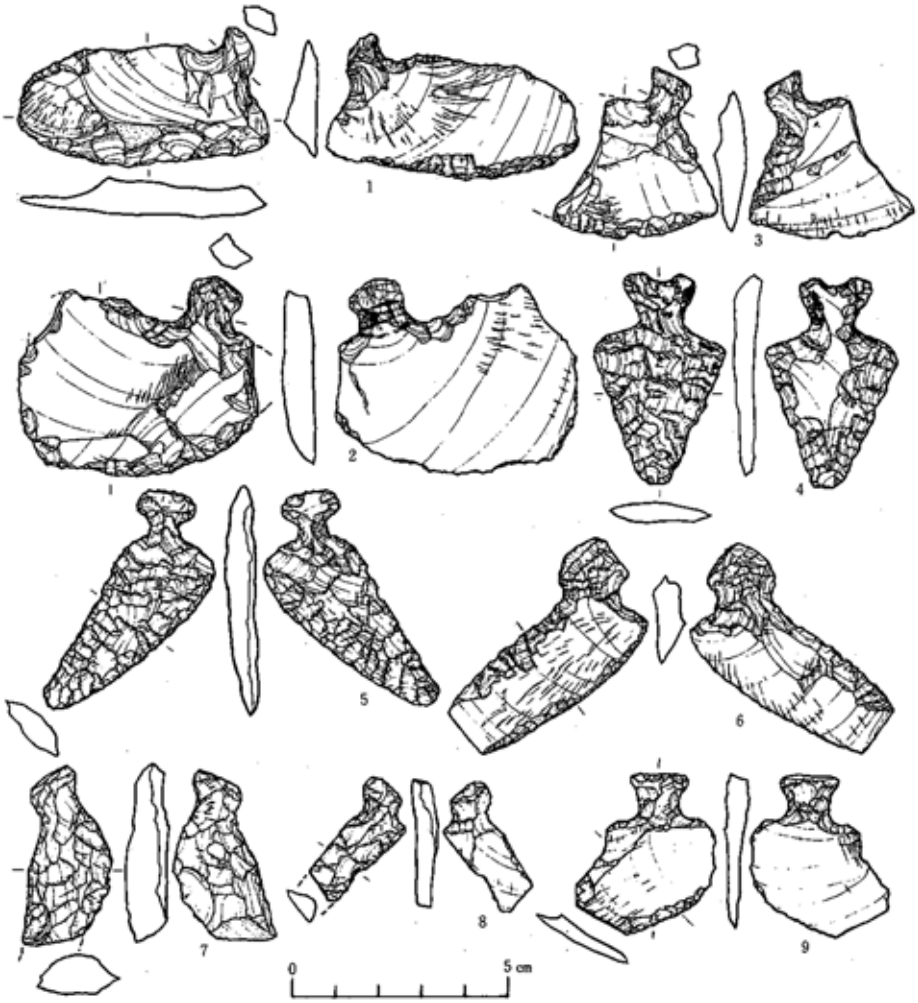
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	ウエム角度・大きさ(mm)	素材	北部面	刃部加工・角度 左	刃部加工・角度 下	刃部加工・角度 右	備考	登録番号	図番	版番号
1	CK39－1	不明	A I 1	珪質頁岩	69.1 × 30.7	9.5	25.7	18°・9.1	縦長・A	○	a2・55°	b1・53°	b1・73°		1075	28－19	
2	表採	不明	A I 1	珪質頁岩	64.0 × 25.5	10.5	12.7	5°・11.8	縦長・B	×	b1・57°	－・－	b1・55°		1994	28－20	
3	CM42－11	不明	A I 1	珪質頁岩	26.9 × 15.7	5.5	1.6	26・11.9	横長・C	○	c・45°	－・－	c・56°		2748	28－21	
4	CM42－9	不明	A I 1	珪質頁岩	29.0 × 17.0	5.4	2.5	29°・(6.2)	横長・C	×	a1・58°	－・－	b1・80°		5879	28－22	
5	BD52－1	不明	A I 2	珪質頁岩	33.1 × 11.2	4.8	1.5	13°・11.2	縦長・B	×	b1・61°	－・－	b1・45°	鋭ケバジケ	307	28－24	
6	CP42－2	不明	A I 2	珪質頁岩	44.9 × 12.3	6.1	3.0	28°・8.2	縦長・A	×	a1・70°	－・－	b1・55°	打面調整剥離	1790	28－25	
7	CL45－3	不明	A I 2	黒色頁岩	61.4 × 16.0	5.7	6.4	10°・10.8	縦長・B	×	a1・52°	－・－	b1・62°	打面調整剥離	1026	28－23	
8	CP47－3	不明	A I 2	珪質頁岩	74.5 × 16.7	7.4	9.3	12°・(7.2)	縦長・C	×	b1・56°	－・－	a1・65°	打面調整剥離	1408	28－26	
9	CM41－2	不明	A I 2	珪質頁岩	37.9 × 10.4	4.5	1.8	22°・6.9	縦長・C	×	a2・55°	－・－	b1・75°		967	28－27	
10	CM42－9	不明	A I 2	珪質頁岩	43.0 × 16.2	7.5	(4.7)	－・(11.8)	縦長・A	×	b・60°	＝・＝	b・50°	先端着しく摩耗	2636	28－28	
11	CK41－4	不明	A II 2	珪質頁岩	46.9 × 11.8	7.1	3.7	7°・(3.6)	縦長・A	×	b1・64°	b1・65°	b1・80°		6257	28－29	
12	CL44・45-ユベルト	不明	A I 2	珪質頁岩	(48.4)×(15.4)	(5.9)	(4.7)	－・－	横長・C	×	a2・40°	－・－	b1・71°	打面調整剥離	5824	28－30	
13	CM43－溝	不明	A I 2	珪質頁岩	(42.0)×(26.2)	(6.7)	(6.5)	14°・9.0	縦長・A	×	a1・30°	－・－	a1・60°		6349	28－31	
14	CM41－1	不明	A I 2	黒色頁岩	33.9 × 17.4	5.7	3.0	－・7.8	縦長・A	×	a1・65°	－・－	a1・60°		861	28－32	

第117図　石匙(7)



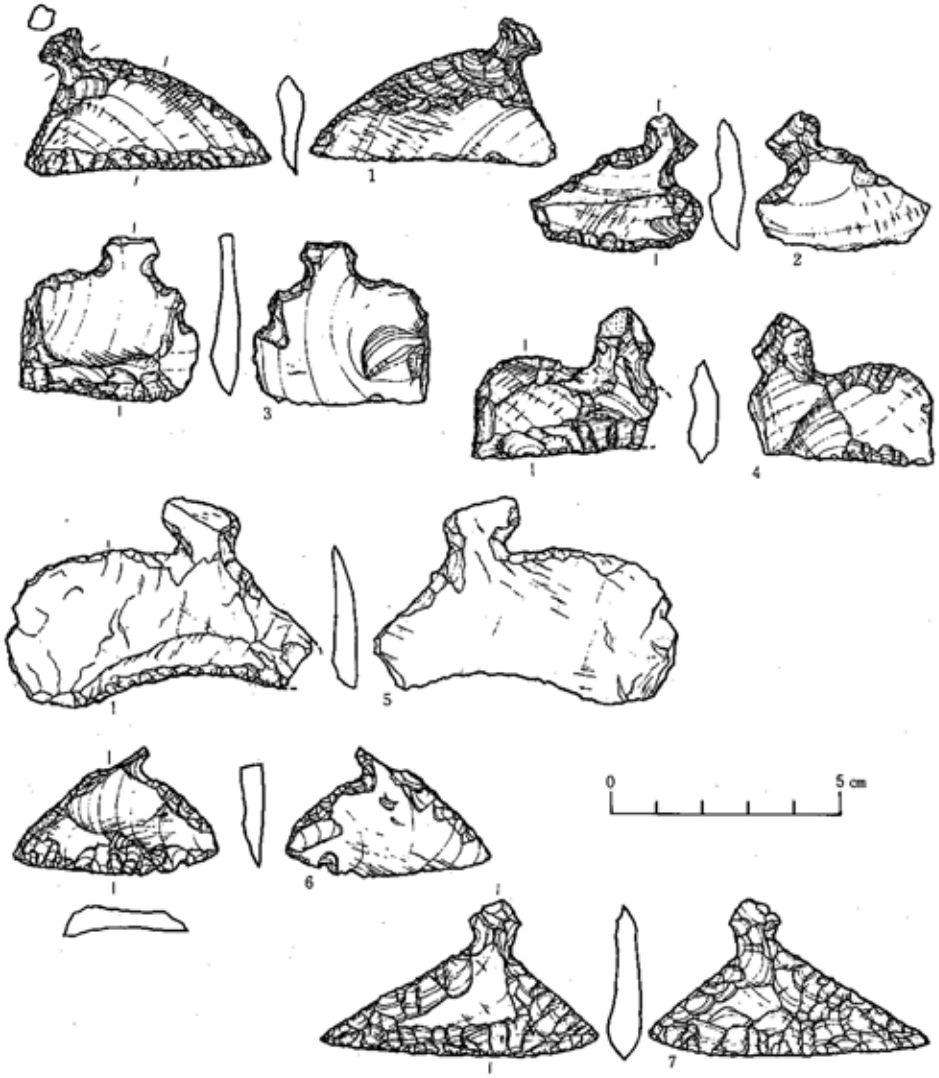
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(cm)	型式	自然面	刃部加工・角度 左	刃部加工・角度 下	刃部加工・角度 右	備考	登録番号	図版番号
1	表採	不明	(A)	頁岩	(42.0)× 30.0	9.5	(9.9)	—・—	縦長・B	○	a・50°	—・—	b・55°		1380	28－2
2	CQ42－1	不明	(A)	珪質頁岩	(32.0)× 18.0	5.1	(3.0)	—・—	縦長・A	×	b・55°	—・—	b・45°		1779	28－1
3	CL38－27	不明	(A)	珪質頁岩	(28.4)×(22.9)	(6.6)	(3.9)	—・10.0	縦長・A	○	a1・50°	—・—	b1・55°		1145	28－3
4	DD31－2	不明	(A)	黒色頁岩	(46.3)× 17.2	5.1	(4.8)	(16°)・11.7	縦長・A	×	a1・55°	—・—	b1・50°		29	28－4
5	CL38－31	不明	(A)	珪質頁岩	(47.7)× 14.0	7.6	(5.0)	—・9.2	不明	×	a1・60°	—・—	a1・65°		1610	28－5
6	CK43－1・2	不明	(A)	珪質頁岩	(36.9)×(23.5)	(4.5)	(3.7)	—・14.0	縦長・A	×	a1・55°	—・—	a2・45°		1394	28－6
7	CL44－4	不明	(A)	珪質頁岩	(21.6)×(16.0)	(4.0)	(1.2)	—・10.1	縦長・B	×	b・—	—・—	b・45°		1306	28－7
8	DB39－1	不明	BⅡ1	珪質頁岩	59.7 × 67.5	15.6	61.6	57°・(16.0)	横長・A	○	a2・40°	a1・55・	b1・35°		1727'8	28－8
9	CK42－4	不明	BⅡ1	珪質頁岩	40.0 × 88.4	8.8	37.1	53°・13.0	横長・C	×	a・—	b1・45・	—・—		1051	28－9

第118図　石匙(8)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	主剥面	刃部加工・角度			備考	登録番号	図番号
											左	下	右			
1	CM42－11	不明	B11	黒色頁岩	29.6 × 56.3	8.5	14.0	54°・(8.7)	縦長・A	○	b2・34°	a1・48°	c・57°		2747	28－10
2	BM60－2	不明	B113	珪質頁岩	44.6 ×(55.4)	10.4	(24.2)	(62°)・12.4	横長・A	×	c・52°	b1・60°	－・－	アスファルト	91	28－11
3	DA39－1	不明	(B)	珪質頁岩	(38.2)× 40.8	7.4	(8.5)	65°10.4	縦長・A	×	－・－	b1・43°	b1・45°		3000	28－12
4	BB57－1	不明	A12	珪質頁岩	39.3 × 28.4	5.2	5.4	23°・16.6	横長・C	×	a1・31°	－・－	a1・32°		1040	28－13
5	CP42－2	不明	A12	珪質頁岩	50.6 × 25.4	6.4	7.3	43°・13.4	不明	×	a1・54°	－・－	a1・49°		1789	28－14
6	CL38－14	不明	B113	珪質頁岩	25.8 × 49.0	11.1	11.9	51°・16.6	縦長・A	○	a1・24°	c・35°	b・－		467	28－15
7	CL40－25	不明	(A)	黒色頁岩	(40.9)× 18.6	(9.8)	(9.3)	－・12.3	不明	×	a1・80°	－・－	a1・70°	∴	273	28－16
8	CK39－8	不明	(A)	珪質頁岩	(11.9)×(28.3)	(6.5)	(1.6)	－・(8.9)	横長・A	×	a1・40°	－・－	b・59°		1943	28－17
9	CM42－6	不明	(A)	珪質頁岩	31.7 ×(26.3)	7.2	4.5	34°・13.4	縦長・A	×	b2・38°	－・－	b1・37°		2495	28－18

第119図　石匙(9)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ×幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	つまみ角度・大きさ(mm)	素材	自然面	刃部加工・角度			備考	登録番号	図版番号
											左	下	右			
1	CM43－第	不明	BII 2	珪質頁岩	31.7 × 53.9	5.8	7.1	55° · 10.6	縦長・C	×	a1・40°	b1・34°	b1・58°		1751	28－19
2	表採	不明	BII 3	珪質頁岩	30.1 × 37.6	7.7	5.3	55° · 11.6	横長・A	×	b1・50°	b1・35°	b・		2014	28－20
3	CL42－2	不明	BII 3	珪化凝灰岩	36.0 × 38.9	7.7	10.6	86° · 12.2	横長・C	×	b2・76°	b1・50°	b1・30°		1092	28－21
4	BD50－2	不明	BII 3	珪化凝灰岩	30.7 ×(39.5)	9.6	(10.9)	(79°) · 12.8	縦長・A	○	b1・—	a1・55°	—・—		1395	28－22
5	CM48－1	不明	BII 1	珪化凝灰岩	(29.0)×(67.1)	(8.6)	(19.7)	81° · 17.5	縦長・C	×	c・—	b1・55°	—・—		6353	28－23
6	DB41－1	不明	BII 2	珪質頁岩	(28.1)× 44.6	5.6	(15.8)	(88°) · —	縦長・C	×	a1・60°	b1・32°	a1・45°	つまみ部再加工	17	28－24
7	CM48－1	不明	BII 2	珪質頁岩	34.6 × 60.7	7.1	10.4	82° · 11.5	横長・A	×	a1・55°	a1・60°	a1・65°	中	6302	28－25

第120図 石匙(10)

不定形石器、ピエス・エスキーユ、石核（第123図～第164図）

ここでは、石鏃、尖頭器、石錘、石匙を除く剥片石器を扱った。総数は383点出土している。

1分 類

1刃部が作り出されている部位による区分

不定形石器の分類は加工によって鋭い縁辺が作り出されているものを刃部と認定し、刃部がどのように認められるかをもとに行った。そのため刃つぶし状に行われている加工はブランティングとし、下記の基準には含めていない。

Ⅰ　剥片の1縁辺に刃部があるもの

a　刃部を作り出しているもの

b　刃部を作り出さず使用痕としてマイクロ・フレイキングが認められるもの（使用痕のある剥片）

c　刃部を作り出し、折れ面あるいは折断面と組み合って鋭利な部分があるもの

Ⅱ　剥片の2縁辺に刃部があるもの

a　隣接している2縁辺に刃部が作り出されているもの

b　2側縁に刃部が作り出されているもの

c　刃部を作り出さず2側縁にマイクロ・フレイキングが認められるもの（使用痕のある剥片）

d　2側縁に作り出された刃部が1点に収束しているもの

Ⅲ　剥片の3縁辺に刃部があるもの

a　刃部が作り出されているもの

b　刃部が作り出されているもののうち、刃部が1点に収束し鋭利になっているもの

c　刃部を作り出さずマイクロ・フレイキングが認められるもの（使用痕のある剥片）

Ⅳ　周縁に刃部があるもの

a　多面角状を呈し、1頂部が鋭利に尖るもの

b　長方形をしているもの

c　円形をしているもの

d　三角形をしているもの

e　いわゆる異形のもの

Ⅴ　両極剥離による、1対または2対の刃部がみられるもの（ピエス・エスキーユ）

Ⅵ　石　核

2　刃部のあり方による分類

1　両刃をしているもの。深い剥離によって作り出され、刃部角度は小さい。

2　片刃をしているもの。浅い剥離によって片面から作り出されることが多い刃部で、刃部角度が大きい。

2出土状況

ＣＬ・M39～41区の包含層から層位的に出土しているのは175点で46％を占めている。

層との関係を時期ごとにみる。

第Ⅱ期　ＣＬ41区20層から2点出土している。他はＣＬ39区38層、CM39区38層、CM39区37層の各層から1点ずつ出土している。

第Ⅲ期　ＣＬ39区37層から3点出土している。またＣＬ41区17層、CM41区28層からは2点、他は1点ずつの出土である。

第Ⅳ期　ＣＬ40区26層が8点と最も多い。他にＣＬ41区17層から4点、ＣＬ39区36層から3点、ＣＬ41区18層から2点、CM41区27層から1点出土している。

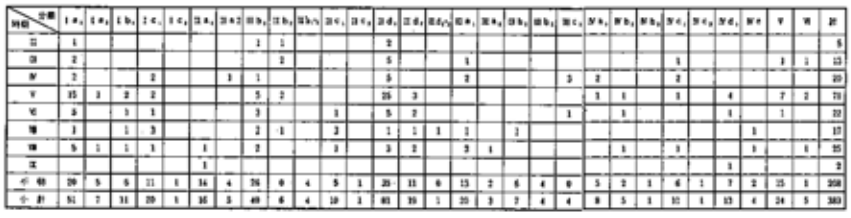
第Ⅴ期　ＣＬ40区25層から10点出土しており最も多い。ＣＬ39区32層、ＣＬ39区31層、ＣＬ41区15層がこれにつぎ、8点の出土である。ＣＬ40区23層、CM41区26層からは5点出土している。4点出土しているのはＣＬ40区24層、ＣＬ41区16層、CM41区23層である。CM39区32層、CM41区25層からは3点、ＣＬ39区31固層から2点、他は各層から1点ずつ出土している。

第Ⅵ期　ＣＬ40区22層から出土している5点が最も多い。ＣＬ39区30層、ＣＬ40区19層からは4点出土している。他にCM40区7層、ＣＬ41区14層から2点、他は各層から1点ずつ出土している。

第Ⅶ期　ＣＬ40区16層の3点が最多である。ＣＬ39区2面層、ＣＬ40区15層、ＣＬ41区10層、ＣＬ41区9層、ＣＬ41区8層から2点、ＣＬ39区25層、ＣＬ40区18層、CM39区27層、ＣＬ41区10層、ＣＬ41区9層、ＣＬ41区8層から2点、他は各層から1点ずつ出土している。

第Ⅷ期　同一層位から2点出土しているのが点数としては最も多い。その他の地区層位からは1点のみ出土しており、特定の層から多量に出土していることはない。

第Ⅸ期　CM41区5層から2点出土している。



第24表　不定形石器時期別・分類別出土数量表

3時期による変化（第24表）

時期が特定できる不定形石器は第Ⅱ期5点、第Ⅲ期13点、第Ⅳ期20点、第Ⅴ期71点、第Ⅵ期22点、第Ⅶ17点、第Ⅷ期25点、第Ⅸ期2点である。

第Ⅱ・Ⅲ期は貝層下の土層であるため水洗選別を行っていない。発掘時とりあげ分のみであるため、水洗選別を行っている第Ⅳ期以降と同列に出土数を比較することはできない。貝層形成期（第Ⅳ期）以後では第Ⅴ期・Ⅸの出土数が他時期と違っている。第Ⅳ・Ⅵ～Ⅷ期は20点前後にまとまっているのに対し、第Ⅴ期はその3.5倍、第Ⅸ期はその1/10になっている。

第Ⅱ・Ⅲ期は第Ⅱd_1類が多いが、全体量が少ないため正確な位置づけはできない。

石材＼時期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	計
珪質頁岩	1	8	6	28	10	9	12		74
黒色頁岩	2	3	9	27	5	1	2	2	51
珪化凝灰岩	2		1	7		2	6		18
玉髄			2	1	1		3		7
流紋岩		1		1	2	2	1		7
珪質凝灰質頁岩				1	1	1			3
凝灰質頁岩				2					2
馬瑙岩				2		1			3
石英安山岩質凝灰岩					1		1		2
頁岩				1					1
流紋岩質凝灰岩		1	1						2
細粒石英安山岩質凝灰岩				1					1
細粒安山岩質凝灰岩			1						1
砂質凝灰岩					1				1
細粒凝灰質頁岩					1				1
石英安山岩						1			1
計	5	13	20	71	22	17	25	2	175

第25表　不定形石器時期別・石材別出土数量表

分類＼時期	Ⅰa_1	Ⅰa_2	Ⅰb_1	Ⅰc_1	Ⅰc_2	Ⅱa_1	Ⅱa_2	Ⅱb_1	Ⅱb_2	Ⅲb_1′	Ⅱc_1	Ⅱc_2	Ⅱd_1	Ⅱd_2	Ⅲd_1′	Ⅲa_1	Ⅲa_2	Ⅲb_1	Ⅲb_2	Ⅲc_1	Ⅳa_1	Ⅳb_1	Ⅳb_2	Ⅳc_1	Ⅳc_2	Ⅳd_1	Ⅳe	Ⅴ	Ⅵ	計
珪質頁岩	24	3	4	13	1	11	1	39	2	1	2	1	38	34	1	10	3	2	1	2	2	3		4	1	3	2	6	4	107
黒色頁岩	9		2	5		3		3		1	1		17	3		4		2	1	2	3	1	1	2		5	1	15		61
珪化凝灰岩	7	2	1	1		1	2	2	1	1	2		6					1			1	1		1		2				34
玉髄	4							1					5	1		2														13
頁岩	2							1	1				2						1					1		1		1		10
[illegible]				1			1	2					1					1			2			1		1				10
流紋岩	1					1		2	1				2			1												1		9
細粒凝灰岩	1	1		1				1					1			1														6
凝灰質頁岩							1						3	1												1				6
[illegible]	1										3		1															1		6
細粒石英安山岩質凝灰岩											1		1			1								2						5
石英安山岩質凝灰岩	1		2								1																			4
馬瑙岩	1																										1		1	3
[illegible]													2																	2
石英安山岩			1							1																				2
砂質凝灰岩	1																												1	1
[illegible]			1																											1
砂質頁岩																1														1
凝灰岩 [illegible]																		1												1
シルト岩																			1											1
計	32	6	11	20	1	16	5	41	5	4	10	1	81	19	1	20	3	7	4	4	8	5	1	11	1	13	4	16	5	263

第26表　不定形石器分類別・石材別出土数量表

第Ⅳ期は第Ⅱｄ$_1$が5点と最も多い。3点はＣＬ40区26層から出土している。

第Ⅴ期は第Ⅱｄ$_1$が25点ある。第Ⅵ類が2点あることも無視できない。

第Ⅵ期は第Ⅱｄ$_1$類の5点、第Ⅰａ$_1$類の5点、第Ⅱｂ$_1$類の3点がやや多いといえるが、特定の類に集中しているとはいえない。

第Ⅶ期は最も多いもので第Ⅰｃ$_1$類、第Ⅱｃ$_1$の3点であり、全体に散満なあり方をしている。

第Ⅷ期は第Ⅰａ$_1$類が5点で最も多いが、特徴的なあり方を指摘することはできない。第Ⅵ類がある。

第Ⅸ期は2点のみであり、詳細は明らかにしえない。

4石　材（第25・26表）

全体的には珪質頁岩が多い。時期別にみると第Ⅳ期に黒色頁岩が珪質頁岩より多く、第Ⅴ期では黒色頁岩がほぼ同数になる。

分類別にみると珪質頁岩が多用されている傾向があるが、第Ⅳｄ$_1$・Ⅴでは黒色頁岩が多い。

5各類のあり方

分類した不定形石器を時期別にみると、第Ⅵ期までは第Ⅱｄ$_1$類が多いことがわかる。石材別にみると第Ⅳ・Ⅴ期では黒色頁岩と珪質頁岩が同じように使われており、他時期では珪質頁岩が多いことがわかる。

しかし、中には第Ⅸ期のように2点しか出土していない時期もあり、時期別に検討すると資料数が不足し、必ずしも適切な方法とはいえなくなってしまう。そこで、以下では田柄貝塚における不定形石器、ピエス・エスキーユ、石核のあり方としてまとめ、時期的には後期前半～晩期前半の様相として、その特徴をみてみたい。

1第Ⅰ～Ⅳ類のあり方

第Ⅱｄ$_1$が81点で最も多い。以下、第Ⅱｂ$_1$類、第Ⅰａ$_1$類、第Ⅰｃ$_1$類、第Ⅲａ$_1$類、第Ⅱｄ$_2$類などが続き、主要なタイプといえる。

形態を属性別にみると、2側縁が1点に収束するタイプ、すなわち第Ⅰｃ類、第Ⅱｄ類が多い。合わせて122点ある。そのうち第Ⅱｄ類がより一般的である。

刃部のあり方では2類とした片刃型は多くない。第Ⅰａ$_2$・Ⅰｃ$_2$・Ⅱａ$_2$・Ⅱｂ$_2$・Ⅱｃ$_2$・Ⅱｄ$_2$・Ⅲａ$_2$・Ⅳｂ$_2$・Ⅳｃ$_2$類を合わせて44点で全体の11％にすぎない。こうした中では第Ⅱｄ$_2$類が19点あることは注意される。

素材剥片は打瘤部を残す剥片が多数をしめている。大部分が突出したバルブ形状をもつ。

折断技法は第Ⅰ・Ⅱ類に認められる。今回折断としたのは、折れ面に複数の剥離があること、あるいは両極剥離がみられることを根拠とした。第Ⅰ類では第Ⅰｃ類の他に折断によって三角形や台形を作り出しているものが第Ⅰａ類中にみられる。第Ⅱ類には上下端を折断したもの

（第Ⅱb類中）、上端を折断したもの（第Ⅱｄ類中）もある。これらは「折断調整石器」（阿子島1979）と深いかかわりがあろう。

第Ⅰ～Ⅳ類のうち加工した刃部に使用痕が観察されるものは稀であう。剥片に刃こぼれ状をしたマイクロ・フレイキング（第Ⅰb類など）は一般的にあるが、機能・用途を推定するには致らなかった。

第Ⅳ類には、周縁に刃部が作り出されているものをまとめた。第Ⅰ～Ⅲ類とは異なり、やや丁寧に作られているが定形的な石器とはいえない。ｂ類は第Ⅴ類としたピエス・エスキーユ、ｃ類はスクレイパー、ｄ類もスクレイパーなどと関連して考えられる。ｅ類はいわゆる異形石器である。

2第Ⅴ類のあり方

第Ⅴ類は形態、石材などに他の剥片石器にない特徴がある。このため項目別にその特徴を列記した後に、その使用法についてまとめてみたい。

(1) 形態

全体形は方形をしている。断面は凸レンズ状である。大きさは、長さ3cm以上4.5cm未満、幅2cm以上3cm未満のものが多く、中心部の厚さは1cm前後が多い。

(2) 加工・使用痕

両極剥離痕を持ち、向かい合っている辺の刃部につぶれがある。片面に自然面を残す例も多い。

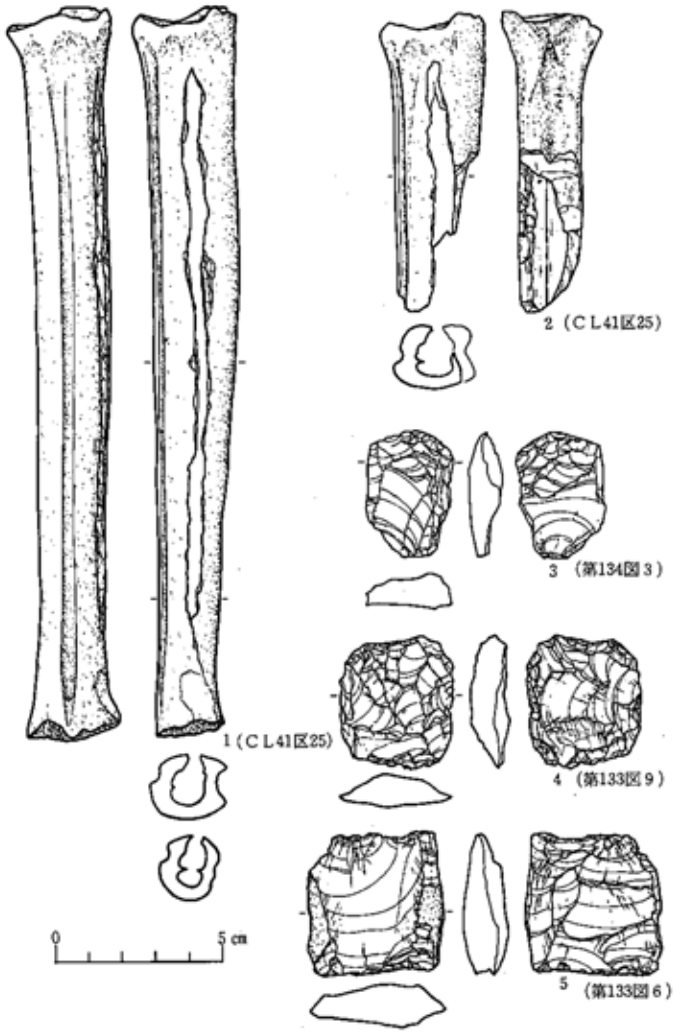
(3) 石材

田柄貝塚から出土している剥片石器は後述するように（付章参照）、珪質頁岩が多数を占めている。そうした中で第Ⅴ類では黒色頁岩が珪質頁岩より圧倒的（65%）に多く用いられている。

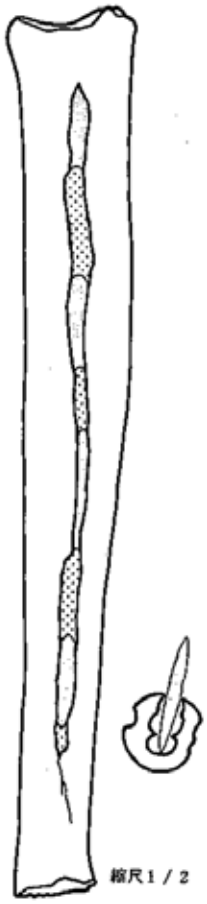
(4) 用途

第Ⅴ類がいかに扱われたかを断定する根拠を直接的に見つけることはできなかった。対になってつぶれている刃部の一部を使用痕とすると、比較的硬いものに対して使用した楔とする岡村氏の説（岡村：1976）が現状では最も妥当といえよう。

田柄貝塚では数多くの骨角器とともに加工痕のある鹿角や骨が出土している。第121図1・2はそうしたものの一つで、鹿の中尾骨の外側に加工によって作られた溝が認められる。第121図の溝をよく観察すると一直線になっているのではなく、2～3cmからなる小単位によって構成されていることがわかる。骨の内面には剥離がある。第122図1はそうした小単位にスクリーントーンを貼ったものである。ただし、隣り合っている小単位間の切り合いは剥離を観察してもわからなかったため恣意的に行った（剥離をみると小単位はもっと短いことも考えられる）。



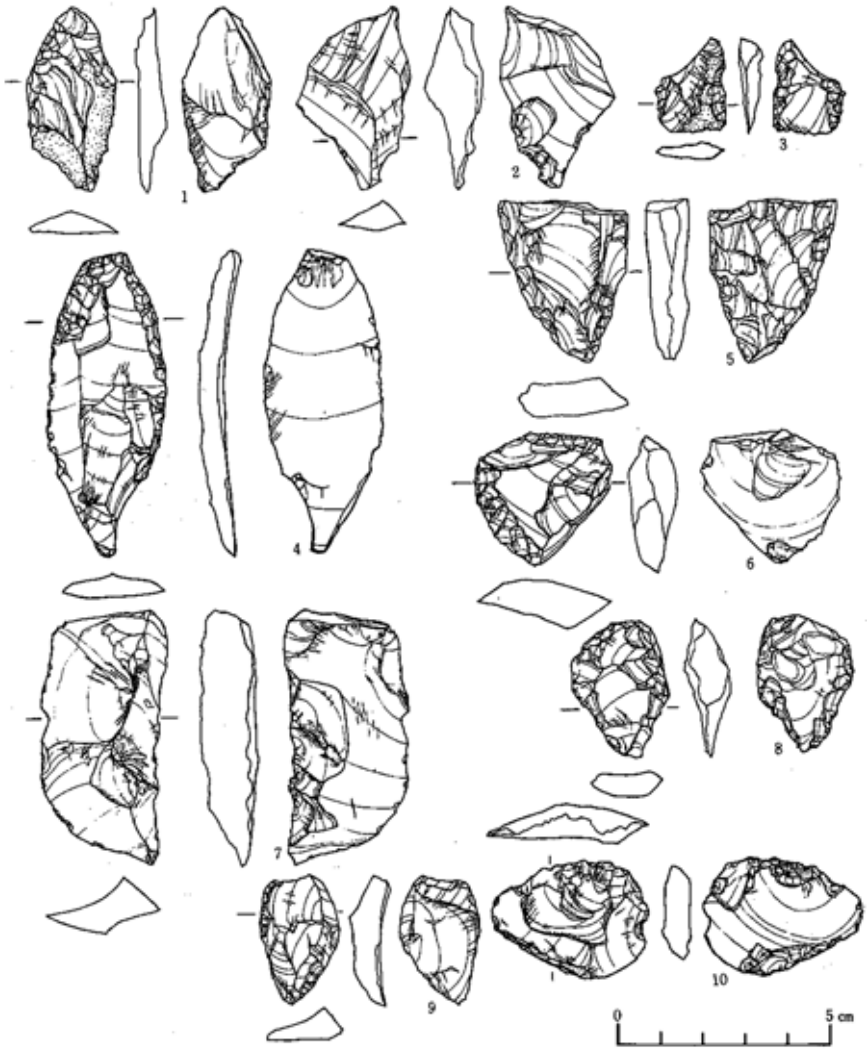
第121図　鹿中足骨加工痕と第Ⅴ類（第Ⅴ期）



第122図　加工痕と工具の関係概念図

この小単位のうち、最も遠位端寄りの単位は、長さ6mmほどである。溝の幅は4mmだが、断面でみるとこの溝の幅は隔壁にある溝と対応している。緻密質外側から隔壁までは1cm弱ある。

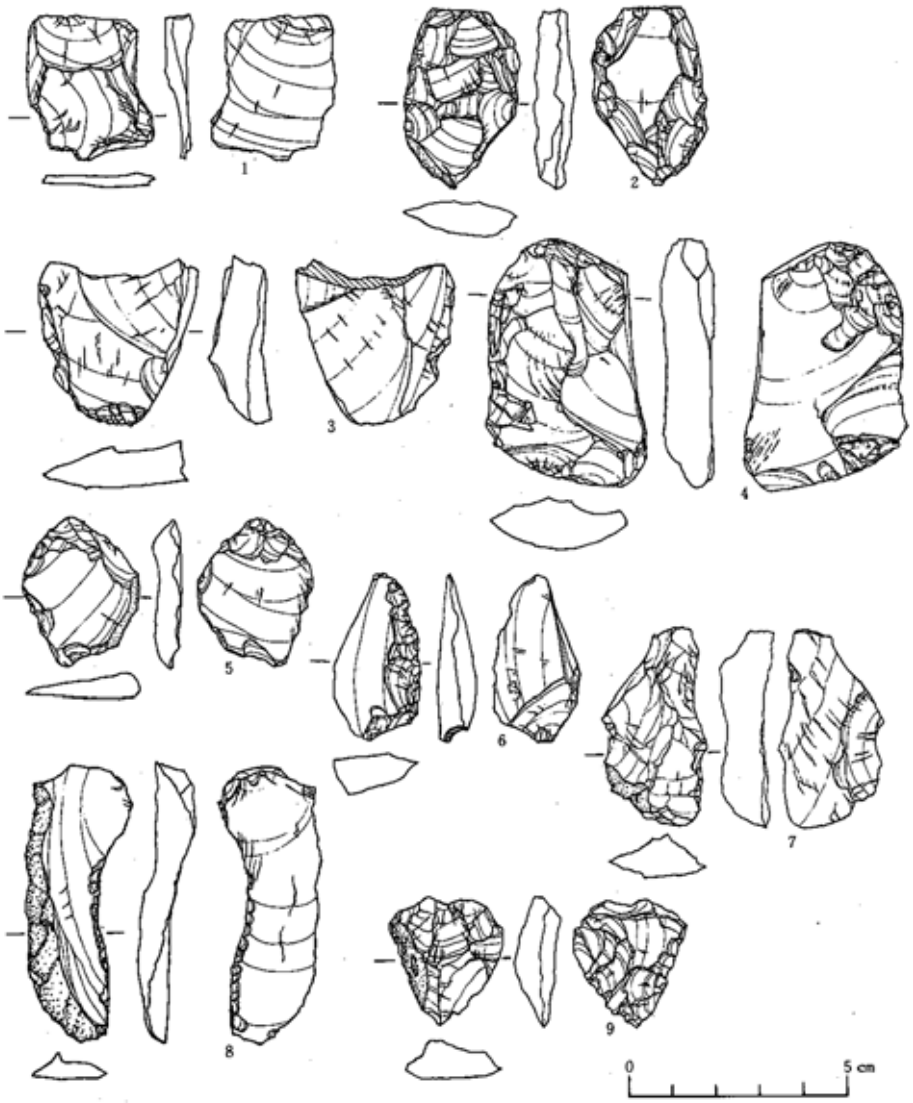
これらの溝は骨の緻密質を貫けるほど堅い材質で、厚さ5mmの刃部を持ち、しかもその刃部が隔壁にまでとどくもので、刃部の長さが3cmほどの道具によって施されたと考えられる。これらの条件にあてはまる道具を田柄貝塚から出土している遺物の中に求めるならば、現状では不定形石器第Ⅴ類とした石器が最もふさわしいであろう。しかしこれはネガティブな論証で



※ blun. はブランティング、m.f. はマイクロ・フレイキングを略記

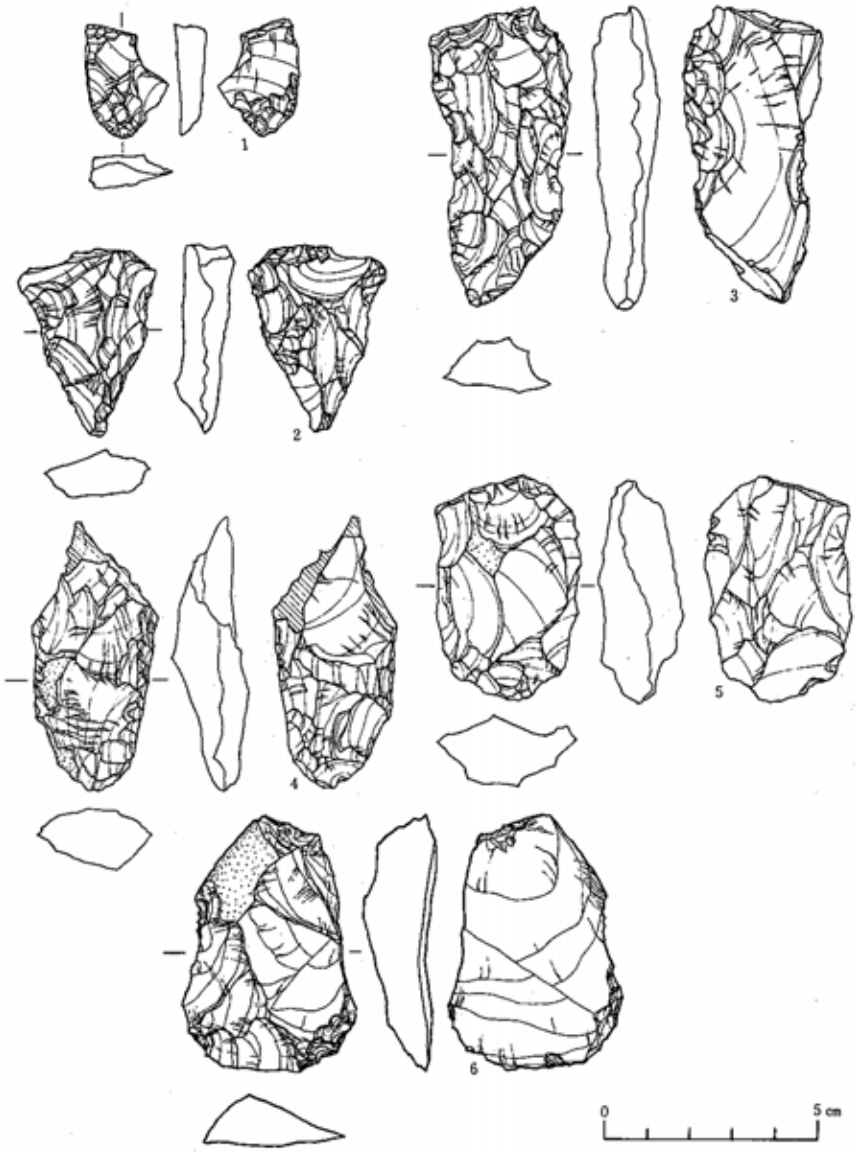
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL30－38	Ⅱ	Ⅰa₁	黒色頁岩	42.8	23.0	5.4	5.4	不明	左辺上部背面、下部腹面に加工	1849	29－1
2	CL41－20	Ⅱ	Ⅱb₂	珪質凝灰岩	43.5	15.0	7.0	9.1	不明	左辺・右辺腹面に加工	6678	29－2
3	CL41－20	Ⅱ	Ⅱb₁	珪質頁岩	22.7	24.2	4.0	1.7	不明	左・右辺両面に加工	1813	29－3
4	CM30－38	Ⅱ	Ⅱd₁	珪質凝灰岩	70.7	27.0	5.7	8.2	縦長	左・右辺背面に加工	1881	29－4
5	CM39－27	Ⅱ	Ⅱd₁	黒色頁岩	37.6	25.9	7.9	12.6	不明	上辺折断、左・右辺両面に加工	1670	29－5
6	CM41－38	Ⅲ	Ⅰa₁	珪質頁岩	31.3	32.5	9.7	9.7	縦長	上辺 blun.、左辺背面に加工	1930	29－6
7	CM39－35上	Ⅲ	Ⅱb₂	黒色頁岩	60.5	28.2	12.2	22.8	縦長	右辺腹面に加工、左辺両面に m.f.	1674	29－7
8	CM41－28	Ⅲ	Ⅱd₁	黒色頁岩	33.0	17.1	5.2	6.1	横長	左・右辺両面に加工、腹面横けはじけ	1806	29－8
9	CL39－37	Ⅲ	Ⅱd₁	珪質頁岩	31.0	17.0	7.5	3.5	横長	左・右辺背面に加工	6674	29－9
10	CL41－19	Ⅲ	Ⅱd₁	珪質頁岩	34.4	29.2	7.9	4.1	横長	上辺両面・下辺腹面に加工	1738	29－10

第123図　不定形石器(1)



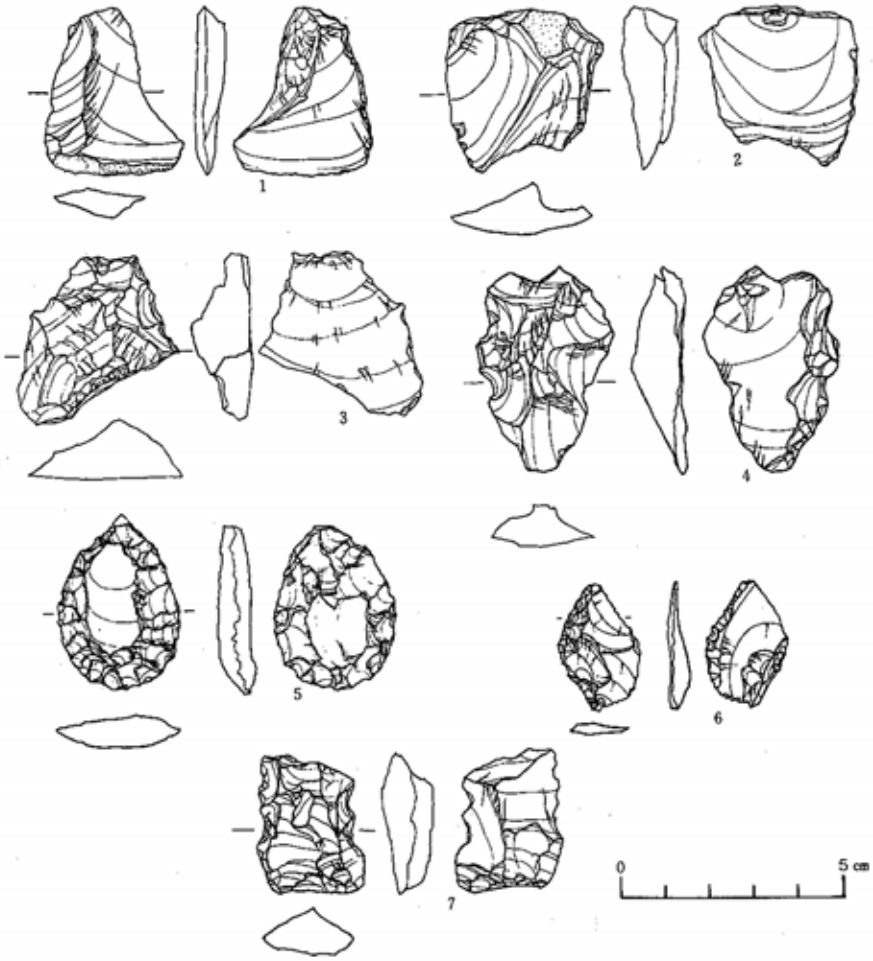
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL39－37	Ⅲ	Ⅲa₂	流紋岩	33.2	25.7	3.0	7.8	縦長	左辺背面に加工、右・下辺両面にm.f.	6664	29－11
2	CL39－37	Ⅲ	Ⅱb₁	珪質頁岩	41.0	26.0	7.4	9.8	縦長	自然面を残す、左・右辺両面に加工	6635	29－12
3	CL41－17	Ⅳ	Ⅰa₂	玉髄	39.7	35.2	10.7	15.3	不明	下辺背面に加工	5723	29－13
4	CL39－36	Ⅳ	Ⅰa₁	黒色頁岩	54.6	36.4	11.6	25.7	縦長	左辺両面に加工	1941	29－14
5	CL40－26	Ⅳ	Ⅰc₁	黒色頁岩	34.5	25.8	5.7	5.4	縦長	左辺背面、左辺上部～右辺上部両面に加工	6630	29－15
6	CL41－18	Ⅳ	Ⅰc₁	珪質頁岩	38.0	19.5	8.5	5.6	横長	右辺背面に加工	6633	29－16
7	CL40－26	Ⅳ	Ⅱa₂	流紋岩（鉄石英寄り）	45.0	22.2	9.8	11.5	縦長	右辺・下辺背面に加工	6620	29－17
8	CL41－17	Ⅳ	Ⅱb₁	珪質頁岩	63.5	23.4	6.2	9.5	縦長	左辺背面、右辺両面に加工	5811	29－18
9	CL40－26	Ⅳ	Ⅱd₁	玉髄	30.1	22.0	8.6	3.6	不明	左・右辺両面に加工、上辺blue.	2977	29－19

第124図　不定形石器(2)



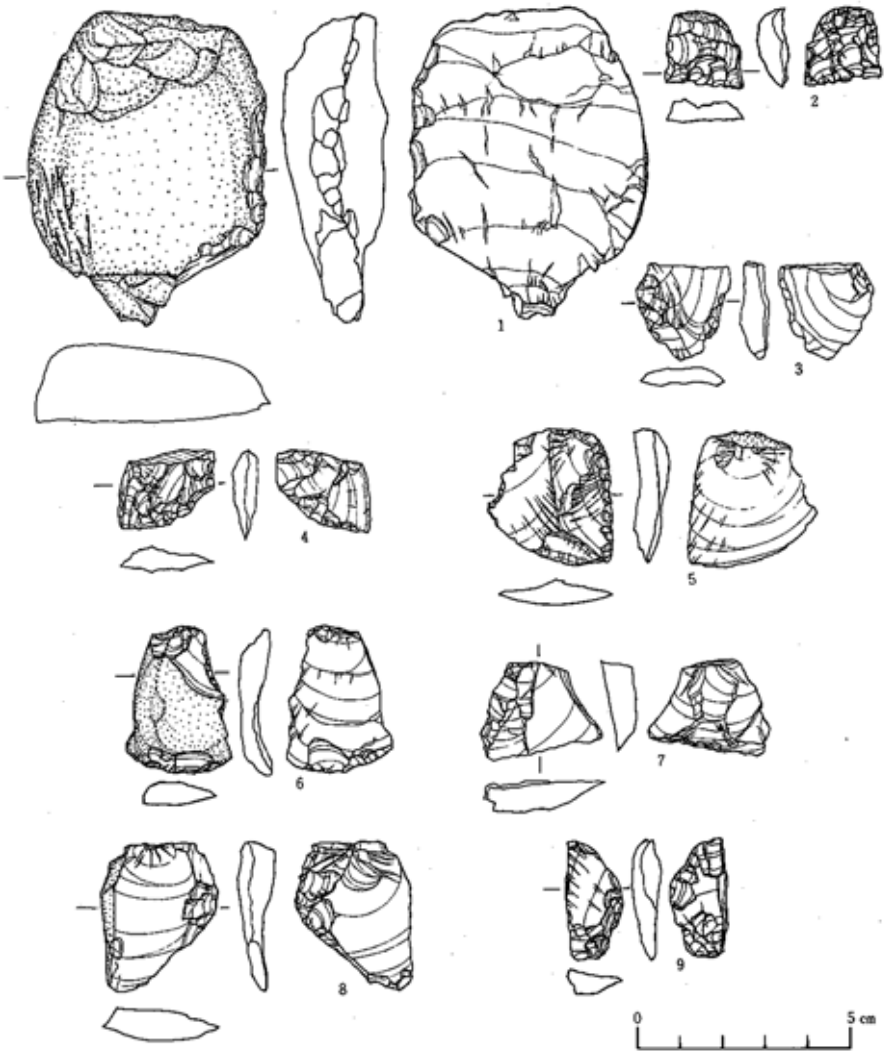
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－26	Ⅳ	Ⅱd_1	珪質頁岩(ジャスパー)	26.3	19.6	7.2	6.3	縦長	左・右辺、下辺両面に加工	6690	29－20
2	CL 40－26	Ⅳ	Ⅱd_1	黒色頁岩	60.1	32.7	14.0	29.7	横長	左・右辺両面に加工、上辺 blun.	3004	29－21
3	CL 39－36	Ⅳ	Ⅱd_1	黒色頁岩	44.2	32.4	12.4	14.1	不明	左・右辺両面に加工、上辺 blun.	5813	29－22
4	CL 41－17	Ⅳ	Ⅱd_1	珪質頁岩	40.3	33.5	9.8	23.9	不明	左・右辺両面に加工、右上部 blun.	1953	29－23
5	CL 40－26	Ⅳ	Ⅲa_2	硬板石質安山岩質(縦長片)	51.2	32.0	18.7	30.1	不明	左・右辺両面に加工、右上部 blun.	3005	29－24
6	CM 41－27	Ⅳ	Ⅲa_2	黒色頁岩	32.0	19.1	7.5	29.7	縦長	難状石器の行	1857	29－25

第125図　不定形石器(3)



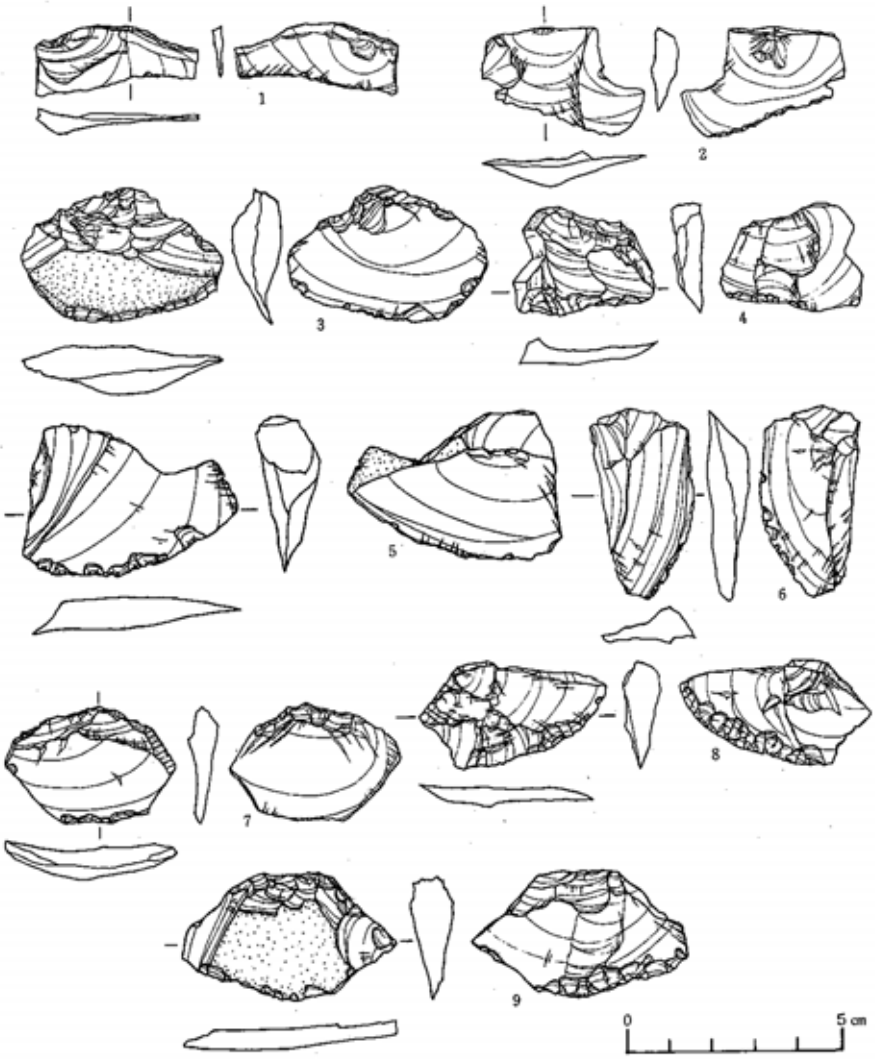
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL41－17	Ⅳ	Ⅲc₁	黒色頁岩	39.0	30.7	5.4	5.8	縦長	左・右・下辺にm.f.	6661	29－26
2	CL39－26	Ⅳ	Ⅲc₁	黒色頁岩	37.1	32.2	12.0	14.1	縦長	左・下辺腹面、右辺背面にm.f.	6599	29－27
3	CL40－26	Ⅳ	Ⅲc₁	珪質頁岩	34.0	25.2	6.7	12.5	縦長	背面にm.f. 新しいパティナあり	6611	29－28
4	CL41－18	Ⅳ	Ⅳa₁	流紋岩質凝灰岩	47.4	23.3	9.6	11.2	縦長	左辺腹面、右辺背面に加工	4373	29－29
5	CL40－26	Ⅳ	Ⅳc₁	黒色頁岩	37.0	25.0	7.0	16.7	不明	両面に加工	266	29－30
6	CL41－17	Ⅳ	Ⅳc₁	珪質頁岩	26.0	18.0	5.0	1.7	縦長	左辺背面、右辺腹面に加工	4235	29－31
7	CL39－34	Ⅳ	Ⅳa₂	黒色頁岩	32.1	20.5	10.8	7.9	不明	両縁背面加工、左辺腹面アスファルト付着	4373	29－32

第126図　不定形石器(4)



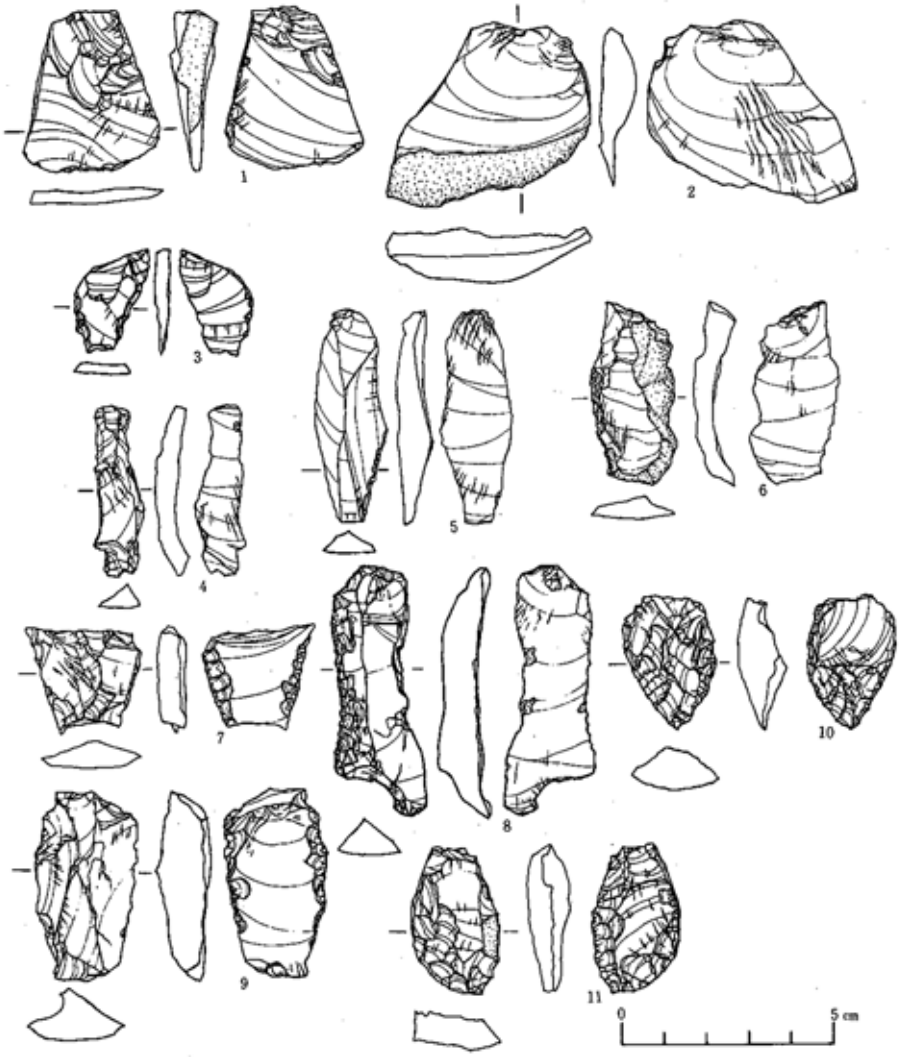
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL39－32	V	Ia_1	珪質頁岩	72.8	55.1	28.5	120.7	縦長	右辺背面に加工	1861	30－1
2	CL43－15	V	Ia_1	黒曜岩（微粒岩）	19.0	18.0	5.5	2.1	縦長	下辺両面に加工、自然面残す	3975	30－2
3	CL39－31c	V	Ia_1	珪化凝灰岩	23.2	20.0	3.5	2.7	横長	左辺背面に加工	5734	30－3
4	CL39－31a	V	Ia_1	玉髄	21.5	20.2	5.4	2.3	縦長	下辺両面に加工	5027	30－4
5	CM41－25	V	Ia_1	黒色頁岩	33.1	29.2	7.3	5.8	縦長	右辺背面に加工	1639	30－5
6	CL39－33	V	Ia_2	珪質頁岩	34.5	17.5	5.4	4.9	縦長	下辺背面に加工	6608	30－6
7	CL40－25	V	Ic_1	珪質頁岩（玉髄化）	21.6	28.5	7.2	4.5	横長	下辺腹面に加工	6638	30－7
8	CL41－16	V	Ic_1	黒色頁岩	35.6	27.7	7.6	7.5	縦長	右辺上部両面、下辺～左辺下部腹面に加工	949	30－8
9	CL40－25	V	Ia_1	珪質頁岩	28.6	12.7	6.0	1.9	縦長	右辺両面に加工	5883	30－9

第127図　不定形石器(5)



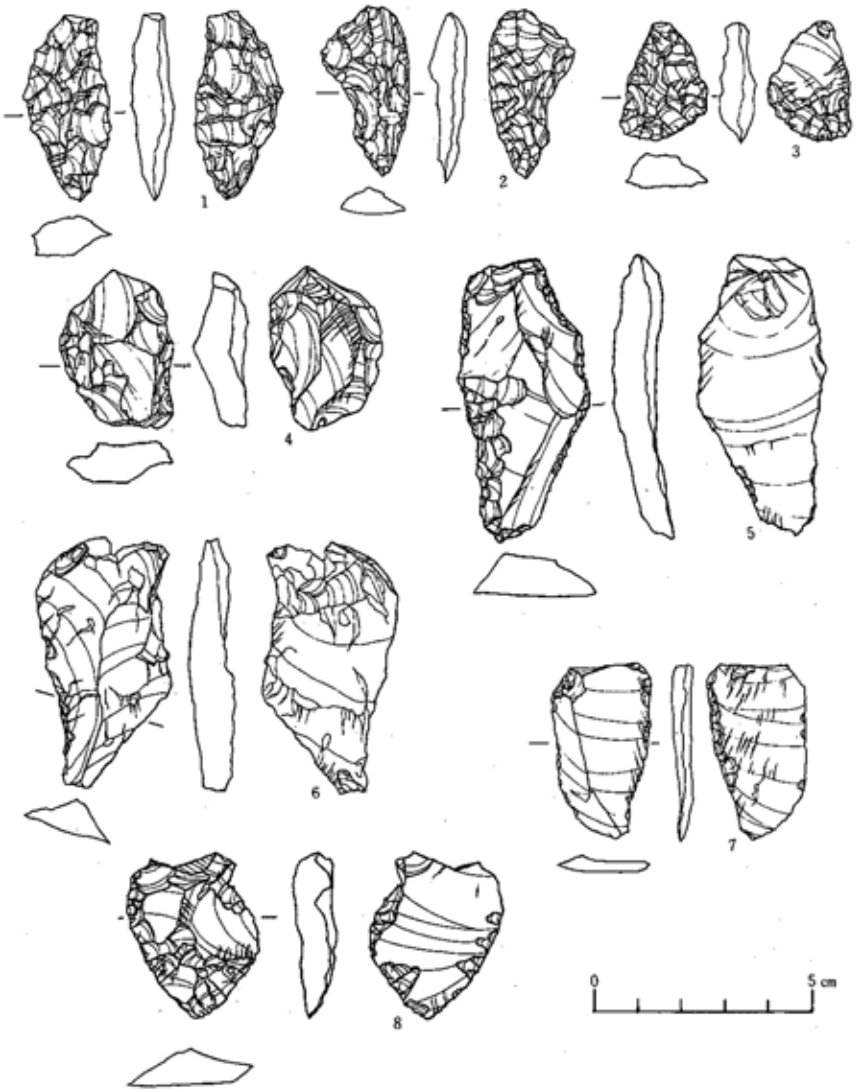
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL39－31a	V	Ia₁	黒色頁岩	12.0	38.0	4.6	1.7	横長	下辺腹面に加工、m.f. か(?)	6697	30－10
2	CL39－32	V	Ia₁	黒色頁岩	9.8	36.3	6.3	3.5	横長	下辺腹面に加工、m.f. か(?)	5601	30－11
3	CL39－31	V	Ia₁	黒色頁岩	32.0	47.1	11.5	12.2	横長	上辺 blun. 下辺背面に加工	6602	30－12
4	CL40－25	V	Ia₁	黒色頁岩	25.7	32.4	5.7	5.5	縦長	上辺 blun. 下辺両面に加工	6016	30－13
5	CM41－25	V	Ia₁	黒色頁岩	35.1	46.9	16.6	20.3	横長	下辺背面に加工	1647	30－14
6	CL40－24	V	Ia₁	珪質凝灰質頁岩	44.2	21.6	9.0	6.1	横長	下辺腹面に加工、m.f. か(?)	6600	30－15
7	CL40－24	V	Ia₁	黒色頁岩	37.5	40.0	7.0	6.0	横長	上辺 blun. 下辺背面に加工	6631	30－16
8	CL39－32	V	Ia₁	珪質頁岩	25.0	40.9	4.7	5.4	横長	下辺腹面に加工	5784	30－17
9	CM41－25	V	Ia₁	珪質頁岩	29.9	49.7	10.3	13.0	横長	上辺 blun. 下辺腹面に加工	5949	30－18

第128図　不定形石器(6)



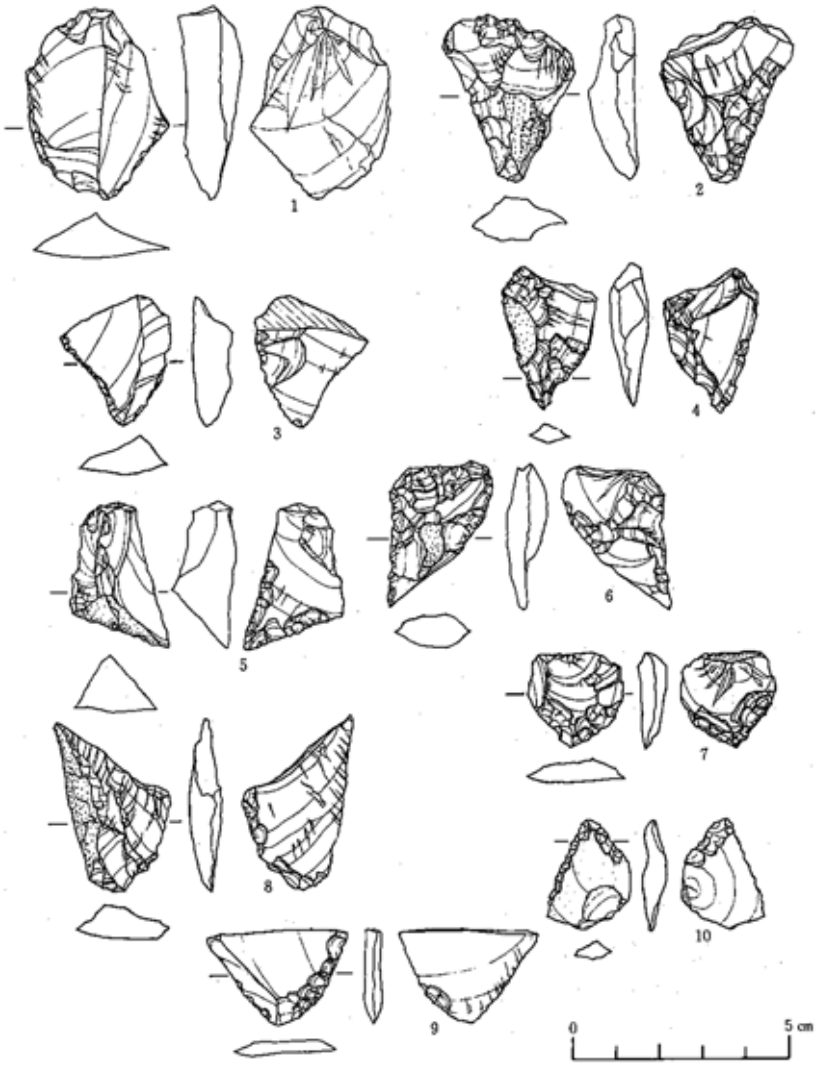
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 39－32	V	Ⅰb₁	珪化凝灰岩	38.1	31.3	3.2	10.4	縦長	下辺背面にm.f.	6651	30－19
2	CM 41－26	V	Ⅰb₁	黒色頁岩	37.5	49.4	12.2	18.6	横長	下辺背面にm.f.	6596	30－20
3	CM 41－26	V	Ⅱb₁	珪質頁岩	25.6	12.3	3.2	1.3	縦長	左・右辺背面に加工	4568	30－21
4	CL 40－23	V	Ⅱb₁	珪化凝灰岩(玉髄化)	40.0	10.0	5.0	2.1	縦長	左・右辺背面に加工、m.f. か(?)	6615	30－22
5	CM 41－26	V	Ⅱb₁	珪質頁岩	50.6	12.5	5.3	4.9	縦長	右辺下部背面に加工、左辺両面にm.f.	6606	30－23
6	CL 41－15	V	Ⅱb₁	珪質頁岩	43.5	19.8	5.6	5.1	縦長	左辺背面に加工、右辺両面にm.f.	5769	30－24
7	CL 39－32	V	Ⅱb₁	珪質頁岩(玉髄化)	25.5	23.5	6.5	4.5	縦長	上・下辺折れ左・右辺横面に加工	6484	30－25
8	CL 40－23	V	Ⅱb₁	微粒岩(一部玉髄化)	50.0	21.2	10.7	9.5	縦長	左・右辺背面に加工	1672	30－26
9	CL 39-32-35	V	Ⅱb₁	頁岩	45.2	24.2	12.3	13.0	縦長	左・右辺横面に加工	1814	30－27
10	CL 41－15	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	30.6	20.7	10.0	5.8	不明	左・右辺両面に加工	3980	30－28
11	CL 39－31	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	34.6	20.5	7.3	7.0	不明	左・右辺両面に加工	751	30－29

第129図　不定形石器(7)



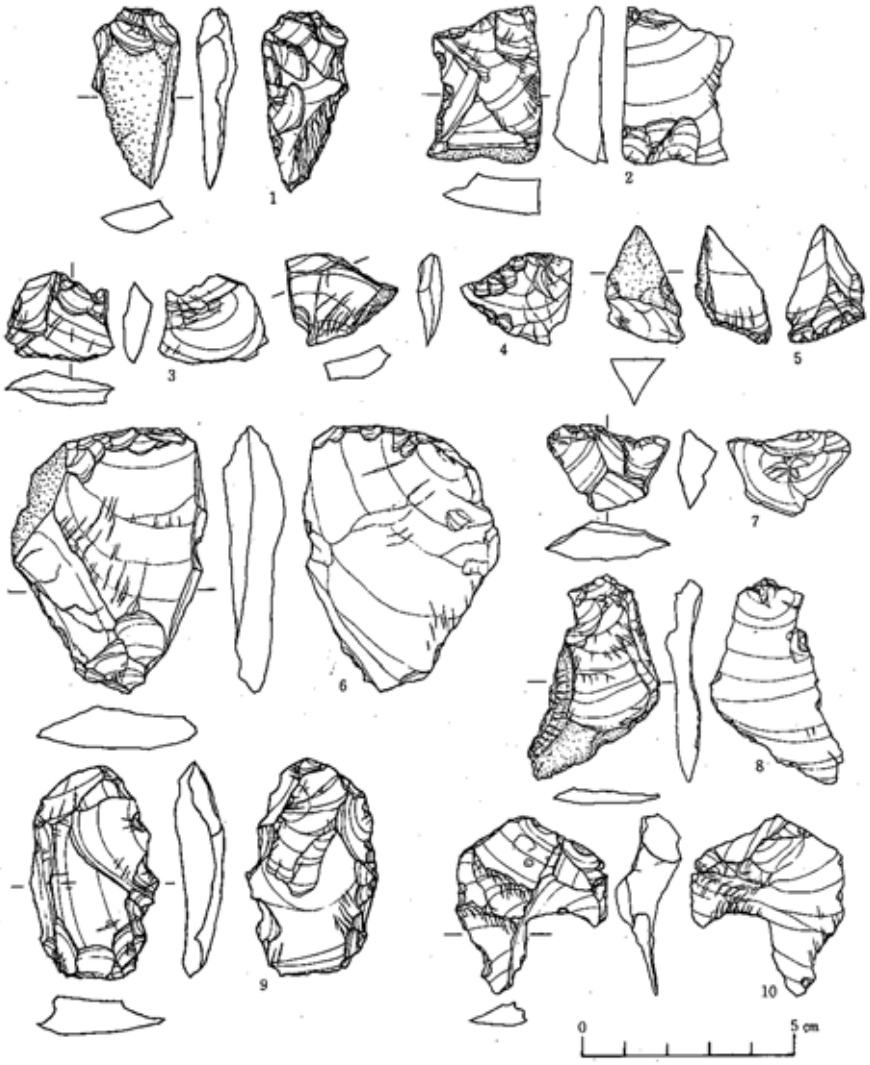
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	万部の特徴	登録番号	図版
1	CM 41－26	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	43.2	18.5	8.7	6.7	不明	左・右辺両面加工	4504	30－30
2	CL 41－16	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	39.4	14.6	6.2	4.9	不明	左・右辺両面加工	3978	30－31
3	CM 41－23	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	28.1	7.8	8.1	3.9	不明	左・右辺下部、両面に加工	3601	30－32
4	CL 41－15	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	35.2	23.0	7.7	13.3	不明	左・右辺両面に加工	3979	30－33
5	CL 39－32	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	63.6	29.1	9.1	18.0	縦長	左・右辺背面に加工、右辺下部両面、アスファルト	758	30－34
6	CL 39－31	V	Ⅱd₁	珪化結灰岩（一部又鉄化）	58.0	20.7	8.0	14.5	縦長	左辺背面に加工、右辺背面にm.f.	6670	30－35
7	CL 40－24	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	40.7	20.5	3.5	3.9	縦長	右辺横面に加工、左辺両面にm.f.	6626	30－36
8	CL 41－15	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	38.0	29.0	8.2	9.1	縦長	左・右辺両面に加工	3977	30－37

第130図　不定形石器(8)



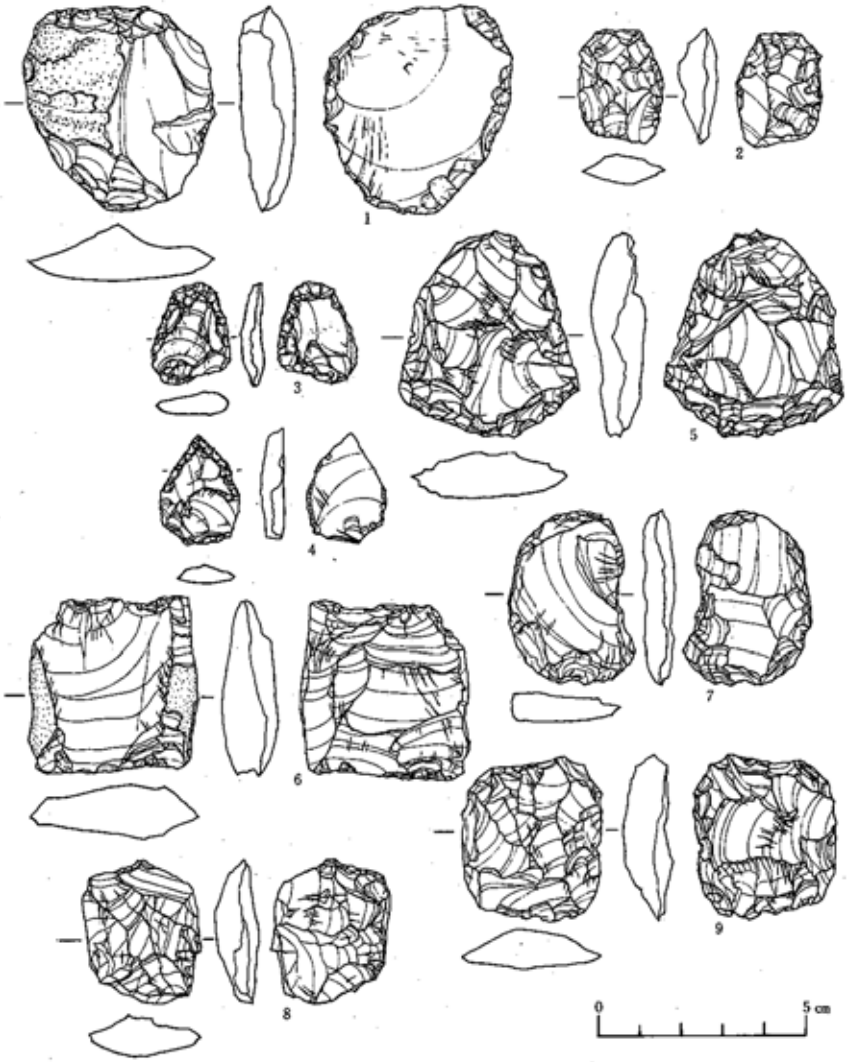
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－25	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	45.0	31.4	10.3	14.6	縦長	左辺背面に加工、右辺背面にm.f.	6597	31－1
2	CM 41－28	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	37.4	31.1	10.5	9.6	不明	上辺blue、左・右辺両面に加工	4502	31－2
3	CL 39－31	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	30.7	26.5	8.8	4.6	縦長	左・右辺背面に加工	5751	31－3
4	CL-M39-32	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	30.3	22.2	7.6	5.2	横長	上辺折れ、左辺背面、右辺両面に加工	5078	31－4
5	CL 39－32	V	Ⅱd₂	珪質頁岩	34.1	19.0	23.0	7.2	縦長	下辺・右辺腹面に加工	5929	31－5
6	CL 41－36	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	33.7	17.4	7.8	6.4	横長	左・右辺両面に加工	6223	31－6
7	CL 39－31	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	21.4	23.1	4.5	2.7	横長	左・右辺両面に加工	5921	31－7
8	CM 39－32	V	Ⅱd₁	珪化凝灰岩	43.0	21.2	7.5	5.9	横長	右辺両面に加工、左辺背面m.f.	6656	31－8
9	CM 39－32	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	21.6	30.2	4.0	2.4	横長	右辺両面に加工、左辺背面m.f.	5396	31－9
10	CL 40－29	V	Ⅳd₁	珪化凝灰岩(変質化)	25.2	19.4	5.3	2.5	縦長	左辺背面・右辺両面に加工	3862	31－10

第131図　不定形石器(9)



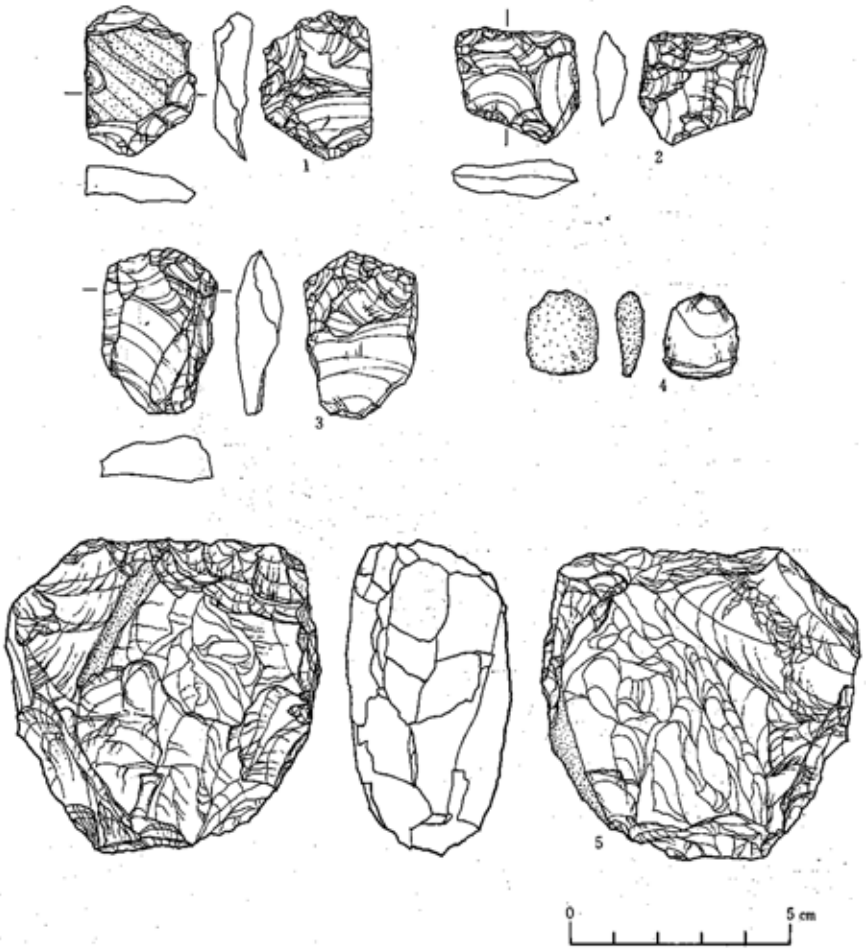
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM41－24	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	43.6	30.3	8.9	7.0	縦長	左・右辺腹面に加工	4462	31－11
2	CL40－25	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	37.0	22.4	7.0	10.5	縦長	左・上辺背面に加工	6675	31－12
3	CM41－23	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	19.0	45.7	10.0	37.5	横長	左辺・下辺背面に加工	5725	31－13
4	CL40－24	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	22.1	15.6	6.0	2.9	縦長	上・下辺腹面に加工	6580	31－14
5	CL40－25	V	Ⅱd₂	珪質頁岩	26.6	13.0	11.0	4.7	不明	下・右辺背面に加工、多面体	6683	31－15
6	CL41－15	V	Ⅱd₁	黒色頁岩	63.1	45.7	30.0	37.5	縦長	左辺～下辺左部、背面、上辺周縁に加工	6080	31－16
7	CL40－25	V	Ⅱd₁	珪質頁岩	19.0	19.4	9.0	3.1	縦長	上辺背面に加工、左辺背面m.f.	6614	31－17
8	CL39－32	V	Ⅱd₁	凝灰質頁岩	47.6	25.2	3.5	5.5	縦長	右辺背面に加工、左辺から下辺周縁m.f.	6609	31－18
9	CM40－8	V	Ⅲa₁	黒色頁岩	51.0	30.1	9.4	15.3	縦長	周縁に加工	2010	31－19
10	CM41－23	V	Ⅱa₁	凝灰質頁岩	43.5	35.8	5.6	7.3	縦長	右辺背面に加工、左辺下部背面m.f.	6606	31－20

第132図　不定形石器(10)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 41－15	V	Nc_1	細粒安山岩質凝灰岩	45.1	45.7	13.0	31.3	縦長	両面に加工	3976	31－21
2	CM 39－32	V	Nb_1	黒色頁岩	27.5	23.4	6.4	5.1	不明	基本的に両面加工	5062	31－22
3	CL・M39-32	V	Nd_1	黒色頁岩	23.3	18.6	4.5	2.7	縦長	両面に加工	5083	31－23
4	CL 41－16	V	Nd_1	珪化凝灰岩	25.0	19.3	6.0	2.2	縦長	背面に加工	4111	31－24
5	CL 40－25	V	Nd_1	黒色頁岩	49.5	37.7	11.2	26.0	不明	両面加工、刃部つぶれ	251	31－25
6	CL 39－31	V	V	黒色頁岩	42.2	40.8	12.5	25.5	不明	自然面を残す、上・下辺つぶれ	6657	31－26
7	CL 40－35	V	V	黒色頁岩	42.1	26.7	7.0	10.6	不明	上・下辺つぶれ	6522	31－27
8	CL 40－23	V	V	黒色頁岩	35.0	27.0	10.0	9.9	不明	上辺つぶれ	5639	31－28
9	CL 39－31	V	V	黒色頁岩	40.3	33.5	9.8	14.8	不明	上・左辺つぶれ	1818	31－29

第133図　不定形石器（ピエス・エスキーユを含む）（11）

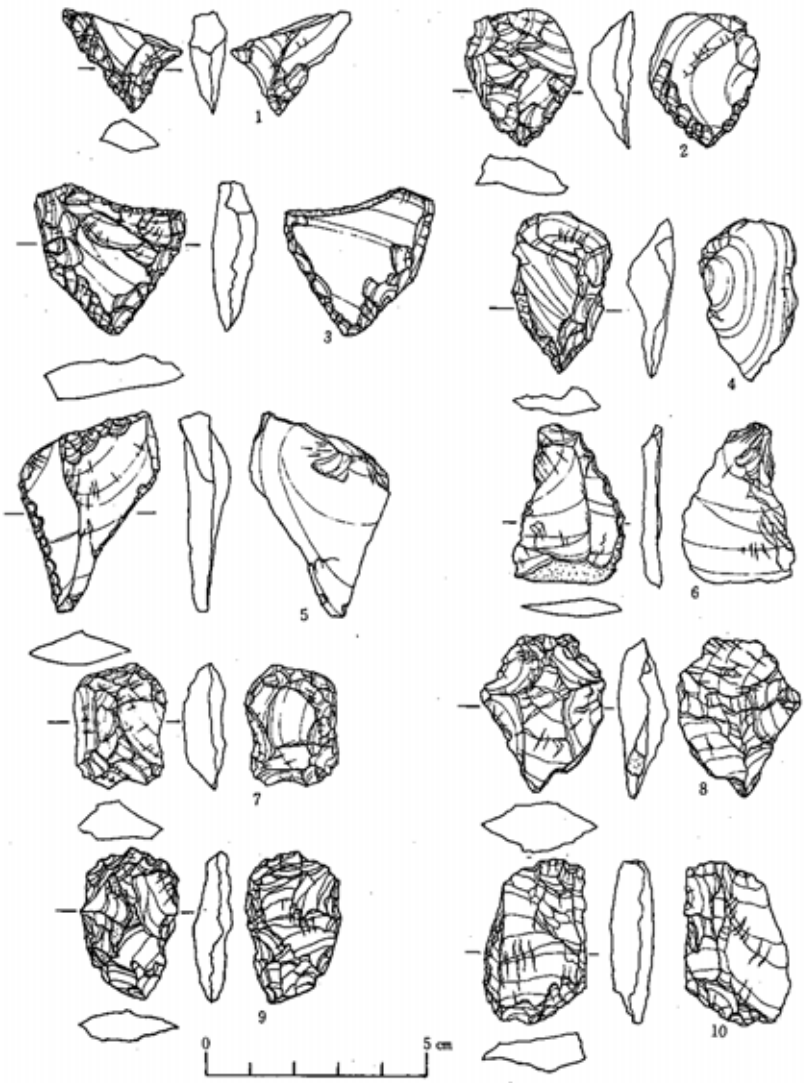


番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－23	V	V	珪質頁岩	34.0	25.2	6.7	7.7	不明	上・下辺つぶれ	6612	31－30
2	CL 41－25	V	V	黒色頁岩	22.0	27.0	8.5	6.7	不明	上下に刃刃	5968	31－31
3	CL 40－25	V	V	黒色頁岩	37.7	25.7	10.2	25.2	不明	上辺つぶれ	292	31－32
4	CL 41－26	V	VI	黒曜岩	18.3	12.2	5.4	1.5		表皮面を残す	—	31－33
5	CM 41－23	V	VI	珪質頁岩	72.4	71.0	31.1	255.0		正面剥離度が新しい	—	31－34

第134図　不定形石器(ピエス・エスキーユ・石核を含む)(12)

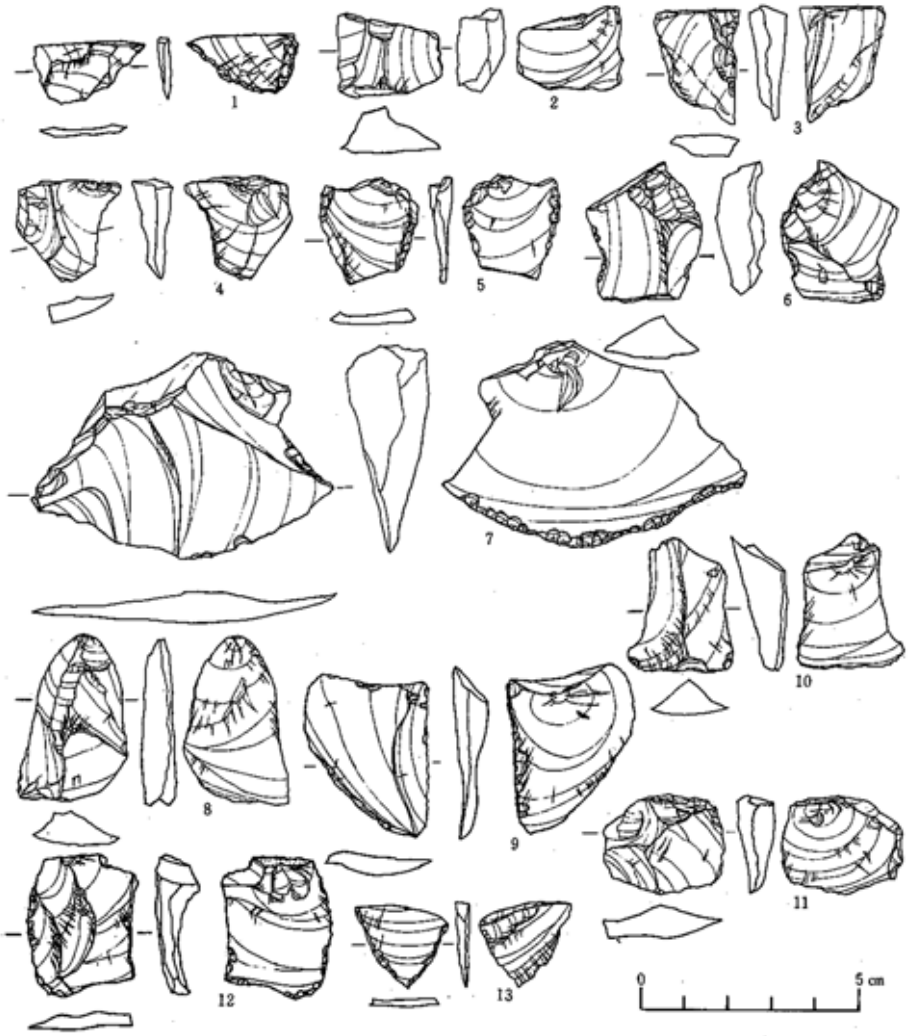
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－19	VI	Ia₁	砂質凝灰岩	33.1	31.0	10.6	8.5	縦長	下辺背面に加工、m.e. か(?)	6698	32－1
2	CL 40－22	VI	Ia₁	珪質頁岩	38.5	9.3	6.5	4.8	縦長	右辺背面に加工	5915	32－2
3	CL 40－22	VI	Ia₁	珪質頁岩	23.0	17.3	4.0	1.4	縦長	右辺両面に加工、パティナ新しい	5908	32－3
4	CL 40－29	VI	Ia₁	珪質頁岩	17.0	15.4	3.0	1.7	縦長	右辺背面に加工	5887	32－4
5	CM 40－7	VI	Ib₁	石英安山岩質凝灰岩	46.0	32.7	9.0	14.6	縦長	左辺背面にm.f.	6604	32－5
6	CL 41－13	VI	Ic₁	黒色頁岩	39.1	17.7	5.3	3.4	横長	左辺－右辺下部背面に加工	1330	32－6
7	CL 39－30	VI	IId₁	緑泥凝灰質頁岩	50.5	30.0	5.2	14.5	縦長	右辺背面に加工、左辺両面m.f.	6337	32－7
8	CL 29－30	VI	IIb₁	斑紋岩	35.5	20.2	7.2	7.4	縦長(両極)	左・右辺背面に加工	6436	32－8
9	CL 40－22	VI	IIc₁	珪質凝灰質頁岩	37.4	18.0	8.9	4.9	縦長	左・右辺両面にm.f.	6624	32－9
10	CM 41－21	VI	IIb₁	黒色頁岩	21.5	16.0	3.7	1.5	縦長	左・右辺両面に加工	6693	32－10
11	CL 39－29c	VI	IId₁	珪質頁岩	31.0	24.6	7.9	4.0	縦長	左・右辺下部背面に加工	6708	32－11
12	CM 40－7	VI	Ia₁	玉髄	40.3	34.8	9.7	16.8	横長	上辺 blun、下辺背面に加工	3032	33－1

第135図　不定形石器(13)



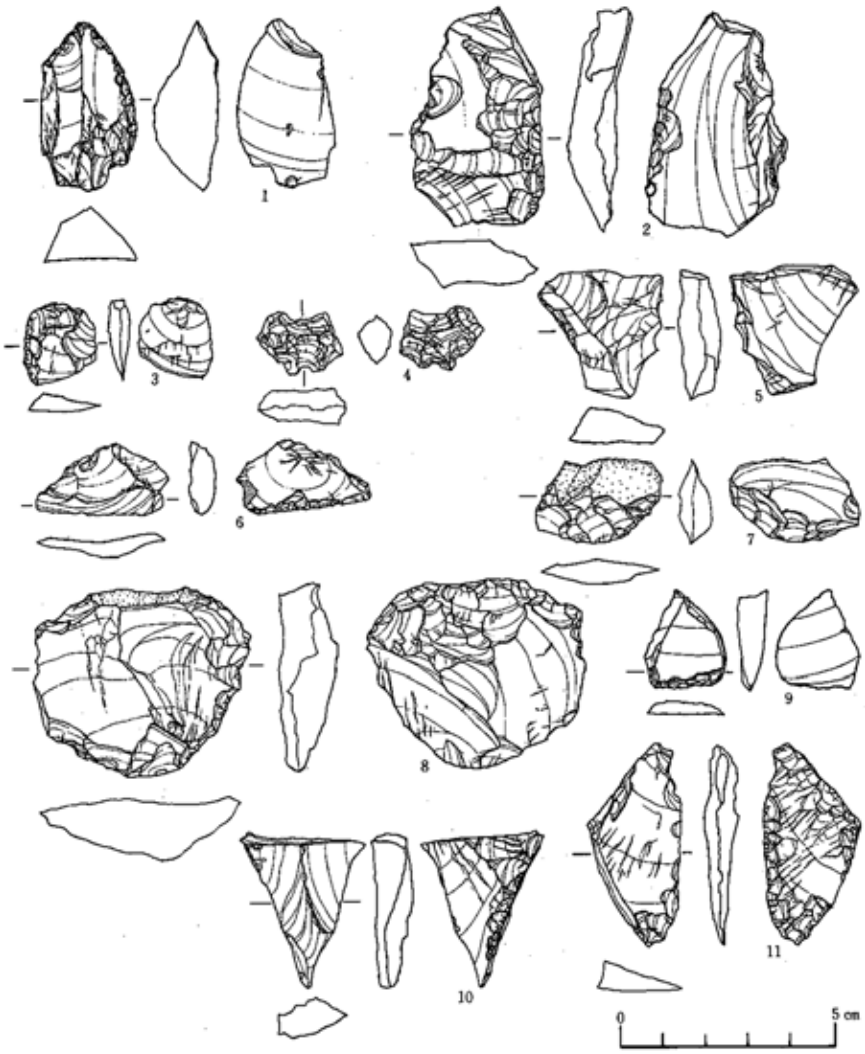
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－22	VI	IId₂	黒色頁岩	24.7	13.5	8.0	3.1	不明	左・右辺背面に加工、上辺剥離	5909	32－12
2	CL 41－14	VI	IId₁	珪質頁岩(一部玉髄化)	31.7	21.0	7.5	6.6	横長	左・右辺両面に加工	3891	32－13
3	CL 40－19	VI	IId₁	珪質頁岩	36.0	33.2	8.1	9.6	縦長	上辺 blun、左・右辺両面に加工	1081	32－14
4	CL 39－29c	VI	IId₁	珪質頁岩	30.6	29.0	6.3	5.6	横長	左・右辺背面に加工	5951	32－15
5	CL 40－22	VI	IId₁	珪質頁岩	40.2	31.1	9.5	9.0	縦長	上辺 blun、左・右辺背面に加工	5930	32－16
6	CL 41－14	VI	IIIc₁	珪質頁岩	37.3	23.0	4.2	3.4	縦長	左・右下・辺背面に m, f	3902	32－17
7	CL 39－30	VI	IVb₁	珪質頁岩	27.8	21.0	8.5	6.0	不明	両面に加工	4832	32－18
8	CL 40－20	VI	IVd₁	黒色頁岩	36.8	26.3	11.3	9.4	不明	両面に加工	6621	32－19
9	CL 40－19	VI	V	黒色頁岩	34.7	23.0	7.2	5.6	不明	上・左辺つぶれ	5886	32－20
10	CL 39－30	VI	V	桃紋岩	37.6	23.5	8.0	8.2	不明	下辺両面は二次加工か(?)	5662	29－33

第136図　不定形石器(14)



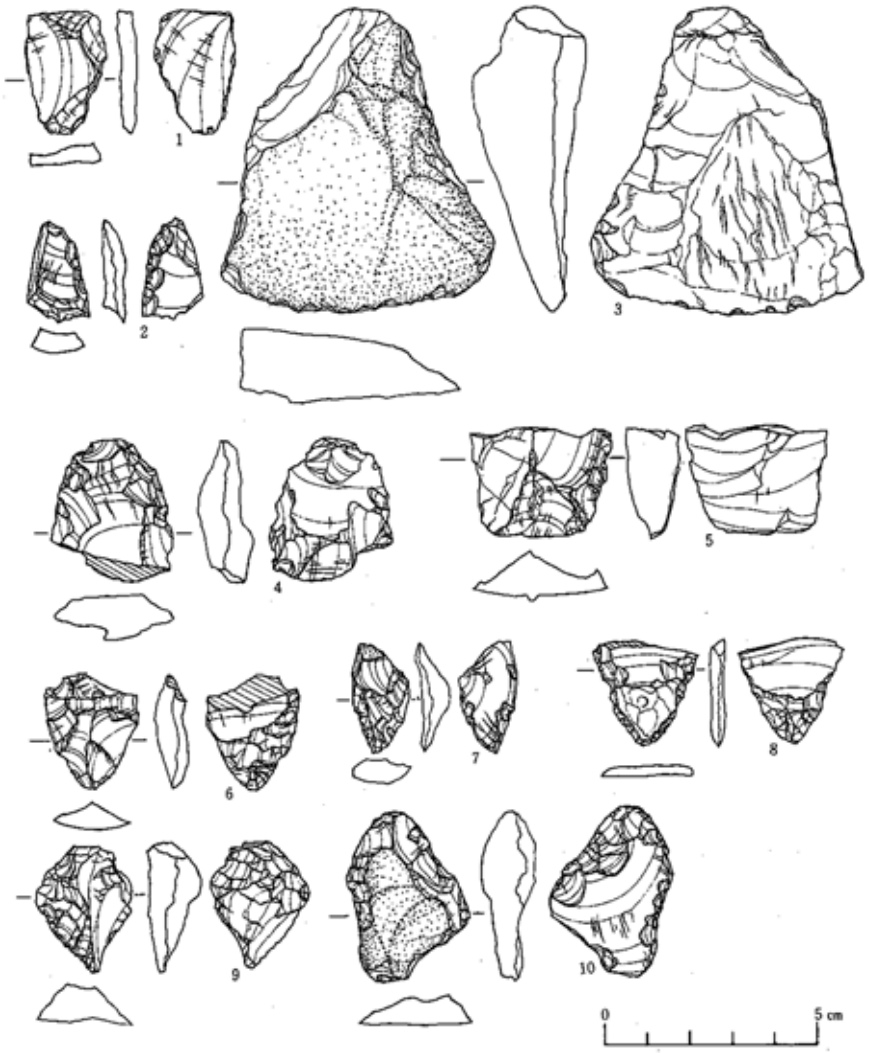
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 40－16	Ⅶ	Ⅰa₁	石英安山岩	14.5	20.0	2.3	0.9	縦長	上辺折れ、下辺両面に加工	5934	32－21
2	CM 39－27	Ⅶ	Ⅰb₁	硅質頁岩	18.7	23.0	10.7	5.1	縦長	右辺背面にm.f.	6712	32－22
3	CL 39－25	Ⅶ	Ⅰc₁	硅質頁岩	26.5	16.0	5.0	3.5	不明	右辺背面に加工	6099	32－23
4	CL 41－10・11	Ⅶ	Ⅰd₁	硅質頁岩	23.0	26.0	4.5	3.5	縦長	右辺腹面に加工、m.f. ah(?)	6707	32－24
5	CL 39－26	Ⅶ	Ⅱb₁	硅質頁岩	24.4	19.9	3.0	2.0	縦長	下辺折れ、左・右辺両面に加工	6931	32－25
6	CL 40－15	Ⅶ	Ⅱb₂	流紋岩	30.0	11.8	10.0	7.7	縦長	右辺腹面に加工、左辺背面にm.f.	6576	32－26
7	CL 41－9	Ⅶ	Ⅰd₁	硅質頁岩	47.5	69.5	7.1	36.5	横長	下辺腹面、左辺下部背面に加工	6859	32－27
8	CL 41－8	Ⅶ	Ⅱc₁	緑色石英安山岩質凝灰岩	27.6	20.0	7.8	4.2	縦長	左・右辺両面にm.f.	6610	32－28
9	CL 41－10	Ⅶ	Ⅱb₁	硅質頁岩	26.4	25.9	28.9	5.9	縦長	右辺腹面に加工、上辺背面にm.f.	6937	32－29
10	CL 41－10	Ⅶ	Ⅱc₁	硅質凝灰岩	26.1	31.5	8.0	5.0	縦長	左・右辺両面にm.f.	6704	32－30
11	CL 40－16	Ⅶ	Ⅱc₁	硅質凝灰質頁岩	22.6	27.0	27.0	5.0	横長	上辺blun. 下・右辺腹面にm.f.	6613	32－31
12	CL 40－15	Ⅶ	Ⅱd₁	硅質頁岩	32.4	23.5	9.2	5.2	縦長	右辺両面に加工、左辺・下辺下部背面加工	965	32－32
13	CL 41－9	Ⅶ	Ⅱd₁	硅質頁岩	19.9	21.0	1.6	1.1	縦長	上辺折れ、左・右辺、背面に加工	6744	32－33

第137図　不定形石器(15)



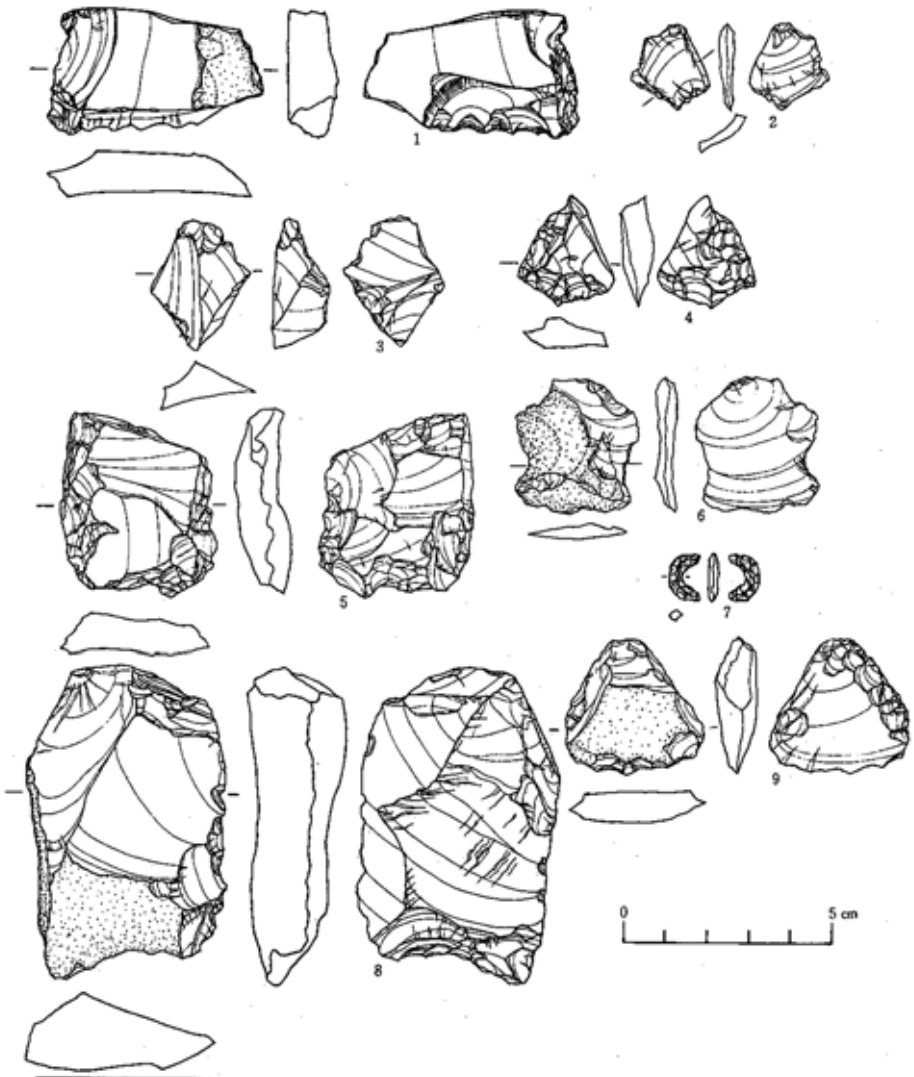
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 41－8	Ⅶ	Ⅱd₂	珪質頁岩	40.1	22.0	12.6	10.2	縦長	左・右辺背面に加工	3772	32－34
2	CL 40－18	Ⅶ	Ⅱa₁	黒色頁岩	53.2	31.1	31.1	20.1	横長	左・右辺両面に加工、下辺背面にm.f.	3324	32－35
3	CL 40－16	Ⅶ	Ⅱb₁	珪質凝灰岩	19.5	12.2	12.2	1.5	縦長	下辺のみ背面m.f. 他は背面に加工	6696	32－36
4	CL 39－26	Ⅶ	Ⅳe	黒曜岩	11.5	20.5	20.5	2.2	不明	両面加工（異形石器）	4760	32－37
5	CM 40－4d	Ⅷ	Ⅰa₁	珪質頁岩	31.0	22.0	22.0	7.0	縦長	左辺背面加工	6634	32－38
6	CL 40－7	Ⅷ	Ⅰa₁	珪質頁岩	16.8	32.0	32.0	2.2	縦長	下辺腹面に加工	3061	32－39
7	CM 41－9	Ⅷ	Ⅰa₁	洗紋岩	20.0	28.0	6.0	4.1	横長	下辺両面に加工	1900	33－2
8	CM 40－4c	Ⅷ	Ⅰb₁	赤黒安山岩質凝灰岩（変化）	44.5	47.6	13.5	29.2	縦長	上辺blun. 右・下辺背面に加工	1838	33－3
9	CL 39－8	Ⅷ	Ⅰa₁	珪化凝灰岩	23.7	28.1	3.3	3.2	縦長	左辺折断、下辺背面に加工	5947	33－4
10	CL 40-12・13	Ⅷ	Ⅰb₁	珪質頁岩	37.0	15.5	8.4	6.3	不明	右辺blun. 左辺両面にm.f.	6617	33－5
11	CL 40－12	Ⅷ	Ⅰc₁	珪化凝灰岩	47.5	20.0	7.0	6.2	縦長	左上辺blun. 右辺両面に加工	5961	33－6

第138図　不定形石器(16)



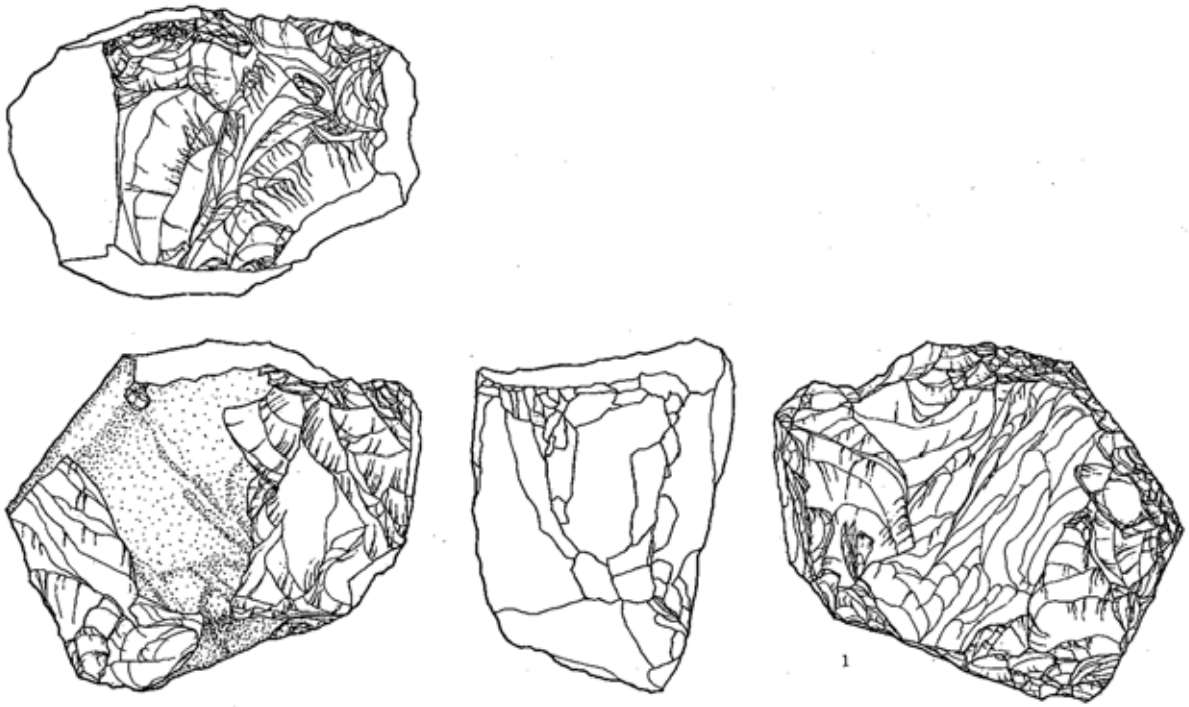
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM 39－24	軍	Ⅰa₁	粧質凝灰岩	29.5	17.0	4.0	1.8	縦長	右辺背面に加工、左辺折れ	6668	33－7
2	CM 39－17	軍	Ⅱa₁	粧質頁岩	24.5	12.5	5.4	1.9	縦長	左辺折断、下辺背面、右辺両面に加工	6070	33－8
3	CM 40－4d	軍	Ⅱc₁	黒色頁岩	116.3	51.4	72.1	81.5	縦長	右辺背面に加工、下辺m.f.	1838	33－9
4	CM41-12・13	軍	Ⅱb₁	粧質頁岩	33.6	27.6	10.5	10.2	縦長	下辺折断、左・右辺両面に加工	1829	33－10
5	CL 40-12・13	軍	Ⅱb₁	粧質頁岩	26.5	32.0	12.0	9.0	縦長	右辺背面に加工、左辺両面にm.f.	6637	33－11
6	CL 39－16	軍	Ⅱd₁	玉髄	27.2	21.8	7.2	1.9	不明	上辺折断、左・右辺両面に加工	4829	33－12
7	CL 40－9	軍	Ⅱd₁	粧化凝灰岩(玉髄化)	25.7	13.7	5.3	5.9	横長	左・右辺両面に加工	3085	33－13
8	CM 41－17	軍	Ⅱd₁	黒色頁岩	25.0	21.2	2.5	2.0	縦長	上辺折断、左・右辺両面に加工	4247	33－14
9	CM 41－16	軍	Ⅱd₁	玉髄	31.0	22.4	14.1	10.7	横長	左・右辺背面に加工	6092	33－15
10	CM39－24A	軍	Ⅱd₁	粧質頁岩	40.1	26.4	7.0	3.5	縦長	左・右辺両面に加工	6645	33－16

第139図　不定形石器(17)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM41－16	縄	Ⅱa₁	珪質頁岩	51.0	29.7	10.2	19.6	不明	左・下辺腹面、右辺背面に加工	1815	33－17
2	CL40－5	縄	Ⅱa₂	珪質頁岩	21.0	13.7	2.3	1.1	縦長	左辺、左下辺、下辺背面に加工	6713	33－18
3	CM40－4	縄	Ⅱa₃	珪質頁岩	31.6	23.0	6.8	6.4	不明	多面に刃部	6684	33－19
4	CL40－6	縄	Ⅱa₄	玉髄（珪質頁岩）	27.0	20.1	7.0	3.7	不明	上・左・下辺両面に加工	5890	33－20
5	CM41－15	縄	Ⅳb₁	珪質頁岩	42.7	36.7	10.6	20.3	不明	左辺背面、下・右辺両面に加工	4442	33－21
6	CL41－6	縄	Ⅳc₁	珪化凝灰岩	30.5	17.5	3.5	4.1	縦長	周縁に背面を中心に m. f.	6726	33－22
7	CM41－10	縄	Ⅳe	珪質頁岩	11.2	8.2	2.3	0.06	不明	両面加工（異形石器）	－	33－23
8	CM41－5	区	Ⅱa₁	黒色頁岩	76.4	45.5	15.0	86.2	縦長	下辺腹面、左辺背面に加工	6885	33－24
9	CM41－5	区	Ⅳd₁	黒色頁岩	32.2	33.1	9.4	9.9	縦長	左辺両面、下・右辺背面に加工	1208	33－25

第140図　不定形石器(18)



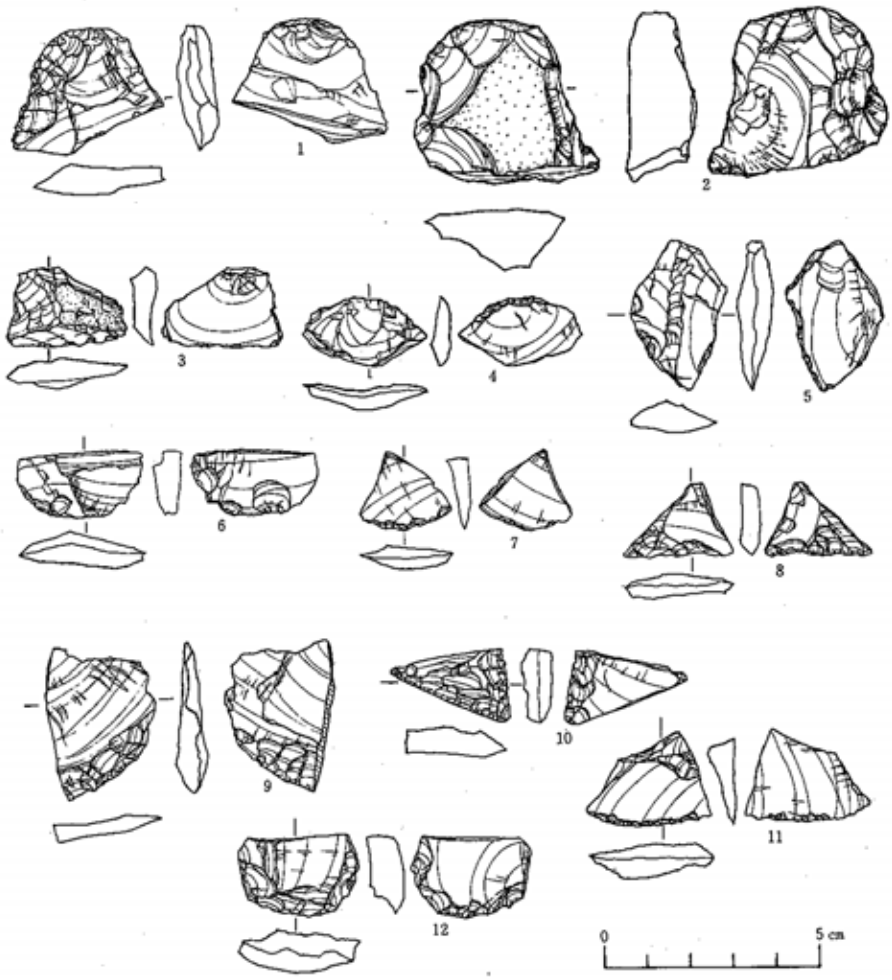
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 39－23	[illegible]	Ⅵ	珪質頁岩	80.0	93.2	66.9	636.0	—	正面の剥離面が最も新しい	－	33－26

0　5 cm

第141図　不定形石器(石核)（19）

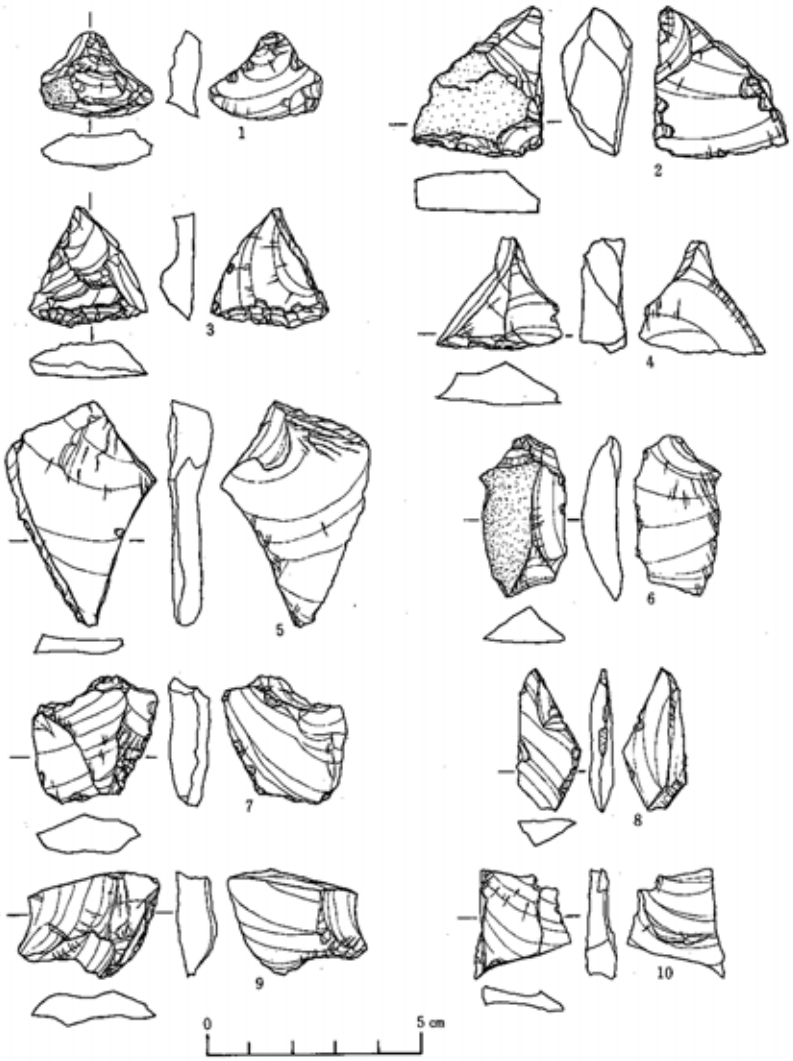
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 42－7・8	不明	Ia₁	珪質頁岩	27.1	15.1	7.4	3.4	横長	左辺両面に加工	5978	34－1
2	DH 31－2	不明	Ia₁	頁岩	44.0	31.9	4.5	10.8	縦長	右辺背面に加工	6002	34－2
3	CL 47－3	不明	Ia₂	珪質頁岩	68.8	42.1	15.4	44.1	縦長	下辺背面に加工、横面にm.f.	5950	34－3
4	CS 39－1	不明	Ia₁	頁岩	21.0	18.5	4.0	2.3	縦長	下辺折断、右辺背面に加工	6772	34－4
5	DD 31－2	不明	Ia₁	珪質頁岩（玉髄化）	37.0	13.0	8.0	4.4	縦長	左辺折断、右辺両面に加工	1821	34－5
6	DG 31－2	不明	Ia₁	珪質頁岩	37.8	20.7	6.0	7.1	縦長	右辺折断、左辺両面に加工、先端折れ	1	34－6
7	CP 47－3	不明	Ia₁	珪質頁岩	25.0	18.0	4.2	2.7	縦長	上・左・下辺折断、右辺背面に加工	6300	34－7
8	DG 35－1	不明	Ia₁	珪質頁岩	23.5	20.6	5.2	3.6	縦長	左辺、下部は背面、上部は横面に加工	6673	34－8
9	DD 35－4	不明	Ia₁	珪質頁岩	23.1	25.3	4.5	4.1	縦長	上辺折断、左辺背面に加工	5677	34－9
10	CM 47－3	並	Ia₁	珪質頁岩	33.8	45.9	10.0	15.5	縦長	右辺・下辺折断、左辺両面に加工	5969	34－10

第142図　不定形石器(20)



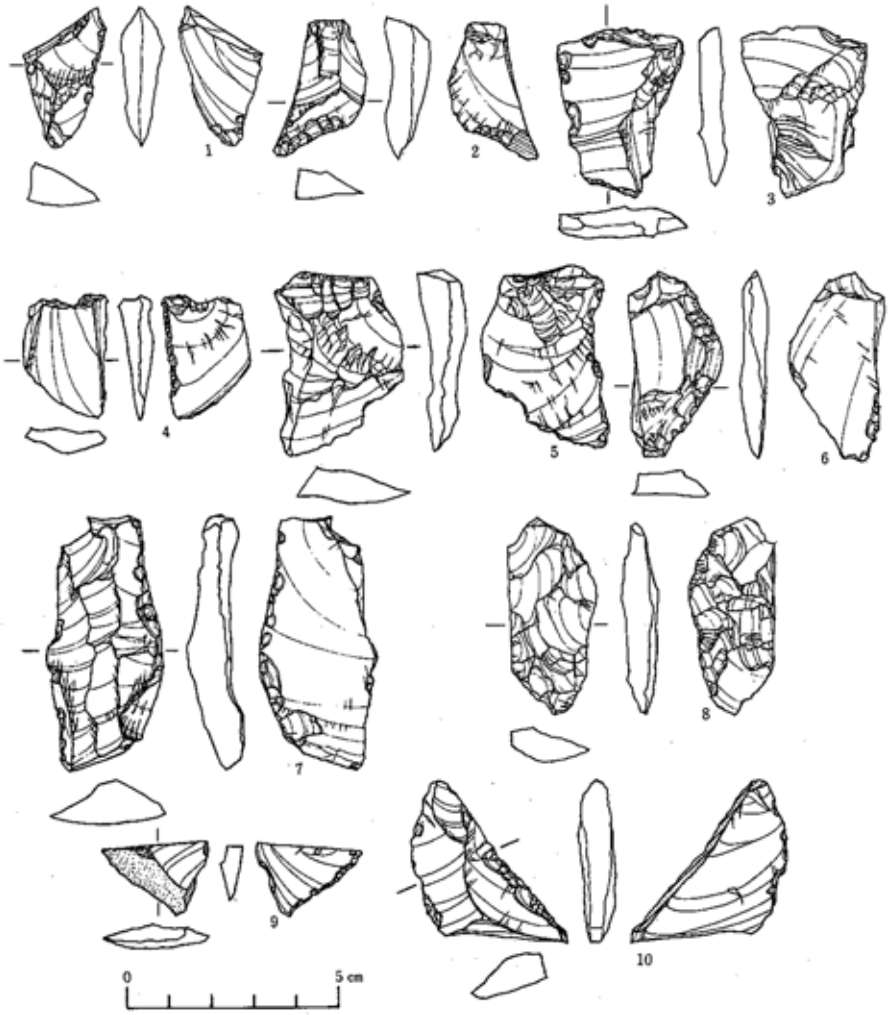
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	刃部形状	刃部の特徴	登録番号	図版
1	DD35－2	不明	Ia₂	珪質頁岩	29.7	30.8	7.2	7.6	縦長	下辺折断、左辺背面に加工	3824	34－11
2	CM40－2	不明	Ia₂	珪質頁岩	42.6	37.8	14.7	24.6	不明	下辺折断、左辺両面に加工、右辺も刃??	3825	34－12
3	DF39－2	不明	Ia₂	凝灰質頁岩(ジャスパー)	32.4	23.5	7.2	3.0	横長	左辺背面に加工	6706	34－13
4	CQ34－35	不明	Ia₂	凝灰質頁岩(ジャスパー)	35.5	29.1	4.5	2.1	横長	上辺腹面に加工	6681	34－14
5	CL36－3	不明	Ia₂	凝灰質頁岩(ジャスパー)	36.0	20.0	7.7	5.8	横長	右辺腹面に加工	6687	34－15
6	CM42－8	不明	Ia₂	細粒凝灰岩(珪化)	15.0	29.8	7.5	3.8	縦長	上辺折断、左辺背面、右辺腹面に加工	2564	34－16
7	DE39－?2	不明	Ia₂	珪質頁岩	17.0	23.8	5.0	1.4	縦長	2側縁折断、下辺背面に加工	6714	34－17
8	CK39－2	不明	Ia₂	珪化凝灰岩	17.0	35.0	5.0	2.0	縦長	2側縁折断、下辺両面に加工	191	34－18
9	CM42－8	不明	Ia₂	珪質頁岩	35.6	25.1	7.5	5.2	縦長	左辺折断、下辺両面に加工	5984	34－19
10	CM45－3	不明	Ia₂	玉髄	17.1	23.6	6.5	3.1	縦長	上・下辺折断(下辺 bian.)、右辺両面に加工	6692	34－20
11	CL38－20	不明	Ia₂	珪質凝灰岩	30.4	28.0	17.9	3.4	縦長	右辺折断、下辺両面に加工	5995	34－21
12	BD52－2	不明	Ia₂	珪質頁岩	38.3	28.5	9.1	5.9	縦長	上辺折断、下辺両面に加工	5927	34－22

第143図　不定形石器(21)



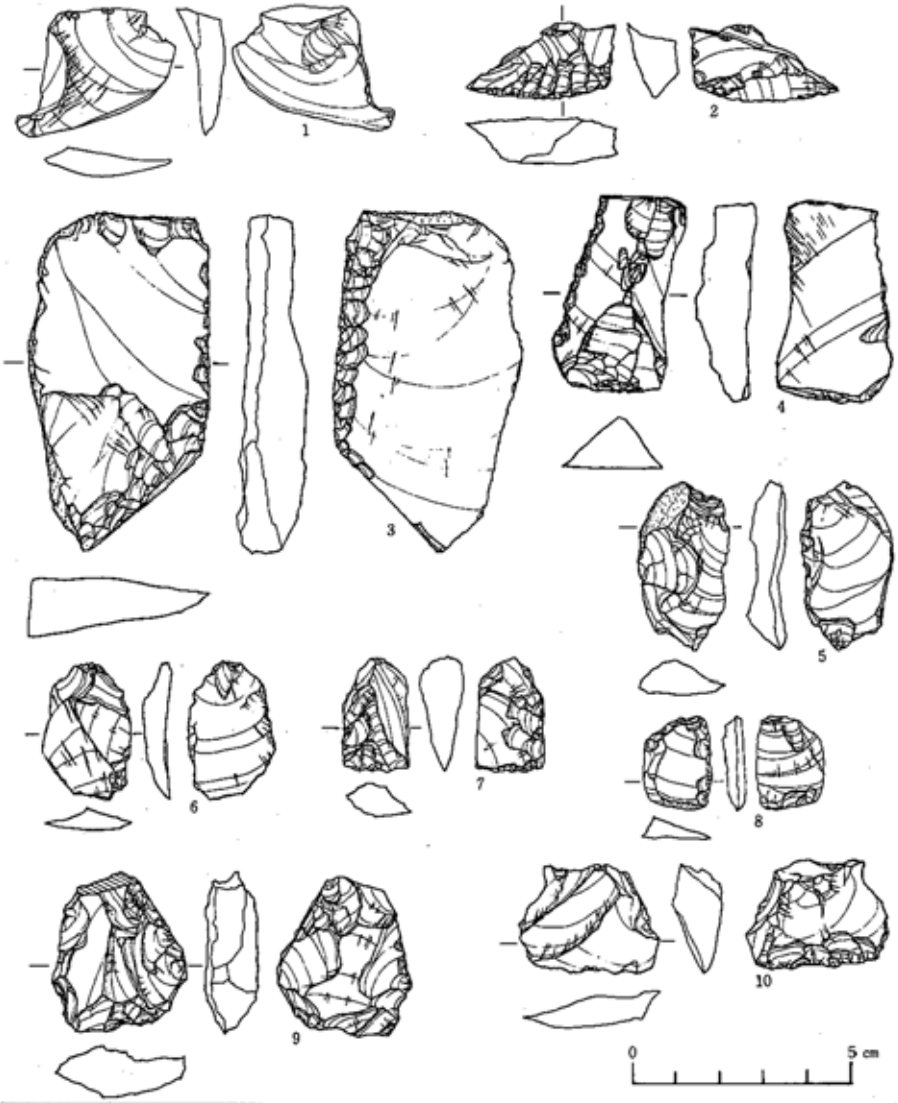
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CQ 35 − 2	不明	Ia₂	珪質頁岩	30.1	36.1	8.1	4.1	横長	右辺折断、下辺背面に加工	6710	34 − 23
2	CL 36 − 2	不明	Ia₃	細粒凝灰岩	36.0	31.0	15.7	17.3	縦長	2側縁折断、下辺背面に加工	5915	34 − 24
3	AT 33 − 2	不明	Ia₃	珪質頁岩	25.2	27.5	7.0	5.1	縦長	2側縁折断（左辺 blun.）、下辺背面に加工	6031	34 − 25
4	CL 44 − 2	不明	Ia₂	珪化凝灰岩（碧玉）	27.0	29.0	10.3	5.7	縦長	下辺折断、下辺背面に加工	6985	34 − 26
5	CL 43 −1•2	不明	Ib₁	石英質凝灰岩（碧玉）	52.7	21.0	4.0	11.0	縦長	左辺に m.f.	6594	34 − 27
6	CJ 40 − 2	不明	Ib₁	細粒珪質凝灰岩	38.5	19.0	8.4	5.1	縦長	右辺両面に m.f.	6700	34 − 28
7	CM 43 − 3	不明	Ib₁	黒色頁岩	30.1	24.3	7.6	8.1	縦長	右辺に m.f.	5965	34 − 29
8	AT 31 − 2	不明	Ib₁	珪質頁岩	32.6	13.6	6.1	2.2	縦長	右辺両面に m.f.	6619	34 − 30
9	CL 36 − 21	不明	Ib₁	珪質頁岩	34.5	29.0	7.5	6.1	縦長	上辺折断、右辺に m.f.	6607	34 − 31
10	CK 39 − 5	不明	Ib₁	珪質頁岩	26.0	19.0	6.2	3.4	縦長	左・下辺折断、右辺に m.f.	6708	34 − 32

第144図　不定形石器(22)



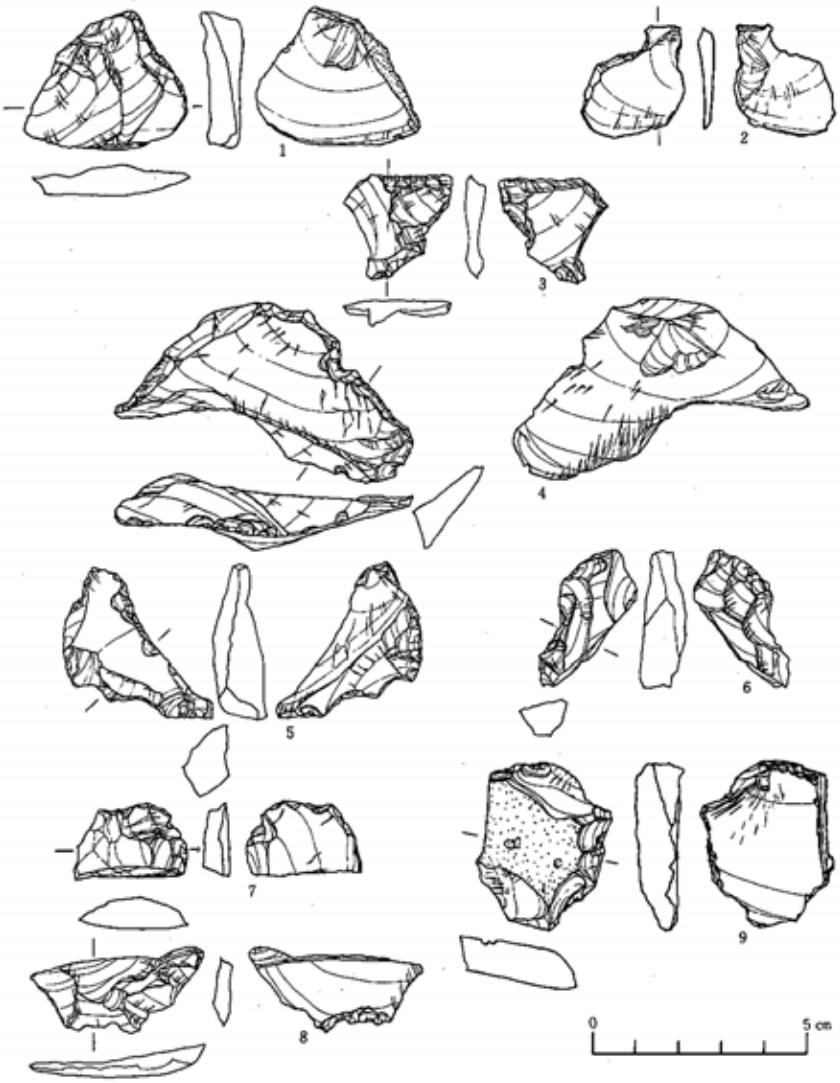
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CK 40－1	不明	Ic1	珪質頁岩	33.5	18.0	9.6	4.5	縦長	右辺上部、背面に加工、右辺下部両面に加工	6711	34－33
2	CM 42－8	不明	Ic1	珪質頁岩	35.8	17.2	8.8	5.0	縦長	下辺・左辺下部両面に加工	2585	34－34
3	CL 40－2	不明	Ic1	黒色頁岩	37.1	30.6	7.4	9.2	縦長	下辺・右辺下部背面に加工	6609	34－35
4	CM 38－5	不明	Ic1	珪質頁岩	30.0	38.0	5.7	4.0	縦長	左辺・下辺左部・腹面に加工	6618	34－36
5	CK 42－2	不明	Ic1	流紋岩質凝灰岩	43.1	27.3	6.9	11.7	縦長	下辺腹面に加工	6642	34－37
6	DB 41－1	不明	Ic1	珪質頁岩	44.5	20.8	5.6	6.2	横長	左辺折断、右辺背面に加工	33	34－38
7	AT 52－3	不明	Ic1	細粒凝灰岩	60.9	28.0	10.2	16.5	縦長	右辺～左辺、下部・背面に加工	5727	34－39
8	表採	不明	Ic1	黒色頁岩	45.7	18.4	7.5	7.0	不明	右辺・左辺下部両面に加工、左辺折断	6585	34－40
9	BC 49－2	不明	Ic1	珪質頁岩	16.2	25.2	5.1	1.6	横長	下辺・右辺下部腹面に加工	2141	34－41
10	CK 41－2	不明	Ic1	珪質頁岩	38.6	19.0	7.6	8.1	縦長	下辺折断、右辺 blun. 左辺m.f.	1062	34－42

第145図　不定形石器(23)



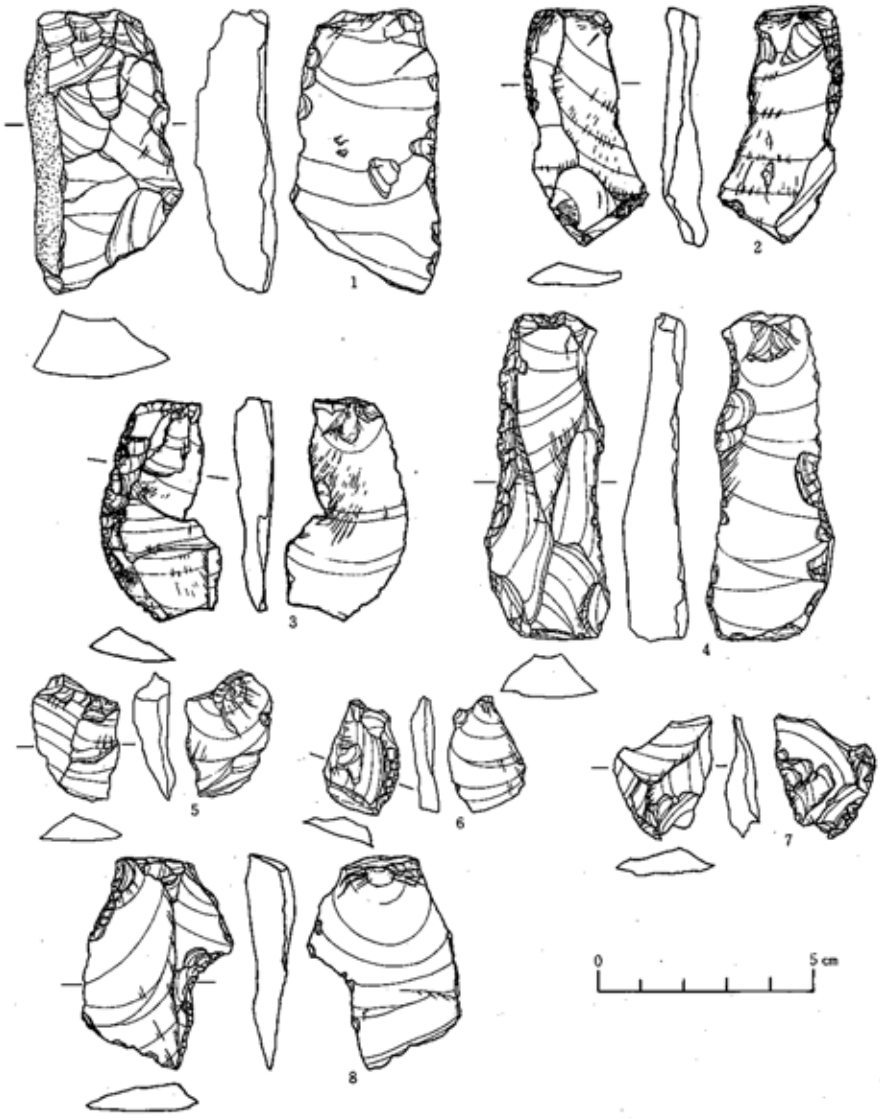
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM 41 − 1	不明	I c_1	硅質頁岩	20.2	29.0	5.3	6.2	縦長	左辺・下辺左部、腹面にm.f.	6700	35 − 1
2	DH 21 − 3	不明	I c_2	硅質頁岩	17.5	33.5	10.8	5.6	不明	下部は折断(?) 下辺と右辺下部背面に加工	1696	35 − 2
3	CL 39 − 2	不明	II a_1	硅質頁岩	78.2	4.5	13.2	48.0	縦長	左側縁、上端は自然面、下辺は折断後加工	5798	35 − 3
4	CL 38 −30	不明	II a_2	硅質頁岩	45.5	25.2	12.2	13.5	縦長	左辺・下辺背面に加工	1701	35 − 4
5	CL 41 − 2	不明	II a_3	流紋岩	30.5	20.0	8.0	6.4	縦長	左辺腹面、下辺、背面に加工	5679	35 − 5
6	BD 50 − 3	不明	II a_4	珪化凝灰岩	30.3	20.0	5.3	2.8	縦長	左辺下部、下辺背面に加工、m.f. 多	5402	35 − 6
7	CM 47 −3+4	不明	II a_5	硅質頁岩	25.3	15.0	7.5	3.2	縦長	左辺両面、下辺背面に加工	6346	35 − 7
8	CJ 49 − 2	不明	II a_6	硅質頁岩	5.0	15.7	22.3	1.9	縦長	上辺・右辺背面に加工	5967	35 − 8
9	CM 42 − 10	不明	II a_7	黒色頁岩	42.4	28.6	12.0	14.9	縦長	右辺両縁にblun. 左辺・下辺両縁に加工	1762	35 − 9
10	CL 39 −1+2	不明	II a_8	硅質頁岩	25.7	31.8	7.0	7.3	横長	左辺、下辺腹面に加工	5960	35 − 10

第146図　不定形石器(24)



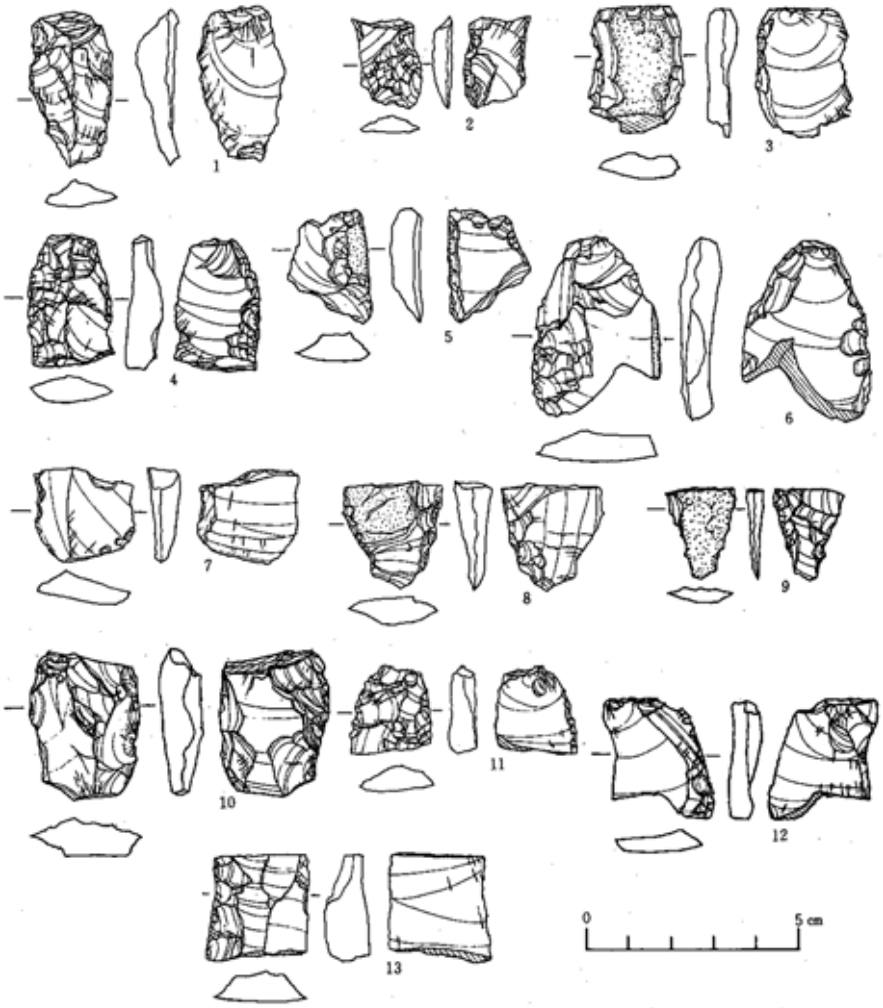
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 42－10	不明	Ⅱa₂	珪質頁岩	32.0	37.0	7.5	9.5	縦長	右辺背面に加工、下辺左縁腹面にm.f.	6641	35－11
2	CM 48－3	不明	Ⅱa₂	珪質頁岩	24.9	24.8	4.0	1.9	縦長	左辺上部背面、右辺腹面に加工、下辺m.f.	—	35－12
3	DD 31－24	不明	Ⅱa₂	珪質頁岩	24.5	25.0	5.0	2.9	縦長	上辺背面、右辺腹面に加工	6622	35－13
4	CM 49－1	不明	Ⅱa₂	流紋岩質凝灰岩	70.0	23.5	8.0	23.4	縦長	下辺・右辺背面に加工	6643	35－14
5	DF 31－1	不明	Ⅱa₂	凝灰質頁岩	37.0	11.7	10.5	9.4	縦長	左辺下部、背面、上辺腹面、右辺背面に加工	6686	35－15
6	BD 50－2	不明	Ⅱa₂	珪質頁岩	36.0	9.2	10.0	4.9	縦長	右辺折断、左辺背面、上辺腹面に加工	6587	35－16
7	DD 35－1	不明	Ⅱa₂	黒色頁岩	17.3	25.7	7.6	3.6	縦長	下辺折断、上辺・左辺背面に加工	1638	35－17
8	CK 40－2	不明	Ⅱa₂	珪質頁岩	5.0	41.5	11.4	3.8	縦長	上辺折断、下辺腹面に加工、左辺背面m.f.	6665	35－18
9	DE 35－4	不明	Ⅱa₂	珪化凝灰岩	39.2	30.5	9.8	14.0	縦長	左辺折断、右辺・下辺背面に加工	1968	35－19

第147図　不定形石器(25)



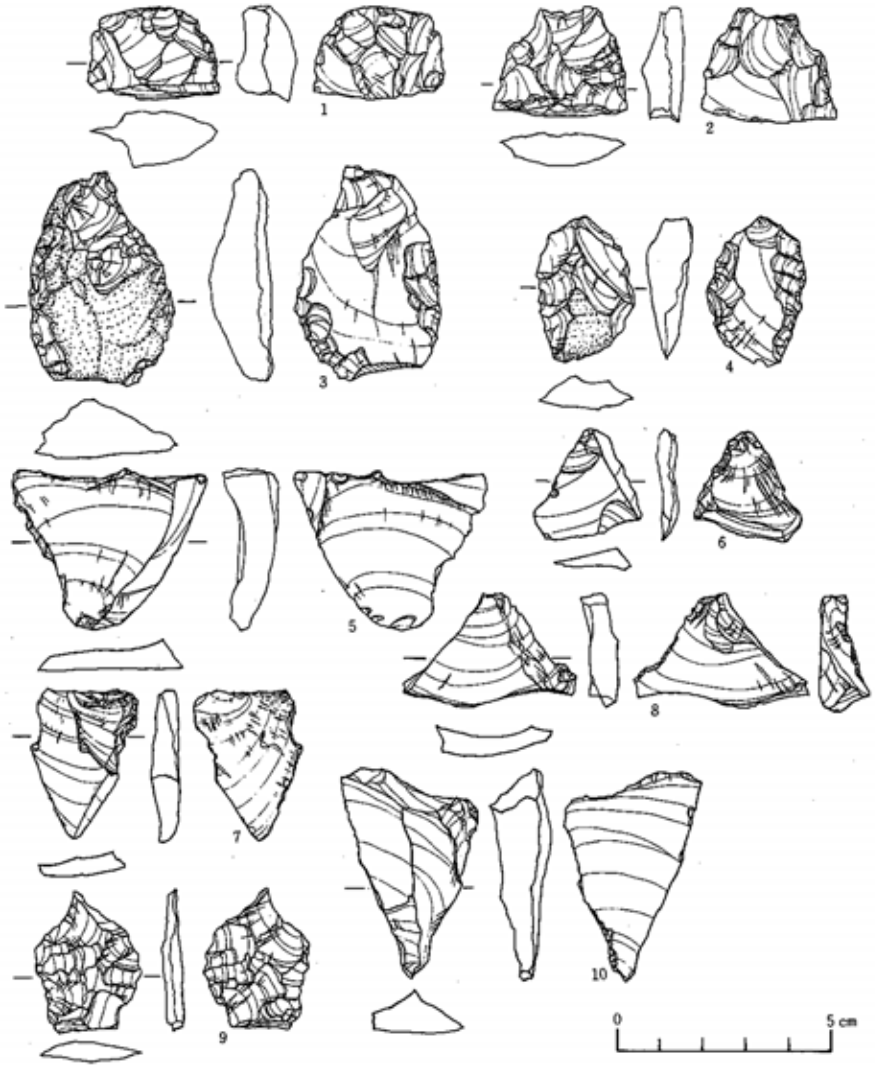
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM40－3	不明	Ⅱb₁₀₂	石英安山岩	66.2	31.5	15.0	41.3	縦長	左辺腹面、右辺背面に加工	6625	35－20
2	CM41－25	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩(一部変質化)	62.3	44.5	8.7	10.2	縦長	左辺上部両面に加工、右辺下部両面にm.f.	1600	35－21
3	CM42－1	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩	51.0	25.0	8.3	8.2	縦長	左辺背面に加工、右辺腹面にm.f.	2147	35－22
4	BD50－2	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩	71.0	22.4	10.0	28.1	縦長	左辺背面に加工、右辺両面にm.f.	6538	35－23
5	AT53－2	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩	30.0	19.0	5.5	4.0	縦長	右辺腹面に加工、左辺腹面にm.f.	6682	35－24
6	CP47－3	不明	Ⅱb₁	珪化凝灰岩	25.0	27.5	4.5	2.5	縦長	右辺背面に加工、左辺両面にm.f.	6691	35－25
7	CK40－6c	不明	Ⅱb₁	黒色頁岩	38.6	23.0	5.0	4.0	縦長	左・右辺腹面に加工	6671	35－26
8	CK40－1	不明	Ⅱb₁	玻璃質凝灰岩	50.5	26.0	8.2	13.4	縦長	左・右辺背面に加工	6644	35－27

第148図　不定形石器(26)



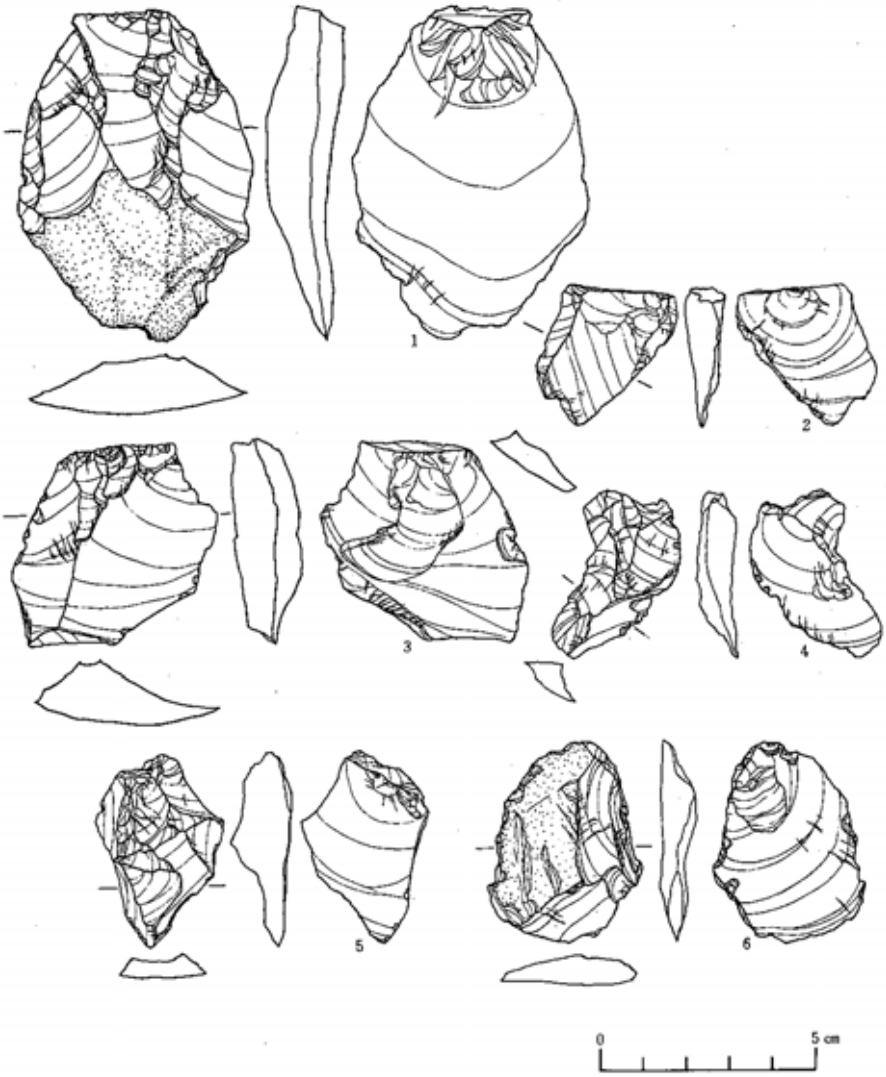
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CK 38 − 8	不明	Ⅱb₁	黒色頁岩	32.4	12.0	6.8	5.3	縦長(両極)	左・右辺背面に加工	481	35 − 28
2	CQ 33 − 2	不明	Ⅱb₁	硅質頁岩	22.0	14.0	3.7	1.6	縦長	左辺腹面、右辺両面に加工	5953	35 − 29
3	表採	不明	Ⅱb₁	硅質頁岩	30.4	9.0	5.8	5.1	縦長	左辺背面、右辺両面に加工	5977	35 − 30
4	BC 48 − 1	不明	Ⅱb₁	硅質頁岩	37.1	19.3	6.7	5.3	縦長	下辺折断、左辺両面、右辺背面に加工	1549	35 − 31
5	CM 42 − 13	不明	Ⅱb₁	硅質頁岩	22.5	17.5	6.9	3.5	縦長	下辺折断、左・右辺腹面に加工	6324	35 − 32
6	CM 38 − 1	不明	Ⅱb₁	頁岩	43.3	28.8	7.4	10.8	縦長	左・右辺両面に加工、下辺折断	6391	35 − 33
7	CK 42 − 1	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	22.5	22.1	6.5	3.6	縦長	上辺折断、左辺背面、右辺腹面に加工	6515	35 − 34
8	CK 39 − 8	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	26.0	21.2	6.1	3.8	縦長	上辺折断、左辺背面、右辺両面に加工	5902	35 − 35
9	CM 42 − 7	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	23.3	16.5	3.5	1.1	縦長	上辺折断、左・右辺腹面に加工	2525	35 − 36
10	CP 34 − 2	不明	Ⅱb₂	凝灰質頁岩	34.4	25.5	8.7	9.9	縦長	上辺折断、左・右辺両面に加工	2133	35 − 37
11	CK 40 − 2	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	20.5	17.6	6.0	2.8	縦長	下辺折断、左辺両面、右辺背面に加工	6519	35 − 38
12	BD 46 − 表	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	25.8	22.6	5.4	4.0	縦長	下辺折断、右辺背面に加工、左辺周面に m.f.	5944	35 − 39
13	CK 39 − 1+2	不明	Ⅱb₂	硅質頁岩	34.5	23.8	9.5	5.3	縦長	上・下辺折断、左辺背面に加工、右辺周面に m.f.	1819	35 − 40

第149図　不定形石器(27)



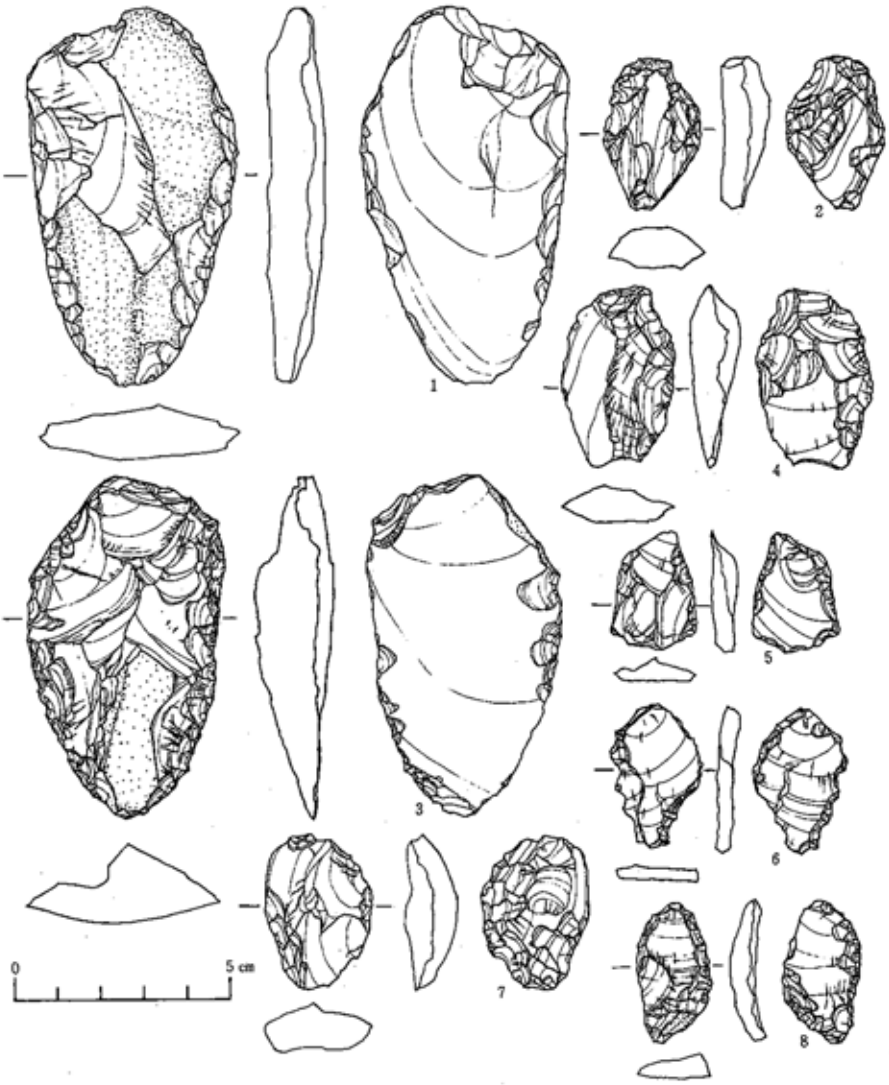
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	DG 39－2	不明	Ⅱb₁	流紋岩	22.7	29.8	13.0	8.9	不明	下辺折断、左・右辺両面に加工	1703	36－1
2	CN 45－2	不明	Ⅱb₁	流紋岩質凝灰岩	27.2	29.5	7.7	6.6	縦長	下辺折断、左・右辺両面に加工	6378	36－2
3	CL 47－3a	不明	Ⅱb₁,₂	珪質頁岩	50.0	39.6	13.7	21.4	縦長	左・右辺両面に加工、左辺角度大	6400	36－3
4	CM 42－7	不明	Ⅱb₁,₂	黒色頁岩	34.9	23.4	9.2	6.5	縦長	左・右辺両面に加工、右辺角度大	2523	36－4
5	CO 45－x	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩	36.4	34.0	7.1	13.0	横長	左辺背面に加工、右辺背面にm.f.	6441	36－5
6	BD 50－2	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩	26.2	17.8	4.8	2.4	縦長	右辺腹面に加工、左辺背面にm.f.	6590	36－6
7	CM 39－西2	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩（玉髄化）	35.0	23.4	6.8	4.8	縦長	左辺腹面に加工、右辺背面にm.f.	1765	36－7
8	CK 39－1-2	不明	Ⅱb₁,₂	珪化凝灰岩	27.1	27.1	5.4	5.5	横長	右辺腹面に加工、左辺背面にm.f.	6948	36－8
9	表採	不明	Ⅱb₁	珪質頁岩（玉髄化）	33.5	23.8	4.5	3.9	不明	左・右辺「両面加工」	6688	36－9
10	CK 38－4	不明	Ⅱc₁	珪質凝灰岩	50.0	32.5	10.0	13.1	縦長	左右両面にm.f.	1326	36－10

第150図　不定形石器(28)



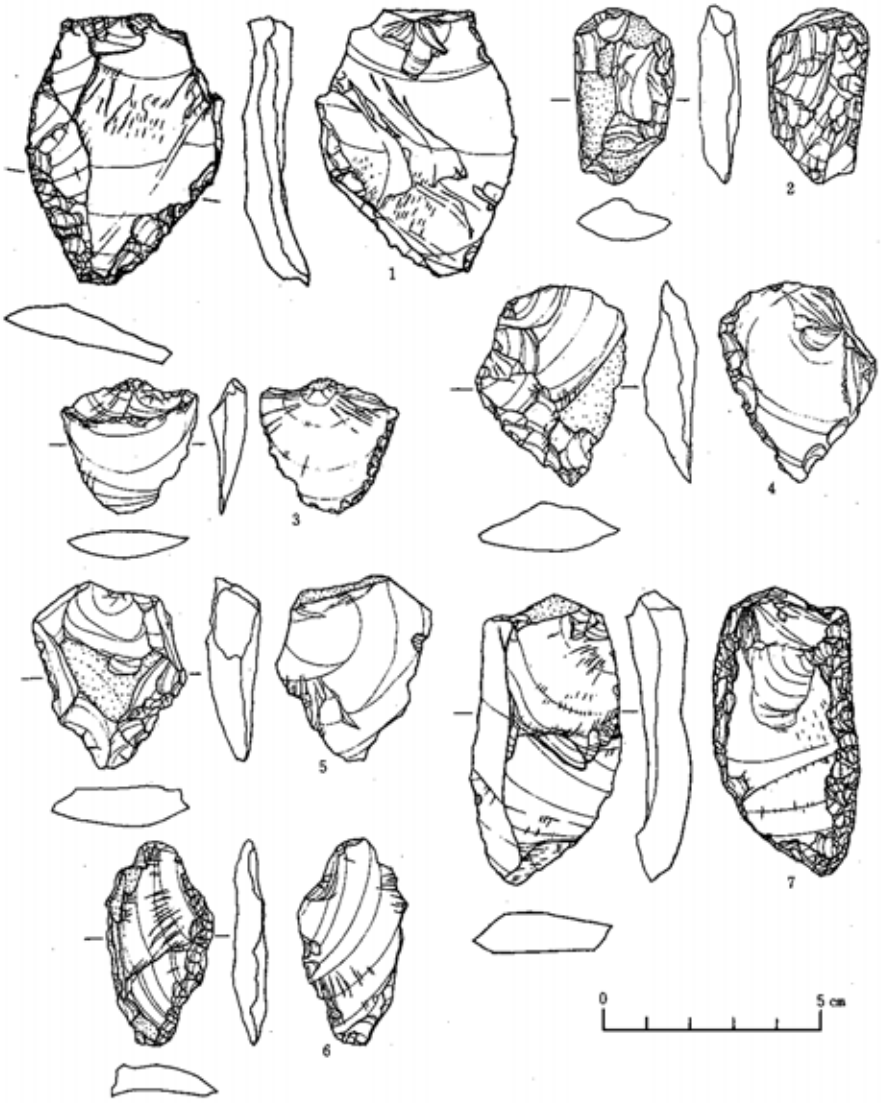
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CK 42－2	不明	IIc_1	珪質頁岩	78.3	50.8	12.2	51.9	縦長	左辺腹面、右辺上部背面、下部腹面m.f.	1078	36－11
2	DF 31－1	不明	IIc_1	珪質頁岩	50.0	22.4	5.7	6.8	縦長	左辺背面、右辺腹面にm.f.	6606	36－12
3	CK 39－8	不明	IIc_1	珪質凝灰岩質頁岩	48.3	43.2	14.3	20.4	縦長	左辺上部両面、下部背面、右辺腹面にm.f.	6595	36－13
4	CK 41－4	不明	IIc_1	石英安山岩質凝灰岩（[illegible]）	30.0	22.1	6.6	12.5	縦長	上・下辺両面にm.f.	6581	36－14
5	CL 38－第3	不明	IIc_1	珪質頁岩	45.6	20.1	5.5	7.0	縦長	左・右辺背面にm.f.	6701	36－15
6	CM 41－1	不明	IId_1	流紋岩質凝灰岩	47.4	31.5	7.0	11.2	縦長	左・右辺背面に加工	6582	36－16

第151図　不定形石器(29)



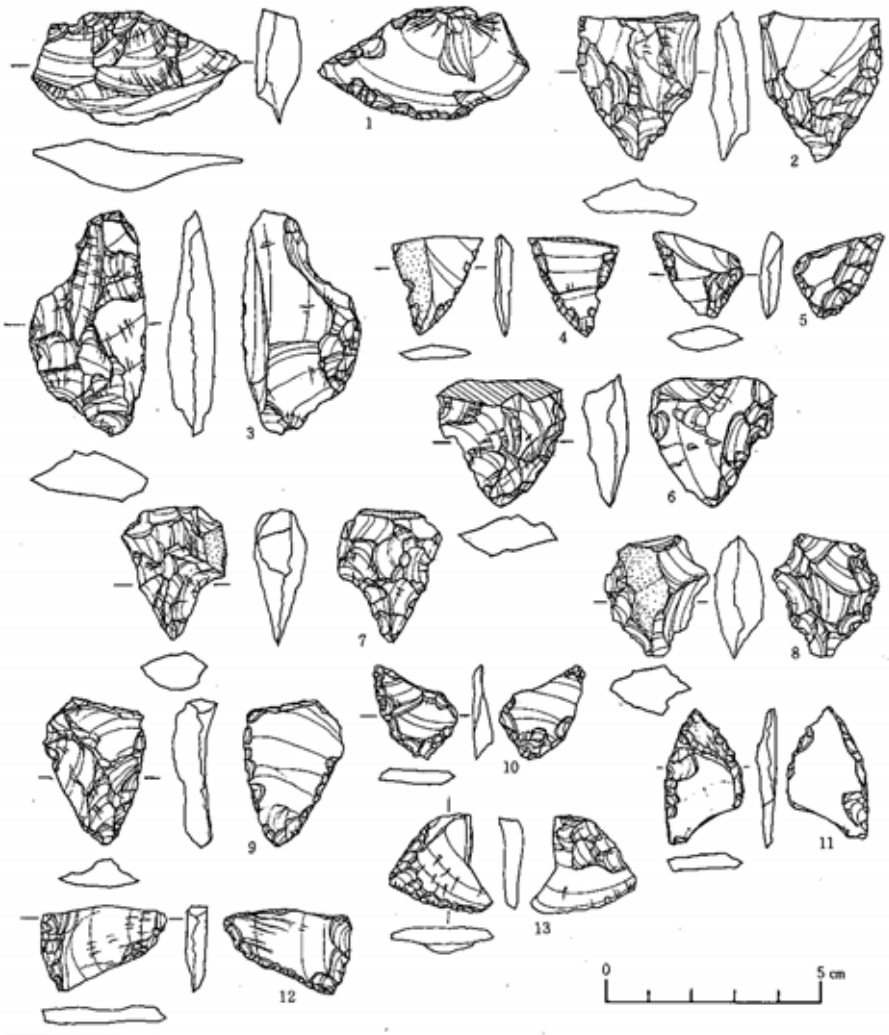
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM・N45－溝	不明	Ⅱd₁	細粒凝灰質頁岩	87.5	46.3	12.2	64.7	縦長	左・右辺両面に加工、左・右辺、刃部平行線條痕	5431	36－17
2	CL 38－西2	不明	Ⅱd₁	玉髄	35.8	21.4	9.7	8.9	縦長	左・右辺両面に加工	6336	36－18
3	CL 42－6	不明	Ⅱd₁	黒色頁岩	80.0	44.6	15.0	58.5	縦長	左・右辺背面に加工	1835	36－19
4	CL 47－3	Ⅱ	Ⅱd₁	雄質頁岩	43.0	21.4	8.8	11.0	縦長	左辺腹面、右辺両面に加工	6649	36－20
5	CL 47－3・4	Ⅱ	Ⅱd₁	雄質頁岩	28.7	19.2	5.4	2.0	縦長	左辺下部、右辺両面、左辺上部腹面に加工	6689	36－21
6	DE 35－1	不明	Ⅱd₁	雄質頁岩	33.8	9.4	3.3	3.2	縦長	左辺両面、右辺上部腹面、下部背面に加工	15	36－22
7	CM 42－10	不明	Ⅱd₂	黒色頁岩	36.5	25.0	10.6	9.8	不明	左・右辺両面に加工	5958	36－23
8	CP 42－2	不明	Ⅱd₂	黒色頁岩	33.1	17.2	5.6	3.7	縦長	左辺両面、右辺上部背面、下部腹面に加工	1959	36－24

第152図　不定形石器(30)



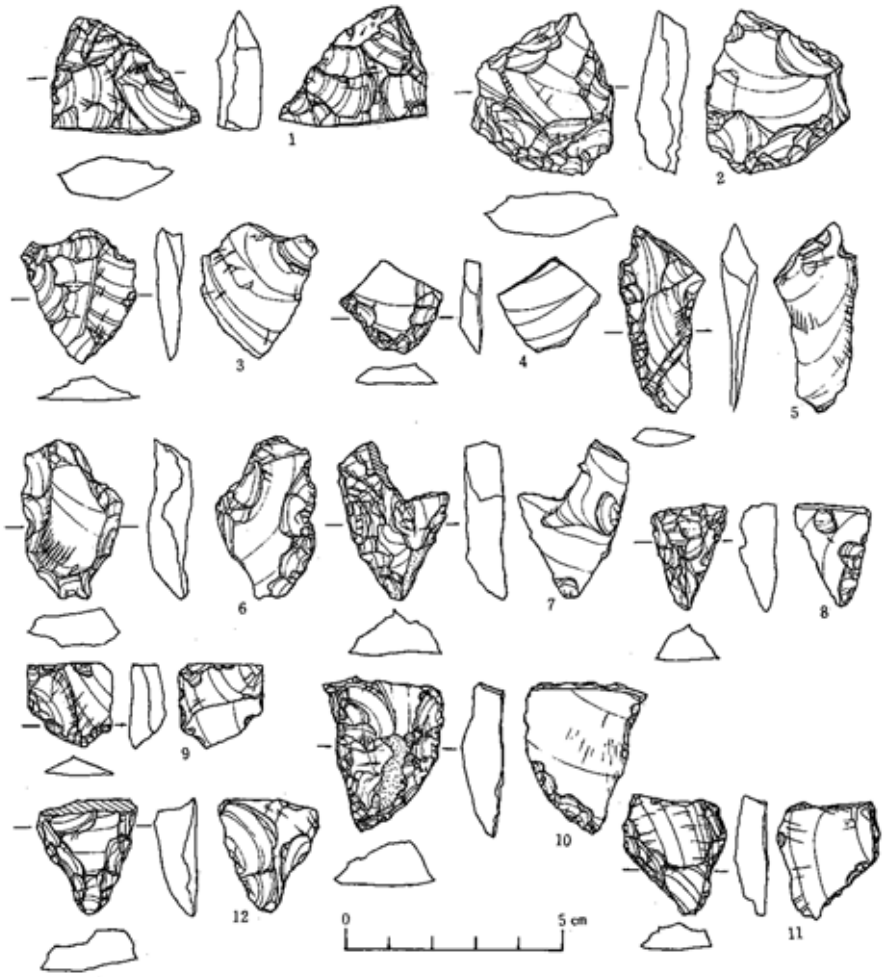
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM42－第12a	不明	Ⅱd₂	黒色頁岩	52.2	21.8	8.0	26.4	縦長	左・右辺背面に加工	1328	36－25
2	DE39－2	不明	Ⅱd₂	頁岩	41.1	21.7	9.5	10.2	不明	左・右辺腹面に加工	5958	36－26
3	CM42－11	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	31.5	32.1	8.6	5.8	縦長	左・右腹面に加工	5905	36－27
4	CM42－12	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	46.9	33.7	11.6	15.2	横長	左辺背面、右辺腹面に加工	5752	36－28
5	CK41－2	不明	Ⅱd₂	縦灰質頁岩	43.0	32.0	9.4	15.3	縦長	左・右辺背面に加工	1837	36－29
6	CL38－16	不明	Ⅱd₂	細粒凝灰岩	47.8	25.9	7.8	7.7	横長	左・右辺背面に加工	5738	36－30
7	CM43－3	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	68.0	34.8	10.0	30.3	縦長	左・右辺腹面に加工	1611	36－31

第153図　不定形石器(31)



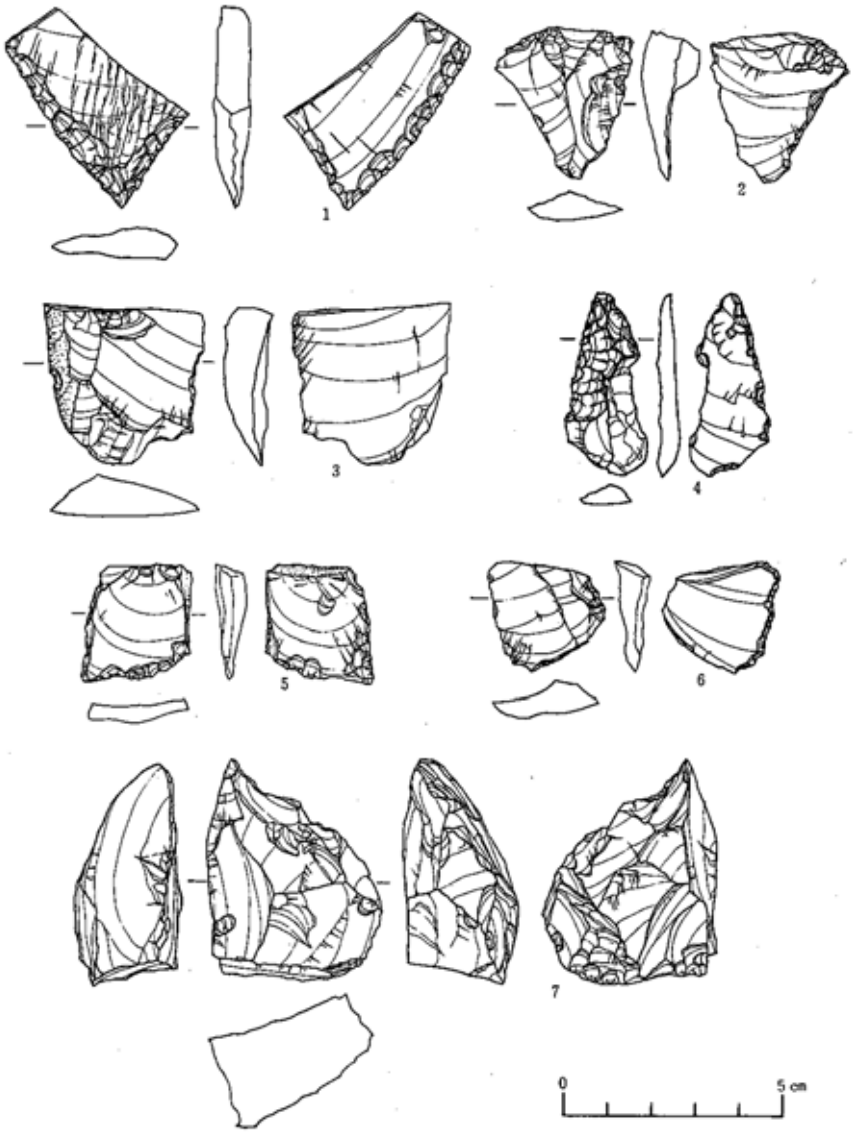
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 38－2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	26.8	48.9	10.5	11.7	横長	上辺両面、下辺腹面に加工	5916	37－1
2	CL 38－16	不明	Ⅱd₁	珪質凝灰岩	34.7	26.5	7.5	6.8	縦長	左・右辺両面に加工、上辺折れ	5962	37－2
3	CK 39－8	不明	Ⅱd₁	珪質凝灰岩	53.0	27.0	10.0	13.2	縦長	左辺両面、右辺上部背面に加工	6646	37－3
4	CL 42－15	不明	Ⅱd₁	黒色頁岩	24.0	11.5	3.2	1.1	縦長	左・右辺腹面に加工、上辺は折断か(?)	5464	37－4
5	BA 53－2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	20.0	17.7	5.5	1.7	縦長	左・右辺両面に加工	1906	37－5
6	CL 45－4	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	31.1	23.1	8.3	7.9	不明	左辺腹面、右辺背面に加工	6405	37－6
7	CM・N 45－溝	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	32.1	15.5	8.5	7.6	不明	左・右辺両面に加工、縁辺磨滅	6430	37－7
8	CK 38－9	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	28.7	18.5	11.7	5.9	不明	左・右辺両面に加工、平面形は縦長縁	5500	37－8
9	CQ 41－1	不明	Ⅱd₁	玉髄	35.5	18.5	6.8	5.9	縦長	左・右辺背面に加工	1310	37－9
10	表採	不明	Ⅱd₁	珪化凝灰岩(玉髄化)	22.0	18.0	3.2	1.5	縦長	左・右辺両面に加工	6000	37－10
11	DD 38－2	不明	Ⅱd₁	頁岩	32.4	18.5	3.5	2.2	縦長	下辺折れ、左・右辺背面に加工	13	37－11
12	CK 39－5	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	20.0	29.1	3.9	2.8	縦長	上辺折断(?) 左辺両面、下辺腹面に加工	1946	37－12
13	CM 42－8	不明	Ⅱd₁	珪化凝灰岩	21.5	24.0	6.0	2.6	横長	右辺折れ、上辺両面、下辺背面に加工	2583	37－13

第154図　不定形石器(32)



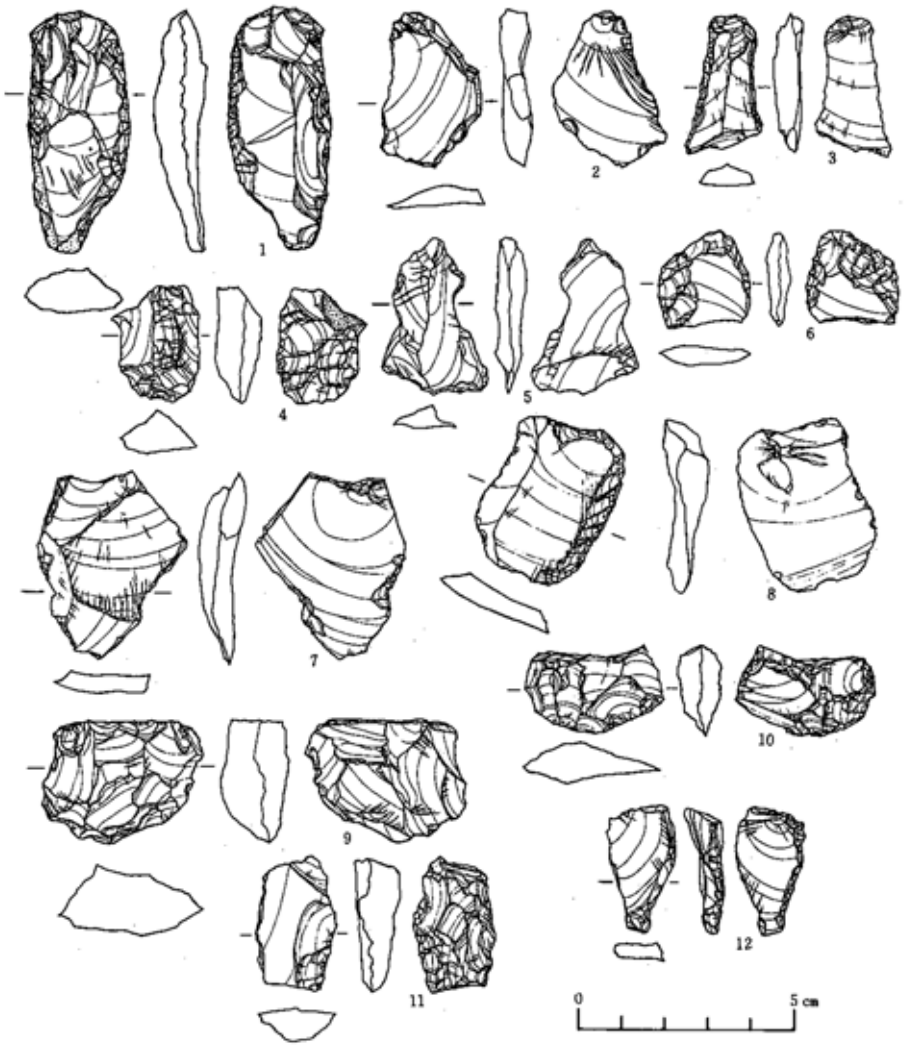
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CK 40－2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	27.0	30.1	10.4	8.7	不明	下辺折れ(?) 左・右辺両面に加工	5030	37－14
2	BB 47－層2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	36.1	30.7	10.0	14.0	縦長	下辺 blun. 左上辺、右上辺背面に加工	1655	37－15
3	CM 39－2	不明	Ⅱd₁	泥岩	31.0	23.5	5.6	3.6	縦長	左・右辺背面に加工	6967	37－16
4	BA 53－2	不明	Ⅱd₁	緑色石英安山岩質凝灰岩	21.6	19.0	4.9	2.3	縦長	上辺折れ、左・右辺背面に加工	1809	37－17
5	BD 52－2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	44.1	19.5	7.8	4.5	縦長	左辺背面、右辺両面に Km.f.	5926	37－18
6	CN 45－1・2	不明	Ⅱd₁	凝灰質頁岩	37.5	21.0	8.5	8.5	横長	左・右辺両面に加工	1836	37－19
7	CM 45－表	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	36.7	31.5	10.3	8.1	縦長	左・右辺背面に加工	1376	37－20
8	表採	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	25.2	15.0	7.2	3.0	不明	左辺両面、右辺背面に加工	5738	37－21
9	表採	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	19.7	16.0	4.5	3.5	縦長	左・右辺下部背面に加工	6959	37－22
10	BC 47－1	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	35.2	27.6	9.6	9.2	縦長	左辺背面、右辺上部背面、下部両面に加工	2939	37－23
11	CK 40－2	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	28.0	16.5	6.3	4.8	横長	左・右辺背面に加工	937	37－24
12	表採	不明	Ⅱd₁	珪質頁岩	26.3	23.2	8.6	5.0	縦長	上辺折れ、左・右辺両面に加工	5689	37－25

第155図　不定形石器(33)



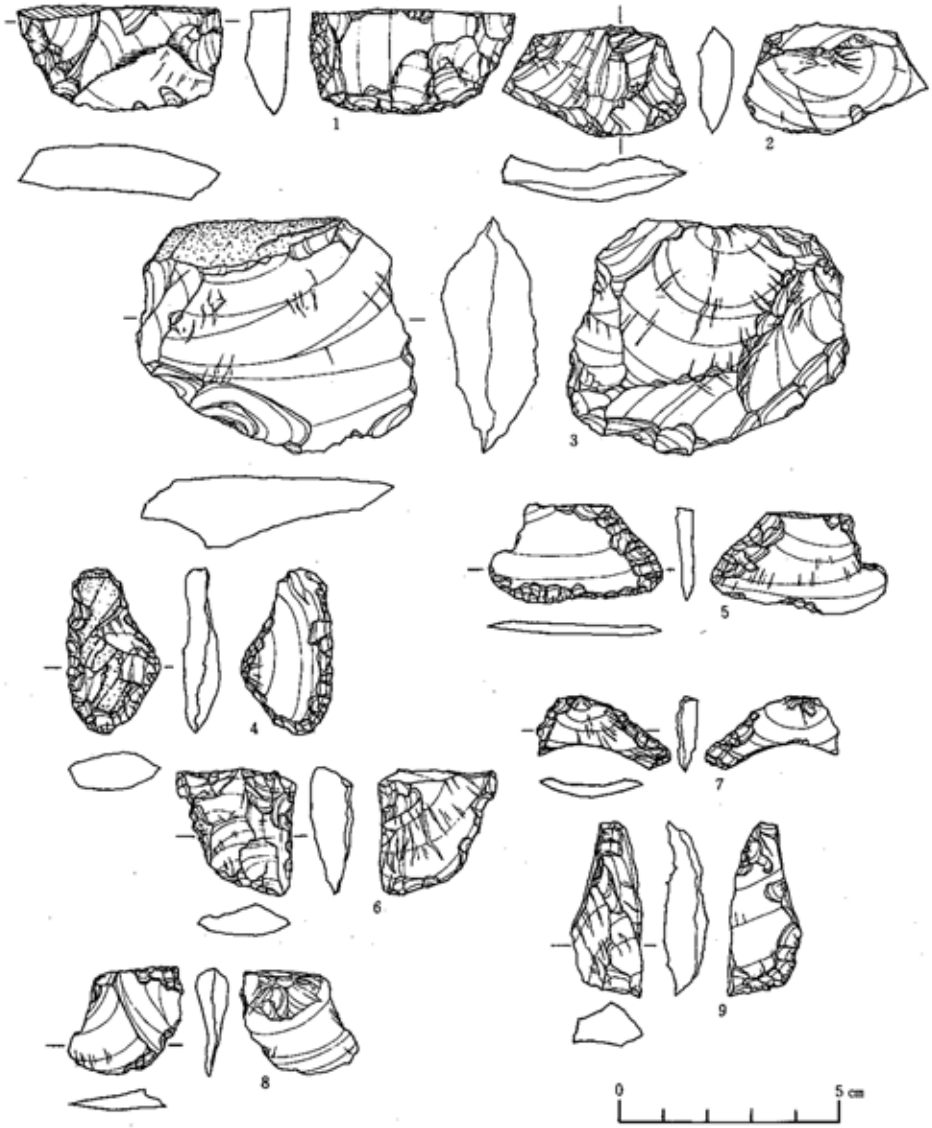
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	DB 41－1	不明	Ⅱd₁	流紋岩	48.4	27.8	7.5	9.5	縦長	上辺折れ、左・右辺両面に加工	32	37－26
2	CL 41－2	不明	Ⅱd₁	珪質凝灰質頁岩	34.0	21.8	6.7	8.2	縦長	左辺腹面、右辺背部に加工	6623	37－27
3	BD 50－2	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	36.1	34.0	9.6	13.1	縦長	下辺右部、右辺背面に加工	6578	37－28
4	BC 52－2	不明	Ⅱd₂	玉髄	42.0	11.6	4.6	3.2	縦長	左・右辺背面に加工	2138	37－29
5	CM42－覚乱	不明	Ⅱd₂	黒色頁岩	26.5	22.7	3.9	4.4	縦長	左辺腹面、下辺背面に加工	5638	37－30
6	CK 36－4	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	25.4	14.0	8.4	5.0	縦長	左辺・上辺左部、腹面に加工	957	37－31
7	CL 43－4	不明	Ⅱd₂	珪質頁岩	52.0	36.8	21.4	45.8	不明	石核再利用、多面部に加工	6060	37－32

第156図　不定形石器(34)



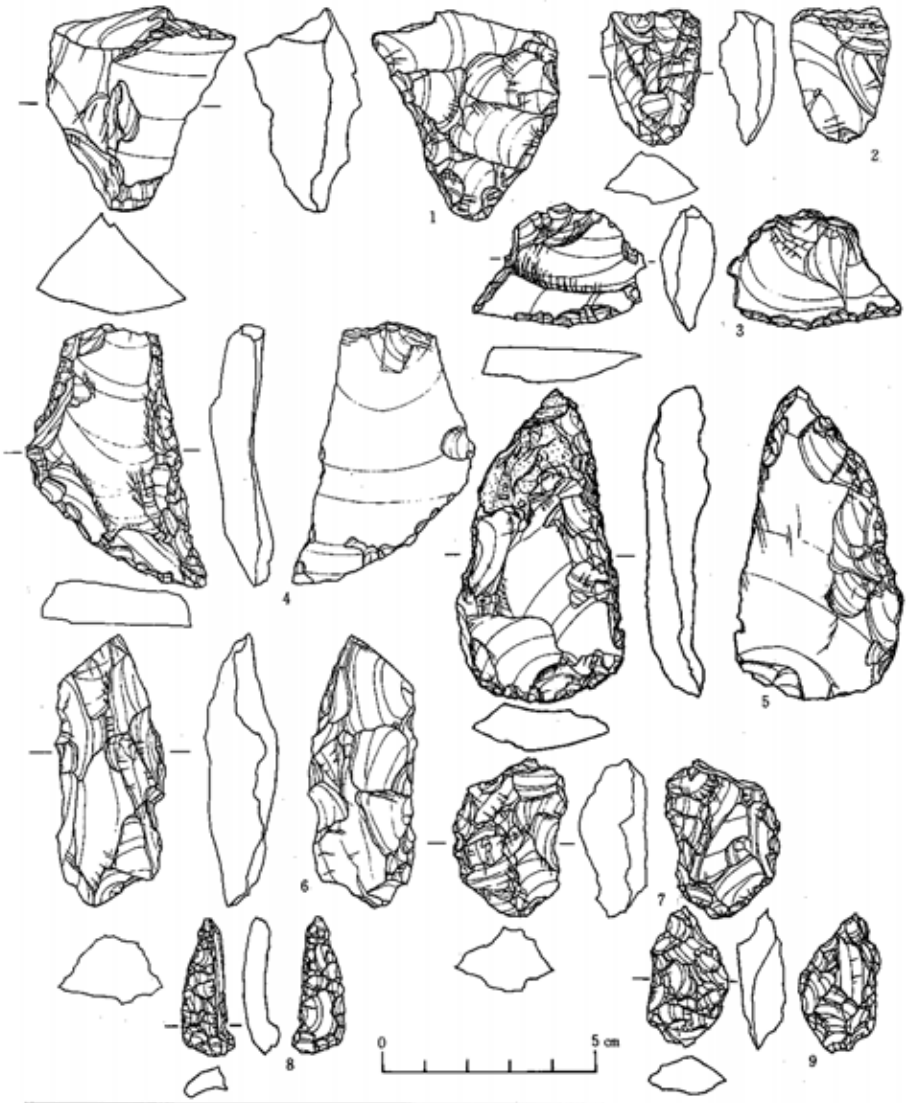
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM48－3	不明	IIa₁	砂質頁岩	56.7	24.2	10.9	16.0	縦長	上・左・右辺両面に加工	1775	37－33
2	CM42－11	不明	IIa₁	黒色頁岩	37.0	23.3	7.2	4.9	縦長	左辺下部・下辺・右辺背面に加工	5903	37－34
3	表採	不明	IIa₁	珪質頁岩	31.6	16.2	5.6	3.0	縦長	左・右辺背面、下辺腹面に加工	5713	37－35
4	CO45－x	不明	IIa₁	珪質頁岩	27.3	17.7	10.0	4.7	不明	左・右・下辺両面に加工	6443	37－36
5	BD33－2	不明	IIa₁	珪質頁岩	36.5	15.0	5.0	3.4	縦長	下辺背面に加工、左・右辺背面に m. f.	6877	37－37
6	CL42－9	不明	IIa₁	黒色頁岩	22.0	21.4	4.6	2.4	縦長	左・右・上辺両面に加工、下辺折れ	1817	37－38
7	CT41－1	不明	IIa₁	珪質頁岩	45.1	22.5	4.3	10.7	縦長	上辺腹面に加工、左辺背面、右辺腹面に m. f.	9053	37－39
8	CL38－3	不明	IIa₁	珪質頁岩	30.3	27.0	8.7	9.7	縦長	上辺・右辺背面に加工、左辺両面 m. f.	1887	37－40
9	DD31－1	不明	IIa₁	珪質頁岩	29.2	24.0	25.0	16.8	横長	上辺 blun. 左・右・下辺両面に加工	1815	37－41
10	CX40－6	不明	IIa₁	玉髄	30.0	15.6	9.7	5.6	縦長	上辺折れ、左・右・下辺両面に加工	1967	37－42
11	CM・N45～表	不明	IIa₂	珪質頁岩	31.1	18.2	7.6	6.5	不明	左・下辺腹面、右辺両面に加工	574	37－43
12	DG35－1	不明	IIa₂	珪質頁岩	29.3	11.3	3.3	3.3	縦長	左・上辺腹面、右辺背面に加工	5971	37－44

第157図　不定形石器(35)



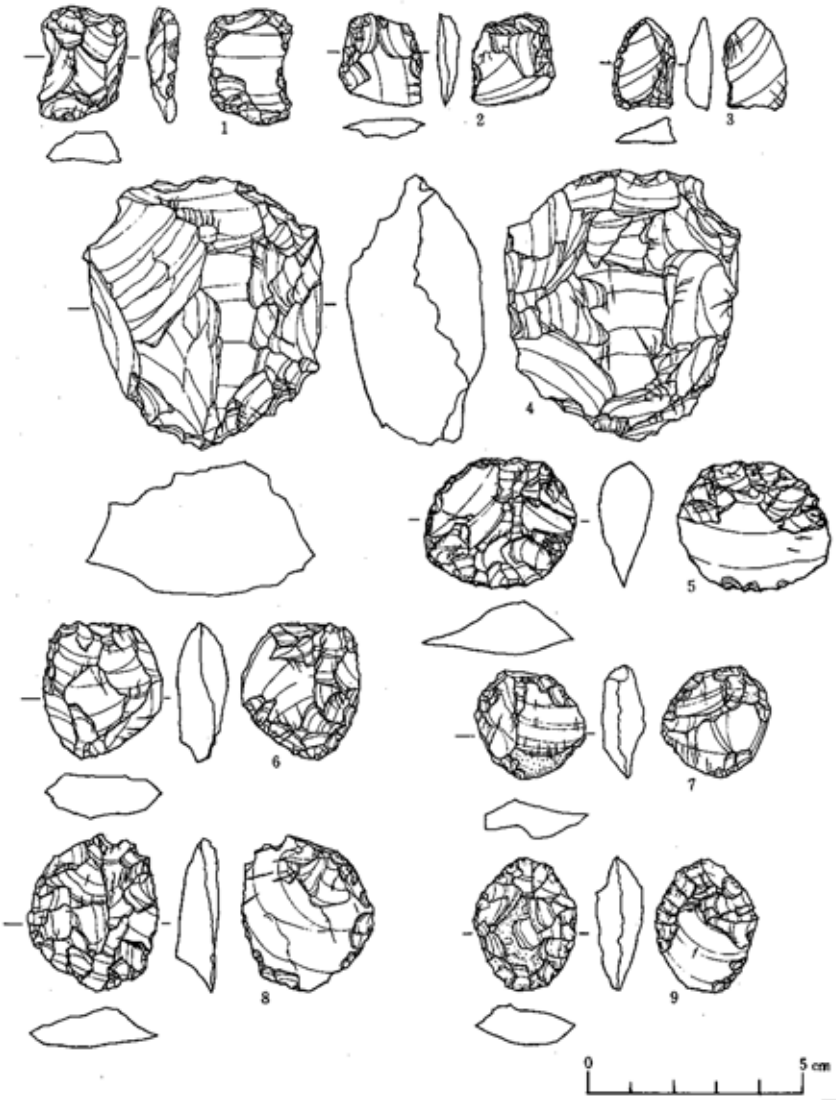
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	BD 63－1	不明	Ⅲa₁	珪質頁岩	(22.8)	46.3	10.0	14.0	不明	上辺折断、左・右辺両面・下辺腹面に加工	1822	38－1
2	CM 42－13	不明	Ⅲa₁	珪質頁岩	24.6	41.7	9.0	9.0	横長	上辺 blun、他の辺背面に加工	5650	38－2
3	CQ 34－1	不明	Ⅲa₁	緑色緑灰岩(石英安山岩)	54.0	57.3	15.2	61.4	横長	左・右・下辺両面に加工	6659	38－3
4	CL 42－東10	不明	Ⅲb₁	黒色頁岩	37.5	21.0	7.4	5.3	横長	左・右・下辺両面に加工	1135	38－4
5	CM 38－1	不明	Ⅲb₁	珪質頁岩	21.1	39.6	2.3	3.8	横長	上辺折れ、右・下辺両面、左辺腹面に加工	5376	38－5
6	AQ 36－1	不明	Ⅲb₁	流紋岩質緑灰岩	29.4	21.0	7.5	6.6	縦長	上辺折断、左・右・下辺背面に加工	1702	38－6
7	CM 48－3	不明	Ⅲb₁	黒色頁岩	26.3	15.0	7.5	1.3	横長	左辺背面、右辺・下辺右部両面に加工	5742	38－7
8	CK 41－2	不明	Ⅲb₁	珪質頁岩	25.0	22.3	4.2	3.0	縦長	上辺 blun、右辺背面に加工、他の辺背面m.f.	6547	38－8
9	BE 46－2	不明	Ⅲb₁	緑灰岩(ジャスパー)	40.0	15.9	9.6	6.0	縦長	左辺下部、下辺両面に加工、右辺背面m.f.	5970	38－9

第158図　不定形石器(36)



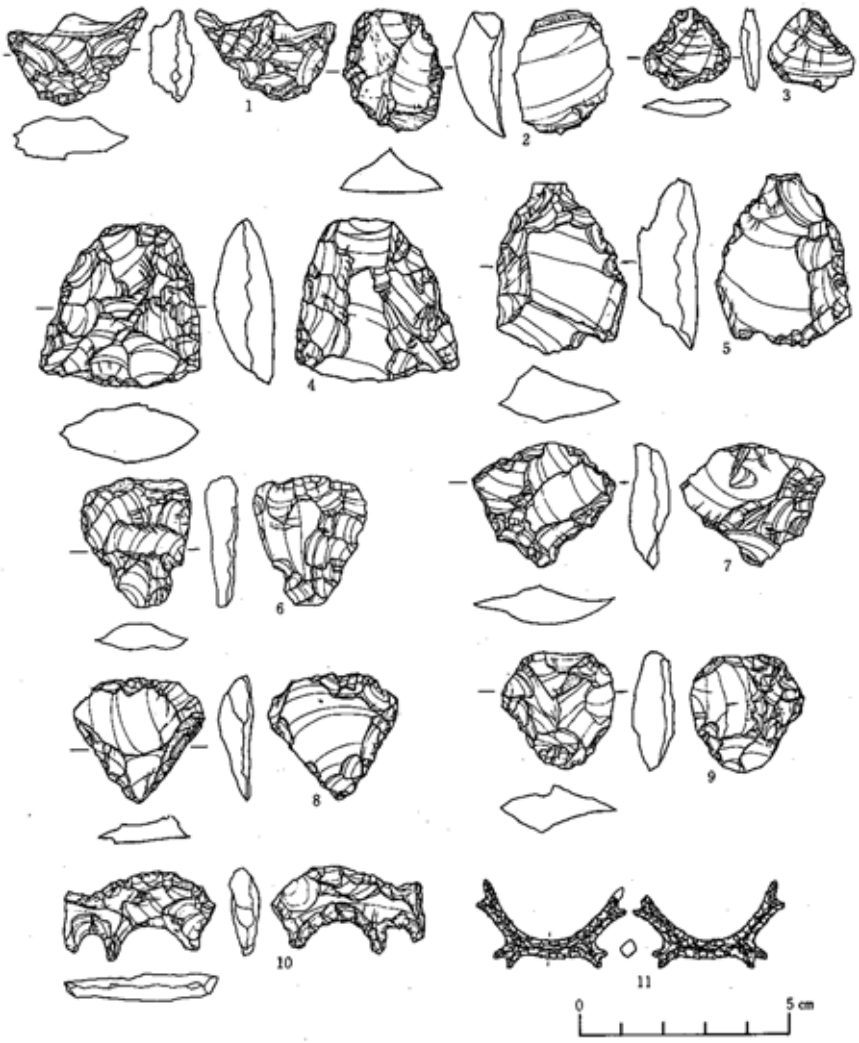
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CQ 42－1	不明	$Ⅲb_2$	シルト岩	47.0	41.2	22.4	35.9	不明	多面形に刃部、加工は片面	1850	38－10
2	表採	不明	$Ⅲb_2$	硅質頁岩	32.0	21.6	12.4	8.5	縦長	上・右辺背面・左辺両面に加工	5715	38－11
3	DG 39－2	不明	$Ⅲb_2$	頁岩	28.4	39.1	11.2	11.1	横長	左辺背面、下辺両面、右辺腹面に加工	5952	38－12
4	CO 45－x	不明	$Ⅲb_2$	黒色頁岩	61.3	35.4	10.0	27.8	縦長	左・右・下辺、背面に加工、下辺・右端からフィンシャット	6411	38－13
5	CK 39－10	不明	$Ⅳa_1$	硅質頁岩	73.8	38.8	11.6	35.2	縦長	微状石器か(?)	5742	38－14
6	CK-L 46－2表	不明	$Ⅳa_1$	硅質頁岩	63.9	26.7	15.6	27.0	不明	両面加工	1996	38－15
7	CL 38－16	不明	$Ⅳa_1$	黒色頁岩	27.1	23.0	15.4	13.4	不明	両面加工	1357	38－16
8	表採	不明	$Ⅳa_1$	流紋岩質凝灰岩	32.5	12.2	1.0	2.9	不明	右辺側縁後両面加工	6584	38－17
9	CO 34－3	不明	$Ⅳa_1$	珪化粗炭岩(一般泥質岩)	33.5	18.3	9.0	5.5	不明	両面加工	6886	38－18

第159図　不定形石器(37)



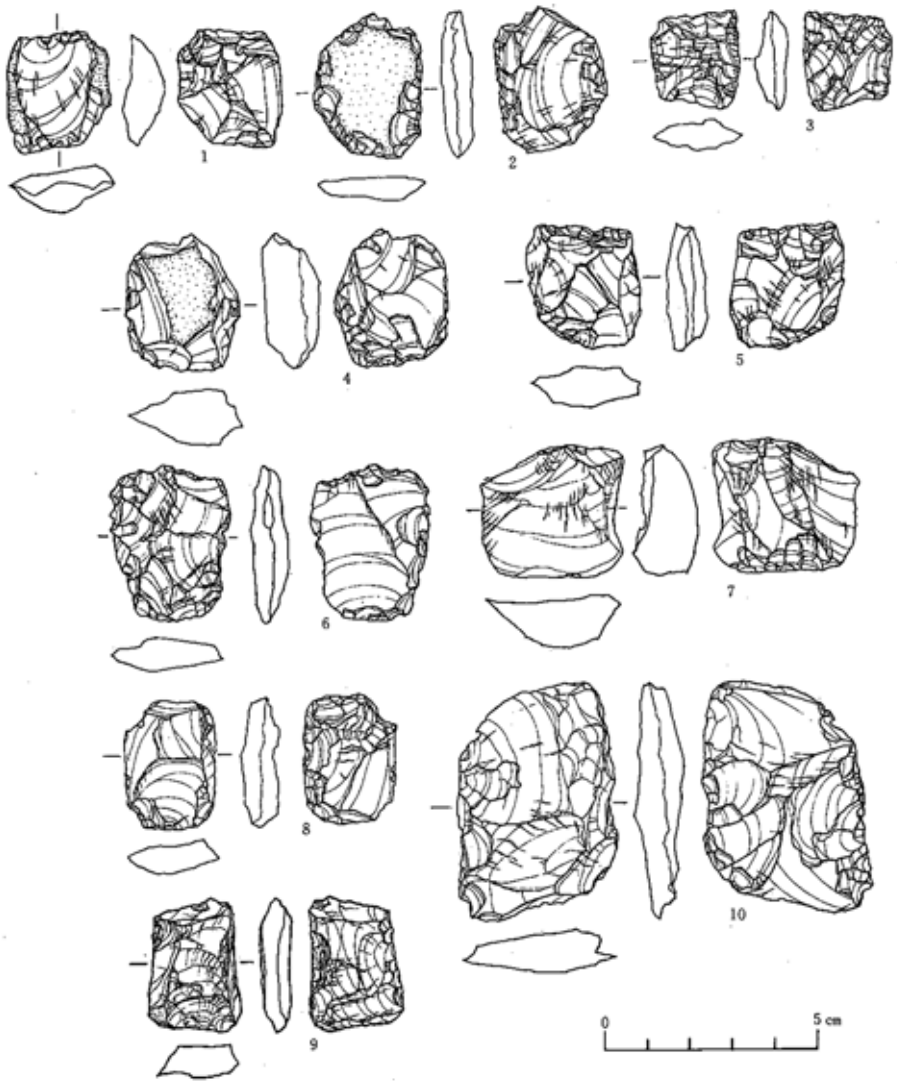
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	DH 35－1	不明	IVb_1	珪質頁岩	27.0	17.4	6.5	4.8	縦長	右辺は plan. か(?) 他は両面に加工	6655	38－19
2	CN 45－2	不明	IVb_1	珪質凝灰岩	22.0	19.0	4.0	2.4	縦長	上・左・右辺両面に加工、下辺両面に m.f.	6694	38－20
3	表採	不明	IVb_1	黒色頁岩	12.0	14.4	6.0	2.0	縦長	周縁に背面からの加工	5710	38－21
4	CK 39－8	不明	IVc_1	細粒石英安山岩質凝灰岩	62.7	53.0	30.0	123.0	縦長	両面加工、抱い剥離	1906	38－22
5	CO 45－層	不明	IVc_1	黒色頁岩	35.7	29.8	11.7	11.2	横長	打撃部のみ両面、他は背面に加工	1378	38－23
6	BD 52－2	不明	IVc_1	頁岩	12.6	27.2	10.0	10.7	不明	基本的に両面加工	1033	38－24
7	CM 42－1	不明	IVc_1	珪質頁岩	35.2	22.8	7.5	5.7	縦長	両面に加工	6224	38－25
8	CK 39－2	不明	IVc_1	珪質頁岩	36.2	29.8	9.0	9.3	縦長	背面に加工	1319	38－26
9	CM 42－7	不明	IVc_1	珪質頁岩	31.2	23.9	10.4	6.0	縦長	両面に加工	2522	38－27

第160図　不定形石器(38)



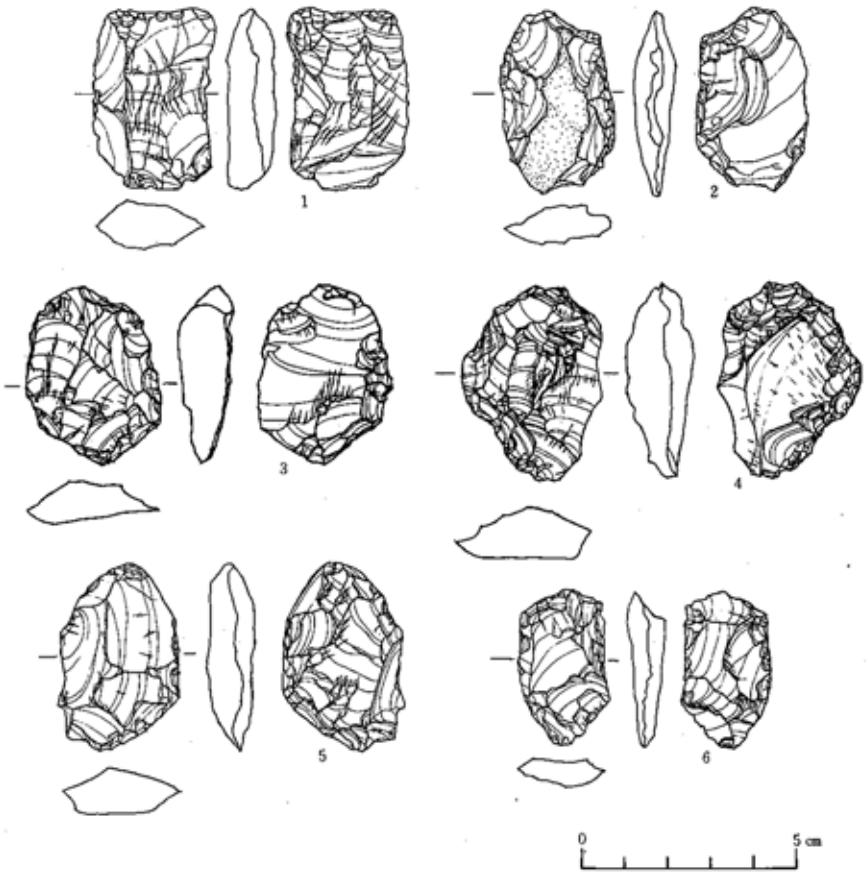
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CM 48－3	Ⅱ	Ⅳc₁	流紋岩質凝灰岩	27.8	29.0	10.1	6.5	不明	上辺折れ、他は両面加工	1991	38－28
2	CL 40－x	不明	Ⅳc₂	硅質頁岩	29.5	23.9	11.2	7.1	縦長	背面に加工	1319	38－29
3	CM 42－8	不明	Ⅳd₁	硅質頁岩	19.8	20.7	3.3	1.5	縦長	両面に加工	5982	38－30
4	BC 48－1	不明	Ⅳd₁	凝灰質頁岩	40.0	33.0	13.9	20.7	不明	左・右辺両面加工、下辺背面に加工	1048	38－31
5	CN 48－1	不明	Ⅳd₁	頁岩	41.3	28.7	12.7	25.6	縦長	左・右辺両面、上辺腹面に加工	6392	38－32
6	CM 42－東2	不明	Ⅳd₁	流紋岩質凝灰岩	31.3	22.1	5.4	4.0	不明	両面加工	1783	38－33
7	CL 45－3	不明	Ⅳd₁	硅質頁岩	30.0	34.0	9.4	7.1	縦長	左辺・両面、他は背面に加工	6540	38－34
8	CK 40－2	不明	Ⅳd₁	黒色頁岩	36.4	34.0	7.1	5.0	縦長	両面に加工	6518	38－35
9	表採	不明	Ⅳd₁	硅質頁岩	28.5	27.7	8.7	6.7	不明	両面加工	5880	38－36
10	CM 40－3	不明	Ⅳe	黒色頁岩	11.1	36.5	6.6	4.1	不明	両面加工（異形石器）	5812	38－37
11	DE 35－4	不明	Ⅳe	硅質頁岩	21.0	35.8	3.2	1.0	不明	両面加工（異形石器）	16	38－38

第161図　不定形石器(39)



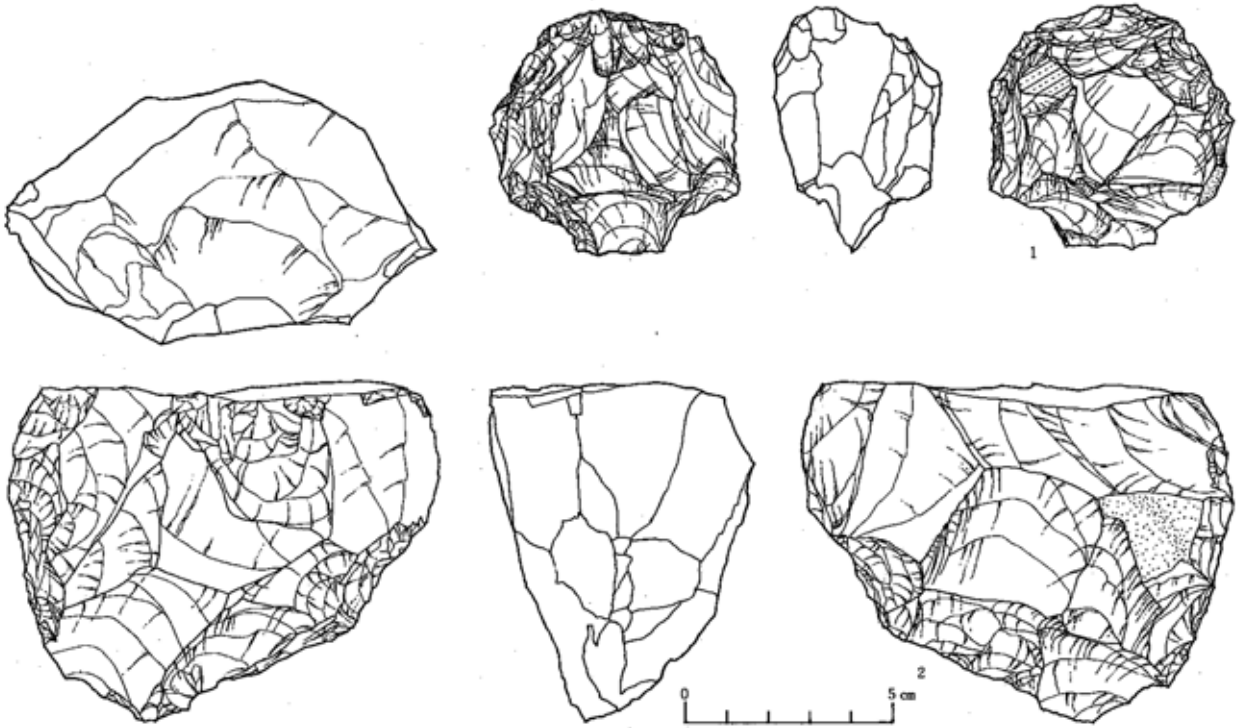
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	黒曜石比	刃部の特徴	登録番号	図版
1	BC 48 − 1	不明	V	黒色頁岩	21.3	24.7	9.7	7.0	不明	自然面残す、上・下辺つぶれ	6591	40 − 1
2	DB 35 − 1	不明	V	珪質凝灰質頁岩	35.0	25.2	5.8	6.7	不明	自然面残す、下辺つぶれ	1630	40 − 2
3	CL 47 − 3	II	V	黒色頁岩	23.4	20.5	7.1	11.9	不明		1977	40 − 3
4	CM 42 − 11	不明	V	黒色頁岩	32.2	25.9	13.2	3.5	不明	自然面残す、左・下・右辺つぶれ	5325	40 − 4
5	CL 42 − 6	不明	V	珪質頁岩	30.0	25.6	9.6	8.5	不明	上辺つぶれ	5832	40 − 5
6	BB 47 − 表	不明	V	黒色頁岩	37.2	26.5	8.0	9.0	不明	左辺つぶれ	1634	40 − 6
7	CK 38 − 6	不明	V	頁岩	34.5	32.0	17.2	13.7	不明	左・右辺つぶれ	1831	40 − 7
8	CL 42 − 2	不明	V	珪質頁岩	38.6	21.6	6.6	6.8	不明	上辺つぶれ	6556	40 − 8
9	CK 41 − 2	不明	V	黒色頁岩	55.5	36.0	9.2	23.5	不明	左・右辺つぶれ	1832	40 − 9
10	CM 41 − 27	不明	V	黒色頁岩	32.2	22.0	7.7	6.4	不明	左・右辺つぶれ	1857	40 − 10

第162図　不定形石器(40)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	DF 38－1	不明	V	黒色頁岩	42.0	28.5	11.0	15.8	不明	下辺つぶれ	6698	40－11
2	DH 31－2	不明	V	珪質頁岩	43.4	25.0	9.0	11.0	不明	自然礫残す、右辺つぶれ	6063	40－12
3	CL 36－30	不明	V	黒色頁岩	41.8	31.6	11.2	12.8	不明	下辺つぶれ	1853	40－13
4	CJ 36－東2	不明	V	珪質頁岩	46.0	34.0	13.1	17.6	不明	上・下・左辺つぶれ	1932	40－14
5	CM 39－西1	不明	V	黒色頁岩	44.0	28.0	11.0	14.3	不明	右辺つぶれ	1667	40－15
6	CL 42－3	不明	V	珪質頁岩	30.6	21.6	6.6	5.4	不明	左・右辺つぶれ	5086	40－16

第163図　不定形石器(41)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	素材剥片	刃部の特徴	登録番号	図版
1	CL 47－3・4	旧	Ⅵ	珪質頁岩	58.9	58.6	35.0	130.0	—	剥離順序不規則	7907	39－1
2	BE 41－2	不明	Ⅵ	珪質頁岩	80.0	103.1	50.0	545.0	—	打面転位あり	－	39－2

第164図　不定形石器(42)

あるためその可能性が考えられるにすぎない。

第121図に加工痕のある骨が出土した層と同一時期に形成された層から出土している第Ⅴ類の一部を掲載しておく。

この第Ⅴ類は、岡村道雄氏によってまず注目された石器で、ピエス・エスキーユと呼ばれている(岡村：1976)。田柄貝塚の第Ⅴ類は岡村氏の分類では第Ⅱ類に含まれる。氏は、この種の石器を定形石器として扱っているが、加工の痕跡と使用の痕跡を区別し、形態を作り出す加工が行れているとされない限り、定形石器とするのはむずかしい。ところで田柄貝塚で第Ⅳｂ類とした不定形石器は抑圧剥離によって長方形に加工された石器で6点出土している。両極剥離によって方形に作られたものと、押圧剥離によって方形に作られたものが同一器種とすれば、第Ⅳb類は、定形石器としてのピエス・エスキーユの仲間であるといえる。今後、この観点から石器をみていけば、ピエス・エスキーユの位置づけはもっと明確になるものと思われる。

3第Ⅵ類（石核）

第Ⅵ類はいわゆる石核である。5点出土している。黒曜岩は径2cmほどの円礫を母岩にしており非常に小さい。今回図示していないが、黒曜岩の剥片は自然面を残している例が多く、小さいことから大部分の母岩もこの石核と同じような大きさであったと考えられる。

珪質頁岩の石核は4点出土している。いずれも打面転移が激しく行われている。

田柄貝塚からは、出土している石器の量と較べるとわずかな石核しか出土していない。また打製石斧などに多い粘板岩の石核は出土していない。

打製石斧（第 168 図～第 183 図）

打製石斧は総数105点出土している。

1分類

全体の形態は基部加工と刃部加工によって成り立っていると考え、全体形による分類と共に形態を構成している部位ごとの分類も行った。分類項目は以下のようにした。

1加工法及び形態による区分

Ⅰ片面加工によって全体形が短冊形に作り出されているもの

Ⅱ両面加工によって全体形が短冊形に作り出されているもの

Ⅲ両面加工によって全体形が方形に作り出されているもの

Ⅳ両面加工によって全体形が撥形に作り出されているもの

Ⅴ両面加工によって刃部のみが作り出されているもの

Ⅵ両極剥離による加工、あるいは端部につぶれを持つ剥離があり長方形をしているもの

2大きさによる区分

Ａ小形（完形時の最大長が10㎝未満のもの、推定値を含む）
Ｂ中形（完形時の最大長が10㎝以上の20㎝未満のもの、推定値を含む）
Ｃ大形（完形時の最大長が20㎝以上のもの）

大きさによる区分は分類項目をみれば、だいたいの大きさがわかるように便宜的に区切ったにすぎない。

3基部平面形による区分

ａ円基
ｂ平基
ｃ尖基

厳密には基端部の分類である。尖基には、円基（丸味のある基部）、平基（直線的な基部）に含まれない基部を含む。

4刃部平面形による区分

1円刃
2偏刃
3直刃
4尖刃

偏刃には、石斧長軸に対して刃部が斜めになっているものを含む。この他に断面形による区分がある。片刃と両刃がその分類だが、片刃は数字の右上に記号を付した。例えば片刃円刃は１´とした。

観察表中の分類欄には、上記区分に用いた記号を組み合わせて表している。例として第Ⅰ類の表記法を図示する。

打製石斧第Ⅰ類分類表（小形のみ）

- Ⅰ片面加工 ―― Ａ小形
  - ａ　円基
    - １両刃円刃・１´片刃円刃
    - ２両刃偏刃・２´片刃偏刃
    - ３両刃直刃・３´片刃直刃
    - ４両刃尖刃・４´片刃尖刃
  - ｂ　平基
    - １両刃円刃・１´片刃円刃
    - ２両刃偏刃・２´片刃偏刃
    - ３両刃直刃・３´片刃直刃
    - ４両刃尖刃・４´片刃尖刃
  - ｃ　尖基
    - １両刃円刃・１´片刃円刃
    - ２両刃偏刃・２´片刃偏刃
    - ３両刃直刃・３´片刃直刃
    - ４両刃尖刃・４´片刃尖刃

2 出土状況

調査区内で、ＣＬ39 区～41 区、ＣＭ39～41 区から層位的に出土しているのは 105 点のうち 33 点で全体の 31％を占める。

同一の層位からはＣＬ39区37層から出土した3点が最も多い。またＣＬ41区19層とＣＭ41区28層かは2点出土している。他は各層から1点出土しているにすぎない。

分類別にみるとＣＬ41区19層から第ＩAa2類(片面加工による短冊形をした円基・偏刃の小形片刃石斧)が2点出土している。他に同一類が複数出土している地区、層位はない。

3時期による変化（第27表）

時期別に出土数をみると、第Ⅱ期2点、第Ⅲ期12点、第Ⅳ期1点、第Ⅴ期3点、第Ⅵ期3点、第Ⅶ期6点、第Ⅷ期4点、第Ⅸ期2点となる。数だけをみると貝層下の土層を形成している第Ⅲ期が多い。また第Ⅶ・Ⅷ期も多いといえる。

最も多く出土している第Ⅲ期は第ＩA類(片面加工小形片刃石斧)、第ＩB類(片面加工中形片刃石斧)、第Ⅴ類(礫斧)を組み合わせとしている。6点ある第Ⅶ期も第Ⅲ期とほぼ同様のあり方をしている。しかし、第Ⅷ期はこれらと異なり、両刃の第ＩB類があり、第Ⅲ類や第Ⅴ類を欠いている。片刃石斧として第ＩA類があることから、組成に含まれていることも考えられるが、その頻度は低いと思われる。

時期＼分類	ⅠA片刃	ⅠB片刃	ⅠB両刃	ⅡA片刃	ⅡA両刃	ⅡB片刃	ⅡB両刃	ⅣB両刃	ⅤB両刃	Ⅵ	ⅠB	ⅡB	ⅣB	計
Ⅱ		1							1					2
Ⅲ	5	3							2		2			12
Ⅳ												1		1
Ⅴ		1				1					1			3
Ⅵ	1	1				1								3
Ⅶ	1	1			1	1	2							6
Ⅷ	1		1					1	1					4
Ⅸ							1					1		2
不明	16	25		1	3	1	10	3		5	2	2	4	72
計	24	32	1	1	4	4	13	4	4	5	5	4	4	105

第27表　打製石斧時期別・分類別出土数量表

石材＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	計
粘板岩	9	6	10	7	3	5	40
砂岩	8						8
石英安山岩質凝灰岩	7	1					8
砂質凝灰岩	7	1					8
凝灰質砂岩	8						8
泥岩	6				1		7
凝灰質頁岩	4	1		1			6
砂質粘板岩		1	3				4
砂質頁岩	2	1					3
安山岩質凝灰岩	2						2
花崗閃緑岩	1						1
細粒砂岩	1						1
花崗斑岩		1					1
不純石灰岩	1						1
石灰岩	1						1
塩基性凝灰岩	1						1
石英安山質凝灰岩	1						1
真砂（ホルンフェルス）	1						1
内緑岩	1						1
石英閃岩	1						1
凝灰質粘板岩		1					1
計	62	13	13	8	4	5	105

第28表　打製石斧時期別・石材別出土数量表

4石　材（第28表）

分類別に石材をみると第1類においては粘板岩・砂岩・凝灰質砂岩・石英安山岩質凝灰岩・砂質凝灰岩が同程度である。第Ⅱ～Ⅳ類では粘板岩の使用頻度が高い。

5形態の特徴と製作法

第3項では時期別に打製石斧の組成をみ、第Ⅲ期には片刃石斧が出土していないことにふれた。しかし、時期別にみた場合、比較する資料が少なくなるため、これ以上のことは言及できない。そこで、以下では後期前半～晩期前半の様相として田柄貝塚における打製石斧の特徴を浮き彫りにしたい。

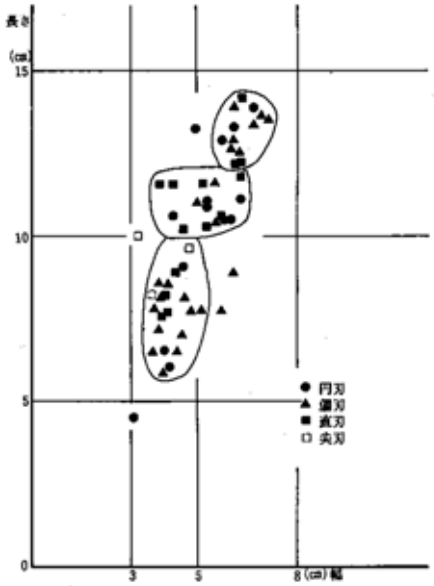
1第Ⅰ類

（a）刃部形態と大きさの関係

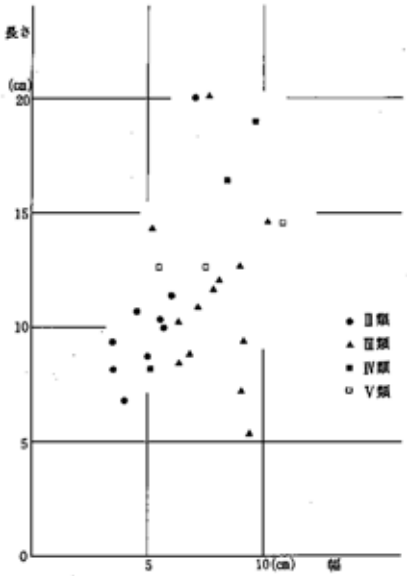
第Ⅰ類の大部分は完形で出土している。第165図には第Ⅰ類のうち、長さと幅がわかる資料を使ってその大きさを示した。これによればア（長さ12cm以上、幅5.5～7.5cmのもの）、イ（長さ10cm以上12cm未満、幅4～6cmのもの）、ウ（長さ5.5cm以上10cm未満、幅3.5～5cmのもの）に区別できる。

アでは偏刃と円刃を主要な構成要素とし若干の直刃を含む。円刃をした石斧の長さと偏刃をした石斧の長さには、大きな違いはないがわずかに偏刃が短い傾向にある。

イでは直刃と円刃を主要な構成要素とし偏刃を少し含む。直刃の長さは11.5cm前後に集中



第165図　打製石斧第Ⅰ類長さ・幅相関図



第166図　打製石斧第Ⅱ～Ⅴ類長さ・幅相関図

しているが、幅は3.5〜6.3cmの間と散満なあり方を示している。

ア・イは分類した第ＩＢ類に該当する。第ＩＢ類で基部形態のわかるのは24点で、内訳は円基22点、尖基1点、平基1点で円基が多数を占めている。

ウは分類でいう第ＩＡ類で偏刃を主な構成要素としており、それに若干の円刃・直刃・尖刃からなる。分布は縦に長く広がっている。先にふれたア・イはやや横に長く分布していることから幅にまとまりがあるのはウの特徴といえる。基部形態がわかるのは25点ある。内訳は円基12点、尖基9点、平基4点で第ＩＢ類に比して尖基が多い。

(b) 製　作

主要剥離面が残っている資料ではいずれも背面全体に自然面を残した縦長剥片が用いられている。打点は基部側にあることが多く、円礫側面の丸みをそのまま石斧基部として利用している。

加工は片面から行われている。円刃では側面加工に先行して刃部が作り出される（刃部角が小さいものに多い）こともあるが、偏刃は両側縁を剥離した後に刃部が加工されている例が多い。偏刃には石斧製作時に作られたもの、刃部再調整によって作られたもの、使用による破損などの各要因が絡み合っていると思われる。

(C) 折　れ

第Ｉ類は完形品が多く、破損しているのは62点のうち第ＩＢ類に含まれる5点（破損率8.0％）にすぎない。厚いため破損しがたいのであろうが、折れている5点の資料はいずれも背面側が支点になり、対面にあたる腹面から折断されたように割れている。

(d) 使用痕

第ＩＢ類で観察される使用痕には刃部の磨滅、基端部の磨滅、両側縁上部の磨滅、刃部背面における縦位線条痕、両側縁上部背面にみられる横位線条痕がある。これに対して第ＩＡ類では基端部の磨滅は稀である。また、第ＩＡ・ＩＢ類とも刃部腹面には線条痕を見いだせない。

(e) 着　柄

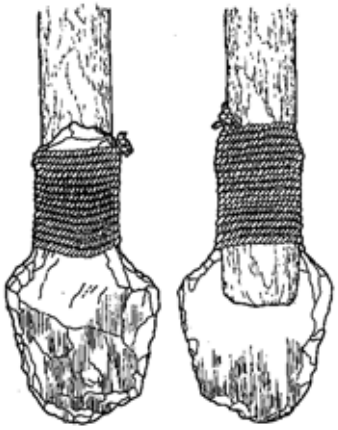
折れ方や使用痕のあり方を合わせて考えると第ＩＢ類は前主面片刃横斧（佐原：1977）として着柄・使用されたようである。つまり柄に対して刃部は直交し、腹面（刃部作り出しが行われている面）が柄に近い面として着柄されていた。背面を支点にして腹面から折れていること、縦位線条痕が刃部背面に観察できること（Ｓemenov：1964）がその理由である。

第ＩＢ類の基部はその大部分を円基が占めている。基部形状は着柄と密接な関連があり、第ＩＢ類ではそれが円基として斉一性があることや、両側縁上部背面に横位線条痕がみられることから、着柄された状況が考えられ、横斧としての結論とも矛盾しない。

これに対して第ＩＡ類は円基に次いで尖基も多くみられ、第ＩＢ類と同列に扱うのは難しい。線条痕からみると横斧として使用されていることが考えられるが、着柄しない状況や偏刃が目

立つことから縦斧としての使用状況も可能性として考えられ、これらはアックス＝アッズ（Steensberg：1980）をも考慮に入れて再検討する必要がある。

(f) 用 途



第167図　打製石斧第IV類着柄復元図

石材には粘土岩が多用されているなど磨製石斧の石材と大きな違いはないにもかかわらず、磨製石斧とは対照的に、ほとんど完形で出土している。刃部背面にある縦位線条痕は短く、不鮮明でありながら刃部は著しく磨減している。このことから「折れる前に刃部がつぶれ」てしまうものが横斧の対象物として考えられ、石・木・骨よりも柔らかい土が可能性としてあげられる。
その場合には着柄状況から考えて鍬のように使用されたことになる。

2第II～VI類

これらの石器は出土点数に限りがあるため、特徴を簡単にふれるに留める。

第II類の大きさは、第I類のイとウにほぼ一致している。（第166図）。片刃は1点で、両刃をした石斧が多い。

第III類は長さでは5～15cmと散漫に分布しているが、幅は6～10cmの間に収まる（第166図）。この大きさは第I類がちょうど見られないところであり、打製石斧としては第I類のあり方を補完していると考えられる。また第III類の形態には斉一性がないのが特徴である。ハンド・アッズであろうか。

第IV類は破損部が多く、第166図にはデータとして生かされていない。大きさを推定すると第I類の長さ・幅を大きくしたものと考えられる。厚さは変わらない。

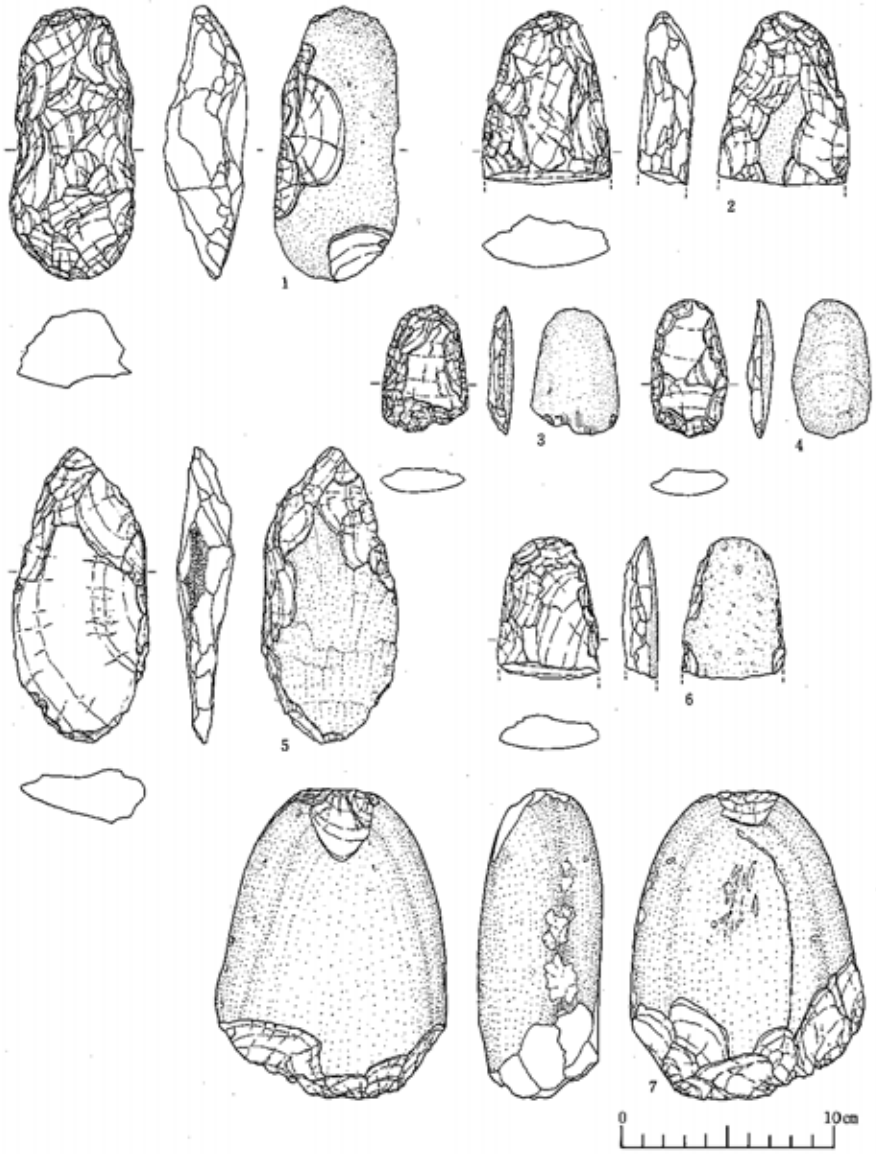
ところで、第IV類には刃部と直交する線条痕が顕著にみられるものがある。線条痕は第181図3・4、第182図1に観察される（図版71図3）。第IV類の線条痕は、第1類のと違って肉眼でもはっきりわかる。また線条痕は主面によって若干の違いはあるが、刃部から長軸に沿って10cmほど中に入った部位まで及んでいる。両面に同じようにあるのも特徴である。

こうした使用痕と撥形している石斧であることを合わせると、第IV類の一部は石斧長軸の延長に柄が取り付けられ、今日のスコップようなもの（京都府桑飼下遺跡で復元された着柄と同じ、鈴木：1975）といえる（第167図）。線条痕は長く明瞭であり、刃部はつぶれていることから、斧身長軸と平行してつきたてて使用した道具（掘り棒か）と考えられる。

第VI類は剥離の特徴からみると一部には楔として使用された石器を含んでいよう。ただし転用されたものではない。

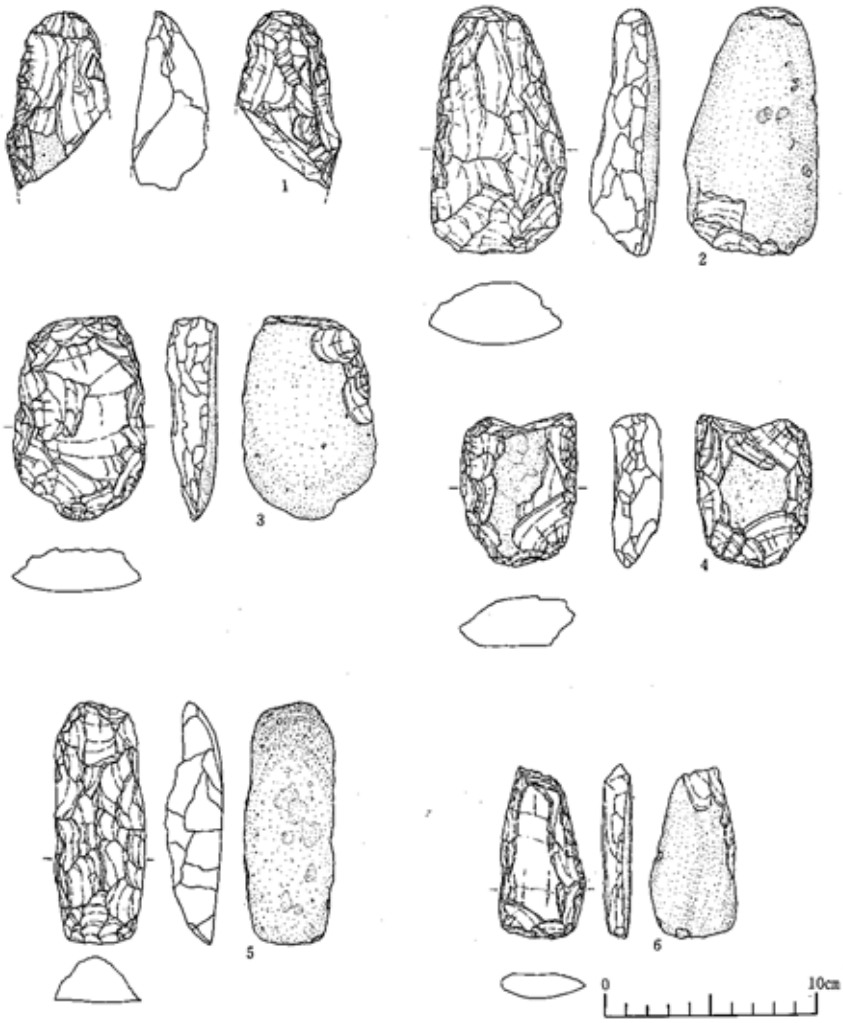
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM39－35	Ⅱ	IBa$_1$'	完形(42°)	花崗閃緑岩	111.5	62.5	26.0	255.0	刃部・基部・右側縁磨滅	230	41－1
2	CL39－37	Ⅲ	IBc$_2$'	完形(41°)	緑色砂岩	123.0	61.0	28.0	250.0		2082	41－2
3	CL39－37	Ⅲ	IBa$_2$'	完形(48°)	砂岩	102.0	45.5	25.0	161.0		2387	41－3
4	CL39－37	Ⅲ	IAa$_2$'	完形(63°)	石英安山岩質凝灰岩	64.5	44.0	15.0	55.8	背面刃部と直交する稜線顕	2005	41－4
5	CM39西－37	Ⅱ	VB$_1$	完形(35°)	粘板岩	127.0	75.0	27.0	380.0	刃部、基端部磨滅	2007	41－5

第168図　打製石斧(1)



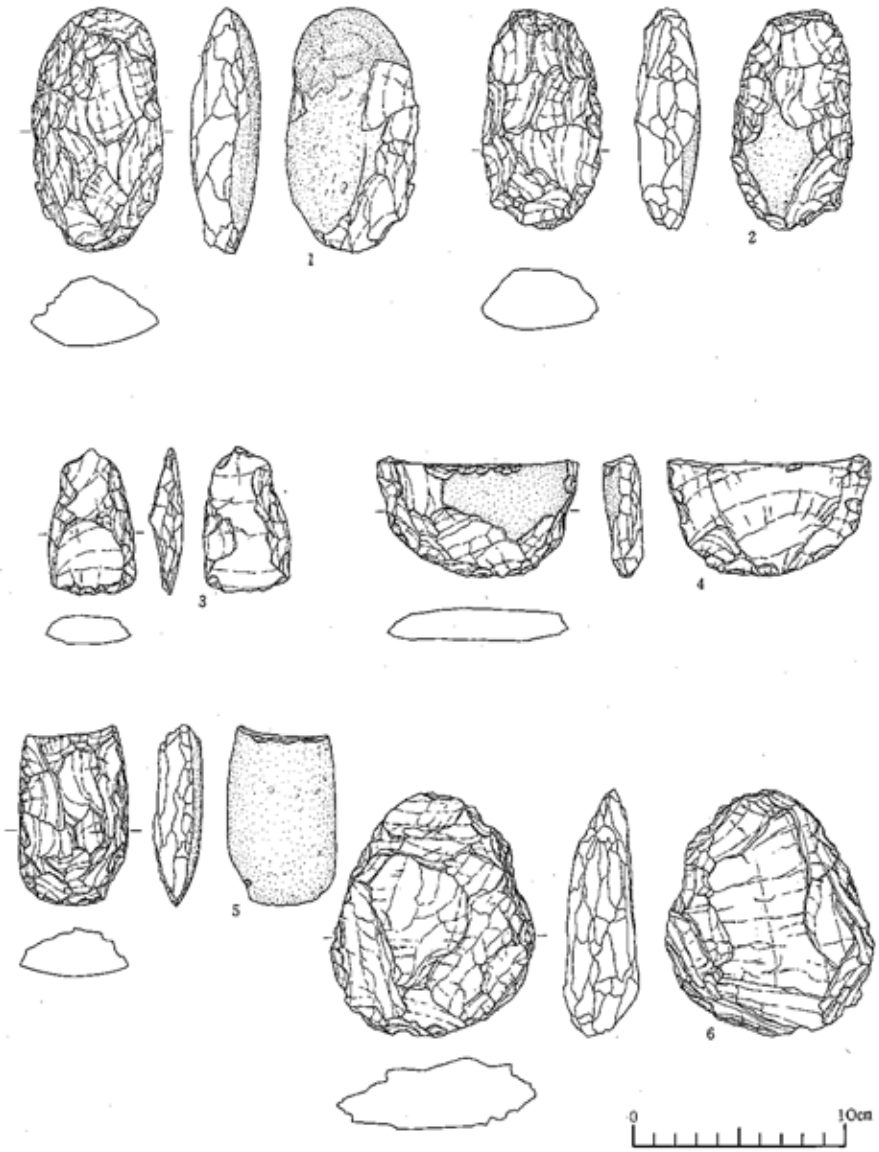
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM41－28	Ⅲ	IBa₁′	完形(35°)	砂質凝灰岩	128.5	57.5	37.5	300.0	刃部やや摩滅	1679	41－6
2	CM40－9	Ⅲ	IBa	基部	石英安山岩質凝灰岩	81.0	60.0	24.0	151.5	折れ面、裏面から剥れ	1705	41－7
3	CL41－19	Ⅲ	IAa₂′	完形(44°)	凝灰質頁岩	59.0	40.0	11.0	35.2	側辺刃部と直交する剥離痕	2073	41－8
4	CL41－19	Ⅲ	IAa₂′	完形(32°)	粘板岩	65.0	36.0	12.0	35.0		1709	41－9
5	CM39－36上	Ⅲ	VB₁	横刃(25°)	粘板岩	138.5	63.0	26.0	230.0	横刃型	1349	41－10
6	CL39－37	Ⅲ	IBa	基部	粘板岩	66.5	47.0	16.5	71.2	折れ面、裏面から剥れ	859	41－11
7	CM41－28	Ⅲ	VB₁	完形(85°)	粘岩	146.5	108.5	57.5	1,300.0	基端部、両側縁、敲打	2116	41－12

第169図　打製石斧(2)



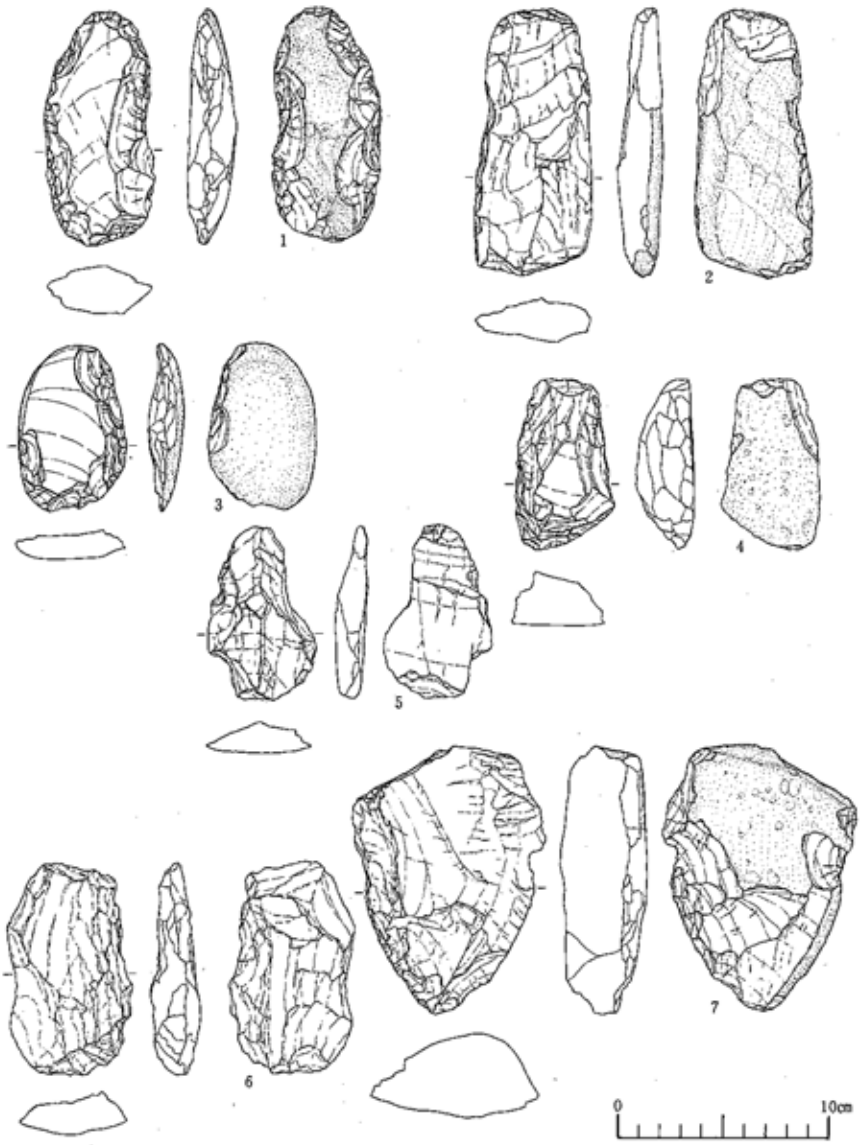
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－26	Ⅳ	ⅡBa	基部	粘板岩	84.0	46.0	36.0	123.3	折れ面、背面から剥れ	2004	42－1
2	CM 41－23	Ⅴ	ⅠBa₂'	完形(58°)	緑灰質砂岩	117.5	63.0	31.0	265.0	基端部、刃部、両側縁擦滅	5849	42－2
3	CM 41－25	Ⅴ	ⅠB₁	完形(47°)	緑灰質砂岩	97.0	62.5	23.5	192.0	折れ面、頭部から剥れ	5829	42－3
4	CL 40－25	Ⅴ	ⅡBb	刃部(45°)	粘板岩	72.0	55.0	22.0	129.3		274	42－4
5	CL 39－29・30	Ⅶ	ⅠBa₂'	完形(50°)	砂岩	115.5	43.5	27.5	165.9		1940	42－5
6	CM 41－22'	Ⅶ	ⅡAc₂'	完形(74°)	緑灰質頁岩	82.0	40.0	13.0	65.3	刃部擦滅	1999	42－6

第170図　打製石斧(3)



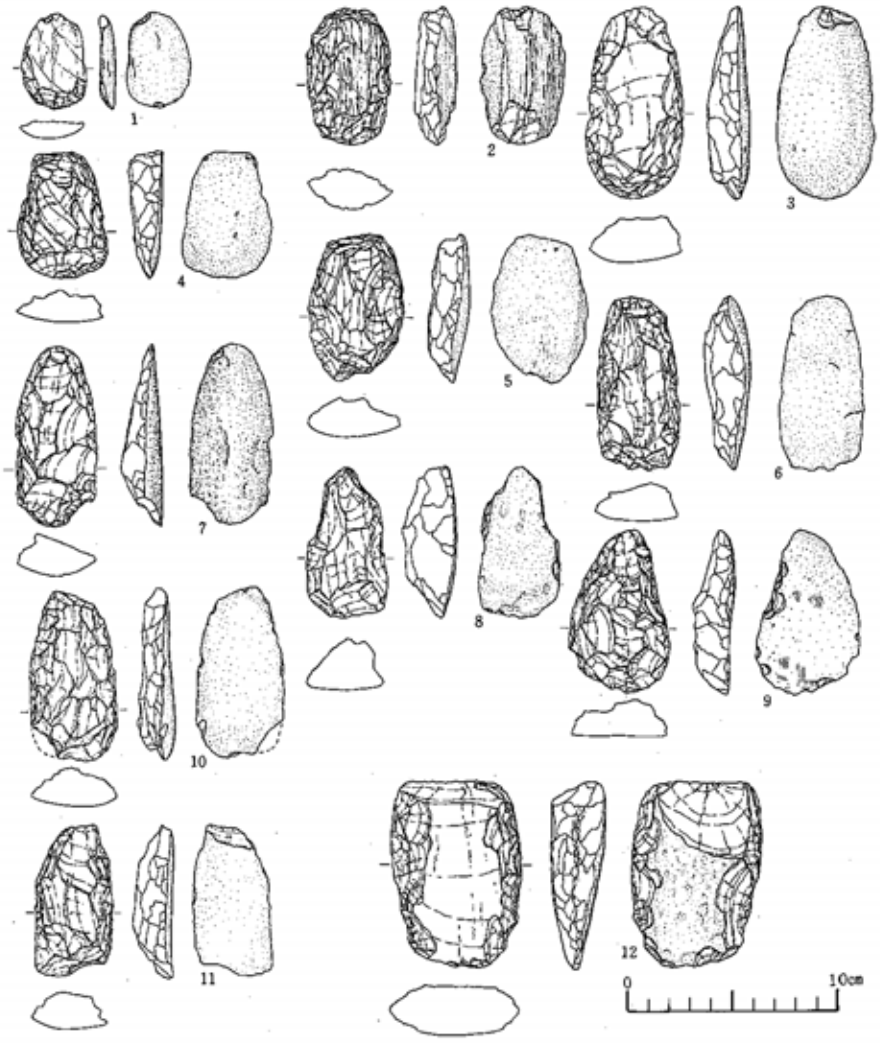
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL40－19	VI	IIBa₂	完形(52°)	石英安山岩質凝灰岩	114.0	60.0	32.0	300.0		747	42－7
2	CL39－26	VII	IIBc₄	完形(49°)	花崗岩	103.5	55.5	30.0	210.0	基部剥離	326	42－8
3	CL39－24	VII	IIAc₄	完形(25°)	砂質細粒凝灰岩	68.5	40.0	13.5	43.5	背面・刃部剥離面パティナ	5794	42－9
4	CM40－6	VII	IIBb₁	完形(44°)	砂質泥板岩	53.5	94.0	17.0	121.3	背面刃部・微小剥離痕	1792	42－10
5	CL40－15	VII	IIBc'	刃部(42°)	砂岩	86.0	51.0	22.0	125.5	折れ跡、裏面から割れ	5846	42－11
6	CL39－27	VII	IIBb₁	完形(59°)	粘板岩	201.5	75.5	31.0	535.0		1149	42－12

第171図　打製石斧(4)



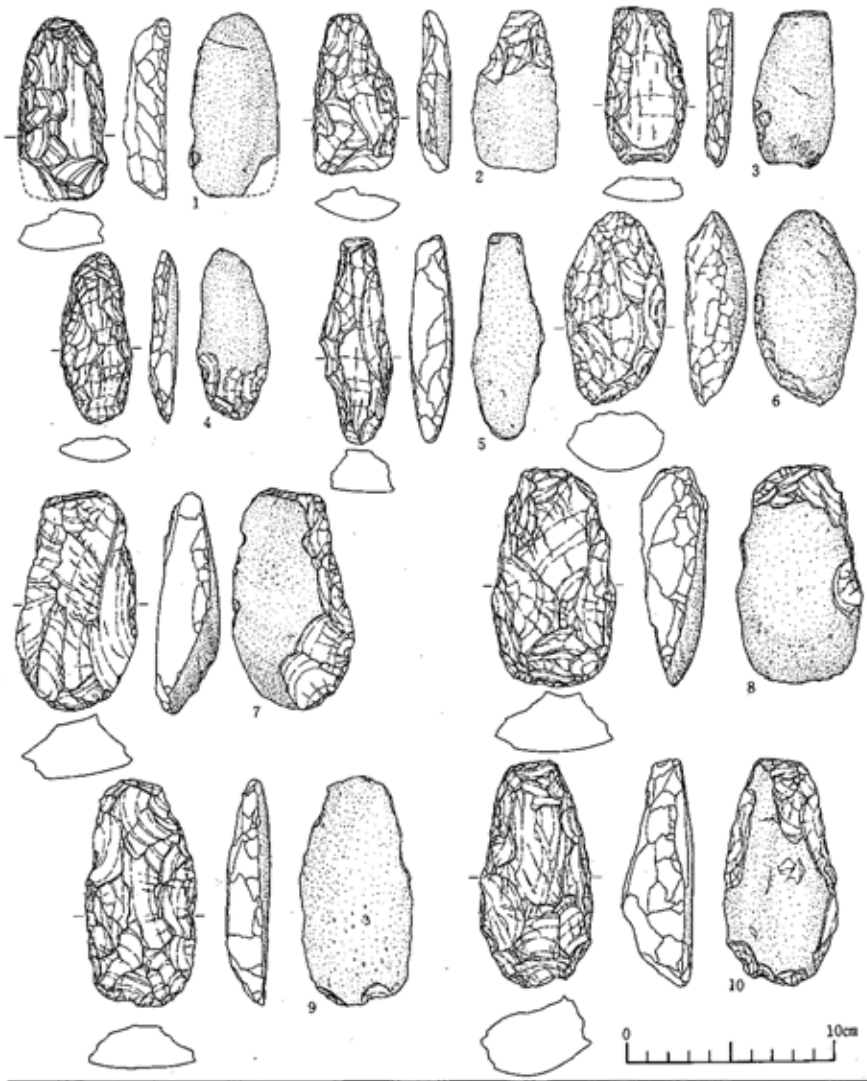
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－7	縄	IBa_2	完形(43°)	粘板岩	110.0	50.5	22.0	154.5	刃部側に打点	2990	43－1
2	CM41－12-13	縄	VB$_3$	完形(25°)	粘板岩	126.5	55.0	21.0	173.6	端刃、背面刃部と直交の線条痕	1936	43－2
3	CM 40－4a	縄	IAa_2'	完形(42°)	凝灰質頁岩	78.0	51.0	16.5	78.3	刃部側に打点	5589	43－3
4	CL 39－24	VI	IAb_2'	完形(46°)	砂岩	80.5	46.0	27.0	110.5		5793	43－4
5	CL 39－20	VI	IVB$_2$	完形(50°)	粘板岩	81.5	51.0	14.0	53.4		2096	43－5
6	CM 41－6	IX	IIB-c	完形(44°)	粘板岩	100.0	56.5	22.5	147.0		4505	43－6
7	CM 41－5	IX	IIB$_4$	完形(70°)	粘板岩	126.0	90.0	41.0	480.0		2080	43－7

第172図　打製石斧(5)



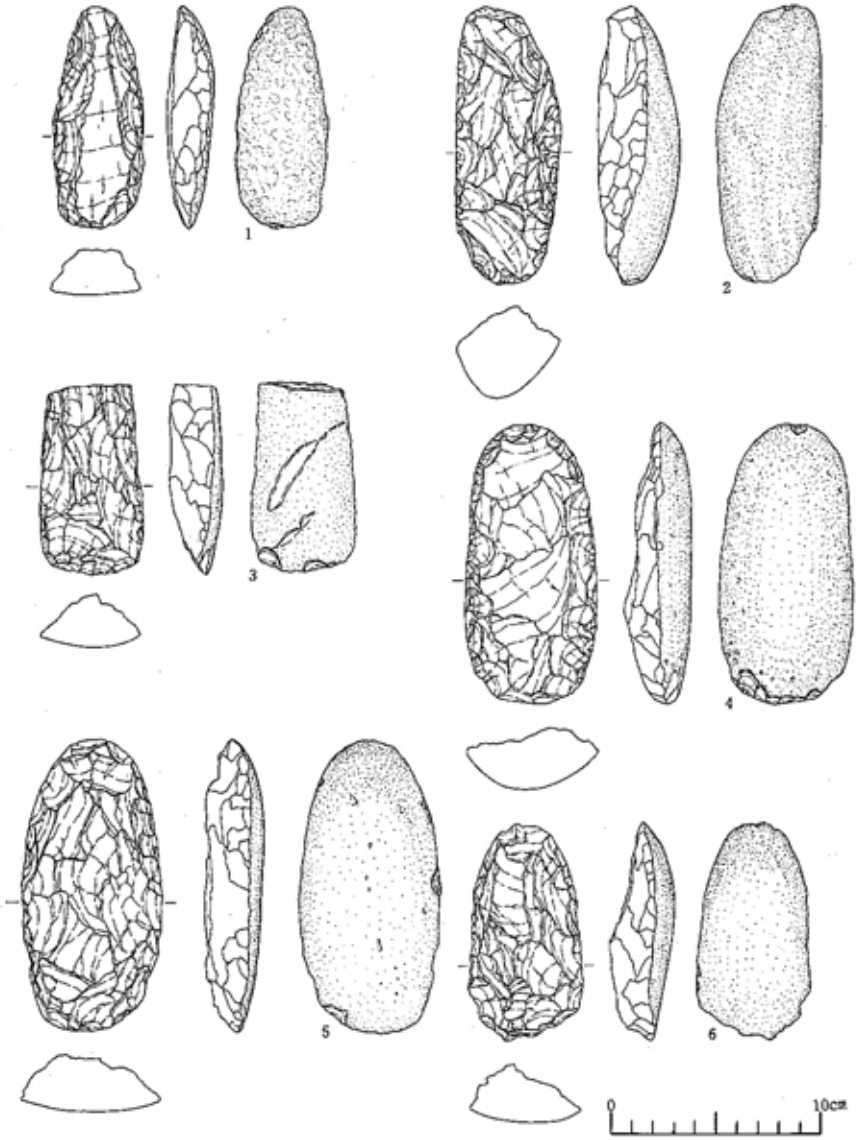
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 42－10	不明	IAa1'	完形(46°)	粘板岩	45.5	30.5	7.5	15.9	横図石上打点あり	1692	43－8
2	CN 43－1・2	不明	IAa1'	完形(44°)	不純石灰岩	65.0	39.5	19.5	65.6		6470	43－9
3	AD 39－1	不明	IAa1'	完形(53°)	珍岩	90.5	46.0	20.0	114.1	縁の彎曲形を刃部に	1099	43－10
4	DE 31－L4	不明	IAb1'	完形(42°)	砂質凝灰岩	59.5	41.0	16.0	52.9	左側縁上部磨滅	1951	43－11
5	CL 47－3・4	不明	IAa2'	完形(52°)	安山岩質凝灰岩	70.0	45.0	19.0	78.4	両側縁磨滅	6038	43－16
6	CQ 47－3	不明	IAa2'	完形(49°)	石灰岩	81.5	39.0	21.5	85.7		2132	43－17
7	CL 47－3a	不明	IAa2'	完形(36°)	粘板岩	85.5	38.0	19.0	65.3		2121	43－18
8	DE 35－2	不明	IAc2'	完形(52°)	塩基性凝灰岩	71.5	38.0	25.5	86.3	刃部・両側縁磨滅	2011	43－19
9	DE 35－4	不明	IAc2'	完形(51°)	石質安山岩質凝灰岩	77.0	48.0	19.0	72.2	背面刃部縁位縮点抵	1901	43－20
10	DG 35－1	不明	IAc2'	完形(46°)	砂質頁岩	81.5	40.5	18.0	66.8		2	43－21
11	CL 40－2	不明	IAb2'	完形(48°)	珍岩	71.5	37.0	18.0	62.3		80	43－22
12	CK 38－8	不明	IAc2'	完形(32°)	粘板岩	89.0	60.5	25.0	183.4	両側縁・上部に敲打	480	43－23

第173図　打製石斧(6)



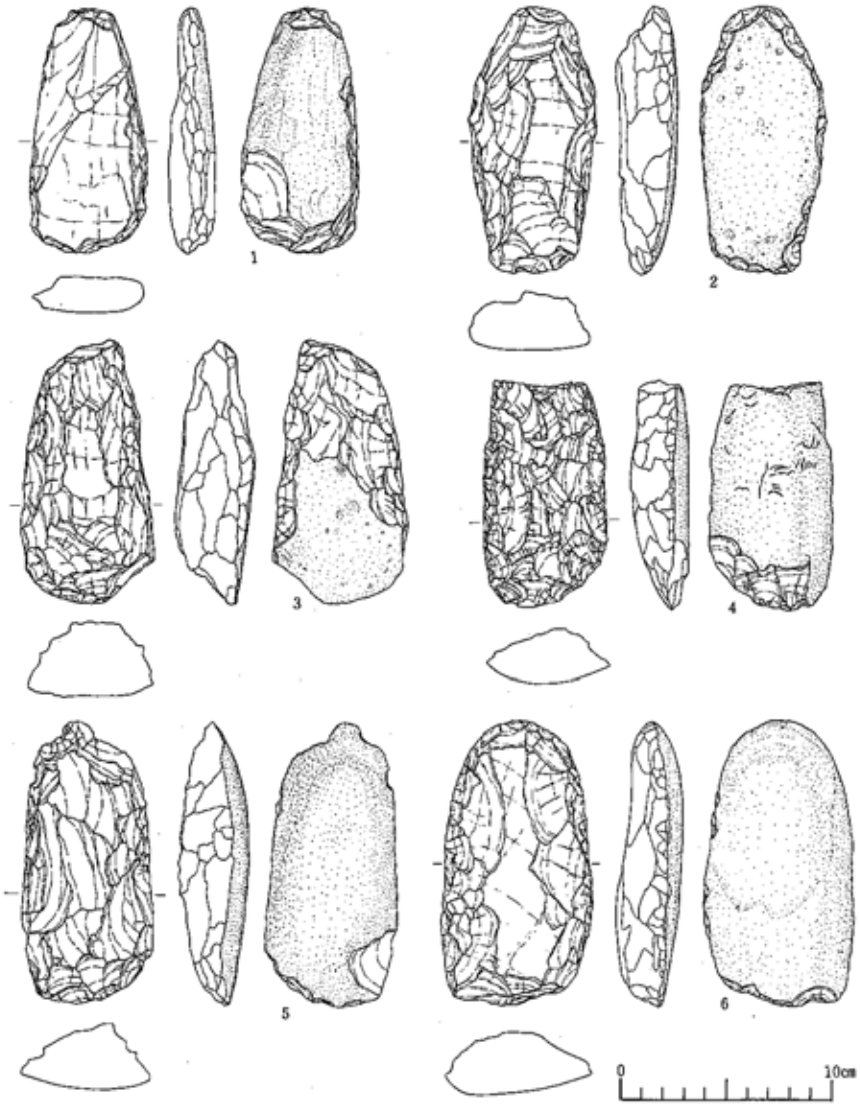
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CK 40－2	不明	IAa₂′	完形(50°)	砂岩	88.0	43.0	20.0	99.1	背面刃部縦位線条痕	88	44－1
2	CL38－北31	不明	IAc₃′	完形(49°)	砂質凝灰岩	77.0	40.5	15.0	60.0	背面刃部縦位線条痕	1163	44－2
3	DI 35－1	不明	IAb₃′	完形(50°)	砂質頁岩	75.5	39.0	12.0	180.0	背面光沢、旗部右上り線条痕	3012	44－3
4	CD 45－3	不明	IAc₄′	完形(34°)	石英安山質凝灰岩	82.0	34.5	12.5	46.6	両刃？	1309	44－14
5	CM・N－43	不明	IAc₄′	完形(35°)	砂質凝灰岩	99.5	32.0	21.0	80.4	両刃？、全周線部摩滅	1369	44－15
6	CN 42－1	不明	IAc₄′	完形(38°)	砂岩	91.5	48.0	29.0	171.0	両刃？ 刃部・基端部摩滅背面左上り線条痕	1923	44－16
7	CM 38－2	不明	IBa₂′	完形(41°)	砂岩	105.0	58.0	30.0	215.0	両刃？	1950	43－12
8	CD 26－3	不明	IBa₂′	完形(41°)	粉岩	105.0	59.5	31.5	245.0	両刃？	2151	43－13
9	表採	不明	IBa₂′	完形(36°)	砂岩	110.0	52.5	19.5	155.0		5719	43－14
10	CM・N45－[illegible]	不明	IBa₂′	完形(53°)	粘板岩	100.0	53.0	33.5	230.0	背面、不定方向線条痕	6428	43－15

第174図　打製石斧(7)



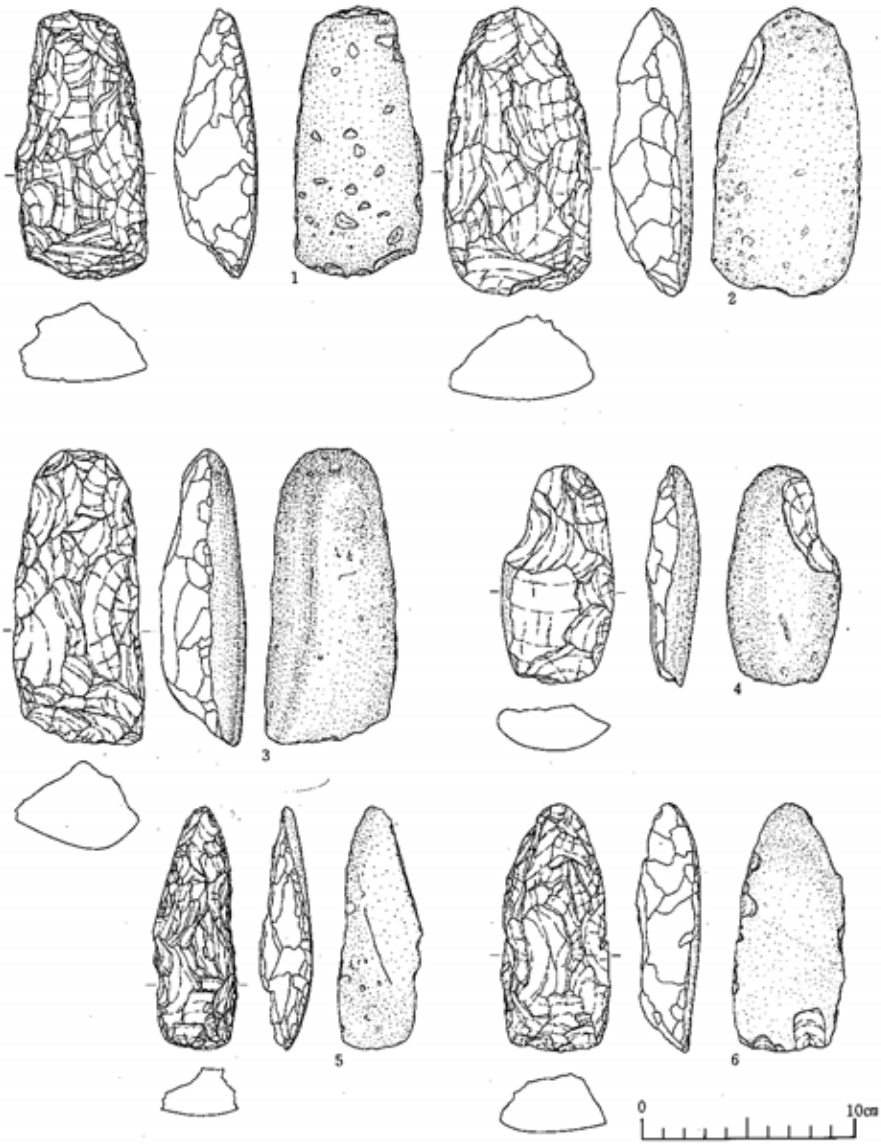
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DB 39－1	不明	IBc₁'	完形(39°)	凝灰質砂岩	106.5	43.0	22.0	120.7	両刃？ 全周縁磨滅	1374	43－24
2	CN 39－1	不明	IBc₁'	完形(41°)	砂質凝灰岩	132.5	49.5	38.5	320.0	両刃？ 礫の自然面を利用	1938	43－25
3	CM 40－2	不明	IB₁'	基部欠(46°)	石英安山岩質凝灰岩	91.0	49.0	25.0	139.0	折れ面、横面から割れ	5086	43－25
4	CM 43－溝	不明	IBa₁'	完形(44°)	粉岩	133.0	62.0	31.5	340.0	両刃？ 背面刃部磨滅、縦位線条位	1305	43－27
5	表採	不明	IBa₁'	完形(42°)	凝灰質砂岩	139.0	67.0	28.0	330.0	両刃？ 両側線上部磨滅	6	43－28
6	CQ 48－2	不明	IBa₂'	完形(55°)	凝灰質砂岩	103.5	54.5	29.0	172.7		280	43－29

第175図　打製石斧(8)



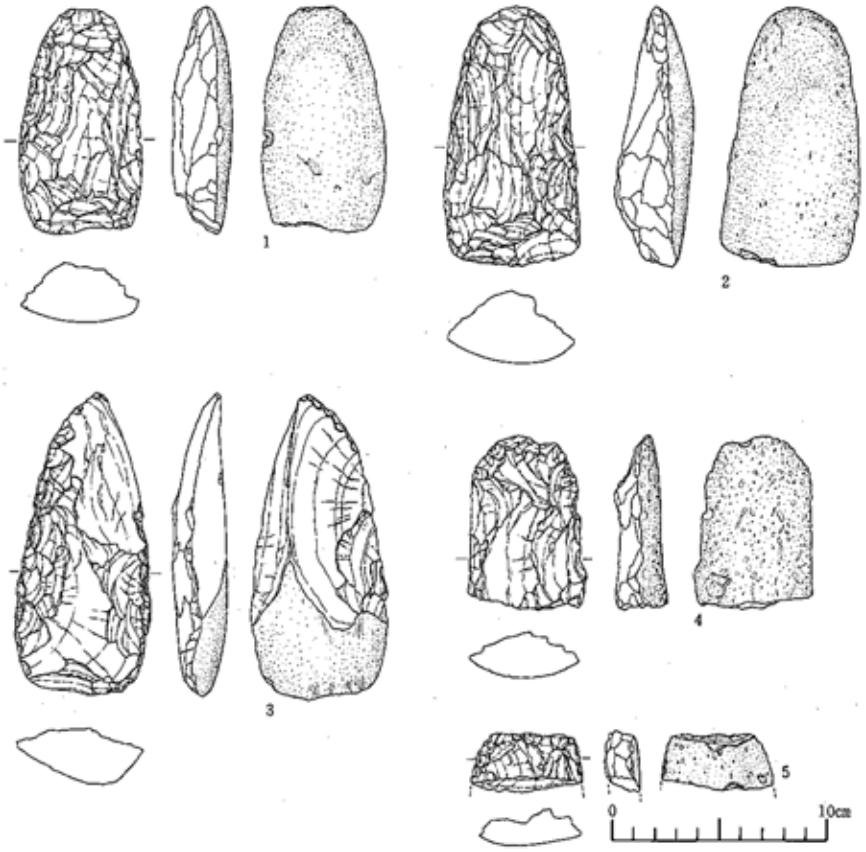
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 42－9	不明	IBa₂'	完形(45°)	良岩(ホルンフェルス)	116.0	55.0	21.5	156.2	右側縁整減顕著	2139	43－30
2	CQ 34－1	不明	IBa₂'	完形(41°)	凝灰質砂岩	128.0	60.0	28.0	300.0	両刃？ 刃部剥離、パティナ新しい	2068	44－4
3	BC 47－2	不明	IBa₂'	完形(51°)	砂質凝灰岩	124.5	62.0	36.0	340.0	全周縁整減	6037	44－5
4	CM 42－9	不明	IB₂'	基部欠(45°)	石英安山岩質凝灰岩	105.0	58.5	27.5	218.0	折れ面、横面から割れ	624	44－6
5	CK 37－1	不明	IBa₂'	完形(50°)	砂岩	133.5	61.5	32.5	345.0	刃部・両側縁整減	38	44－7
6	BC 57－1	不明	IBa₂'	完形(55°)	砂質凝灰岩	134.5	70.5	29.5	395.0	全周縁整減	308	44－8

第176図　打製石斧(9)



番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 42－10	不明	IBbz'	完形(53°)	砂岩	129.0	61.0	39.0	340.0		5861	44－9
2	BC 52－1	不明	IBaz'	完形(52°)	凝灰質砂岩	136.5	60.0	39.0	510.1		5838	44－10
3	CL 46－[illegible]	不明	IBaz'	完形(52°)	砂質凝灰岩	138.5	60.5	40.0	435.0	全周線擦滅	1893	44－11
4	BN 60－2	不明	IBaz'	完形(51°)	閃緑岩	103.0	53.0	25.0	180.0		2126	44－12
5	CM・N 54－3	不明	IBcz'	完形(40°)	粘板岩	115.0	38.0	24.0	118.0	両刃？ 背面刃部・縦位線条痕	1368	44－13
6	BN 55－2	不明	IBaz'	完形(48°)	砂岩	117.5	51.0	30.0	225.0	両側線擦滅	310	44－17

第177図　打製石斧(10)

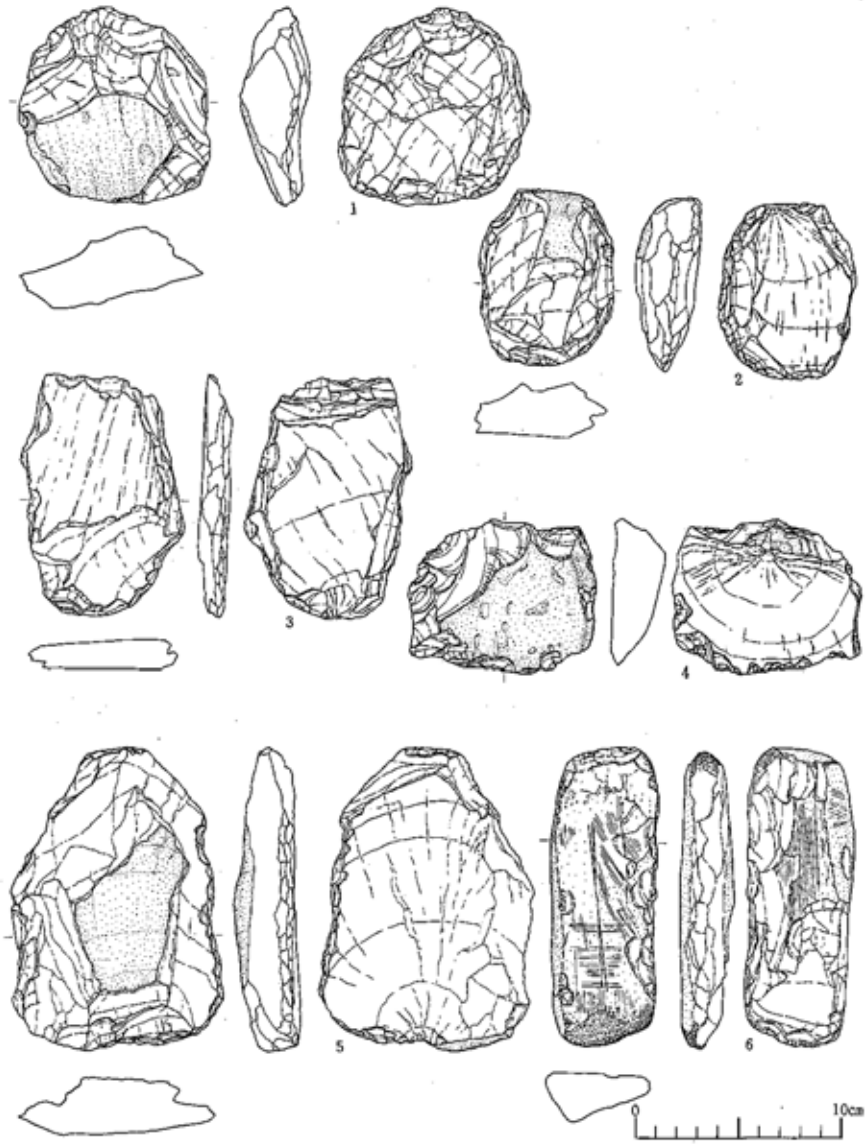


番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CS 41－1	不明	IBm'	完形(54°)	緑灰質砂岩	109.0	57.0	27.5	220.0	刃部磨滅	18	44－18
2	CK 38－10	不明	IBm'	完形(57°)	石英安山岩質凝灰岩	121.5	61.5	34.0	270.0		5842	44－19
3	CM 45－2	不明	IBcr'	完形(40°)	粘板岩	141.0	63.0	25.0	230.0	両刃？	6427	44－20
4	CQ 34－1	不明	IBa	刃部欠	石英斑岩	80.5	54.0	23.5	130.0	折れ面、剥面から折れ	989	44－21
5	CM 42－11	不明	IB	刃縁のみ	安山岩質凝灰岩	27.5	51.0	16.0	26.9	上下の折れ面、剥面から折れ	2092	44－22

第178図　打製石斧(11)

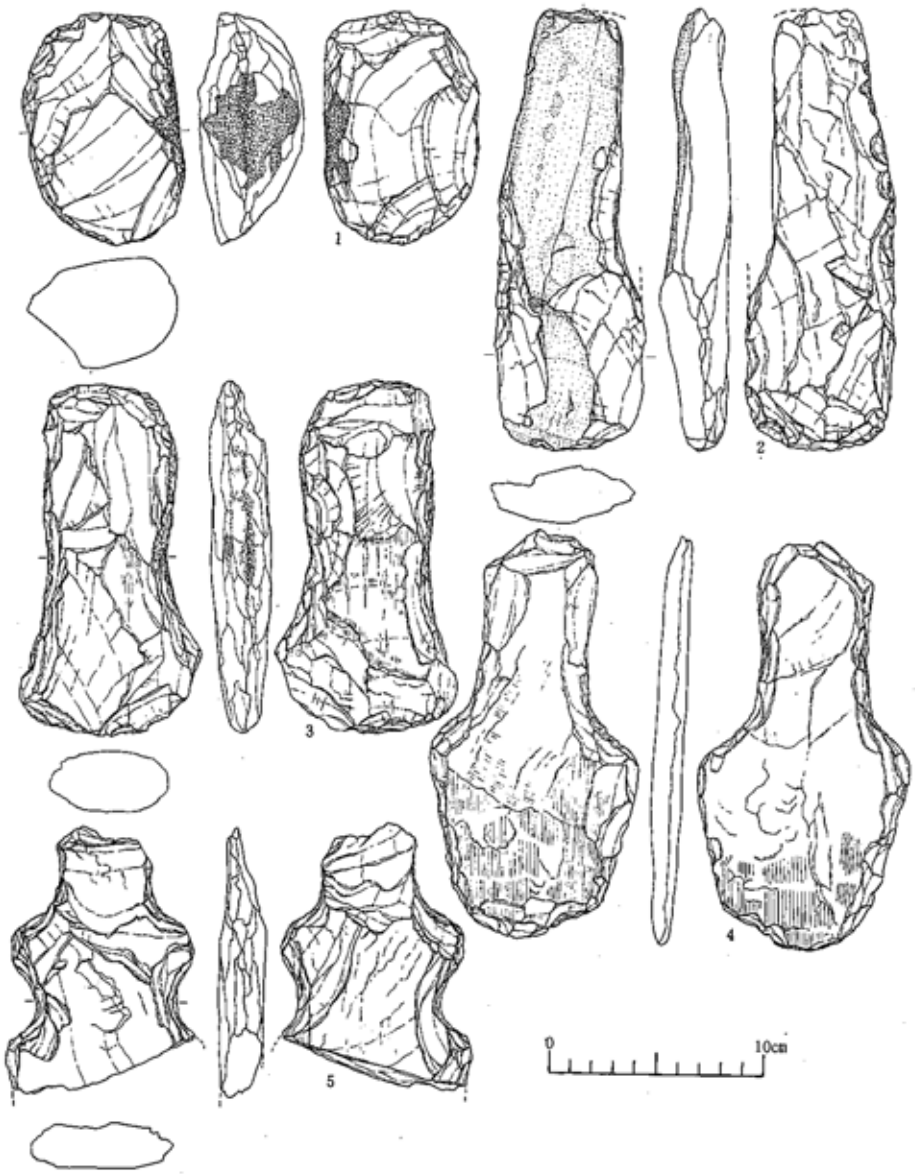
番号	地区・層位	時期	分類	刃部(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL46－表	不明	ⅡAc₁'	完形(54°)	砂質粘板岩	94.0	35.0	19.0	63.2		2894	44－23
2	CM-N45－表	不明	ⅡAc₁	完形(46°)	粘板岩	107.5	45.5	25.0	142.6	両刃？ 左側縁・敲打痕	2043	44－24
3	CM42－9	不明	ⅡBb₁	刃部欠	砂質頁岩	101.5	46.0	20.5	117.1	両側縁・敲打痕	2145	44－25
4	C？47－3	不明	ⅡBc	刃部欠	粘板岩	79.0	53.5	26.0	110.5		2108	44－26
5	DB39－1	不明	ⅡAb₂	完形(40°)	凝灰質粘板岩	28.5	45.0	26.0	117.9	両刃？	448	44－27
6	CK39－8	不明	ⅡAb₂	完形(42°)	凝灰質頁岩	81.0	35.0	23.5	84.3	両側に自然面	1907	44－28
7	CL47－3	不明	ⅡBb₁	完形(26°)	粘板岩	102.0	53.5	14.5	131.0	主要剥離面残す、打点は基部側	2032	44－29
8	CL36－21	不明	ⅡBb₁	完形(25°)	粘板岩	119.0	81.0	26.0	326.0	主要剥離面残す、打点は基部側	2025	45－1
9	CS42－1	不明	ⅡBb₁	完形(22°)	粘板岩	68.5	68.5	25.0	173.5	主要剥離面残す、打点は基部側(両刃)	2063	45－2

第179図　打製石斧(12)



番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BN 50－2	不明	Ba_1	完形(35°)	粘板岩	94.5	91.0	32.5	300.0	自然面残す	2036	45－3
2	CM 42－11	不明	Ba_1	完形(46°)	粘板岩	85.0	64.0	30.0	195.7	横面中央打面あり、自然面残す	3767	45－4
3	BC 49－3	不明	Bb_1	完形(23°)	粘板岩	117.0	78.5	14.0	165.1		2154	45－5
4	DE 35－4	不明	Bb_1	完形(43°)	粘板岩(縄灰質)	72.0	90.5	25.0	200.0	横面中央打面あり、自然面残す、横長剥片	1902	45－6
5	CN 42－7	不明	Bc_1	完形(41°)	粘板岩	146.0	101.5	29.0	510.0	横面刃部中央にバルバスカーあり	2009	40－17
6	DI 35－1	不明	Bb_1	完形(30°)	砂質粘板岩	144.0	51.5	26.0	265.0	横刃、表面の接痕は前列、後面のものか？	2021	40－18

第180図　打製石斧(13)

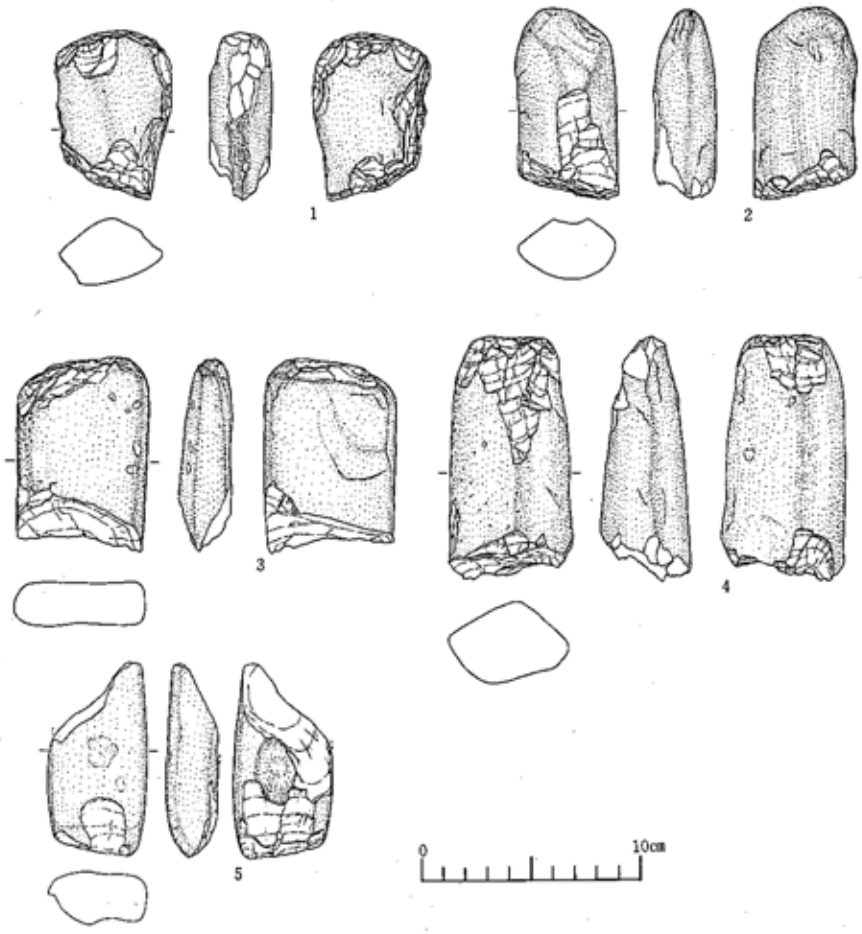


番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BH 55－1	不明	IIIBb₁	完形(67°)	砂質粘板岩	138.5	71.5	48.5	450.0	横刃、基部に敲打痕あり	6028	40－19
2	CK 37－1	不明	IIIBb₁	刃縁欠(30°)	粘板岩	205.0	70.0	31.5	485.0	両刃？ 自然面残す、刃部摩滅	6313	45－9
3	CM 45－表	不明	IVBa₁	完形(28°)	粘板岩	164.0	84.0	26.0	420.0	刃縁敲打、両面、刃部と直交する線条痕	1122	45－10
4	CK 44－2	不明	IVBa₁	完形(27°)	粘板岩	190.0	97.0	14.0	260.0	両面に刃部と直交する線条痕		45－11
5	DB 41－1	不明	IVBa₁	刃部欠	粘板岩	134.5	87.5	21.5	255.0		3015	45－12

第181図　打製石斧(14)

番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 43－3	不明	NBb	刃部欠	粘板岩	201.5	75.5	31.0	535.0	側縁敲打、横面、刃部と直交する線条痕	1586	45－13
2	BF 57－1	不明	NBa	刃部欠	粘板岩	345.0	88.0	22.5	335.0		990	45－14
3	[illegible]	不明	NBb	刃部欠	粘板岩	134.5	71.0	30.0	350.0		2155	45－7
4	CM・N 45	不明	NBc	刃部欠	凝灰質頁岩	336.5	80.0	44.0	435.0		2005	45－8

第182図　打製石斧(15)

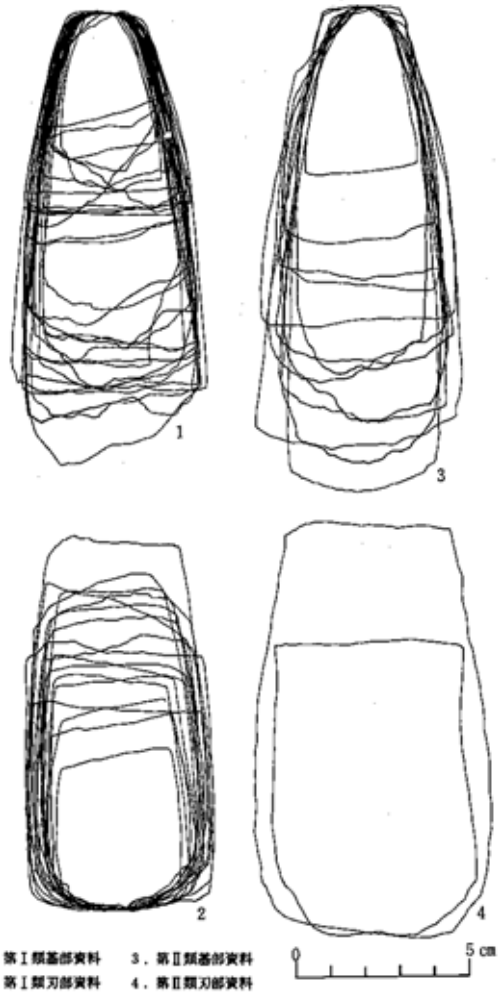


番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM43－貝層	不明	Ⅵ		粘板岩	77.0	52.0	26.0	164.0		1324	40－20
2	CM42－19	不明	Ⅵ		粘板岩	87.0	45.0	26.0	167.5	腹面、刃部磨滅	1691	40－21
3	CM48－1	不明	Ⅵ		粘板岩	87.5	59.5	24.0	197.3		6357	40－22
4	BB63－1	不明	Ⅵ		粘板岩	110.5	55.5	40.0	310.0		6022	40－23
5	BD52－2	不明	Ⅵ		粘板岩	89.0	44.0	23.3	110.0		6569	40－24

第183図　打製石斧(16)

磨製石斧（第187～第200図）

ここでは、研磨された石斧をまとめた。合わせて110点出土している。



1．第Ⅰ類基部資料　3．第Ⅱ類基部資料
2．第Ⅰ類刃部資料　4．第Ⅱ類刃部資料

第184図　磨製石斧第Ⅰ・Ⅱ類の形態

1分　類

1製作技術による区分

Ⅰ斧身が研磨によって整形された定角式磨製石斧。

Ⅱ斧身が敲打と部分的な研磨によって整形されているもので、形態は第Ⅰ類と類似しているもの。

Ⅲ斧身に剥離と部分的な研磨がみられるもの、刃部磨製石斧を含む。

Ⅳ上記第1～Ⅲ類が転用されたもの。これらは端部に両極剥離痕がみられるもの、つぶがみられるもの、研磨されているものがある。

2大きさによる区分

Ａ小形（最大長10cm未満のもの、推定値を含む）

Ｂ中形（最大長が10cm以上20cm未満のもの、推定値を含む）

Ｃ大形（最大長が20cm以上のもの、推定値を含む）

	ⅠA	ⅠA₁+ⅠB₁	ⅠA₂+ⅠB₂	ⅠA₃+ⅠB₃	ⅠA₄+ⅠB₄	ⅠB₁	ⅠB₂	ⅠB₃	ⅠC	ⅠD	ⅡA	ⅡC	ⅡD	ⅢA₁	ⅢA₂	ⅢB₁	ⅢB₂	Ⅳ₁	Ⅳ₂	不明	計
粘板岩	1	1	2	1	3	1	1	1	4	14	1	30	4	1	1	7	1	5	2	2	69
[illegible]	1							1	2	4		6	14			1		1	2		23
砂岩																		1			1
粘板岩 or 砂質頁岩																		1			1
輝沢質砂岩												1									1
安山岩																				1	1
計	2	1	2	1	3	1	1	2	6	18	1	37	18	1	1	8	1	12	5	3	106

第29表　磨製石斧分類別・石材別出土数量表

3基部平面形による区分

ａ円基

ｂ平基

ｃ尖基　　再生基端部とは基部破損後再加工してあるものをさす。

ｄ再生基端部

4刃部平面形による区分

1円刃

2偏刃　　再生刃には、刃部が破損した後、数回の剥離によって作り直されたものをまとめた。また刃部断面図による区分は、打製石斧の場合と同様に片刃には´記号をつけて表記した。

3直刃

4尖刃

5再生刃

個別属性は以上のように行った。個々の石器の分類の欄には打製石斧の場合と同じで、各属性区分を組み合わせて表した。例えば、中形磨製石斧・円基円刃はＩBa1として表記した。

2出土状況

所属時期の明らかなものは33点で、磨製石斧全体の30％である。出土点数は、ＣＬ39区37層。ＣＬ40区26層・ＣＬ41区18層から出土している3点が最も多い。量的にまとまって出土していないため層ごとに比較することはできない。わずかに、ＣＬ41区18層から第Ⅳ類が2点出土していることが注目される。

3時期による変化

第Ⅲ期に11点出土しており最も多い。また第Ⅳ期の10点、第Ⅴ期の6点もややまとまった点数といえる。第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ期だけで時期判明分の約70％を占めている。他には第Ⅷが4点、第Ⅵ期は3点、他の時期は1点ずつの出土である。

4石材（第29表）

第ＩＢ類では砂質凝灰岩の使用が粘板岩のそれを上回っているが、他の各類はいずれも粘板岩が多く使用されている。

5形態の特徴と機能

時期が限定できる資料のみを対象にして特徴を捉えるのは数が少ない難しいが、第3項では貝層直下の土層と貝層形成初期に、磨製石斧の出土量が多いことが見てとれた。しかし、時期ごとに見るとこれ以上のことを指摘するのは難しい。このため、以下では後期前半から晩期前半の資料として田柄貝塚出土の磨製石斧を扱い記述を進めていきたい。

1第Ｉ類

第1類は総数81点出土しているが完形状態で出土しているものは1点もない。この点、打製

石斧第Ⅰ類が大部分完形で出土しているのと対照的である。

第184図1・2は第Ⅰ類の形態的特徴を外観するために、側面や基部が破損しているものや刃部再生が行われているものを除く資料の外形を重ね合わせた図である。この図をもとに、形態と破損についてふれ、そこから派生する問題を検討したい。

(a) 形態の特徴

第184図1からもわかるが、基部は平基をしたものが多い。幅は1.8～2.8cmの間にまとまっており、平面形の類似とあわせると、形態に斉一性があることがわかる。

刃部は偏刃が最も多く、直刃は少ない。資料数が少ないため正確なことは不明だが、第184図2によれば、直刃をしている場合、他の刃部形態をしているものに較べ幅が広い傾向がみられる。

(b) 製作法

第Ⅰ類は最終工程として、研磨が行われているが、大部分の資料には敲打痕が残っている。工程の切り合いをみると、それらは、敲打→研磨の順序で作られていることがわかる。

次に研磨についてふれておく。研磨痕は両主面、側面とも右下り斜位にあることが多く、縦位がこれに次ぐ。ただし、刃部は横位研磨によって作り出されていることもある。

ところで磨製石斧の主面は実際には小さな研磨面の集積からなっている。隣り合っている小研磨面は稜によって区分されている。また小研磨面は平坦になっている。

磨製石斧にみられる研磨痕には右下り斜位が多いことは既に北海道聖山遺跡の報文(岡村：1979)中に述べられている。右下り斜位の擦痕は、斧身を持つにしろ、砥石を持つにしろ、左手で前後運動を行うことによって残ることが多い。体の軸と右肩の位置を前後した方が無理なく動けるからである。従って小研磨面は小さい砥石を持って研磨した場合と斧身を持って大きい砥石で研磨した場合に形成される。しかし田柄貝塚では後述するように大きい砥石が多いことから、後者の方法が考えられる。そして斧身は研磨痕の傾きから右手に持たれることが多かったといえる。

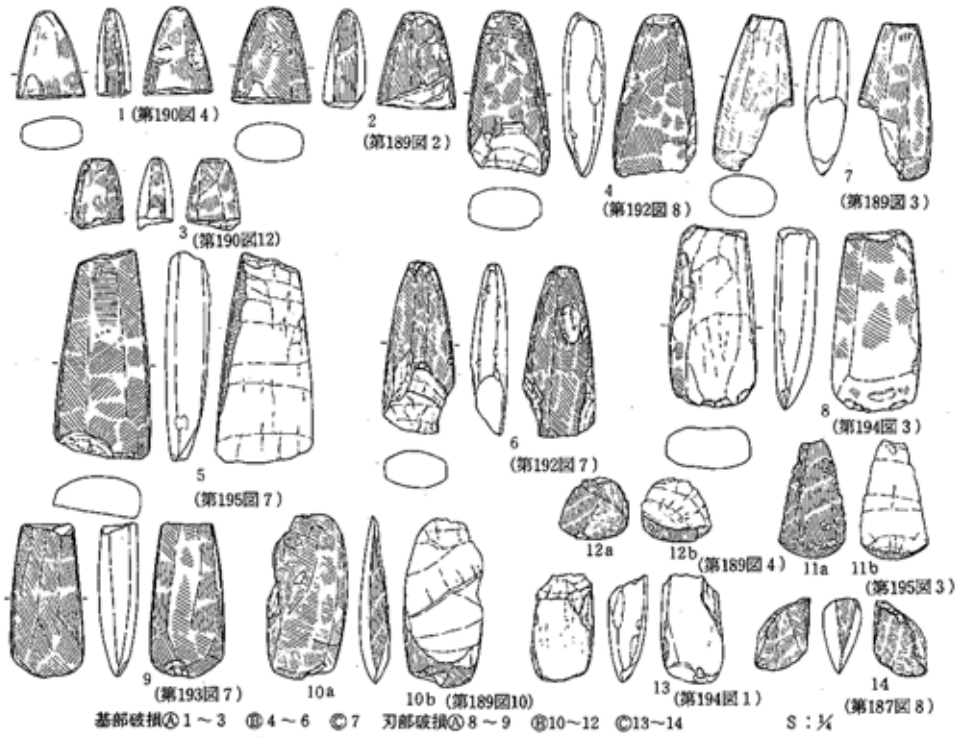
(c) 破損

基部資料・刃部資料を見る限り、破損部は3つに類型化できる。それを以下にまとめる。

Ⓐ類型　斧身の長さの中央より基部に寄った部位(基端部から約6～6・5cm)で折れる。折れ面は折断したようになっている(第185図1～3、8～9)。

Ⓑ類型　刃部が大きく剥離する。破損西側の刃部でも刃縁に近い部位では5mmぐらいは研磨された面が残る(第185図4～6、10～12)。なお、基部資料では破損部を再加工して打製の刃部を作り出している例もある。

Ⓒ類型　刃部が縦に剥離する（第185図7・13～14）



第185図　磨製石斧の破損類型

ただしこの類型は円刃や偏刃とした磨製石斧を観察した結果による。直刃は、資料が少ないためこれらの類型にあてはまるかどうか言及できない。というのは、直刃の場合はA類型しかないからである。小形磨製石斧もやはり資料数が少ないため各類型があてはまるかどうか判断できない。

(d) 使用痕

第Ⅰ類では研磨痕と使用痕である線条痕をはっきり識別するのはむずかしい。研磨痕は両主面とも右下り斜位に施されていることが多い。線条痕は対象物に対して両主面とも同じ角度で入るため、斜めに入角したときには左右の主面では擦痕の傾きが違ってくる。また垂直に入ると、対象に多く接触する主面がより明瞭ながら、前後の主面とも刃縁に対し縦位に線条痕がつく（Semenov：1964）。使用痕（線条痕）と研磨痕は上述した観点から区別した。

線条痕はB類型の破損をしている資料にのみ観察された。第195図11の刃部には先にふれた条件にあてはまる擦痕（図版71図6）がある。ａ面にみられる研磨痕は縦位～右下り斜位に施されている。線条痕は刃部の「中央やや右寄り」に左下り斜位に見える。ｂ面は破損した側で、刃縁から5㎜の部位まで右下り斜位の擦痕があり、研磨痕と線条痕は同じ傾きをしている。第185図12のａ面は刃部「中央から右側縁」にかけて左下り、ｂ面に右下り斜位の線条痕

と研磨痕がある。ｂ面は歯縁付近を残して破損している。破損している側に右下り斜位の線条痕があることは第185図11と同じである。

第185図10のｂ両刃部左端には刃こぼれ状のマイクロ・フレイキングがあるが、線条痕は不明確である。上部にみられる破損は基部側からおきている。

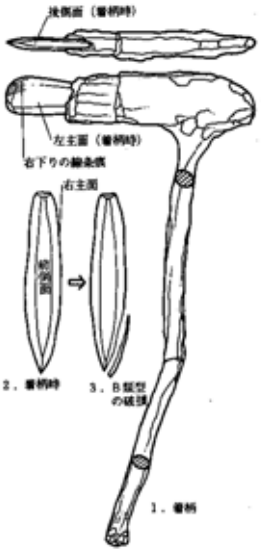
これによると、左下りの線条痕は研磨面が残っている面（ａ面）の刃部「中央から右側縁」にかけてみられ、右下りの線条痕は破損がおきている面（ｂ面）にあることが共通点としてあげられる。

（e）着柄

Ⓐ類型は使用時に破損したとすると、刃部から基部へと伝わってきた力を、主面上方で折れるように変えている「もの」が基部にあったことが予想される。それは当然ながら、斧身を柄に結びつける方法と関連があろう。基端部から6cm付近で折断されたように折れた例が多いことなど、破損に斉一性があること、基部平面形や断面形に規格性があることから、単に緊縛しただけとも思われない。

福井県鳥浜貝塚からは縄文時代前期の木製石斧柄が出土している（山田：1979）。この柄には斧身装着用にソケットが作られている。これを参考にすると、田柄貝塚から出土している磨製石斧もソケット部をもつ柄によって覆われていたとするのが妥当であろう。つまり、Ⓐ類型の基部資料の長さは、ソケット部に補塡されていた範囲を示しているのであろう。

Ⓑ類型の刃部資料にはａ面の刃部「中央から右側縁」にかけて左下り斜位の線条痕や刃こぼれがあることを指摘した。左下り斜めの線条痕があるのは縦斧名主面として使用された斧身に多いことが実験により確かめられている（Ｓemenov：1964）。また佐原真氏は「縦斧では、後側刃角、後側面下端（四面石斧）、後側縁下端（二面石斧）」が「最もいちじるしく損耗し、早くへってくる」と指摘している（佐原：1977）。このことから、先に検討した第185図10～12のａ面は右主面、ｂ面は左主面として着柄されていたといえる。（第186図1）。したがって、Ⓑ類型の基部資料では破損している側が右主面になる。（第186図3）。



第186図　磨製石斧の着柄

Ⓒ類型は、同様に考えると破損している部位が縦斧後側面になる。

（f）機能・用途

第Ｉ類の刃部は丁寧に研磨され、鋭利に作られているが、いずれも資料も破損している。使用によって折れたとすると、石でも簡単に折れてしまうほど硬いもの（木や骨）が対象物であったのであろう。

Ⓐ類型はソケット部にねじれた力が働いたためにおこる

破損と考えられるが、Ⓑ類型とⒸ類型は刃部に不自然な力が働いたためにおきた破損である。今後類例を積み重ねることによってⒷ・Ⓒ類型の違いをはっきり区別できると思われるが、現状ではＢ類型を立木伐採時では、立木の右側から「斜めに振りおろす行為」、Ⓒ類型をまき割りのように正面上方から「まっすぐ振りおろす行為」の時におきた破損としておきたい。ただしこれらのことは、使用痕が観察された、第ＩＢ1・2類（中形磨製石斧円刃・偏刃）に限定しておく。

2第II類

第Ⅱ類も第I類と同じように完形品はない。第184図をみると第Ⅱ類の基部には尖基が多いことがわかる。幅は第1類を大きくしたものが多い。

第Ⅱ類には剥離・敲打・部分的な研磨の3つの工程があり、それらは剥離→敲打→研磨と順に行われていることが各資料から観察される。敲打工程は第Ⅱ類を特徴づける手法だが、第199図2をみると、主面だけでなく両側面も第Ⅰ類同様の形態が敲打によって作られている。このことから第Ⅱ類は第Ⅰ類の未成品を含んでいると考えられる。その場合、第Ⅱ類には尖基が多く、Ⅰ類には平基が多いことから、基端部の調整は最終工程（研磨）で行われていることになる。

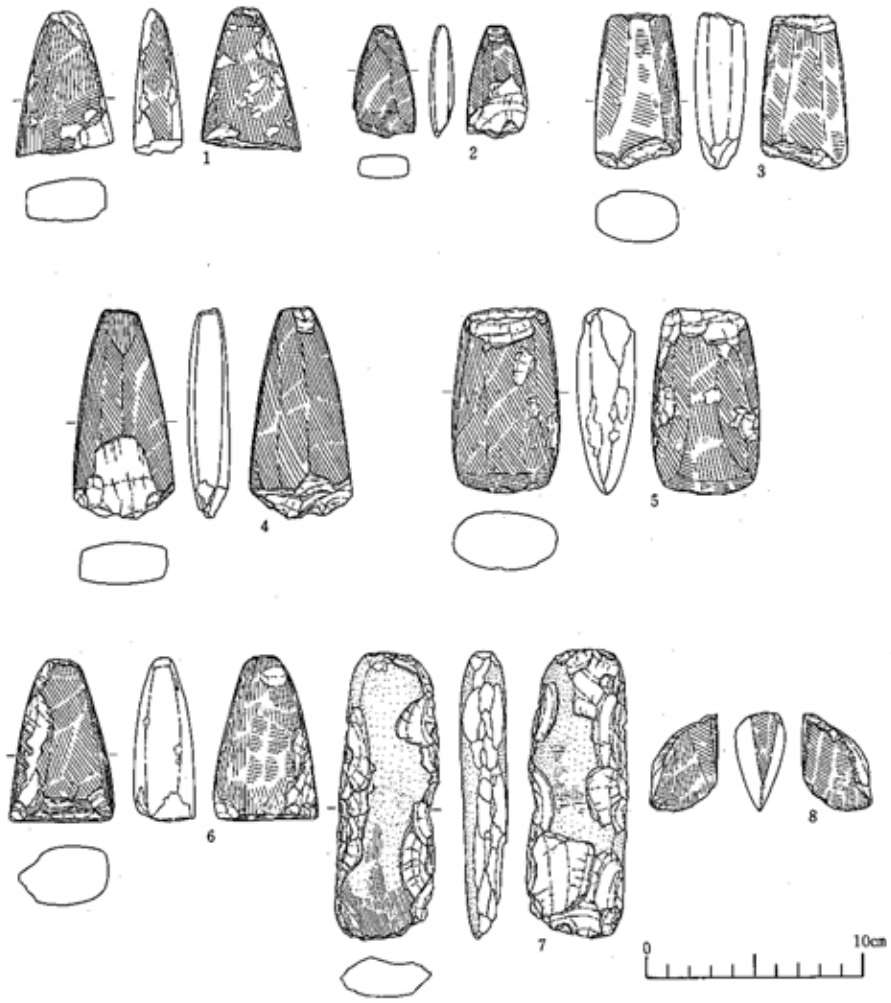
折れ面には折断されたようなものがある。しかし基端部からの長さにまとまりがなく、第Ⅰ類のように破損部位・形状をもとに類型化することはできないことから、敲打整形時に破損したものを含んでいよう。また、中には主面に剥離を加えて打製の刃部を作り出しているものもある。

3第III類

第Ⅲ類で刃部に研磨が施されているのは第200図3だけである。3の背面には長めの縦位線条痕が、腹面には短めの縦位線条痕が認められ、腹面を前主面（柄に近い面）とする横斧として使用されたことを示している。他の第Ⅲ類は剥離後に部分的な研磨が行われているが、不明な部分が多い。

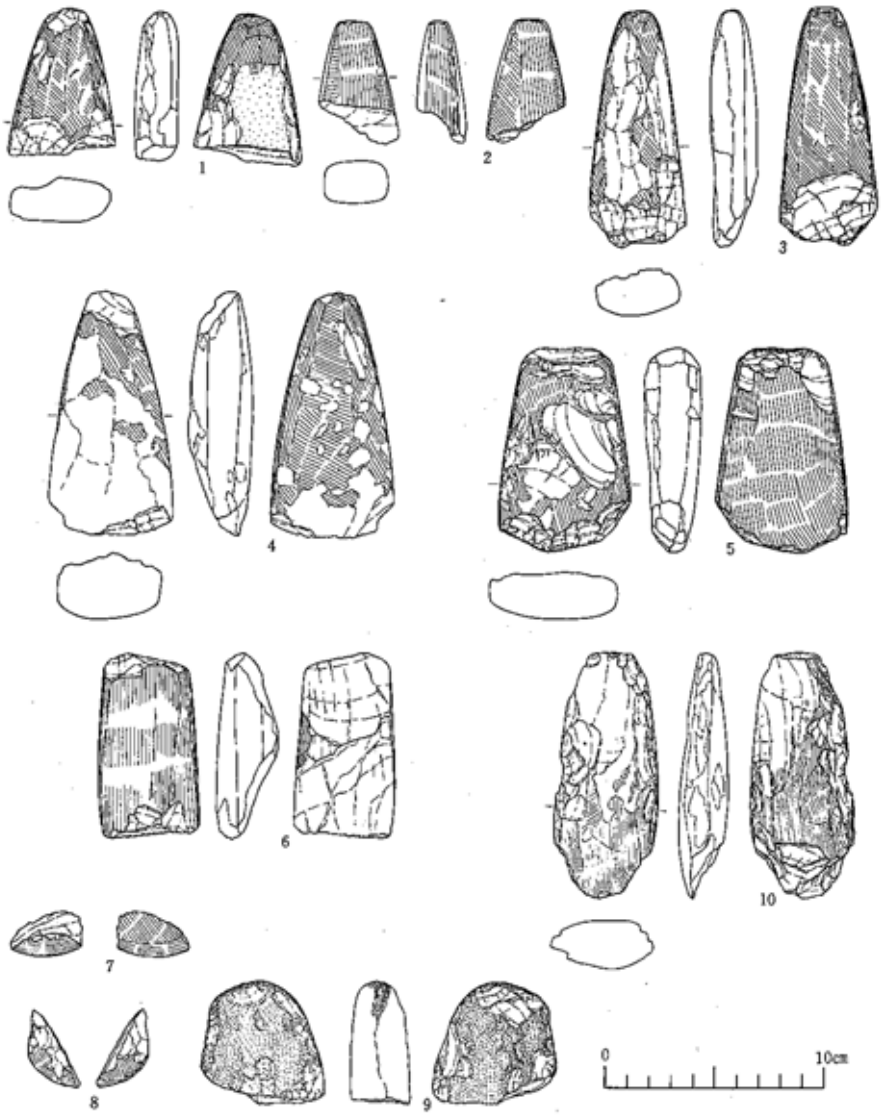
4第IV類

第Ⅳ類は第Ⅰ～Ⅲ類と断面形態や整形法が類似していることから、これらを転用したものと考えた。このうち端部に両極剥離痕をもつもの、つぶれをもつものはピエス・エスキーユに、研磨があるものは磨石に転用されたのであろう。



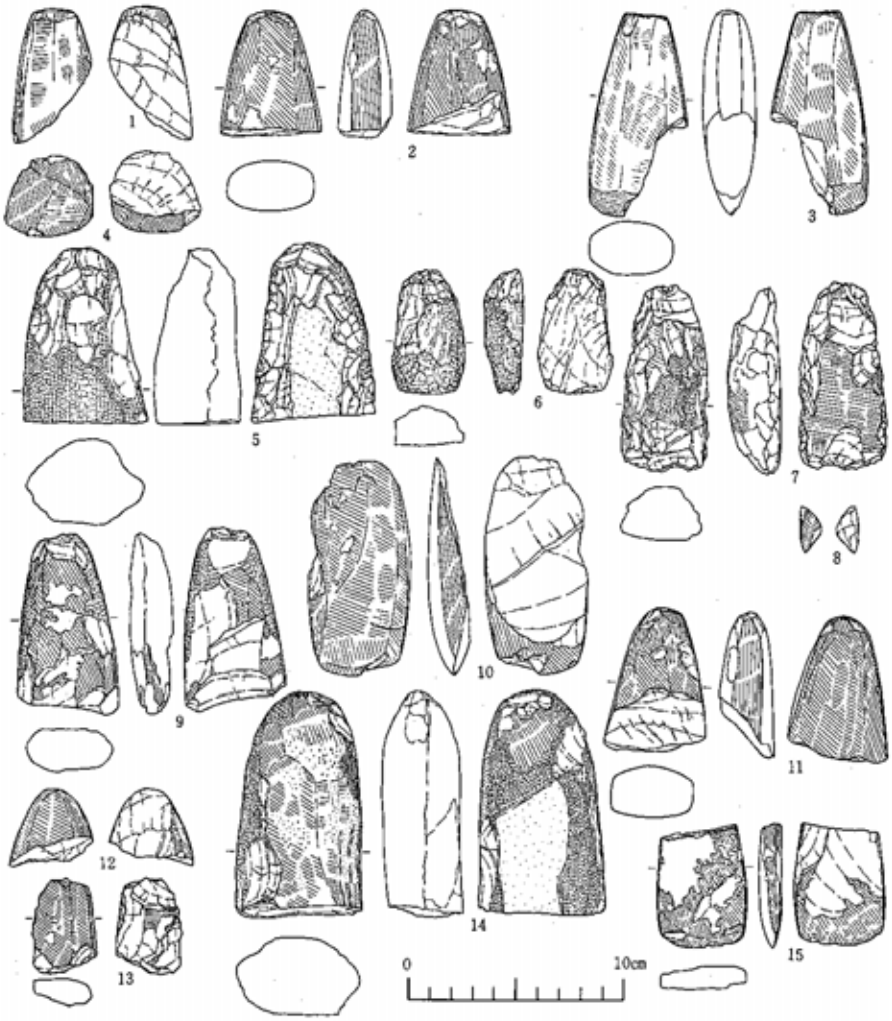
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 39－37	Ⅱ	IBa	基部	閃緑岩	65.0	43.0	20.0	93.0	折れ面、上面から割れ、焼け弾け	2030	46－1
2	CL 40－27	Ⅲ	IAb	基部	粘板岩	51.5	28.0	10.5	21.1		905	46－2
3	CM 41－28	Ⅲ	IB$_4$	刃部(70°)	凝灰質粘板岩	70.5	39.0	23.0	124.7	基部、上面から割れ	636	46－3
4	CL 39－37	Ⅲ	IBb$_3$	完形(49°)	粘板岩	96.0	46.0	18.5	123.0		1777	46－4
5	CL 40－27	Ⅲ	IBd$_1$	完形(44°)	粘板岩	84.5	49.0	26.5	188.3		904	46－5
6	CL 39－37	Ⅲ	Ⅳ	基部	粘板岩	75.0	47.0	27.0	138.5	IBaを再利用、下面短軸方向に研磨	849	46－6
7	CL 41－19	Ⅲ	IBc$_1$'	完形(39°)	粘板岩	132.5	44.5	20.5	168.6	刃部に斜行する線条痕、側縁敲打	756	46－7
8	CL 39－37	Ⅲ	IB$_2$	刃部(45°)	凝灰質粘板岩	43.5	30.0	22.5	35.0		1717	46－8

第187図　磨製石斧(1)



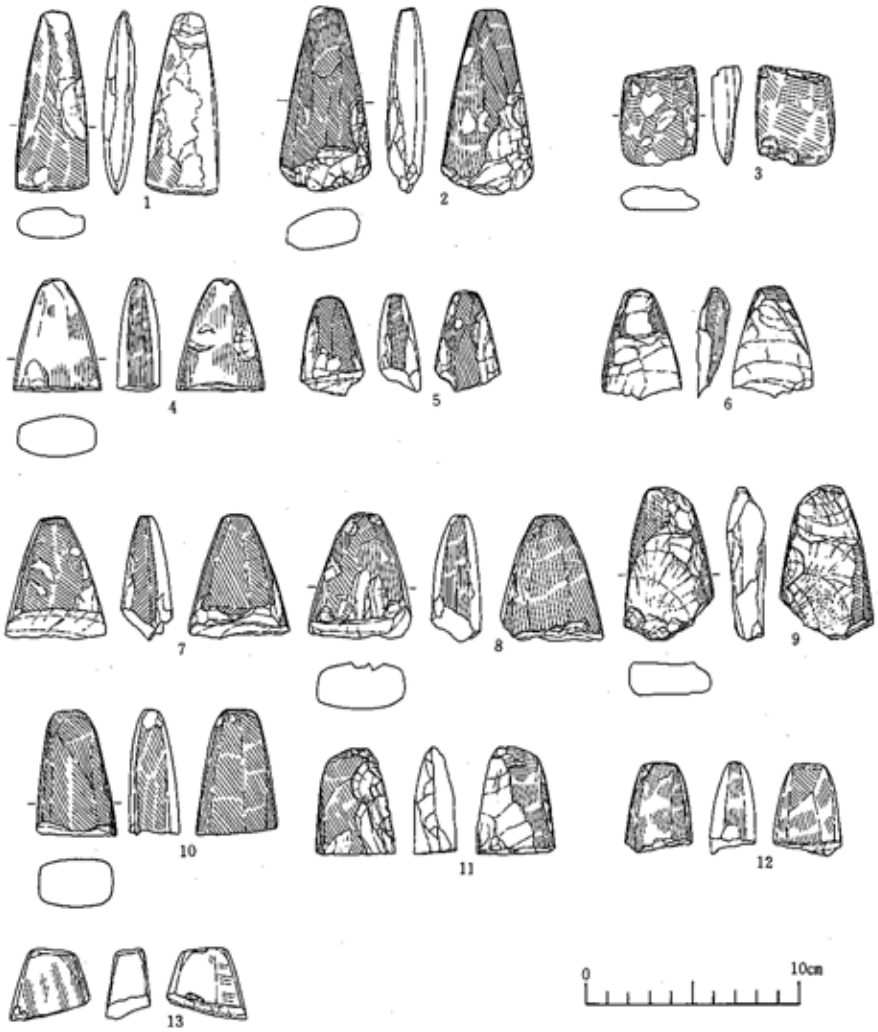
番号	地区・層位	時期	分類	形状(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－25	Ⅳ	ⅡBa	基部	粘板岩	67.0	47.0	10.0	97.8		1353	46－9
2	CL 40－26	Ⅳ	ⅡBb	基端部	砂岩	58.0	45.0	22.5	82.4		5754	46－10
3	CM 41－27	Ⅳ	ⅡBa₄	完形(38°)	粘板岩	108.0	43.5	21.0	145.4	細長の刃部	655	46－11
4	CL 39－30	Ⅳ	ⅡBa₂'	完形(30°)	砂質粘板岩	111.0	56.0	28.5	295.0	片刃風	705	46－12
5	CL 41－18	Ⅳ	Ⅳ	基部	粘板岩	93.0	60.5	25.5	225.0	上下面磨滅	1354	46－13
6	CL 41－19	Ⅳ	Ⅳ	中間部	粘板岩	84.0	45.0	27.0	153.3	上下面磨滅	1356	46－14
7	CL 41－17	Ⅳ	ⅡB₅	刃部(41°)	粘板岩	20.0	32.0	9.0	6.2		6280	46－15
8	CL 41－17	Ⅳ	ⅡB₅	刃部(44°)	粘板岩	35.0	23.0	7.5	5.7		597	46－16
9	CL 40－26	Ⅳ	ⅡBa	基端部	粘板岩	56.5	55.0	27.0	134.8	剥離→敲打	1354	46－17
10	CL 43－36	Ⅳ	ⅡBb₄	完形(44°)	粘板岩	112.5	46.5	21.5	141.8	研磨→剥離	1120	46－18

第188図　磨製石斧(2)



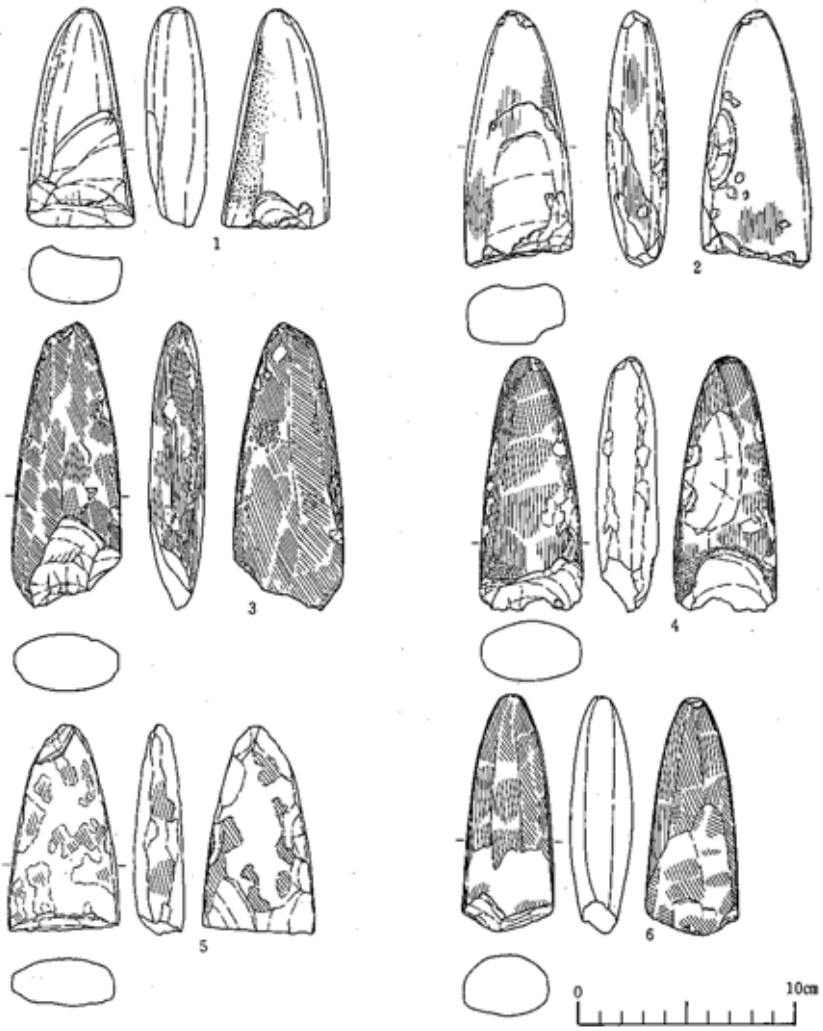
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 41－26	V	IBb	基部	砂質凝灰岩	61.5	32.5	32.5	43.7		4506	46－19
2	CL 41－15	V	IBb	基部	砂質粘板岩	57.5	46.0	24.0	94.6		2123	46－20
3	CL 40－25	V	IBb$_1$	一部欠(52°)	粘板岩	94.0	42.0	24.5	138.7		5755	46－21
4	CM 41－26	V	IBa	刃部(49°)	粘板岩	36.5	40.5	9.5	23.0	刃部と斜交する線条痕	1666	46－22
5	CM 41－25	V	IBa	基部	砂岩	80.5	56.5	48.0	240.0		6139	46－23
6	CM 41－26	V	IIAa	基部	粘板岩	57.0	33.5	18.0	47.5		2070	46－24
7	CL 40－30	VI	IIAa	完形(50°)	粘板岩	86.5	40.0	24.0	112.1	片刃、剥離→敲打→研磨	180	46－25
8	CL 30－29C	VI	I	刃部片	粘板岩	21.5	9.5	4.5	1.4		5018	46－26
9	CL 41－13	VI	IIBa	基部	砂質凝灰岩	84.0	45.5	20.0	106.5	剥離→敲打	1331	46－27
10	CL 41－11	VI	IB$_1$	刃部(45°)	粘板岩	100.0	42.0	17.0	113.0		4403	46－28
11	CL 40－9	VI	IBa	基部	粘板岩	67.0	46.0	25.0	93.8		71	46－29
12	CM 40－46	VI	IBa	基部欠	砂岩	34.0	39.0	21.5	32.0		2077	46－30
13	CM 41－12	VI	IB	中間部	粘板岩	44.5	25.0	12.0	21.6		3140	46－31
14	CM 40－46	VI	IIBa	基部	粘板岩	104.0	58.0	30.0	390.0	剥離→敲打→研磨	2076	46－32
15	CL 39－4	IX	IB$_1$	刃部(35°)	粘板岩	85.0	41.5	10.0	45.6	剥離→敲打→研磨	1759	46－33

第189図　磨製石斧(3)



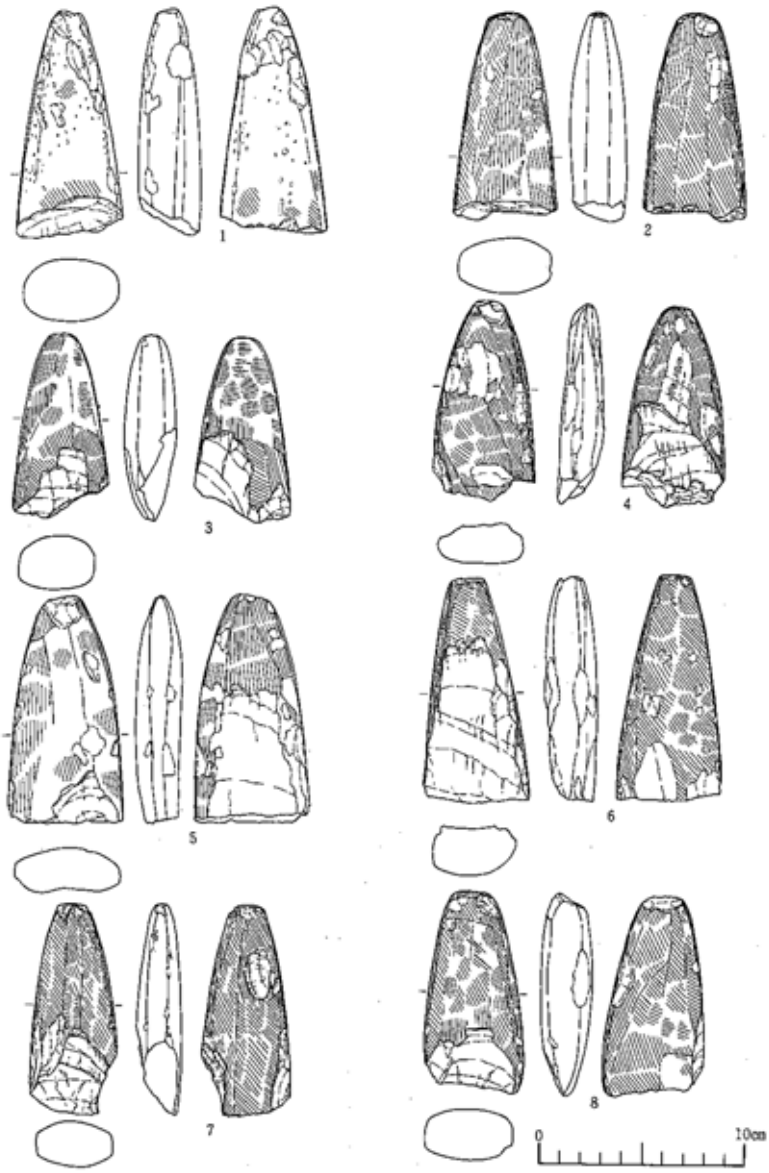
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BC 51－表	不明	IBb₂	完形(34°)	砂質凝灰岩	84.0	33.5	14.0	59.5		152	45－34
2	CMN 45－表	不明	IAb₂	完形(42°)	粘板岩	86.0	40.0	17.5	64.0	研磨→刃部剥離→刃部研磨	2042	46－35
3	BE 49－表2	不明	IAc	刃形(32°)	凝灰質頁岩	45.0	36.0	13.5	32.1	刃部に直行する線条痕	2110	46－36
4	CM 45－表	不明	IBa	基端部	砂質凝灰岩	52.0	39.0	20.0	58.5		2040	46－37
5	CL 41－2	不明	IBa	基端部	砂質凝灰岩	46.0	29.0	18.5	33.7		6014	46－38
6	CR 35－1	不明	IBa	基端部	粘板岩	52.0	36.5	13.5	24.5		25	46－39
7	CK 41－2	不明	IBa	基端部	砂質凝灰岩	57.0	43.5	23.0	58.0		1845	46－40
8	CK 41－1	不明	IBa	基端部	粘板岩	58.0	45.0	22.5	82.4		5964	46－41
9	CMN 45－表	不明	IBa	基端部	粘板岩	71.0	41.0	17.5	68.2		1139	46－42
10	CL 43－表	不明	IBb	基端部	凝灰質砂岩	58.5	35.5	22.5	81.5		1839	46－43
11	CL 38－25	不明	IBb	基端部	砂質凝灰岩	49.5	36.0	19.0	49.8		5862	46－44
12	BC 47－表	不明	IBb	基端部	砂質凝灰岩	43.5	31.0	21.0	43.7		6025	46－45
13	CL 38－西2	不明	IBb	基端部	凝灰質粘板岩	33.0	37.5	20.0	37.5		616	46－46

第190図　磨製石斧(4)



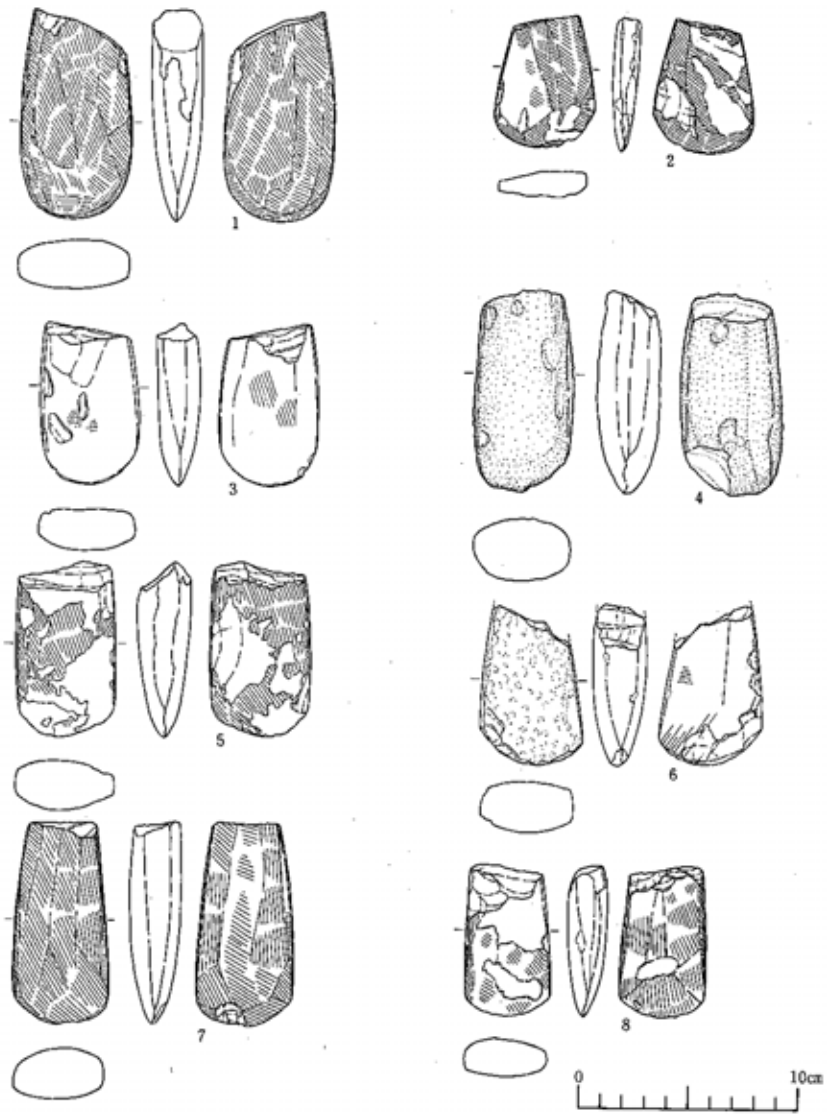
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CB39－1	不明	IBc	基部	砂質(凝灰岩)	101.0	47.5	27.5	196.9		447	47－1
2	CM46－表	不明	IBc	基部	砂岩	117.0	50.0	27.5	250.0		2053	47－2
3	CK39－6	不明	IBc	基部	粘板岩	131.5	53.0	25.0	225.0		1533	47－3
4	CL47－3a	Ⅱ	IBa	基部	凝灰質砂岩	117.0	47.0	27.0	210.0		2120	47－4
5	CL47－3	Ⅱ	IBa	基部	砂質凝灰岩	74.5	51.0	23.0	157.5		2032	47－5
6	DB35－1	不明	IBa	基部	砂質凝灰岩	33.0	41.5	28.0	195.9		2022	47－6

第191図　磨製石斧(5)



番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DB39－1	不明	IBa	基部	砂質凝灰岩	109.0	50.0	30.0	240.0		1373	47－7
2	CL47－3	Ⅲ	IBa	基部	砂質凝灰岩	106.0	48.5	27.0	200.0		6027	47－8
3	CK39－北8	不明	IBa	基部	粘板岩	90.0	45.0	25.0	140.5		1509	47－9
4	CM43－東	不明	IBa	基部	粘板岩	97.5	49.0	21.0	134.7		1123	47－10
5	CQ36－1	不明	IBb	基部	砂質凝灰岩	110.0	55.5	23.5	215.0		27	47－11
6	BF50－1	不明	IBb	基部	砂質凝灰岩	109.0	50.0	30.0	240.0		445	47－12
7	CT39－1	不明	IBb	基部	砂岩(凝灰岩)	88.0	47.5	24.5	192.0		20	47－13
8	CP33－1	不明	IBb	基部	頁岩石英岩	97.0	48.0	25.5	171.5		2150	47－14

第192図　磨製石斧(6)

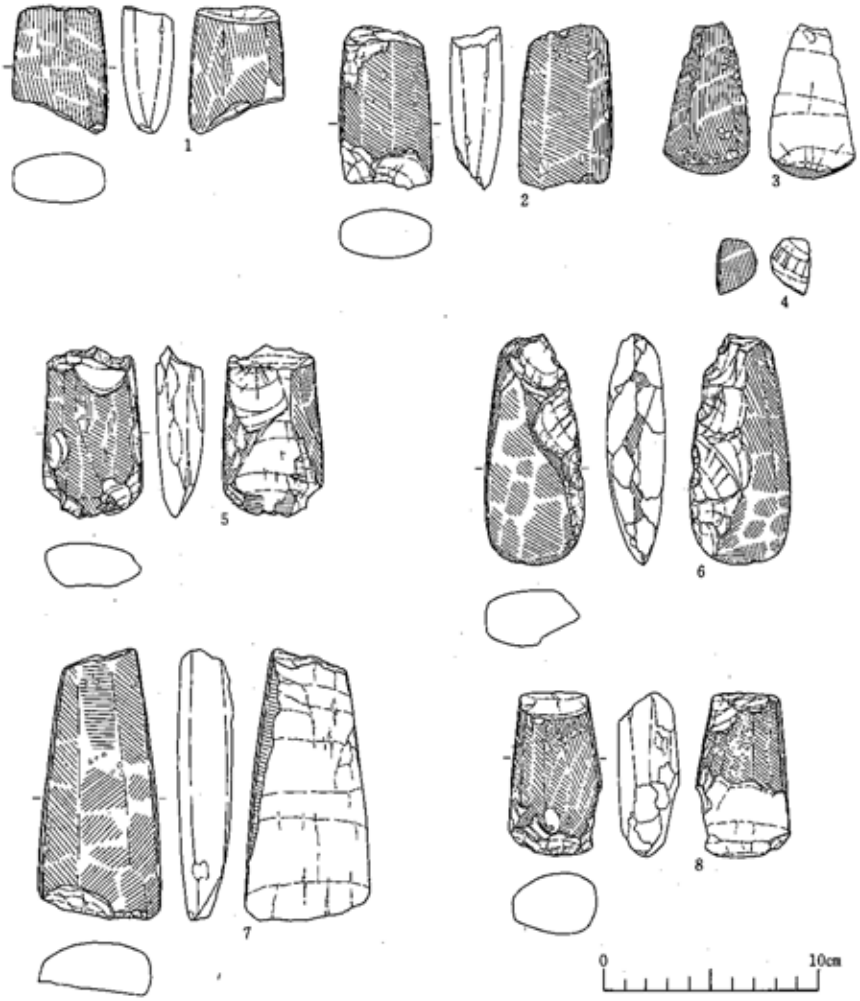


番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM43－表	不明	$1B_1$	刃部(38°)	粘板岩	91.0	50.5	23.0	175.6		6412	47－15
2	CL39－西側孔	不明	$1B_1$	刃部(27°)	砂質凝灰岩	60.0	45.0	11.0	43.4		2051	47－16
3	DE31－4	不明	$1B_1$	刃部(41°)	砂質凝灰岩	73.0	45.0	19.0	104.1		1962	47－17
4	表採	不明	$1B_1$	刃部(54°)	砂質凝灰岩	92.0	45.0	28.0	194.1	表面風化、刃部つぶれ	2044	47－18
5	BC49－3	不明	$1B_1$	刃部(46°)	砂質凝灰岩	79.0	44.5	34.0	138.4	刃部つぶれ	2153	47－19
6	BB53－1	不明	$1B_1$	刃部(44°)	砂岩	71.0	46.4	24.4	117.0	刃部つぶれ	6571	47－20
7	CP34－1	不明	$1B_1$	刃部(42°)	砂質凝灰岩	92.0	44.0	22.5	158.2		2129	47－21
8	CM(H)48－4	不明	$1B_1$	刃部(41°)	砂質凝灰岩	69.0	38.5	18.0	75.0		1637	47－22

第193図　磨製石斧(7)

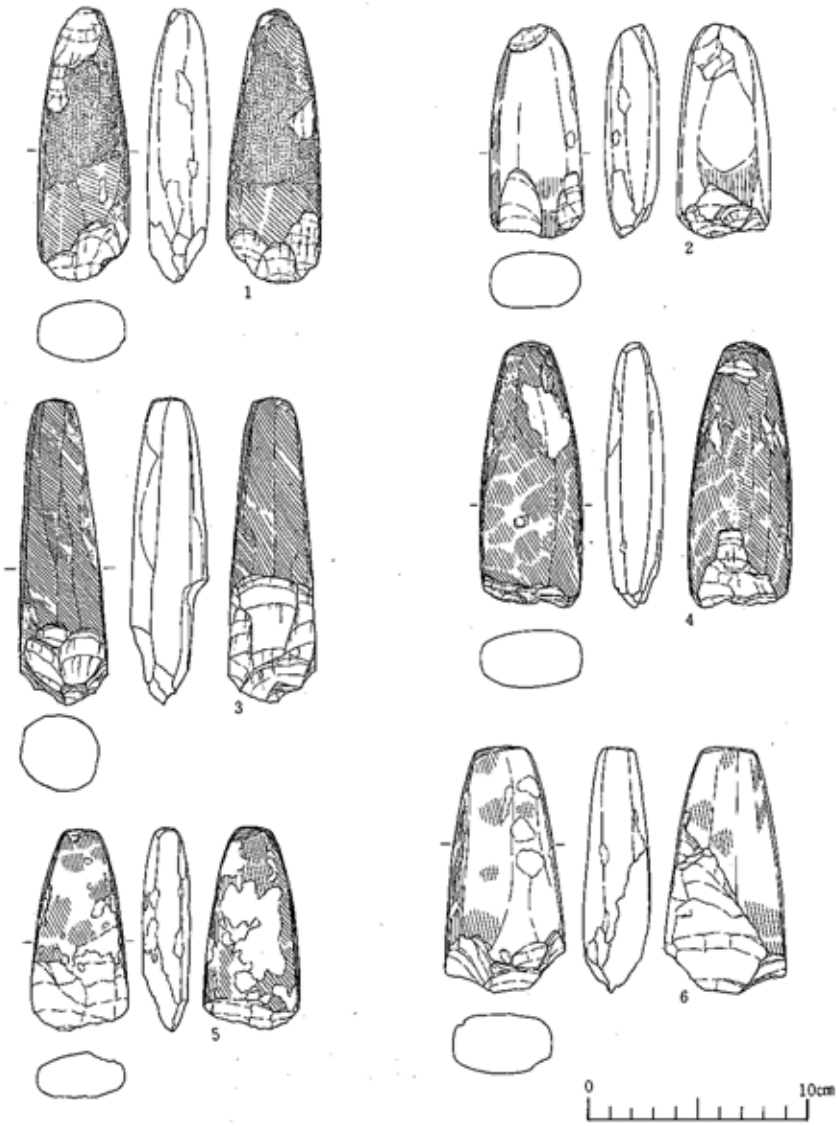
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DH35－1	不明	$1B_2$	刃部(46°)	砂質凝灰岩	65.0	36.0	22.5	84.0	下面に小剥離、刃部つぶれ	11	47－23
2	CP34－1	不明	$1B_2$	刃部(45°)	砂岩(凝灰岩)	88.0	47.5	24.5	192.0	上部・刃部つぶれ	1020	47－24
3	CL48－3	不明	$1B_2$	刃部(42°)	砂岩(凝灰岩)	108.0	51.0	24.5	23.0	下面小剥離、刃部つぶれ、片刃風	6433	47－25
4	BC49－3	不明	$1B_2$	刃部(43°)	砂質凝灰岩	70.5	48.0	23.5	144.0	刃部上部つぶれ	1312	47－26
5	BE46－2	不明	$1B_2$	刃部(39°)	砂質凝灰岩	66.0	43.0	24.0	120.4	刃部つぶれ	1016	47－27
6	DA39－1	不明	$1B_2$	刃部(40°)	砂質凝灰岩	96.5	52.5	19.0	170.0	上部小剥離、刃部つぶれ	2000	47－28
7	CM42－1	不明	$1B_2$	刃部(51°)	砂質凝灰岩	88.0	52.5	23.5	130.3		1878	47－29
8	CK42－2	不明	$1B_2$	刃部(46°)	角閃石粉岩	76.5	54.0	29.5	200.0	腹面、刃部と直交する線条痕	1050	47－30

第194図　磨製石斧(8)



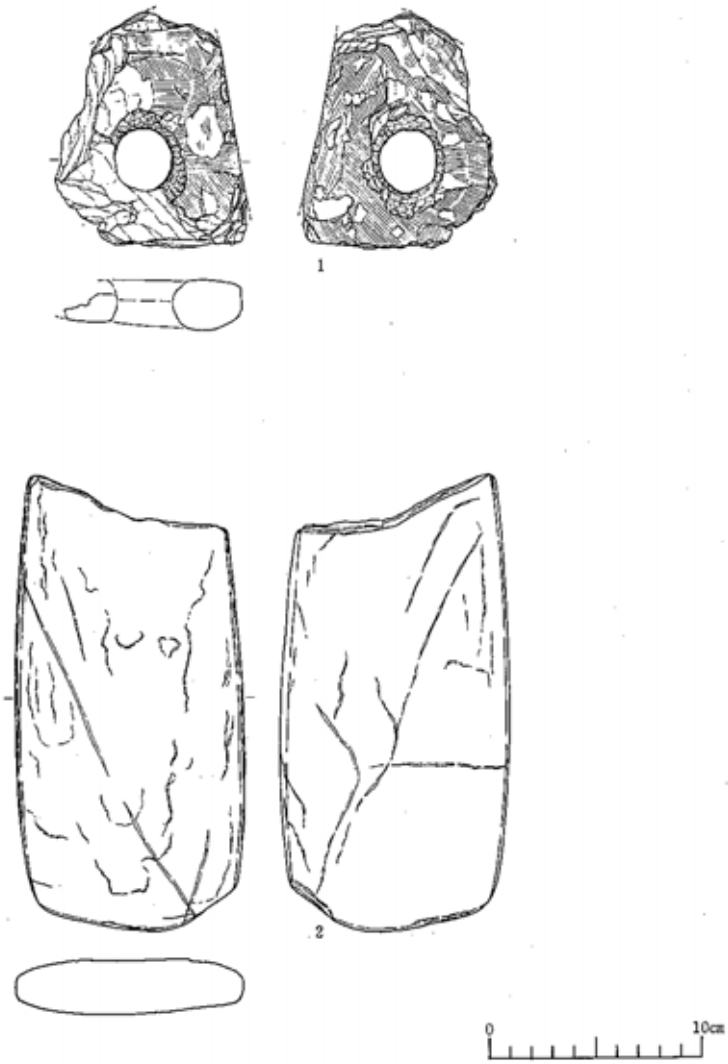
番号	地区・層位	時期	分類	刃部(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CQ34－1	不明	IB	中間部	砂質凝灰岩	59.0	43.5	24.0	101.6		37	48－1
2	CL45－3表	不明	IB	中間部	砂質凝灰岩	76.5	42.5	24.0	138.6		6415	48－2
3	OB39－1	不明	IB_1	刃部付近	粘板岩	70.5	30.0	8.0	25.5	刃部と斜交する線条痕	1372	48－3
4	BE50－3	不明	IB	中間部	粘板岩	26.0	18.5	4.5	2.7		5938	48－4
5	CL42－3	不明	IBd_1'	完形(46°)	粘板岩	79.0	36.0	21.0	115.0		3852	48－5
6	DG39－2	不明	IBd_1	完形(42°)	凝灰質砂岩	106.5	46.0	27.0	172.3	右側縁研磨後剥離	30	48－6
7	BE63－1	不明	IB_1'	刃部(41°)	凝灰質砂岩	125.0	57.0	25.0	280.0	刃部つぶれ	2118	48－7
8	CM42－6	不明	IV	刃部付近	粘板岩	75.5	40.6	27.0	147.5	両端つぶれ	6062	48－8

第195図　磨製石斧(9)



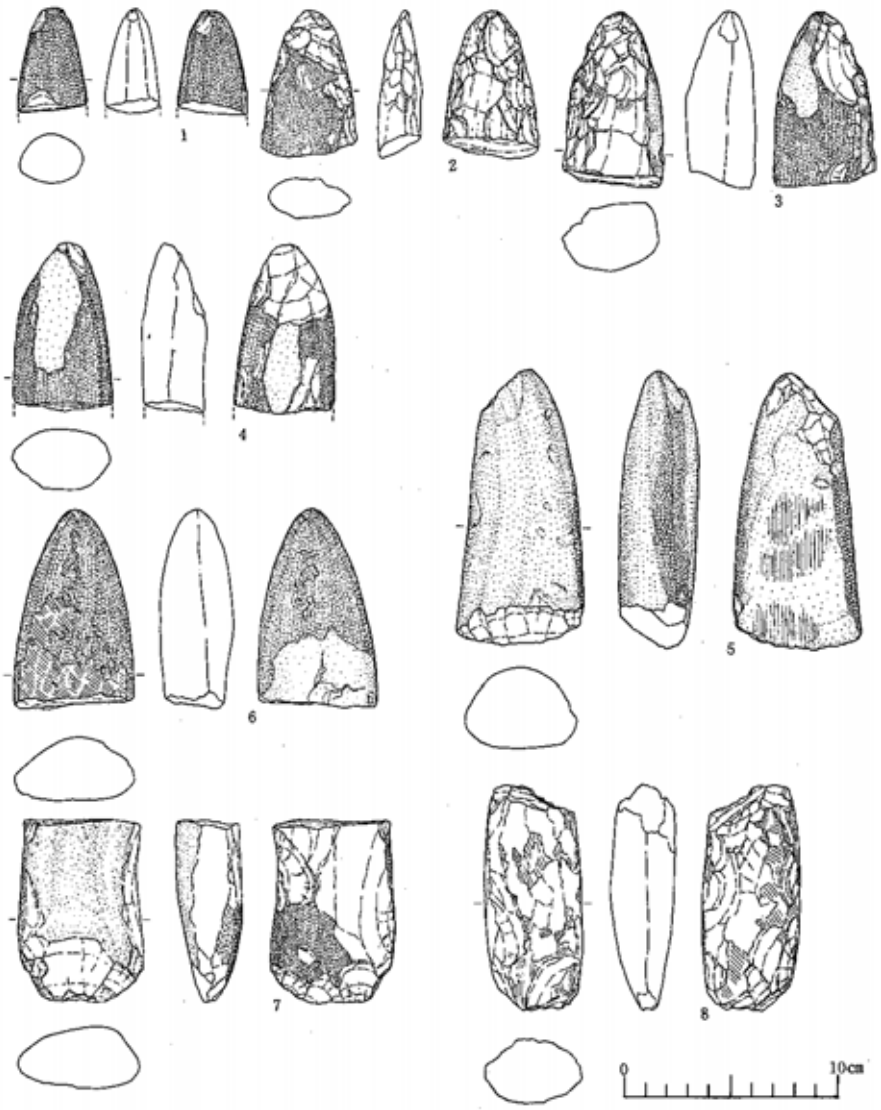
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CQ34－1	不明	IBa_1	完形(53°)	砂質凝灰岩	123.0	42.0	25.5	230.0	研磨の後、両面敲打	36	48－9
2	CK39－北8	不明	IBa_2	完形(50°)	砂岩(凝灰岩)	91.0	42.0	24.0	168.5		1936	48－10
3	BC35－2	不明	IBa_3	完形(48°)	粘板岩	138.0	39.3	33.6	240.0			48－11
4	BA53－4	不明	IBa_4	完形(46°)	粘板岩	121.0	46.5	25.0	232.0		1935	48－12
5	CM42－11	不明	IBb_1	完形(55°)	砂質凝灰岩	91.0	43.5	21.0	130.0		149	48－13
6	CQ34－1	不明	IBb_2	完形(57°)	砂質凝灰岩	122.0	54.0	30.0	265.0		2066	48－14

第196図　磨製石斧(10)



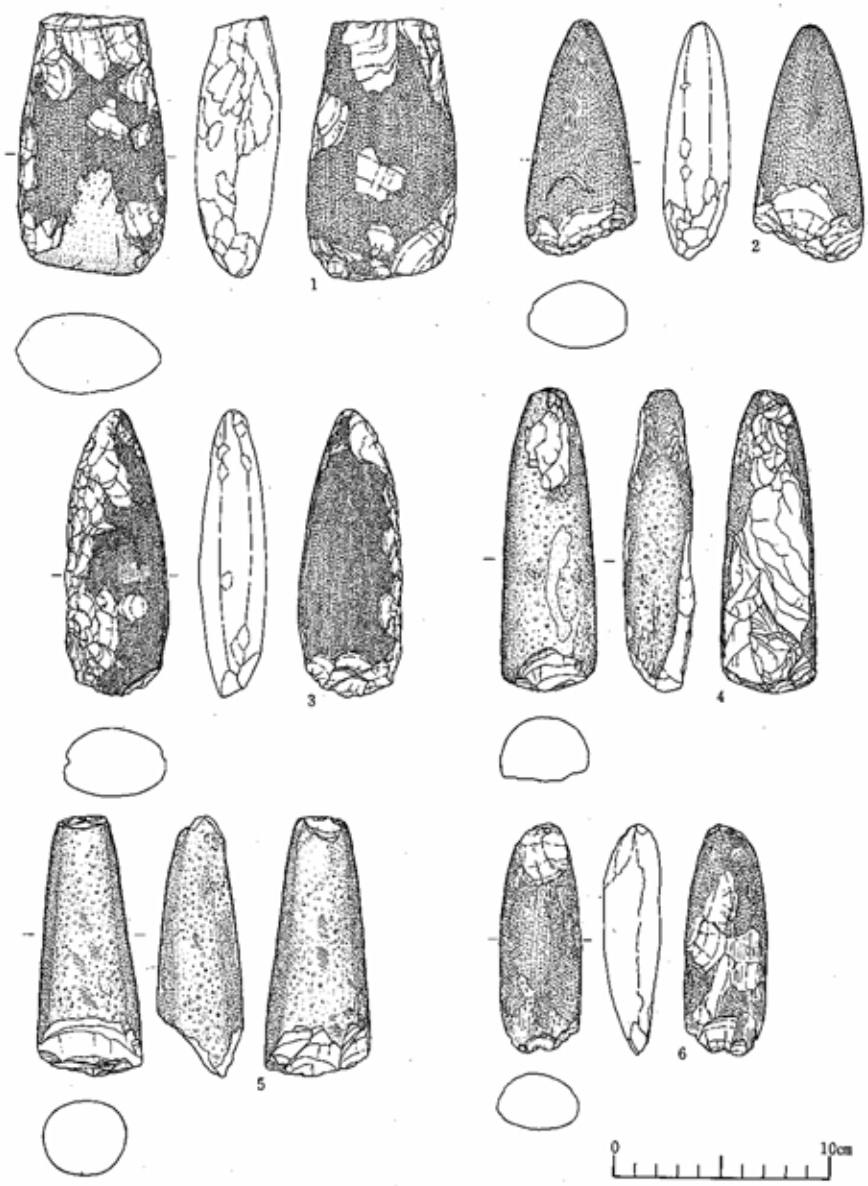
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CR35－1	不明	IC	基部付近	凝灰岩	112.0	86.0	87.5	265.0	有孔磨製石斧部分	25	48－15
2	CO40－表	不明	IC_2	刃部(38°)	石灰岩	193.0	106.0	36.5	1,055.0		1801	48－16

第197図　磨製石斧(11)



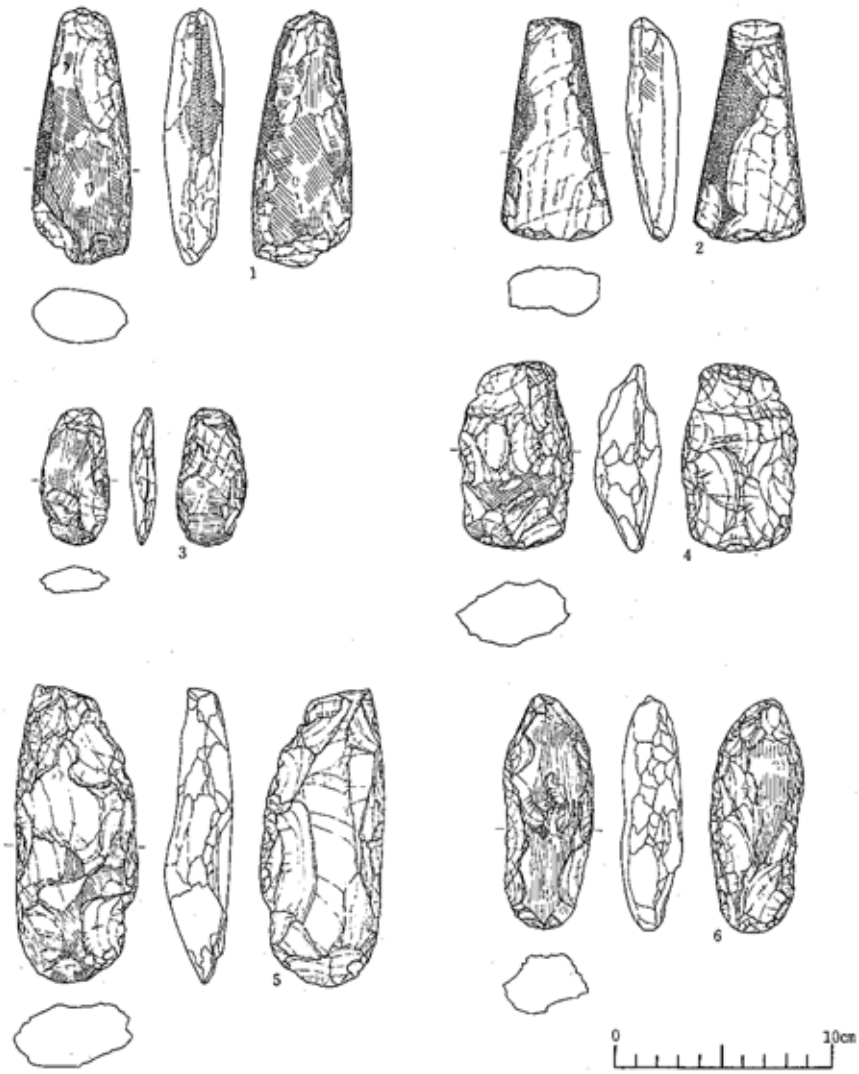
番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DB 63－1	不明	IIB	基端部	粘板岩	46.0	32.0	25.0	46.7		1823	48－17
2	CL 47－3+4	Ⅲ	IIBc	基端部	粘板岩	68.0	44.0	19.5	70.5	剥離→敲打	6030	48－18
3	CM・L46－表	不明	IIBc	基端部	砂質粘板岩	80.5	45.0	31.5	163.4	剥離→敲打	6029	48－19
4	CL 42－6	不明	IIBc	基部	砂岩	79.0	45.0	30.0	150.7	剥離→敲打	1750	48－20
5	CQ 34－1	不明	IIBc	基部	砂岩	128.0	58.0	36.0	435.0	敲打→研磨	2067	48－21
6	CM・N－43	不明	IIBc	基部	砂岩	92.5	56.0	34.0	250.0	剥離→敲打→研磨	2125	48－22
7	CM 43－1	不明	IIB_4	刃部(51°)	角閃岩	85.5	57.0	30.0	255.0		1699	48－23
8	CQ 37－1	不明	IIB_4	刃部(26°)	粘板岩	106.5	45.0	29.5	220.0		1859	48－24

第198図　磨製石斧(12)



番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BD 46－溝2	不明	IIB$_1$	刃部(53°)	砂質粘板岩	120.5	68.0	37.5	445.0	自然面残る、剥離→敲打	1046	49－1
2	BE 53－1	不明	IIBc$_1$	完形(53°)	粘板岩	108.5	50.0	30.0	215.0	敲打→研磨、刃部つぶれ	2119	49－2
3	BF 53－1	不明	IIBc$_1$'	完形(50°)	粘板岩	132.5	47.0	31.0	265.0	敲打の後・剥離	1843	49－3
4	CQ 48－溝	不明	IIBc$_1$	完形(50°)	粘板岩	139.5	43.0	(30.5)	287.0	表面焼け薄け、刃部つぶれ	991	49－4
5	BN 57－2	不明	IIBc$_1$'	完形(58°)	粘板岩	(120.5)	47.0	39.0	290.0	敲打の後・研磨	2867	49－5
6	CK 37－1	不明	IIBa$_1$	完形(41°)	粘板岩	106.0	37.5	26.0	149.1	敲打の後・研磨	6314	49－6

第199図　磨製石斧(13)



番号	地区・層位	時期	分類	部位(刃角)	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 42－1	不明	IIBa$_3$	完形(47°)	粘板岩	119.5	45.5	26.5	200.0	剥離→敷打→刃部再生	5320	49－7
2	CQ 37－1	不明	IIIb$_3$	完形(35°)	凝灰質砂岩	103.0	50.0	25.0	164.2	剥離→敷打→刃部再生	1800	49－8
3	CJ 39－2	不明	IIAa$_3$'	完形(34°)	粘板岩	64.0	32.0	11.5	29.6	剥離→研磨、刃部直交する線条痕	6030	49－9
4	BC 48－4	不明	IIBc$_1$'	完形(44°)	粘板岩	87.0	62.0	29.5	150.0	剥離→研磨、刃部つぶれ	1041	49－10
5	CD 44－1・2	不明	IIIBc$_1$'	完形(40°)	粘板岩	138.5	56.0	30.0	300.0		1896	49－11
6	CQ 48－1	不明	IIIBc$_1$	完形(51°)	粘板岩	41.5	41.5	28.0	158.5	(剥離→敷打)⇒研磨	55	49－12

第200図　磨製石斧(14)

ているとし、同じ部位に敲打痕がある第B2－①類との違いを使用頻度の差と考えたい。そうして主面に敲打痕がある第B2類は、②タイプの敲打痕があることからそれを持たないA類より力を必要とする使用法に基づくとし、A類と区別する。植物を例にとるならば、②タイプは殻がやや堅いクルミ類、①タイプはその他の堅果類が加工されたものとして考えられる。

3第II類（凹石）

破損している例が多いため、第201図中に資料化したものは少ない。形態ａが2点、形態ｂが3点ある。窪みには数千、数万回におよぶ敲打が集中したような、断面が「U」字形をしたものと、同心円状の回転運動が行われた結果のように、断面が「V」字形をしたものがある。いずれにしても窪みの具合からみて、第Ⅰ・Ⅱ類のように、手に持って使用された状況は想定しにくい。台として固定されたものもあろう。

4第IV類（石皿）

第Ⅳ類には完形品がない。全体の大きさを推定できるのは約$^{1}/_{2}$が残っている第241図1である。この資料の完形状態を復元すると、長さ45㎝、幅17.6㎝の楕円形になる。大部分の縁辺や底面、主面の平面部を敲打によって作り出している。石皿の脚部も出土している。

主面が荒れた状態は第ⅠA1類と類似している。縦条痕は長軸に沿って（縦位）みられる。これらの中には、前述したように、第ⅠA類とセットになって使用されたものを含んでいる。

5第Ⅴ類（砥石）

第Ⅴ類の縁辺には剥離が施されているものが多い。長さ15㎝以上ある大形のものが多く、第244図3のような小さいものは稀である。

研磨面は平坦な例（A類）が多い。表面は第Ⅳ類と同じように荒れている。線条痕は縦位・不定あるいは不明で斉一性がない。溝状の磨面をもつもの（B類）は単独でみられないでA類の研磨面中にある。線条痕は縦位にある。使用にあたっては、A類は板状、B類は棒状製品の研磨に用いられたと考えられる。素材としては、骨角品、木器、石製品が想定される。

6大別した使用痕が重複しているものについて

ここでは磨石類の属性が1つの石器に2つ以上みられるものについてふれる。

第Ⅰ＋Ⅱ類は長さこそ6～13.5㎝とバラツキがあるものの、長幅比は5：4前後にまとまる。楕円形のもの（第Ⅰ：Ⅱ類のａ類）が26点、長方形のもの（第Ⅰ類ｂ類）が5点で前者が極端に多い。このあり方は第Ⅰ類（磨石）の特徴と一致している。第Ⅰ類の属性ではB類が多い（第31表）。第Ⅱ類の属性ではA類が13点、B類が8点、A・B類が8点出土している。この比率は第Ⅱ類のうち、AとB類が単独にみられるものの比率とほぼ同じであることから、第Ⅰ＋Ⅱ類に特に多い属性ではないことがわかる。研磨と敲打の切り合いは不明確なため、転用か共用かは不明である。

磨石類・石皿類（第202図～第244図）

ここでは、磨石・敲石・凹石・石皿・砥石をまとめて扱う。全部で177点出土している。これらの石器は全体としてみると使用痕が残っている石器群としてまとめられることから、分類にあたっては使用痕による区分を重視することにした。

1分　類

1使用痕による大別

Ⅰ円礫に減摩あるいは研磨がみられるもの（磨石）

肉眼観察によると、磨石の磨面には2種類あると考えられた。1つは使用によって礫がすり減り、平らな面になっているものであり、他の1つは礫面がすり出され光沢を帯びているものである。そこで用語では前者の状態をさして「減摩」、後者の状態をさして「研磨」と区別することにした。

Ⅱ円礫に敲打痕がみられるもの（敲石）

敲打痕にはほとんど窪みがないものと、浅く皿状に窪んでいるものがある。輪郭は不鮮明である。

Ⅲ円礫に逆円錐形の窪みがみられるもの（凹石）

ここでいう窪みは輪郭がはっきりしており、「U」字状や「V」状の断面形をしている。

Ⅳ大形礫に平面的な磨面がみられるもの（石皿）

Ⅴ角礫に平坦あるいは溝状の磨面がみられるもの（砥石）

2各類の細別

次に使用痕の状態や観察される部位をもとに、前記第Ⅰ～Ⅴ類を細別する。

1第Ⅰ類（磨石）

(1) 使用痕による区分

A減摩

1長軸に対して縦位にすられているもの

2長軸に対して横位にすられているもの

B研磨

1長軸に対して縦位にすられているもの

2長軸に対して横位にすられているもの

3長軸に対して横位にすられており、磨面がやや平坦になっているもの

4研磨の方向が不定なもの及び不明確なもの

(2) 礫の平面形による区分

a 楕円形をしたもの

ｂ長方形をしたもの

2　第II類（敲石）

⑴　敲打痕がみられる部位による区分

Ａ側面部にあるもの

1上面または下面にみられるもの

2右面または左面にみられるもの

Ｂ主面にあるもの

1周縁部にみられるもの

2中心部にみられるもの

⑵　礫の平面形による区分

ａ楕円形をしたもの

ｂ長方形をしたもの

この他に敲打疲の種類による区分がある。これには①ほとんど窪みがないものと②浅く皿状に窪んでおり、窪み中に数ケ所にわたって部分的に深くなっているものがある。

3第II類（凹石）

⑴　窪みがみられる部位による区分

Ａ周縁部にみられるもの

Ｂ中心部にみられるもの

Ｃ破損しているため、状況の把握できないもの

⑵　礫の平面形による区分

ａ楕円形をしたもの

ｂ長方形をしたもの

4第IV類（石皿）

第Ⅳ類には剥離や敲打によって成形・整形されたものと、そうでないものがある。ここでは成形の要素も含めて分類した。

A1敲打によって縁取られており、平坦な磨面があるもの

A2敲打によって縁取られており、彎曲した磨面があるもの

B1縁取りが行われておらず、彎曲した磨面があるもの

5第V類（砥石）

Ａ平坦な磨面があるもの

Ｂ溝状の磨面があるもの

2出土状況

ここでは、ＣＬ・M39～41区の各層から出土しているものを扱う。

第Ⅱ期　この時期に形成された層で最も多く出土しているのはＣM39区37層の4点(第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類2点)である。他にＣＬ39区38層から3点（第Ⅰ・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類）ＣM41区29層から1点（第Ⅱ類）出土している。また大木9式期の竪穴住居跡の堆積土上面と考えられるＣM39区38層から3点（第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類）出土している。

第Ⅲ期　ＣＬ39区37層から8点（第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類・第Ⅲ類・第Ⅳ類・第Ⅴ類）、ＣＬ41区28層から5点(第Ⅰ類・第Ⅰ＋Ⅱ類のみ)、ＣＬ41区19層から3（第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類・第Ⅳ類)、ＣM39区36層から3点(第Ⅰ類2点第Ⅴ類)出土している。ＣＬ39区37層は各類がみられるがＣＬ41区28層は第Ⅰ・Ⅱ類のみがあり、層による違いがはっきりしている。

第Ⅳ期　ＣＬ39区36層から5点(第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類・第Ⅴ類2点)、ＣＬ41区18層から4点(第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類・第Ⅳ類)、ＣＬ40区26層、ＣＬ41区17層、ＣM41区17層から第Ⅰ類が各1点出土している。

時期＼分類	ⅠA$_1$	ⅠA$_2$	ⅠB$_1$	ⅠB$_2$	ⅠB$_3$	ⅠB$_4$	ⅡA$_1$	ⅡA$_2$	ⅡB$_1$	ⅡB$_2$	ⅡA$_1$・A$_2$	ⅡA$_1$・B$_1$	ⅡA$_2$・B$_1$	ⅡA$_2$・B$_2$	ⅡA$_1$・B$_2$	ⅡA$_2$・B$_2$	ⅢA	ⅢB	ⅢC
Ⅱ	1			2								1			2				
Ⅲ				5			2					1				1			1
Ⅱ or Ⅲ			2	1		1											1		
Ⅳ			1	2		2		1				1							
Ⅴ				1			5				1					1		1	
Ⅵ				1												2			
Ⅶ	1			1			1			1									
Ⅷ				4			1												
Ⅸ				1															
不明	5	1	3	10	1	12	5	0	7	2	2	1	6	1	0	0	1	2	2
計	7	1	6	28	1	15	14	1	7	3	3	4	6	1	2	4	2	3	3

時期＼分類	ⅣA	ⅣB	ⅤA	ⅤA・B	ⅠA＋ⅡA	ⅠA＋ⅢA	ⅠA＋ⅢB	ⅠB＋ⅡA	ⅠB＋ⅡB	ⅠB＋ⅡA・B	ⅡA＋ⅢA	ⅡA＋ⅢB	ⅡA＋ⅣA	Ⅲ＋Ⅳ	Ⅱ	ⅡB＋Ⅲa	計
Ⅱ			1					1		2							13
Ⅲ	4		2					3	3								22
Ⅱ or Ⅲ	1																6
Ⅳ	1	1	2					1	1								13
Ⅴ			1					1		1							12
Ⅵ								1						1			5
Ⅶ			2							1							7
Ⅷ								1									6
Ⅸ																	1
不明	2	2	2	2	1	1	1	5	4	4	2	1	1	2	3	1	95
計	8	3	10	2	1	1	1	13	8	8	2	1	1	3	3	1	177

第30表　磨石類・石皿類時期別・分類別出土数量表

時期＼分類・形態	ⅠAa	ⅠAb	ⅠBa	ⅠBb	ⅡAa	ⅡAb	ⅡBa	ⅡBb	ⅡA・Ba	ⅡA・Bb	ⅢAa	ⅢAb	ⅢBb	ⅠA＋ⅡAb	ⅠA＋ⅢBa	ⅠA＋ⅡBa	ⅠB＋ⅡAa	ⅠB＋ⅡAb	ⅠB＋ⅡBa	ⅠB＋ⅢBa	Ⅲ＋ⅡAb	計
Ⅱ		1	2						3								1				2	9
Ⅲ			5		1	1				2							2	1	3			15
Ⅱ or Ⅲ			4								1											5
Ⅳ			5		1					1							1		1			9
Ⅴ			1		4	2			1				1				1				1	11
Ⅵ			1						2								1					4
Ⅶ	1		1		1		1														1	5
Ⅷ			4		1												1					6
Ⅸ			1																			1
不明	1	5	21	5	2	5	6	3	3	5	1	1	1	1	1	1	4	0	2	2	4	74
計	2	6	45	5	10	8	7	3	9	8	2	1	2	1	1	1	11	1	6	2	8	139

第31表　磨石類・石皿類時期別・分類＝形態出土数量表

第Ⅴ期　ＣＬ40区24層から3点(第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅴ類)、ＣＭ41区26層から3点(第Ⅱ類2点・第Ⅰ＋Ⅱ類)、ＣＬ40区25層から2点(第Ⅱ類2点)、ＣＭ41区24層から2点(第Ⅱ類2点)、ＣＬ41区16層から1点（第Ⅰ＋Ⅱ類）、ＣＬ39区31層から1点（第Ⅱ類）出土している。

第Ⅵ～Ⅶ期　ＣＬ41区12層のみ第Ⅲ＋Ⅳ類がみられ、他は第Ⅰ類、第Ⅰ＋Ⅱ類が各層から出土している。

第Ⅷ期　ＣＭ41区15層から2点(第Ⅱ類・第Ⅰ＋Ⅱ類)が出土している。他の4つの層からは第Ⅰ類が1点出土している。

第Ⅸ期　ＣＬ41区3層から第Ⅰ類が1点出土している。

3時期による変化

ここでは各層を検討した結果、導かれた時期をもとに磨石類・石皿類の組成をみることにする（第30表）。明確に時期がわかるのは177点のうち82点で全体の46％を占めている。内訳は第Ⅱ期10点、第Ⅲ期22点、第Ⅳ期13点、第Ⅴ期12点、第Ⅵ期5点、第Ⅶ期7点、第Ⅷ6点、第Ⅸ期1点である。その他に第Ⅱ期とⅢ期のいずれかに含められる資料が6点ある。これらのことから貝層下の土層(第Ⅱ・Ⅲ))が最も多く、貝層形成初期がこれに次いでいることがわかり、時期が新しくなるにつれて出土数が減っている傾向がみられる。

次に第31表をもとに、各時期ごとの組成をみていく。第Ⅱ期から第Ⅴ期では第ＩＢ類（研磨

石材＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ＋Ⅱ	Ⅰ＋Ⅲ	Ⅱ＋Ⅲ	Ⅲ＋Ⅳ	小計
砂岩	12	15	3	3	4	10	1	1		49
頁岩質砂岩	5	5	3		2	4		1	2	22
安山岩	12	1		2	1	1				17
輝緑岩	1	9				2	1	1		14
花崗閃緑岩	2	7			1					10
珪岩	5	3				2				10
砂質頁岩	4		1	2	1	1				9
閃緑砂岩	2	4				1				7
石英安山岩質頁岩		2		1		1				4
花崗斑岩	1	2				1				4
安山岩質頁岩	2					1				3
石英安山岩	1					2				3
珪岩～安山岩	3									3
閃緑岩	2					1				3
アルコーズ砂岩				2						2
砂質頁岩	1						1			2
安山岩～珪岩	1	1								2
石英閃緑岩	1					1				2
細粒花崗アルコーズ砂岩					1					1
細粒砂岩		1								1
砂質粘板岩					1					1
石灰岩			1							1
細粒頁岩		1								1
酸性頁岩				1						1
輝緑岩～玄武岩						1				1
石英斑岩	1									1
閃緑斑岩	1									1
アプライト	1									1
細粒ほんれい岩～珪岩						1				1
小計	58	51	8	11	11	30	3	3	2	177

第32表　磨石類・石皿類石材別・分類別出土数量表

をもつ磨石）、第ⅡＢ類（主面敲打による敲石）、第Ⅴ類（砥石）、第ＩＢ類＋第ⅡＡ類（研磨をもつ磨石と側面に敲打痕をもつ敲石）を含む。これらが礫石器として基本的な組み合わせなのであろう。第Ⅶ期にも第ＩＡ類を始め、第ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ・Ⅴ・ＩＢ+ⅡＢ類と多くのタイプが出土している。時期的変化としては、第ⅡＡ類が新しい時期に出土していることが目にとまる。また第Ⅴ期では第Ｉ類や第Ⅱ類が多い。

分類別では第ＩＢ2類が各時期にある。第ⅡＡ1・ⅤＡ・ＩＢ＋ⅡＡ類もほとんどの時期から出土している。第Ⅳ類は第Ⅴ期以後にはみられない。

4石　材（第32表）

各類とも砂岩カ圭多く使用されているが第1類は安山岩、第Ⅱ類は粘板岩の使用も目立つ。

5各類の特徴

第3項で磨石類・石皿類の器種組成を時期ごとにみてきた。そこでは数量は新しくなるにつれて減ってくるが、時期ごとに組成の特徴があるとはいえないことがわかった。そのため、次に田柄貝塚から出土している磨石類をまとめて扱い後期前半～晩期前半の様相として各類の形態や使用痕から、その使用法について考えることにする。

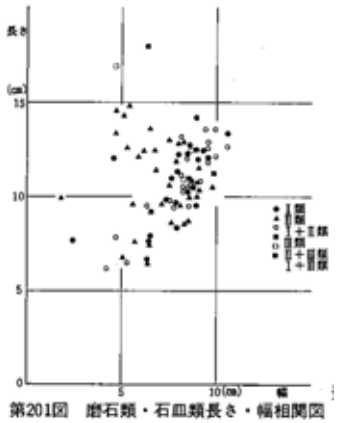
1第Ｉ類（磨石）

（a）形態と使用痕との関連について

第201図は第Ｉ～Ⅲ類の大きさをみるための図である。完形品をもとに作成したため、用いた資料は図化した資料より少ない。

第Ｉ類はほとんど完形で出土している。長さ8～14㎝、幅7～10㎝の間に大半の資料があてはまり、長幅比は4：3ぐらいのものが多い。幅の方が長さより斉一性がある。

形態でみると、ａ類（楕円形）は47点、ｂ類（長方形）は11点でａ類が81％を占めている。



第201図　磨石類・石皿類長さ・幅相関図

使用痕にはA類（減摩）とＢ類（研磨）があるが、そのうちＢ類が95％を占めている。使用痕と形態との結びつきでは使用痕Ａ類は形態ｂ類の礫にあることが多く、線条痕の方向は1類（縦位）である。また使用痕Ｂ類は形態ａ類の主面にみられ、線条痕の方向は2類（横位）でこの第Ｂａ類の中には研磨され、礫の表面が鏡面のようになり岩石を構成している鉱物が容易にわかるほどに変わっている例もある。

（b）使用法・用途

前項において減摩（A類）と長方形（ｂ類）、研磨（B類）と楕円形（ａ類）に結びつきがあり、前者の線条痕

は縦位（1類）、後者の線条痕は横位（2類）が多いとした。磨面の状態を作り出している線条痕の方向が、減摩と研磨では違うことから、両者の差異を使用程度の差異とはいえない。第B2類が過度に使用されたものが第B3類と思われること、研磨された面には光沢があり減摩された面はザラザラしていることから、両者の差異は使用法の違いを反映していよう。

減摩面は縦位線条痕が多いことから使用時に礫は縦に持たれたと考えられる。減摩面は平らで表面がザラザラとしたものに接触したため曲面が変形したものと思われる。このため直接的には、大きな平坦面をもつ第V類（石皿）などと共に用いられた結果を示していよう。従って、減摩は厳密には対象物との間に生じた使用の痕跡ではなく、使用時に一緒に用いられる石器との間に生じた前後の連続運動の痕跡であることになる。このような使用法から臼のような道具を想定できる。

また第ＩＢ類の研磨面には横位線条痕が多いことから、使用時に礫は横に持たれたと考えられる。光沢が著しく見られるにもかかわらず、曲面のままであることから軟らかいものの状態を整える行為、すなわち獣皮の加工等や木器の磨きに使われた可能性がある。

2第II類

ａ形態と敲打痕の関係

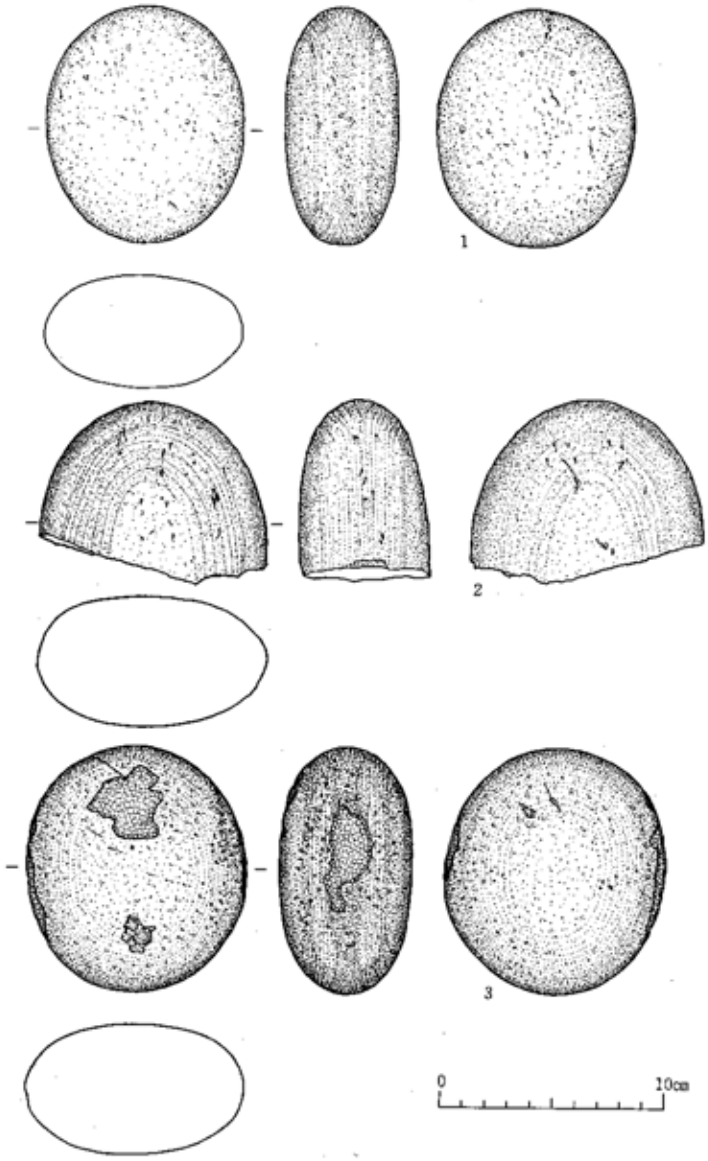
第201図をみると、第Ⅱ類には長幅比が5：4のものと1：2前後のものがある。このうち前者は形態ａ、後者はｂに対応するが、第Ⅱ類の形態ｂは第Ｉ類の形態ｂより細長い。出土数はａ類が24点、ｂ類が24点で同数である。

主面の中央部にある敲打痕（第B2類）には、分類の項でふれた①の敲打痕と共に②のタイプの敲打痕部ある。このタイプの敲打痕は少なく、第208図2・5、第212図1の3点にすぎないがいずれも左下り斜位に敲打痕は集中している。

一方、主面の周縁（B1類）や側面（A1・A2類）には①タイプの敲打痕がみられる。このうち形態ｂと強く結びついているのは第A1類で、中には第205図2、第207図3、第232図1のように縁辺が直線的に変形しているものもある。B1－①類、B2－①類、B2－②類、A2－①類には形態ａが多い。

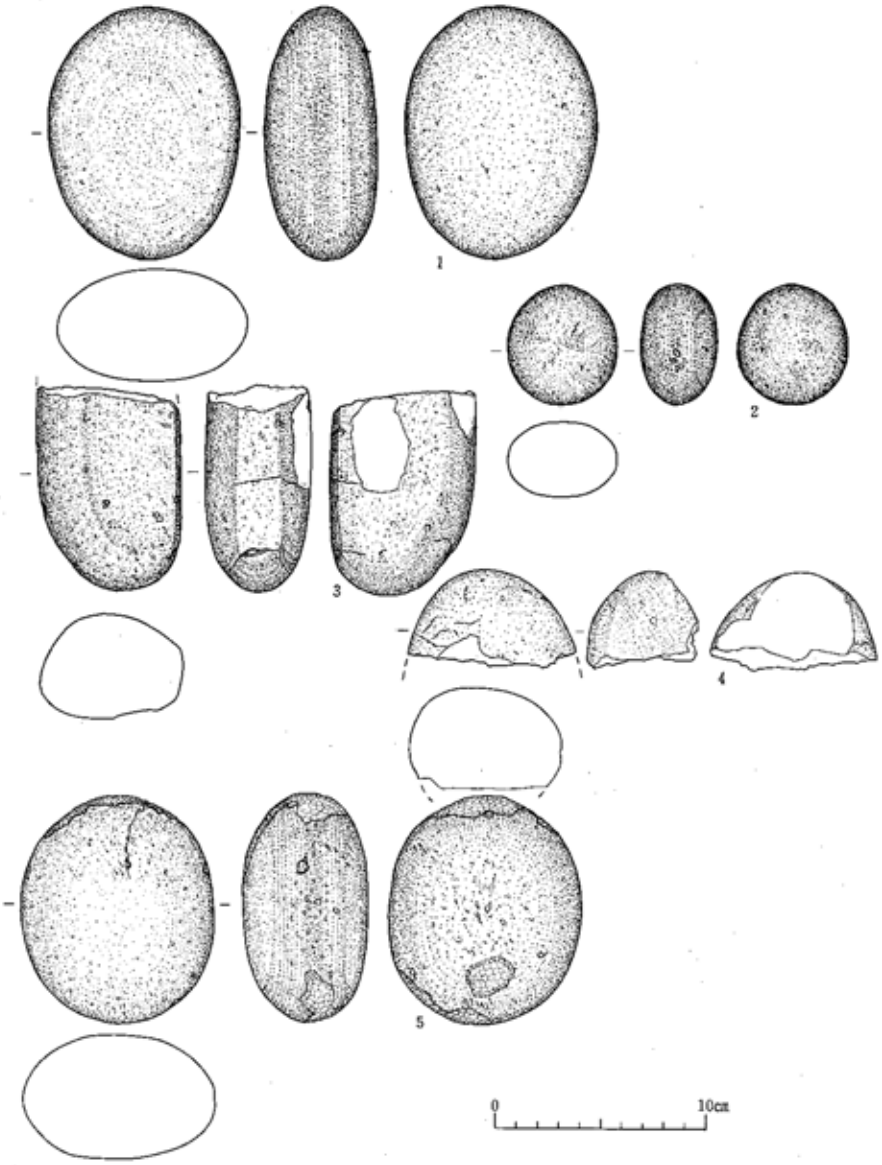
ｂ使用法

第A1－b－①類には敲打されて縁辺が直線的になっている例もあることから、第ＩA類と同じように台とをる石器と一緒に使用されていた可能性が考えられる。他に特徴的な使用が考えられるものに第B2－②類がある。この類には左下り斜位に敲打痕が集まっているものがある。このことは、一見、磨製石斧に右下り斜位の研磨痕があり、これを右手で磨いた結果としたことと矛盾している。しかし磨石類には第ＩB2・3類のように横に持って使用された状況が想定されるものがある。このことからみて第ⅡB2－②類も横位に持って主面中央部で破いた結果を示し



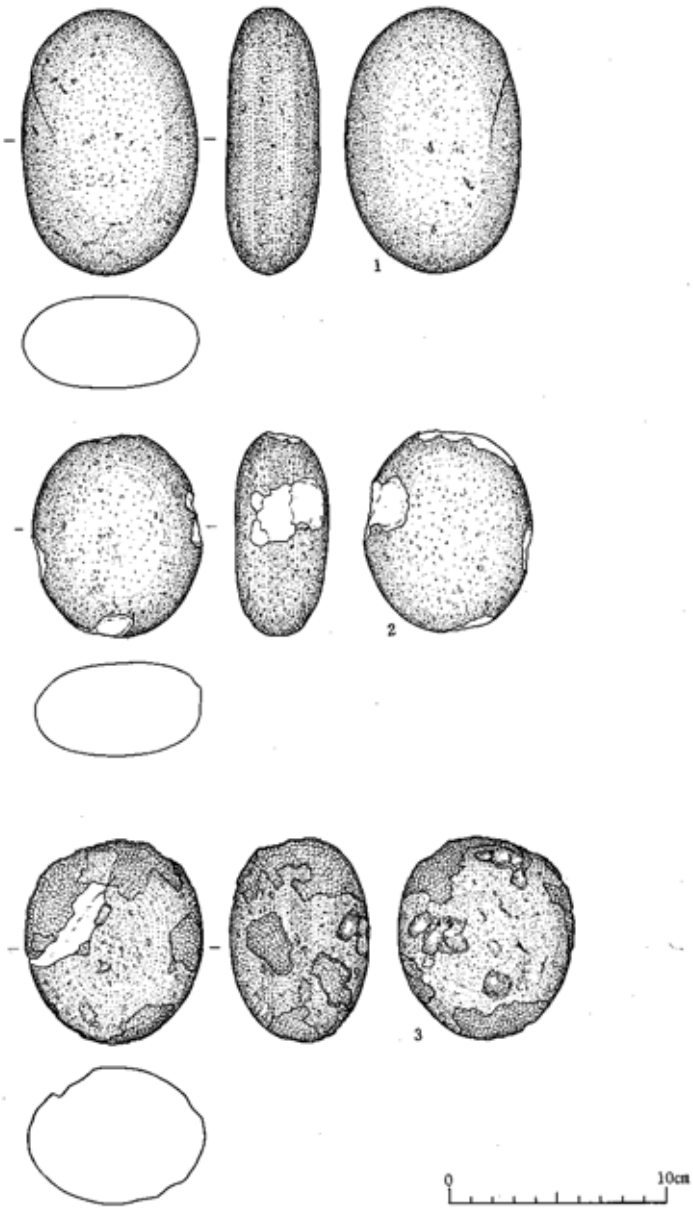
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL40－27	Ⅱ or Ⅲ	IB_{1a}	砂岩	105.5	87.5	50.5	703.0		2041	49－13
2	CL40－27	Ⅱ or Ⅲ	IB_{1a}	花崗閃緑岩	(80.6)	102.5	58.6	697.0	下部破損	2097	49－14
3	CL39－38	Ⅱ	$IB_2+IIA_2\cdot B_{1a}$	砂岩	110.0	97.2	58.0	695.0		5844	49－15

第202図　磨石類・石皿類(1)



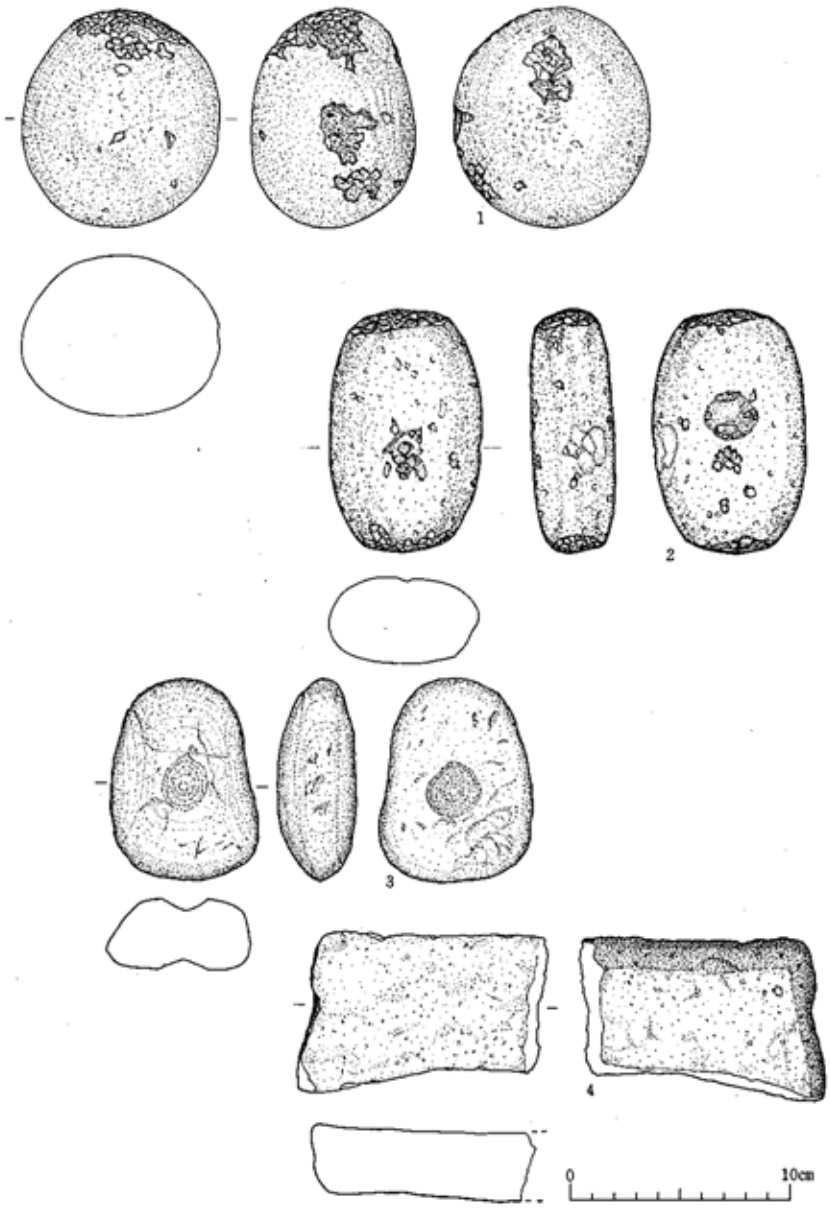
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－38	Ⅱ	ⅠB_{1a}	砂岩	120.8	90.0	53.6	875.0		5843	49－16
2	CM 39－37	Ⅱ	ⅠB_{1a}	砂質凝灰岩	120.0	90.5	53.5	590.0	やや左上りの横位線条痕、下面のみ	5976	49－17
3	CM 39－38	Ⅱ	ⅠA_{1b}	凝灰質砂岩	(87.0)	52.0	35.5	153.0	上部破損	1892	49－18
4	CL 40－27	Ⅱ or Ⅲ	ⅠB_{1a}	砂質頁岩	(91.0)	68.0	50.0	530.0	右上り斜位の線条痕	1918	49－19
5	CM 39－37	Ⅱ	ⅠB_2+ⅡA_2・B_{1a}	凝灰質砂岩	108.0	91.2	58.5	830.0	上面のみ研磨	5822	49－20

第203図　磨石類・石皿類(2)



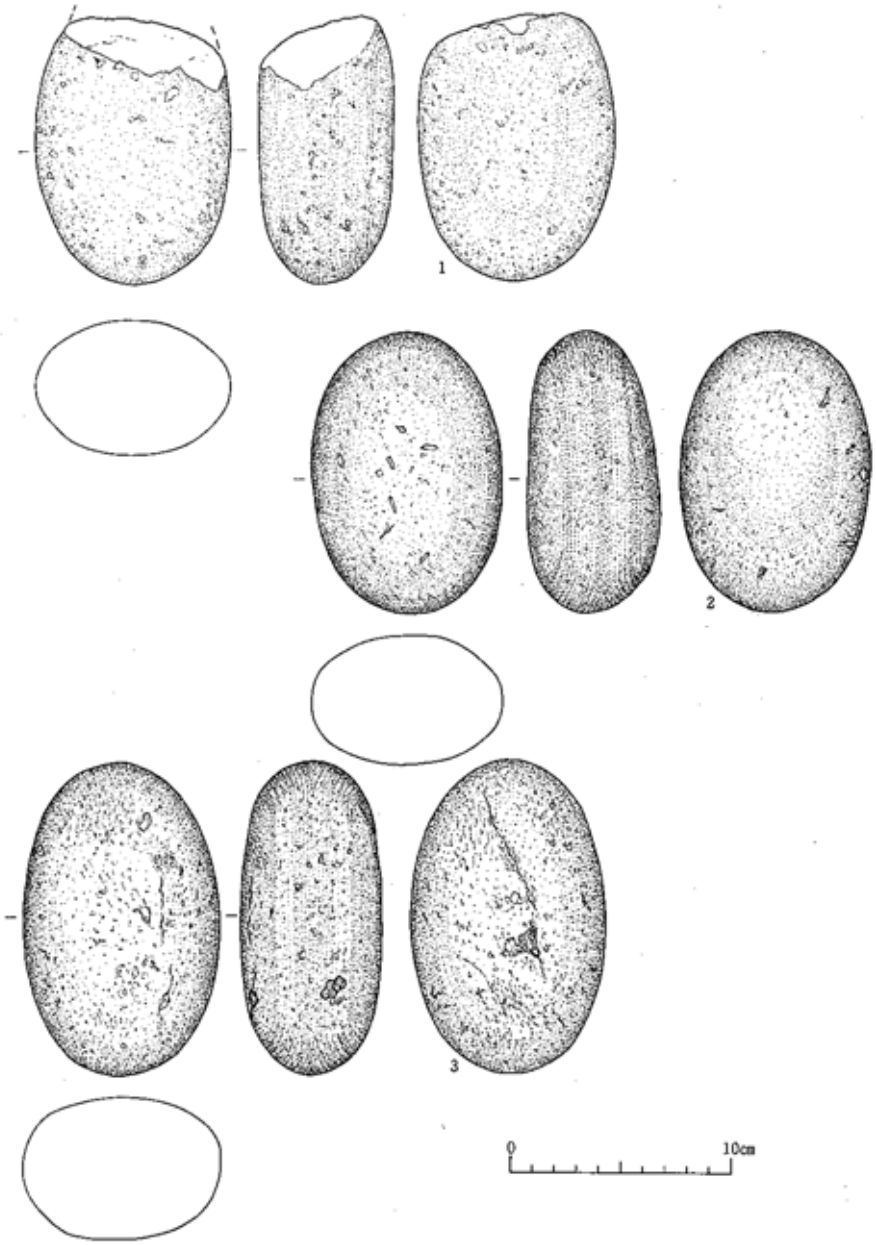
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－27	Ⅱ or Ⅲ	IB_{0a}	砂岩	123.0	80.5	42.5	655.0	下面のみ研磨	5807	50－1
2	CM 39－37	Ⅱ	IB_2+IIA_{0a}	砂岩	93.6	77.0	42.5	490.0	上端敲打、上面研磨	2038	50－2
3	CL 39－38	Ⅱ	$IIA_{1-2}\cdot B_{0a}$	花崗閃緑岩	94.5	80.5	63.2	683.0	周縁の敲打めだつ	5830	50－3

第204図　磨石類・石皿類(3)



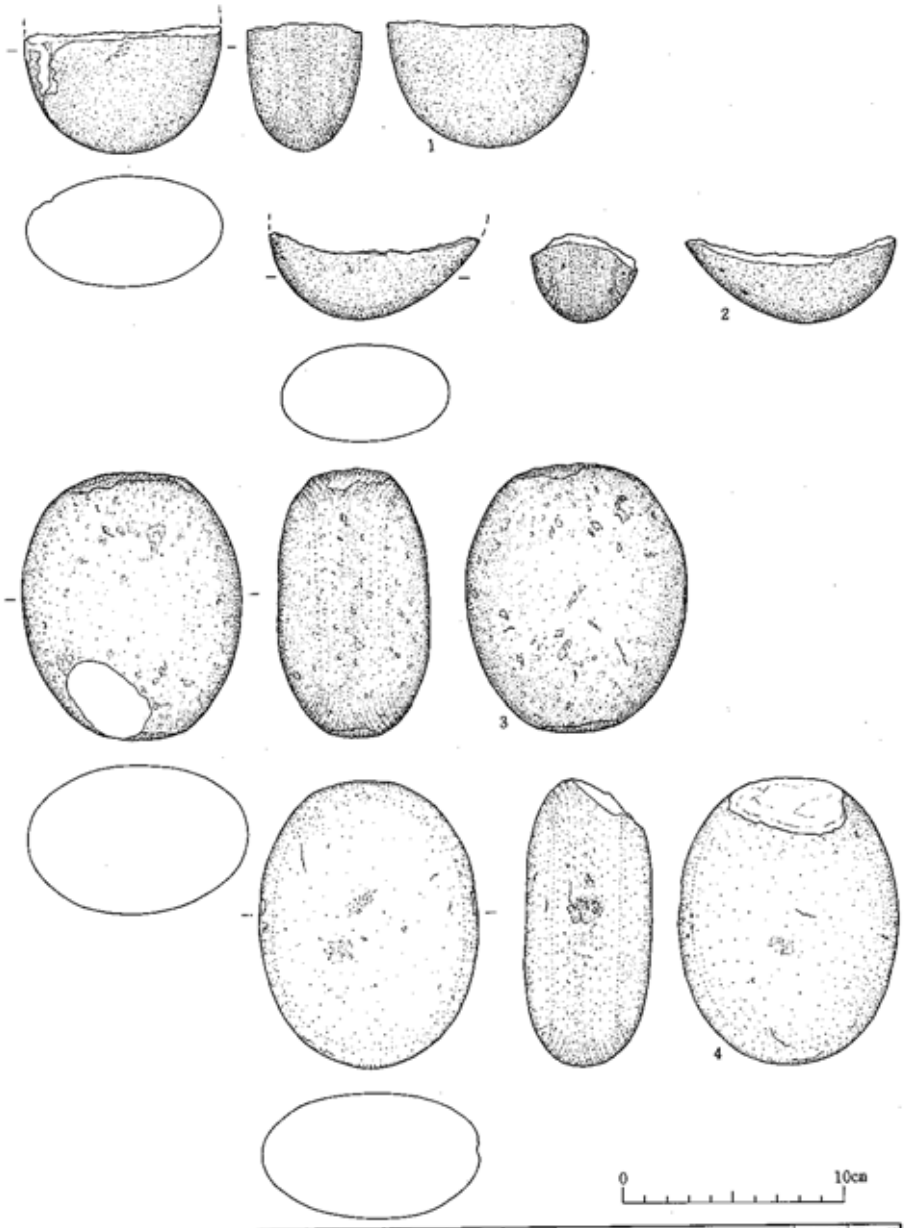
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM41－29	Ⅱ	ⅡA$_{2-3}$・B$_{1a}$	花崗閃緑岩	99.4	89.5	73.2	968.0		2086	50－4
2	CM39－37	Ⅱ	ⅡA$_2$・B$_{1a}$	砂岩	110.4	68.2	39.6	522.0	上・下端、両面に敲打痕	1993	50－5
3	CL40－27	Ⅱ or Ⅲ	ⅢA$_2$	砂岩	92.5	65.0	32.2	309.0		2065	50－6
4	CM39－38	Ⅱ	VA	砂岩	(71.7)	108.6	30.0	480.0	剥離敲打による作り出し	1798	50－7

第205図　磨石類・石皿類(4)



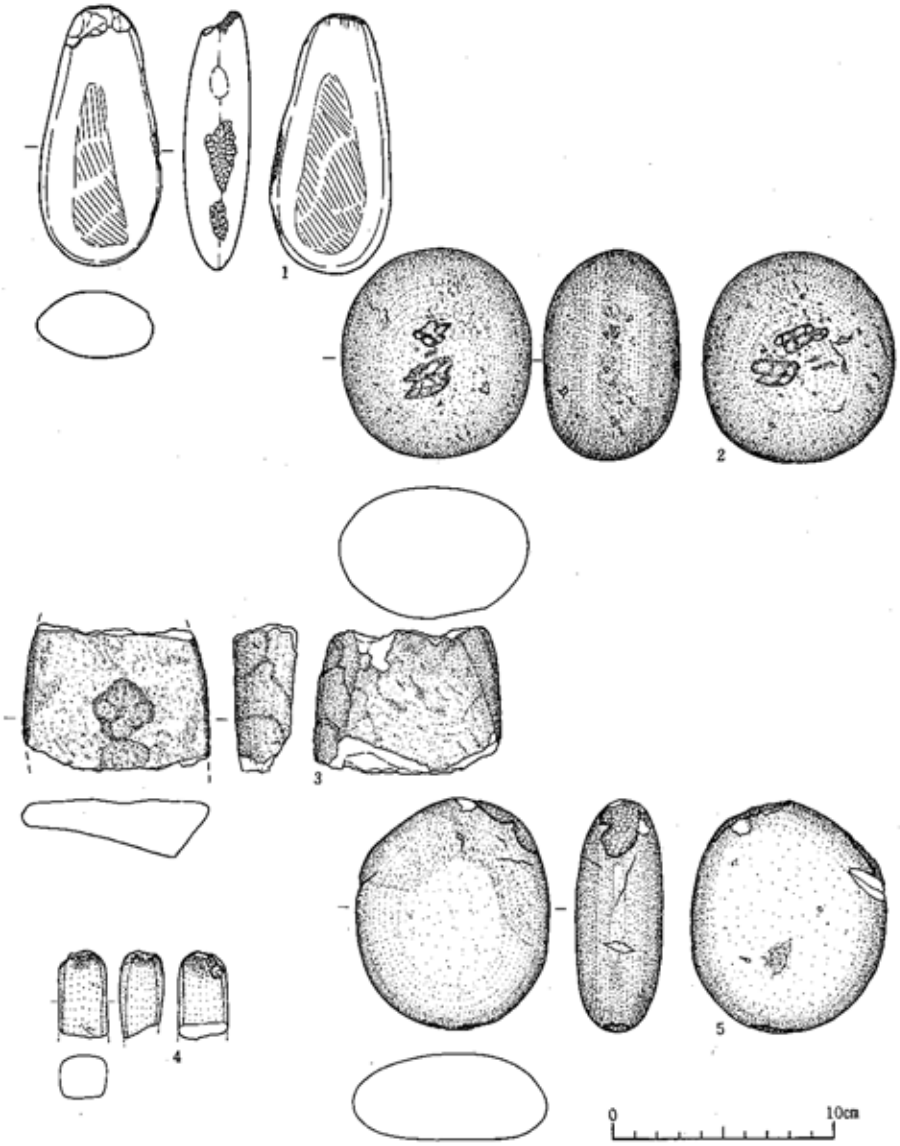
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 39－36	Ⅲ	IB_{1a}	粉岩～安山岩	(121.0)	88.0	6.5	1,025.0	上部破損	5828	50－8
2	CM 39－36	Ⅲ	IB_{1a}	凝灰質砂岩	127.2	85.4	58.1	1,000.0		1385	50－9
3	CL 39－37	Ⅲ	IB_{1a}	黄緑岩	142.2	89.0	64.7	1,253.0	上・下面やや左上りの楕位線高度	2024	50－10

第206図　磨石類・石皿類(5)



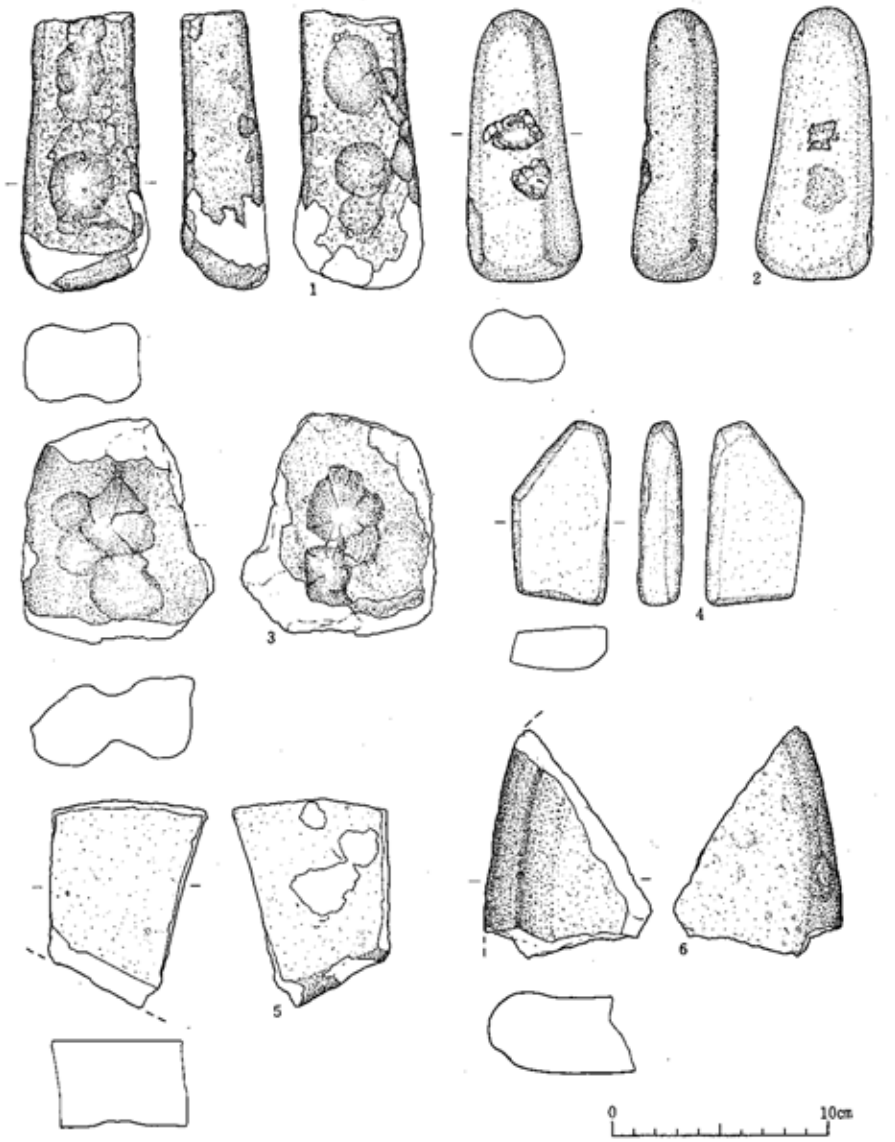
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM41－28	Ⅲ	IB_{2a}	花崗閃緑岩	(55.4)	90.0	50.4	372.0		1914	50－11
2	CL39－37	Ⅲ	IB_{2a}	砂岩	(30.5)	94.7	44.1	154.0	上面のみ研磨あり	6317	50－12
3	CM41－28	Ⅲ	IB_2+IIA_{1a}	石英閃緑岩	121.0	99.5	67.5	1,280.0		2115	50－13
4	CM41－28	Ⅲ	IB_2+IIA_{1-2a}	凝灰質砂岩	130.5	98.7	56.6	1,114.0		2114	50－14

第207図　磨石類・石皿類(6)



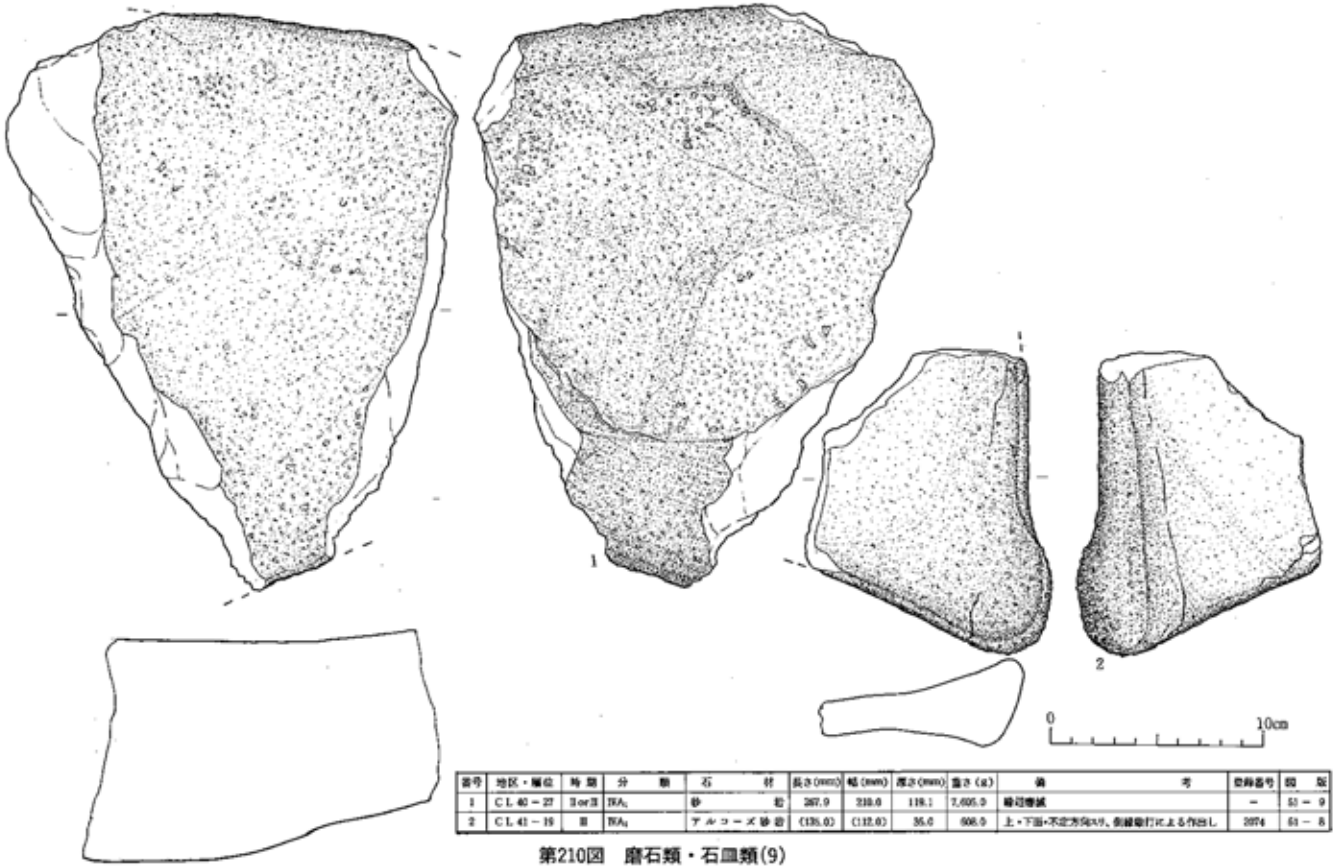
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 41－19	Ⅱ	IB_1+IIA_{1b}	粘板岩	78.6	46.4	20.0	79.0	上・下面右下り斜位線条痕	1351	50－15
2	CM 41－28	Ⅱ	IB_1+IIB_{1a}	砂岩	95.4	85.0	60.0	769.0	敲打痕右上り斜位	5805	50－16
3	CM 41－28	Ⅱ	IB_1+IIB_{1a}	砂岩	(62.5)	84.1	25.0	210.0	上下部破損	1927	50－17
4	CL 41－19	Ⅲ	IIA_{1b}	粘板岩	(40.1)	23.0	19.6	31.0		235	50－18
5	CL 39－37	Ⅲ	IB_1+IIB_{1a}	砂岩	105.4	87.0	39.0	540.0		5860	51－1

第208図　磨石類・石皿類(7)



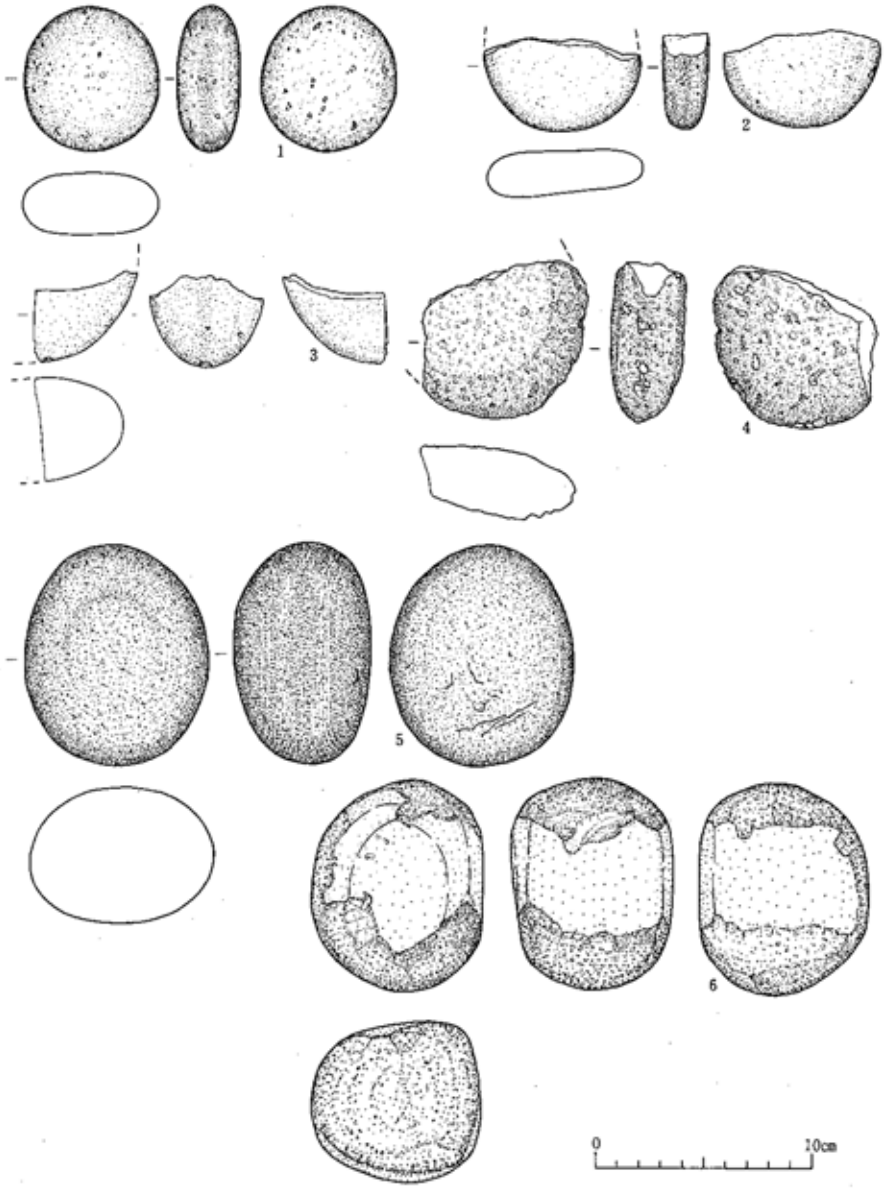
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－37	Ⅲ	ⅡA₁・B₁b	花崗閃緑岩	(128.9)	58.7	35.6	462.0	上部破損、下端敲打	1801	51－2
2	CL 39－37	Ⅲ	ⅡA₂・B₁b	石英安山岩質凝灰岩	125.8	52.5	32.4	352.0	下部左側面にも敲打	1800	51－3
3	CL 39－37	Ⅲ	ⅢC	砂質凝灰岩	(101.6)	68.7	37.3	458.0		2094	51－4
4	CM 39－36	Ⅲ	VA	砂岩	88.5	45.0	19.6	132.0		5791	51－5
5	CL 39－37	Ⅲ	VA	砂岩	(95.0)	71.0	40.0	474.0	研磨方向不明	1727	51－6
6	CL 39－37	Ⅲ	ⅣA₁	安山岩	(104.4)	77.6	36.0	353.0	上・下面縦位線条痕、側縁敲打による作り出し	5817	51－7

第209図　磨石類・石皿類(8)



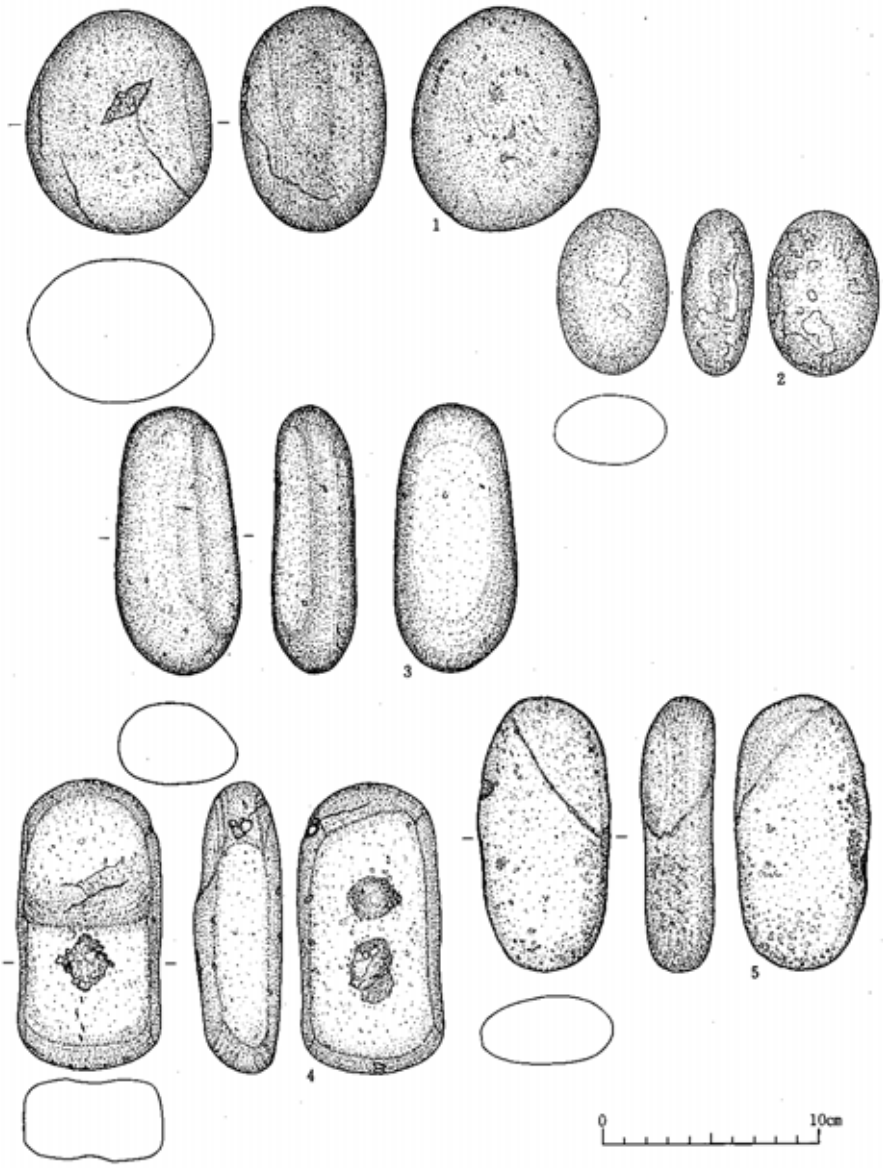
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－27	Ⅱ or Ⅲ	IVA_1	砂岩	267.9	210.0	119.1	7,605.0	線辺磨滅	－	51－9
2	CL 41－19	Ⅲ	IVA_1	アルコーズ砂岩	(135.0)	(112.0)	35.0	608.0	上・下面・不定方向スリ、側縁敲打による作出し	2074	51－8

第210図　磨石類・石皿類(9)



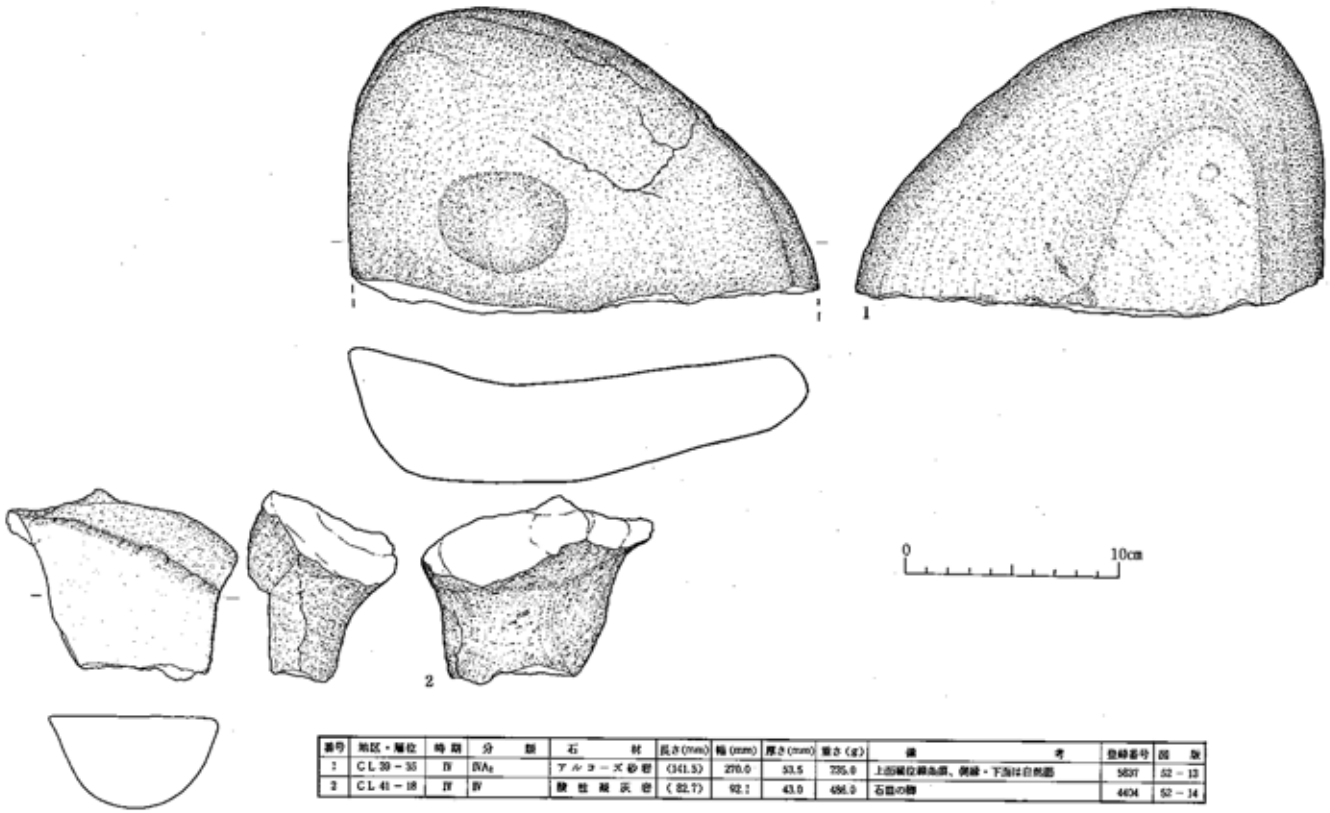
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 41－17	Ⅳ	IB_{1a}	安山岩	67.0	62.5	38.5	180.0		4405	52－1
2	CL 41－18	Ⅳ	IB_{2a}	安山岩～粉岩	(43.7)	71.4	20.8	102.0		5856	52－2
3	CL 40－26	Ⅳ	IB_{1a}	砂岩	(41.8)	(44.3)	43.1	88.0		3006	52－3
4	CL 39－36	Ⅳ	IB_{1a}	安山岩質凝灰岩	(74.5)	(74.1)	80.0	230.0	表面多孔質	1895	52－4
5	CM 41－27	Ⅳ	IB_{2a}	石英関緑岩	102.0	84.6	63.0	819.0	下面のみ研磨	2019	52－5
6	CL 41－18	Ⅳ	IB_4+IIA_{1a}	砂岩	65.0	52.7	5.0	251.0	敷打面顕著	5839	52－6

第211図　磨石類・石皿類(10)



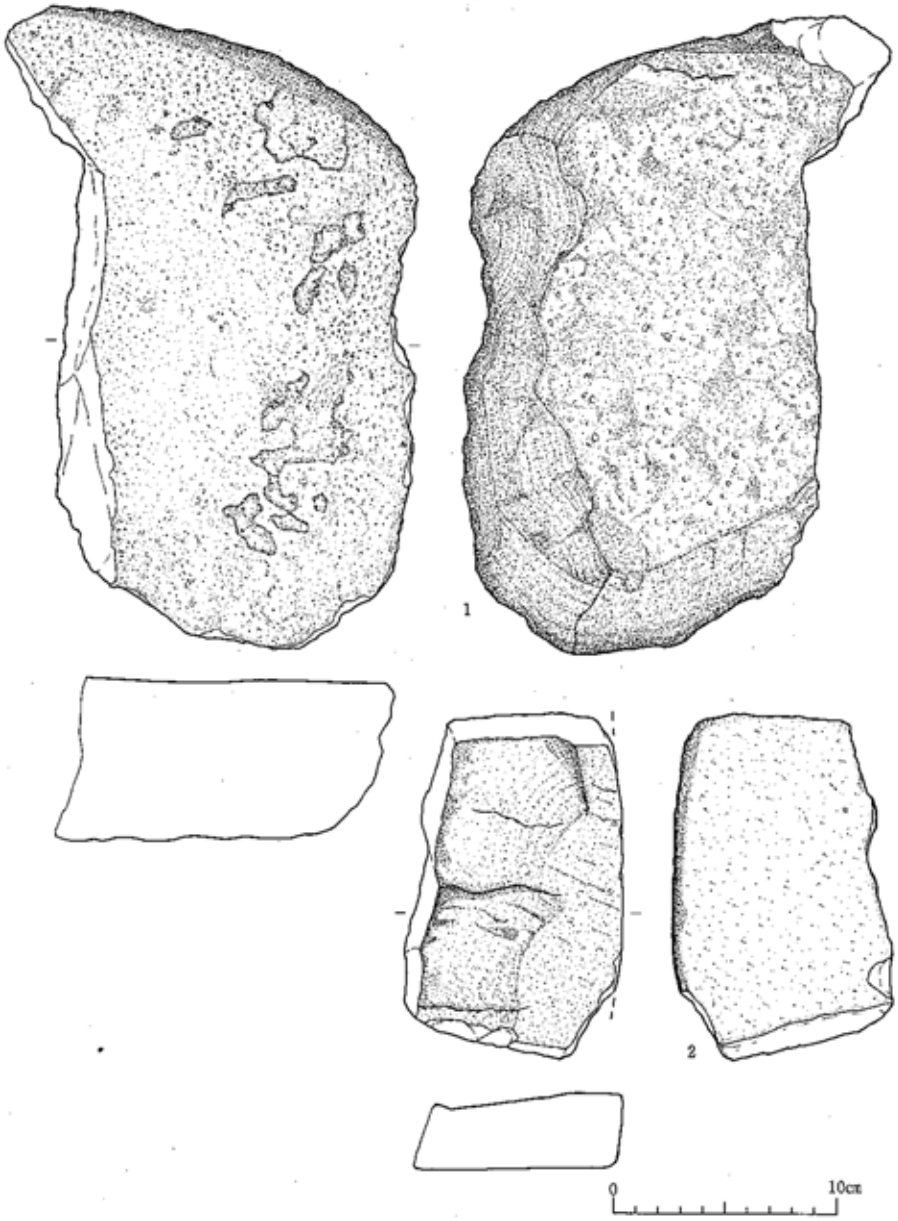
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－35	Ⅳ	ⅠB_{1a}+ⅡB_{1a}	粉岩	104.2	65.0	51.2	900.0	上部右上り敷打痕	5804	52－7
2	CL 39－35	Ⅳ	ⅡA_{2a}	閃緑砂岩	76.3	50.7	32.2	172.0		2003	52－8
3	CL 40－25	Ⅴ	ⅡA_{1b}	砂岩	126.0	56.4	37.8	406.0	下端部に敷打痕	5859	52－9
4	CL 41－18	Ⅳ	ⅡA_{1}・B_{1b}	砂岩	134.4	65.1	380.0	580.0		5800	52－10
5	CL 40－2125	Ⅴ	ⅡA_{1b}	砂岩	124.0	56.4	37.8	406.0	下端やや右よりに敷打痕	6136	52－11

第212図　磨石類・石皿類(11)



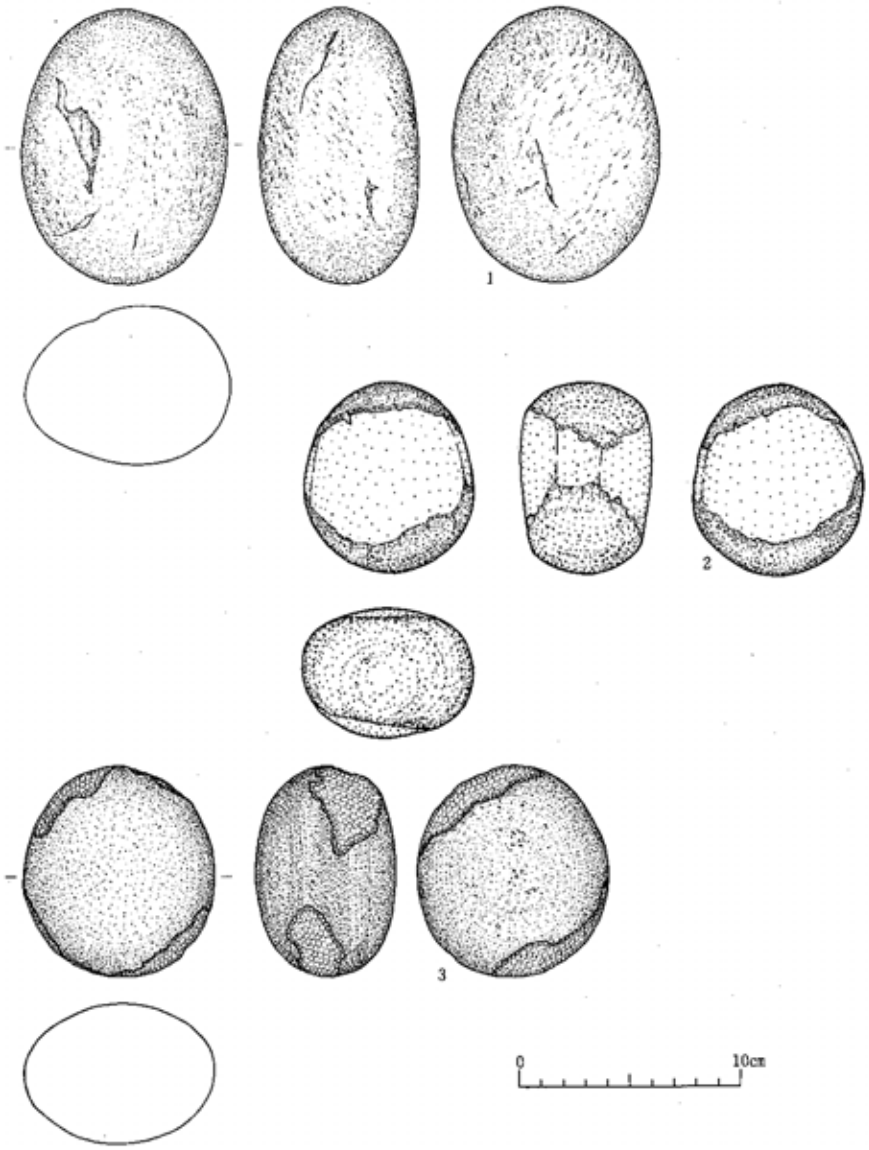
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－35	Ⅳ	IVA_2	アルコーズ砂岩	(141.5)	270.0	53.5	735.0	上面縁位線曲面、側縁・下面は自然面	5837	52－13
2	CL 41－18	Ⅳ	Ⅳ	酸性凝灰岩	(82.7)	92.1	43.0	486.0	石皿の脚	4404	52－14

第213図　磨石類・石皿類(12)



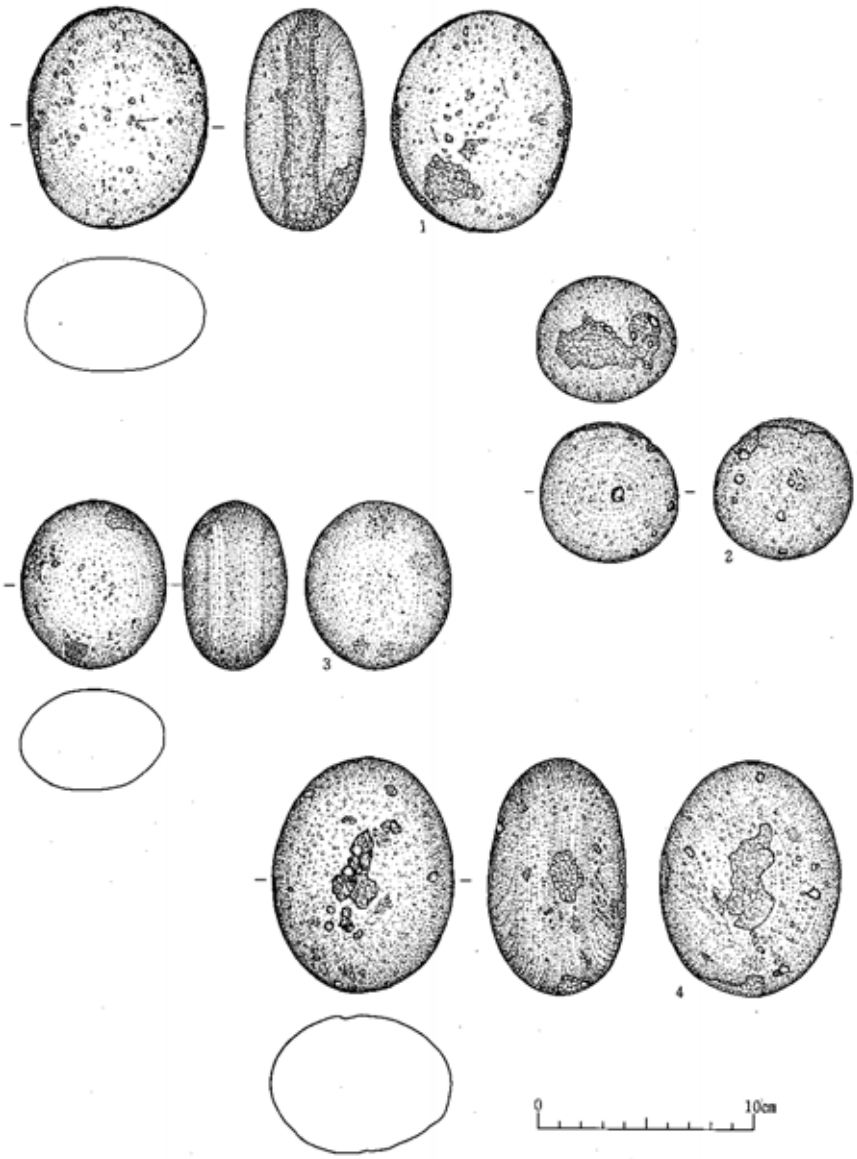
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL39～北36	Ⅳ	VA	安山岩	268.4	150.0	71.3	5,900.0	上面、帯状線条痕、側縁敲打	5872	52－15
2	CL39～北36	Ⅳ	VA	凝灰質砂岩	(153.1)	(96.5)	34.0	910.0	上面全体やや左上りの凹あり、下面不定方向研磨	5871	52－12

第214図　磨石類・石皿類(13)



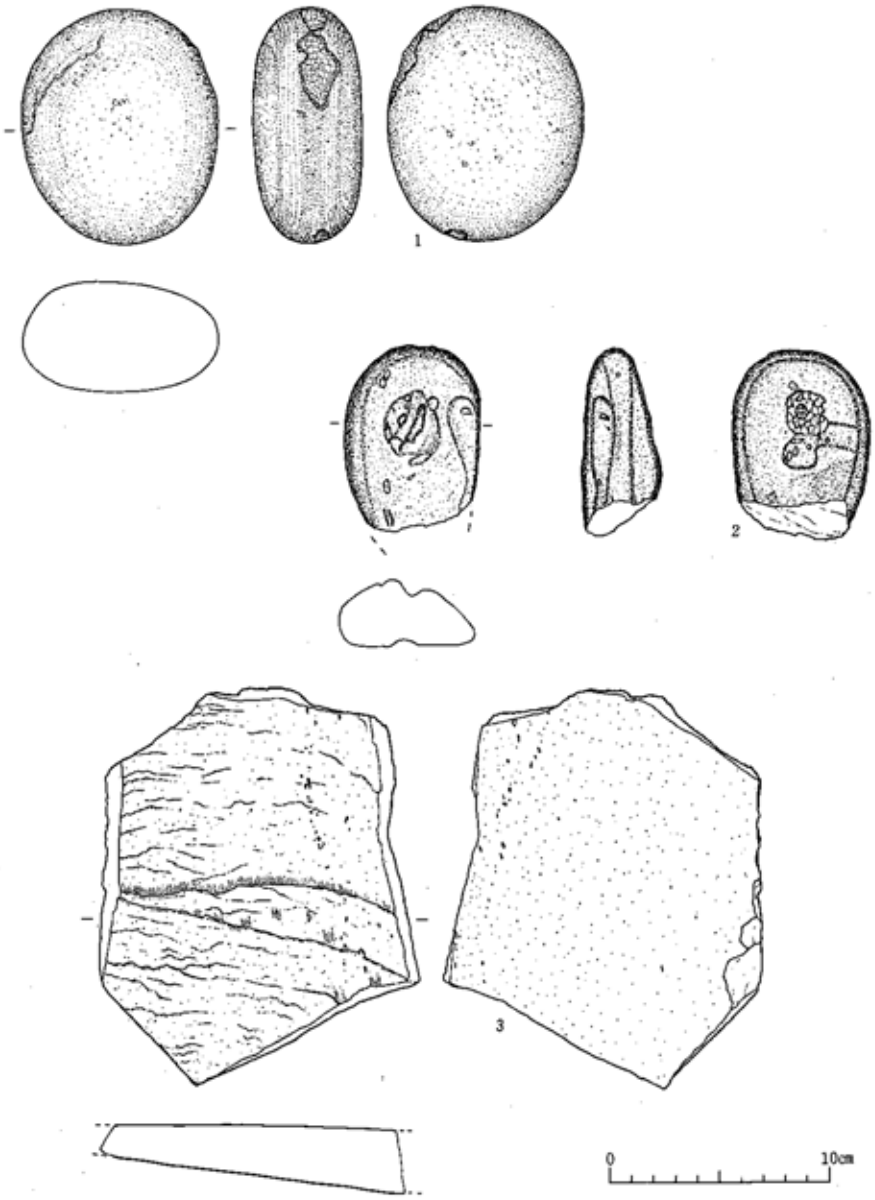
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－24	V	$1B_{2a}$	珍岩	124.0	99.0	71.1	1,233.0	やや左上りの硬位線条痕	2084	53－1
2	CM 41－26	V	$3A_{1a}$	砂岩	67.0	51.0	39.4	178.0		2078	53－2
3	CL 41－16	V	$1B_2+3A_{1a}$	細粒はんれい岩～泉岩	95.0	63.4	85.6	818.0	やや左上りの横位線条痕、周縁部・大部分敲打	1194	53－3

第215図　磨石類・石皿類(14)



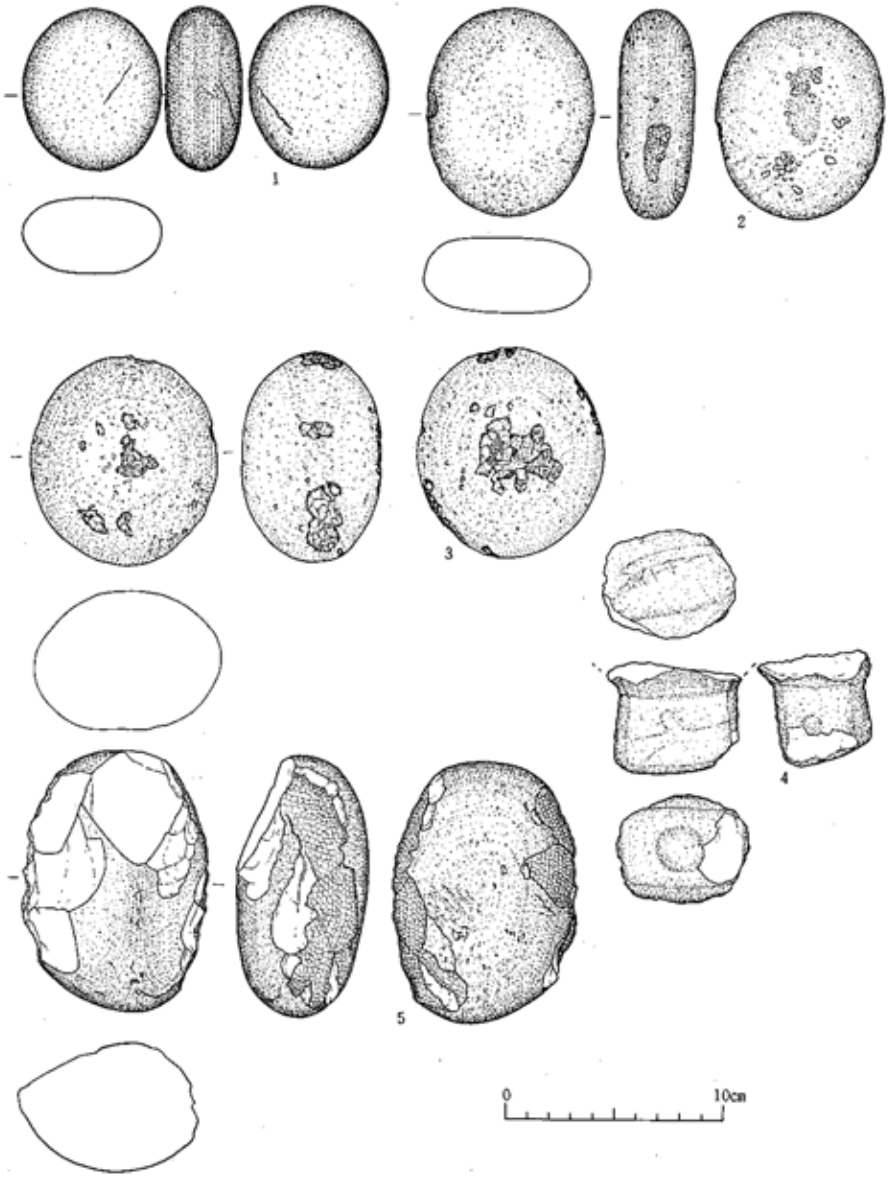
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM41－26	V	$IB_{0.1}+IIA_{1.2}B_{0.4}$	輝緑岩～玄武岩	102.7	82.3	52.2	741.0	周縁部大部分取行	6102	53－4
2	CM41－24	V	$IIA_{1.4}$	砂質凝灰岩	65.0	64.0	58.2	349.0		3748	53－5
3	CM41－26	V	$IIA_{0.4}$	凝灰質砂岩	71.5	62.0	48.0	250.0		2079	53－6
4	CM41－24	V	$IIA_{0}\cdot B_{0.4}$	アプライト	84.0	83.2	53.7	772.0		3747	53－7

第216図　磨石類・石皿類(15)



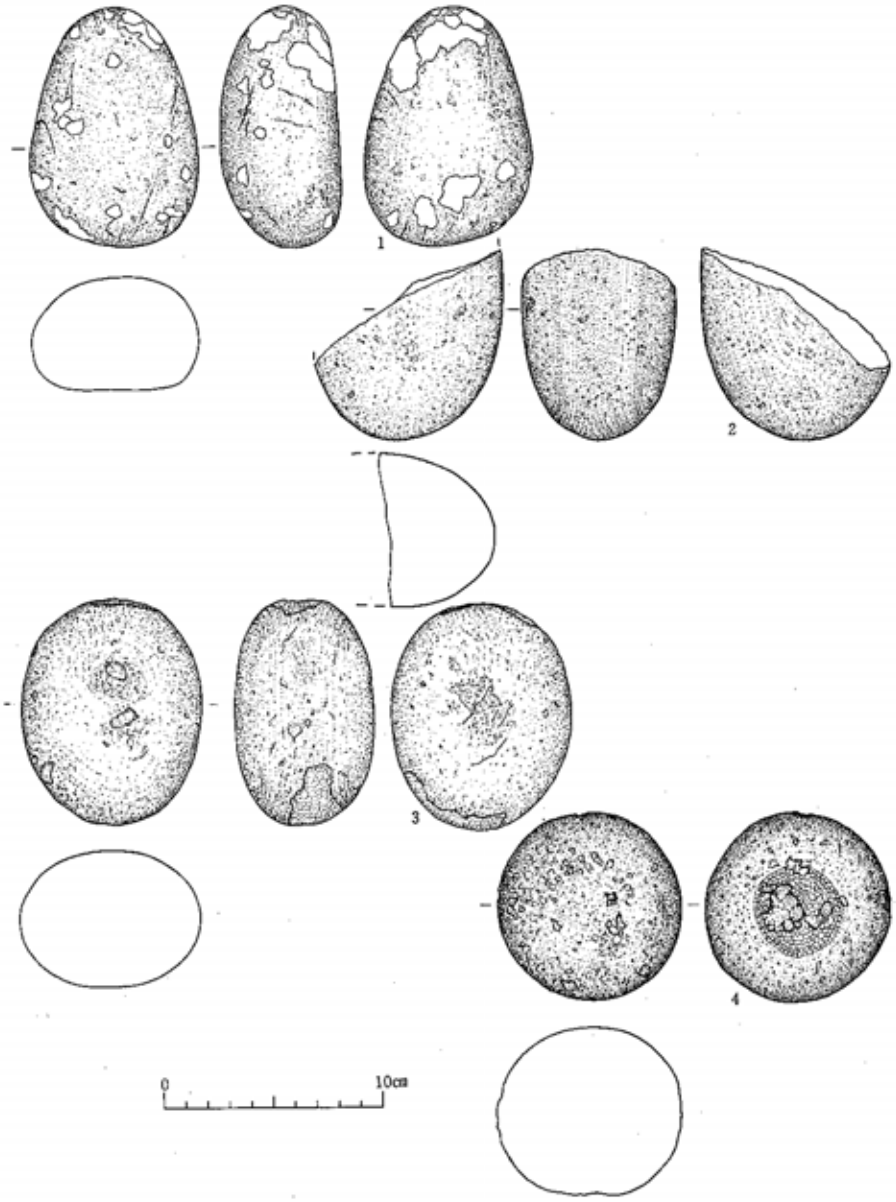
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 39－31	V	IIA$_{1-2a}$	砂岩	107.0	88.5	49.1	705.0		5850	53－8
2	CL 40－24	V	IIBb	砂岩（凝灰質）	(83.2)	62.2	30.0	200.0		211	53－9
3	CL 40－24	V	VA	砂岩	(178.1)	(143.2)	28.8	1,025.0	上部層位線為底	5853	53－10

第217図　磨石類・石皿類(16)



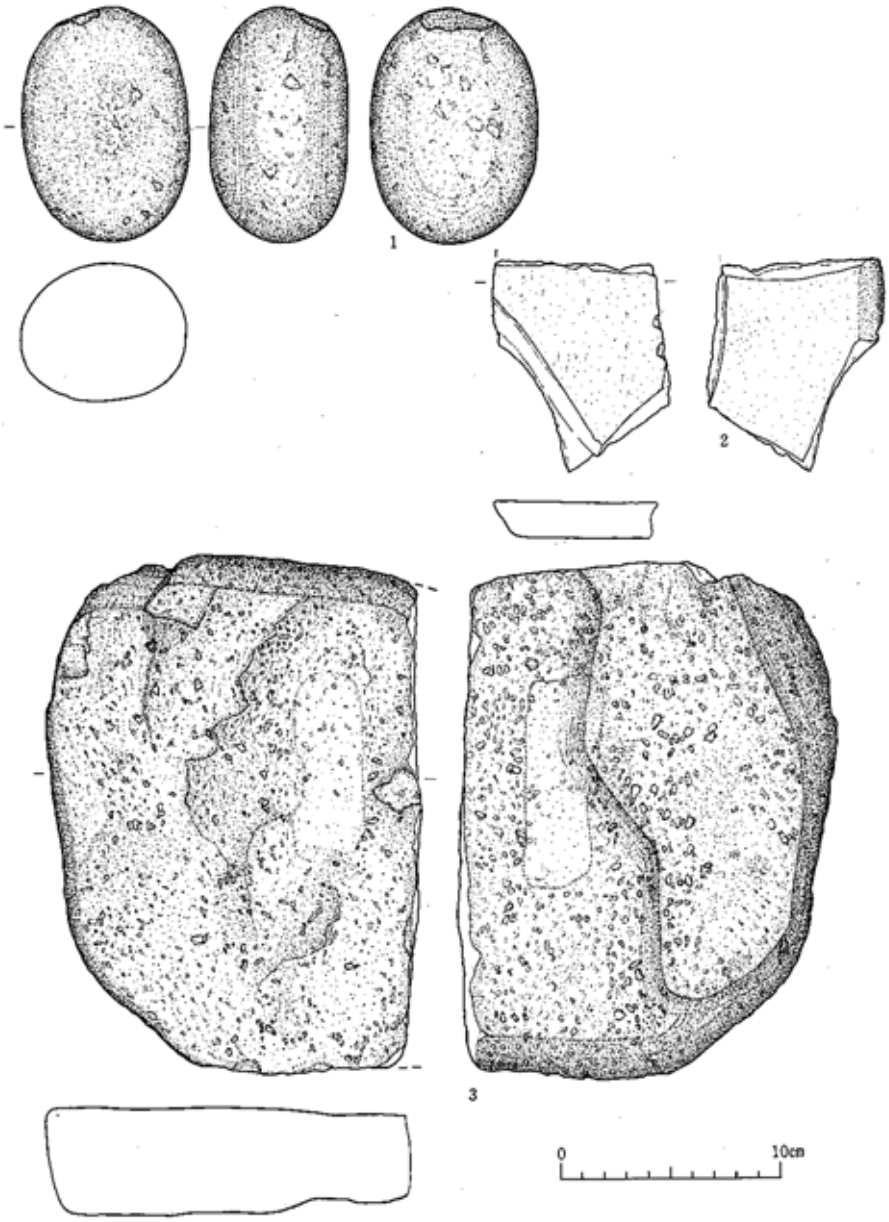
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL39−29c	Ⅵ	ⅠB_{1a}	砂岩	74.5	63.5	35.1	252.0		5870	53−11
2	CL39−30	Ⅵ	ⅡA_2・B_{2a}	凝灰質砂岩	90.5	71.4	35.0	372.0		2071	53−12
3	CL41−14	Ⅵ	ⅡA_2・B_{2a}	粉岩	95.9	85.6	63.7	788.0		2060	53−13
4	CL41−12	Ⅵ	Ⅲ+Ⅳ	凝灰質砂岩	51.0	55.4	49.5	144.0	石皿脚部	4406	53−14
5	CL39−29d	Ⅵ	ⅠB_3+ⅡA_{2a}	粘板岩	120.0	83.9	59.0	800.0	研磨→線辺剥離→敲き	5841	53−15

第218図　磨石類・石皿類(17)



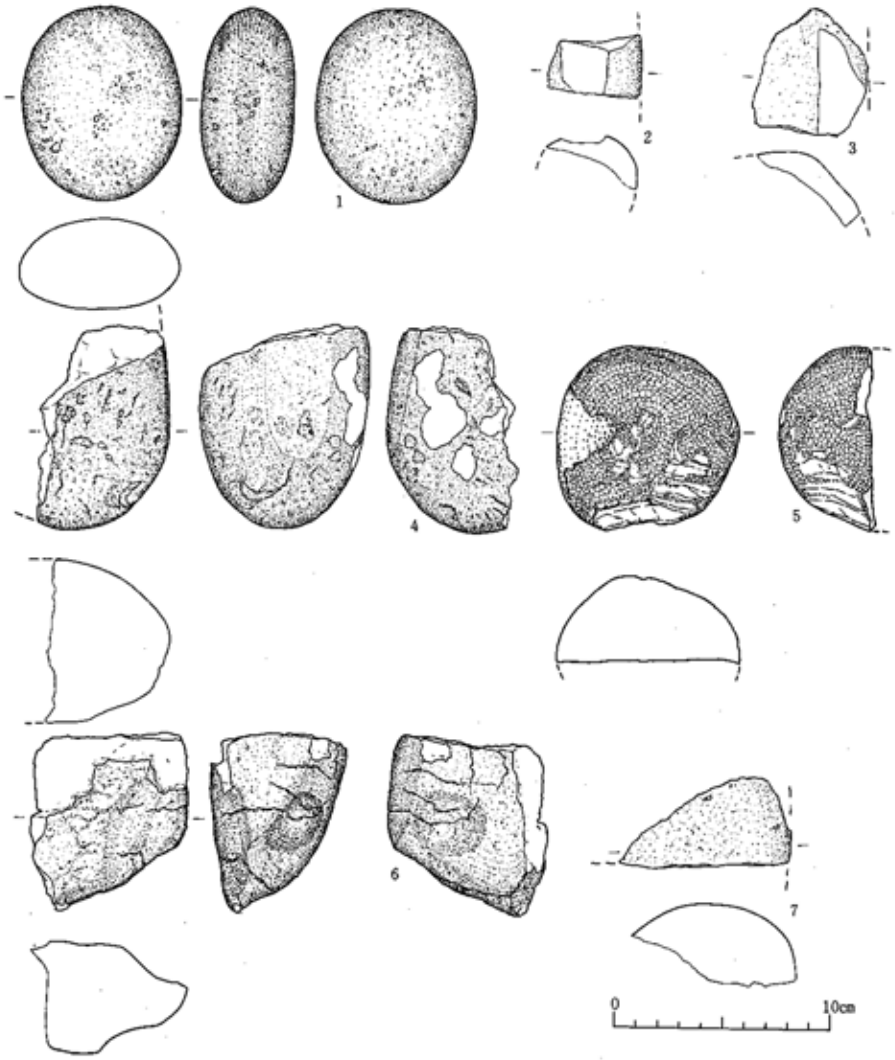
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM40－6	Ⅷ	ⅠA$_{1a}$	閃緑斑岩	110.0	76.5	51.7	662.0	下面のみ研磨、右上り斜位線条痕	1938	53－16
2	CL40－17・18	Ⅷ	ⅠB$_{2a}$	石英斑岩	(87.2)	80.0	70.0	562.0		2031	53－17
3	CM40－6	Ⅷ	ⅠB$_2$＋ⅡA$_1$＋B$_{2a}$	閃緑岩	104.7	82.2	62.7	815.0		2047	54－1
4	CL39－27	Ⅷ	ⅡB$_{2a}$	石英閃緑岩	88.7	83.0	72.6	808.0		2049	54－2

第219図　磨石類・石皿類(18)



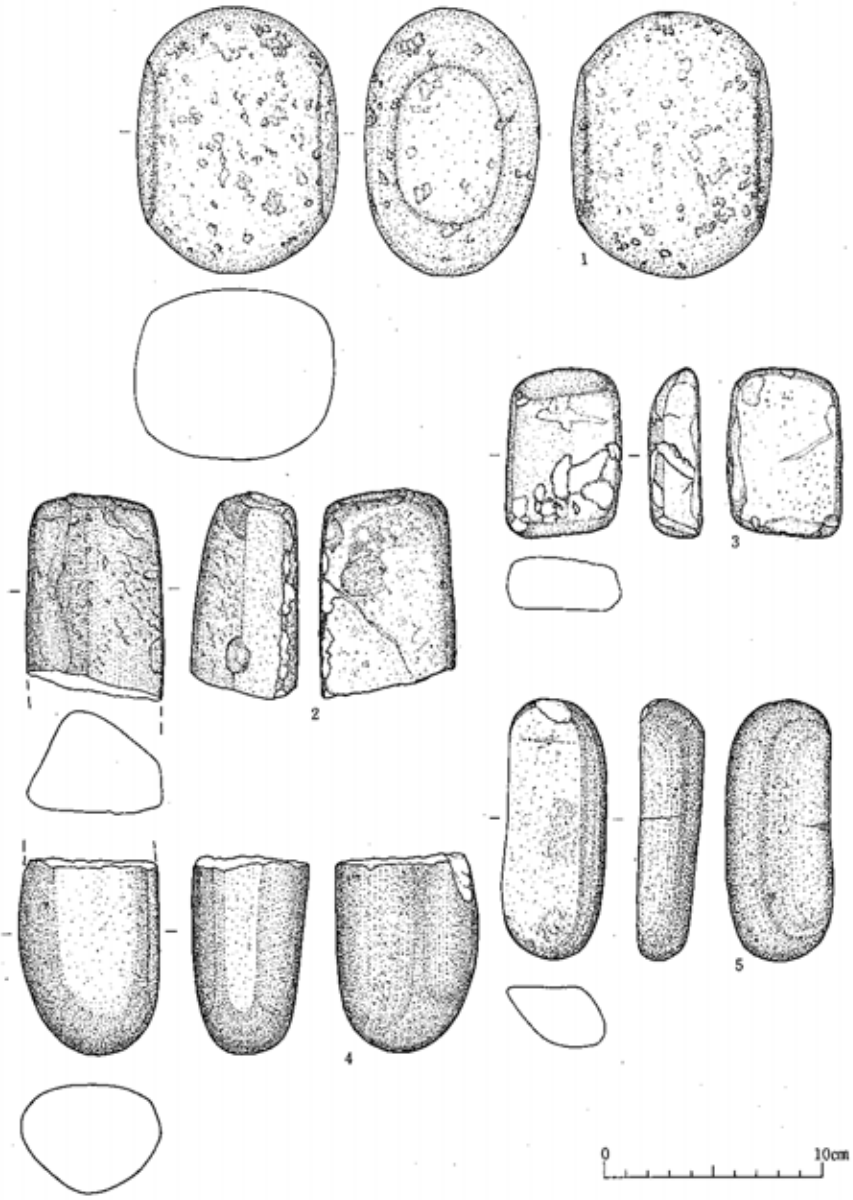
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 41－18	第	IIA$_{1a}$	花崗閃緑岩	106.4	75.0	62.6	754.0		5840	54－3
2	CM 41－20	第	VA	砂質粘板岩	(94.2)	(74.7)	16.8	189.0	研磨方向不明	5864	54－4
3	CL 41－10	第	VA	花崗閃緑岩	233.2	165.8	49.2	3,810.0	研磨方向不明	5851	54－5

第220図　磨石類・石皿類(19)



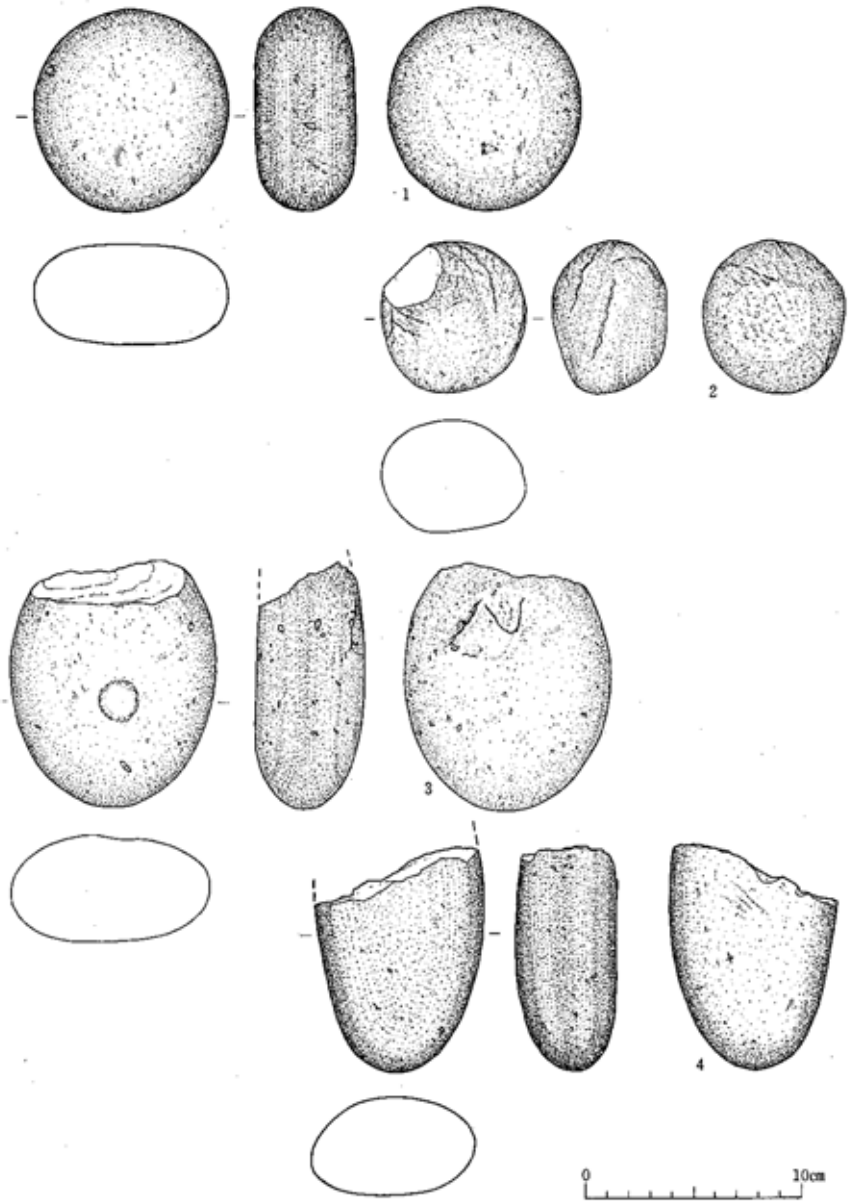
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 41 − 6	1	IB_{2a}	安山岩	90.8	73.5	42.4	455.0		3755	54 − 6
2	CL 39 − 22	1	IB_{2a}	砂質凝灰岩	(29.8)	(43.0)	(23.2)	34.0		1719	54 − 7
3	CL 39 − 11	1	IB_{2a}	安山岩	(57.6)	(49.5)	(12.4)	54.0		2015	54 − 8
4	CM41−11~13	1	IB_{1a}	安山岩質凝灰岩	(88.9)	(59.9)	75.3	634.0		1398	54 − 9
5	CM 41 − 15	1	IIA_{1a}	粘板岩	(56.2)	26.1	(56.0)	122.0		5588	54 − 10
6	CM 41 − 15	1	IB_1+IIA_{2a}	安山岩質凝灰岩	(82.1)	(72.0)	50.8	390.0		1925	54 − 11
7	CL 41 − 3	2	IB_{2a}	凝灰質砂岩	(40.7)	(78.5)	(46.7)	132.0		2062	54 − 12

第221図　磨石類・石皿類(20)



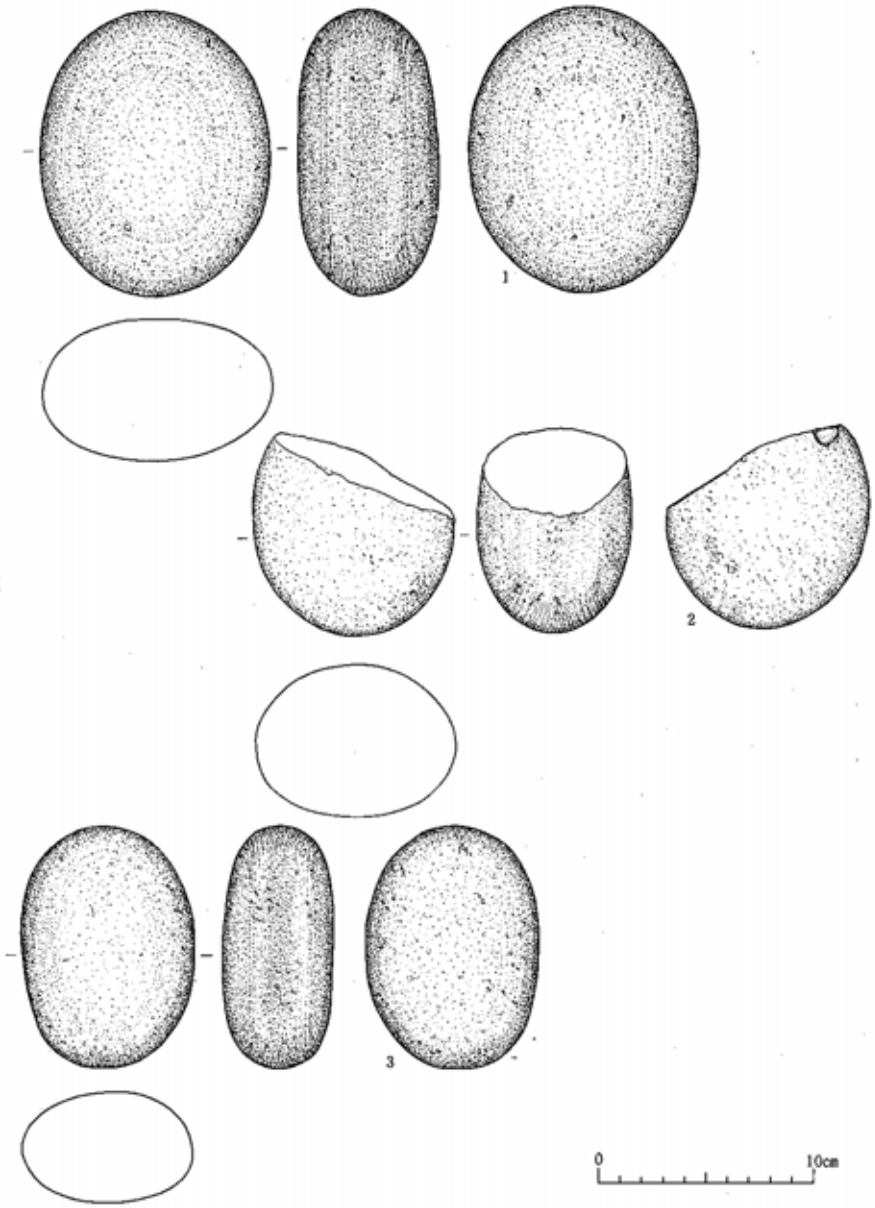
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DB 39－1	不明	IA_{1a}	花崗斑岩	122.0	8.0	77.6	144.0	周側線のみ減摩	3013	55－1
2	CN 45－12	不明	IA_{1b}	砂岩	(91.0)	49.0	45.6	4,180.0	右上面・右側面に縦位線条痕、下面は不定方向	1916	55－2
3	表採	不明	IA_{1b}	砂岩	76.0	23.5	23.0	156.0	下面に縦位線条痕	－	55－3
4	BD 52－2	不明	IA_{1b}	砂岩	(90.6)	64.2	50.0	455.0	右側面に縦位線条痕、上端破損	1863	55－4
5	CM・N45－廣	不明	IA_{1b}	砂質凝灰岩	120.0	45.2	28.0	221.0	上面、左下面に縦位線条痕、中央部に横位沈線	6432	55－5

第222図　磨石類・石皿類(21)



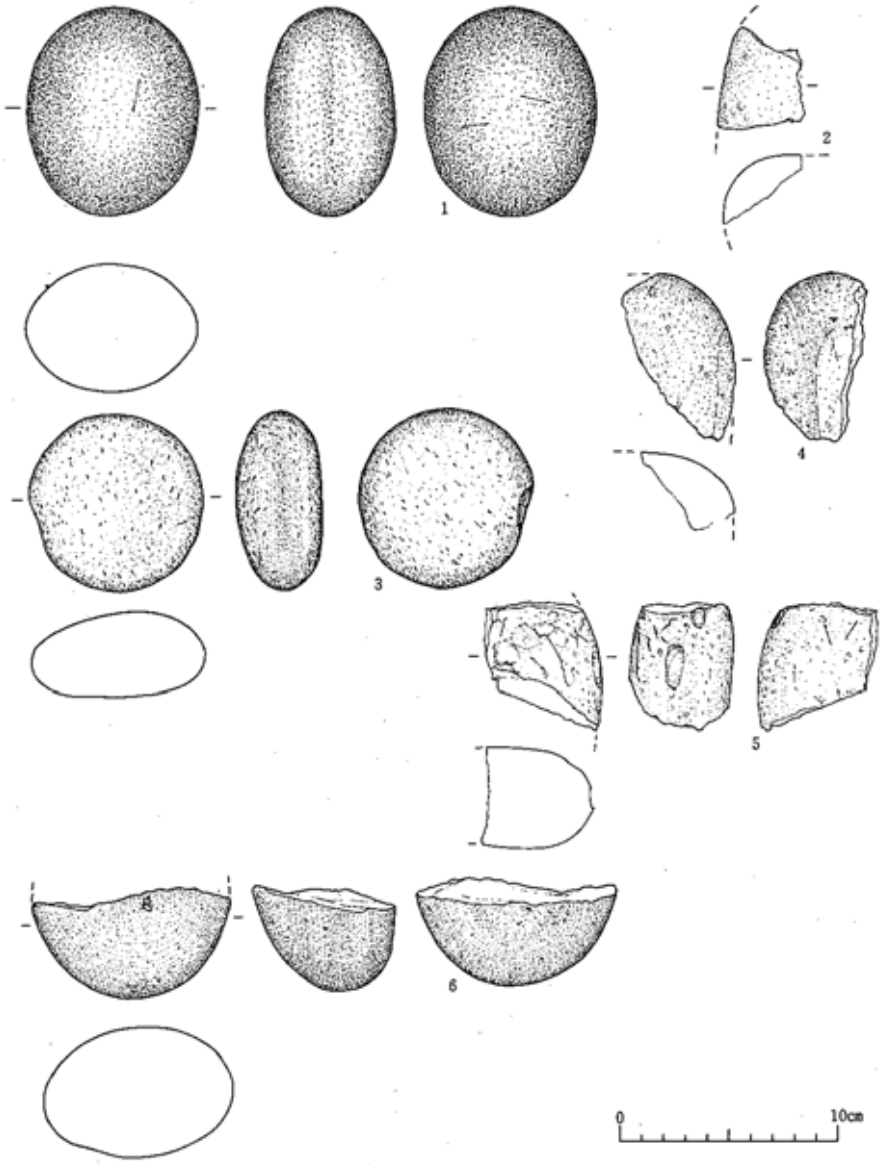
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BB 53－1	不明	IB_{0a}	閃緑地岩	94.0	81.2	46.4	620.0		6567	55－6
2	CD 41－第2溝	不明	IB_{0a}	粉岩～安山岩	79.0	65.0	51.5	363.0		5858	55－7
3	CM 42－8	不明	IB_{0a}	砂岩	(110.0)	94.5	49.1	813.0	上面は縦位線条痕、下面は不明	6084	55－8
4	CP 35－1	不明	IB_{0b}	砂質凝灰岩	(113.5)	72.1	45.2	492.0	下面のみ研磨	6472	55－9

第223図　磨石類・石皿類(22)



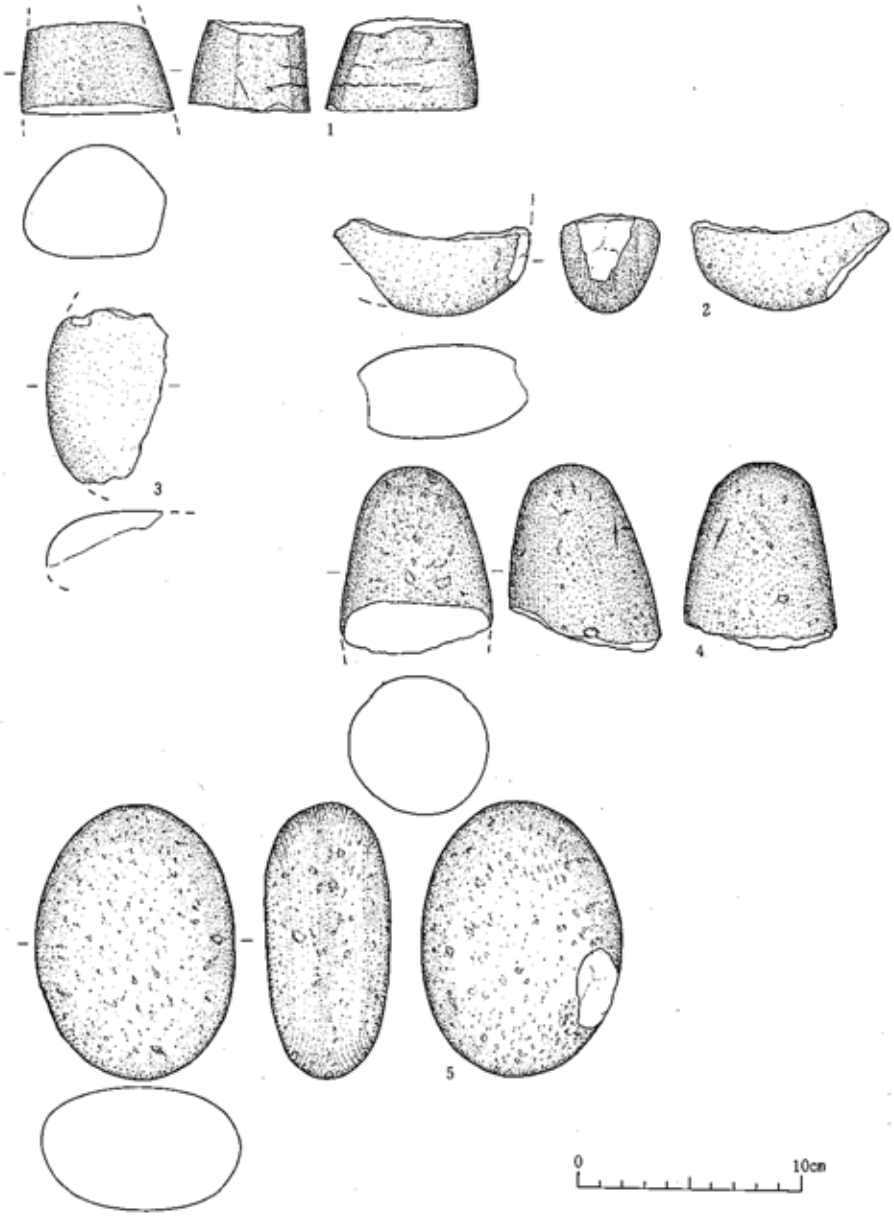
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CK39－8	不明	IB_{1a}	砂岩	133.0	105.9	65.5	1,369.0		5834	SS－10
2	CQ-CR44-廃	不明	IB_{1a}	石英安山岩	94.5	92.0	73.5	804.0	上縁磨滅、破面後泥明	2023	SS－11
3	CK40－6b	不明	IB_{1a}	鉄岩～安山岩	112.3	79.5	51.5	715.0		5869	SS－12

第224図　磨石類・石皿類(23)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 42－11	不明	IB_{2a}	砂岩	96.0	78.5	58.7	620.0		－	55－13
2	BN 60－2	不明	IB_{2a}	安山岩	(45.5)	39.9	16.9	49.0		1828	55－14
3	CM 43－2	不明	IB_{2a}	砂岩	82.4	79.8	38.5	370.0		－	55－15
4	CL 38－15	不明	IB_{2a}	閃緑岩	(78.0)	(43.5)	23.8	120.0		5848	55－16
5	CL 42－3～6	不明	IB_{2a}	砂岩	(56.0)	(52.1)	44.7	205.0		2007	55－17
6	DF 31－4	不明	IB_{2a}	砂岩	(46.8)	90.6	59.6	313.0	上面のみ研磨	5826	55－18

第225図　磨石類・石皿類(24)

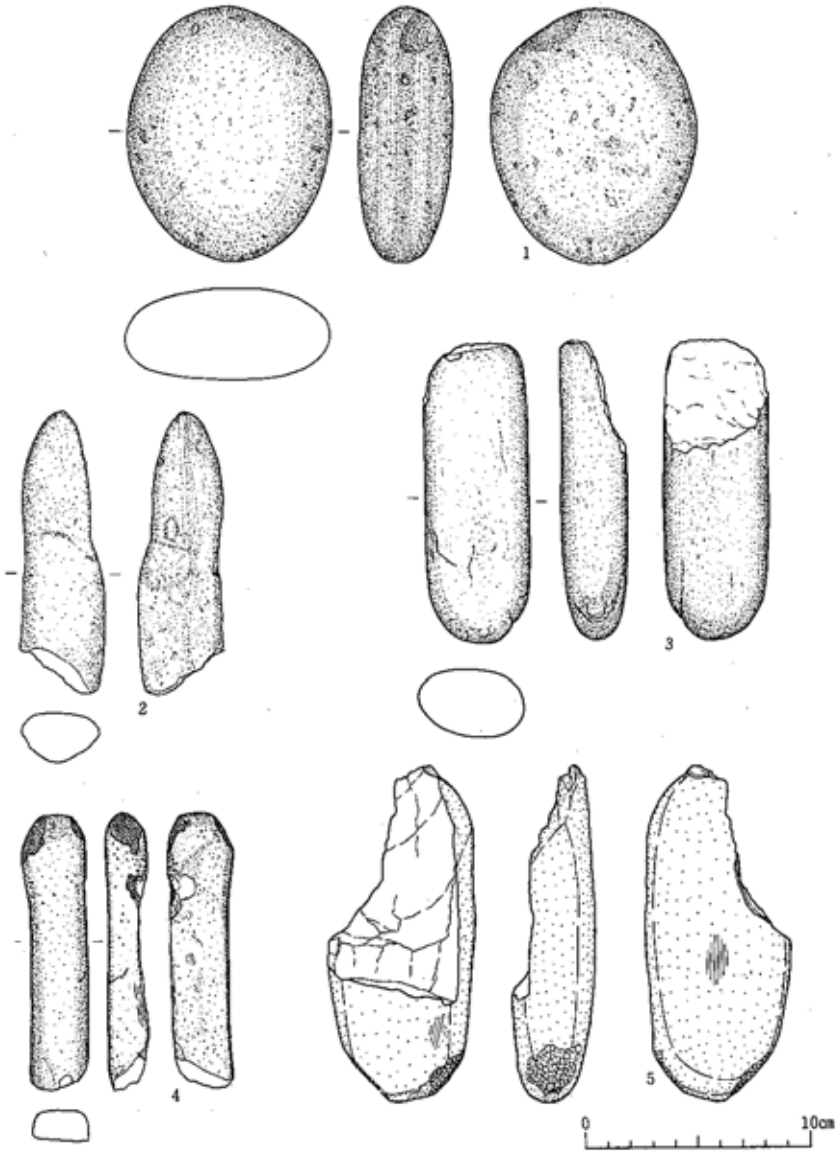


番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CK40－6b	不明	IA1a	砂岩	(39.8)	67.9	56.5	210.0	石上部のみ研磨	1913	56－1
2	CM42－12	不明	IB1a	安山岩	(44.1)	(81.8)	41.5	192.0		5821	56－2
3	表採	不明	IB1a	輝石質砂岩	(72.1)	(51.9)	14.0	90.0		2142	56－3
4	CP34－1	不明	IB1a	砂岩(凝灰質)	(63.8)	67.2	61.7	440.0	先端部磨滅	1922	56－4
5	BC53－1	不明	IB4a	安山岩	123.9	89.6	55.4	922.0		2112	56－5

第226図　磨石類・石皿類(25)

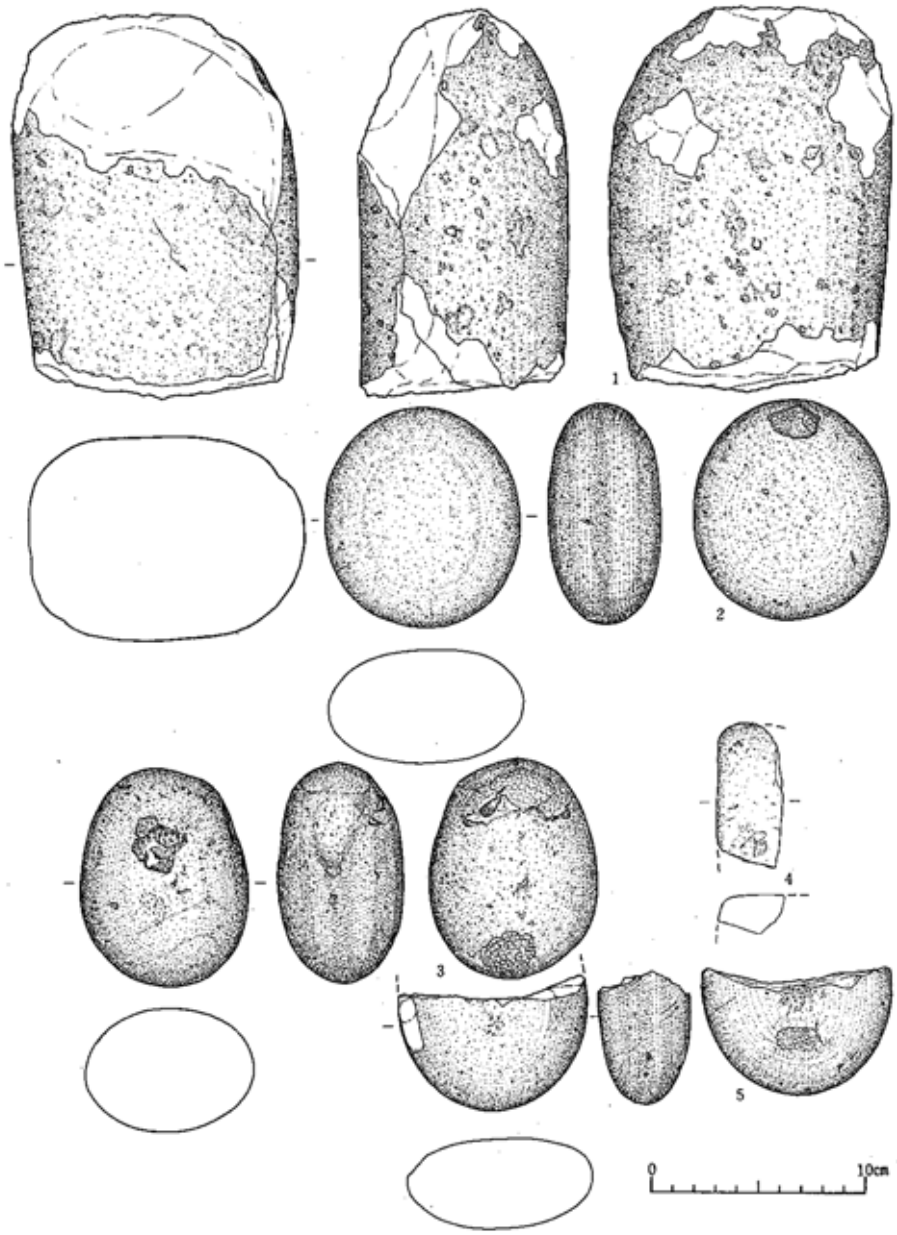
図番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	AS 63－1	不明	IBa₁	砂岩	(49.7)	(79.1)	33.6	229.0		6026	56－6
2	CM 42－1	不明	IBa₁	安山岩	(130.0)	(30.4)	17.5	159.0		1863	56－7
3	CQ 35－2	不明	IBa₁	安山岩	(48.6)	(49.4)	45.0	125.0		2055	56－8
4	BE 55－1	不明	IBa₁	安山岩	(48.4)	(48.7)	22.5	68.0		6035	56－9
5	BC 47－2	不明	IBa₁	安山岩	(55.8)	(44.2)	14.9	58.0		6036	56－10
6	CM 39－2	不明	IBa₁	安山岩	(53.6)	(30.5)	6.4	22.0		6069	56－11
7	CM 42－12	不明	IBa₁	粘板岩	(91.7)	33.6	(11.8)	54.0		1045	56－12
8	BN 60－2	不明	IBa₁	安山岩	(71.2)	(60.0)	(34.9)	225.0		2127	56－13
9	CM 42－第1	不明	IBa₁	閃緑斑岩	(95.6)	58.8	(38.0)	391.0		1695	56－14

第227図　磨石類・石皿類(26)



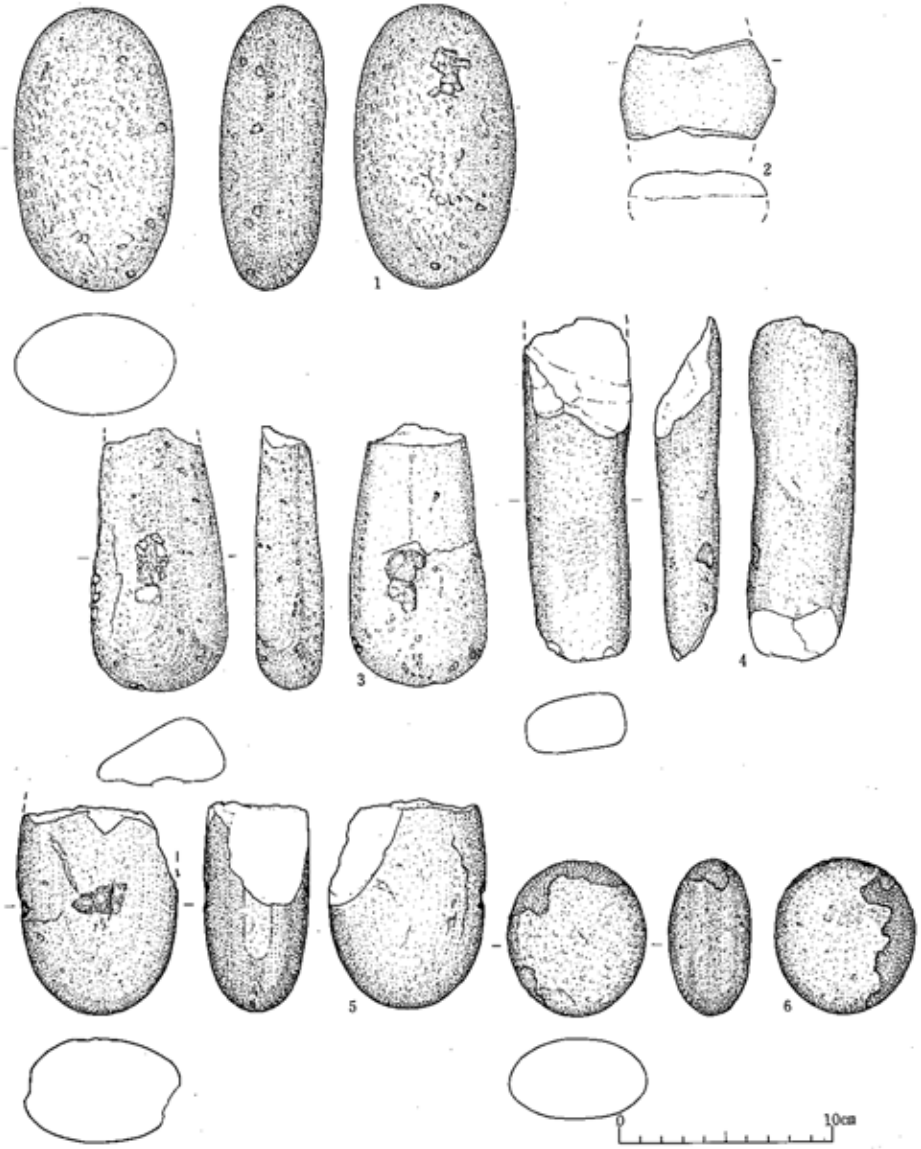
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 48－3	Ⅲ	ⅢA1a	安山岩～頁岩	114.0	90.5	29.1	638.0	下端部のみ敲打	1889	56－15
2	CM 42－1	不明	ⅢA1b	粘板岩	(120.0)	37.5	22.0	146.0		1882	56－16
3	CM 42－11	不明	ⅢA1b	粘板岩	133.7	45.8	29.7	300.0		2075	56－17
4	CM 42－12	不明	ⅢA1b	粘板岩	(122.4)	28.0	8.5	105.0		1644	56－18
5	CM-N43-溝	不明	ⅢA1b	粘板岩	(98.7)	17.8	43.0	96.0		1720	56－19

第228図　磨石類・石皿類(27)



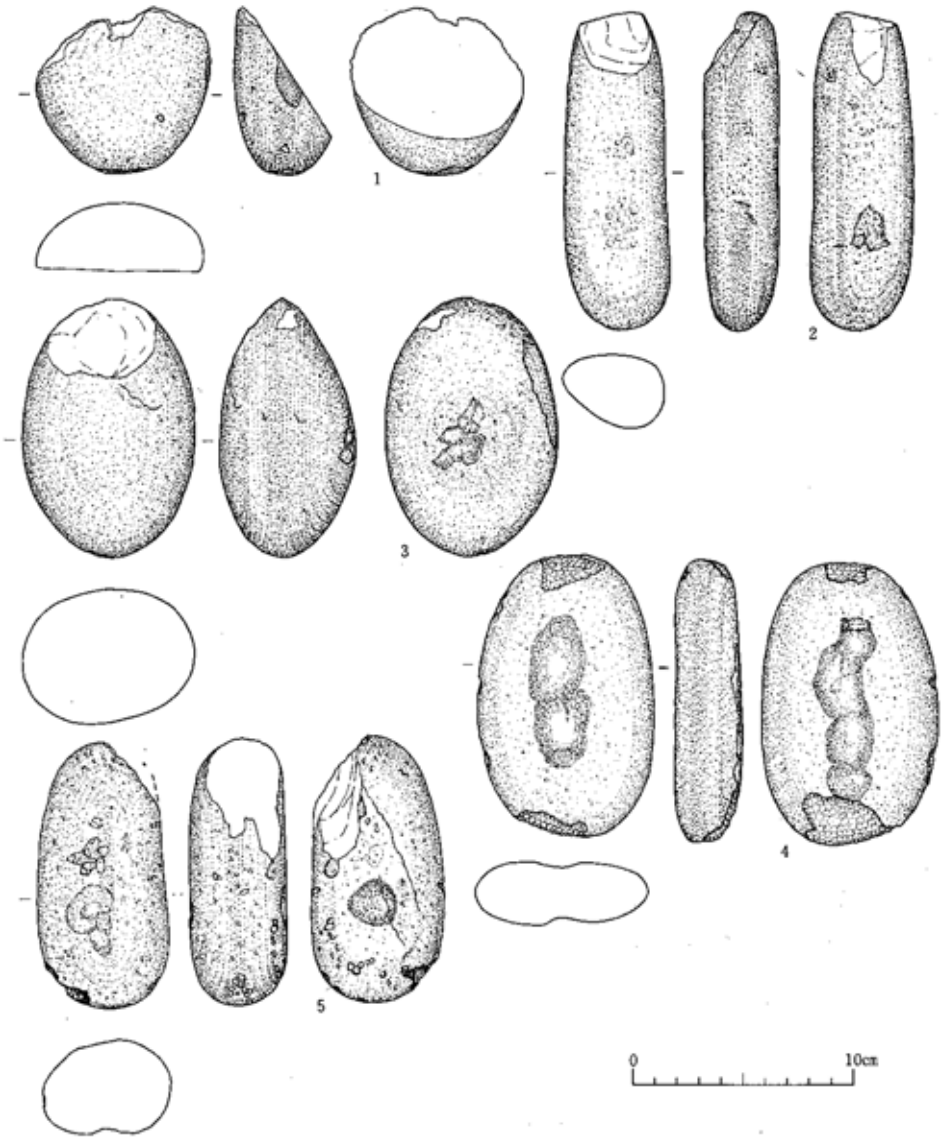
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 40－7	不明	ⅡA$_{1a}$	花崗閃緑斑岩	(179.6)	128.5	94.0	3,820.0		2097	56－20
2	CM 42－12	不明	ⅡB$_{1a}$	閃緑斑岩	103.5	90.5	52.5	755.0		5856	57－1
3	CK 39－8	不明	ⅡB$_{1a}$	珍岩	103.5	98.0	58.5	702.0		1915	57－2
4	AS 52－1	不明	ⅡB$_{1a}$	粘板岩	(65.2)	(31.0)	18.7	331.0		5771	57－3
5	CM 39－2	不明	ⅡB$_{1a}$	細粒砂岩	(61.9)	87.0	41.5	298.0		1919	57－4

第229図　磨石類・石皿類(28)



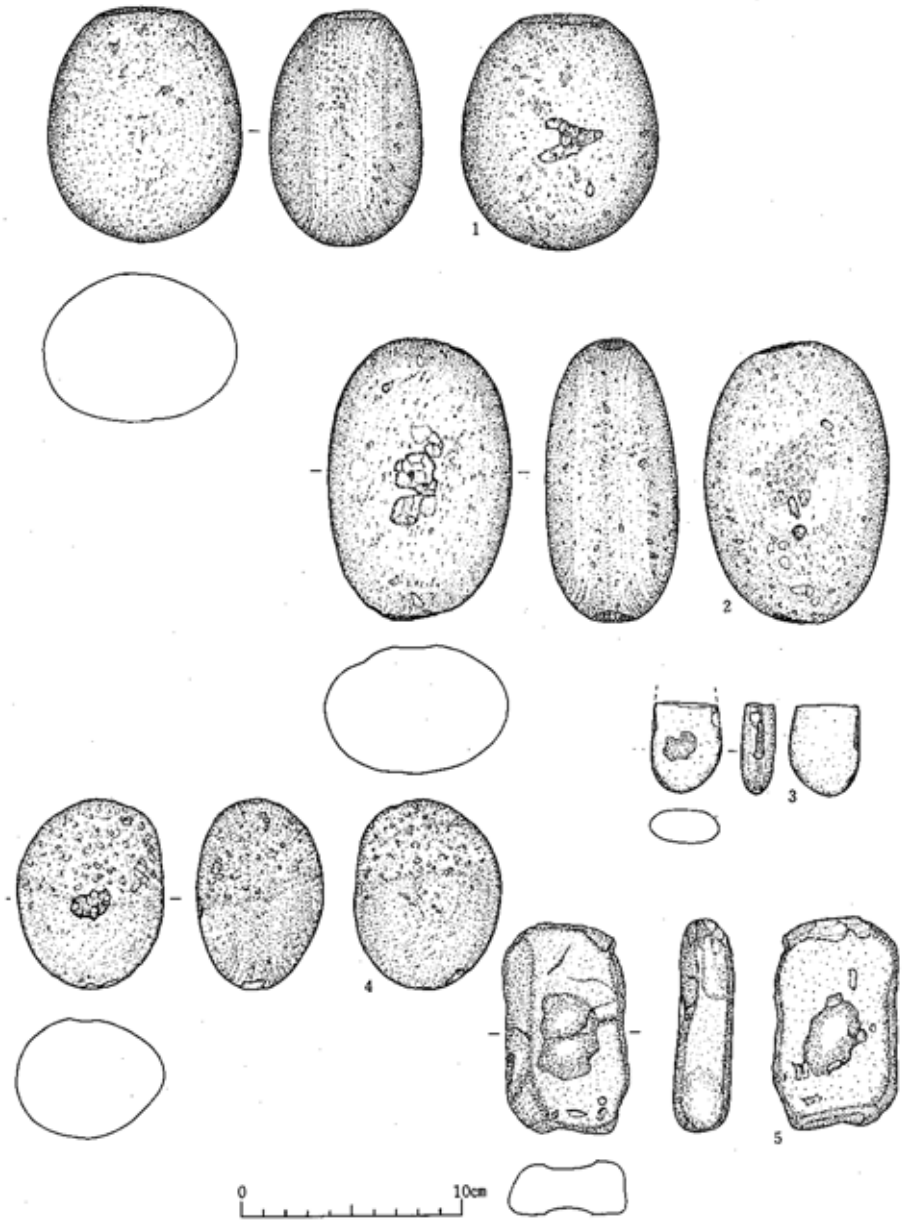
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BC 46－1	不明	IIB1a	砂岩	13.0	75.0	47.5	742.0		6024	57－5
2	CM 42－5	不明	IIB2a	凝灰質砂岩	(46.5)	(72.0)	(12.5)	70.0		1731	57－6
3	CM 45－溝	不明	IIB1b	砂岩	(123.4)	53.0	30.0	325.0		6429	57－7
4	CM 41－2	不明	IIB1b	粘板岩	(65.2)	31.0	18.7	57.0		6017	57－8
5	BB 53－1	不明	IIB2b	砂岩	(98.0)	74.5	59.0	499.0		6568	57－9
6	CM・N－溝	不明	IIA1-2a	閃緑岩	73.6	64.4	38.0	275.0		6436	56－21

第230図　磨石類・石皿類(29)



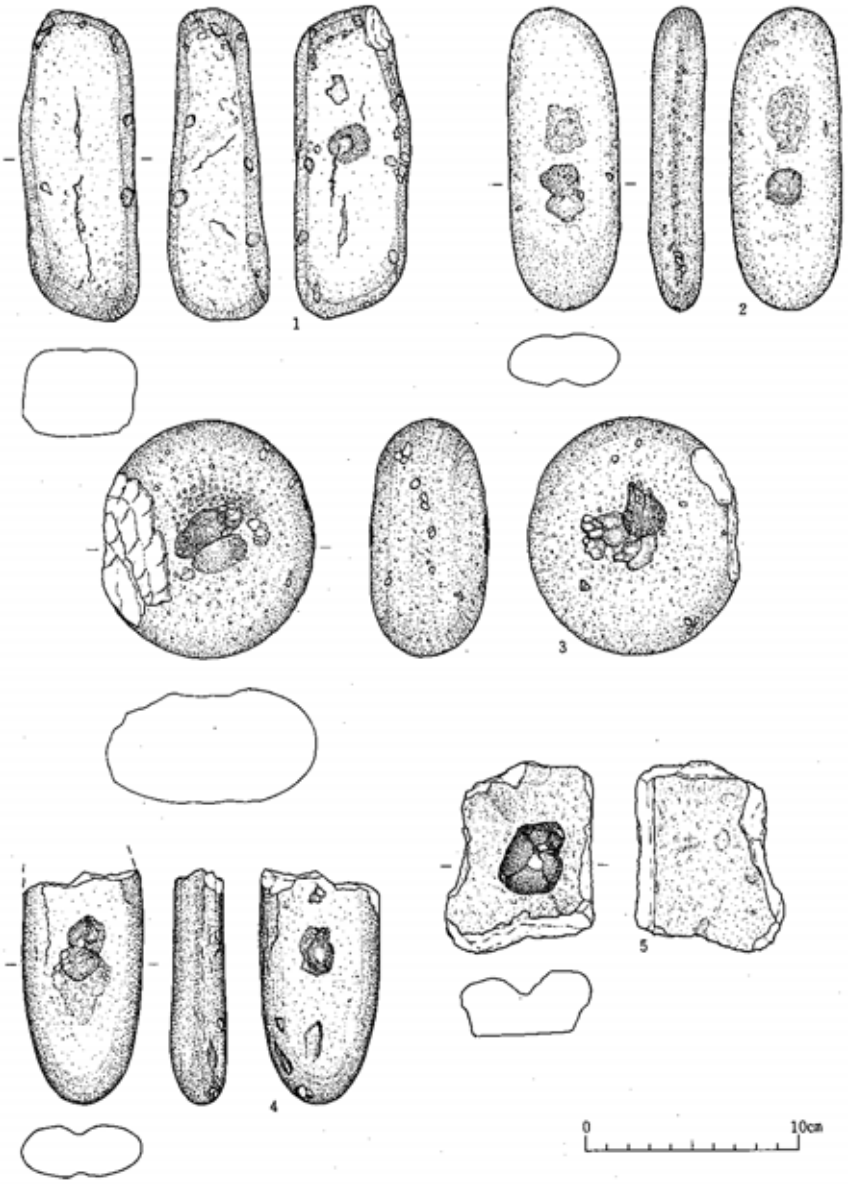
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CL 42－9	不明	ⅡA_{1-2a}	凝灰質砂岩	73.6	76.2	40.0	242.0	縁辺磨滅	6335	56－22
2	CM 42－11	不明	ⅡA_1・B_{1b}	砂岩(凝灰岩)	145.0	48.5	33.0	470.0		2091	57－10
3	CK 38－10	不明	Ⅱ	閃緑砂岩	118.0	78.5	60.5	755.0		5845	57－11
4	CQ・CR－溝	不明	Ⅱ	砂岩	128.2	80.0	29.1	498.0		1862	57－12
5	CQ 48－溝	不明	Ⅱ	砂岩	127.5	56.0	42.5	470.0		6019	57－13

第231図　磨石類・石皿類(30)



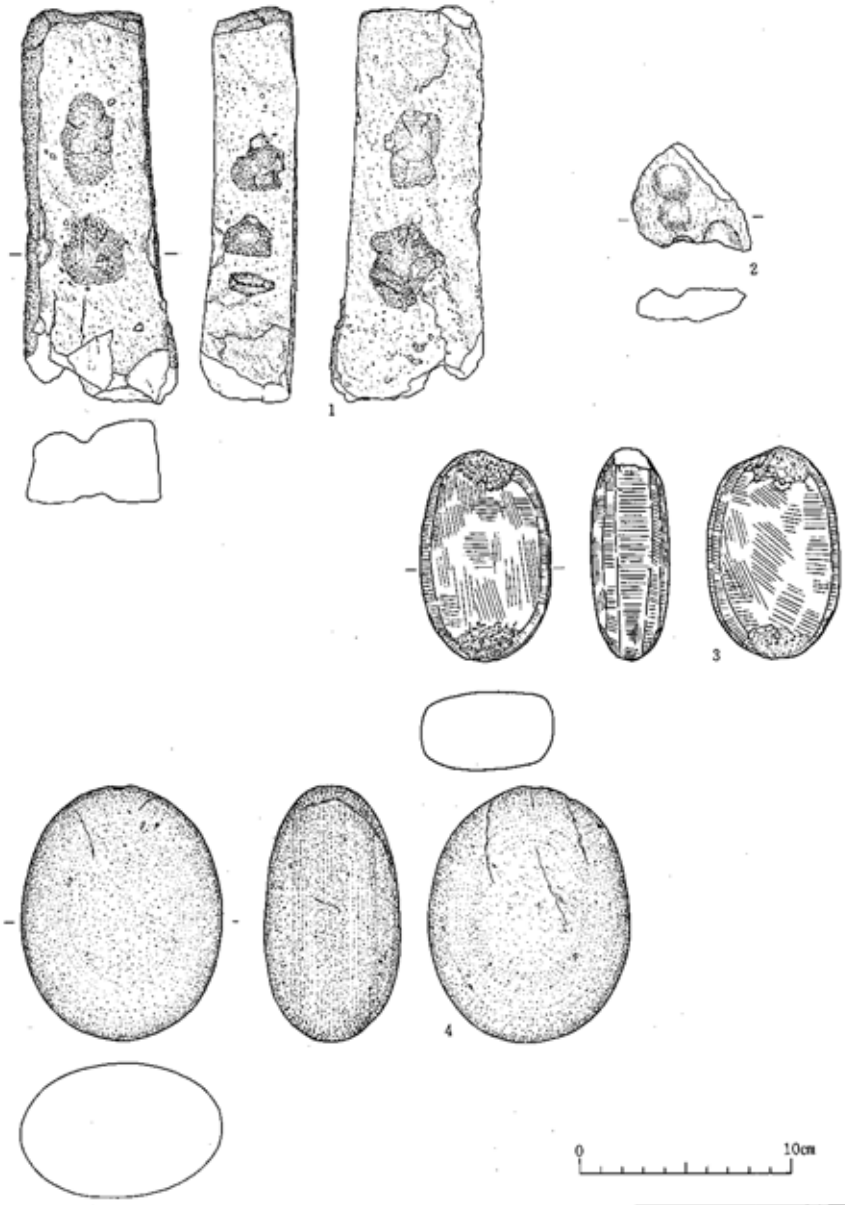
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CQ-CR44-洗	不明	IIA₁・B₁ₐ	花崗閃緑岩	107.0	88.0	67.0	959.0		2029	57－14
2	CP34－1	不明	IIA₁・B₁ₐ	安山岩	128.0	81.5	57.1	985.0		2131	57－15
3	CM48－2	不明	IIA₂・B₁ₐ	粘板岩	(41.5)	31.5	15.0	32.0		6356	57－16
4	CM39－2	不明	IIA₁・B₁ₐ	花崗斑岩	86.1	76.6	54.5	445.0		6068	57－17
5	CL42-8・9	不明	IIA₁・B₁ₐ	砂岩	96.0	56.0	24.4	205.0		2034	57－18

第232図　磨石類・石皿類(31)



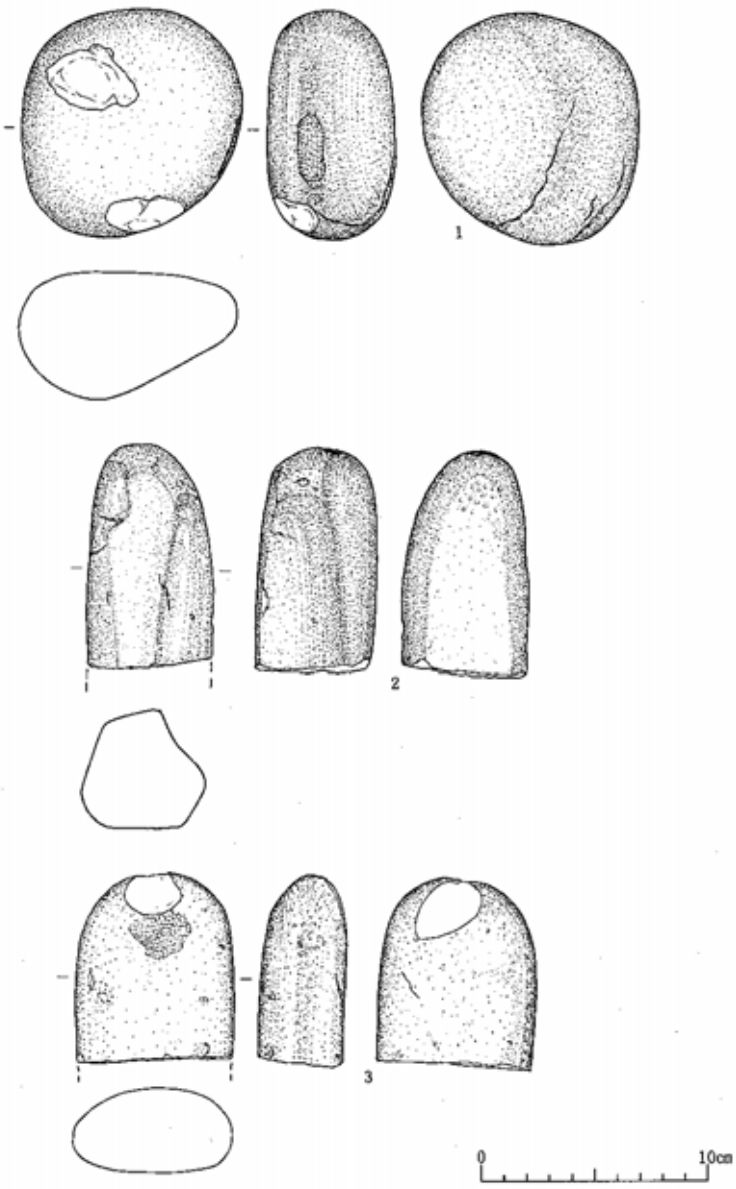
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 44－廣	不明	ⅡA_1・B_{1b}	花崗閃緑岩	147.9	53.5	41.2	599.0		5423	58－1
2	CQ[illegible]の間ベルト	不明	ⅡA_1・B_{1b}	石英安山岩質凝灰岩	142.9	51.4	23.7	256.0		2156	58－2
3	CJ 39－2	不明	ⅡA_a	砂岩	111.9	(95.0)	53.6	880.0		6034	58－3
4	CM 45－3	不明	ⅡB_b	凝灰質頁岩	(99.9)	55.0	24.2	209.0		5946	58－4
5	CP 42－廣	不明	Ⅱ C	砂岩	(82.7)	(88.5)	28.9	209.0		1165	58－5

第233図　磨石類・石皿類(32)



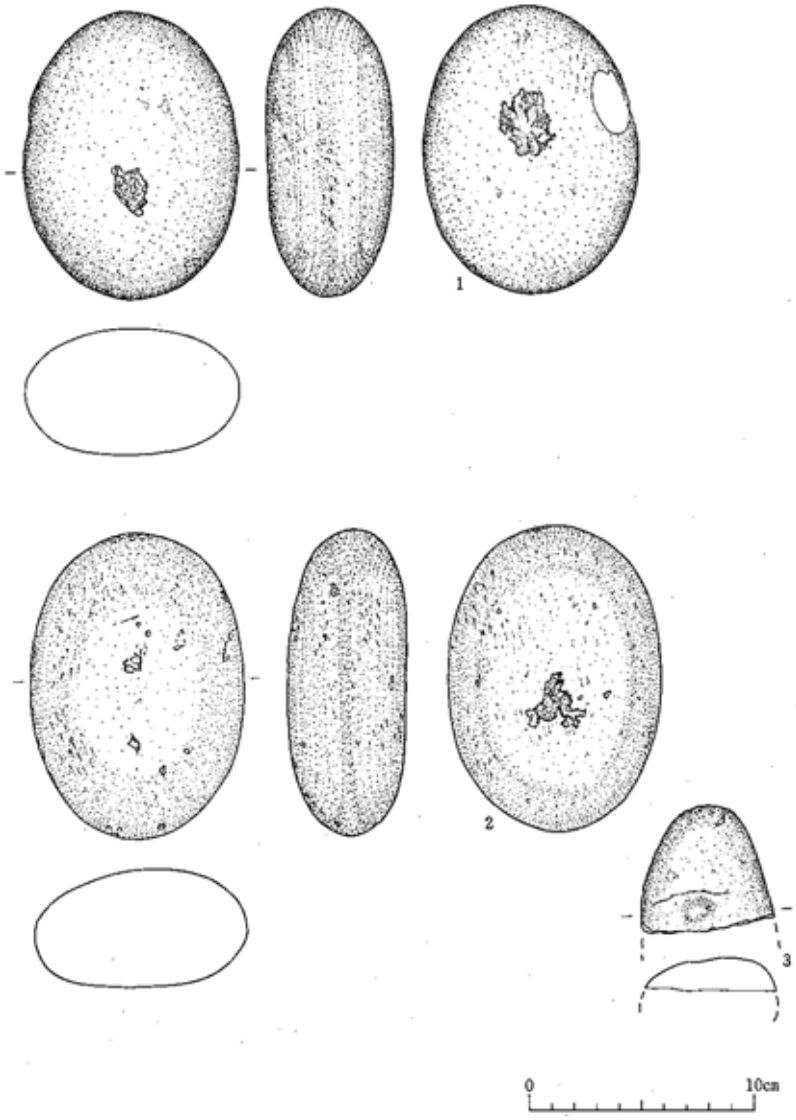
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 40－1	不明	$\mathrm{IIB_b}$	凝灰質砂岩	(180.7)	63.0	38.6	829.0		1698	58－6
2	BD 52－2	不明	IIC	石灰岩	(46.2)	(51.6)	(75.7)	(47.0)		6570	58－7
3	CJ 40－1・2	不明	$\mathrm{IB_3}+\mathrm{IIA_{2a}}$	石英安山岩質凝灰岩	51.2	41.0	24.0	113.0		6152	58－8
4	表採	不明	$\mathrm{IB_3}+\mathrm{IIA_{2a}}$	砂岩	120.6	95.0	63.1	1,398.0	上面のみ研磨、上端のみ敲打	5825	58－9

第234図　磨石類・石皿類(33)



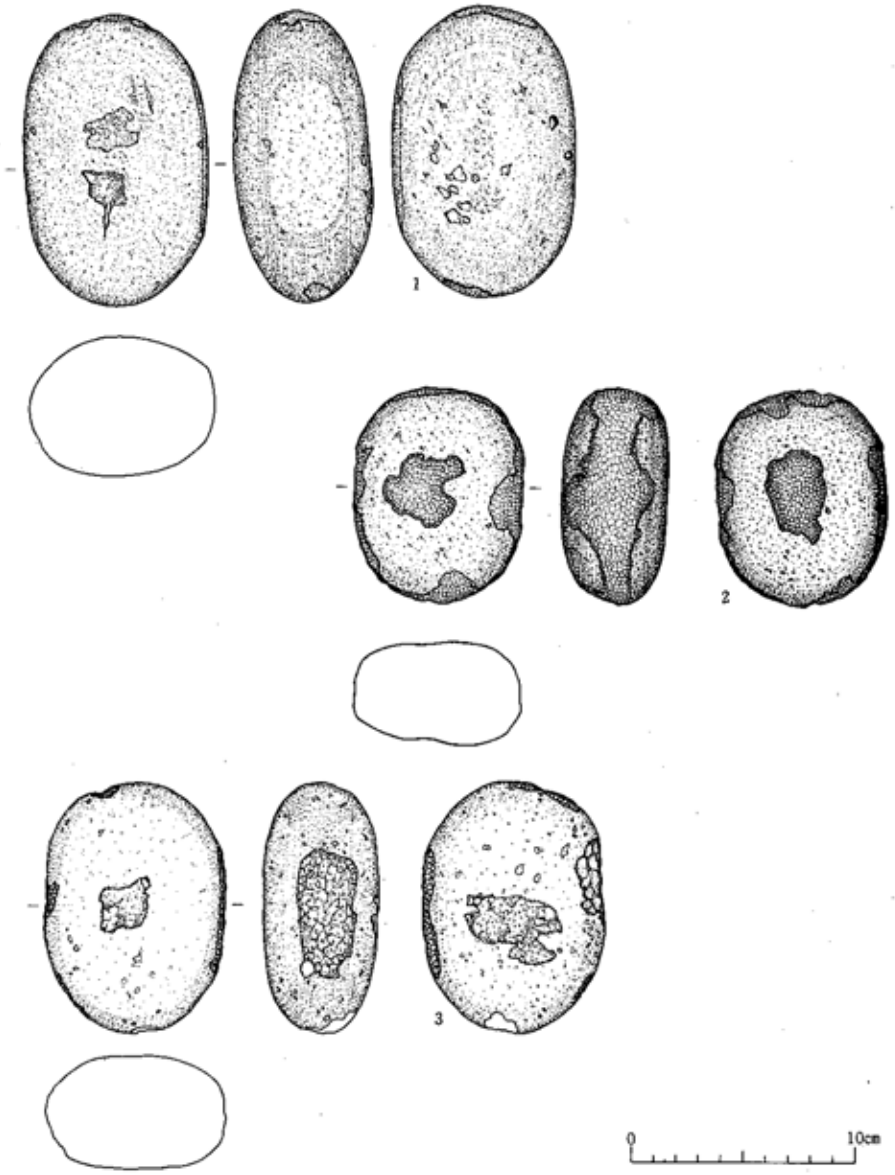
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BN57－2	不明	IB₂+ⅡA₂₄	安山岩	101.8	95.0	56.5	56.0		1869	58－10
2	BD52－2	不明	IA₁+ⅡA₁₁	凝灰質砂岩	(98.5)	52.8	52.8	52.5		1864	58－11
3	D135－1	不明	IB₂+ⅡB₁₁	石英安山岩	(81.0)	69.0	69.0	(15.0)		2020	58－12

第235図　磨石類・石皿類(34)



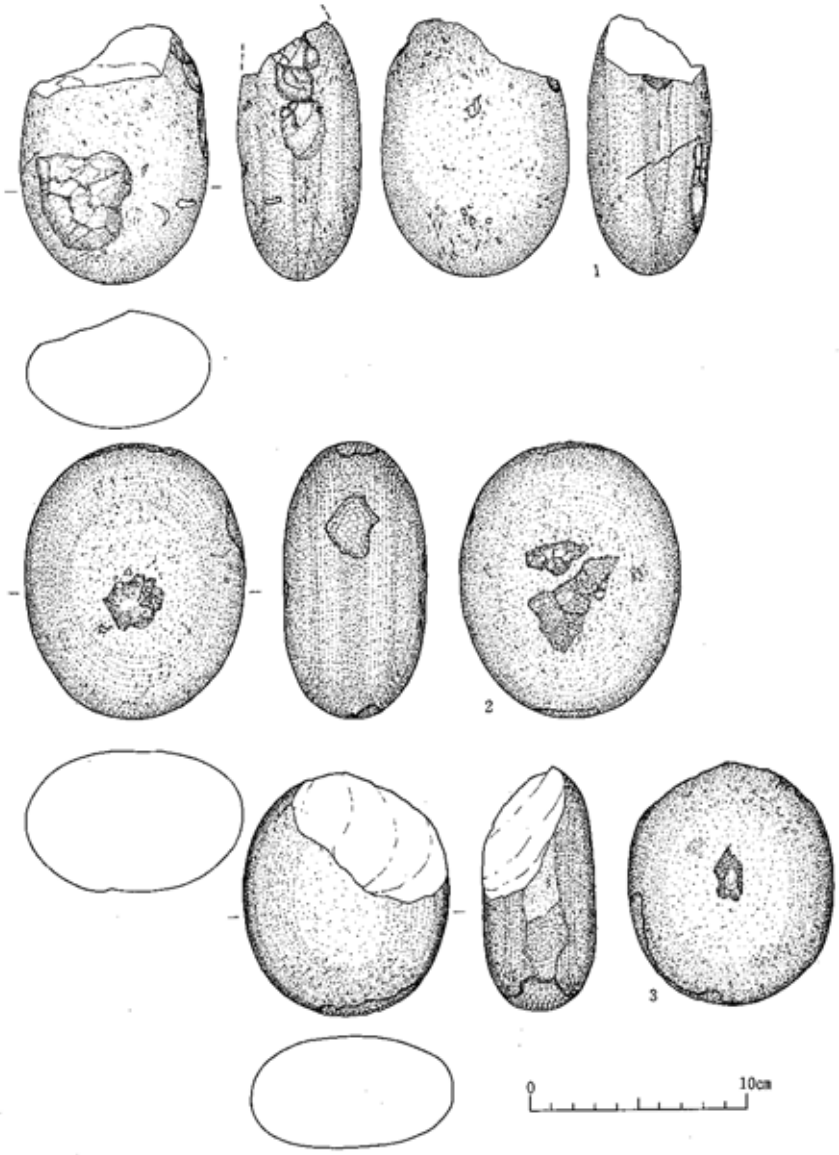
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CQ-CR44-溝	不明	IB_3+IIA_{6a}	石英安山岩	128.5	96.0	55.0	1,010.0		2059	58－13
2	BC 35－2	不明	IB_4+IIB_{1a}	砂岩	135.5	94.0	52.0	1,034.0	上面・横位線条痕、下面・縦位線条痕	6023	58－14
3	CP 37－1	不明	IB_3+IIB_{1b}	砂岩	(55.0)	58.2	(15.0)	71.0		1827	58－15

第236図　磨石類・石皿類(35)



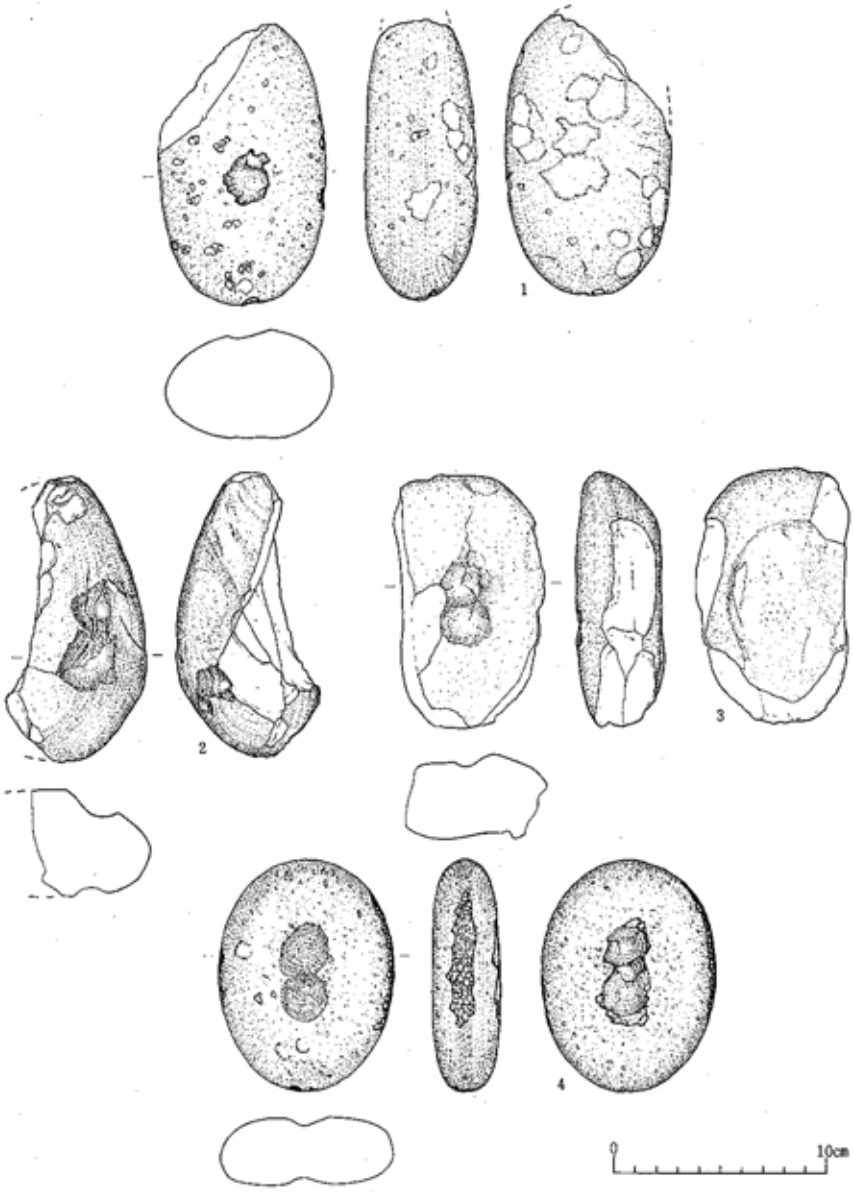
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	DB35－1	不明	IB_4+IIB_{2a}	凝灰質砂岩	131.0	81.2	62.5	956.0	右側面・縁位線条痕、下面・横位線条痕	2107	58－16
2	CM49－23	不明	$IB_2+IIA_{0.5}\cdot IB_{2a}$	砂質凝灰岩	97.2	75.0	45.7	550.0	全周線敲打	6435	58－17
3	CL38－西28	不明	$IB_2+IIA_2\cdot IB_{2a}$	花崗閃岩	111.0	81.1	50.5	730.0		6041	58－18

第237図　磨石類・石皿類(36)



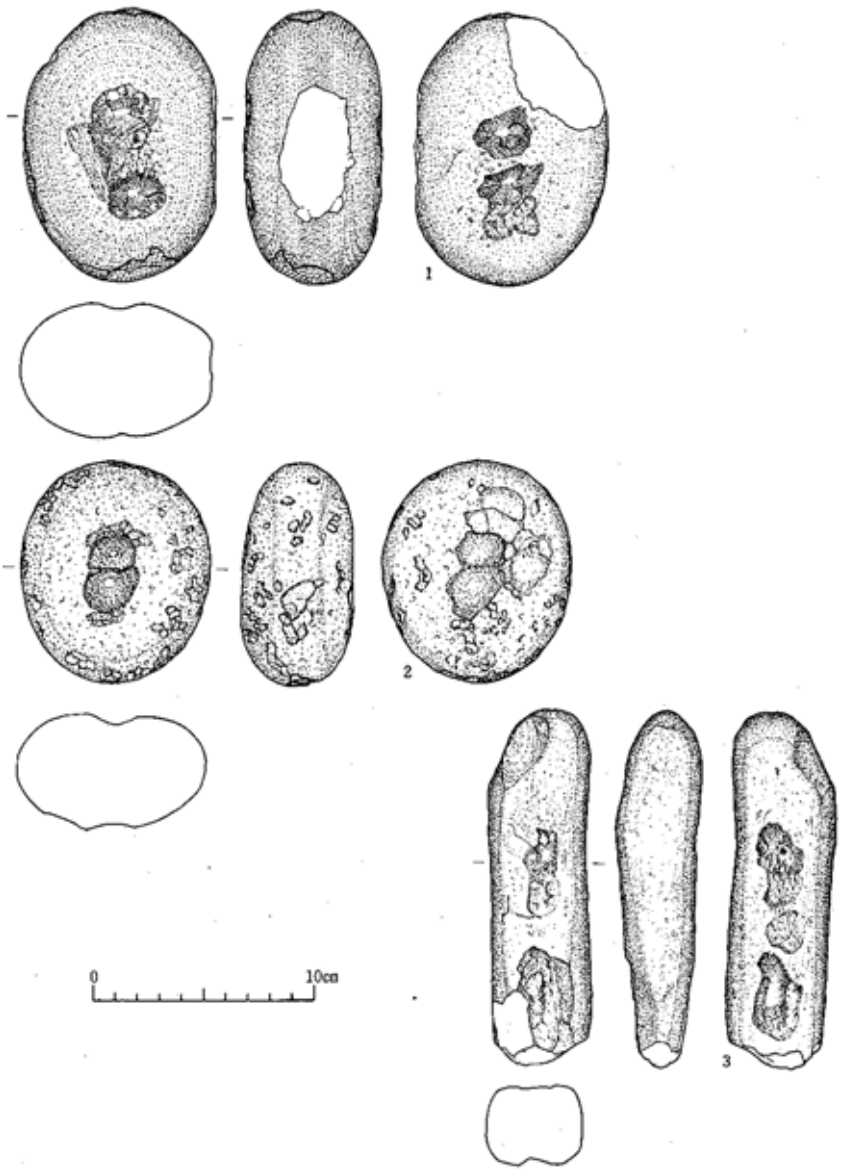
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 49－23	不明	IB_2+IIA_{2a}	砂岩	(115.5)	85.0	54.0	773.0		5422	59－1
2	CL 44－3	不明	$IB_2+IIA_2\cdot B_{2a}$	関縁砂岩	125.6	100.5	64.5	1,308.0		5805	59－2
3	CM 42－12	不明	$IB_2+IIA_{2a}\cdot B_{2a}$	砂岩	(112.1)	92.0	51.3	749.0		5866	59－3

第238図　磨石類・石皿類(37)



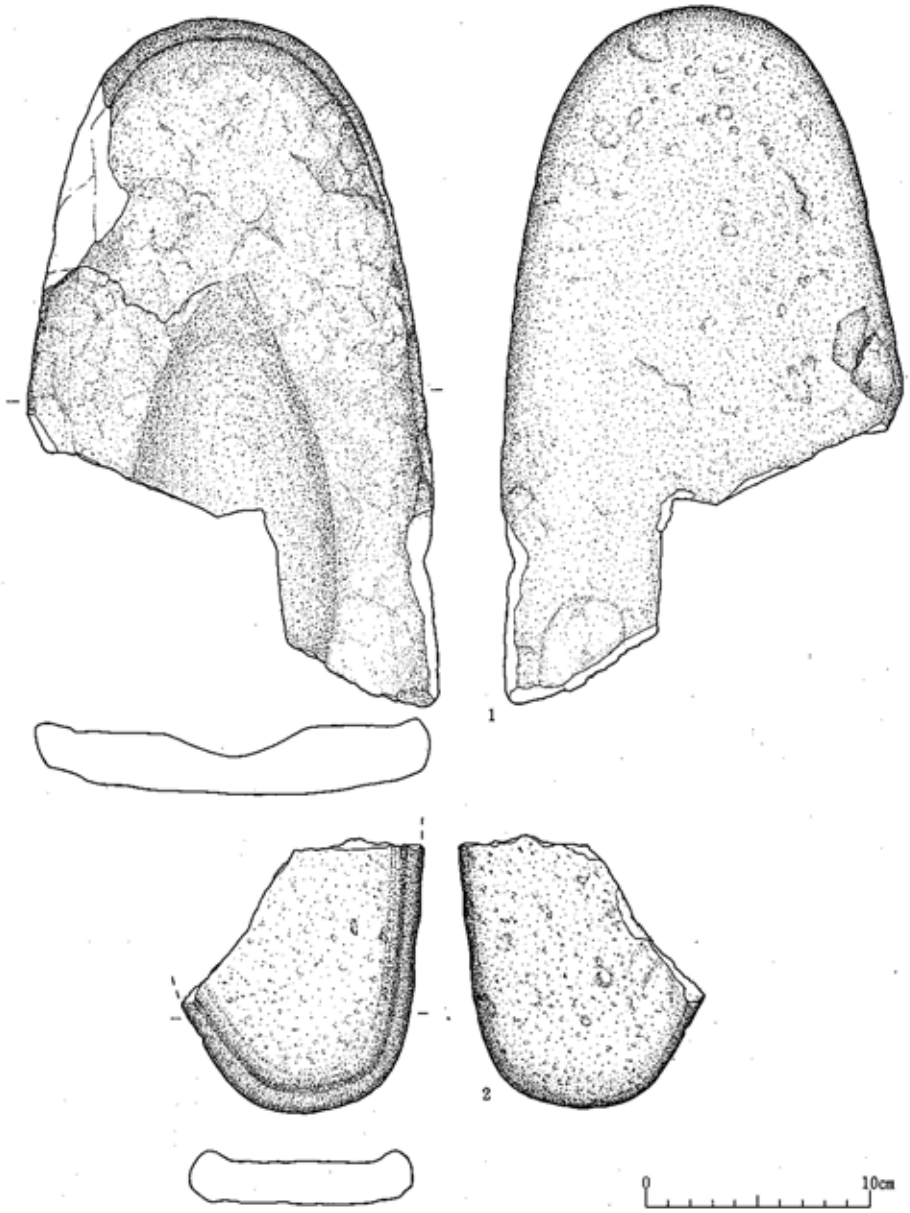
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BC 53－2	不明	IB_2+IIB_4	砂岩	(132.5)	77.0	51.1	790.0		5033	59－4
2	CM 42－10	不明	IA_1+IIIB_4	砂質頁岩	130.0	(67.2)	55.9	500.0		3890	59－5
3	CP 34－1	不明	IA_1+IIIA_4	粘板岩	115.0	89.5	37.0	496.0		5566	59－6
4	CK 39－8	不明	IIA_1+IIIA_4	砂岩	100.0	82.0	31.0	430.0		5836	59－7

第239図　磨石類・石皿類(38)



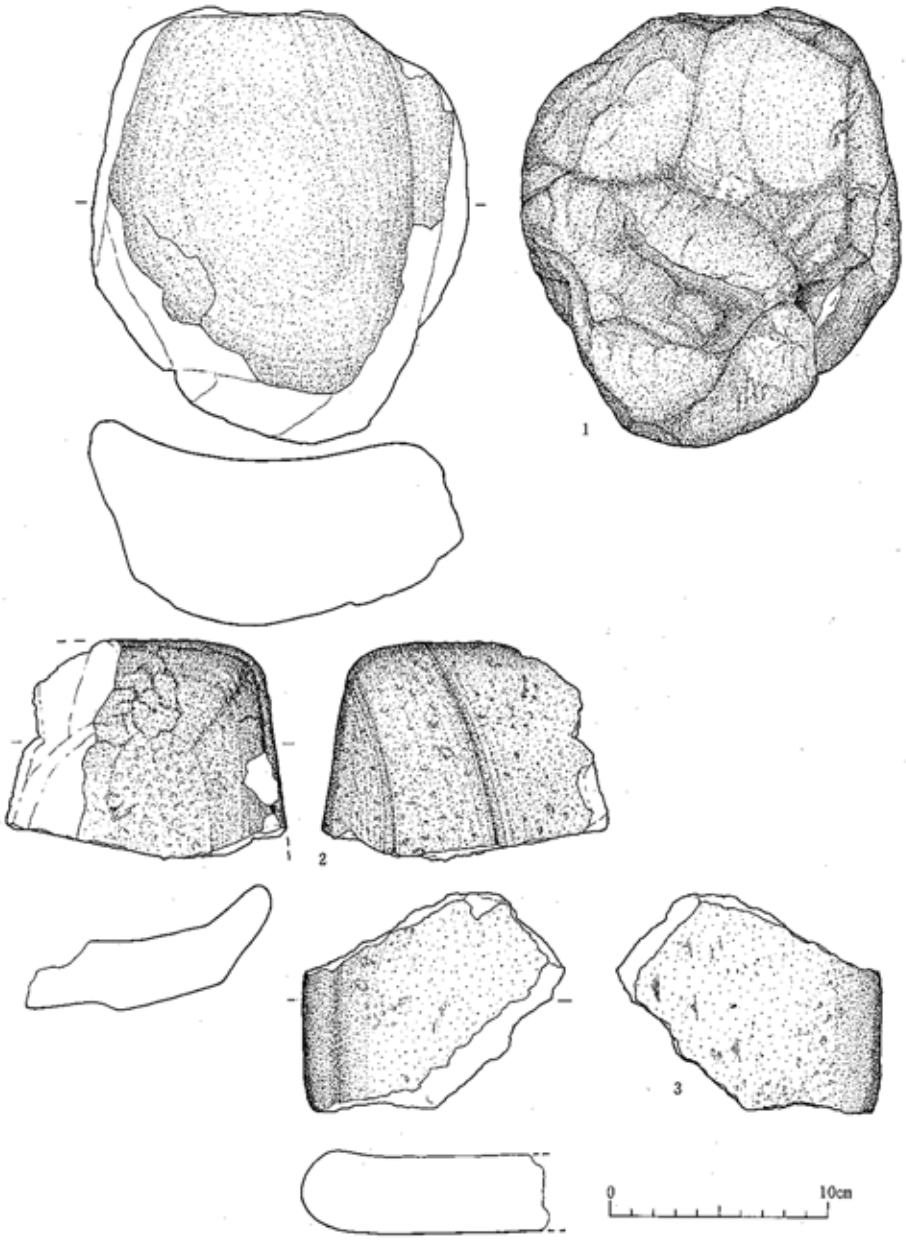
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	BN 57－2	不明	$\mathrm{IIA_{1-2}}$・$\mathrm{IIB_{2a}}$・$\mathrm{IIIB_a}$	砂岩（凝灰岩）	124.0	86.3	60.5	1,571.0		1871	59－8
2	CQ 34－1	不明	$\mathrm{IIA_{1-2}}$＋$\mathrm{IIIA_a}$	砂岩	100.9	85.7	52.6	679.0		2069	59－9
3	CL 38－5	不明	$\mathrm{IIA_1}$＋$\mathrm{IIIB_b}$	粘板岩	16.8	45.0	35.9	405.0	先端部敲打	1912	59－10

第240図　磨石類・石皿類(39)



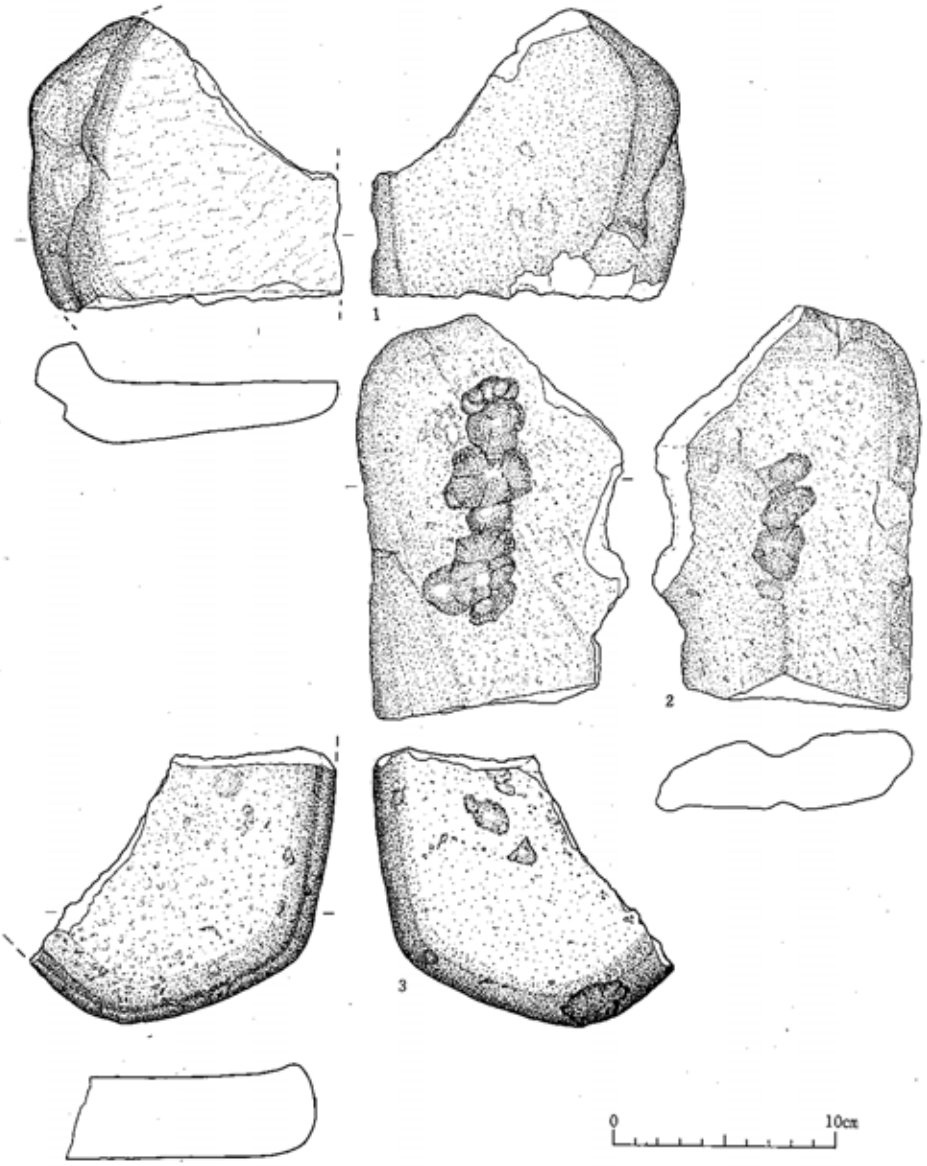
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CN45－1	不明	IVA_2	砂質凝灰岩	(272.4)	175.7	30.0	1,601.0	上・下面敲打整形、上面嘴曲部縦位線条痕	1872	59－11
2	CL47－3	Ⅱ	IVA_1	砂質凝灰岩	(117.0)	33.1	29.5	515.0	上面縦位線条痕、下面敲打整形	1866	60－1

第241図　磨石類・石皿類(40)



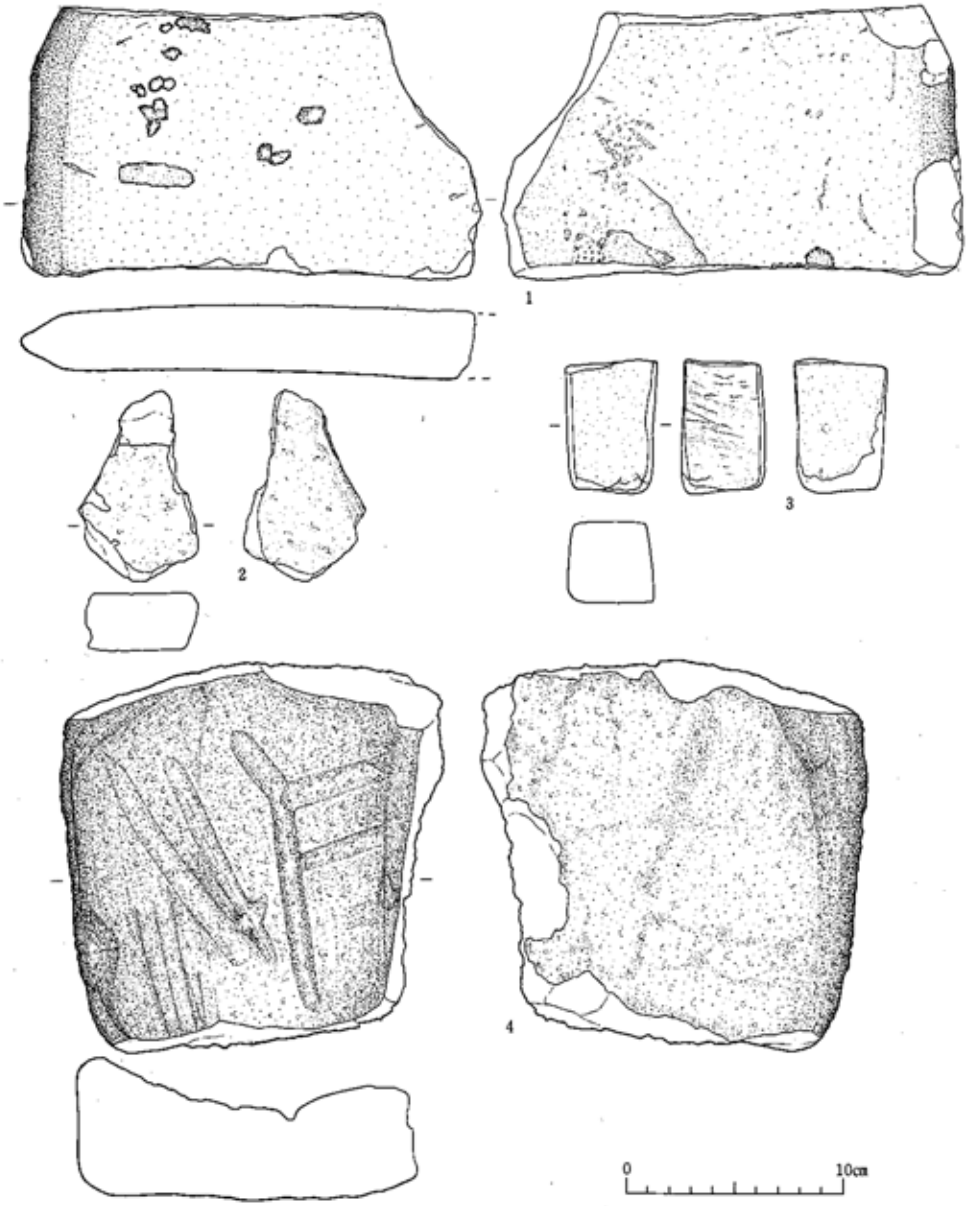
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM 49－2・3	不明	IVB_1	砂岩	198.8	170.0	75.5	3,320.0	上面電由縦位線条痕、縁辺磨滅	6437	60－2
2	CM 42－12	不明	IVA_2	石英安山岩質凝灰岩	(96.1)	(13.1)	29.5	515.0	上・下面最打整形、上面縁辺研磨整形	2083	60－3
3	CL 47－3	Ⅲ	IVA_1	安山岩	(99.0)	(119.5)	35.0	659.0	上・下面縦位線条痕、側縁最打	1947	60－4

第242図　磨石類・石皿類(41)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CP 49－1	不明	IVB_1	砂岩	(131.4)	(138.0)	29.0	751.0	下面研磨	1382	60－5
2	CM 40－1	不明	$II+IVA_2$	砂質凝灰岩	(176.5)	(117.5)	34.0	793.0	上・下面、縁辺敲打整形、中央彎曲部あり	1885	60－6
3	CL 38－25	不明	$II+IVA_1$	凝灰質砂岩	(119.0)	(135.0)	36.5	856.0	下面研磨あり、上面～縁辺敲打整形	5853	60－7

第243図　磨石類・石皿類(42)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CK 38－9	不明	VA・B	砂岩	(124.4)	(207.5)	31.5	1,129.4		1948	61－1
2	CL 38－15	不明	VA	凝灰質砂岩	(86.1)	(52.0)	26.5	154.0	上面縦位線条痕	5847	60－8
3	CO 35－13	不明	VA	細粒凝灰岩	(61.5)	(42.2)	37.7	169.0	各面横位線条痕	6456	60－9
4	BG 59－1	不明	VA・B	細粒花崗岩のアルコーズ砂岩	176.4	(176.4)	43.2	2,905.0	上面溝あり、下面・研磨	1021	61－2

第244図　磨石類・石皿類(43)

他の組み合わせには第Ⅰ＋Ⅲ類・第Ⅱ＋Ⅲ類・第Ⅲ＋Ⅳ類がある。しかし資料は少なく、他の属性と強く結びつくものは第ⅠＢ類と第Ⅱ類であることをネガティブに語っているにすぎない。

石棒類（第245図～第260図）

ここでは、剥離・敲打・研磨によって作り出された棒状の石器を扱う。総数106点出土している。この種の石器は、破片で出土しており、全容が不明なものが多い。そのため、断面形をもとにして、部位別区分を行った。

1分　類

1断面形による区分

Ⅰ断面が円形をしたもの（一般的には石棒といわれているものに相当）

Ａ頭部

1やや扁平なもの

2丸いもの

Ｂ頸部

1胴部中央から頸部にかけて除々に細くなっているもの

2円筒形の胴部で、頸部のみ括れているもの

3円筒形をしているもの

Ｃ端部

Ｄ中間部（胴部）

Ⅱ断面形が扁平なもの（一般的には石剣といわれているものに相当）

Ａ頭部

Ｃ端部

Ｄ中間部（胴部）

Ⅲ断面形が長方形のもの

1長さ15㎝以上のもの

2長さ15㎝未満のもの

Ⅳ断面形が円形あるいは扁平であり、第Ⅰ～Ⅱ類を再利用していると考えられるもの

1刃部が作り出されているもの

2端部につぶれや、研磨があるもの

2製作工程による区分

1剥離のみのもの

2剥離→敲打の工程があるもの

3剥離→細かい研磨の工程があるもの（研磨は全体に及ぶ）

4剥離→敲打→細かい研磨の工程があるもの（研磨は全体に及ぶ）

5敲打→粗い研磨→細かい研磨工程那あるもの（研磨は全体に及ぶ）

6部分的に細かい研磨があるもの

7敲打のみのもの

2出土状況

同一層から2点出土しているのには、ＣＬ39区37層、ＣＬ39区23層、CM41区14層がある。他の層はいずれも1点の出土である。

3時期による変化

所属時期が明らかなものは106点のうち21点で全体の20％を占めている。これを、時期別にみると第Ⅱ期1点、第Ⅲ期3点、第Ⅳ期1点、第Ⅴ期2点、第Ⅵ期2点、第Ⅶ期4点、第Ⅷ期7点、第Ⅸ期1点になる。1点とか2点の出土である時期が多く、最も多いものでも第Ⅷ期の7点である。

4石　材（第33表）

第Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ類は粘板岩が多い。第Ⅱ類はホルンフェルスが多い。石棒類は他の石器に比して使用されている石材の種類が少ない。

5部位間の結びつきと製作工程について

時期別に検討すると資料数が不足する時期もあり、第3項でふれた以上のことは言えない。そこで以下では、後期前半～晩期前半の様相としてまとめて扱い、各類のあり方を浮き彫りにしたい。

(1) 部位間の結びつき

第Ⅰ類の頭部資料A1類（第248図1）には、長方形状をした文様が横位に2単位刻まれている。この頸部は製作工程第5類によって作られた第B1類である。頭部資料A2類は第B3類の頸部を持ち、第2類の製作工程で作られたものが多いが、第4類もある。

第Ⅱ類の頭部資料は1点出土しているが、破損品であり、頸部資料との関係は不明である。

第Ⅲ類は完形品である、第256図1によって代表される。第Ⅰ、Ⅱ類に較べて太く、棍棒のような形をしている。

	ⅠA	ⅠA₁+ⅠB₁	ⅠA₂+ⅠB₁	ⅠA₃+ⅠB₁	ⅠA₄+ⅠB₁	ⅠB₁	ⅠB₂	ⅠB₃	ⅠC	ⅠD	ⅡA	ⅡC	ⅡD	ⅢA₁	ⅢA₂	ⅢB₁	ⅢB₂	Ⅳ₁	Ⅴ₁	不明	計
粘板岩	1	1	2	1	5	1	1	1	4	14	1	19	4	1	1	7	1	9	2	2	69
ホルンフェルス	1							1	2	4		5	14			1		1	3		33
砂岩																		1			1
粘板岩 or 砂質頁岩																		1			1
輝沢質砂岩												1									1
安山岩																				1	1
計	2	1	2	1	5	1	1	2	6	18	1	17	18	1	1	8	1	12	5	3	106

第33表　石棒類分類別・石材別出土数量表

⑵ 製作工程・破損

第Ⅰ類のうち、第A1＋B1として結びつく資料は、頭部に文様が描かれていることから完成したものが破損していると考えられる。従って第5類は完成品にみられる製作工程であることがわかる。また、第A2＋B2類として結びつく資料には少数ながら第4類の製作工程を持つものがある。また、第2類の製作工程が多いことから第2類と第4類は、製作の順序を示しているといえる。従って、第A2＋B2類のうち、第2類の製作工程のものは未製品が破損したものと考えられる。第4類と第5類は、最終工程である研磨による差であることから、第A1＋B1類と第A2＋B3類という形態差は、完成状態における形の違いを表していることが考えられる。

第Ⅱ類は第3類の製作工程によって作られたものが多い。第255図5もそうした資料で両面中央に2分割するための溝が敲打によって作られた未成品である。既に両側面は研磨されている。
このことから、第3類によって作られた第Ⅱ類には側面研磨後に切断面を整形したものを含んでいることがわかる。第Ⅱ類は第4項の石材でふれたように、ホルンフェルスが多用されていることから、石材選択時において既に第1類と区別されていたようである。

第Ⅲ類は第2類の製作工程で作られている。敲打は側面に施されている。第2類は第Ⅰ類の製作にも多用されているが、断面形が大きく違い、器種としてみた場合、第1類と同じとは言えない。明確な根拠はないが、完成品が破損したものと考えられる。

最後に破損についてふれる。第Ⅰ、Ⅱ類は、Ⓐ横折れ（第248図4）Ⓑ斜め折れ（第248図1）、Ⓒ縦半裁（第251図9）Ⓓ縦割れ（第246図5）のいずれかによって折れている。しかし、故意に折れているのか、あるいは折れてしまったのかを判断することはできなかった。第Ⅲ類はⒷ斜め折れによって折れていることが多い。

6機能・用途

前節での検討から、第Ⅰ～Ⅲ類には、未成品も多く含まれていることが明らかになった。また完成品も、破損して出土しているため、使用による痕跡を見出すことができなかった。この類は、類型化が可能な破損形態を分析していくことによって、何らかの答えが見出せるかも知れないが、現状では、各類とも機能・用途は不明である。

7第Ⅳ類

第Ⅳ類は、第Ⅰ・Ⅱ類にみられる破損として類型化したⒶ～Ⓓと同じ折れをもつ。

刃部が作り出されているものには2つのタイプがある。1つはⒸ類型の折れをもち、一方の端部に刃部をもつもの（第259図3～6）である。他の1つは、Ⓐ・Ⓑ類型の折れがあり、Ⓑ類型の端部に刃部をもつもの（第259図1～2・7～9・第260図1～3）である。刃部は各資料とも片刃に作られている。また中には刃縁がつぶれているものもある。これらの石器は、全体形や刃部の位置から考えて、石斧として再利用されていると考えられる。刃部に、打製石斧第

Ⅰ類と同じような「つぶれ」があることから、その対象物は土と思われる。また、道具としてみると、Ⓒ類型の折れを用いているものは、打製石斧第Ⅳ類と同じく、スコップ状に着柄された可能性が考えられる。しかし、Ⓑ類型の折れを用いているもので細長いもの（第260図1～3）は、スコップ状に着柄された可能性と共に、直接手に持って使用されたことも考えられる。いずれにしても打製石斧を道具としてみると、実に様々な使われ方をしているとしなければならない。他には、磨石類第Ⅱ類（敲石）に転用されていると考えられるものにⒶ類型の折れをした両端がつぶれている資料（第260図4～6）がある。また、Ⓓ類型の折れをした両端が研磨されているもの（第260図7・8）は、磨石類第Ⅰ類（磨石）として利用されているようである。最後に石材についてふれる。第Ⅱ類に多用されているホルンフェルスは、刃部を作り出しているもの（第Ⅳ1類）には少ない。多くは粘板岩が用いられている。これに対し、つぶれや、研磨がみられるもの（第Ⅳ2類）は、ホルンフェルスが使われているようである。

以上第Ⅰ・Ⅱ類を転用したもの（第Ⅳ類）についてふれた。これをまとめると第Ⅳ1類は、粘板岩が多いことから、第Ⅰ類との関連、第Ⅳ2類はホルンフェルスが多いことから第Ⅱ類との関連が考えられる。従って、第Ⅳ1類は石棒類第Ⅰ類（石棒）が打製石斧に、また第Ⅳ2類は石棒類第Ⅱ類(石剣)が磨石類に転用されている可能性もある。今回、石棒類第Ⅰ・Ⅱ類の機能・用途について接近できなかったが、その糸口は案外こんなところにあるかもしれない。

Ⅳ．石製品

前述した剥片石器・礫石器以外の石製品をまとめた。いずれも遺構に伴うものはなく、南側遺物包含層を中心に出土したものである。以下、各種類ごとに述べる。

玉　類（第261図1～5）

1は大型で、2～5は小型のものである。5は粗雑な整形がなされているが、その他は丁寧なものである。いずれも単孔の貫通孔がある。

ペンダント類（第261図6～20）

6・7は多角形のものである。8面・6面に面取りされ、薄手の断面に両孔の貫通孔がある。

8～12は楕円形のものである。8は厚手、9～12は薄手の断面に両孔の貫通孔がある。

19は円形のものである。扁平な半月状の断面に両孔の貫通孔をもち、表裏に著しく整形痕を残す。

13は三日月状のものである。表裏に平行な数条の沈刻文様をもち、上部に両孔による穿孔が行われるが、磨かれている頂部の欠損面にも穿孔痕が認められる。

14～18は縦長のものである。14～17は両孔による穿孔が1ケ所づつあるが、15・17は欠損面にも穿孔痕が認められ、両穿孔の可能性がある。また、17の片面には孔から太い沈刻線が両端

部へ走っている。18は下方を棒状に整形して、上部に両孔による穿孔を行った痕跡が認められる。

20は不整の円形状のものである。上部中央に貫通孔がみられ、表裏に沈刻文と盲孔状の凹みによって文様が施される。左右非対称で、表面の右下の沈刻文が新しい施文になっている。

岩　偶（第262図1）

全体形が方形で、断面が「く」字状のものである。頂部中央に環状の作り出しがあり、張り出しぎみの肩部をもつ。中央部両側縁には抉りを入れ胸部を作り出し、下端部に至ってやや幅が狭くなる。表の全面にわたって、格子状に沈刻文が施され、上部右側に円文、左側に四角文で乳房が表現される。裏は凹みかげんで、文様は施されない。

沈刻棒状石製品（第262図2）

棒状で断面が不整の四角形状を呈する。全面に、縦位の沈刻が施された後に、横に巡る沈刻が施される。表面全体に、黄色い粉状のものが認められる。用途は不明である。

浮　子（第262図3〜7、第263図1）

3・4は有孔のもので、3は鈴状、4は楕円形の板状のものである。

5〜7・1は無礼のもので、6は円盤状、5・7・1は長楕円形のものである。7の上部にやや屈曲がある。

有孔円盤状石製品（第263図2）

2は円盤状で、全面を研磨しており、線条痕が著しく残る。中央部に両孔による貫通孔がある。

円盤状石製品（第263図3）

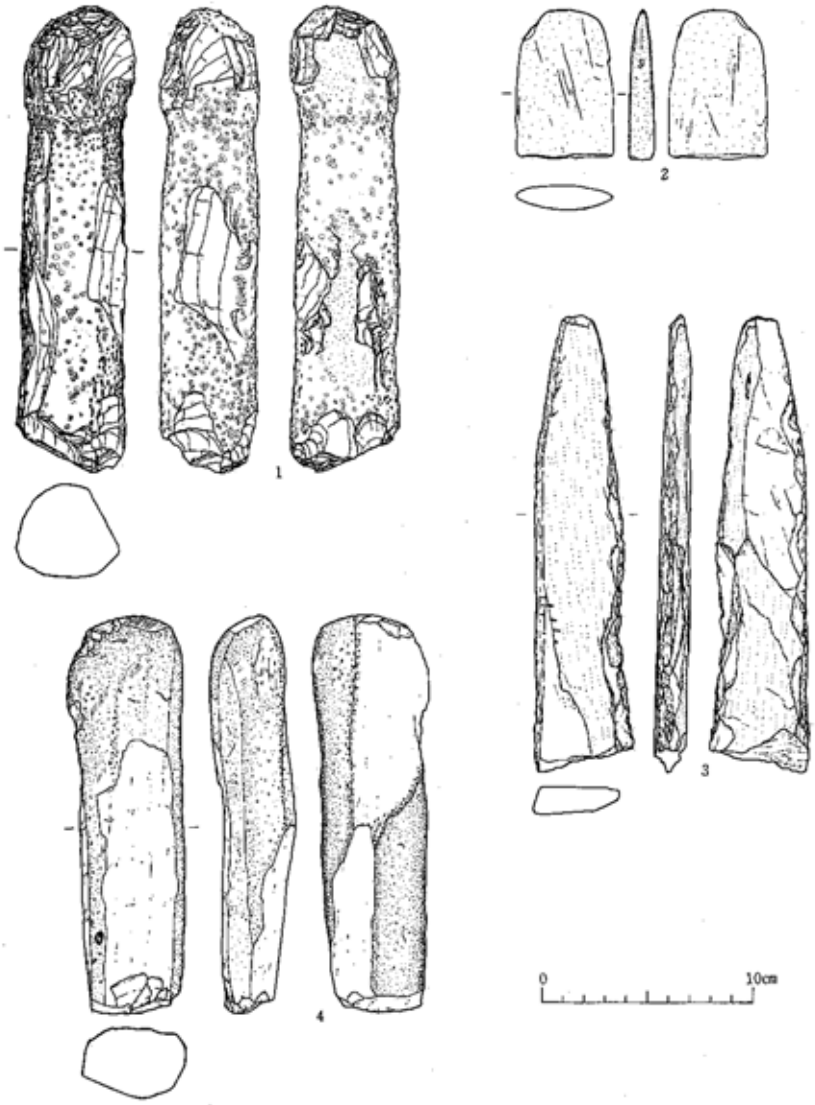
3は周縁を打ち欠いて円盤状に整形したもので、4は研磨により周縁を面取りしたものである。

板状石製品（第263図5・6）

5は上端が丸みを呈し、一条の沈刻が上部に巡る。6は縦長の薄手で、下方がやや幅広になっている。全面に線条痕が認められる。

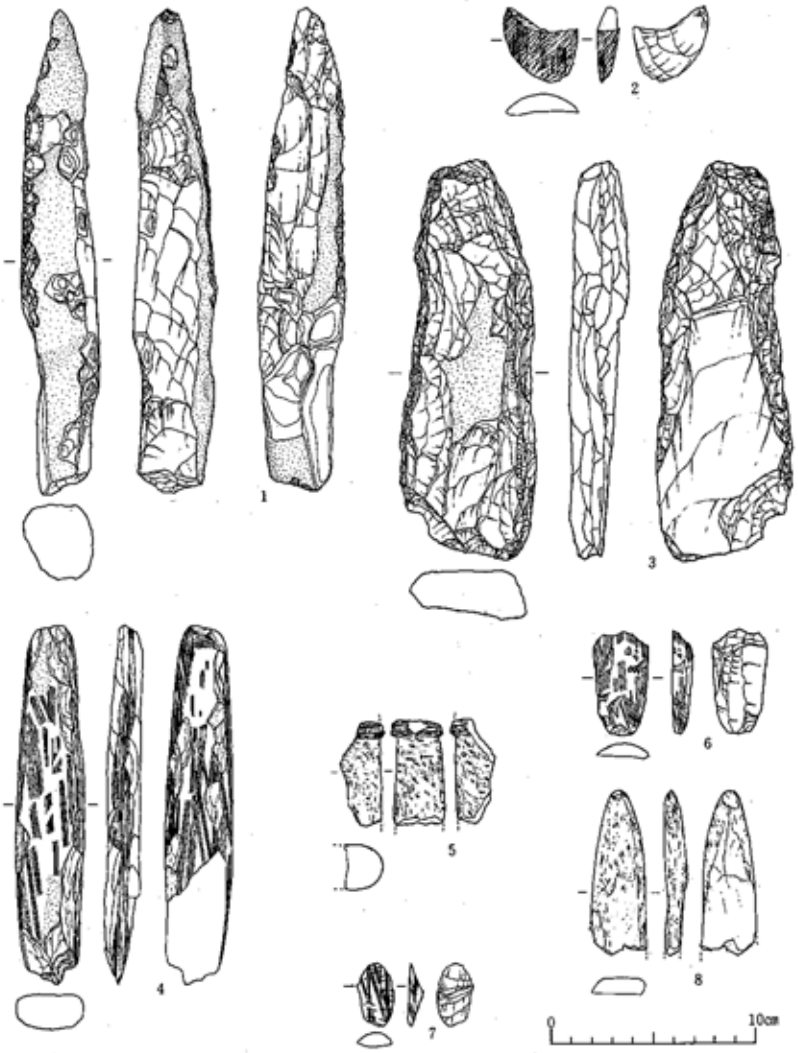
石　錘（第263図7・8）

7は周縁を打ち欠いて整形し、上部の両側縁から抉りを入れている。表には礫面を残し、裏は凹みかげんで線条痕を残す。8は鈴形状で、全面が研磨による整形がなされる。上部に一条の沈刻が巡っている。



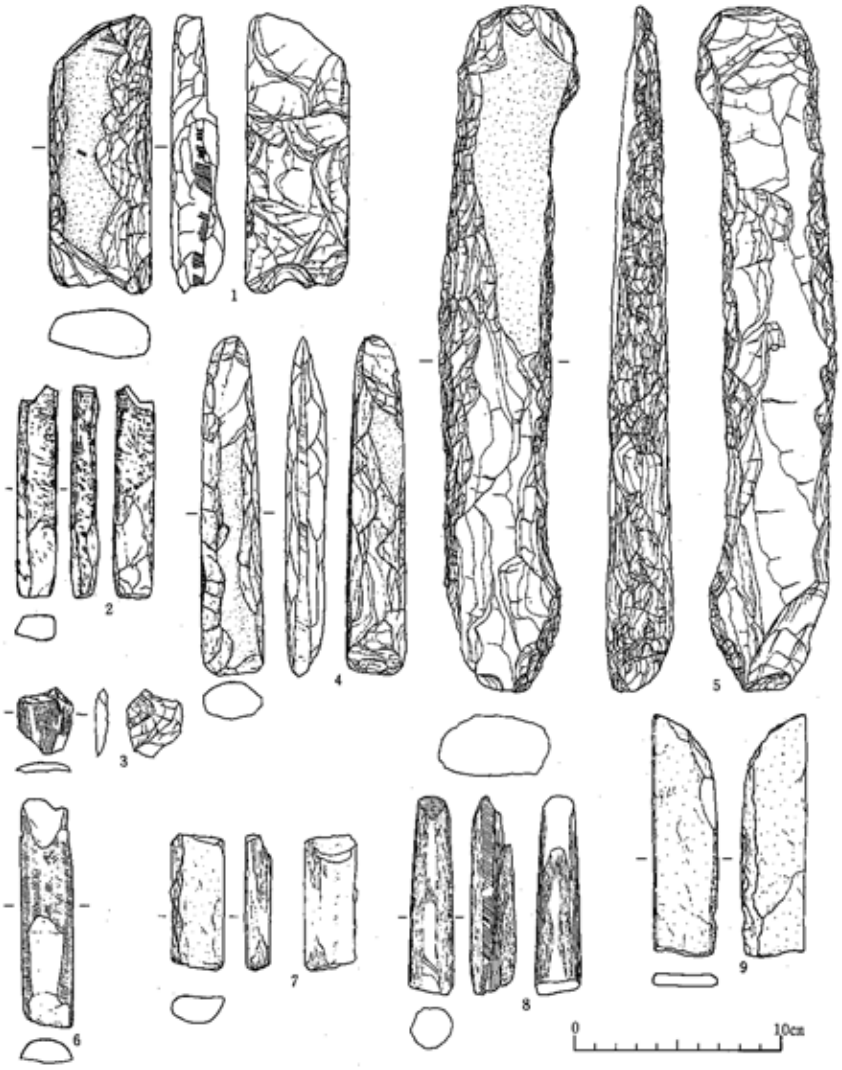
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CL39－37	Ⅱ	IA_2+IB_1	粘板岩	222.1	486.1	43.0	865.0	2	自然面一部残す	1724	61－3
2	CM41－28	Ⅱ	Ⅱc	凝灰質砂岩	(70.7)	40.7	11.8	43.0	5	自然面残す	635	61－4
3	CM40－土層	Ⅱ or Ⅲ	Ⅱc	ホルンフェルス	(215.8)	40.3	12.0	191.0	4	自然面残す	6135	61－5
4	CL39－37	Ⅱ or Ⅲ	$ⅢB_2$	粘板岩	(188.2)	48.5	32.8	532.0	4		2025	61－6

第245図　石棒類(1)



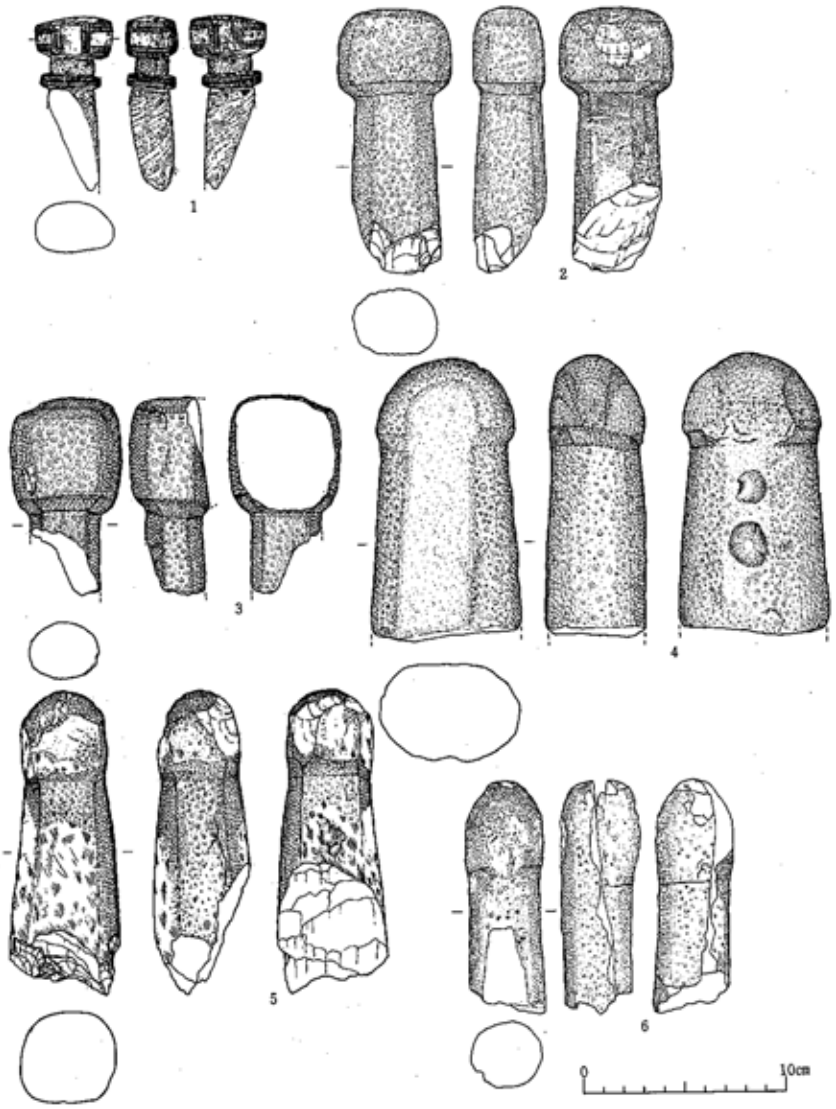
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CL 40－26	Ⅳ	Ⅰc	粘板岩	(226.7)	43.1	36.5	390.0	1	表面焼け傷け	3063	61－7
2	CM 41－26	Ⅴ	ⅠD	粘板岩	(37.2)	(25.3)	(9.0)	10.0	5		4507	61－8
3	CM 41－23	Ⅴ	ⅢB₂	粘板岩	(196.1)	57.1	24.7	440.0	2		5857	61－9
4	CM 40－7	Ⅵ	Ⅱc	粘板岩	(175.5)	33.1	21.2	141.0	3	自然面残す	996	61－10
5	CM 39－31	Ⅶ	ⅠA	粘板岩	(51.2)	(18.9)	22.0	35.0	4		790	61－11
6	CL 40－15	Ⅷ	?	粘板岩	(51.5)	(25.7)	(6.5)	12.0	4		5855	61－12
7	CL 39－27	Ⅷ	?	粘板岩	(30.7)	(12.3)	(7.5)	2.0	4		4725	61－13
8	CL 39－25	Ⅷ	Ⅱc	粘板岩	(80.5)	26.4	(8.0)	30.0	4		4687	61－14

第246図　石棒類(2)



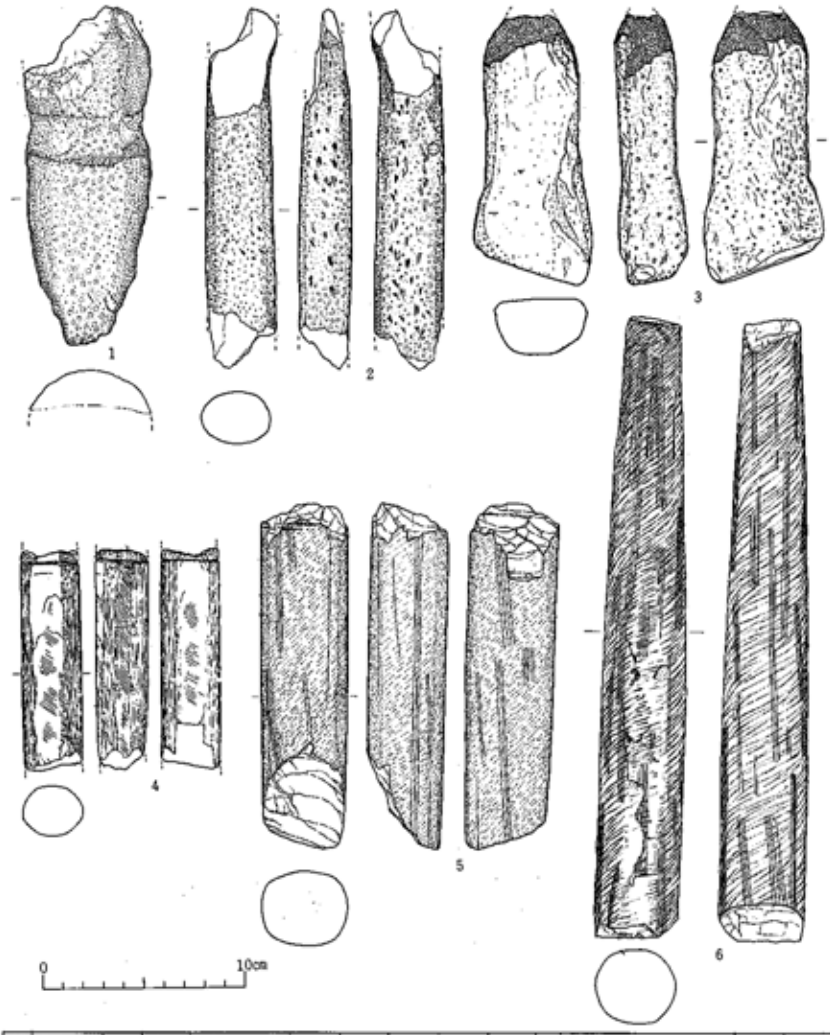
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CL40－16	Ⅷ	ⅡD	ホルンフェルス	(135.8)	47.0	(22.6)	240.0	3		779	62－1
2	CM41－23・32	Ⅷ	Ⅰc	粘板岩	(102.6)	19.3	12.0	42.0	3		3330	62－2
3	CL39－23	Ⅷ	？	安山岩	(32.4)	(26.6)	(4.0)	5.0	3		4714	62－3
4	CM41－14	Ⅷ	3c	ホルンフェルス	16.5	27.0	18.0	135.0	1		5776	62－4
5	CM40－46	Ⅷ	ⅠA₂	ホルンフェルス	332.7	53.6	26.6	810.0	1	自然面一部残す	656	63－1
6	CM41－14	Ⅷ	ⅡD	粘板岩	(11.2)	25.0	(110.4)	44.0	3		1877	62－5
7	CL26－23	Ⅷ	ⅡD	粘板岩	(66.1)	25.0	12.0	30.0	3		997	62－6
8	CL40－5	Ⅷ	Ⅰc	ホルンフェルス	(91.8)	30.6	20.0	85.0	3		5610	62－7
9	CM40－4a	Ⅸ	5c	ホルンフェルス	(128.0)	31.4	5.7	39.0	1		5780	62－8

第247図　石棒類(3)



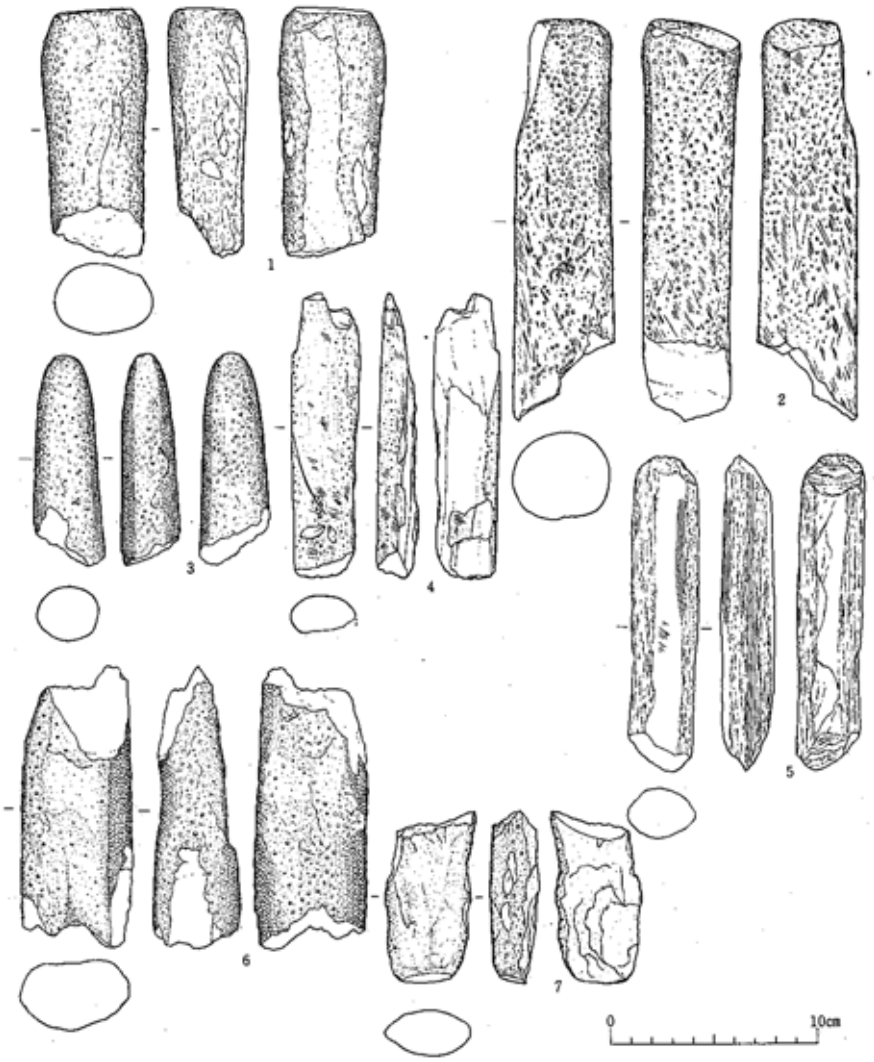
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CK 38－10	不明	$1A_2+1B_1$	粘板岩	(86.1)	37.4	35.0	72.0	5	頭部、長方形に成形	6160	62－9
2	CM 42－1	不明	$1A_2+1B_2$	粘板岩	130.1	41.2	32.3	332.0	2		1679	62－30
3	CM 42－1	不明	$1A_2+1B_2$	粘板岩	(96.0)	39.1	22.8	252.0	2		6321	62－31
4	CN 49－1	不明	$1A_2+1B_2$	砂岩	(130.7)	69.5	47.1	603.0	2	敲打による傷みあり、下端摩滅	6434	62－32
5	表採	不明	$1A_2+1B_1$	粘板岩	(150.5)	47.5	45.4	501.0	4		1707	62－33
6	[illegible]	縄	$1A_2+1B_1$	粘板岩	(116.3)	33.5	[illegible]	298.0	2		[illegible]	62－34

第248図　石棒類(4)



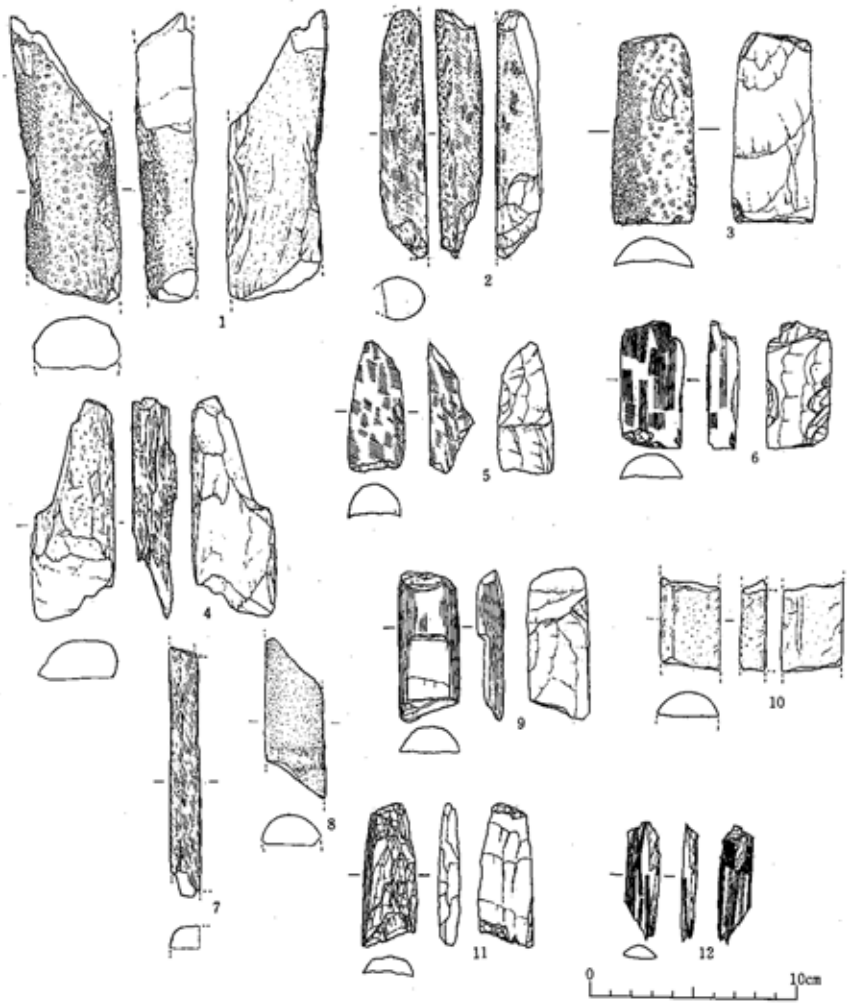
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	表面	不明	IA_2+IB_2	粘板岩	(167.2)	(60.0)	(12.7)	247.0	2		2140	62－15
2	DD 39－1	不明	IA_2+IB_1	粘板岩	(178.1)	33.9	21.0	221.0	2		14	62－16
3	CQ・CR 44－溝	不明	IB_2	粘板岩	(134.0)	45.5	27.6	363.0	7		2028	62－17
4	CM 40－3	不明	IB_2	ホルンフェルス	(108.3)	29.9	25.1	141.0	3		5789	62－18
5	CL 42－5	不明	IB_2	粘板岩	(179.1)	42.8	37.2	477.0	5		1758	62－19
6	CL 42－5	不明	IB_2	粘板岩	(307.5)	40.0	36.5	658.0	5	上端アスファルト付着	1896	65－2

第249図　石棒類(5)



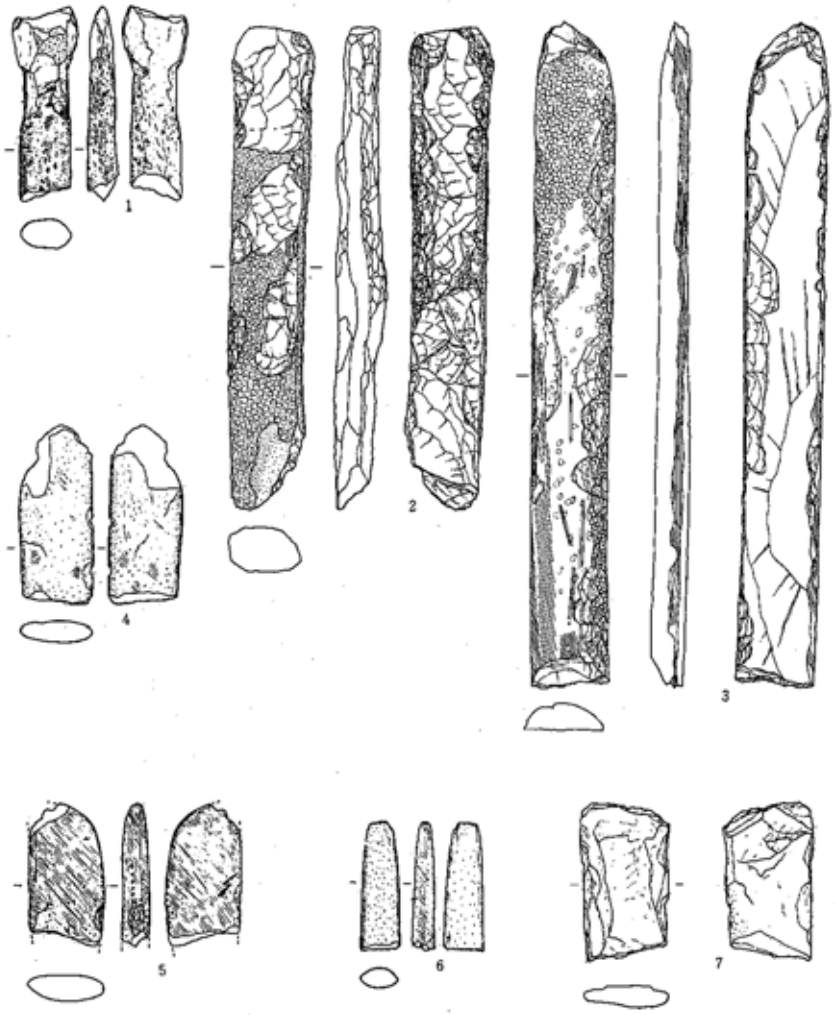
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CT 39－1	不明	Ic	ホルンフェルス	(120.2)	47.8	33.6	373.0	2	上端自然面	21	62－20
2	BL 56－1	不明	Ic	粘板岩	(193.6)	45.8	52.0	631.0	4	上端自然面に敲打	966	62－21
3	表採	不明	Ic	粘板岩	(102.0)	29.9	26.4	140.0	2		2045	62－22
4	CS 43－1	不明	Ic	粘板岩	(83.0)	42.0	32.1	114.0	1		19	62－23
5	CP 37－1	不明	ID	粘板岩	(136.1)	52.6	33.0	393.0	3		1753	62－24
6	CQ 47－1	不明	ID	粘板岩	(137.3)	51.1	(17.4)	99.0	4		2056	62－25
7	不明	不明	ID	粘板岩	(152.8)	32.7	24.8	180.0	3	下端自然面	1122	62－26

第250図　石棒類(6)



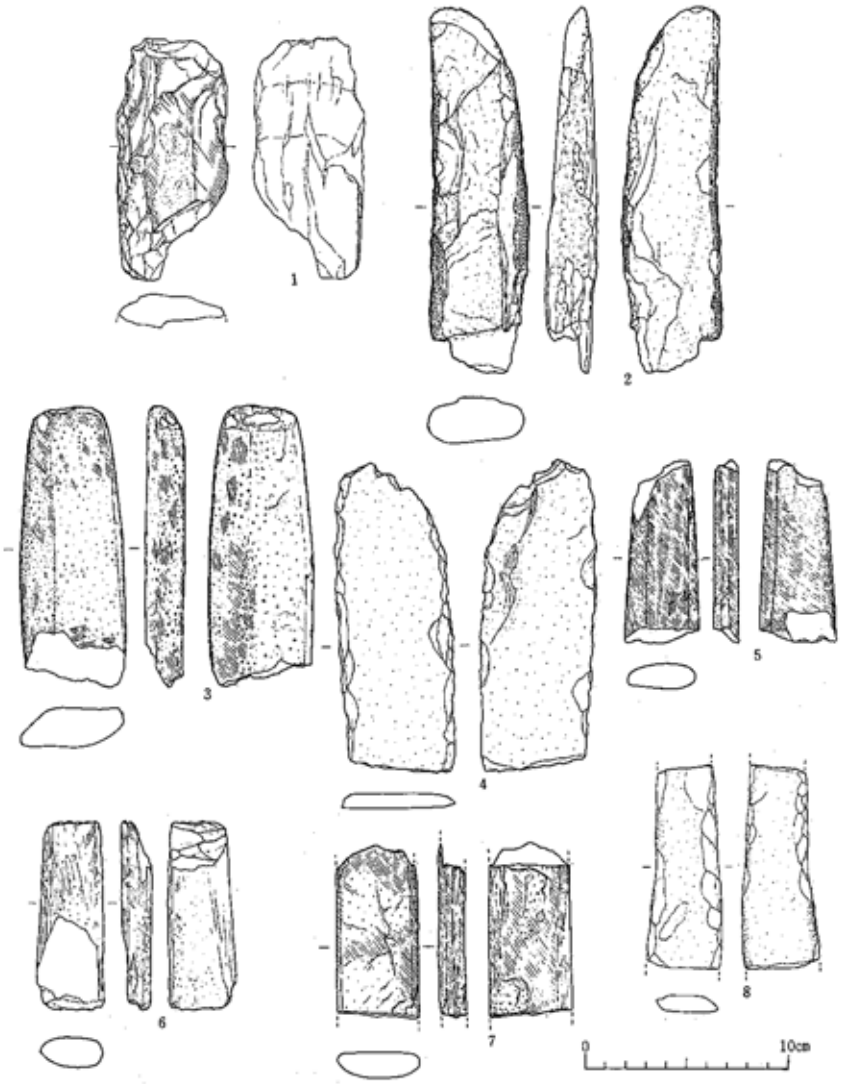
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	不明	不明	1D	粘板岩	(130.6)	41.0	(34.8)	229.0	2		－	63－1
2	CR39－1	不明	1D	ホルンフェルス	(119.6)	(19.4)	20.8	88.0	3		35	63－2
3	CP44－廃	不明	1D	粘板岩	(105.6)	(38.4)	(28.0)	61.0	4		－	63－3
4	BC50－2	不明	1D	粘板岩	(93.1)	38.1	(12.2)	82.0	4		1341	63－4
5	CL38－30	不明	1D	粘板岩	(83.6)	25.4	(14.4)	35.0	5	立下りの稜線はほとんど消失	2030	63－5
6	CP33－1	不明	1D	ホルンフェルス	(52.2)	30.4	(11.2)	42.0	3		2149	63－6
7	CP34－1	不明	1D	ホルンフェルス	(72.0)	(38.0)	(34.7)	49.0	3		2021	63－7
8	CL30－4	不明	1D	ホルンフェルス	(73.5)	(26.1)	(12.5)	31.0	3		1115	63－8
9	DB35－1	不明	1D	粘板岩	(43.5)	(23.5)	(11.9)	25.0	3		1877	63－9
10	CP34－1	不明	1D	粘板岩	(118.4)	(14.4)	(11.1)	35.0	4		1948	63－10
11	BG54－1	不明	1D	粘板岩	(69.5)	(24.5)	(7.5)	21.0	4	明瞭な剥離あり	2144	63－11
12	CO47－2	不明	1D	粘板岩	(57.5)	(11.4)	(6.4)	9.0	3	断面半円形	1793	63－12

第251図　石棒類(7)



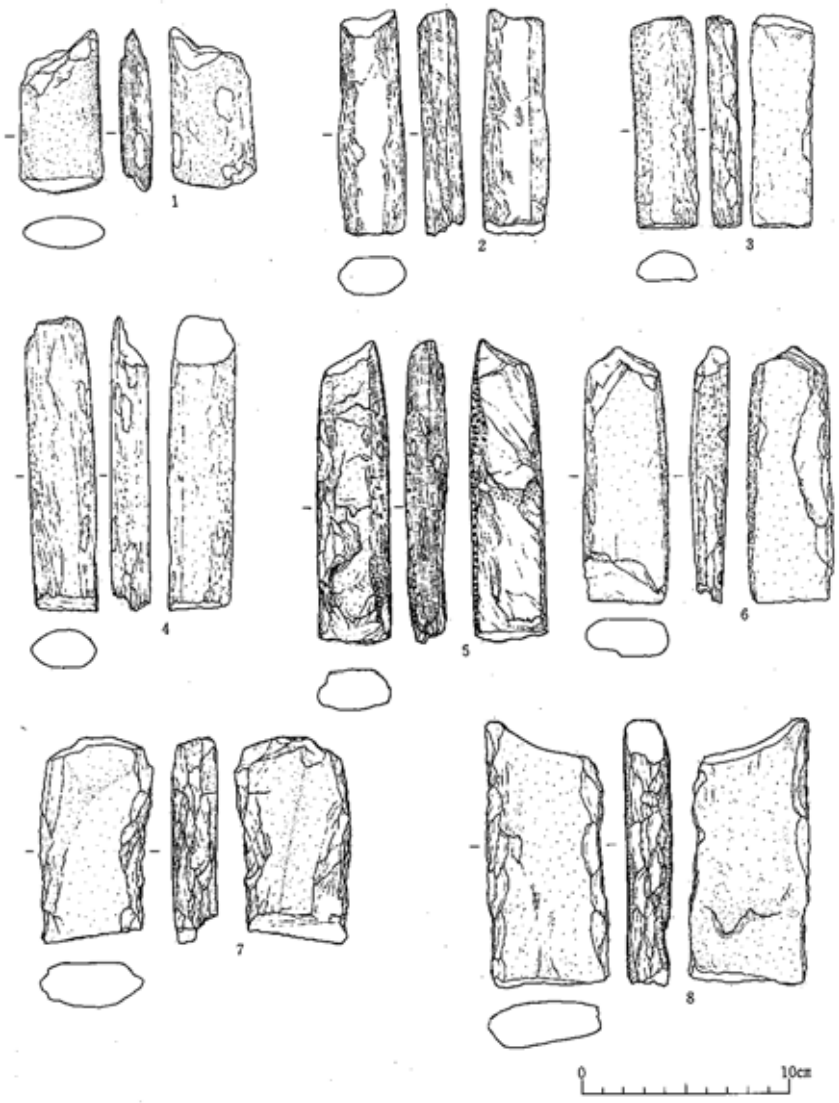
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CP47－3	不明	ⅡA	粘板岩	(90.2)	24.6	14.1	48.0	4		1409	63－13
2	BC55－2	不明	Ⅱc	粘板岩	(326.1)	34.5	22.1	311.0	2	上端自然面あり	－	63－14
3	不明	不明	Ⅱc	粘板岩	(325.1)	38.4	12.4	350.0	4		521	66－3
4	DF35－4	不明	Ⅱc	粘板岩	(87.4)	35.0	10.5	52.0	4		1929	63－15
5	CK38－21	不明	Ⅱc	粘板岩	(68.7)	32.0	12.8	50.0	4		1903	63－16
6	CL46－4	不明	Ⅱc	ホルンフェルス	(52.9)	18.0	9.9	20.0	3		6418	63－17
7	DG50－1	不明	Ⅱc	粘板岩	(77.5)	41.4	10.8	58.0	2		1545	63－18

第252図　石棒類(8)



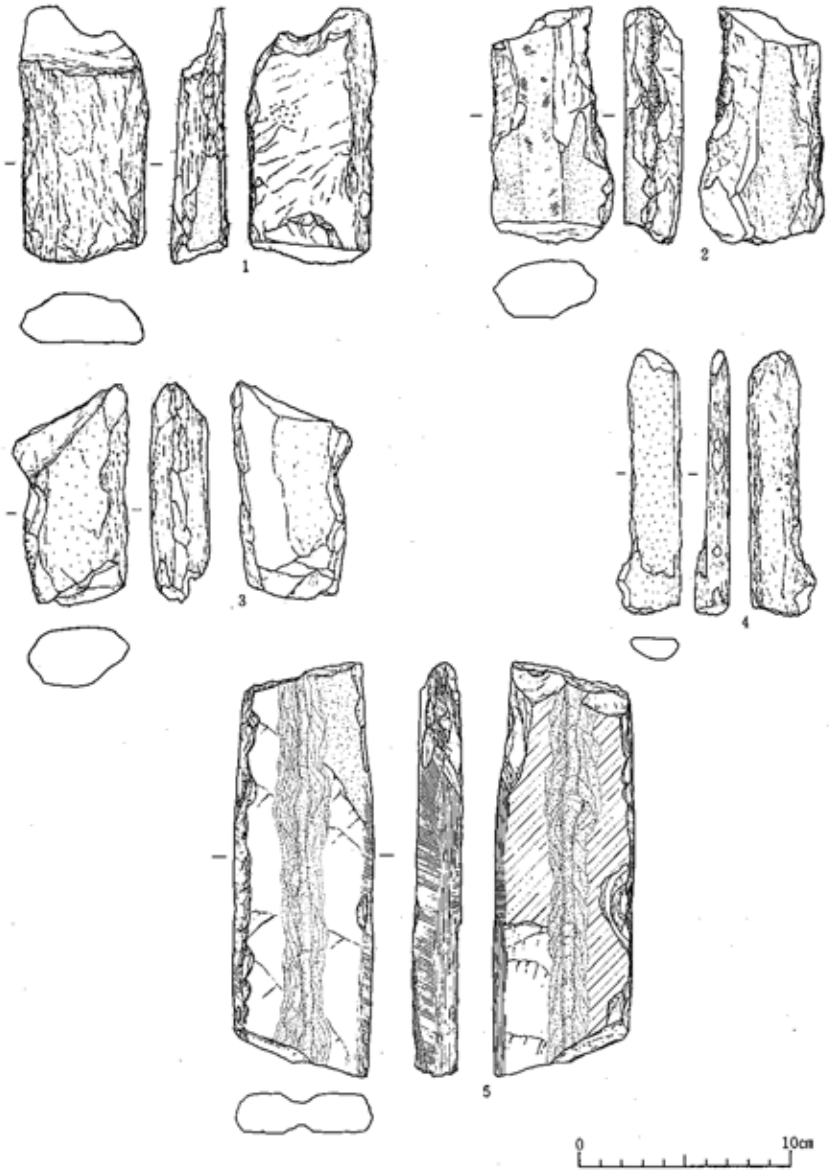
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	BE 45－廃2	不明	IIc	粘板岩	(118.9)	(51.8)	(16.1)	110.0	3		－	63－19
2	CM 42－80	不明	IIc	ホルンフェルス	(179.0)	47.3	22.1	275.0	2	側縁部敲打	111	63－20
3	BC 49－2	不明	IIc	粘板岩	(138.0)	50.0	19.4	202.0	5	砂岩研磨	5040	63－21
4	DB 35－1	不明	IIc	ホルンフェルス	(152.4)	55.1	7.4	112.0	1		1896	63－22
5	CP 37－1	不明	IID	粘板岩	(90.0)	33.0	11.1	75.0	4		1754	63－23
6	BC 46－2	不明	IID	粘板岩	(92.1)	30.3	15.0	62.0	4	下端潰滅	1024	63－24
7	CM 43－廃	不明	IID	ホルンフェルス	(85.2)	48.7	12.8	78.0	3		1305	63－25
8	CM 43－3	不明	IID	ホルンフェルス	(102.0)	30.2	8.1	58.0	1		1133	63－26

第253図　石棒類(9)



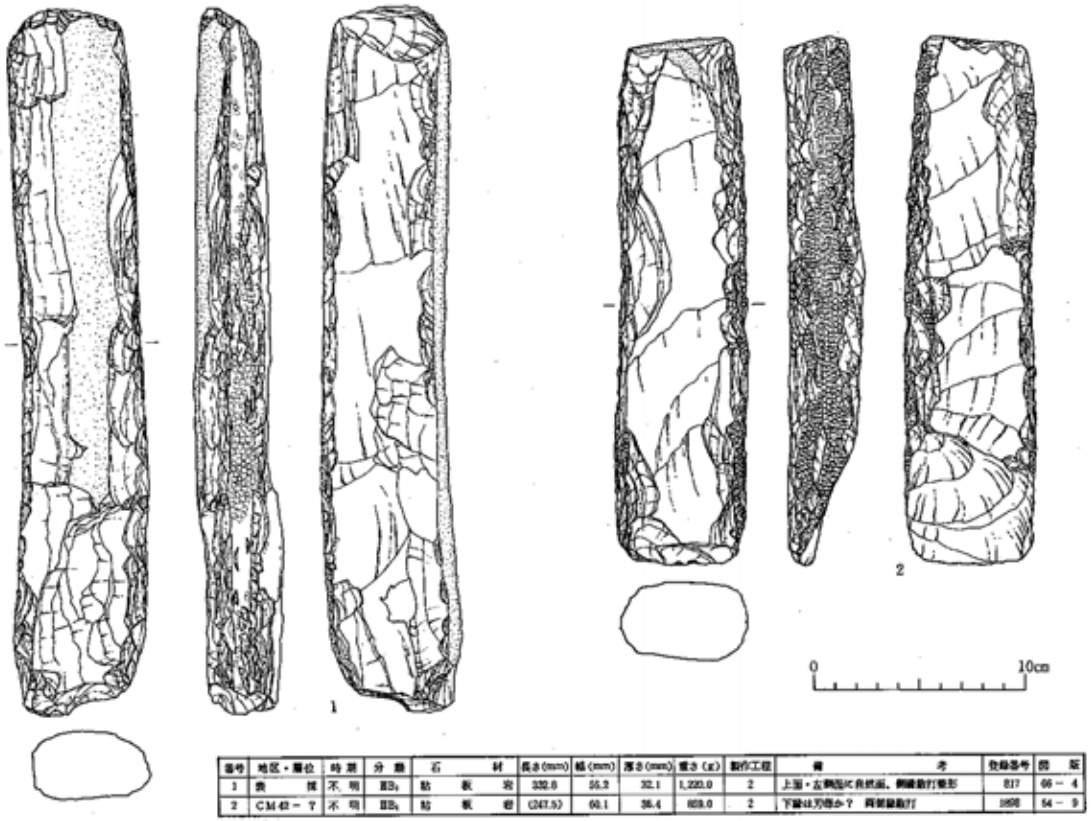
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	BE46−第2	不明	ID	ホルンフェルス	(78.8)	38.7	15.0	65.0	1	下端開減	1917	63−27
2	CN42−第1	不明	ID	ホルンフェルス	(99.1)	32.3	18.1	120.0	3	両側縁のみ研磨	5974	63−28
3	CQ34−1	不明	ID	ホルンフェルス	(102.0)	32.5	14.1	90.0	1		2302	63−29
4	CM42−1	不明	ID	ホルンフェルス	(142.2)	31.6	18.1	140.0	3	両側縁のみ研磨	6322	63−30
5	CM45−3	不明	ID	粘板岩	(146.2)	35.0	19.1	156.0	3	両側縁のみ研磨	5945	63−31
6	DB35−1	不明	ID	ホルンフェルス	(123.7)	40.0	18.0	140.0	2	両側縁のみ敷打	1678	64−1
7	CB43−貝層	不明	ID	ホルンフェルス	(99.7)	50.0	21.6	139.0	1		1325	64−2
8	CQ35−1	不明	ID	ホルンフェルス	(128.4)	54.4	21.0	281.0	1		1933	64−3

第254図　石棒類(10)



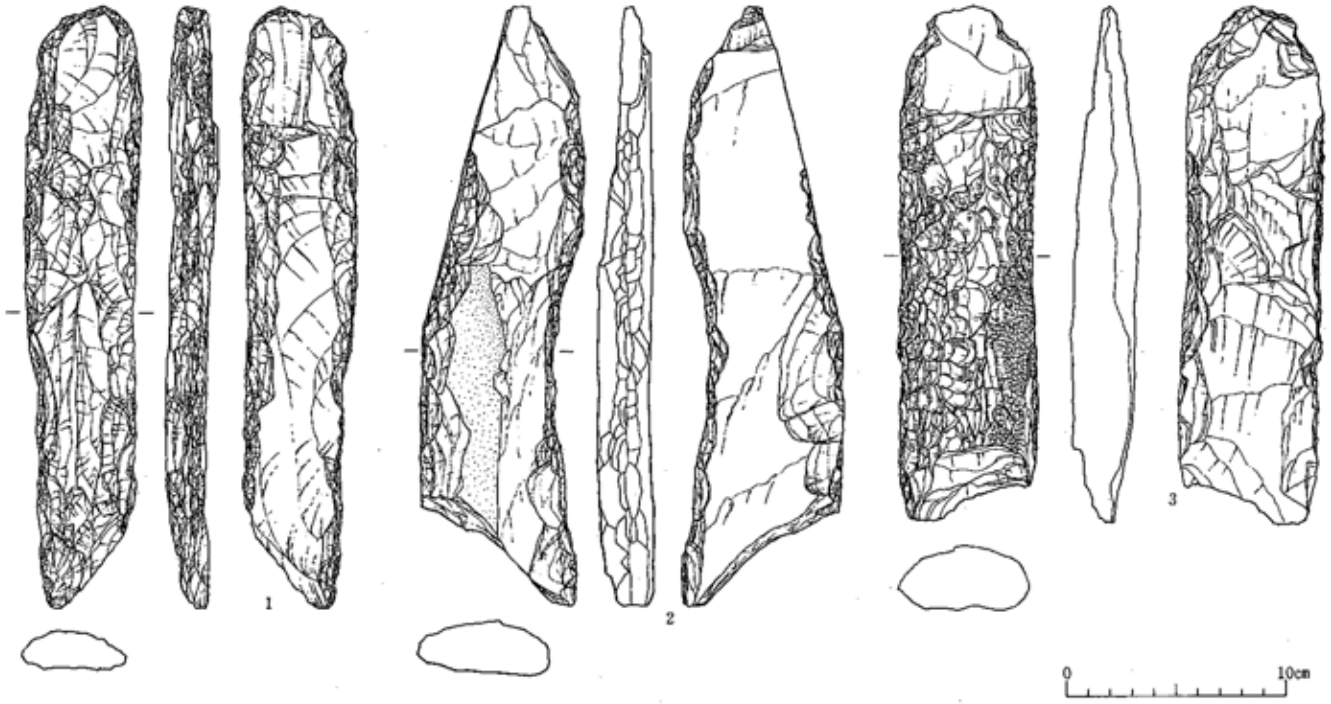
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	BC 49－2	不明	ED	ホルンフェルス	(121.0)	47.6	22.2	245.0	1		2326	64－4
2	CP 47－2	不明	ED	粘板岩	(133.6)	48.5	27.5	230.0	4	自然面残す、両側縁敲打	229	64－5
3	CJ 39－1	不明	ED	ホルンフェルス	(105.0)	49.1	28.0	390.0	1		1937	64－6
4	DG 39－2	不明	ED	ホルンフェルス	(125.0)	21.6	10.0	60.0	3		1704	64－7
5	CM 40－1	不明	ED	ホルンフェルス	(198.3)	64.8	39.4	455.0	3	周縁敲磨痕、中央の溝は敲打による作出	1884	64－8

第255図　石棒類(11)



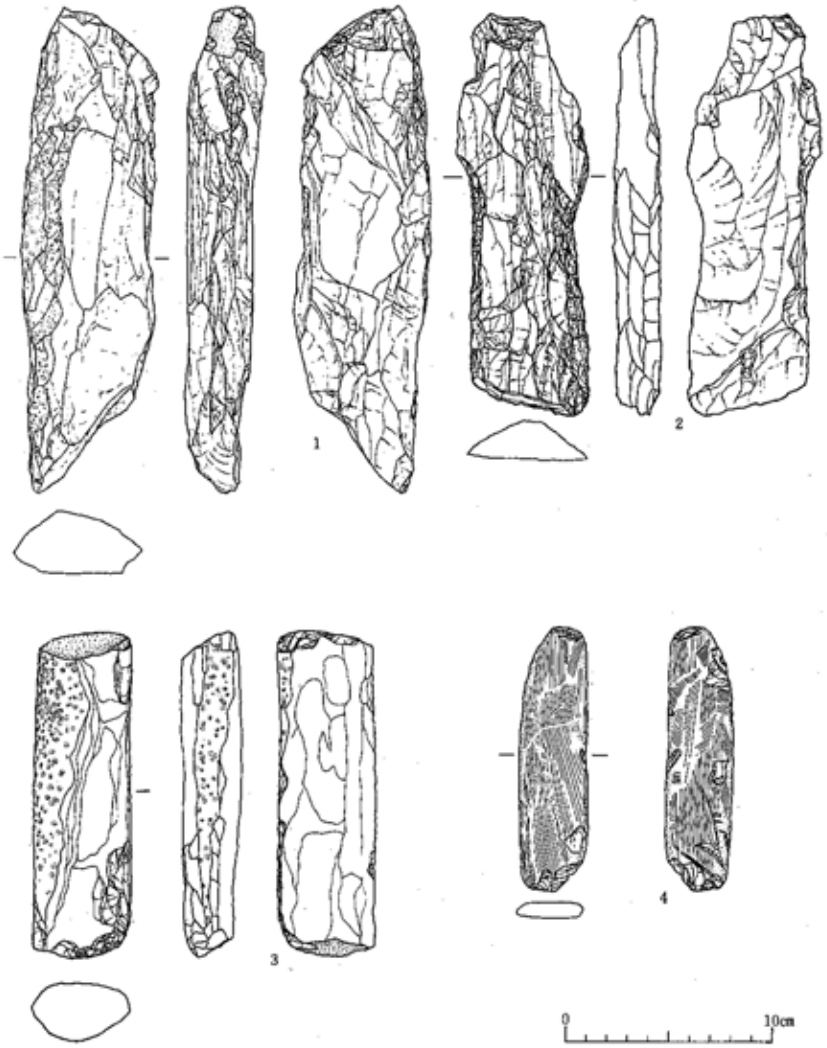
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	表採	不明	IIB_1	粘板岩	332.0	55.2	32.1	1,220.0	2	上面・左側面に自然面、側縁敷打整形	817	66－4
2	CM42－？	不明	IIB_1	粘板岩	(247.5)	60.1	36.4	829.0	2	下縁は刃部か？ 両側縁敷打	1898	54－9

第256図　石棒類(12)



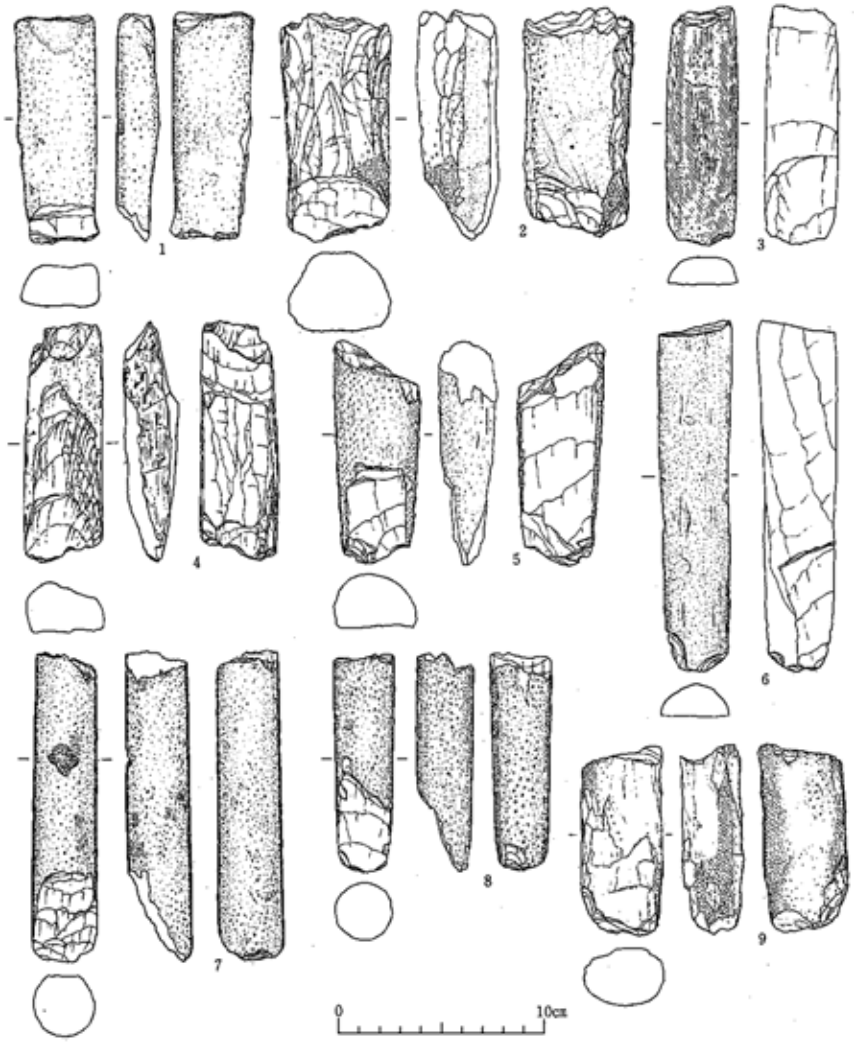
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CM 45－廃	不明	$\mathrm{III}B_1$	粘板岩	272.1	47.9	17.1	305.0	2	下端は数面から折れ	2050	64－10
2	CD 44－1-2	不明	$\mathrm{III}B_1$	ホルンフェルス	(271.9)	59.8	23.8	503.0	2	自然面残る	1897	64－11
3	CM 42－8a	不明	$\mathrm{III}B_1$	粘板岩	(233.2)	59.9	29.8	555.0	2		1688	64－12

第257図　石棒類(13)



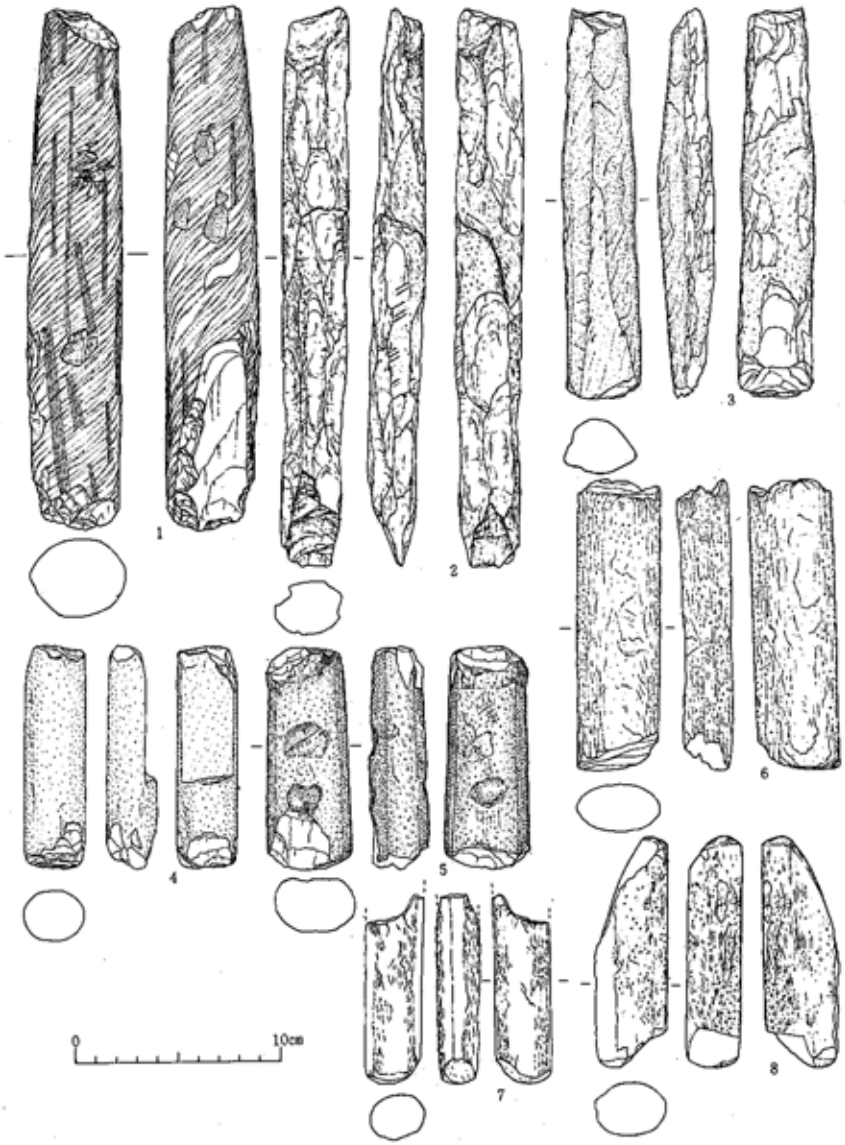
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CP 44－[illegible]	不明	ΣB_1	粘板岩	(236.2)	62.2	30.6	596.0	2	左辺敷打	296	65－1
2	CM 42－第9	不明	ΣB_1	粘板岩	(194.1)	58.1	18.6	330.0	2	両縁敷打	1953	65－2
3	CP 45－1	不明	ΣA_1	粘板岩	166.2	47.8	27.5	365.0	2	上下端に自然面	5426	65－3
4	CO 34－2	不明	ΣA_2	粘板岩	128.3	32.6	7.1	50.0	6	側に研磨	6072	65－4

第258図　石棒類(14)



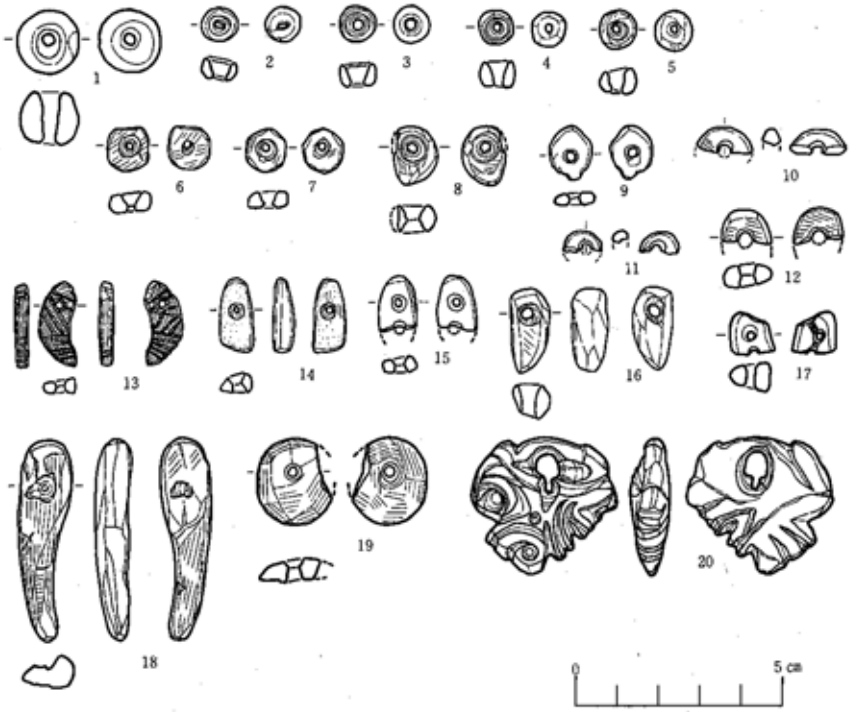
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	DB 41－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	111.5	38.4	20.4	149.0	6＋7	自然礫に部分的敲打・研磨	2016	65－5
2	CS 42－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	112.3	38.0	50.6	336.0	2	右側面・自然面、両側縁敲打、下端つぶれ	2062	65－6
3	DE 39－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩 or 砂質頁岩	116.5	34.5	13.7	82.0	3		10	65－7
4	DB 35－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	117.0	37.7	24.1	148.0	4		2023	65－8
5	CQ 35－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	108.8	40.1	25.1	163.0	2		28	65－9
6	BH 62－1	不明	Ⅳ$_1$	ホルンフェルス	171.3	33.4	15.5	141.0	3	両縁研磨、下端つぶれ	6038	65－10
7	BD 52－2	不明	Ⅳ$_1$	砂岩	151.7	30.4	20.4	253.0	4	中央に隙みあり	1323	65－11
8	AR 53－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	107.2	28.0	26.0	130.0	2		1470	65－12
9	DG 39－1	不明	Ⅳ$_1$	粘板岩	92.0	38.9	28.1	180.0	2		3	65－13

第259図　石棒類(15)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	製作工程	備考	登録番号	図版
1	CM・N45−溝	不明	IV_1	粘板岩	284.2	46.3	38.0	715.0	5	下端つぶれ	3906	65−14
2	表採・CB9−1	不明	IV_1	粘板岩	271.6	32.0	25.7	329.0	3	下端集小剥離、研磨後傷け	(2045/22)	65−15
3	表採	不明	IV_1	粘板岩	190.1	35.0	21.5	247.0	3		1375	65−16
4	CK37−1	不明	IV_2	ホルンフェルス	108.7	29.6	24.5	129.0	3	上下端磨滅	6312	65−17
5	CO33−2	不明	IV_2	粘板岩	108.2	39.1	26.0	190.0	2	上下端磨滅、中央に窪み	6471	65−18
6	CP42−溝	不明	IV_2	ホルンフェルス	141.4	40.7	22.2	251.0	3	下端磨滅	1164	65−19
7	BA52−5	不明	IV_2	ホルンフェルス	92.0	26.9	21.0	90.0	3	上端研磨	2111	65−20
8	CO41−2溝	不明	IV_2	粘板岩	112.0	34.7	20.8	165.0	4	下端研磨	1730	65−21

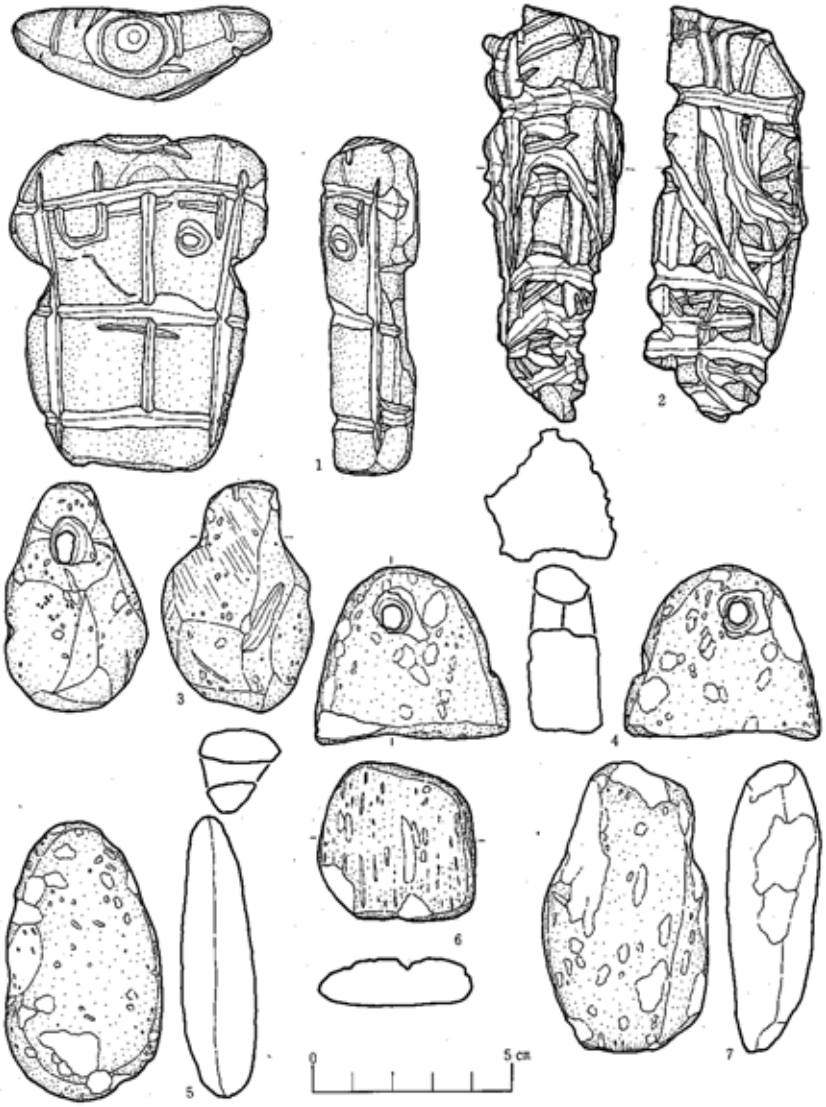
第260図　石棒類(16)



番号	地区・層位	時期	分類	石材	最大径(mm)	最大厚(mm)	穿孔	上端(mm)・中間(mm)・下端(mm)	重さ(g)	備考	登録番号	図版
1	CM41－5	IX	玉類	石英	15.7	11.6	単孔	6.0・－・2.0	3.9		446	66－5
2	CL41－14	VII	玉類	透光軍石＋石英	8.5	5.0	単孔	4.8・－・2.6	0.4		426	66－6
3	CL41－14	VII	玉類	透光軍石＋石英	8.8	5.4	単孔	5.3・－・2.8	0.4		3903	66－7
4	CM41－25	V	玉類	透光軍石＋石英	8.2	6.4	単孔	5.0・－・2.2	0.6		963	66－8
5	CL41－15	V	玉類	石英＋黒石（アプライト）	9.6	5.8	単孔	4.0・－・2.1	0.6		3991	66－9
6	CL38－12	不明	ペンダント類	石英＋黒石（アプライト又は緑泥）	11.4	5.0	単孔	5.8・－・2.7	0.8		5511	66－10
7	CL39－25	VII	ペンダント類	頁岩	9.9	3.9	両孔	3.7・2.2・3.6	0.4		4684	66－11
8	×－13	不明	ペンダント類	石英（玉髄）	14.0	7.7	両孔	6.2・3.3・6.0	(1.3)		5656	66－12
9	CL40－16	VII	ペンダント類	頁岩	12.9	2.9	両孔	3.4・2.5・2.7	(0.3)		4423	66－13
10	CL40－15	VII	ペンダント類	頁岩	13.2	4.1	両孔	3.3・2.7・3.3	(0.35)		2201	66－14
11	CL39－24	VII	ペンダント類	石英安山岩質輝沢岩	9.3	3.5	両孔	3.0・2.2・3.4	(0.1)		4669	66－15
12	CL40－15	VII	ペンダント類	石英安山岩質輝沢岩	11.6	5.0	両孔	4.2・3.5・4.5	(0.5)		2290	66－16

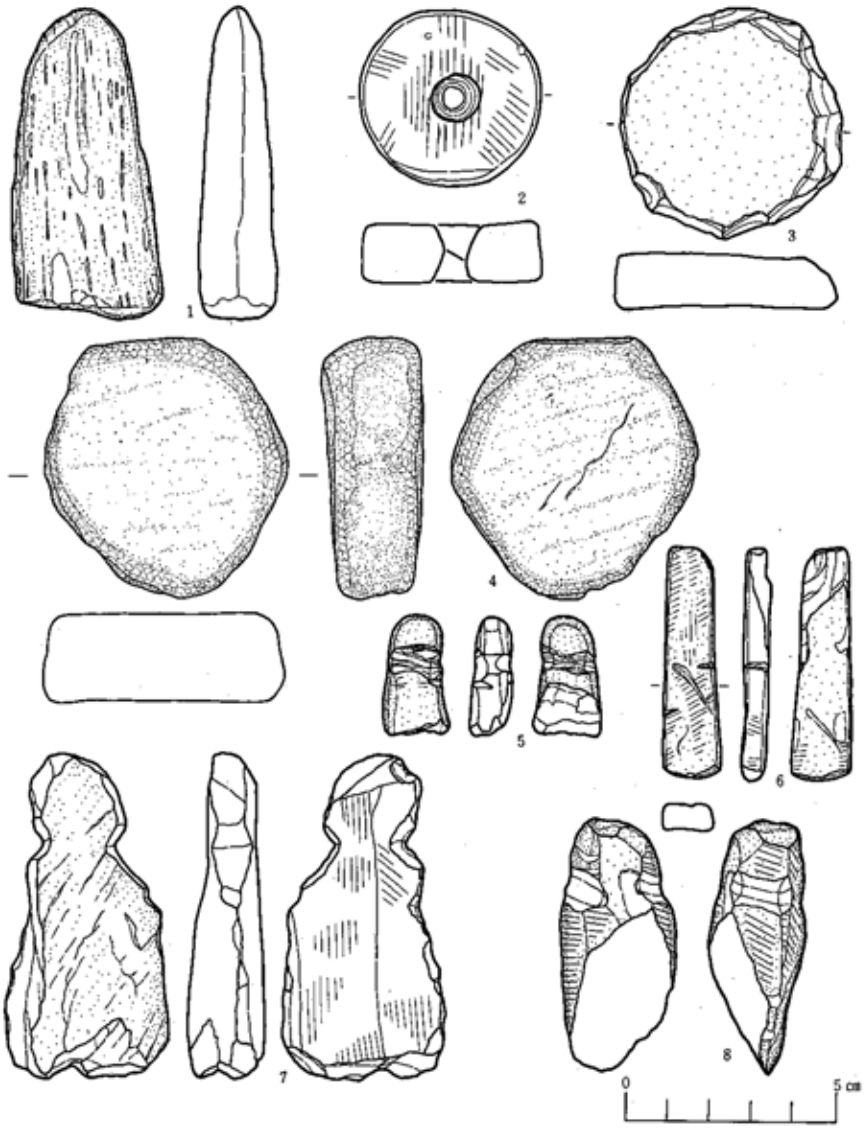
番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(mm)	穿孔	上端(mm)・中間(mm)・下端(mm)	備考	登録番号	図版
13	CM42－8	不明	ペンダント類	頁岩	(20.4)	7.2	3.4	(0.65)	両孔	2.6・1.7・2.7		6087	66－17
14	CL40－16	VII	ペンダント類	頁岩	17.7	8.4	5.5	0.9	両孔	3.0・2.1・3.3		4422	66－18
15	CL38－12	不明	ペンダント類	頁岩	(13.2)	9.2	3.3	(0.5)	両孔	3.8・2.5・3.7		5510	66－19
16	CM41－18	VII	ペンダント類	輝沢質砂岩	20.1	9.5	9.1	(1.7)	両孔	4.8・3.5・4.9		3713	66－20
17	表採？	不明	ペンダント類	玉髄	(9.9)	9.7	7.0	(0.95)	両孔	3.0・2.2・2.7		1942	66－21
18	CL39－25	VII	ペンダント類	砂質頁岩	48.5	12.7	8.4	(5.4)				4686	66－23
19	CL40－25	V'	ペンダント類	石英安山質輝沢岩	20.8	(16.9)	14.8	(1.15)	両孔	3.9・3.1・4.2		2965	66－22
20	CL38－西2	不明	ペンダント類	頁岩	32.8	34.8	9.5	10.7				615	66－24

第261図　玉類・ペンダント類



番号	地区・層位	時期	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	穿孔	上端(cm)・中間(cm)・下端(cm)	備考	登録番号	図版
1	CM30−25上	縄	岩偶	砂岩	(84.2)	64.0	21.0	(113.0)				198	67−1
2	CM42−11	不明	沈刻棒状石製品	珪質頁岩	100.5	33.7	36.0	(148.0)				2085	67−2
3	CM39−34	V	浮子	軽石	37.3	35.5	27.8	(12.6)	両孔	11.3・7.4・9.4		197	67−3
4	CL39−35	IV	浮子	軽石	(42.2)	48.5	18.3	(8.4)	両孔	9.7・6.4・9.0		867	67−4
5	CL40−23	V	浮子	軽石	70.2	39.0	19.0	14.7				1844	67−5
6	CL42−6	不明	浮子	軽石	40.6	30.3	11.6	4.6				1391	67−6
7	CL39−35	IV	浮子	軽石	(73.3)	40.6	20.7	(30.3)				2193	67−7

第262図　岩偶・沈刻棒状石製品・浮子



番号	地区・層位	時期	分類	石目	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(mm)	穿孔	上幅(mm)・中間(mm)・下端(mm)	備考	登録番号	図版
1	CL42－6	不明	浮子	軽石	75.2	33.6	18.8	11.8				5432	67－8
2	CK38－北30	不明	有孔円盤状石製品	砂岩	43.7		14.6	39.0	両孔	10.6・6.0・10.2		681	67－9
3	メ－9	不明	円盤状石製品	粗石英閃緑岩	55.0	54.4	14.1	58.3				5655	67－10
4	CK40－6 b	不明	円盤状石製品	閃緑ひん岩	(65.3)	(57.0)	23.8	(138.0)				2161	67－11
5	CM40－4 d	縄	不明石製品	砂質頁岩	(28.8)	15.9	9.8	(4.95)				5627	67－12
6	CJ45－1	不明	不明石製品	粘板岩	(56.0)	14.0	6.0	(8.3)				1646	67－13
7	CM41－14	縄	石鏃	頁岩	(77.2)	37.3	18.3	(58.9)				370	67－15
8	CL40－10	縄	石鏃	アプライト	(60.6)	27.8	22.0	(40.7)				5587	67－14

第263図　浮子・石錘・その他の石製品

Ｖ．ま　と　め

土製品

田柄貝塚出土の土製品には、袖珍土器、土偶、土製耳飾り、円盤状土製品、土玉、土錐などがあり、総数592点におよぶ。これらを分析・観察した結果、以下のようなことがわかった。土偶では、破片で出土する理由を、破損面にみられる接着剤すなわちアスファルトを重視して、従来の土偶破壊説をとらず、繰り返し使用された過程で破損してしまった結果と考えられること。土製耳飾りでは、中央が空白で、環状をなすＢＩ類が第Ⅶ期（後期末葉）に最も多くなり、主体を占めること。円盤状土製品では、土器片の周縁を打ち欠いただけのものが主で、第Ｖ期（後期後葉）に最も多く出土していること。

石器・石製品

石器には、石鏃、尖頭器、石錐、石匙、不定形石器（ピエス・エスキーユ、石核を含む）、打製石斧、磨製石斧、磨石類・石皿類（磨石・凹石・敲石・石皿・砥石を含む）、石棒類があり、総数2541点におよぶ。また、石製品には、玉類、ペンダント類、岩偶、石錐などがあり、総数36点におよぶ。その他、チップや剥片が多数ある。

以下、石器組成、石材組成、チップとの関連性についてふれたい。共伴する土器により時期の特定できる石器は1621点で、各器種ごとの時期別の比率は第34表のようになる。

第Ⅱ、Ⅲ期（中期後葉～後期中葉）の石器は、貝層下の土層出土のもので、水洗処理をしていないためサンプリング・エラーが小形の石器（石鏃等の剥片石器類）に大きい傾向がある。（第3分冊自然遺物編第1表参照）。成比は、剥片石器が60～7%、礫石器が30～40%を占める。器種別では、石鏃が30～40%を、磨石類・石皿類が20～30%を示している。

第Ⅳ～Ⅷ期（後期後葉～晩期初頭）の石器は貝層出土のもので、水洗処理をしているためサンプリング・エラーが少ない資料である。構成比は、剥片石器が90%と主体を占め、残りの10%程度が礫石器である。器種別では、剥片石器をみると、石鏃が60～70%と最も多く、石錐、不定形石器、尖頭器、石匙の順序で占める。礫石器をみると、各器種ともに同程度である。この構成比は、第Ⅳ～Ⅷ期を通して変化なく安定したものである。

第Ⅸ期（晩期前・中葉）の石器は、撹乱や削平を受けて、制約のある資料である。

次に、石材の組成の変化をみてみる。石材は各器類ごとに詳しくふれたが、剥片石器では全時期を通して、珪質頁岩が主体的で、珪化凝灰岩、黒色頁岩がこれに次いでいる。しかし、最も数の多い石鏃では第Ⅳ～Ⅷ期にかけて珪化凝灰岩が増加し、黒色頁岩が減少する傾向を示している。これらの剥片石器の原石は奥羽山系の新第三系に求められるもので（付篇参照）、原産地における変化があり得たことを示している。また、礫石器の石材である粘板岩や安山岩などは北上山系のものではある（付篇参照）が、その構成比には時期的変化は認められない。

なお、浮子に用いられている軽石は、いずれも多孔質でかなり新しく第四紀の噴出物であるらしく、那須火山帯あたりの噴出物と考えられる。[注)]

各区・各層から出土した石器と、4ℓ 当たりのチップ（第3分冊自然遺物編第1表）との量を比較してみる。各区の第Ⅴ期の層からは石器とチップがともに他の時期よりも多数認められ、その量的変化に関連性がある。このことは、石器製作の場が貝塚付近にあったことを示している。また、石器・チップなどが多数出土している割には石核が少なく、石材が剥片の状態で遺跡内に持ち込まれていた可能性が大きい。特に、黒曜岩は石鏃のような小型のものに用いられおり、他の石材よりもより小さな状態であったと推定される。

最後に、石器の分析成果を、特徴ある器類についてふれたい。

石鏃では、0AⅡ3類が根ばさみに装着されるものである可能性があることや、動物遺存体に石鏃の射込まれた痕跡をもつものがあり、弓矢による狩猟が行なわれていたことが確認された。

不定形石器第Ⅴ類（ピエス・エスキーユ）は、鹿の中足骨の溝の状況から骨角器製作のための工具の役割をしていた可能性が指摘された。

打製石斧では、使用痕や破損状態から、柄に直角に装着する（第Ⅰ類）と柄の延長上に装着する類（第Ⅳ類）が区別され、共に土を掘る道具と考えられた。

磨製石斧では、使用痕や破損状態から第Ⅰ類（円刃・偏刃）が縦斧として装着され、木や骨など比較的硬いものに対して使用されたことが推定された。

磨石類では、使用痕の状態から縦に持って石皿とセットで利用されるもの（第ⅠA類）と、横に持って単独で研磨するのに利用されるもの（第ⅠB類）があり、砥石でも使用痕の状態から板状にを研磨するものと棒状にを研磨するものがあることが推定された。

注）東北大学教養部地学教室　蟹沢聰史教授の御教示による。

時期 / 器種	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	計
石鏃	16 (39.02)	37 (29.37)	179 (69.11)	327 (62.29)	173 (66.80)	93 (58.86)	138 (57.99)	5 (38.46)	968 (58.79)
尖頭器	3 (7.32)	6 (4.76)	10 (3.86)	22 (4.19)	10 (3.86)	5 (3.16)	7 (2.94)		63 (3.83)
石錐	2 (4.88)	4 (3.17)	20 (7.72)	70 (13.33)	33 (12.74)	23 (14.56)	41 (17.23)	1 (7.69)	194 (11.98)
石匙	1 (2.44)	12 (9.52)	5 (1.93)	12 (2.29)	8 (3.09)	2 (1.27)	6 (2.52)		46 (2.84)
不定形石器	5 (12.19)	13 (10.32)	20 (7.72)	71 (13.52)	22 (8.49)	17 (10.76)	26 (10.92)	3 (15.38)	175 (10.81)
打製石斧	2 (4.88)	12 (9.52)	1 (0.39)	3 (0.57)	3 (1.16)	9 (5.69)	4 (1.68)	2 (15.38)	36 (2.24)
磨製石斧	1 (2.44)	11 (8.73)	10 (3.86)	6 (1.14)	3 (1.16)	1 (0.63)	4 (1.68)	1 (7.69)	37 (2.29)
磨石類・石皿類	10 (24.39)	26 (20.63)	13 (5.02)	12 (2.29)	5 (1.93)	7 (4.43)	6 (2.52)	1 (7.69)	82 (5.06)
石棒類	1 (2.44)	3 (2.38)	1 (0.38)	2 (0.38)	2 (0.77)	4 (2.53)	7 (2.94)	1 (7.69)	21 (1.30)
計	41 (100.00)	126 (100.00)	259 (100.00)	525 (100.00)	259 (100.00)	158 (100.00)	238 (100.00)	13 (100.00)	1619 (100.00)

第34表　石器組成表

引用参考文献

赤堀英三（1929．3）：「石器研究の一方法、石鏃に関する二三の試み」『人類学雑誌』第44巻　第3号

阿子島香（1979）：「折断調整石器」『聖山』東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2

（1979）：「不定形石器」『聖山』東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2

安達厚三（1983）：「石皿」『縄文文化の研究』第7巻、雄山閣

阿子島香（1983）：「不定形石器分析の視点」『文化』47-304

阿部恵, 金子浩昌, 西本豊弘（1985）：「石鏃のささる獣骨」『季刊．考古学』第11号

伊東信雄編（1981）：宮城県史　34（資料篇11）

岡村道雄（1976）「ピエス・エスキーユについて」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社

（1979）：「石斧」『聖山』東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2

（1979.3）：縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例ーその1ー」『東北歴史資料館研究紀要』第5巻

（1994.3）：「鹿の肩甲骨にささったエイ尾棘製のヤジリ」『東北歴史資料館報』No.13

置賜考古学会（1977.11）：『松原』

鎌木義昌編（1965.7）：「縄文時代」『日本の考古学』Ⅱ　河出書房新社

梶原洋（1982.9）：「石匙の便用痕分析ー仙台市三神峯遺跡・出土資料を使ってー東北大学使用痕研究チームによる研究報告Ｎｏ3」『考古学雑誌』第68巻第2号

加藤晋平, 鶴丸俊明（1980）：『図録石器の基礎知識Ⅲ縄文』柏書房

加藤道男, 阿部博志, 小穂晶（1984.3）：『二屋敷遺跡』宮城県文化財調査報告書第99集

金子浩昌（1984.8）：『貝塚の獣骨の知識，人と動物とのかかわり』考古学シリーズ10, 東京美術

日下部善巳（1972.2）：「縄文時代の東日本における生産用具の時間的空間的様相」『福島考古』第１3号

草間俊一, 金子浩昌（19871.12）：『貝鳥貝塚』花泉町教育委員会・岩手県文化財愛護協会

工藤竹久（1977.8）：「北日本の石槍, 石鏃について」『北奥古代・文化』第9号

小林行雄（1959）：「すり石, 磨石」『図解考古学辞典』東京創元社

小林行雄, 佐原真（1964）：『紫雲出』詫間町文化財保護委員会

後藤秀一（1979）：「敲石・凹石・磨石」『聖山』東北大学文学部考古学研究会考古学資料集別冊2

佐原真（1977）：「石斧論ー横斧から縦斧へー」『考古論集ー松崎寿和先生六十三歳論文集ー』

（1982）：「石斧再論」『森貞次郎先生古稀記念論文集』

埼玉県立博物館（1984）：『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書』埼玉県教育委員会

鈴木次郎他（1977）：『尾崎遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告13

鈴木次郎（1983）：「打製石斧」『縄文文化の研究』第7巻　雄山閣

鈴木忠司他（1975）：『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』舞鶴市教育委員会

鈴木道之助（1983）：「石鏃」『縄文文化の研究』第7巻, 雄山閣

須藤隆（1984.9）：『中沢目貝塚』東北大学文学部考古学研究会

田辺昭三編（1973）：『湖西線関係遺跡調査報告書』滋賀県教育委員会
田中英司（1977）：「縄文時代における剥片石器の製作について」『埼玉考古』16
中島庄一（1983）：「使用痕」『縄文文化の研究』第7巻　雄山閣
中村良幸，小野美代子（1979.3）：『立石遺跡』大迫町埋蔵文化財報告第3集
中谷沿宇二郎（1925.4）：「石匙に対する二・三の考察」『人類学雑誌』第40巻4号
丹羽茂，阿部博志，小野寺祥一郎（1982，9）：『菅生田遺跡』宮城県文化財調査報告書第92集
西井幸雄他（1984）：『三ヶ尻林（2）・台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第34集
早川正一（1983）：「磨製石斧」『縄文文化の研究』第7巻　雄山閣
古川知明（1981）：「尖頭器における折損について」『新潟史学』14
宮城県教育委員会（1978.3）：『上深沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第52号
桃野真晃（1982）：「石器を作るハンマーー凹石の用途についてー」『考古学論考ー小林行雄博士古稀記念論文集ー』平凡社
山田昌久他（1979）：『鳥浜貝塚ー縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査1ー』福井県教育委員会
矢島國雄・前山積明（1983）：「石錐」『縄文文化の研究』第7巻　雄山閣
八幡一郎（1938）：「日本の乳棒状石斧」『人類学雑誌』53-5
（1941）：「石鏃」『考古学雑誌』31-3
矢本町史編纂委員会(1973.5)：『矢本町史』第1巻　矢本町
渡辺誠（1973）：『縄文時代の漁業』雄山閣
（1975）：『縄文時代の植物食』雄山閣
Semenov, S. A. 1964　“Prehistoric Technology － An Experimental Study of the oldest Tools and Artefacts traces of Manufacture and Wear－“(trans -lated by Thompson, MW.）Cory Adams & Mackay , London
Steensberg, Axel 1980 “New Guinea Gardens－A Study of Husbandry with Parallens in Prhistoric Europe－” Academic Press, London , New York